

枚方市男女共同参画に関する 市民アンケート調査結果報告書

令和7(2025)年3月

枚方市

I 調査の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査対象	3
(1) 一般	3
(2) 若年	3
(3) 小学生から中学生	4
3 回収状況	4
(1) 一般	4
(2) 若年（有効標本回収数）	4
(3) 小学生・中学生（有効標本回収数）	5
4 報告書の見方	5
II 調査結果の概要	5
1 一般調査	5
(1) 回答者の属性	5
(2) 男女の平等感と役割分担について	6
(3) 家庭生活（子育て・介護）について	8
(4) 職業生活について	9
(5) 仕事と家庭などの関わりについて	9
(6) 暴力・人権について	10
(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	12
2 若年調査	12
(1) 回答者の属性	12
(2) 男女の平等感と役割分担について	13
(3) 暴力・人権について	14
(4) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	16
3 小中学生調査	16
(1) 回答者の属性	16
(2) 家庭生活について	16
(3) 性別による役割分担の考えについて	17
(4) 暴力・人権について	19
(5) 将来について	19
III 調査結果	20
1 一般調査	20
(1) 回答者の属性	20
(2) 男女の平等感と役割分担について	24
(3) 家庭生活（子育て・介護）について	51
(4) 職業生活について	60
(5) 仕事と家庭などの関わりについて	74
(6) 暴力・人権について	86

(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	136
(8) 自由意見	138
2 若年層調査	149
(1) 回答者の属性	149
(2) 男女の平等感と役割分担について	151
(3) 暴力・人権について	161
(4) 困難な問題を抱える女性に関する法律について	204
(5) 自由意見	205
3 小学生・中学生調査	211
(1) 回答者の属性	211
(2) 家庭生活について	212
(3) 性別による役割分担の考えについて	217
(4) 暴力・人権について	238
(5) 将来について	254
IV 調査票	258
1 一般	258
2 若年	272
3 中学生	280
4 小学生	285

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第4次枚方市男女共同参画計画（令和8（2026）年度～令和17（2035）年度）の策定に向けて、市民の男女共同参画に関する意識や現状を把握するために実施しました。

2 調査対象

(1)一般

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市内在住の満23歳以上の男女
- ③標本数：2,000人（女性1052人、男性968人）
- ④有効回収数：683人（回収率34.1%）
- ⑤抽出方法：住民基本台帳に基づき、対象者を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の5区分に分け、それぞれ400人ずつとしました。また、各区分ごとの地域（市内を10地区に分類）・男女比による配分は人口比により按分し、無作為抽出しました。
- ⑥調査方法：Web調査及び郵送法（調査票の送付と回収及び葉書による督促状1回の送付）
- ⑦調査期間：令和6（2024）年11月8日から11月30日
- ⑧調査項目：
 - ア 回答者の属性
 - イ 男女の平等感と役割分担について
 - ウ 家庭生活（子育て・介護）について
 - エ 職業生活について
 - オ 仕事と家庭などの関わりについて
 - カ 暴力・人権について

(2)若年

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市内在住の16歳以上22歳まで（高校生、大学生を含む）
- ③標本数：2000人（女性985人、男性1015人）
- ④有効回収数：340人（回収率17%）
- ⑤調査方法：Web調査（郵送による調査案内の送付と葉書による督促状1回の送付）
- ⑥調査期間：令和6（2024）年11月8日から11月30日
- ⑦調査項目：
 - ア 回答者の属性
 - イ 男女の平等感と役割分担について
 - ウ 家庭生活（子育て・介護）について
 - エ 職業生活について

オ 仕事と家庭などの関わりについて

カ 暴力・人権について

(3)小学生から中学生

①調査地域：枚方市全域

②調査対象：市立小学校に通う小学5年生／市立中学校に通う中学2年生

③標本数・有効回収数：小学生 1267 人／中学生 875 人

④調査方法：学校を通じた調査票の配布・回収

小学校 44 校、中学校 19 校

⑤調査期間：令和 6（2024）年 10 月から 11 月

⑥調査項目：

ア 回答者の属性

イ 家庭生活について

ウ 性別による役割分担の考えについて

エ 暴力・人権について

オ 将来について

3 回収状況

(1)一般

	標本数	有効回収数	有効回答率
全体	2,000 人	683 人	34.2%
女性	1052 人	421 人	40.0%
男性	948 人	248 人	26.3%
女性／男性では答えられない	-	4 人	-
答えない	-	7 人	-
無回答	-	3 人	-

(2)若年(有効標本回収数)

	高校生	大学生	学生以外
全体	134 人	164 人	42 人
女性	67 人	95 人	20 人
男性	63 人	68 人	21 人
女性／男性では答えられない	0 人	0 人	1 人
答えない	4 人	1 人	0 人

（高校生には高専生を、大学生には専門学校やその他学校を含みます）

(3)小学生・中学生（有効標本回収数）

	小学生	中学生
全体	1267 人	875 人
女性	632 人	456 人
男性	582 人	399 人
女性／男性では答えられない	12 人	2 人
答えない	41 人	18 人

4 報告書の見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答または回答数の少ない属性の回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・若年の属性では高校生には高専生を、大学生には専門学校やその他学校を含みます
- ・調査表内で経年比較をしている箇所は、本市が令和元（2019）年及び平成26（2014）年に行った「枚方市男女共同参画に関する市民アンケート調査」の結果と比較しています。

Ⅱ 調査結果の概要

1 一般調査

(1)回答者の属性

①性別

a あなたの性別は。（○は1つ）（P.20）

「女性」が61.6%で最も高く、次いで「男性」が36.3%、「答えない」が1.0%と続いています（図表Ⅲ-1-1-1）。

②年齢

b あなたの年齢は。（記入日の時点で）（○は1つ）（P.20）

女性では「50～59 歳」が24.9%で最も高く、次いで「40～49 歳」が21.1%、男性では「70 歳以上」が20.2%が最も高く、次いで「50～59 歳」が19.4%と続いています（図表Ⅲ-1-1-2）。

③結婚しているか

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。（○は1つ）（P.21）

「結婚している」が女性 68.9%、男性 70.6%で最も高く、次いで「結婚していない」が女性 20.2%、男性 24.6%、「結婚したが、離婚または死別した」が女性 10.7%、男性 4.8%と続いています（図表Ⅲ-1-1-3）。

④回答者・配偶者の職業

d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。（○は1つずつ）（回答者の職業 P.21、配偶者の職業 P.22）

回答者の職業については、女性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が 35.2%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」の 31.6%、男性は「正規雇用で働いている」が 57.3%で最も高く、次いで「無職（家事専門をのぞく）」が 16.1%と続いています。

また、配偶者の職業については、女性は「正規雇用で働いている」が 59.0%で最も高く、次いで「自営業・自由業」が 12.4%、男性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が 26.9%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が 25.1%と続いています（図表Ⅲ-1-1-4、図表Ⅲ-1-1-5）。

⑤子どもがいるか

e あなたに子どもはいますか。（別居を含む）（○は1つ）（P.22）

「いる」が女性 68.9%、男性 65.3%、「いない」が女性 30.6%、男性 33.5%となっています（図表Ⅲ-1-1-6）。

⑥世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。（○は1つ）（P.23）

「親と子の二世帯世帯」が 52.8%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）のみの世帯」が 27.6%、「1人世帯」が 12.8%と続いています（図表Ⅲ-1-1-7）。

(2)男女の平等感と役割分担について

①男女がどの程度平等になっていると思うか

問1 次の（1）～（8）の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（○は各項目に1つ）（P.24）

男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で女性 49.6%、男性 57.3%となっています。次いで「地域活動の場」で女性 31.1%、男性 44.4%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場は、「政治の場」で『男性優遇派（『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計）』は女性 88.4%、男性 75.8%、『女性優遇派（『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計）』は女性 1.7%、男性 3.6%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』は女性 84.1%、男性 71.4%、『女性優遇派』は女性 1.4%、男性 6.8%となり、男女での大きな

差が見られます（図表Ⅲ-1-2-1～図表Ⅲ-1-2-17）。

②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.33）

男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 78.6%、男性 60.9%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 18.5%、男性 32.6%と『同感しない派』が大きく上回っています（図表Ⅲ-1-2-18）。

③性別による役割分担を支持する理由

（問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問2－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.36）

性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」（女性 39.7%、男性 24.7%）が最も高く、また男性は「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」（男性 24.7%）も同率で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-2-24）。

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.38）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 42.8%、男性 56.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 51.8%、男性 39.1%と女性と男性で違いが見られます（図表Ⅲ-1-2-26）。

⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

（問3で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問3－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.41）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なだから」（女性 48.3%、男性 57.1%）が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」（女性 18.9%、男性 12.1%）となっています（図表Ⅲ-1-2-32）。

⑥法律等の認知度

問4 次の（1）～（14）の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。（○は各項目に1つ）（P.43）

法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が 94.9%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」が 89.5%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」が 84.9%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」87.4%、「積極

的改善措置（ポジティブ・アクション）」83.1%、「枚方市男女共同参画推進条例」75.0%となっています（図表Ⅲ-1-2-34～図表Ⅲ-1-2-48）。

(3)家庭生活(子育て・介護)について

①家庭生活の分担について

問5 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）（P.51）

家庭での仕事を分担しているのは女性では「本人（配偶者あり）」で57.6%、男性では「配偶者」で58.4%でした。次いで「本人（配偶者なし）」で女性16.7%、男性15.1%でした（図表Ⅲ-1-3-1）。

②男性の育児休業取得をどう思うか

問6 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。（○は1つ）（P.52）

男性の育児休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性79.6%、男性79.8%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-3）。

③男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問6-1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○は2つまで）（P.55）

男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については女性では「収入が減るため」（52.2%）、男性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」（33.3%）が、次いで女性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」（26.1%）、男性では「仕事が忙しいため」「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」「収入が減るため」がともに25.0%でした。（図表Ⅲ-1-3-8）。

④男性の介護休業取得をどう思うか

問7 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。（○は1つ）（P.57）

男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性87.9%、男性83.9%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-7）。

⑤男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問7-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○は2つまで）（P.59）

男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性50.0%、男性40.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-3-15）。

(4)職業生活について

①職場の男女差別

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の(1)～(9)について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目に1つ)(P.60)

職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」(女性優遇 2.2%、男性優遇 45.1%)、「昇進昇格」(女性優遇 2.6%、男性優遇 40.3%)となっています。『平等である』は「研修(機会・内容)」(64.6%)、「募集・採用」(52.7%)で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」(女性優遇 24.6%、男性優遇 3.4%)では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています(図表Ⅲ-1-4-1～図表Ⅲ-1-4-11)。

②男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問9 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)(P.71)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が77.5%で最も高く、次いで「男女で家事労働(育児・介護含む)を平等に分担する」が66.9%、「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.8%と続いており、男女別でみると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」(女性78.4%、男性77.0%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-4-12)。

(5)仕事と家庭などの関わりについて

①仕事と家事に費やす時間

問10 あなたが1日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。(○は1つずつ)(P.74)

仕事 (ア) 平日

仕事に費やす時間について、平日では「8時間以上(10時間以上12時間未満、12時間以上含む)」が女性36.3%、男性57.7%となっており、女性・男性いずれも「8時間以上10時間未満」の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-1)。

仕事 (イ) 休日

仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」(女性57.5%、男性55.2%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-4)。

家事 (ア) 平日 家事に費やす時間について、平日では「30分未満(ほとんどない含む)」が女性9.8%、男性41.2%と大きな差が見られます。女性は「3時間以上4時間未満」が18.1%で最も高く、男性は「30分以上1時間未満」が25.8%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-7)。

家事 (イ) 休日

家事に費やす時間について、休日では女性は「5時間以上」が23.8%で最も多く、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-11)。

(6)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問 11 恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）（P.86）

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 92.6%、男性 89.1%で最も高く、「① 相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 22.3%、男性 29.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-1～図表Ⅲ-1-6-19）。

②交際相手からのDVの経験

問 12 あなたは、交際相手から、次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか。（○は各項目に１つ）（P.96）

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 15.2%、男性 9.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 23.5%、男性 12.5%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 20.2%、男性 2.8%となっています（図表Ⅲ-1-6-20～図表Ⅲ-1-6-29）。

③配偶者間でDVだと思ふ行為

問 13 配偶者間で次の（１）～（10）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）（P.102）

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 97.4%、男性 95.6%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』のは女性 74.6%、男性 60.1%で男女での差が見られます（図表Ⅲ-1-6-30～図表Ⅲ-1-6-60）。

④配偶者からのDVの経験

問 14 あなたは、過去１年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含みます。（○は各項目に１つ）（P.113）

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 9.5%、男性 5.2%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 18.3%、男性 11.7%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 6.5%、男性 2.4%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 9.3%、男性 2.8%となっています（図表Ⅲ-1-6-61～図表Ⅲ-1-6-73）。

⑤DVを相談したか

問 15 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）（P.118）

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 27.6%、男性 8.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 55.8%、男性 71.4%となっています（図表Ⅲ-1-6-74）。

⑥DVの相談先

問 15-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）（P.120）

DVの相談先については「友人・知人」が女性が 66.7%、男性は 80.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-77）。

⑦DVを相談しなかった理由

問 15-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）（P.122）

DVを相談しなかった理由については「相談するほどのことではないと思ったから」が女性で 41.8%、男性で 65.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-79）。

⑧DVの相談推奨先

問 16 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口に相談することをすすめますか。（○はいくつでも）（P.124）

DVの相談推奨先は、女性は「警察」が 59.9%、次いで「枚方市配偶者相談支援センター（ひらかた DV 相談室）」が 59.6%、男性は「警察」が 69.0%で次いで「枚方市配偶者相談支援センター（ひらかた DV 相談室）」が 58.1%と高くなっています（図表Ⅲ-1-6-81）。

⑨DVについての考え

問 17 配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）（P.126）

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 82.4%、男性 67.3%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 15.9% 男性 23.8%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-83）。

⑩セクシャル・ハラスメントの接触経験

問 18 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。（○はいくつでも）（P.130）

セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性 60.8%、男性 69.0%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く」（女性 18.1%、男性 11.7%）が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」（女性 9.3%、男性 10.5%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-86）。

⑪性的マイノリティの認知度

問 19 あなたは性的マイノリティ（L G B T Q 等）という言葉を知っていますか。（○は 1 つ）（P.133）

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 77.0%、男性 78.2%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70 歳以上の女性（46.0%）となっています（図表Ⅲ-1-6-89～図表Ⅲ-1-6-91）。

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 20 枚方市が行っている L G B T Q 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。（○はいくつでも）（P.134）

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 16.9%、男性 12.1%となっていますが、「1 つも知らない」が女性 62.0%、男性 71.8%と最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-92）。

(7)困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 21 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。（○はいくつでも）（P.136）

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、男性女性ともに「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が最も高く、女性 62.0%、男性 55.2%となっています。また男性は「電話相談や面談」も 55.2%と同率で最も高くなりました（図表Ⅲ-1-7-1）。

2 若年調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。（○は 1 つ）（P.149）

「女性」が 53.5%で最も高く、次いで「男性」が 44.7%と続いています（図表Ⅲ-2-1-1）

②年齢(16～22 歳)

あなたの年齢は。（記入日の時点で）（○は 1 つ）（P.149）

女性では「17 歳」と「20 歳」が 15.9%で同率で高く、次いで「21 歳」が 14.8%、男性では「22 歳」が 19.1%で最も高く、「18 歳」が 15.8%と続いています（図表Ⅲ-2-1-2）

③回答者の職業

あなたの就業状況は。（○は 1 つずつ）（P.150）

回答者の職業については、「学生」が 87.6%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が 5.9%と続いています。（図表Ⅲ-2-1-3）

また学生の場合の学校種別は大学が 50.7%、高校が 44.0%、専門学校が 3.4%でした（図表Ⅲ-2-1-4）。

(2)男女の平等感と役割分担について

①家庭生活の分担について

問1 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）
（P.151）

家庭での仕事を分担しているのは「母」で女性 80.2%、男性 74.3%でした。次いで「父」で女性 8.8%、男性 11.8%でした（図表Ⅲ-2-2-1）。

②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。（P.153）

男女の役割分担について、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性が 81.3%、男性が 74.3%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性が 12.6%（同感するは 0%）、男性が 20.4%と『同感しない派』が大きく上回っています（図表Ⅲ-2-2-3）

③性別による役割分担を支持する理由

（問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問2-1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.155）

性別による役割分担を支持する理由については、女性は「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」が最も高く 26.1%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」が 17.4%と同率で高く、男性は「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が最も高く 35.5%、次いで「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が 22.6%となっています（図表Ⅲ-2-2-4）

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）（P.156）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性は 40.1%で男性は 45.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性で 56.0%、男性で 47.3%と『同感しない派』が上回っています（図表Ⅲ-2-2-6）

⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

（問3で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問3-1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）（P.158）

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要だから」（女性 39.7%、男性 55.1%）が最も高く、次いで「自分自身がそう

した、そうされたから」(女性 34.2%、男性 26.1%) となっています(図表Ⅲ-2-2-8)

⑥意思決定職になる意向

問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職(経営者や組織の管理職)になりたいと思いますか。(P.159)

組織の意思決定ができる職になりたいかについては、「なりたい」女性は 31.3%、男性は 49.3%でした(図表Ⅲ-2-2-10)

(3)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問5 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。(P.161)

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 93.4%、男性 90.1%で最も高く、「③頻繁に携帯で電話をかけてきて、場所や会っている人のことを尋ねる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 19.2%、男性 28.9%で最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-1～図表Ⅲ-2-3-12)

②デートDVの認知度

問6 あなたは「デートDV」という言葉を知っていますか。(P.168)

デートDVの意味を知っているのは女性 63.2%、男性 54.6%でした(図表Ⅲ-2-3-14)

③交際相手からのDVの経験

交際相手がいる(いた)場合

問7 あなたはこれまでに交際相手から次の(1)～(3)のようなことをされたことがありますか(P.169)

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 2.1%、男性 5.6%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.6%、男性 2.8%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 10.7%、男性 2.8%となっています(図表Ⅲ-2-3-16～Ⅲ-2-3-22)

④配偶者間でDVだと思ふ行為

問8 配偶者間で次の(1)～(10)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。(P.173)

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 97.3%、男性 94.1%で最も高くなっています。「⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する。」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』は女性 80.8%、男性 61.8%、「⑦だれのおかげで、

お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う」は女性 88.5%、男性 70.4%で、これらは男女での差が見られます（図表Ⅲ-2-3-23～Ⅲ-2-3-42）

⑤配偶者からのDVの経験

問 9 あなたは、過去 1 年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に 1 つ）（P.184）

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 27.3%、男性 0.0%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.1%、男性 0.0%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.1%、男性 12.5%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 27.3%、男性 25.0%となっています（図表Ⅲ-2-3-45～図表Ⅲ-2-3-53）

⑥DVを相談したか

問 10 あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。（P.190）

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 33.3%、男性 28.6%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 66.7%、男性 71.4%となっています（図表Ⅲ-2-3-54）

⑦DVの相談先

問 11-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（P.192）

DVの相談先については女性は「家族・親戚」で 66.7%、男性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」と「友人・知人」がともに 50.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-56）

⑧DVを相談しなかった理由

問 11-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（P.194）

DVを相談しなかった理由については女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」で 41.7%、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」で 100.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-58）

⑨DVの相談推奨先

問 12 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力をうけているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。（P.196）

DVの相談推奨先は、「警察」が女性 70.3%、男性 72.4%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-60）

⑩DVについての考え

問 13 配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（P.198）

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 76.9%、

男性 61.8%) が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」(女性 23.1% 男性 27.0%) となっています。(図表Ⅲ-2-3-62)

⑪性的マイノリティの認知度

問 14 あなたは性的マイノリティ (LGBTQ 等) という言葉を知っていますか (P.201)

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 89.6%、男性 77.6%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、学生以外の男性の 71.4%となっています(図表Ⅲ-2-3-64)

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 15 枚方市が行っている LGBTQ 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答えください。(P.202)

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 20.3%、男性 12.5% となっていますが、「1 つも知らない」が女性 73.1%、男性 74.3%と最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-66)

(4)困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 16 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。(P.204)

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が女性 58.8%、男性 55.9%と最も高くなっています(図表Ⅲ-2-4-1)

3 小中学生調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。(○は1つ)

<小学生問 9・中学生問 11> (P.211)

小学生では「女子」が 49.9%で最も高く、次いで「男子」が 45.9%、「答えない」が 3.2%と続いており、中学生では「女子」が 52.1%で最も高く、次いで「男子」が 45.6%、「答えない」が 2.1%と続いています(図表Ⅲ-3-1-1)。

(2)家庭生活について

①家で行っている家事

あなたが、家でしていることを教えてください。(複数選べます)

<小学生問 1・中学生問 1> (P.212)

家で行っている家事について男女別でみると、最も割合が高いのは、小学生女子は「食事の後片付け」

(48.7%)、小学生男子は「家の仕事の手伝い」(42.6%)、中学生は「自分の部屋の掃除」(女子 63.8%、男子 52.9%)となっています(図表Ⅲ-3-2-1)。

②主に家事や子育てを行っている人

家で、主に家事(料理・そうじ・洗たくなど)や子育てをしているのはだれですか。(複数選べます)
＜小学生問2・中学生問2＞(P.215)

主に家事や子育てを行っている人について、全体では、いずれの年代も「母」の割合が最も高く(小学生 93.8%、中学生 98.2%)、次いで「父」(小学生 54.8%、中学生 41.9%)の割合が高くなっています(図表Ⅲ-3-2-2)。

(3)性別による役割分担の考えについて

①家事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
＜小学生問3・中学生問3＞(P.217)

家事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(83.2%)が男子(77.3%)よりも高く、中学生は女子(85.7%)が男子(80.7%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-1)。

②子育てはだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
＜小学生問4・中学生問4＞(P.219)

子育てはだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(76.9%)が男子(69.8%)よりも高く、中学生は女子(84.9%)が男子(75.4%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-2)。

③お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)
＜小学生問5・中学生問5＞(P.221)

お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(75.6%)が男子(66.2%)よりも高く、中学生は女子(76.8%)が男子(59.9%)よりも高くなっています(図表Ⅲ-3-3-3)。

④勉強と家事について

勉強と家事について、家族はどのような考えを持っているとあなたは思いますか。また、自分はどう考えているかそれぞれ答えてください。＜小学生問6・中学生問6＞(P.224)

勉強と家事についての家族の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 62.8%、小学生男子 54.6%、中学生女子 55.5%、

中学生男子 51.1%) となっています。

また、勉強と家事についての自分の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 69.5%、小学生男子 61.3%、中学生女子 67.3%、中学生男子 59.6%) となっています(図表Ⅲ-3-3-4)。

⑤「男は○○」「女は○○」と言われた経験

あなたは、たとえば「男の子は強く・泣くな」や「女の子はやさしく・行儀よくしなさい」など、「男は○○」、「女は○○」のように言われたことがありますか。(1つ選んでください) <小学生問 7・中学生問 7> (P.228)

「男は○○」「女は○○」と言われた経験について男女別でみると、『言われる(言われた)』(「よく言われる(言われた)」と「ときどき言われる(言われた)」の合計)は、小学生女子が 25.9%、小学生男子が 26.8%、中学生女子が 37.0%、中学生男子が 35.6% となっています(図表Ⅲ-3-3-6)。

⑥「男は○○」「女は○○」と言われた理由

どんなことについて言われたことがありますか。(複数選べます) <小学生問 7-1・中学生問 7-1> (P.230)

「男は○○」「女は○○」と言われた理由について男女別でみると、女子は小中学生ともに「言葉づかい」(小学生女子 60.4%、中学生女子 67.5%) の割合が最も高く、男子は「泣いたとき」(小学生男子 52.6%、中学生男子 55.6%) の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-7)。

⑦「男は○○」「女は○○」とだれに言われたか

それはだれに言われましたか。(複数選べます) <小学生問 7-2・中学生問 7-2> (P.233)

「男は○○」「女は○○」とだれに言われたかについて、小学生女子は「母」が 73.6%、小学生男子は「父」が 54.5%、中学生女子は「母」で 79.9%、中学生男子は「父」が 54.9% と最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-8)。

⑧「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ち

あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。(1つ選んでください) <小学生問 7-3・中学生問 7-3> (P.236)

「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ちについて男女別でみると、小学生では「いやな気持ちがした」(小学生女子 41.1%、小学生男子 37.8%) の割合が最も高く、中学生では女子は「いやな気持ちがした」(42.0%)、男子は「何とも思わなかった」(44.4%) の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-3-3-8)。

(4)暴力・人権について

①男女交際の関係についてどう思うか<中学生>

あなたは、恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、その関係をどのように思いますか。 <中学生問 8> (P.238)

男女交際の関係についてどう思うかについて中学生では、「へんだと思う」と回答した人の割合は、「⑤相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」が 95.2%で最も高く、次いで「⑥別れ話をしてもしつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」が 94.1%、「③友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」が 85.5%と続いており、各項目とも男女別で大きな差は見られません。（図表Ⅲ-3-4-1～Ⅲ-3-4-7）。

②デート DV の認知度<中学生>

恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。（１つ選んでください） <中学生問 9> (P.246)

デートDVの認知度について全体でみると、「知っている」と回答したのは、中学生女子 36.6%、中学生男子 33.8%となっています（図表Ⅲ-3-4-8）。

③生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいか

あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。（１つ選んでください） <小学生問 10・中学生問 12> (P.247)

生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいかについて、『男子派（『ぜったい男子』と『どちらかといえば男子』の合計）』と『女子派（『ぜったい女子』と『どちらかといえば女子』の合計）』を比べた場合、いずれの年代でも女子は「女子派」が多く、小学生は女子派 41.9%、男子派 20.4%、中学生は女子派 36.6%、男子派 25.0%となっています。

男子は「男子派」が多く小学生は男子派 53.7%、女子派 5.7%、中学生は男子派 48.3%、女子派 7.3%となっています（図表Ⅲ-3-4-9）。

(5)将来について

①将来つきたい仕事

あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。（３つまで選んでください） <小学生問 8・中学生問 10> (P.254)

将来つきたい仕事について小学生の女子は「パティシエ・パン職人」が 12.8%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 31.1%が多く、中学生では女子が「看護師・理学療法士など病院で働く人」が 14.0%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 22.1%となりました。（図表Ⅲ-3-5-1）

Ⅲ調査結果

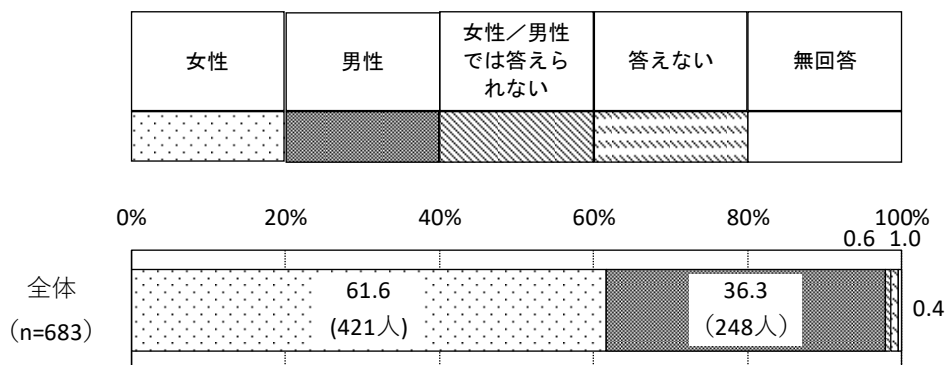
1 一般調査

(1)回答者の属性

①性別

a あなたの性別は。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-1 性別



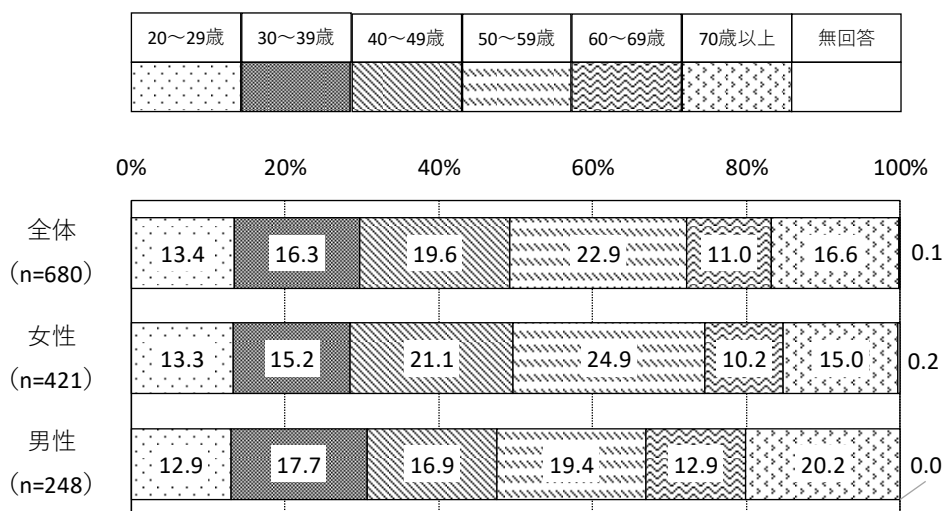
「女性」が61.6%で最も高く、次いで「男性」が36.3%、「答えない」が1.0%と続いています。

「女性／男性では答えられない」(4名)、「答えない」(7名)、「無回答」(3名)については、その総数が小さいため、以下のクロス集計等の分析においては「女性」「男性」のみを対象とします。

②年齢

b あなたの年齢は。(記入日の時点で) (○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-2 年齢

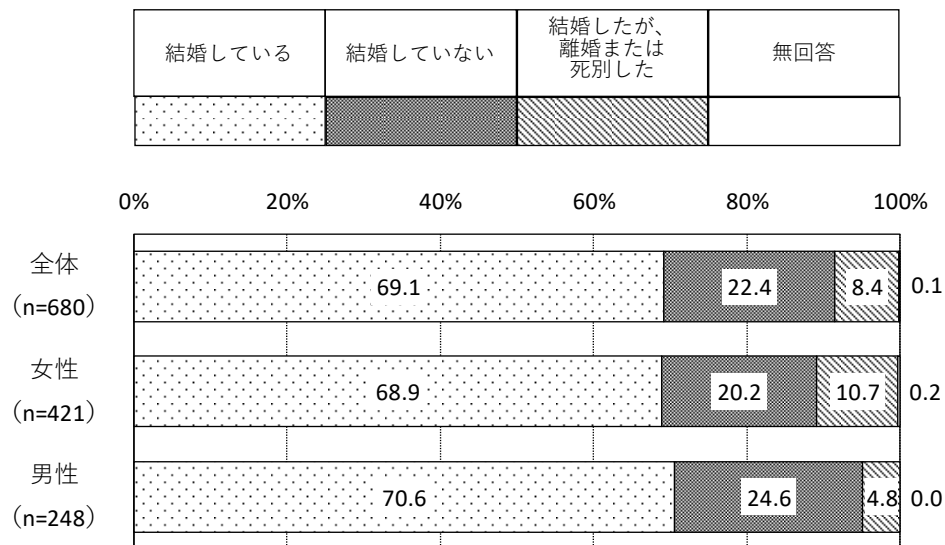


女性では「50～59 歳」が24.9%で最も高く、次いで「40～49 歳」が21.1%、男性では「70 歳以上」が20.2%が最も高く、次いで「50～59 歳」が19.4%と続いています。

③結婚しているか

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-1-3 結婚しているか

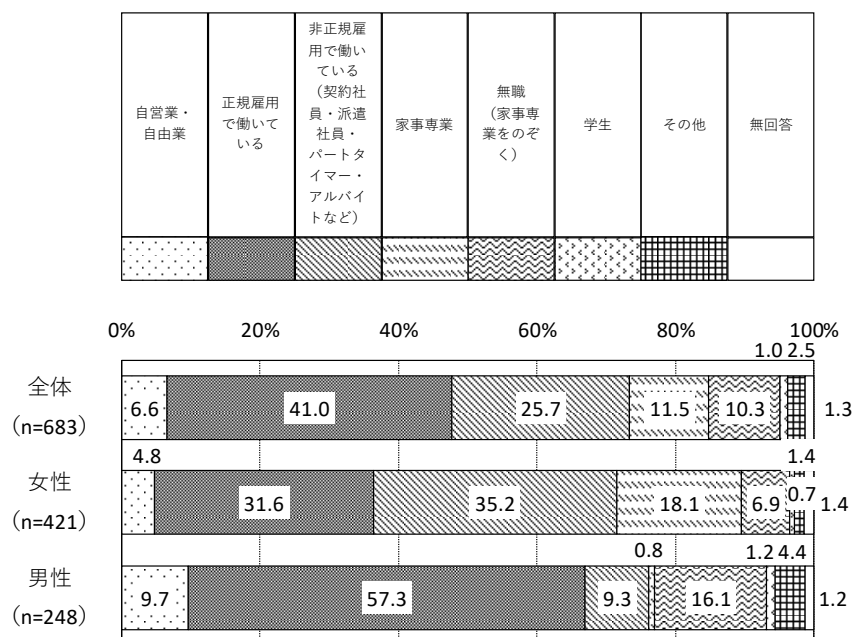


「結婚している」が 女性 68.9%、男性 70.6%で最も高く、次いで「結婚していない」が 女性 20.2%、男性 24.6%、「結婚したが、離婚または死別した」が女性 10.7%、男性 4.8%と続いています。

④回答者・配偶者の職業

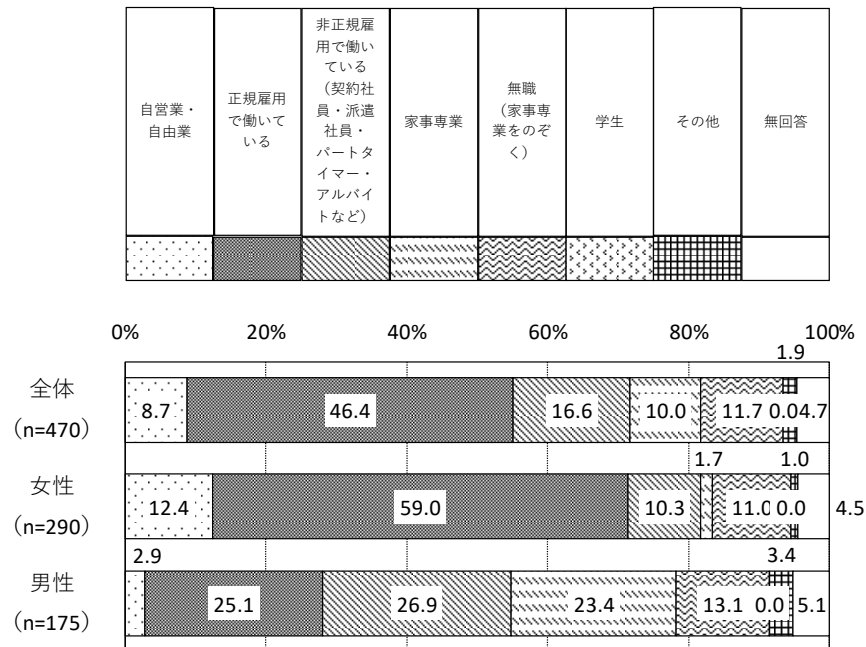
d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。（○は1つずつ）

図表Ⅲ-1-1-4 回答者の職業



回答者の職業については、女性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が35.2%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」の31.6%、男性は「正規雇用で働いている」が57.3%で最も高く、次いで「無職（家事専業をのぞく）」が16.1%と続いています。

図表Ⅲ-1-1-5 配偶者の職業

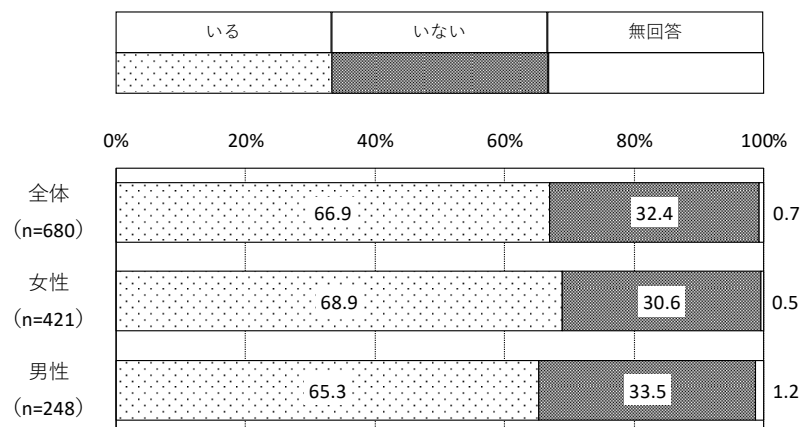


また、配偶者の職業については、女性は「正規雇用で働いている」が59.0%で最も高く、次いで「自営業・自由業」が12.4%、男性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が26.9%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が25.1%と続いています。

⑤子どもがいるか

e あなたに子どもはいますか。(別居を含む) (○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-6 子どもがいるか

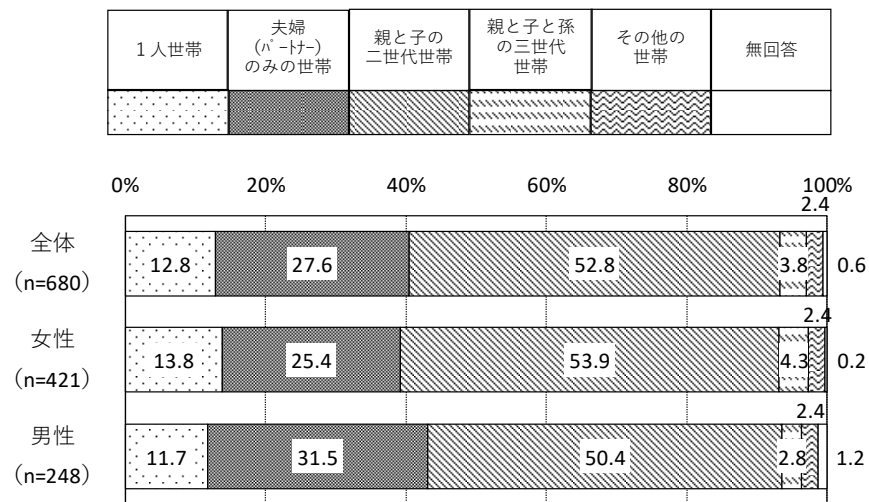


「いる」が女性 68.9%、男性 65.3%、「いない」が女性 30.6%、男性 33.5%となっています。

⑥世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-7 世帯構成



「親と子の二世帯世帯」が 52.8%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）のみの世帯」が 27.6%、「1人世帯」が 12.8%と続いています。

「その他」の意見（主な回答）

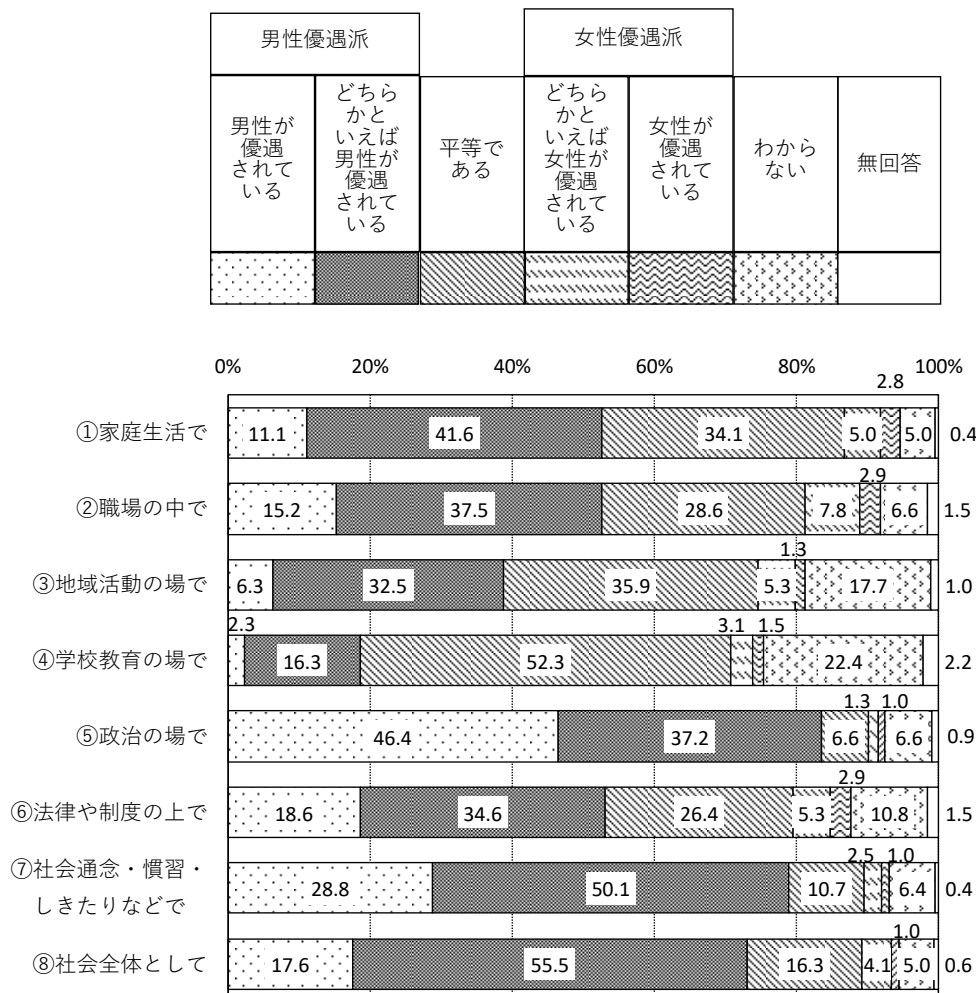
- ・老人ホーム
- ・別居生活(病気のため)
- ・妹家族と生活費等共同で

(2)男女の平等感と役割分担について

①男女がどの程度平等になっていると思うか

問1 次の(1)～(8)の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

図表Ⅲ-1-2-1 男女がどの程度平等になっていると思うか



【男女が「平等である」は「学校教育の場」が約5割】

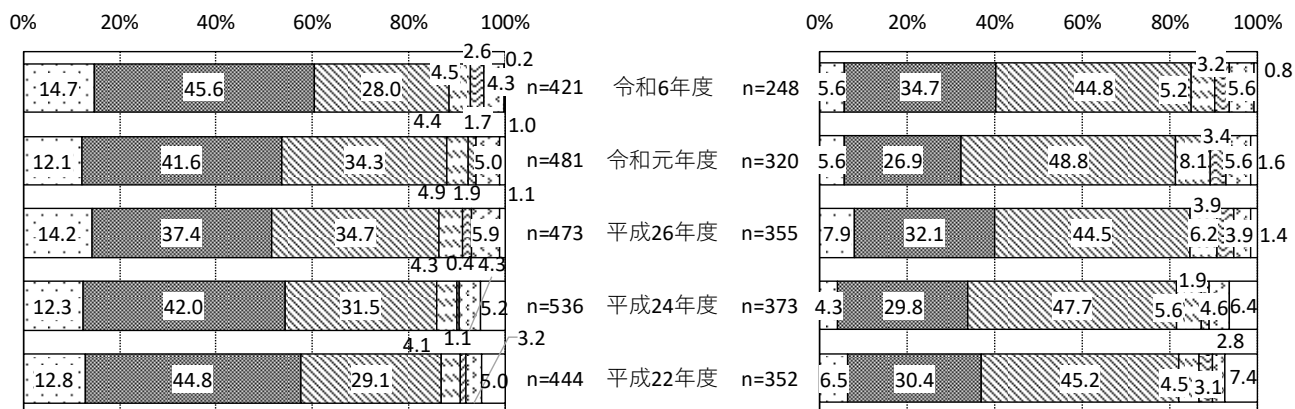
男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で女性 49.6%、男性 57.3%となっています。次いで「地域活動の場」で女性 31.1%、男性 44.4%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場は、「政治の場」で『男性優遇派（『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計）』は女性 88.4%、男性 75.8%、『女性優遇派（『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計）』は女性 1.7%、男性 3.6%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』は女性 84.1%、男性 71.4%、『女性優遇派』は女性 1.4%、男性 6.8%となり、男女での大きな差が見られます。

図表Ⅲ-1-2-2 ①家庭生活で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

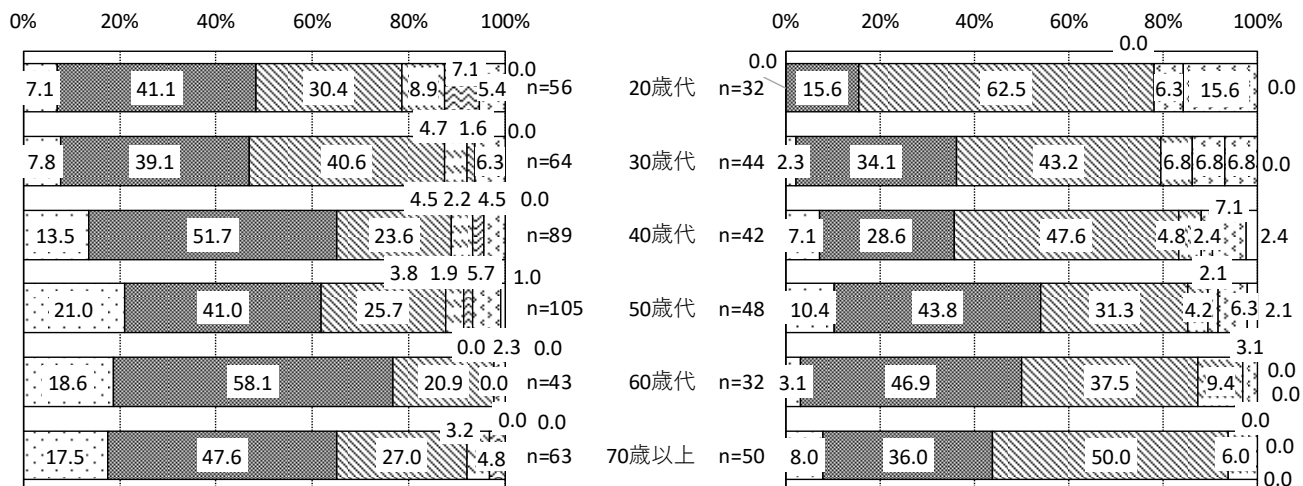


図表Ⅲ-1-2-3 ①家庭生活で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

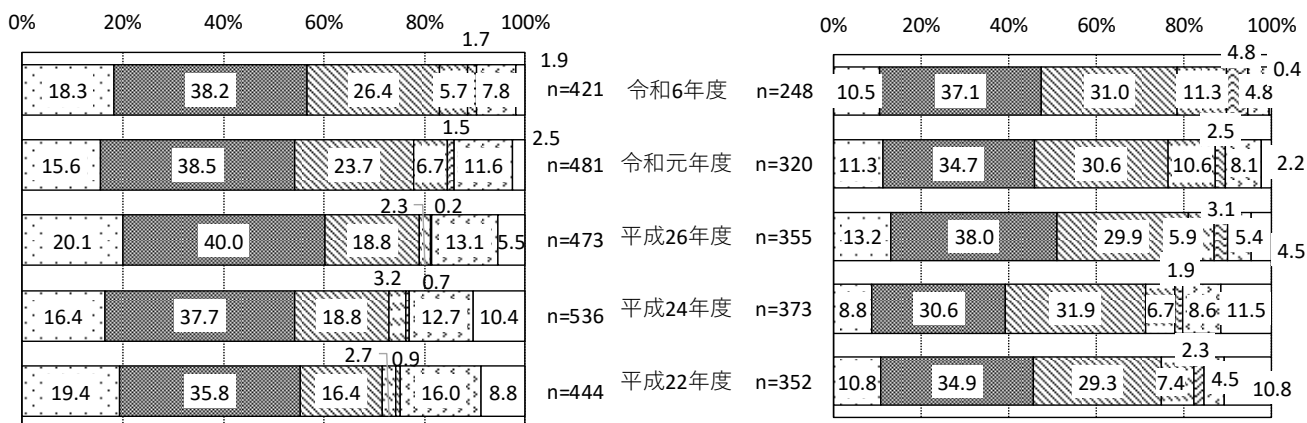


図表Ⅲ-1-2-4 ②職場の中で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

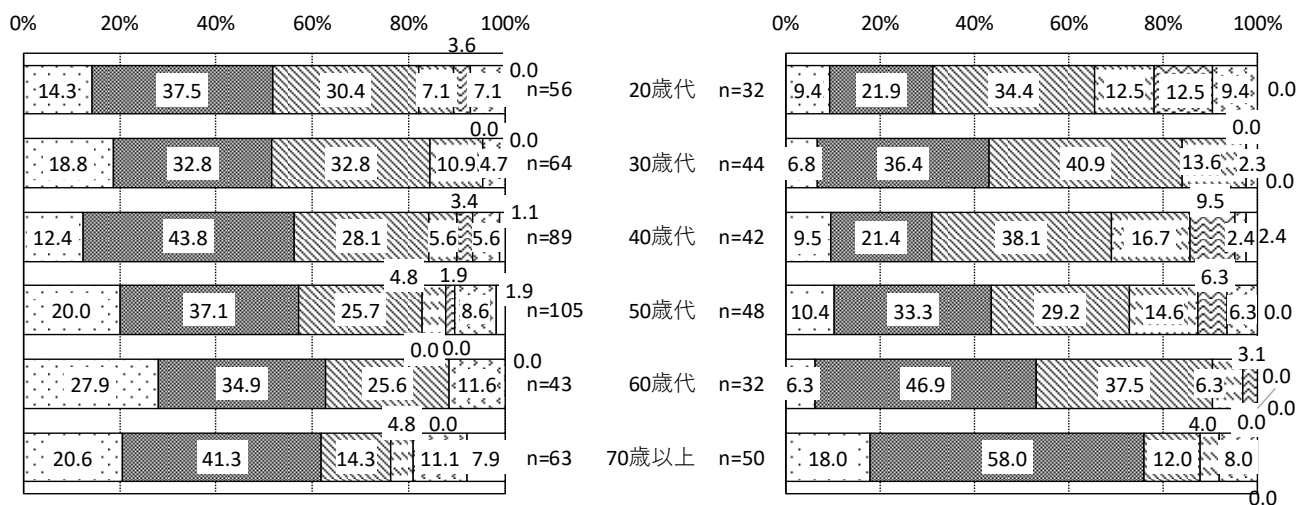


図表Ⅲ-1-2-5 ②職場の中で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

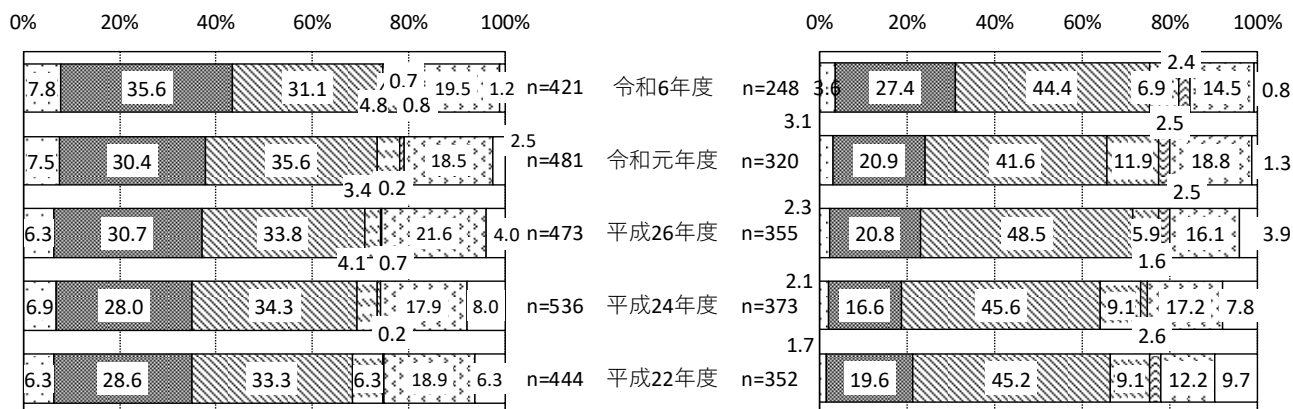


図表Ⅲ-1-2-6 ③地域活動の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

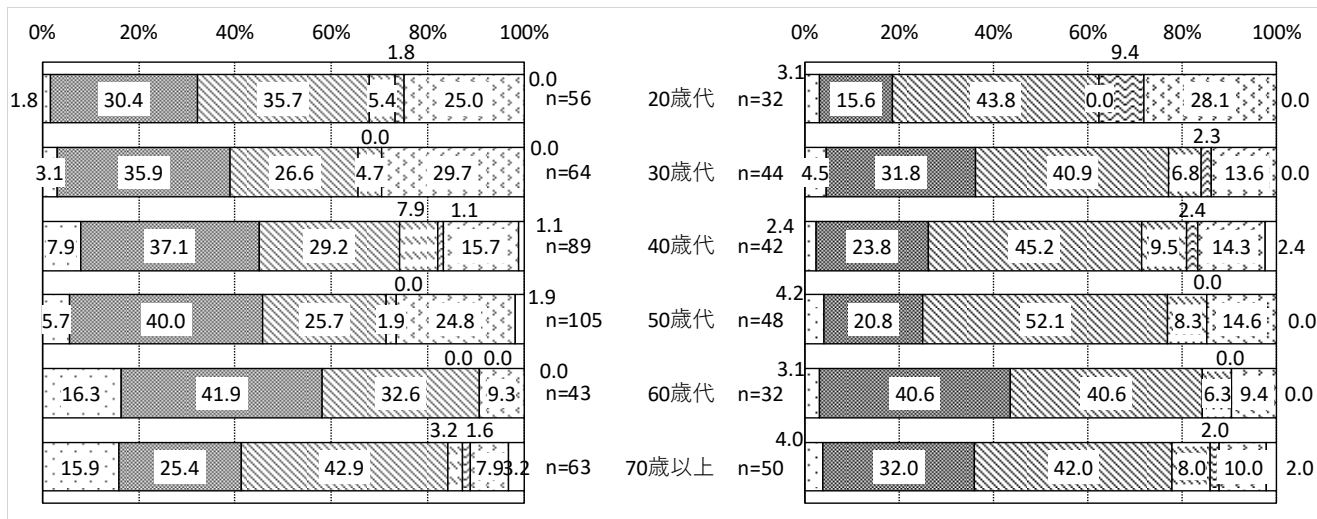


図表Ⅲ-1-2-7 ③地域活動の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

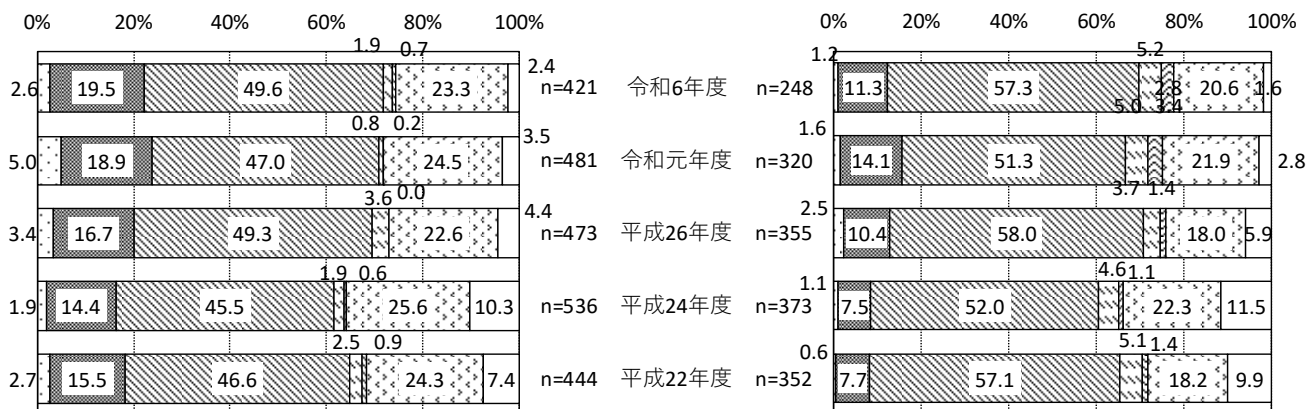


図表Ⅲ-1-2-8 ④学校教育の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

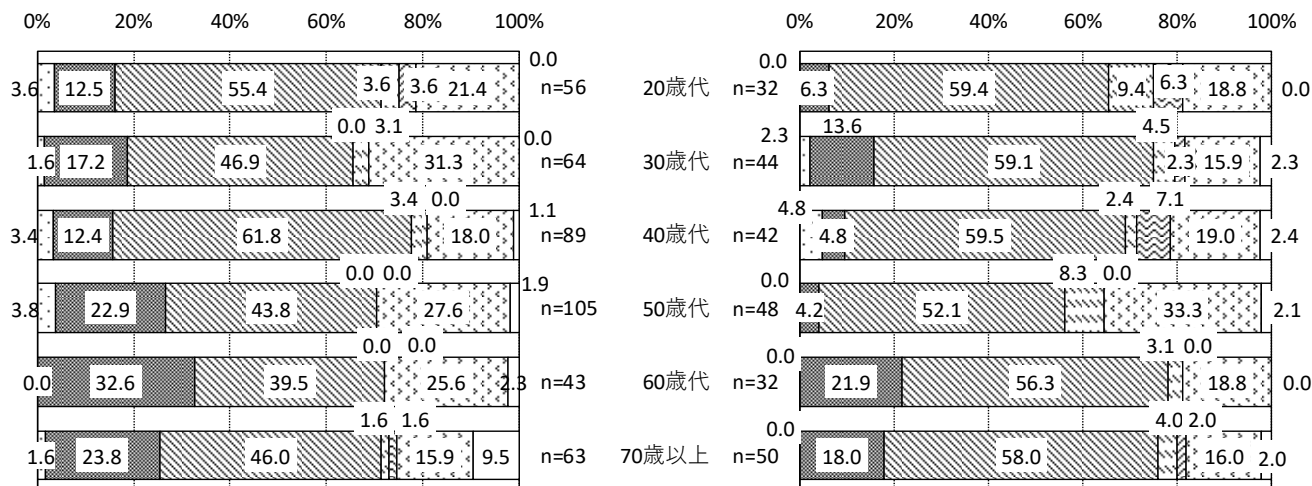


図表Ⅲ-1-2-9 ④学校教育の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

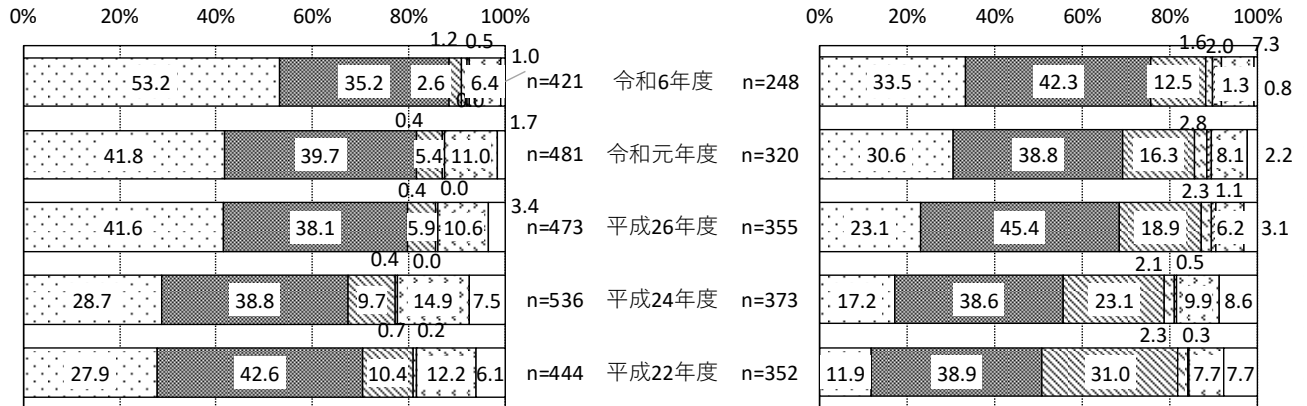


図表Ⅲ-1-2-10 ⑤政治の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

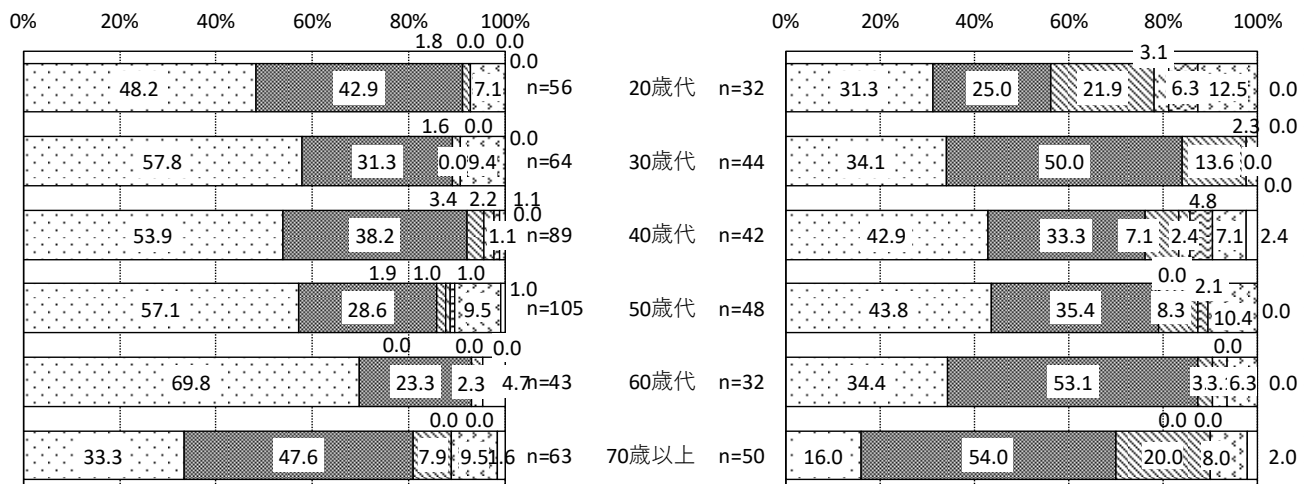


図表Ⅲ-1-2-11 ⑤政治の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

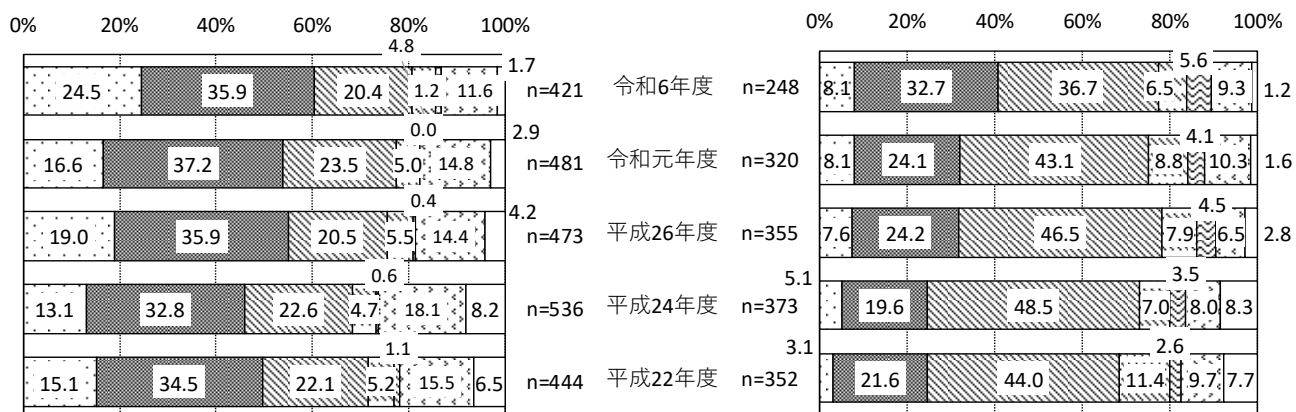


図表Ⅲ-1-2-12 ⑥法律や制度の上で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

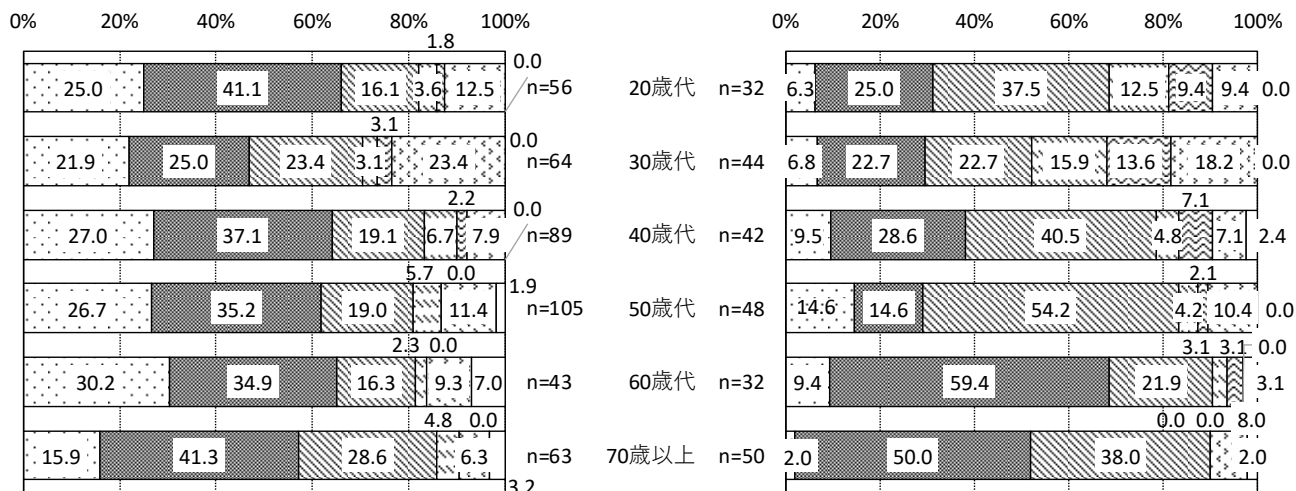


図表Ⅲ-1-2-13 ⑥法律や制度の上で【性別・年代別】

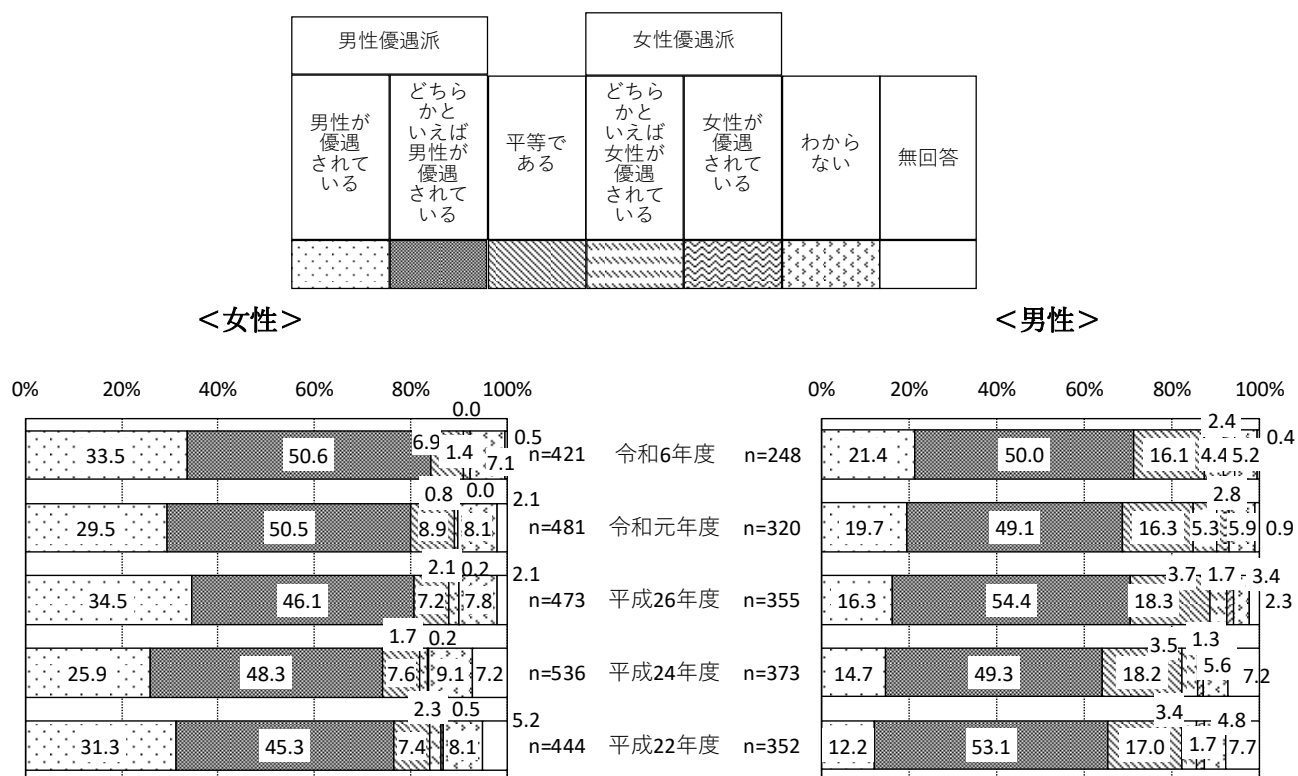
男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

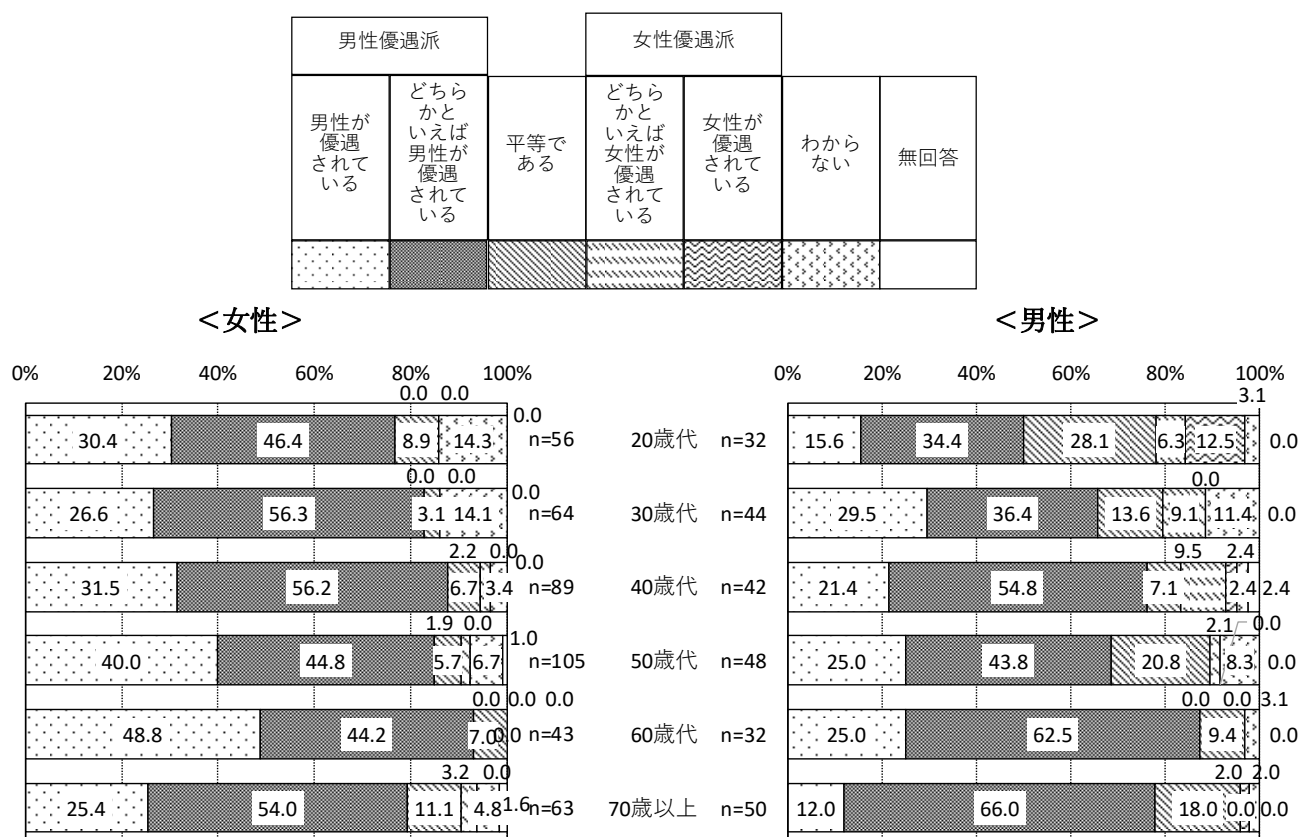
<男性>



図表Ⅲ-1-2-14 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-15 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【性別・年代別】

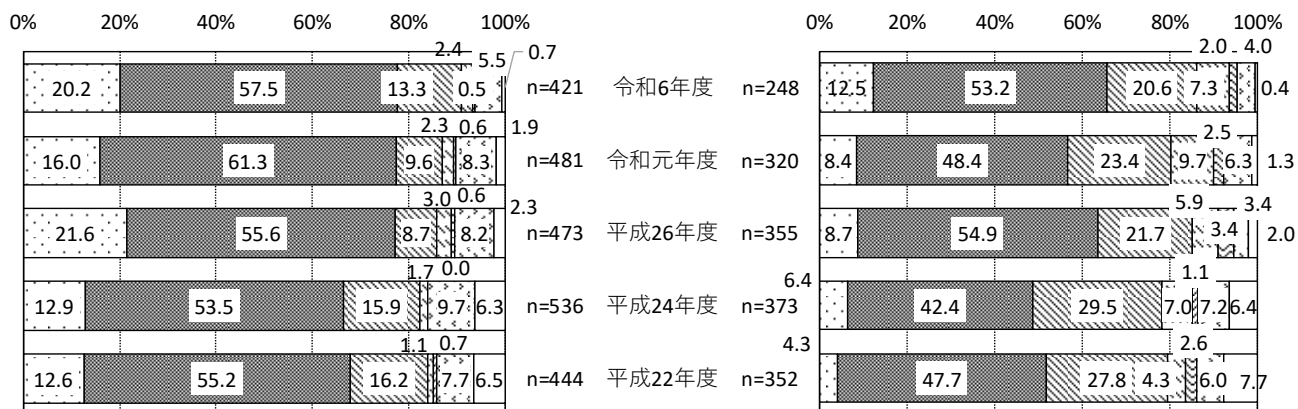


図表Ⅲ-1-2-16 ⑧社会全体として【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

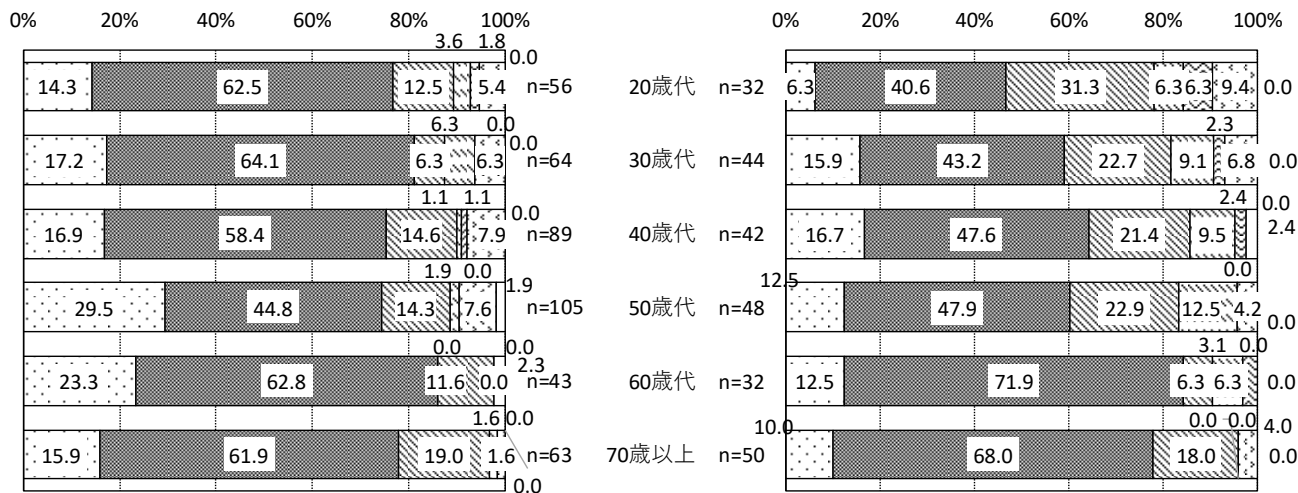


図表Ⅲ-1-2-17 ⑧社会全体として【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

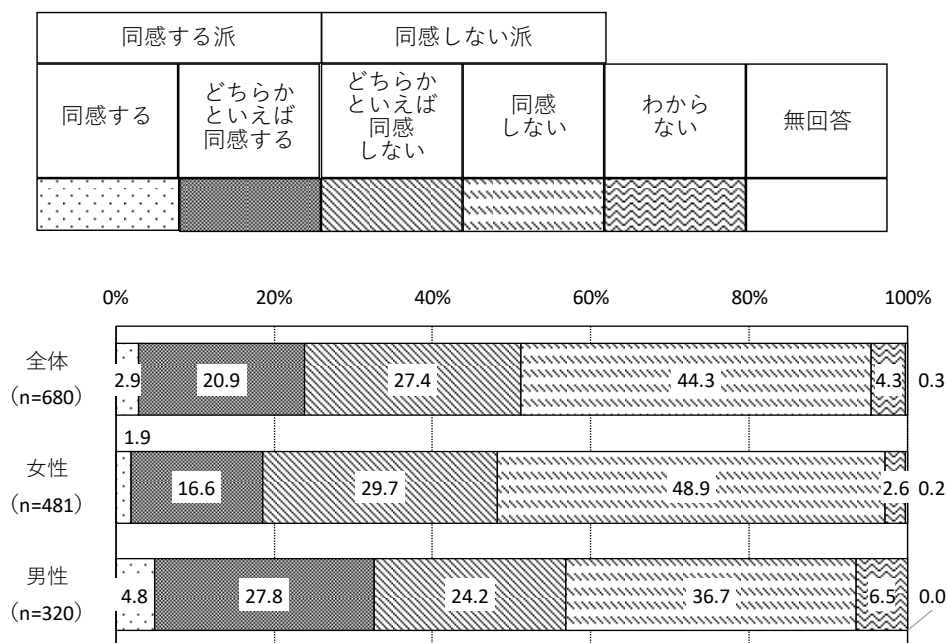
<男性>



②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-2-18 性別による役割分担の考えについて



【性別による役割分担について、「同感しない」が女性は約5割、男性は約4割】

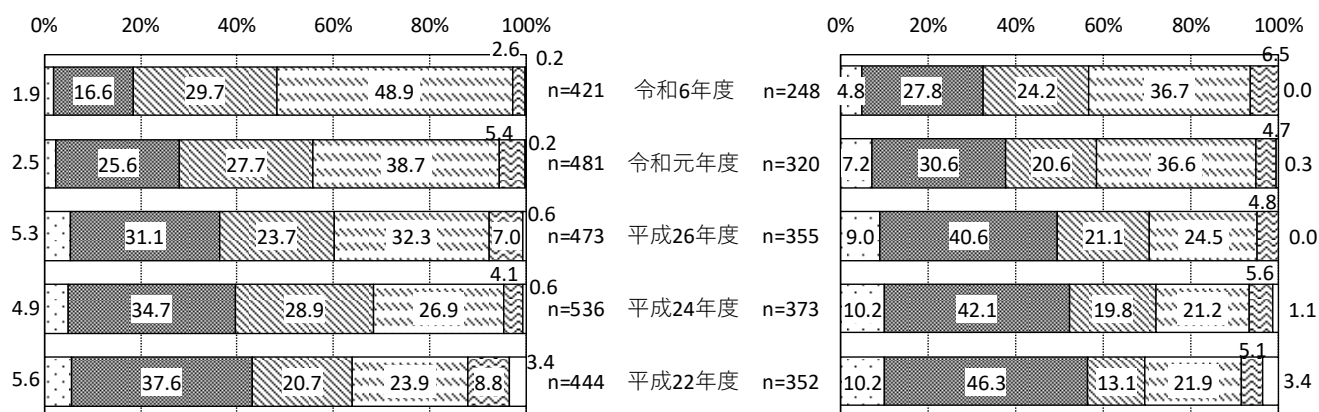
男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 78.6%、男性 60.9%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 18.5%、男性 32.6%と『同感しない派』が大きく上回っています。

図表Ⅲ-1-2-19 性別による役割分担の考えについて【過去の調査との比較】

同感する派		同感しない派		わからない	無回答
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない		

<女性>

<男性>

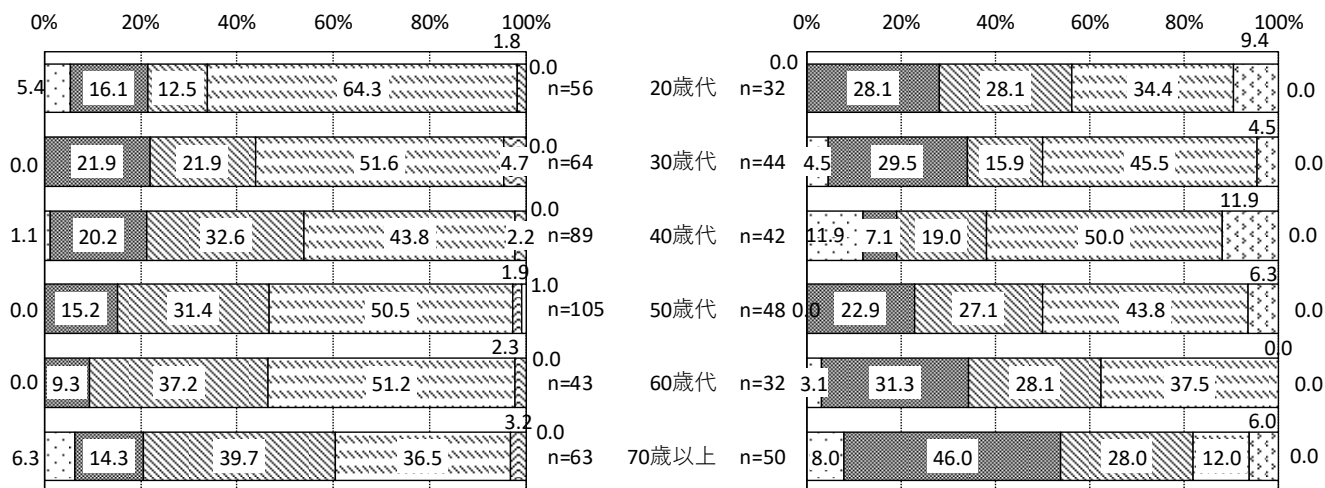


図表Ⅲ-1-2-20 性別による役割分担の考えについて【性別・年代別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>

<男性>

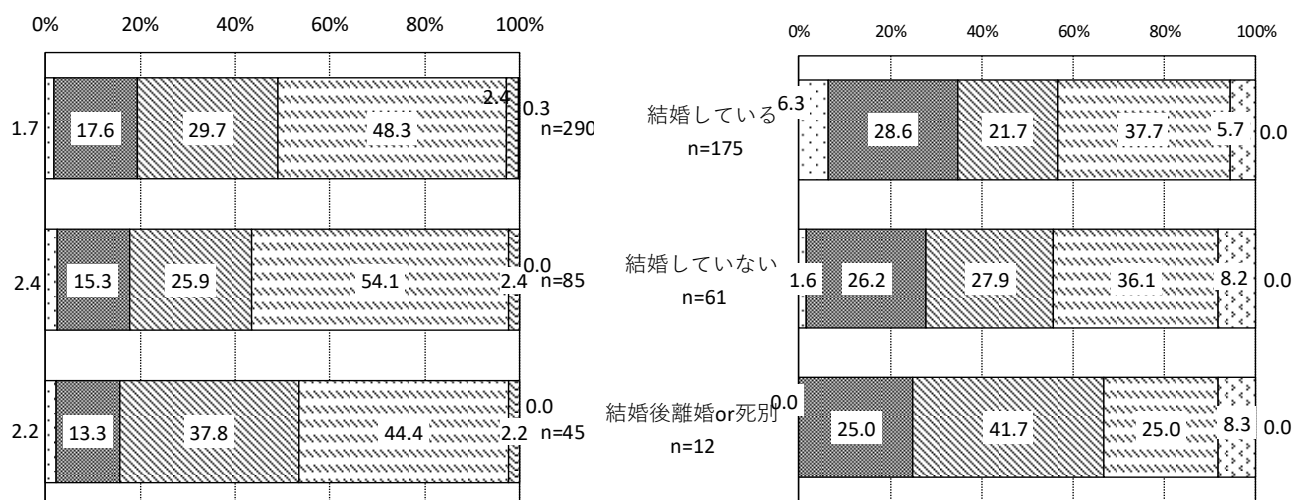


図表Ⅲ-1-2-21 性別による役割分担の考えについて【性別・配偶者有無別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>

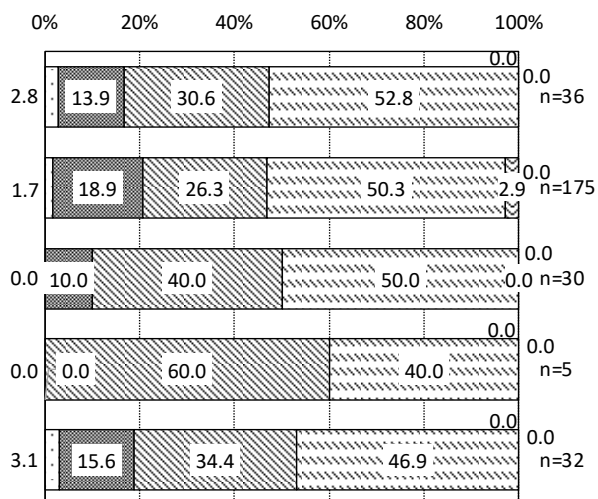
<男性>



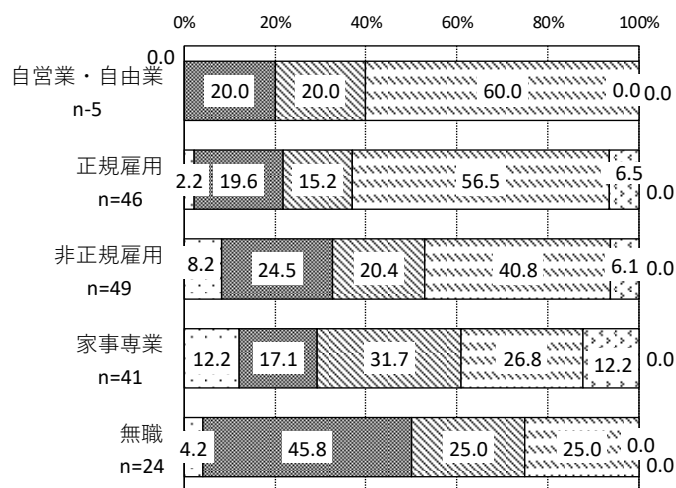
図表Ⅲ-1-2-22 性別による役割分担の考えについて【性別・配偶者職業別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>



<男性>

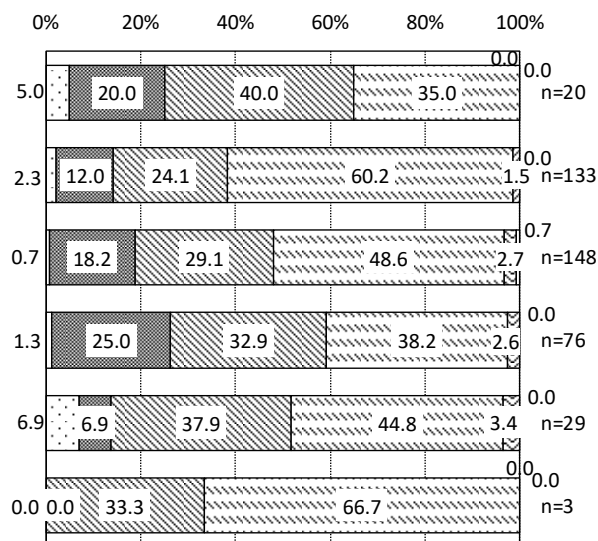


(男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした)

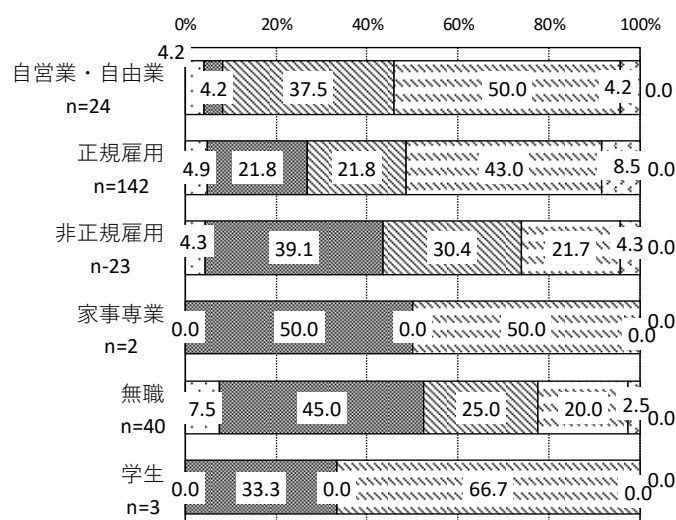
図表Ⅲ-1-2-23 性別による役割分担の考えについて【性別・自身職業別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>



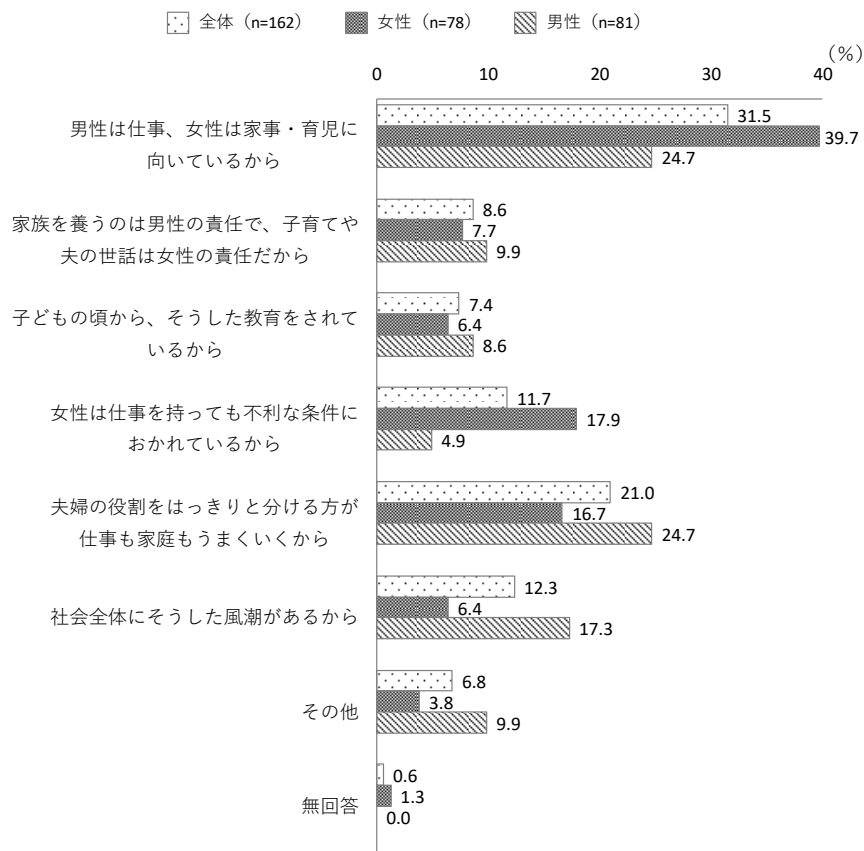
<男性>



③性別による役割分担を支持する理由

(問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問2-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-2-24 性別による役割分担を支持する理由



【性別による役割分担を支持する理由は男女とも「男性は仕事、女性は家事育児」が約3割】

性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(女性 39.7%、男性 24.7%) が最も高く、また男性は「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」(男性 24.7%) も同率で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-2-25 性別による役割分担を支持する理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	男性は仕事・育児に向いているから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから	子どもの頃から、そうした教育をされているから	女性は仕事を持っても不利な条件におかれているから	夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
全体		162	31.5	8.6	7.4	11.7	21.0	12.3	6.8	0.6
性別	女性	78	39.7	7.7	6.4	17.9	16.7	6.4	3.8	1.3
	男性	81	24.7	9.9	8.6	4.9	24.7	17.3	9.9	0.0

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 自分自身、育児に専念したいから
- 特に育児は女性に適正があると思うから
- 体調などで

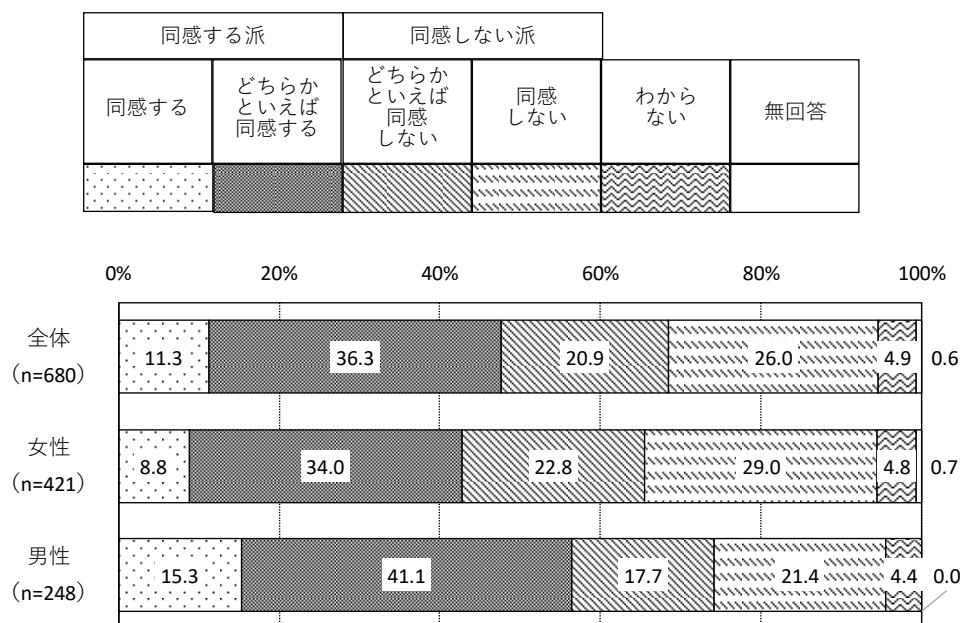
<男性>の意見

- 出産は女性しかできない。その分男性は仕事でカバーすべきと思うから。
- 肉体労働は女性に向いていない
- 男性とは違い女性の方が子供を産んだ（母性が強い）と思うから
- 適材適所。逆の役割であってもいいが、ある程度の役割分担は必要だ。

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

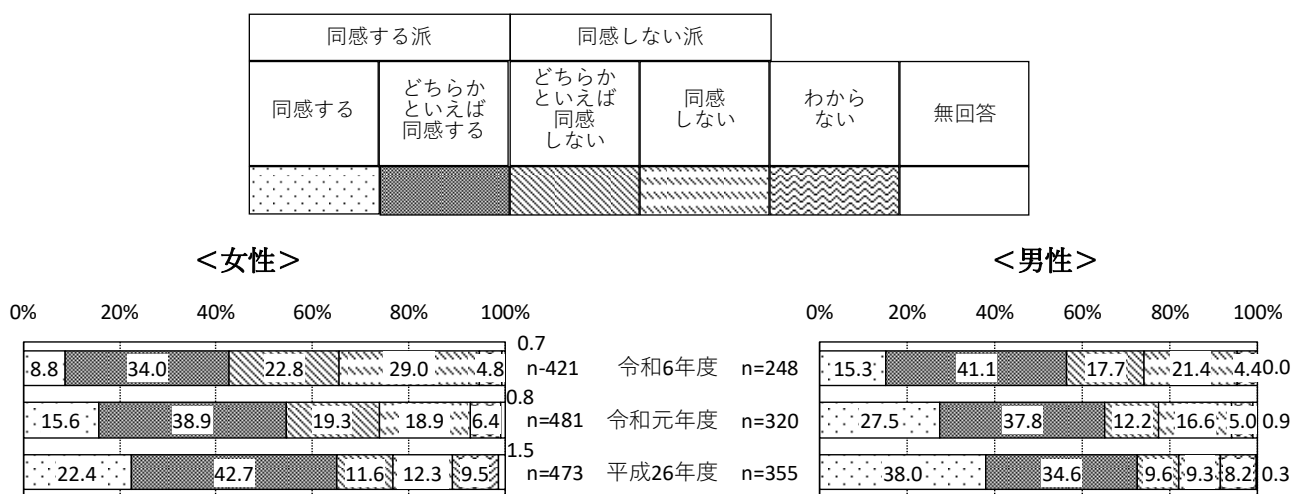
図表Ⅲ-1-2-26 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について



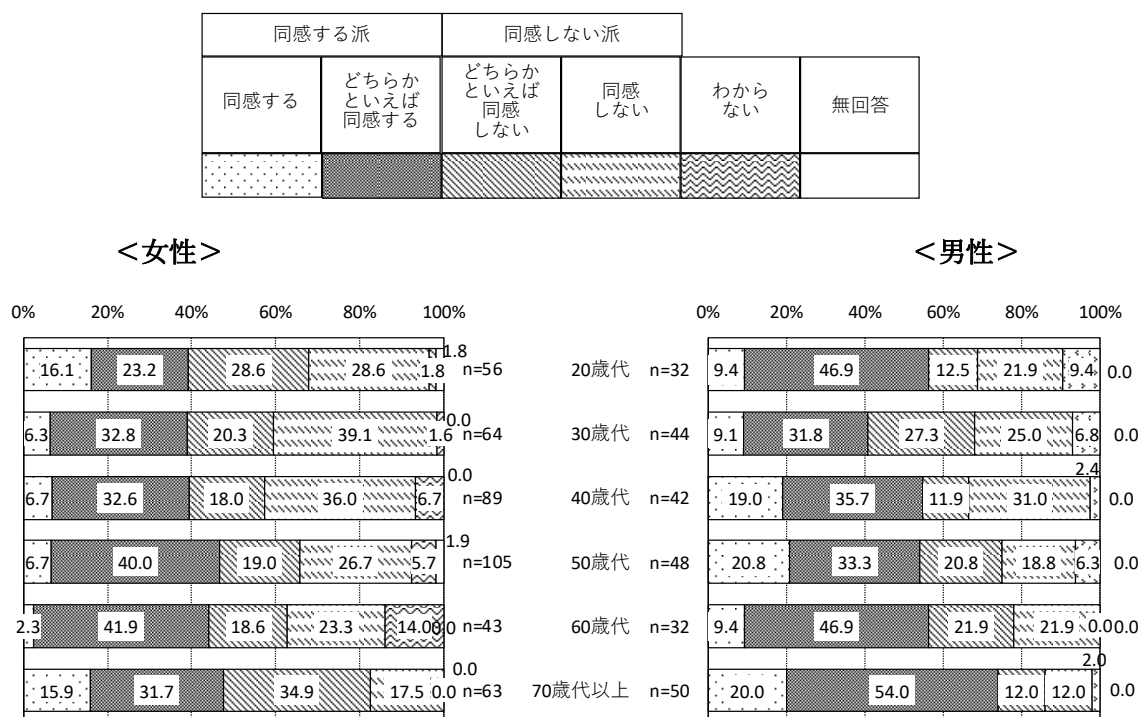
【子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいとの考え方に男女の違い】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 42.8%、男性 56.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 51.8%、男性 39.1%と女性と男性で違いが見られます。

図表Ⅲ-1-2-27 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【過去の調査との比較】



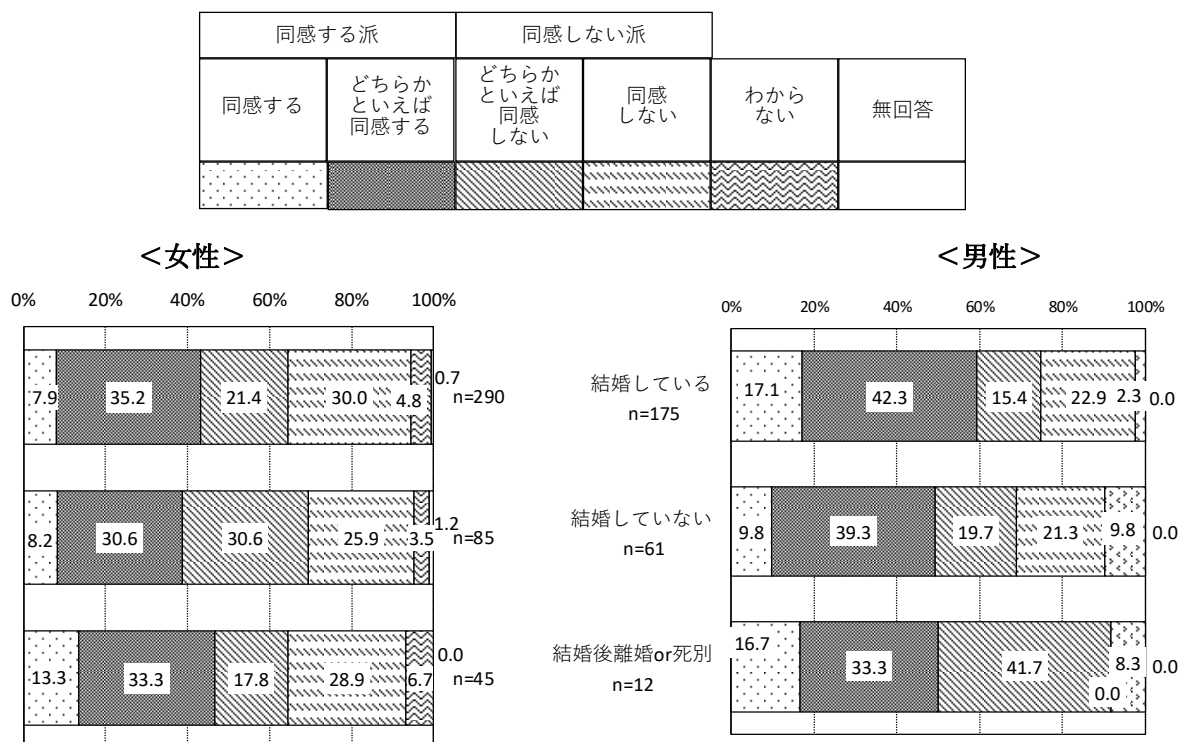
図表Ⅲ-1-2-28 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・年代別】



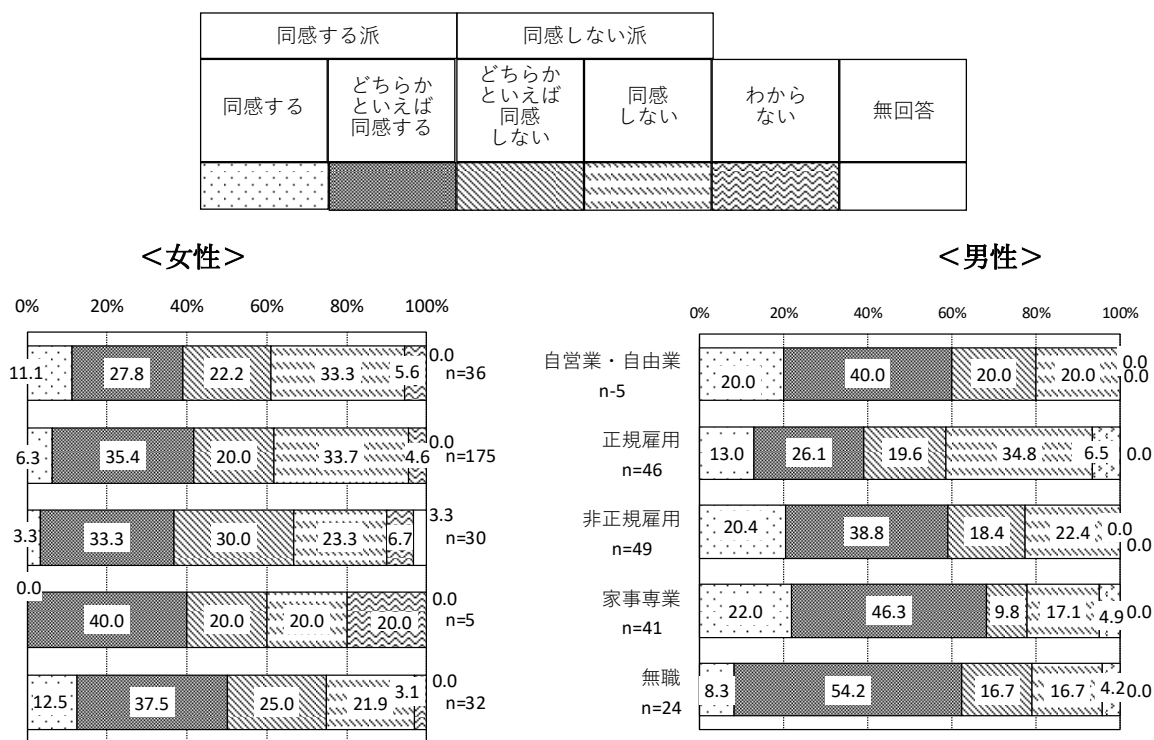
【過去の調査との比較】

「同感する派」は年々減少の傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-2-29 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・配偶者有無別】

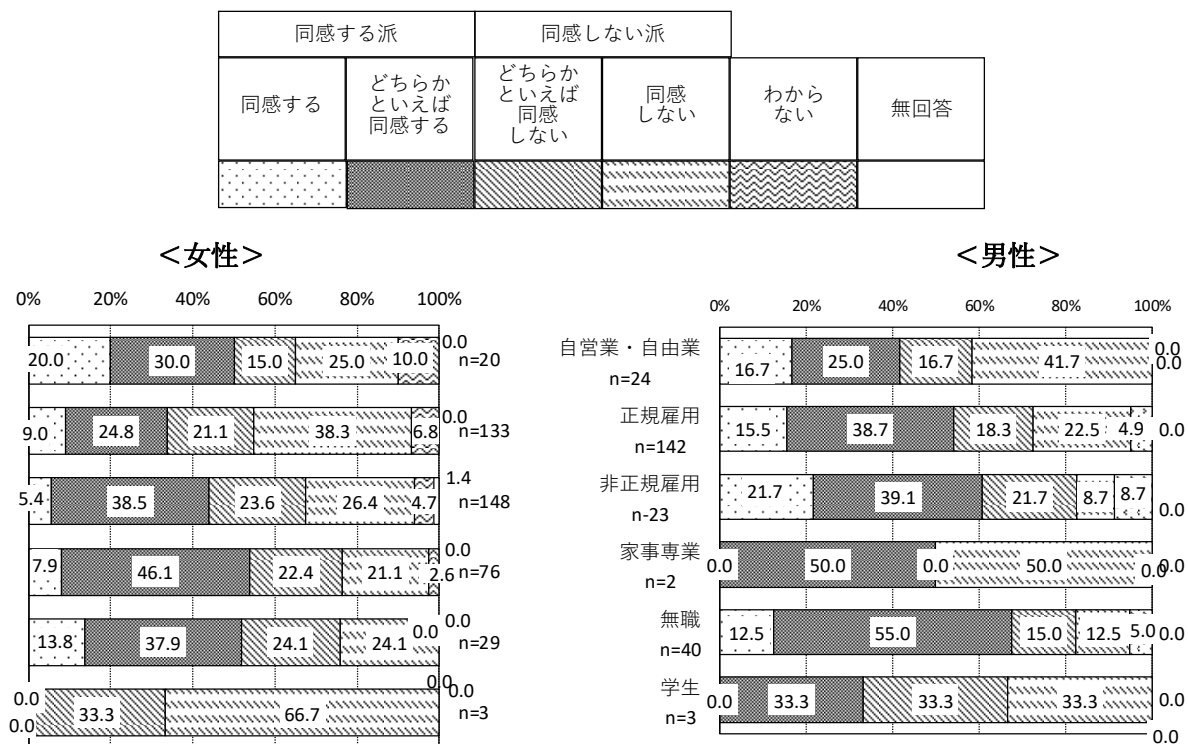


図表Ⅲ-1-2-30 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・配偶者職業別】



（男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした）

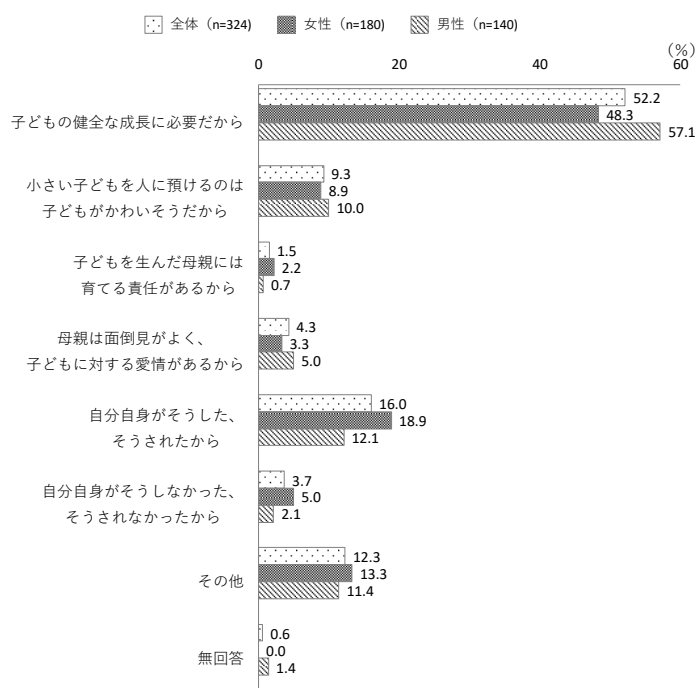
図表Ⅲ-1-2-31 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・自身職業別】



⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

(問3で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-2-32 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由



【「子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念した方がよい」と思う理由は「子供の健全な成長に必要なから」が約5割】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なから」(女性 48.3%、男性 57.1%) が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」(女性 18.9%、男性 12.1%) となっています。

図表Ⅲ-1-2-33 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計（実数）	子どもの健全な成長に必要なから	小さい子どもを人に預けるのはかわいそうだから	子どもを生んだ母親には育てる責任があるから	母親は面倒見がよく、子どもに対する愛情があるから	自分自身がそうした、そうされたから	自分自身がそうしなかった、そうされなかったから	その他	無回答
全体	324	52.2	9.3	1.5	4.3	16.0	3.7	12.3	0.6
性別 女性	180	48.3	8.9	2.2	3.3	18.9	5.0	13.3	0.0
男性	140	57.1	10.0	0.7	5.0	12.1	2.1	11.4	1.4

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 子供の小さな成長を見逃したくないから
- 子供が病気などすると仕事を休む又は退職しないといけないから 又、そうしなければいけないから
- 子どもはあっという間に大きくなってしまいうので貴重な時間を過ごせる(過ごせた)と感じた
- 初等教育で学んだ時、1才くらいまでは母親に抱かれることが心の成長によいと学んだ。
- 環境が許すのであれば小さい時期は一緒にいるのが安心するから
- 母親に限らず家に誰かいると安全安心だから
- 父親が家事育児に協力的じゃないと母親の負担が増えるだけならその方がよい
- 初めて子どもが寝返りをした、や初めて立ったなど初めての瞬間を共に過ごしたいから
- 人に預けるのは不安な面もあるから
- 小さな成長で感動したり自分も一緒に成長できるととても幸せな時期を大切に過ごした方がいいと思うから。
- 自分がそうしたいから

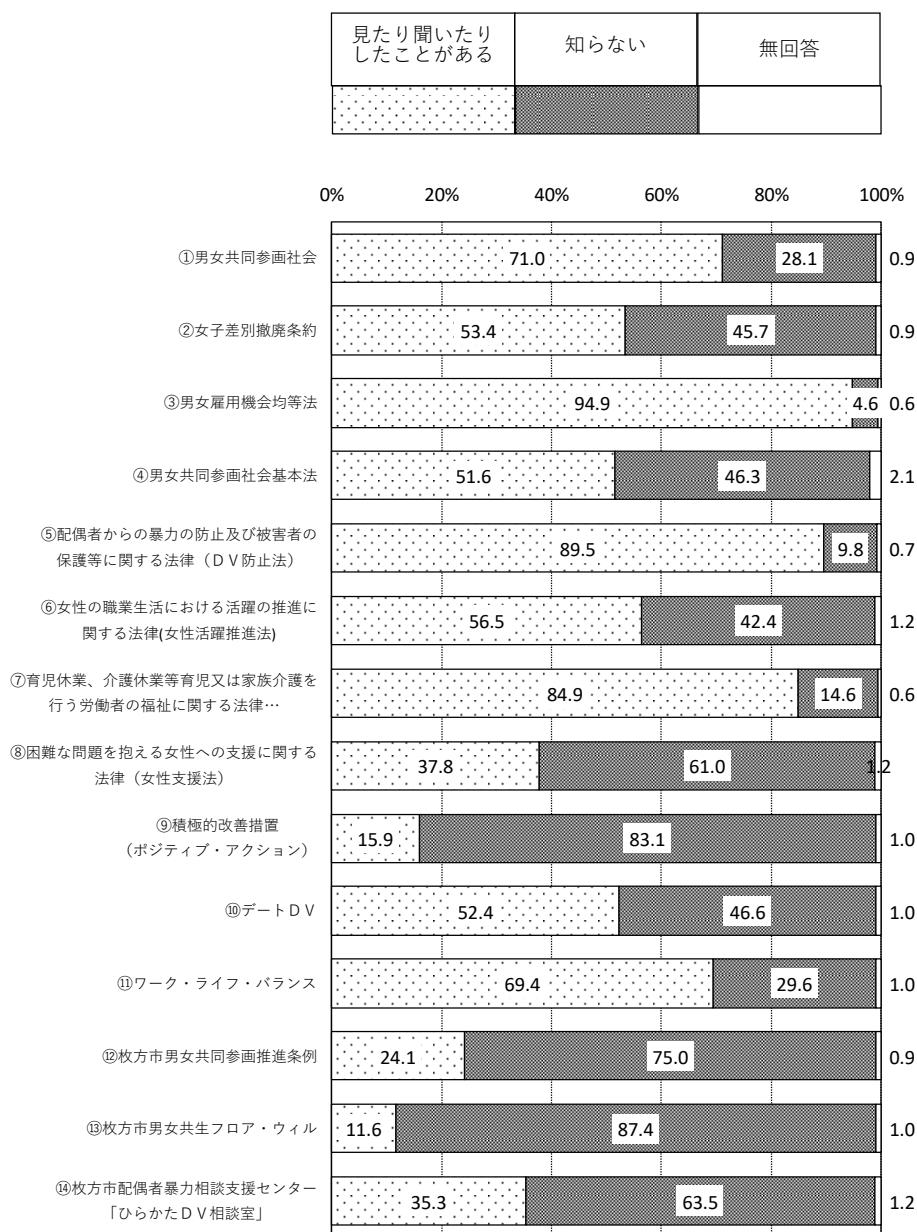
<男性>の意見

- 小さい子どもの身近に家族が常にいた方が望ましいと感じるから
- 子供はずっと母ちゃんのそばにいたいものである。
- 女性ができれば良いが、厳しい場合は男性が育児に専念するのも良いと思う。
- 父親よりも母親の方が子供の変化に敏感だと思うから
- 子供を見ていて、父親では無く、母親へ愛情を求めていることが多く感じるため。
- 大事なことは母親から学ぶ。
- 成長過程をしっかりと見れるから
- 出産後の体力、精神の回復の為に1年程度は仕事しない方が良いと思う

⑥法律等の認知度

問4 次の(1)～(14)の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

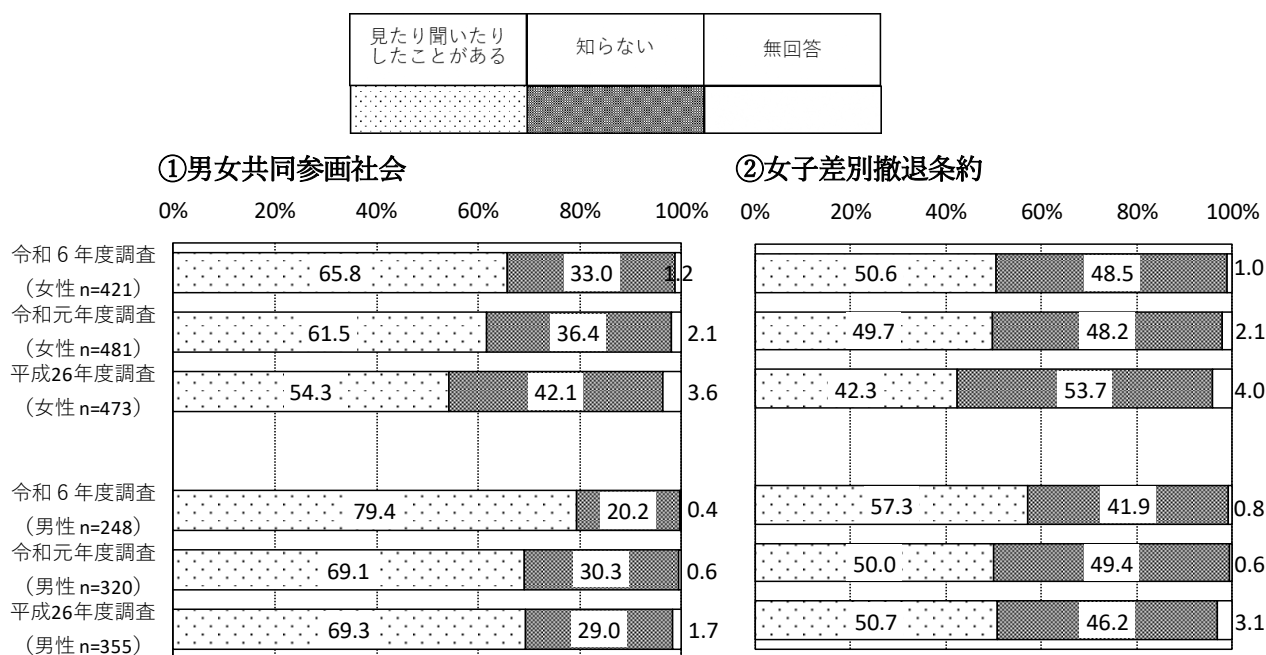
図表Ⅲ-1-2-34 法律等の認知度



【法律の認知度が高いのは「男女雇用機会均等法」で9割以上、「DV防止法」も9割近く】

法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が94.9%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が89.5%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)」が84.9%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」87.4%、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」83.1%、「枚方市男女共同参画推進条例」75.0%となっています。

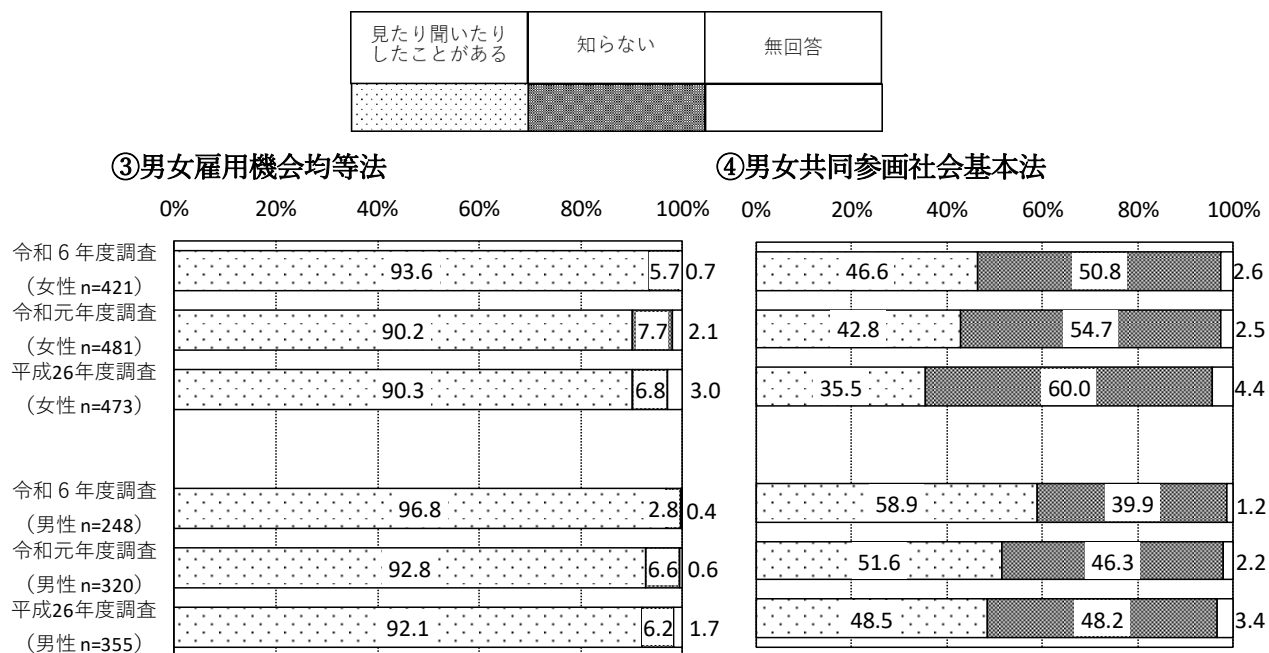
図表Ⅲ-1-2-35 ①男女共同参画社会 ②女子差別撤廃条約【過去の調査との比較】



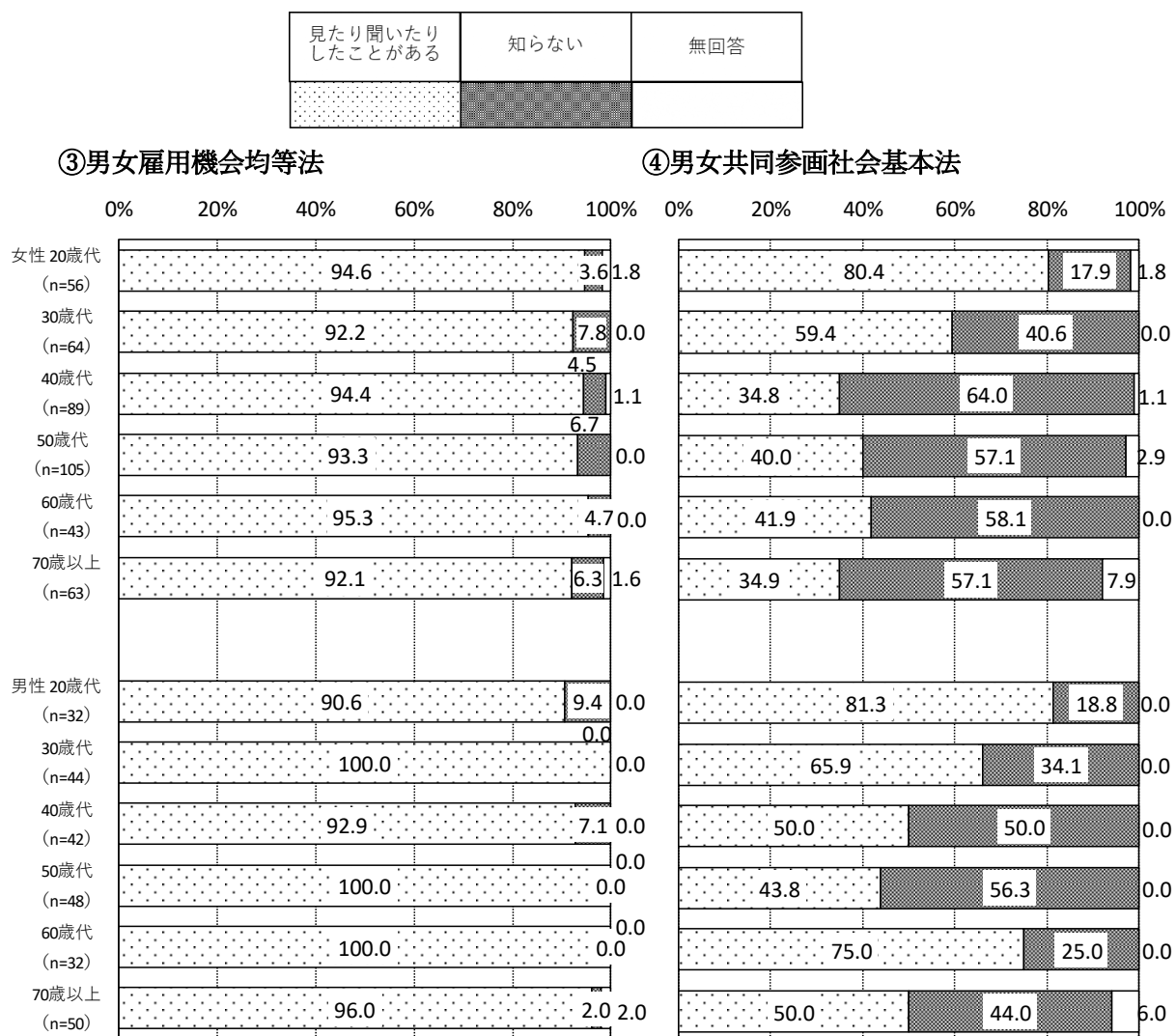
図表Ⅲ-1-2-36 ①男女共同参画社会 ②女子差別撤廃条約【性別・年代別】



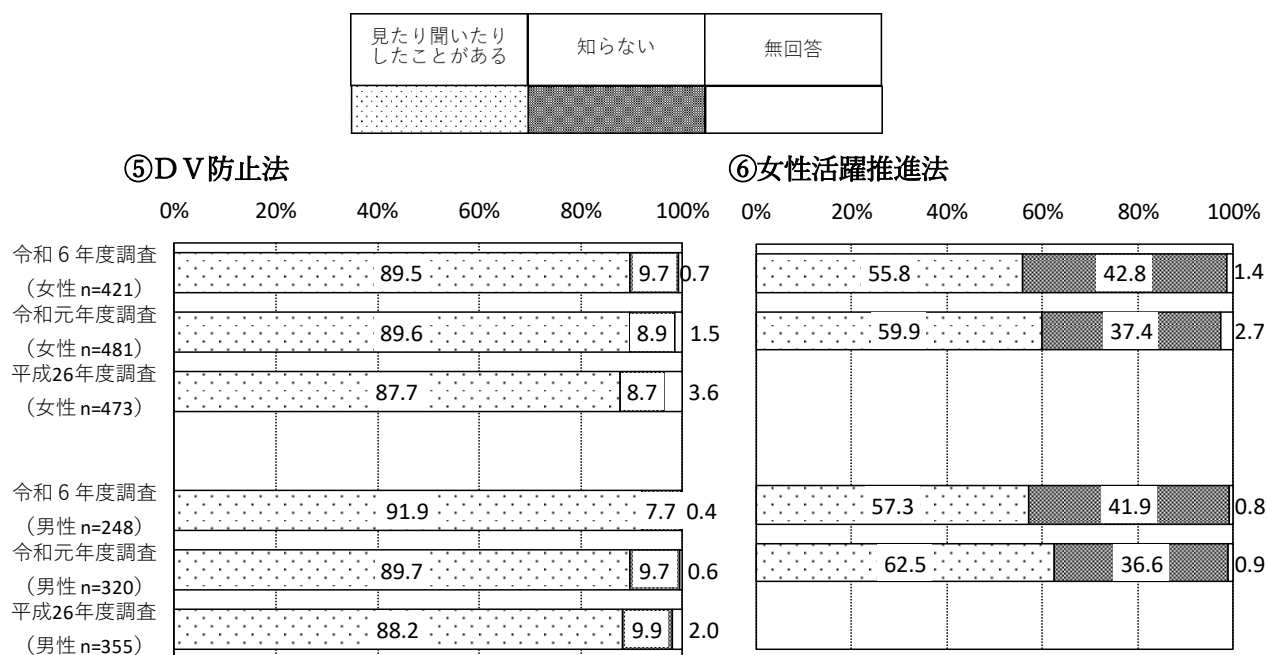
図表Ⅲ-1-2-37 ③男女雇用機会均等法 ④男女共同参画社会基本法【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-38 ③男女雇用機会均等法 ④男女共同参画社会基本法【性別・年代別】



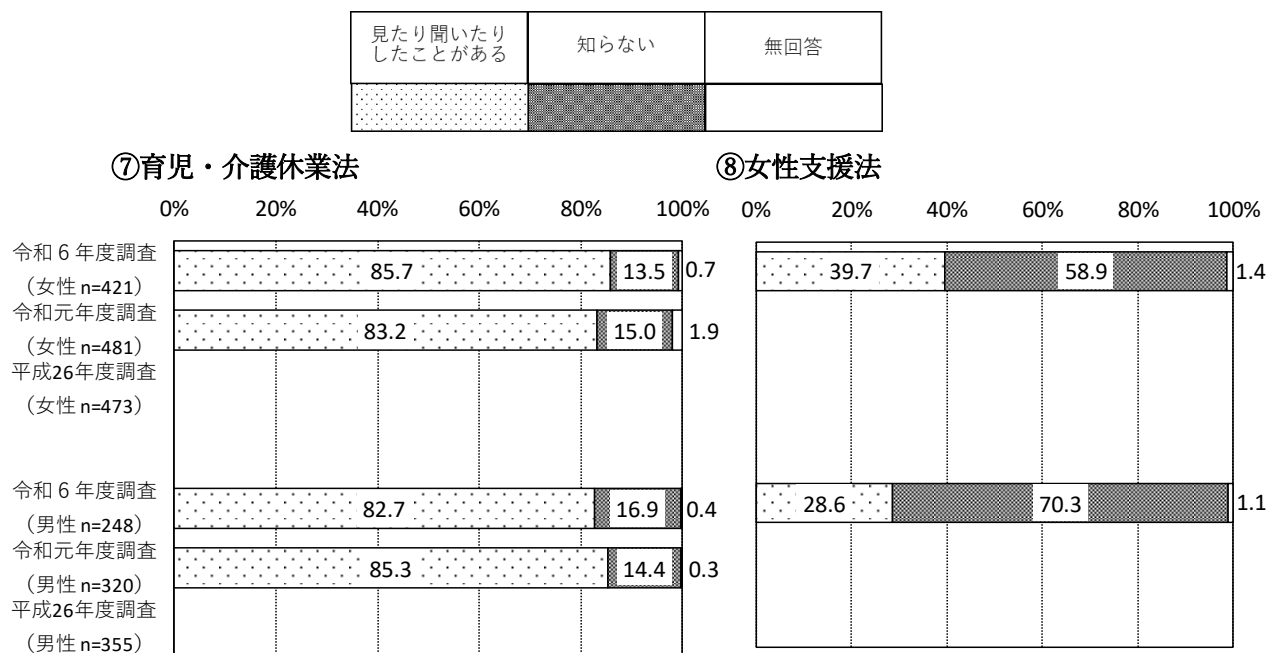
図表Ⅲ-1-2-39 ⑤DV防止法 ⑥女性活躍推進法【過去の調査との比較】



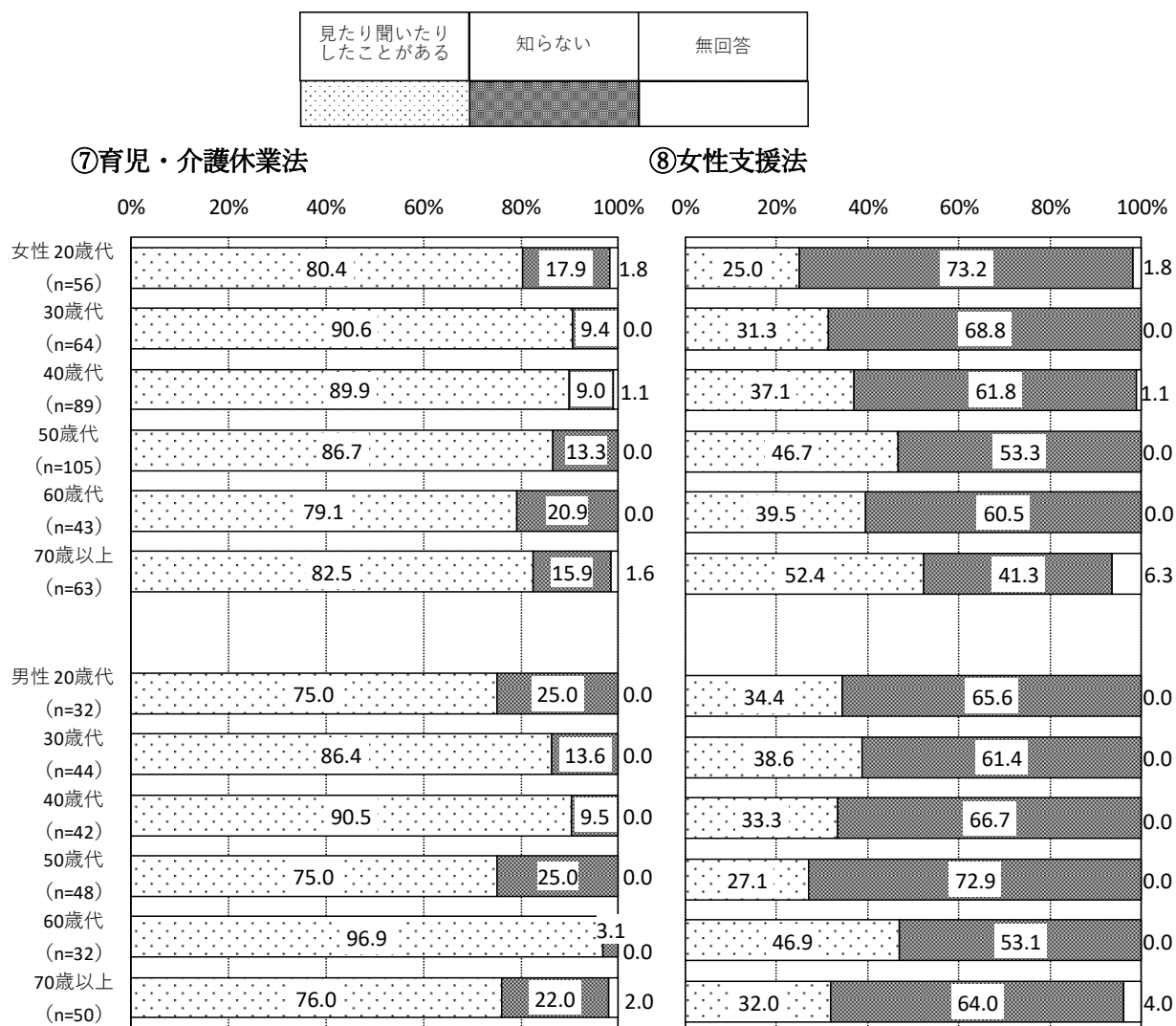
図表Ⅲ-1-2-40 ⑤DV防止法 ⑥女性活躍推進法【性別・年代別】



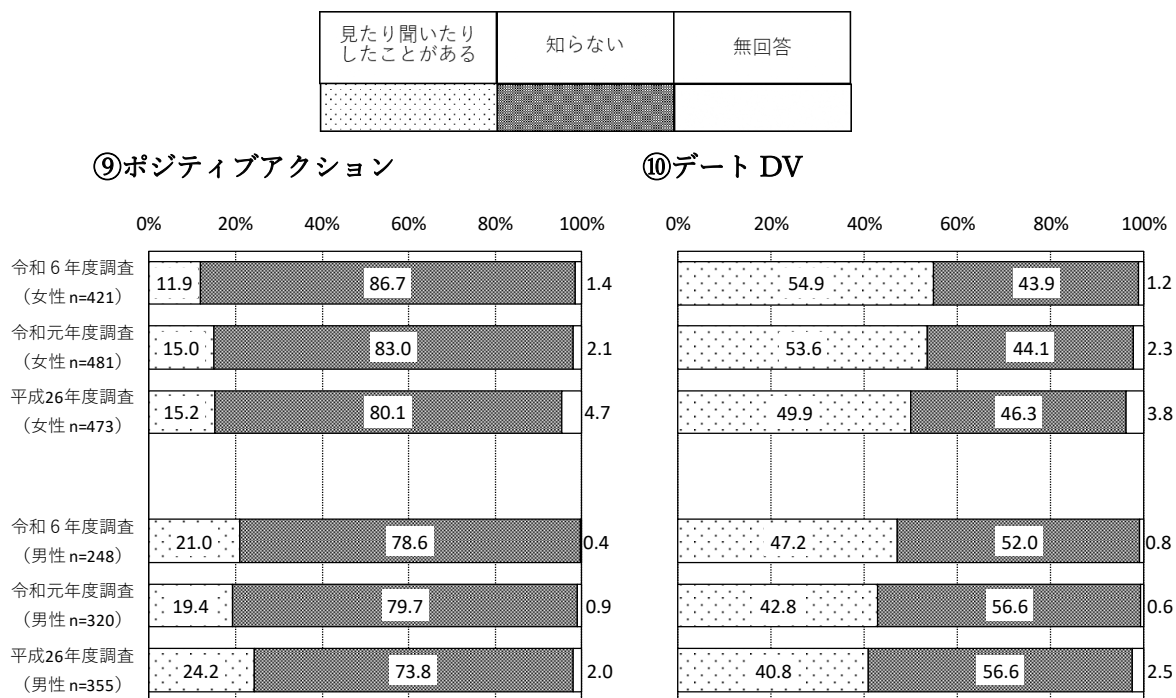
図表Ⅲ-1-2-41 ⑦育児・介護休業法 ⑧女性支援法【過去の調査との比較】



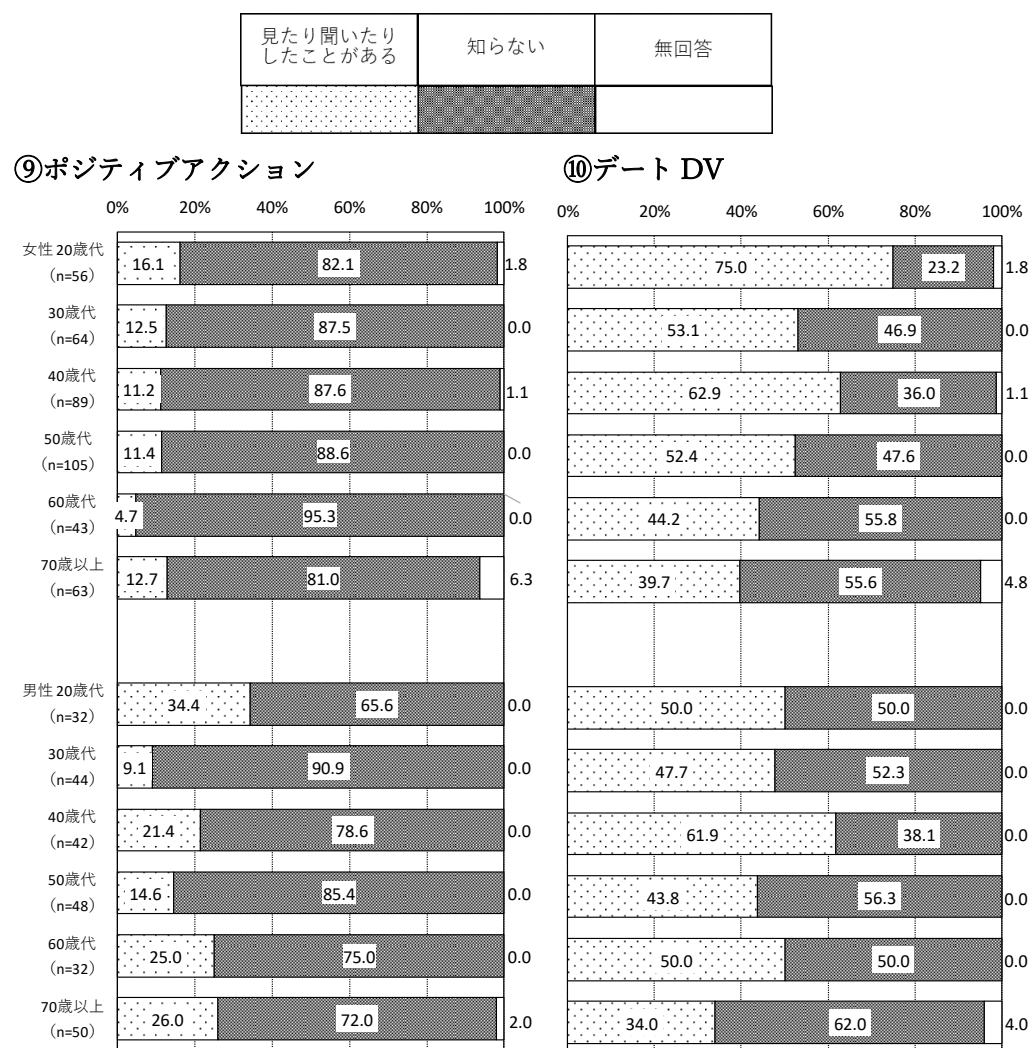
図表Ⅲ-1-2-42 ⑦育児・介護休業法 ⑧女性支援法【性別・年代別】



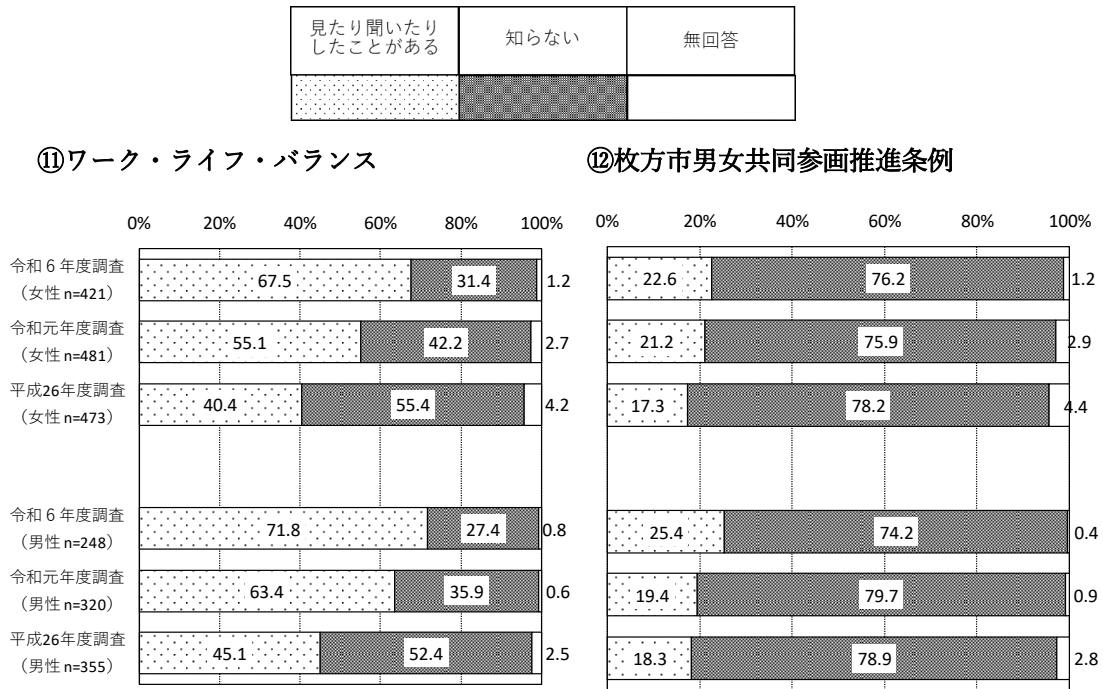
図表Ⅲ-1-2-43 ⑨ポジティブアクション ⑩デートDV【過去の調査との比較】



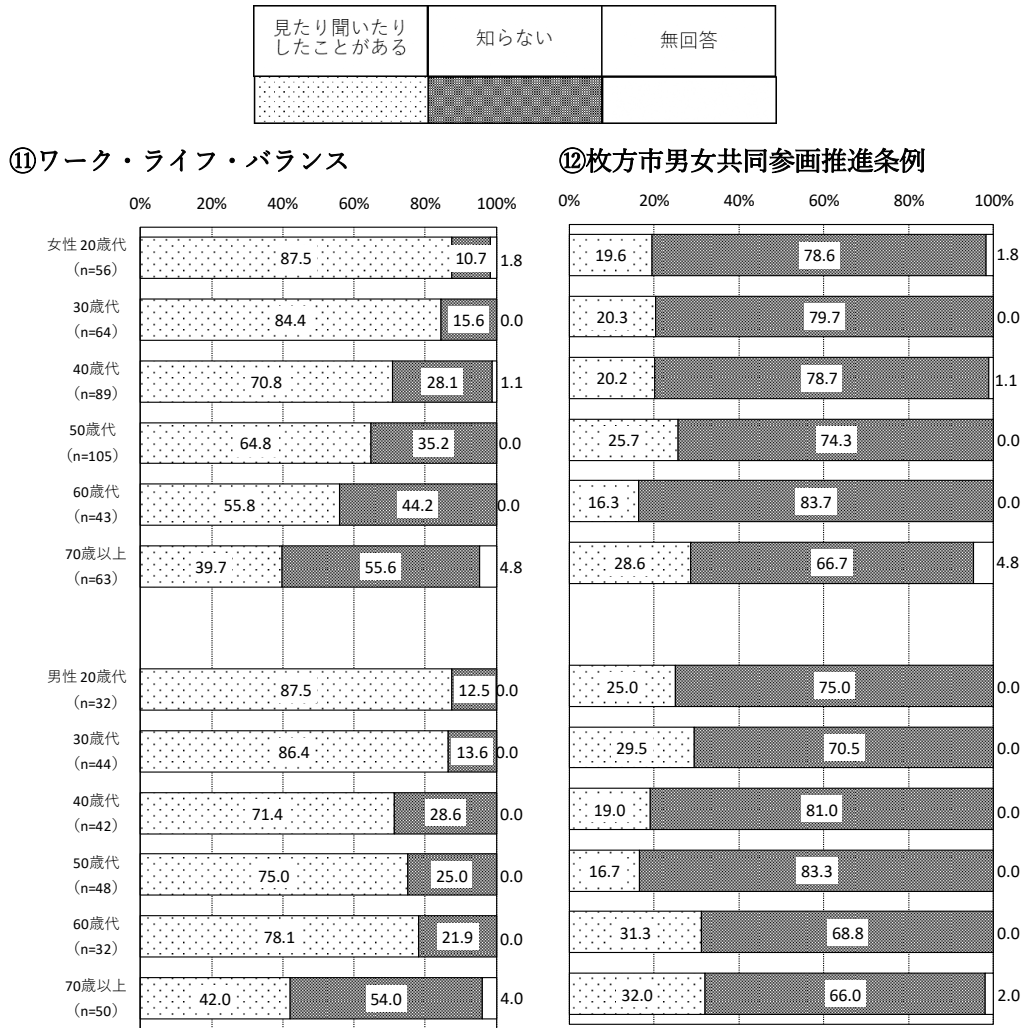
図表Ⅲ-1-2-44 ⑨ポジティブアクション ⑩デートDV【性別・年代別】



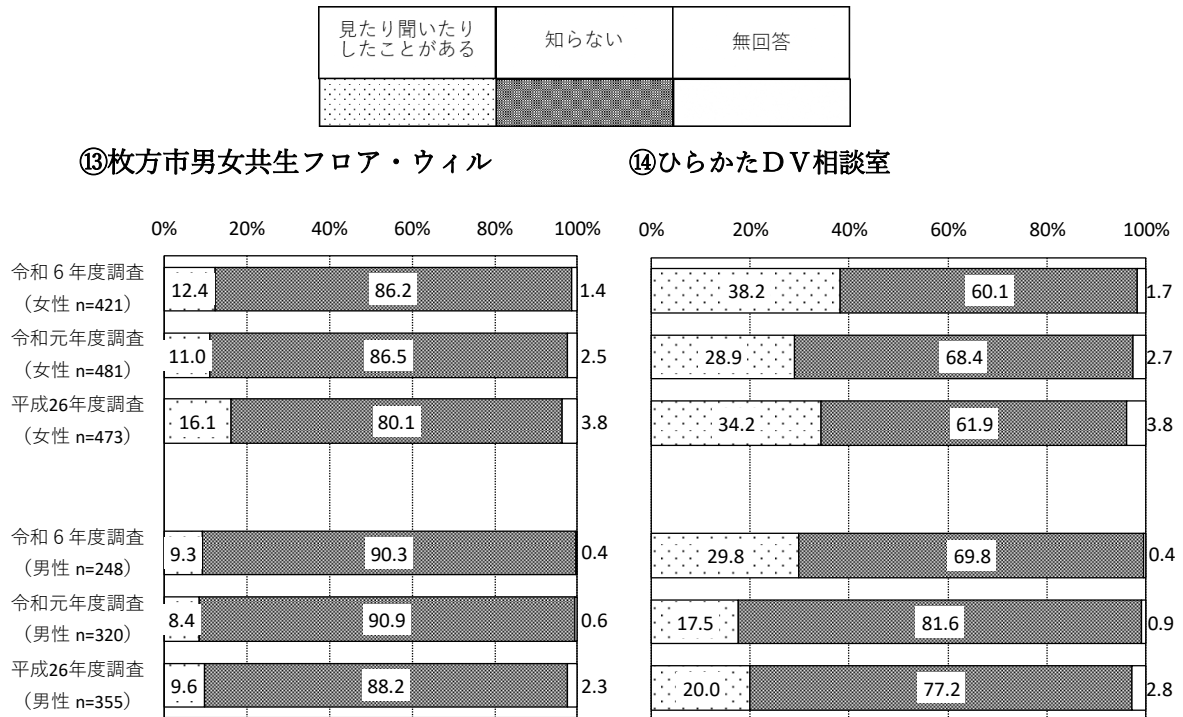
図表Ⅲ-1-2-45 ⑪ワーク・ライフ・バランス ⑫枚方市男女共同参画推進条例【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-46 ⑪ワーク・ライフ・バランス ⑫枚方市男女共同参画推進条例【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-2-47 ⑬枚方市男女共生フロア・ウィル ⑭ひらかたDV相談室【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-48 ⑬枚方市男女共生フロア・ウィル ⑭ひらかたDV相談室【性別・年代別】

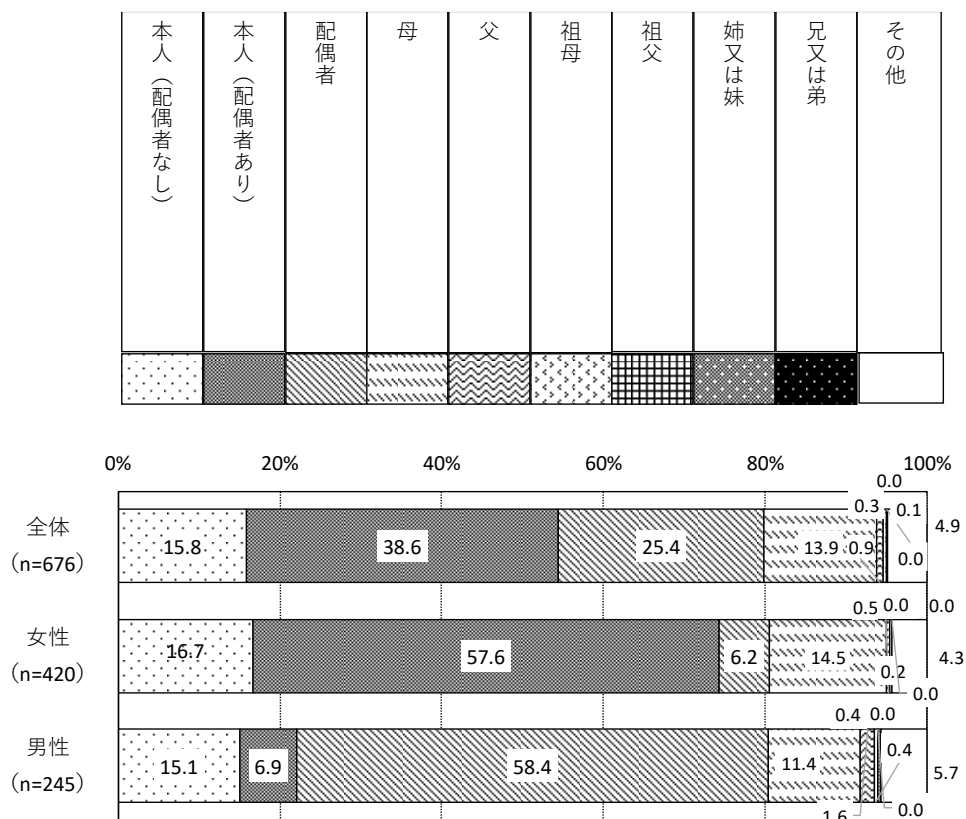


(3)家庭生活(子育て・介護)について

①家庭生活の分担について

問5 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）

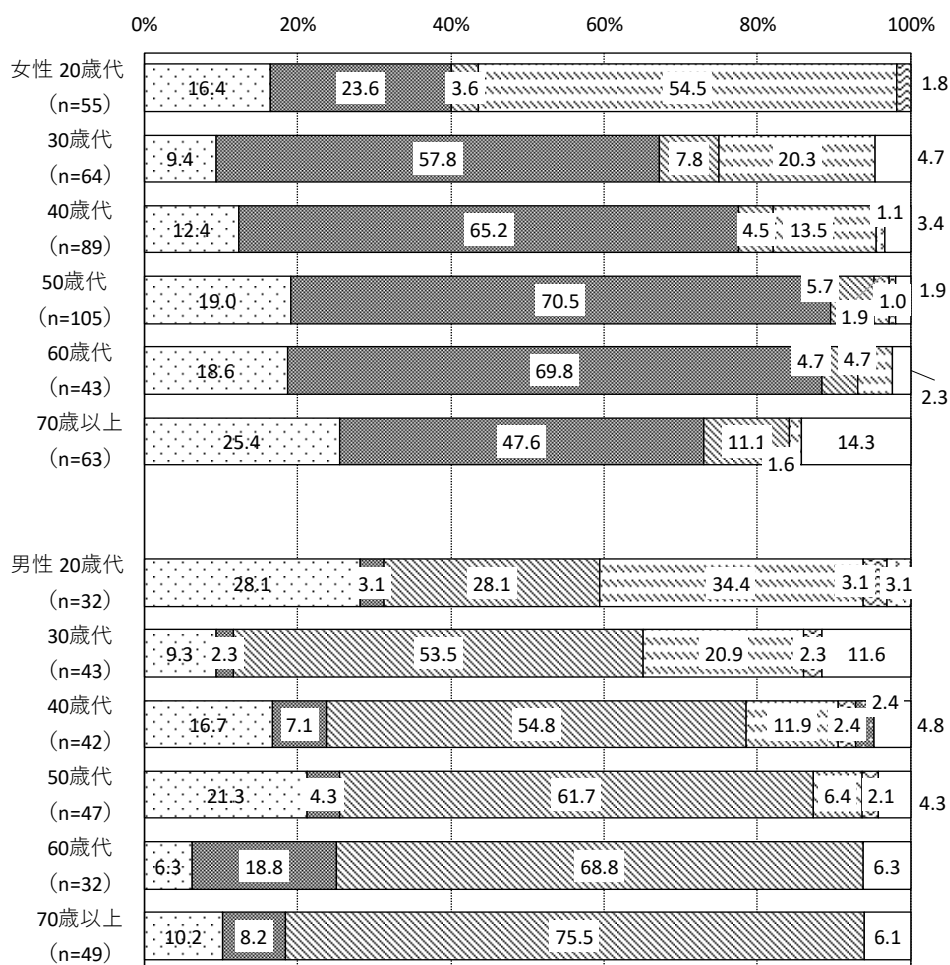
図表Ⅲ-1-3-1 家庭生活の分担について



【家庭生活の分担をしているのは女性は「本人（配偶者あり）」が、男性は「配偶者」がともに6割近く】

家庭での仕事を分担しているのは女性では「本人（配偶者あり）」で57.6%、男性では「配偶者」で58.4%でした。次いで「本人（配偶者なし）」で15.1%でした。

図表Ⅲ-1-3-2 家庭生活の分担について【性別・年代別】

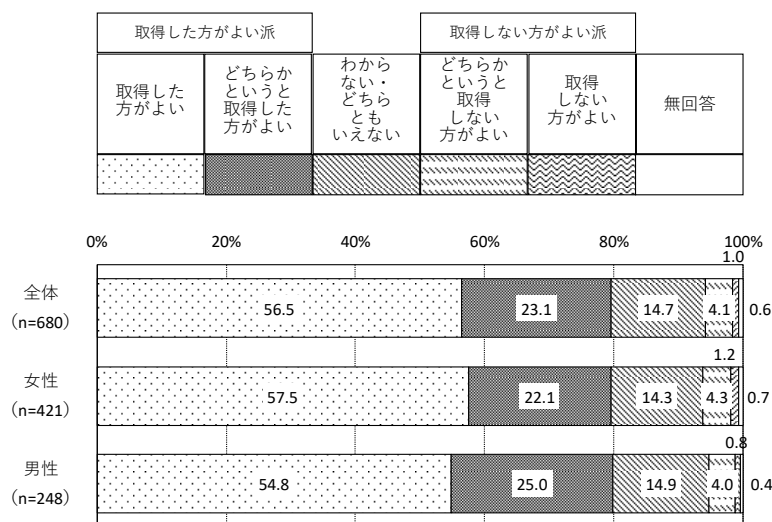


(回答のなかった項目の"0.0%"のラベルは省略しています)

②男性の育児休業取得をどう思うか

問6 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

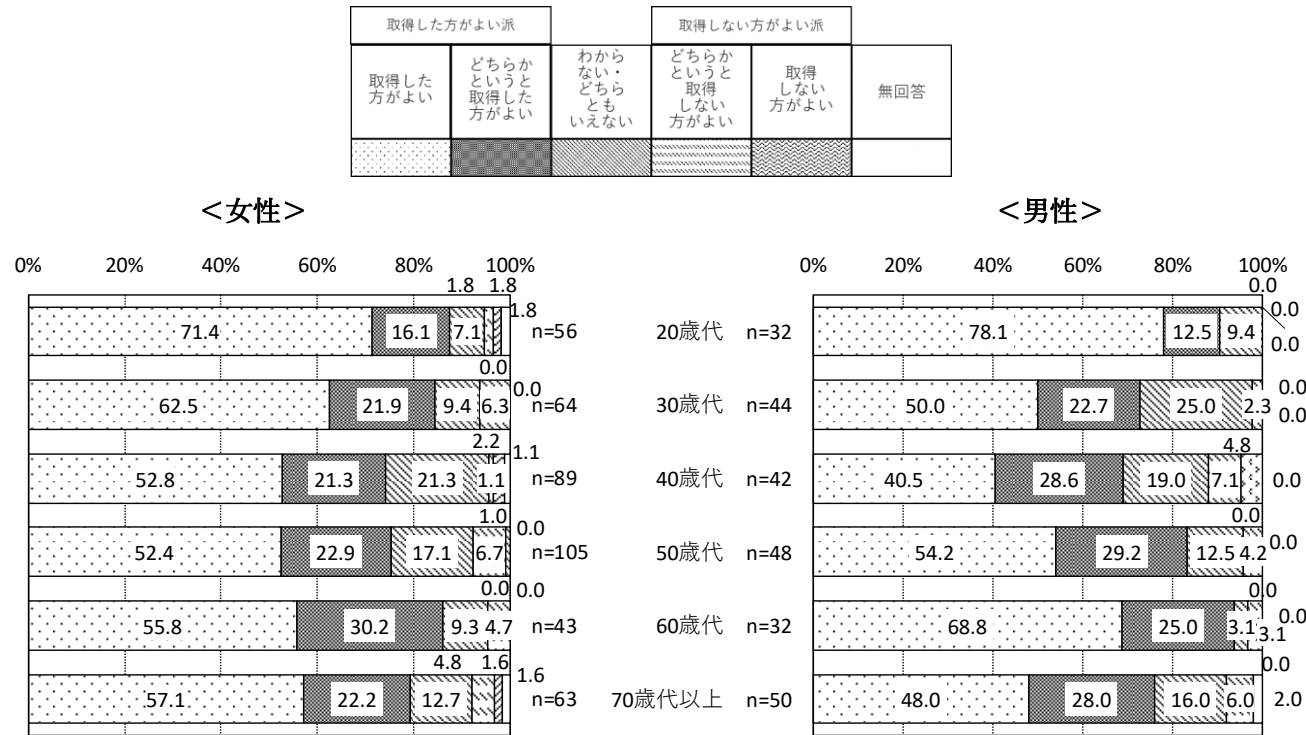
図表Ⅲ-1-3-3 男性の育児休業取得をどう思うか



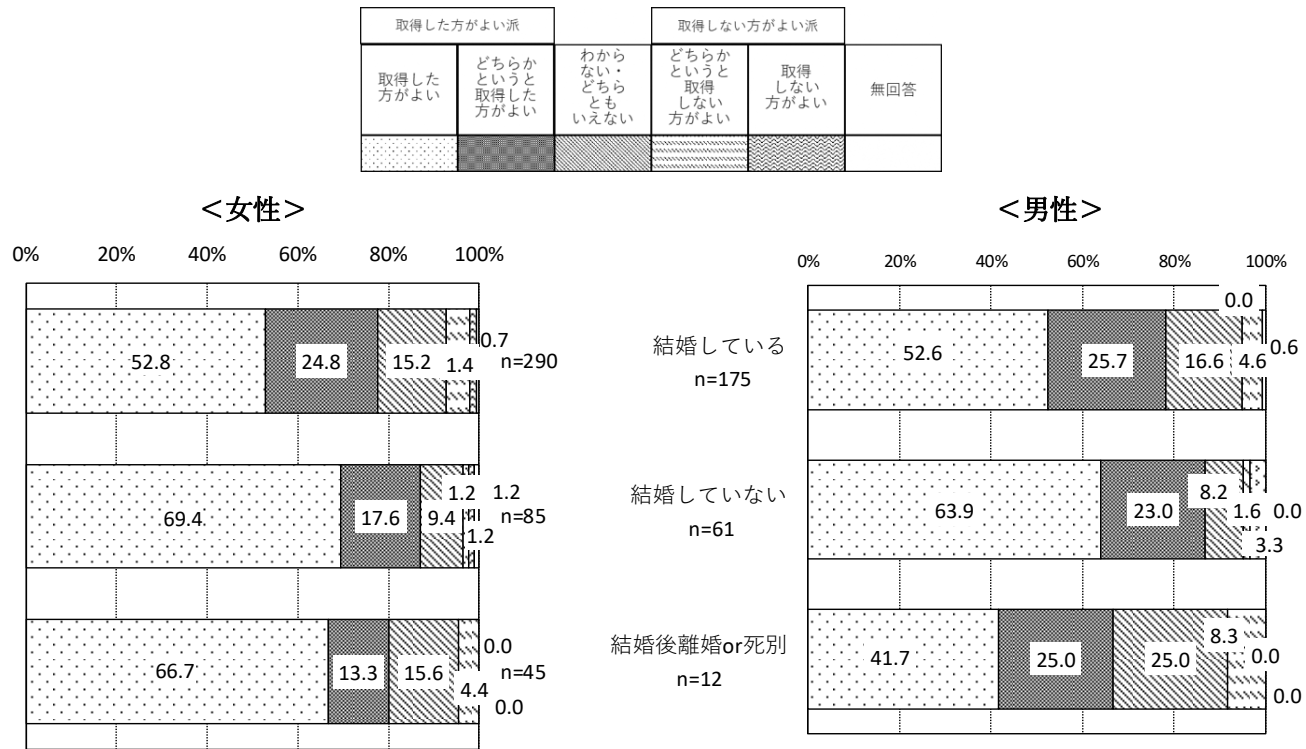
【男性の育児休業取得は「取得したほうがよい派」が男女とも8割近く】

男性の育児休業取得について、『取得したほうがよい派（『取得したほうがよい』と『どちらかという取得したほうがよい』の合計）』は女性79.6%、男性79.8%と、男女で大きな差は見られません。

図表Ⅲ-1-3-4 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-3-5 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・配偶者有無別】

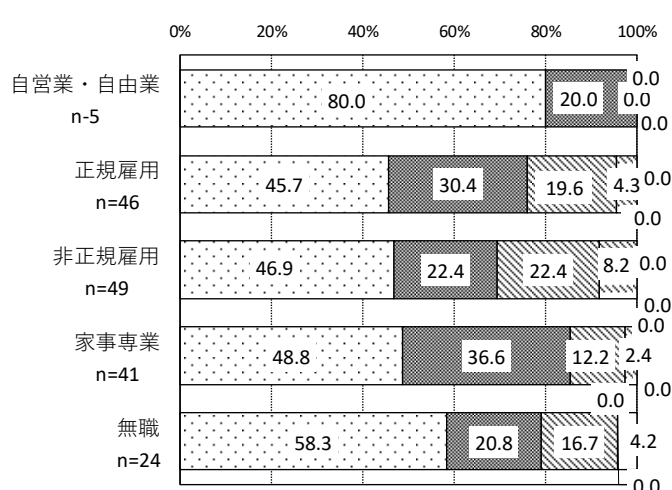
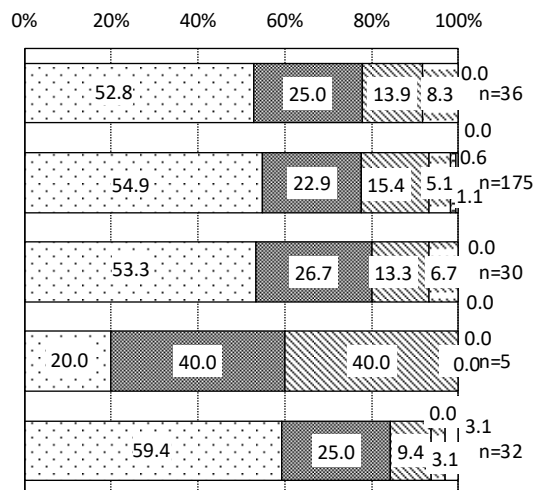


図表Ⅲ-1-3-6 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・配偶者職業別】

取得した方がよい派			取得しない方がよい派		
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	無回答

<女性>

<男性>



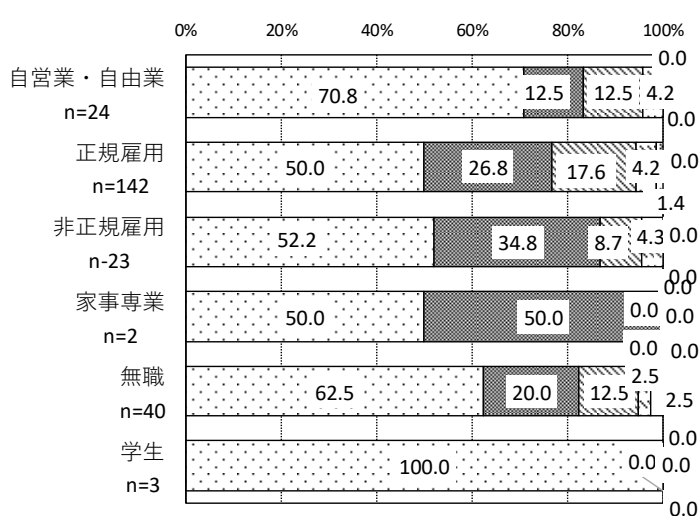
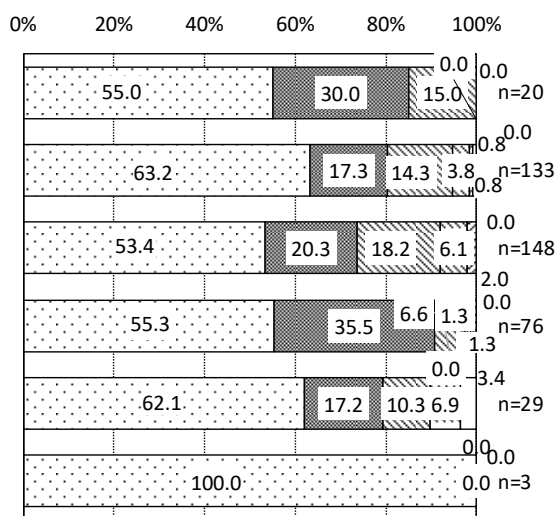
(男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした)

図表Ⅲ-1-3-7 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・自身職業別】

取得した方がよい派			取得しない方がよい派		
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	無回答

<女性>

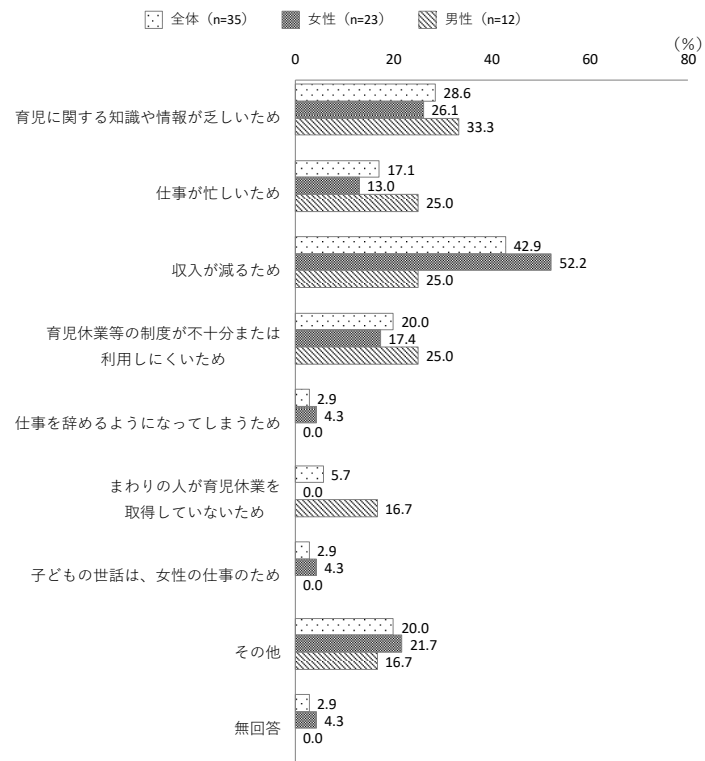
<男性>



③男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問 6－1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

図表Ⅲ-1-3-8 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由



【「男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由」は女性は「収入が減るから」が約5割、男性は「育児に関する知識や情報が乏しいため」が約3分の1】

男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については女性では「収入が減るため」(52.2%)、男性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」(33.3%)が、次いで女性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」(26.1%)、男性では「仕事が忙しいため」「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」「収入が減るため」がともに25.0%でした。

図表Ⅲ-1-3-9 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 （実数）	育児 に関する 知識や 情報が 乏しい ため	仕事 が忙し いため	収入 が減る ため	育児 休業等 の制度 が不十 分な ため	仕事 を辞め るよう になっ てしま うため	まわりの 人が育 児休業 を取得 してい ないた め	子ど もの世 話は、 女性 の仕 事	そ の 他	無 回 答
全体		35	28.6	17.1	42.9	20.0	2.9	5.7	2.9	20.0	2.9
性別	女性	23	26.1	13.0	52.2	17.4	4.3	0.0	4.3	21.7	4.3
	男性	12	33.3	25.0	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
性別・ 年代別	女性 20歳代	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	4	25.0	0.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	女性 50歳代	8	25.0	0.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0
	女性 60歳代	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	女性 70歳以上	4	25.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	男性 50歳代	2	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	男性 60歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 育児休業を取れる男性はその会社に必要なの？と思う
- 父が休んでいても母も休みならば負担は母にるので、だったら稼いでもらう方がよい。
- 夫の世話という仕事が増えるため
- 周りの方の負担が大きい
- 話を聞く限り男性の育休取得はかえって女性の負担になっているケースがあるため。

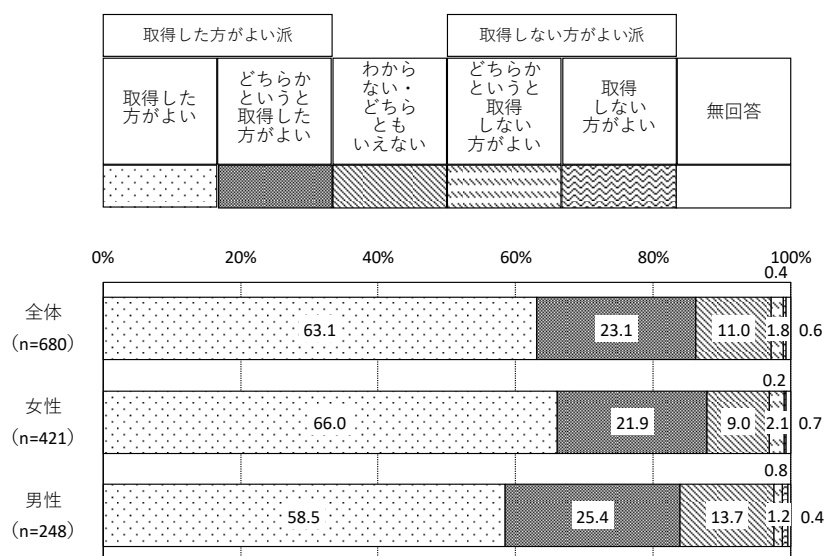
<男性>の意見

- 男性が家にいても出来ることは少なく、かえって女性の負担が増えるため
- 中小企業にとって、従業員の長期離脱は死活問題であり、現実的ではない

④男性の介護休業取得をどう思うか

問7 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

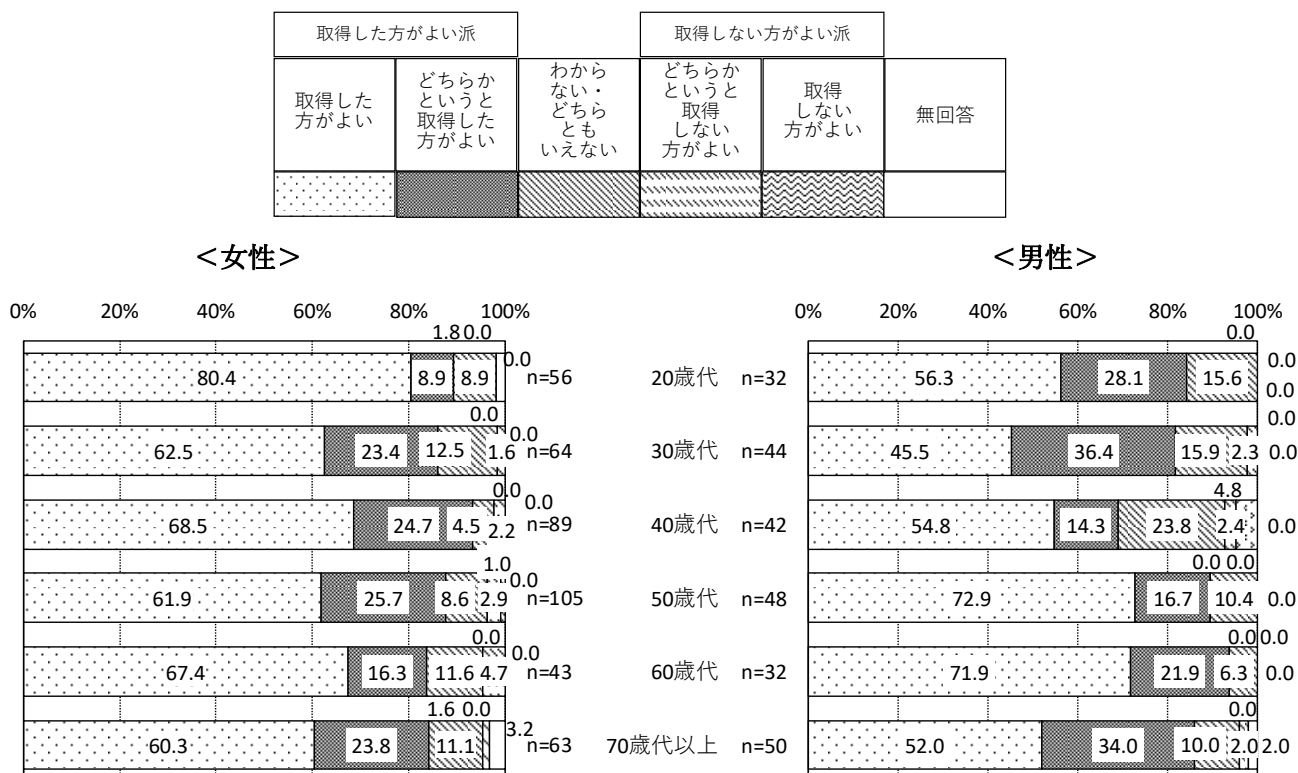
図表Ⅲ-1-3-10 男性の介護休業取得をどう思うか



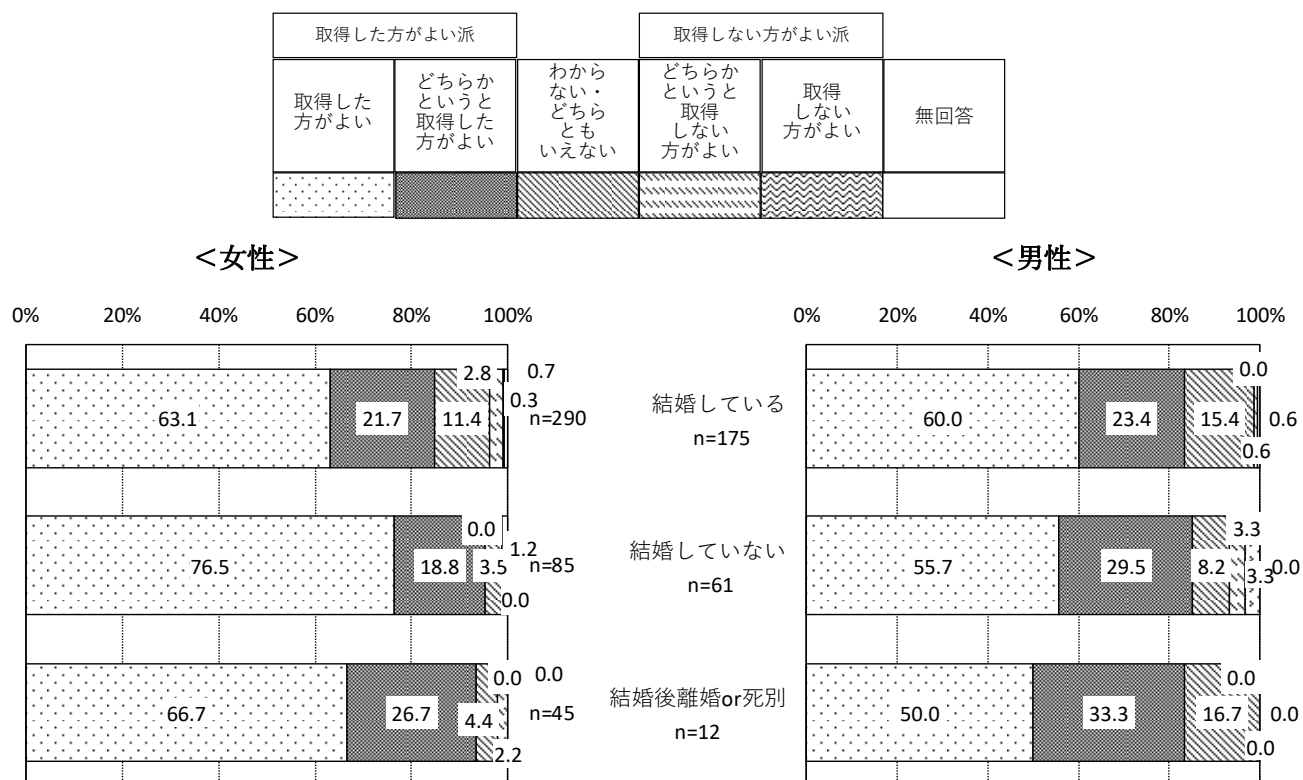
【男性の介護休業取得は「取得したほうがよい派」が男女とも8割以上】

男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性87.9%、男性83.9%と、男女で大きな差は見られません。

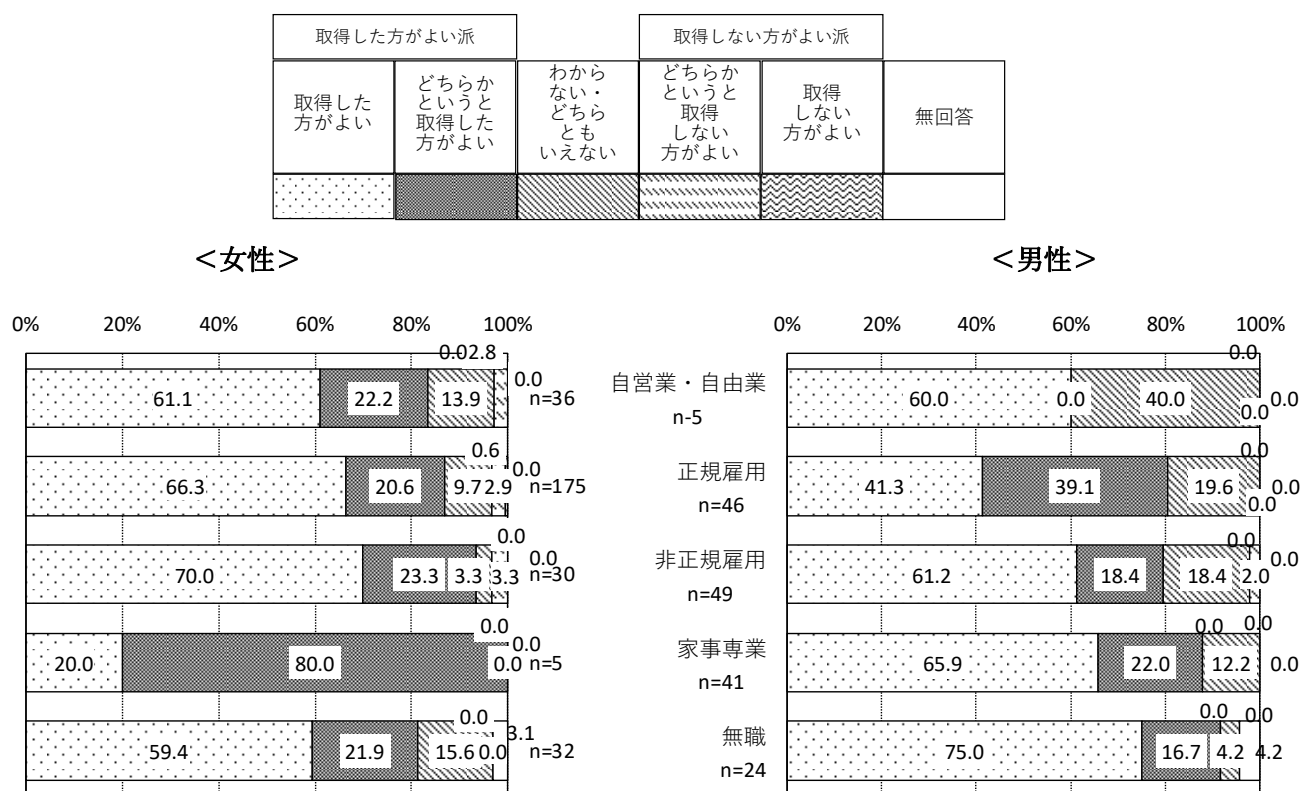
図表Ⅲ-1-3-11 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-3-12 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・配偶者有無別】



図表Ⅲ-1-3-13 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・配偶者職業別】

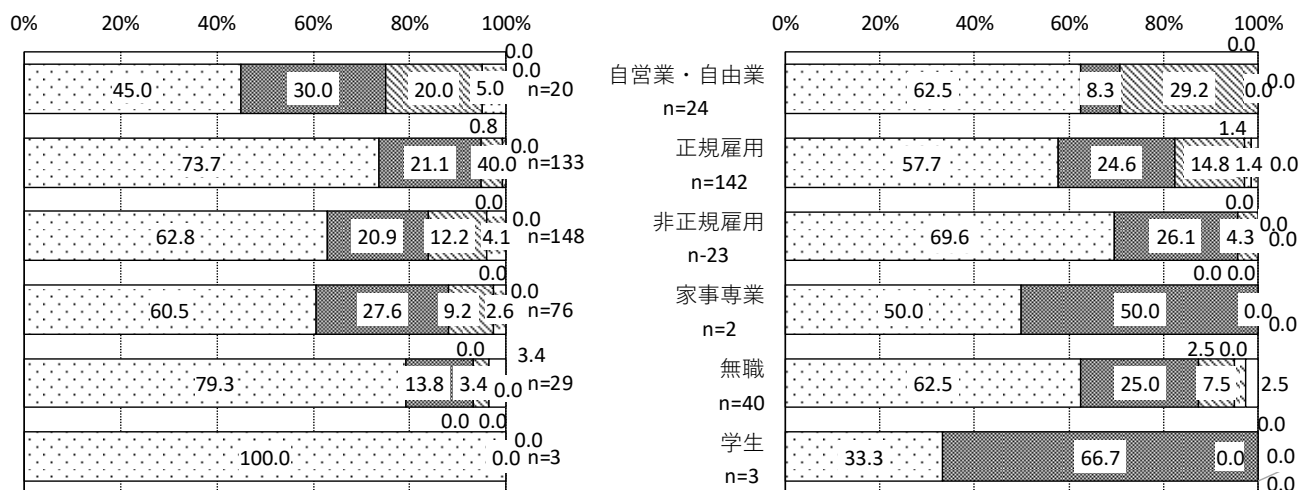


図表Ⅲ-1-3-14 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・自身職業別】

取得した方がよい派			取得しない方がよい派		
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	無回答

<女性>

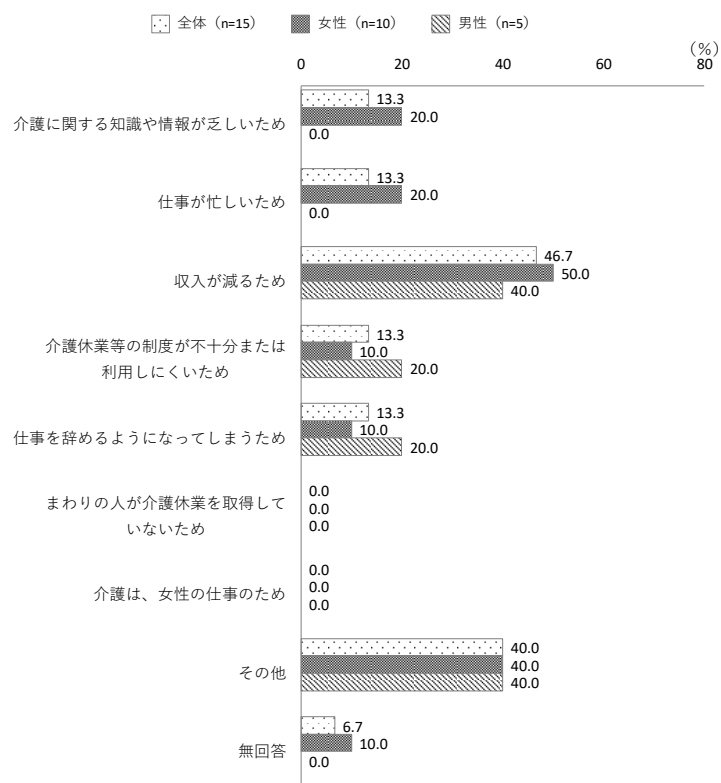
<男性>



⑤男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問7-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

図表Ⅲ-1-3-15 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由



【男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は男女とも「収入が減るため」が最多で4割以上】

男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性 50.0%、男性 40.0%で最も高くなっています。

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 収入の主力が男性の場合は介護で体や心をこわして、次働けなくなったら家族が生活出来ないため
- 社会との隔離
- 周りの方の負担が大きい
- 男性に限らないが、マルチに動ける働き手が介護に回るのは避けたい。介護従事者をどうにか増やして適材適所のような形にするのが望ましい。身内に寄り添い介護したい気持ちは当然なので、それが実現できるようにしっかり休日等が与えられる社会になってほしい。

<男性>の意見

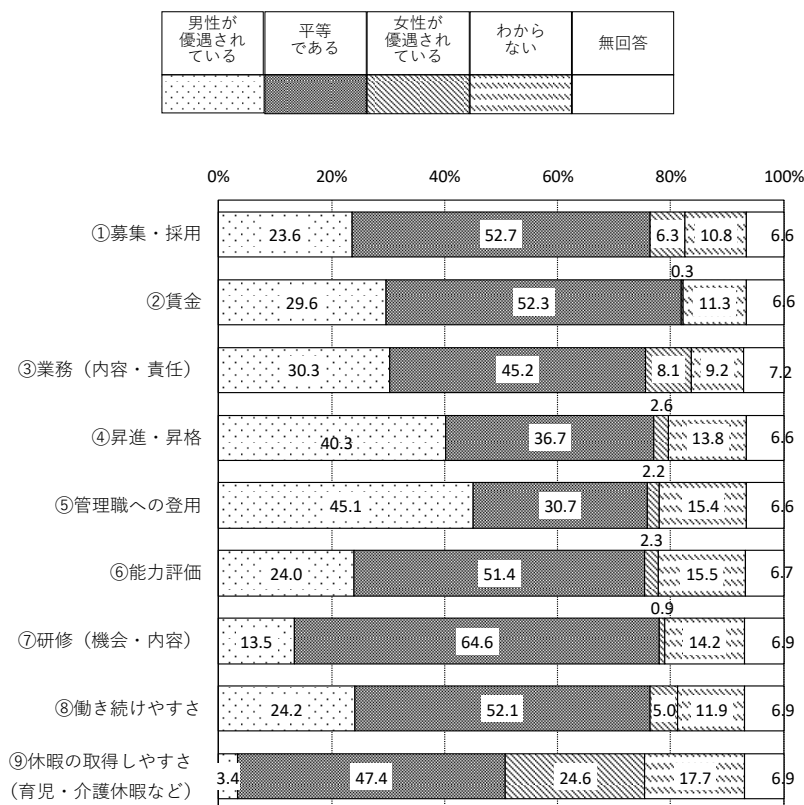
- 介護に関する知識が乏しく収入が減るため
- 中小企業にとって、従業員の長期離脱は死活問題であり、現実的ではない

(4)職業生活について

①職場の男女差別

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の（１）～（９）について、性別によって差がある（あった）と思いますか。（○は各項目に１つ）

図表Ⅲ-1-4-1 職場の男女差別



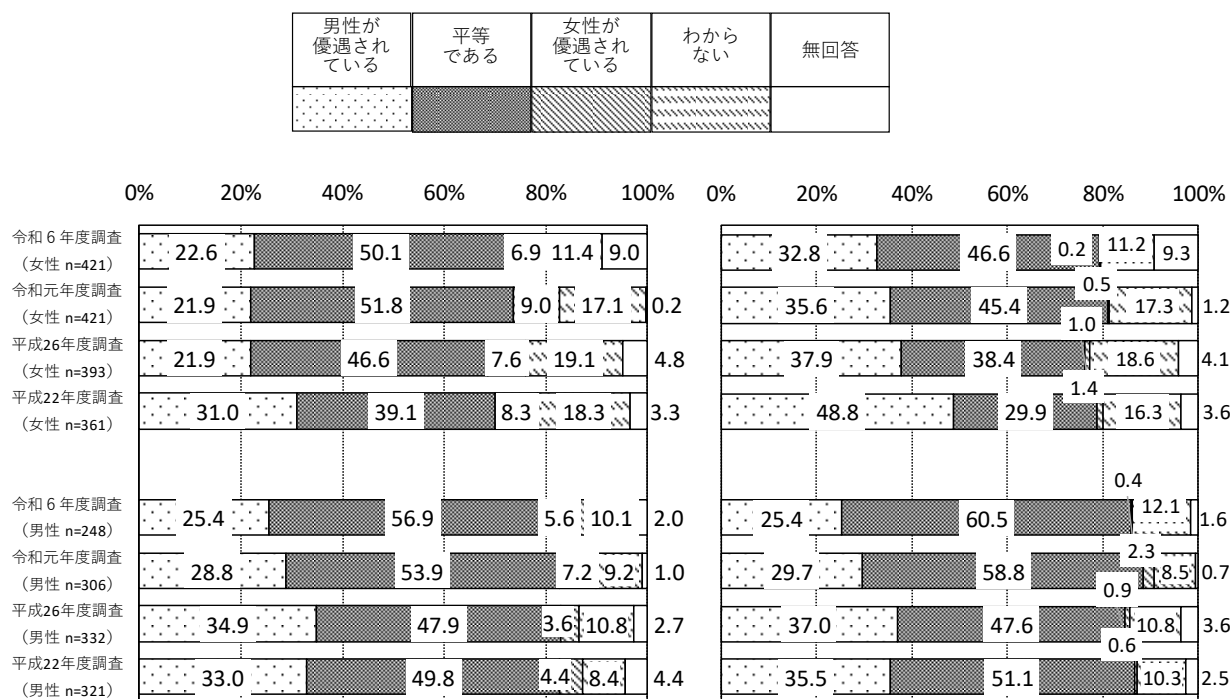
【職場の男女差別で「平等である」が多いのは「研修」で 64.6%、「男性が優遇」は「管理職への登用」が 45.1%、女性が優遇は「休暇の取得しやすさ」で 24.6%】

職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」（女性優遇 2.2%、男性優遇 45.1%）、「昇進昇格」（女性優遇 2.6%、男性優遇 40.3%）となっています。『平等である』は「研修（機会・内容）」（64.6%）、「募集・採用」（52.7%）で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」（女性優遇 24.6%、男性優遇 3.4%）では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています。

図表Ⅲ-1-4-2 ①募集・採用／②賃金【過去調査との比較】

①募集・採用

②賃金

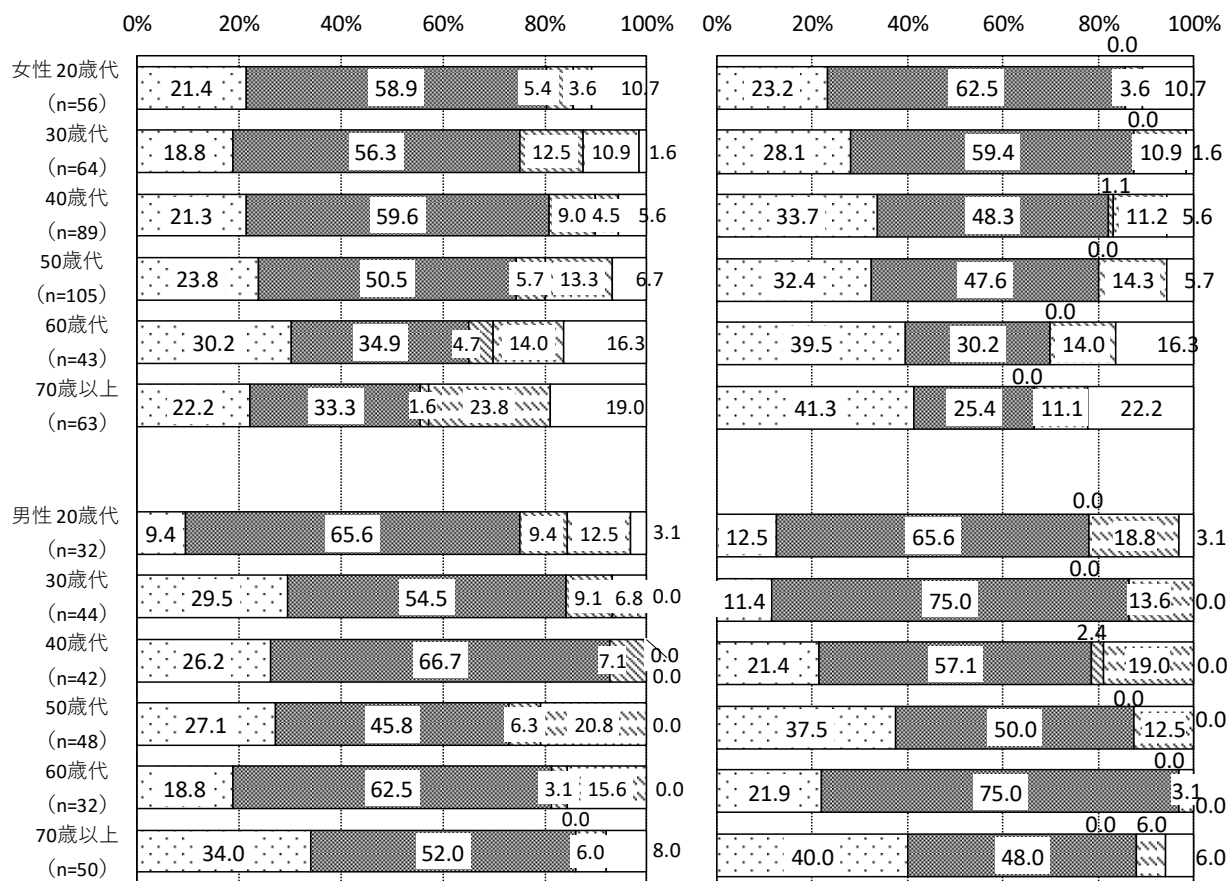


図表Ⅲ-1-4-3 ①募集・採用／②賃金【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

①募集・採用

②賃金

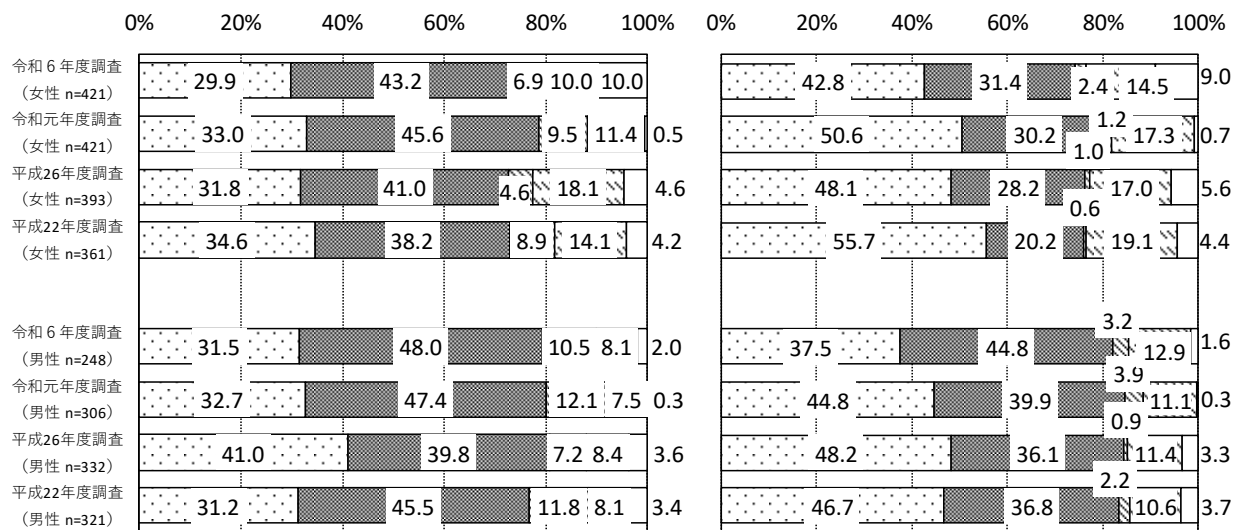


図表Ⅲ-1-4-4 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

③業務（内容・責任）

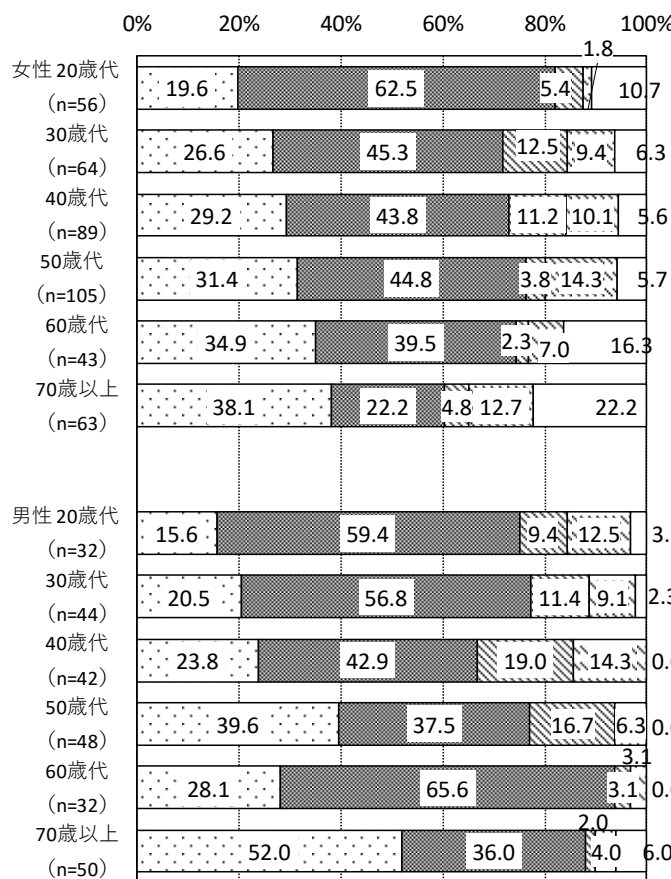
④昇進・昇格



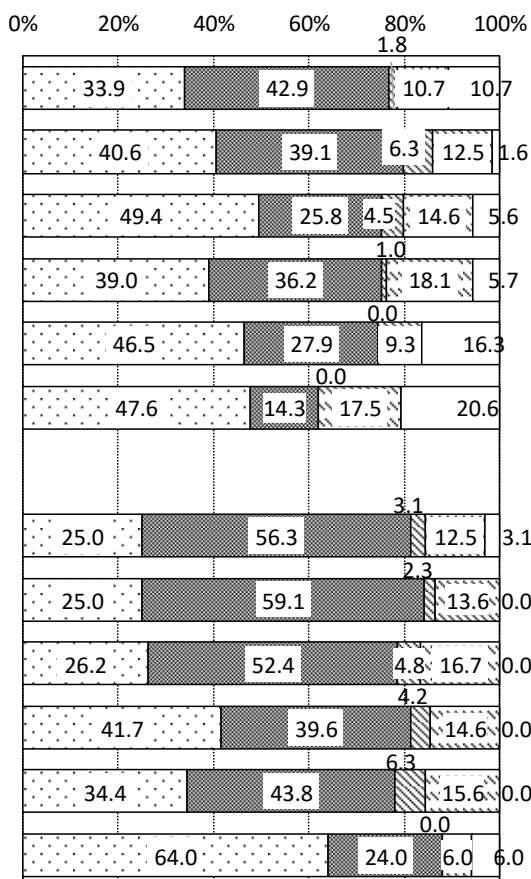
図表Ⅲ-1-4-5 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

③業務（内容・責任）



④昇進・昇格

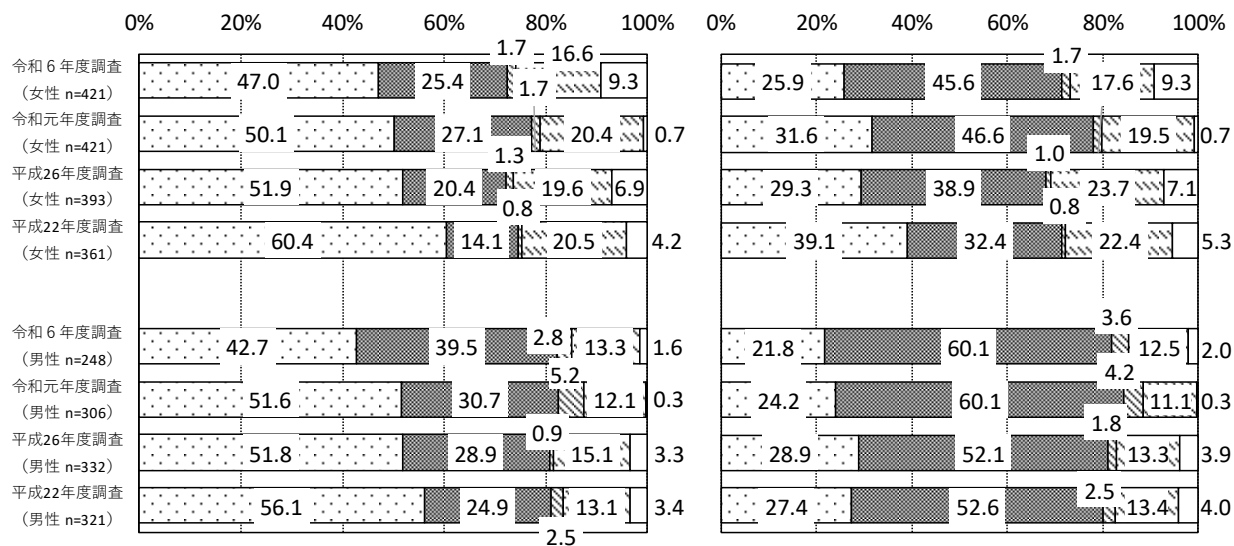


図表Ⅲ-1-4-6 ⑤管理職への登用／⑥能力評価【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑤管理職への登用

⑥能力評価



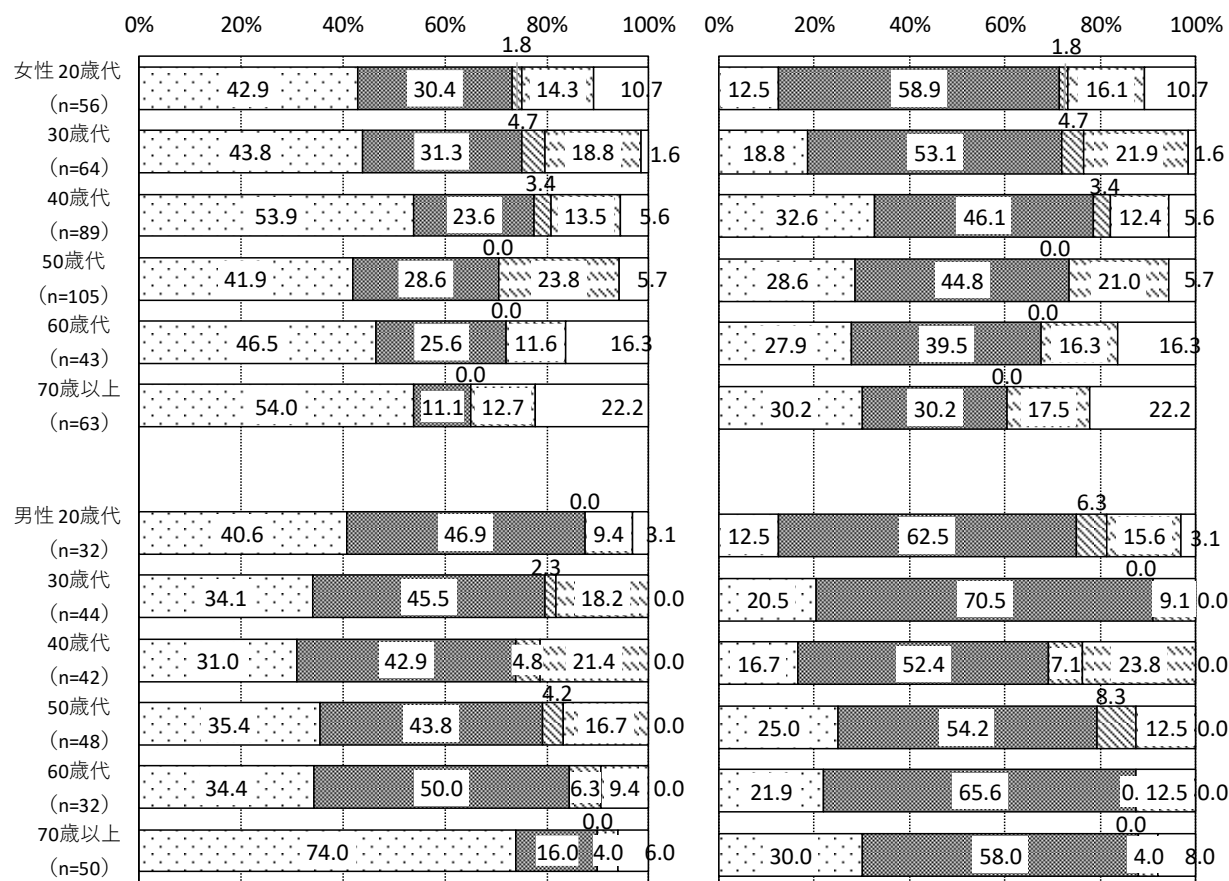
図表Ⅲ-1-4-7 ⑤管理職への登用

⑥能力評価【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑤管理職への登用

⑥能力評価



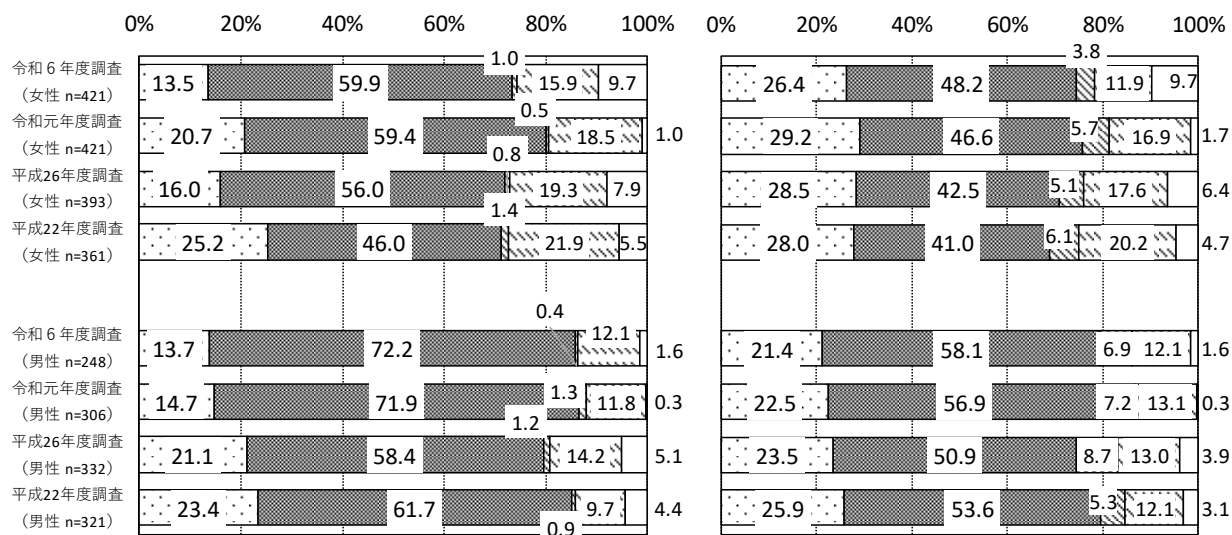
図表Ⅲ-1-4-8 ⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ



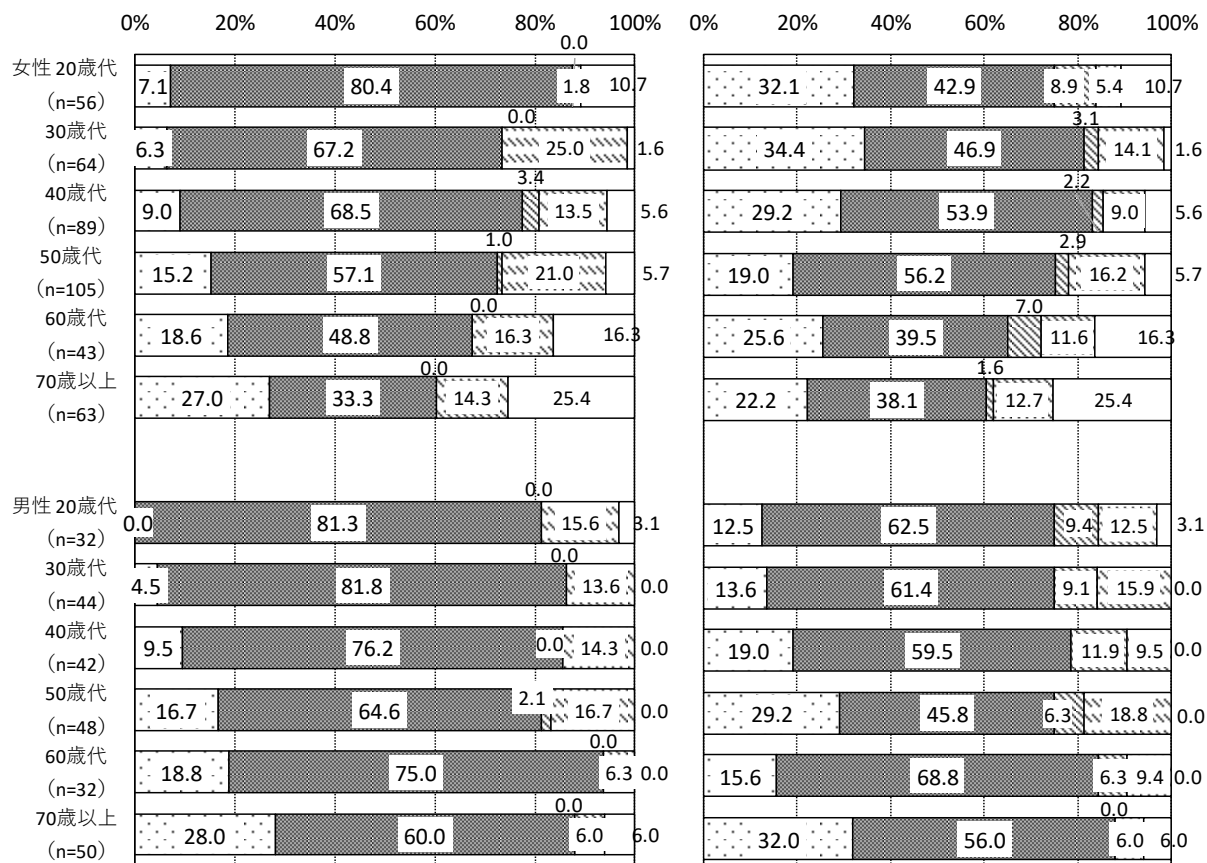
図表Ⅲ-1-4-9 ⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ【性別・年代別】

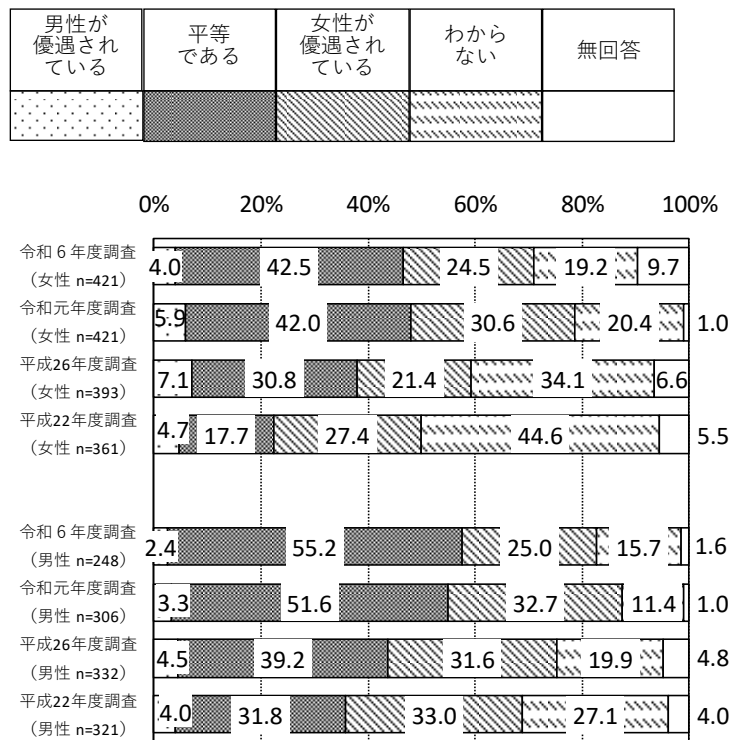
男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑦研修（機会・内容）

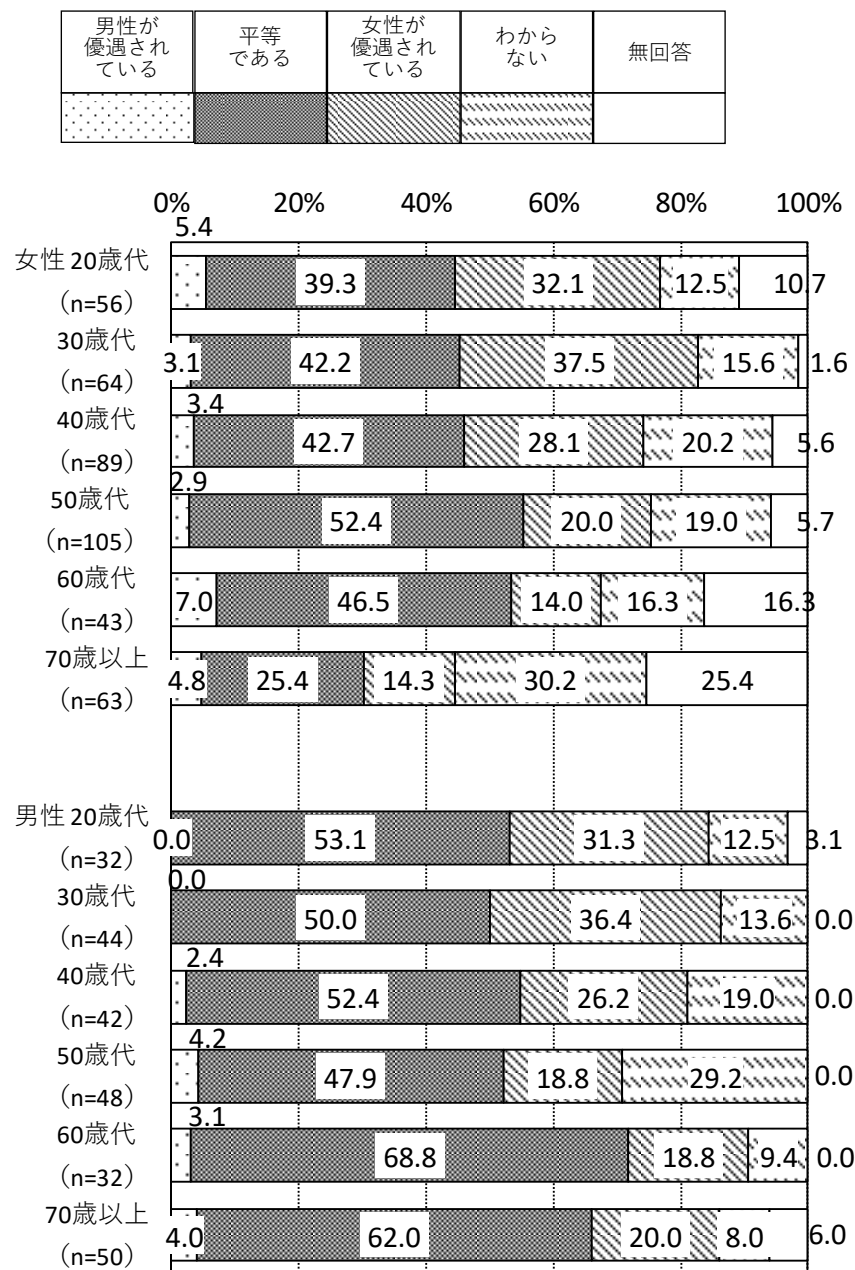
⑧働き続けやすさ



図表Ⅲ-1-4-10 ⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-4-11 ⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）【性別・年代別】

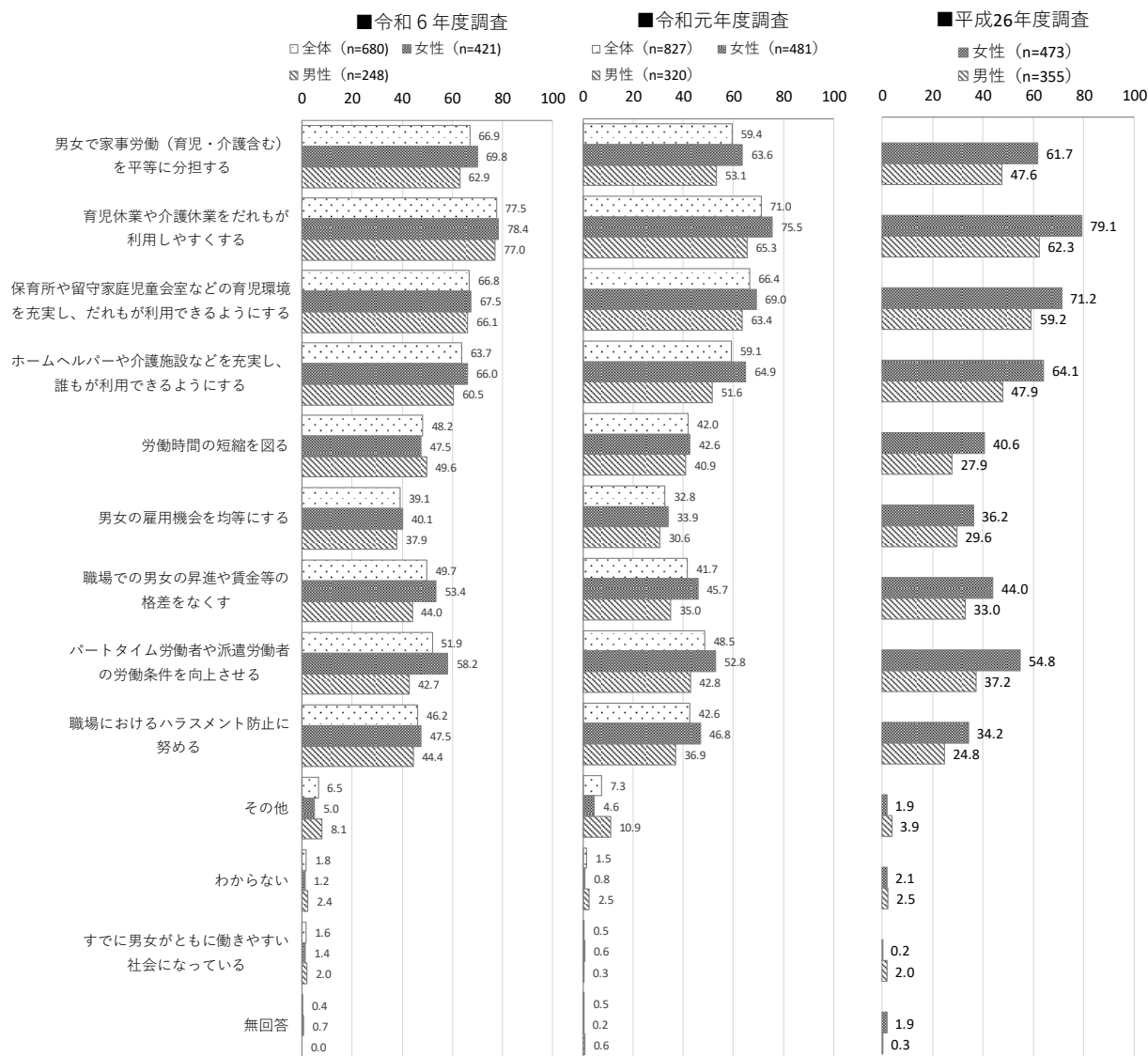


②男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問9 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-4-12 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

【過去調査との比較】



【男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことは「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が最多で8割近く】

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が77.5%で最も高く、次いで「男女で家事労働（育児・介護含む）を平等に分担する」が66.9%、「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.8%と続いており、男女別でみると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」（女性78.4%、男性77.0%）の割合が最も高くなっています。

【過去調査との比較】

例年と傾向の大きな違いは見られません。

図表Ⅲ-1-4-13 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	男女で家事労働（育児・介護を含む）を平等に分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすいとする	保育所や留守家庭児童会など、の育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする	ホームヘルパーや介護施設などを充実し、誰もが利用できるようにする	労働時間の短縮を図る	男女の雇用機会を均等にする	職場での男女の昇進や賃金等の格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場におけるハラスメント防止に努める	その他
全体		680	66.9	77.5	66.8	63.7	48.2	39.1	49.7	51.9	46.2	6.5
性別	女性	421	69.8	78.4	67.5	66.0	47.5	40.1	53.4	58.2	47.5	5.0
	男性	248	62.9	77.0	66.1	60.5	49.6	37.9	44.0	42.7	44.4	8.1
性別・年代別	女性 20歳代	56	75.0	75.0	55.4	41.1	55.4	39.3	57.1	50.0	51.8	3.6
	女性 30歳代	64	75.0	81.3	67.2	54.7	68.8	31.3	46.9	43.8	43.8	6.3
	女性 40歳代	89	69.7	71.9	65.2	65.2	43.8	39.3	49.4	57.3	47.2	7.9
	女性 50歳代	105	66.7	76.2	64.8	74.3	47.6	41.9	52.4	61.0	52.4	5.7
	女性 60歳代	43	67.4	95.3	79.1	88.4	30.2	58.1	60.5	65.1	51.2	2.3
	女性 70歳以上	63	68.3	79.4	77.8	71.4	34.9	34.9	58.7	71.4	38.1	1.6
	男性 20歳代	32	59.4	78.1	56.3	46.9	68.8	34.4	0.0	31.3	40.6	6.3
	男性 30歳代	44	50.0	72.7	68.2	52.3	40.9	29.5	0.0	45.5	40.9	11.4
	男性 40歳代	42	64.3	71.4	59.5	50.0	52.4	28.6	0.0	28.6	40.5	7.1
	男性 50歳代	48	66.7	70.8	60.4	70.8	62.5	41.7	0.0	43.8	58.3	8.3
	男性 60歳代	32	75.0	90.6	71.9	65.6	46.9	34.4	0.0	50.0	34.4	6.3
	男性 70歳以上	50	64.0	82.0	78.0	72.0	32.0	54.0	0.0	54.0	46.0	8.0

		合計（実数）	わからない	すでに男女がともに働きやすい社会になっている	無回答
全体		680	1.8	1.6	0.4
性別	女性	421	1.2	1.4	0.7
	男性	248	2.4	2.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	1.8	3.6	1.8
	女性 30歳代	64	1.6	0.0	0.0
	女性 40歳代	89	0.0	2.2	0.0
	女性 50歳代	105	1.9	1.0	0.0
	女性 60歳代	43	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	63	1.6	1.6	3.2
	男性 20歳代	32	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	44	4.5	0.0	0.0
	男性 40歳代	42	4.8	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	0.0	2.1	0.0
	男性 60歳代	32	0.0	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	4.0	6.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

図表Ⅲ-1-4-14 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと【性別・自身職業別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	男女で家事労働（育児・介護）を平等に分担する	育児休業や介護休業をだれもが利用しやすいとする	保育所や留守家庭児童会など、子どもが利用できる環境を充実させる	ホームヘルパーや介護施設などを充実し、誰もが利用できるようにする	労働時間の短縮を図る	男女の雇用機会を均等にする	職場での男女の昇進や賃金等の格差をなくす	パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる	職場に努めるハラスメント防止	その他
全体		680	66.9	77.5	66.8	63.7	48.2	39.1	49.7	51.9	46.2	6.5
性別	女性	421	69.8	78.4	67.5	66.0	47.5	40.1	53.4	58.2	47.5	5.0
	男性	248	62.9	77.0	66.1	60.5	49.6	37.9	44.0	42.7	44.4	8.1
性別・自身職業別	女性：自営業・自由業	20	50.0	90.0	65.0	70.0	15.0	25.0	30.0	45.0	20.0	15.0
	女性：正規雇用で働いている	133	74.4	72.9	60.9	52.6	57.1	39.1	53.4	33.8	49.6	5.3
	女性：非正規雇用で働いている	148	68.9	76.4	64.9	69.6	44.6	39.9	47.3	73.6	45.3	4.1
	女性：家事専業	76	69.7	86.8	80.3	78.9	48.7	44.7	63.2	68.4	53.9	5.3
	女性：無職	29	69.0	86.2	75.9	75.9	48.3	44.8	72.4	72.4	62.1	0.0
	女性：学生	3	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0
	男性：自営業・自由業	24	66.7	70.8	66.7	70.8	29.2	41.7	0.0	33.3	50.0	12.5
	男性：正規雇用で働いている	142	61.3	72.5	61.3	52.1	55.6	31.7	0.0	36.6	39.4	7.0
	男性：非正規雇用で働いている	23	56.5	82.6	65.2	60.9	43.5	47.8	0.0	52.2	65.2	21.7
	男性：家事専業	2	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	男性：無職	40	67.5	92.5	77.5	77.5	45.0	52.5	0.0	60.0	47.5	5.0
	男性：学生	3	66.7	100.0	66.7	100.0	66.7	66.7	0.0	66.7	66.7	0.0

		合計（実数）	わからない	すでに男女がともに働きやすい社会になっている	無回答
全体		680	1.8	1.6	0.4
性別	女性	421	1.2	1.4	0.7
	男性	248	2.4	2.0	0.0
性別・自身職業別	女性：自営業・自由業	20	0.0	0.0	0.0
	女性：正規雇用で働いている	133	1.5	1.5	0.0
	女性：非正規雇用で働いている	148	1.4	2.7	0.0
	女性：家事専業	76	1.3	0.0	1.3
	女性：無職	29	0.0	0.0	3.4
	女性：学生	3	0.0	0.0	0.0
	男性：自営業・自由業	24	4.2	4.2	0.0
	男性：正規雇用で働いている	142	1.4	0.7	0.0
	男性：非正規雇用で働いている	23	0.0	0.0	0.0
	男性：家事専業	2	0.0	0.0	0.0
	男性：無職	40	7.5	7.5	0.0
	男性：学生	3	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 職場におけるパワハラを相談しやすい窓口が有ればと思います。
- 103 万の壁を無くす。保険料は会社が負担する
- 体の作りも違うし、男性は子を産めない。力に差があるので平等ではない。全ての事に平等を求めない。

<男性>の意見

- 女性がリーダーを目指す意識改革（男女ともだが特に女性）
- 保育所を入所したい時に入所しやすくする（4 月一斉入所以外で）
- 男だから女だからという考えそのものが差別
- 女性か男性が出産や育児で会社に戻りやすくするための保証などを充実すること

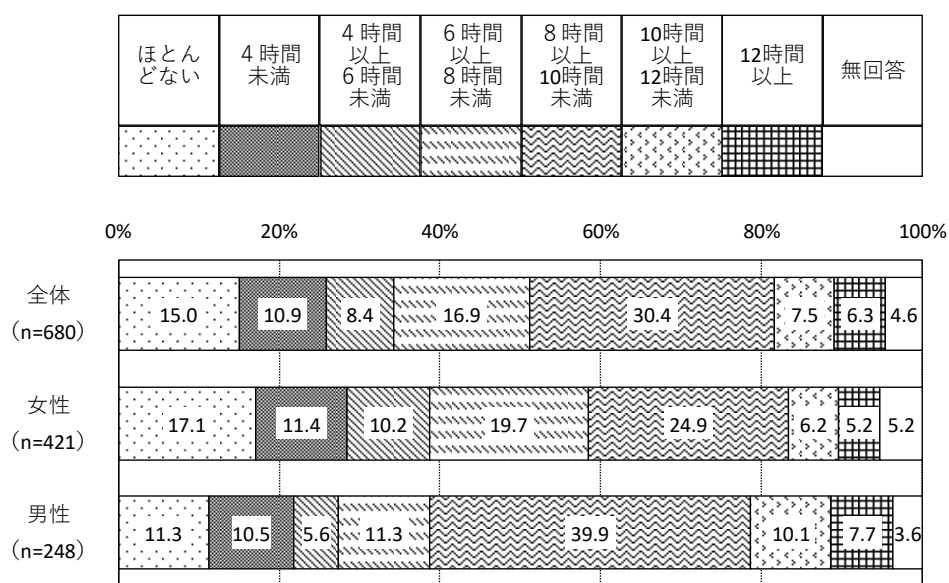
(5)仕事と家庭などの関わりについて

①仕事と家事に費やす時間

問 10 あなたが 1 日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。（○は 1 つずつ）

仕事 （ア）平日

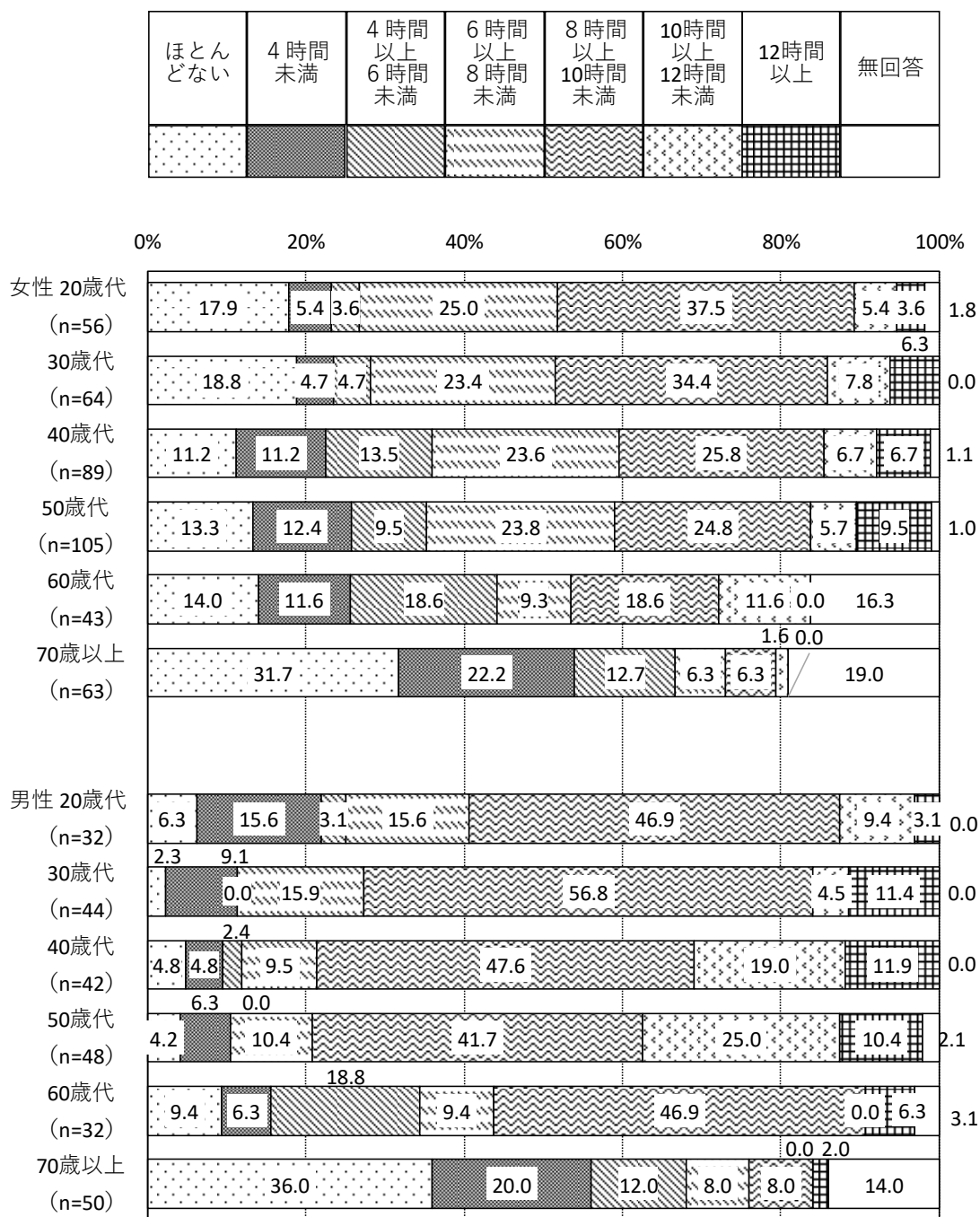
図表Ⅲ-1-5-1 仕事に費やす時間【平日】



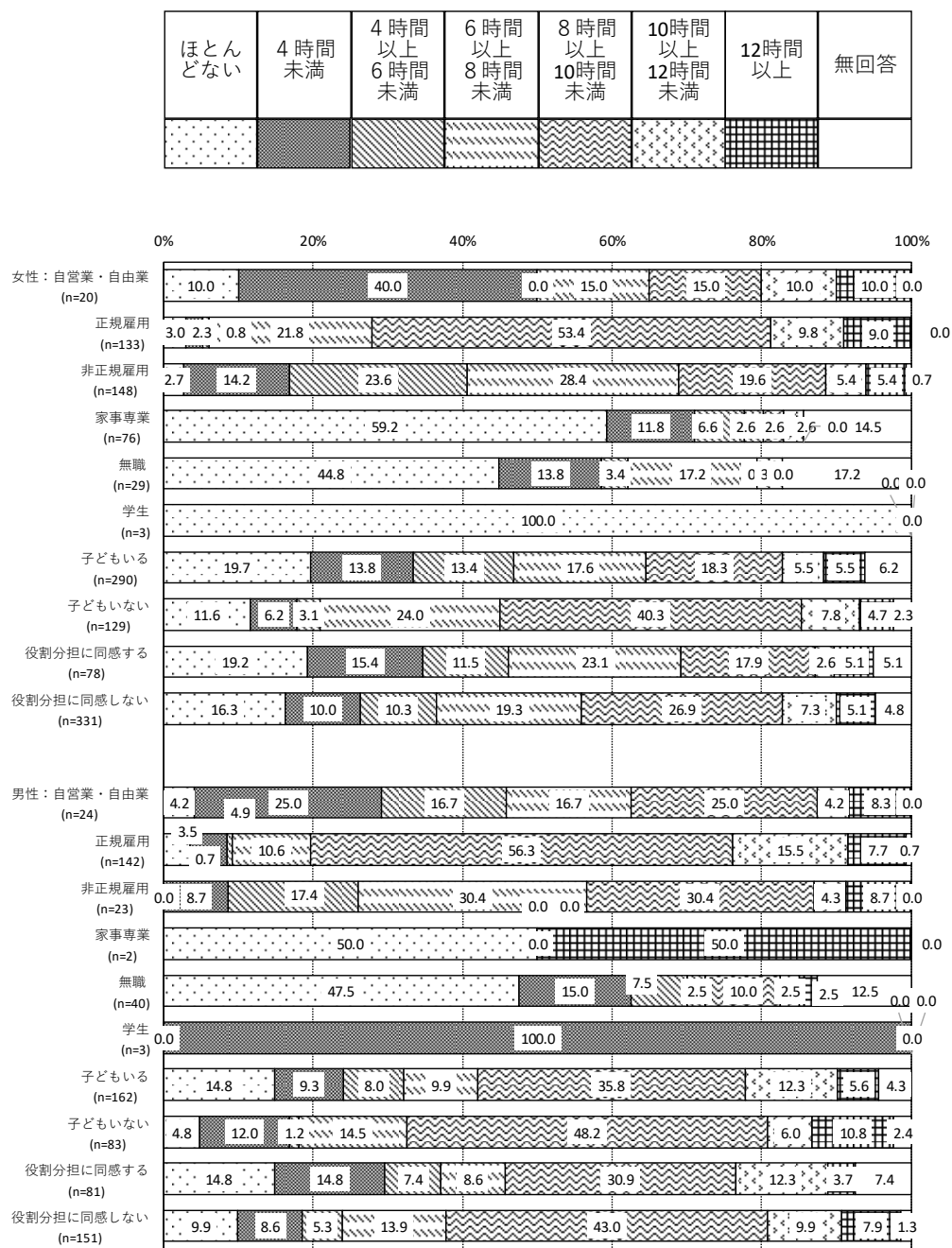
【平日に仕事に費やす時間は「8 時間以上」が女性 36.3%、男性 57.7%で最多】

仕事に費やす時間について、平日では「8 時間以上（10 時間以上 12 時間未満、12 時間以上含む）」が女性 36.3%、男性 57.7%となっており、女性・男性いずれも「8 時間以上 10 時間未満」の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-2 仕事に費やす時間【平日】【性別・年代別】



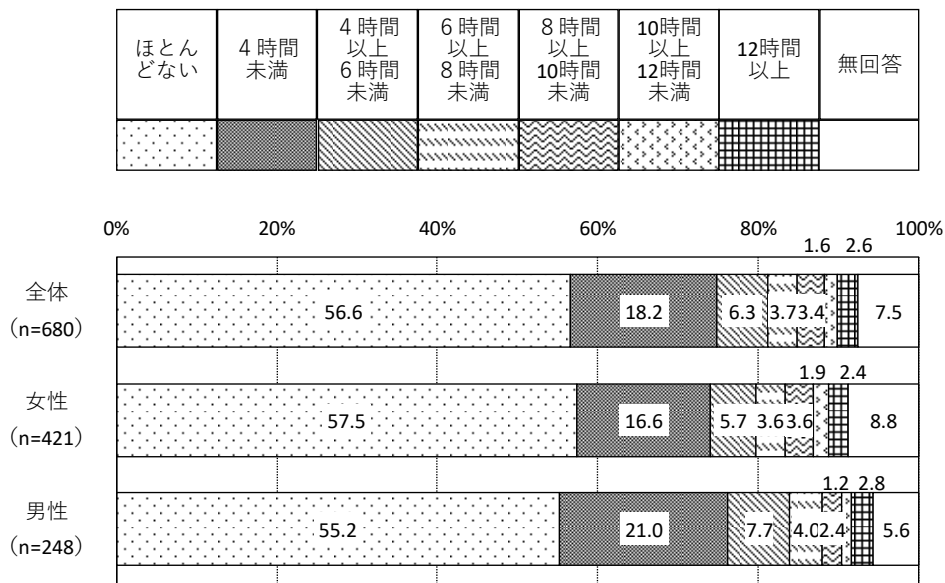
図表Ⅲ-1-5-3 仕事に費やす時間【平日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

仕事 (イ) 休日

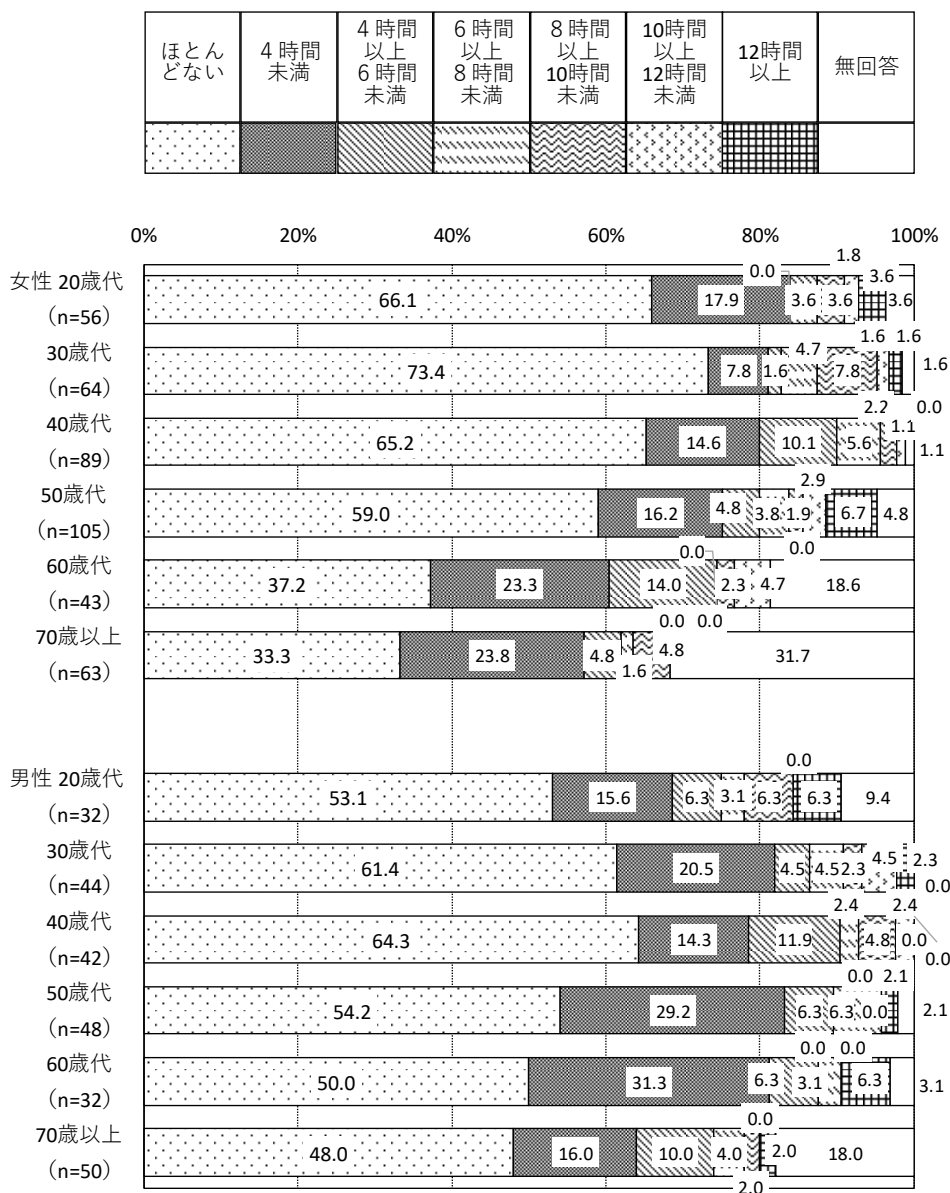
図表Ⅲ-1-5-4 仕事に費やす時間【休日】



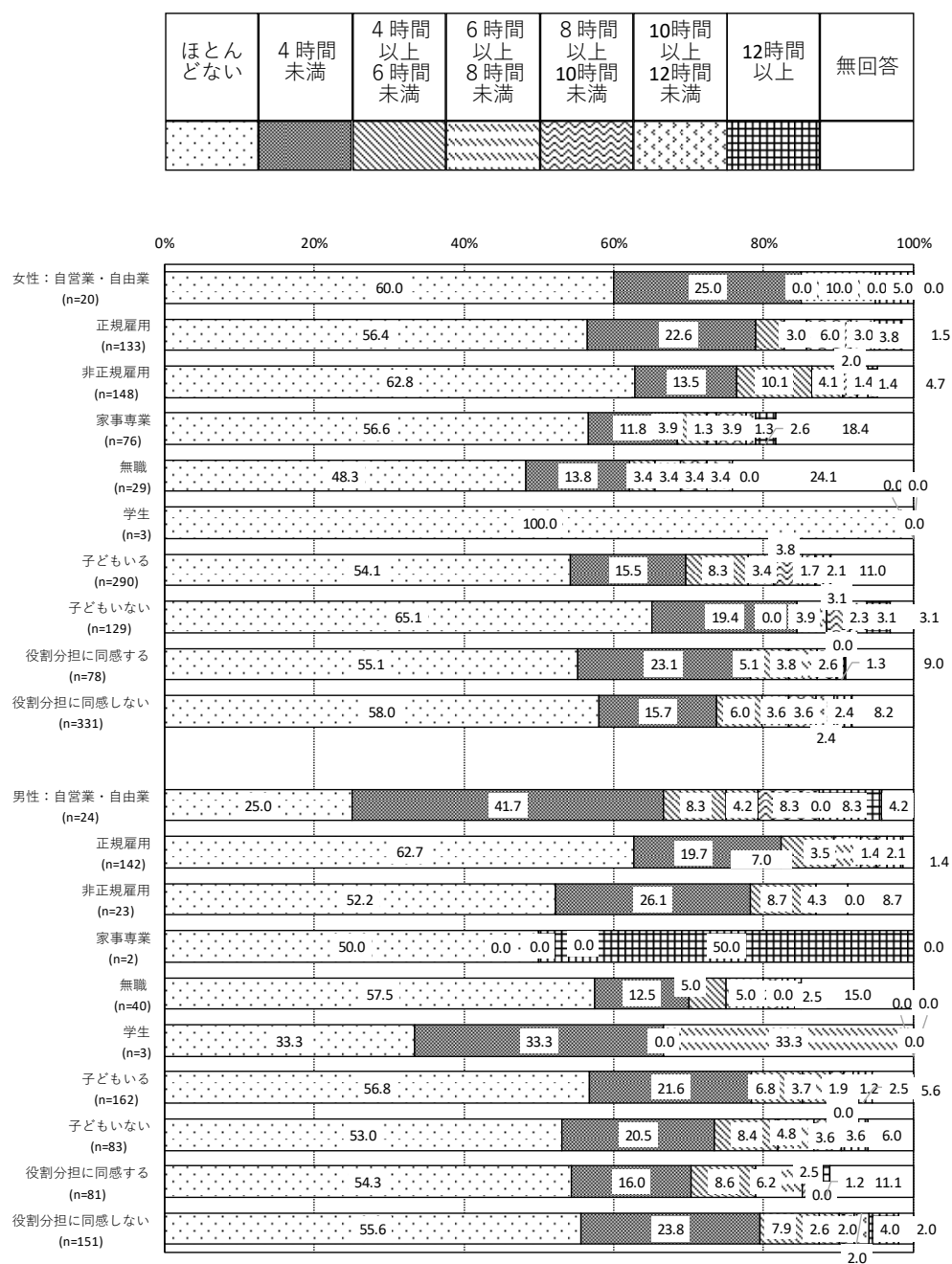
【休日に仕事に費やす時間は「ほとんどない」が男女とも 5 割以上】

仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」(女性 57.5%、男性 55.2%)の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-5 仕事に費やす時間【休日】【性別・年代別】



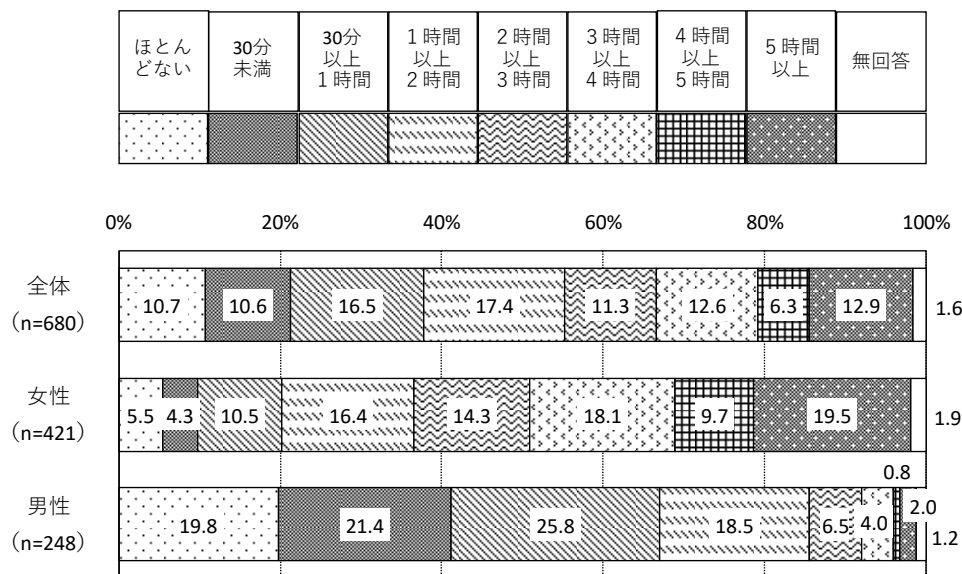
図表Ⅲ-1-5-6 仕事に費やす時間【休日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

家事（ア）平日

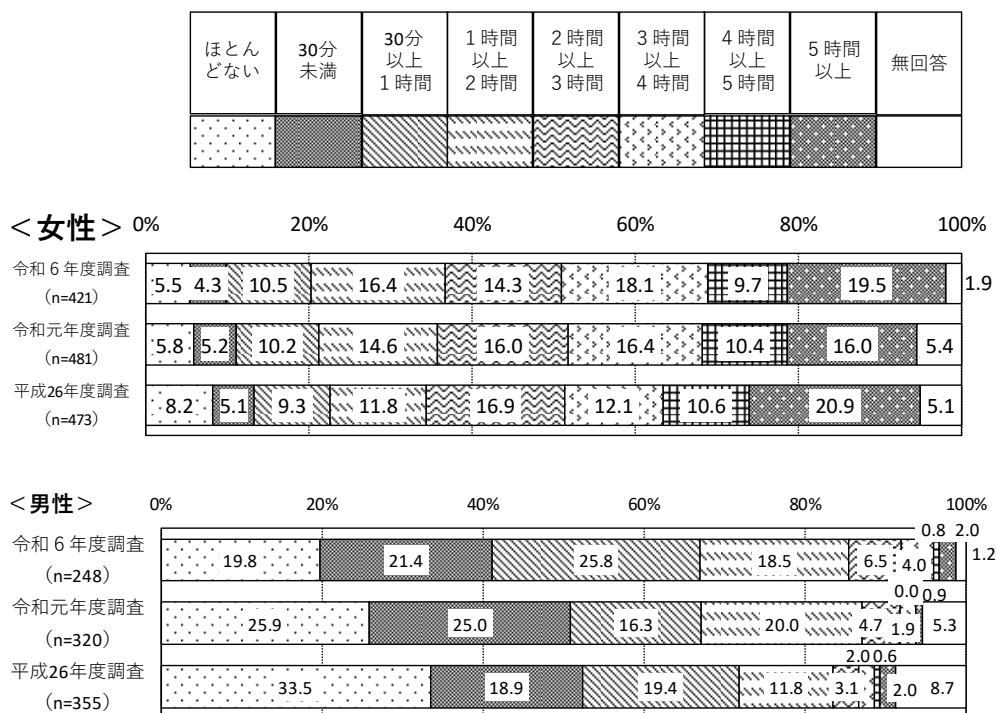
図表Ⅲ-1-5-7 家事に費やす時間【平日】



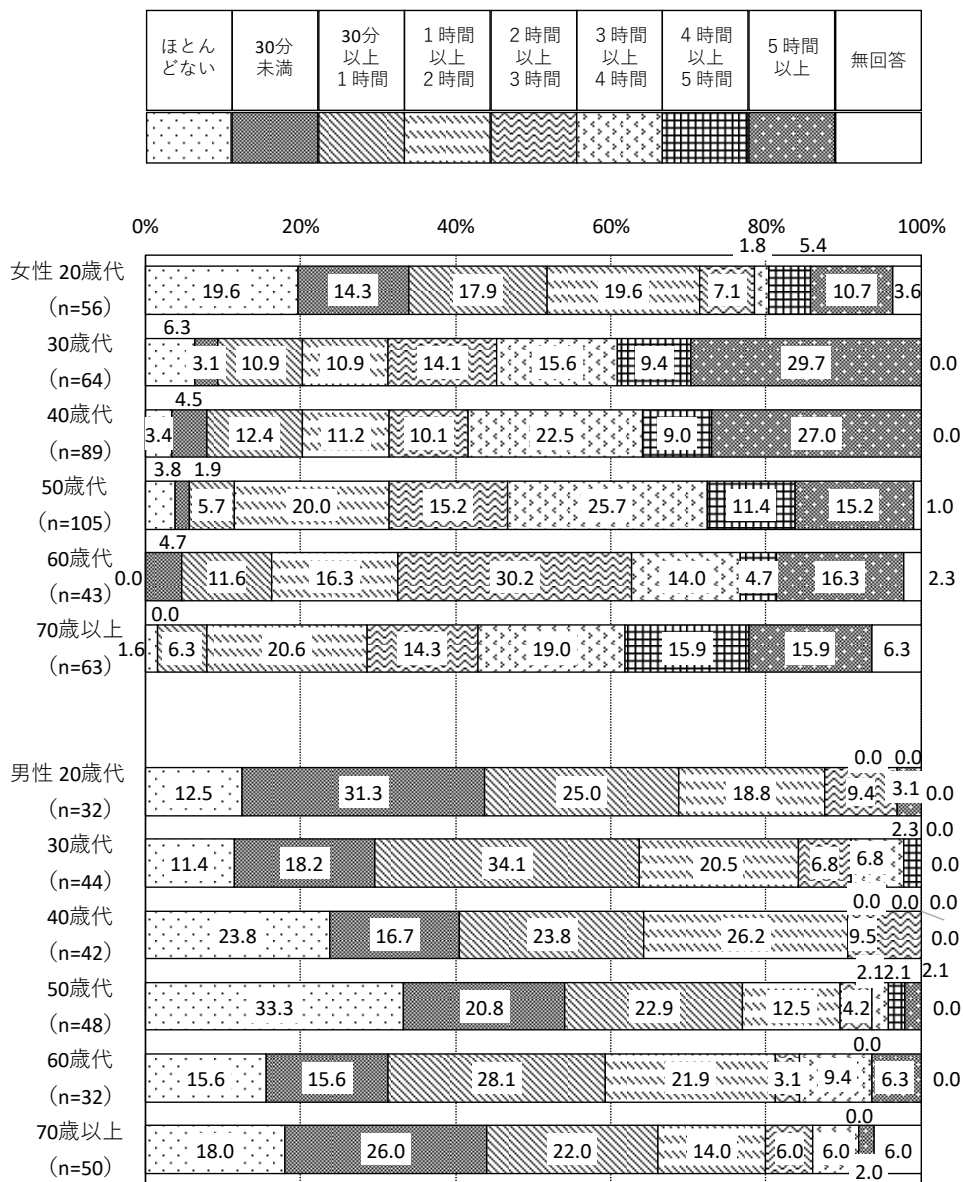
【平日に家事に費やす時間は男性は「30分以上1時間未満」が25.8%、女性は「5時間以上」が19.5%で最多】

家事に費やす時間について、平日では「30分未満（ほとんどない含む）」が女性9.8%、男性41.2%と大きな差が見られます。女性は「5時間以上」が19.5%で最も高く、男性は「30分以上1時間未満」が25.8%で最も高くなっています。

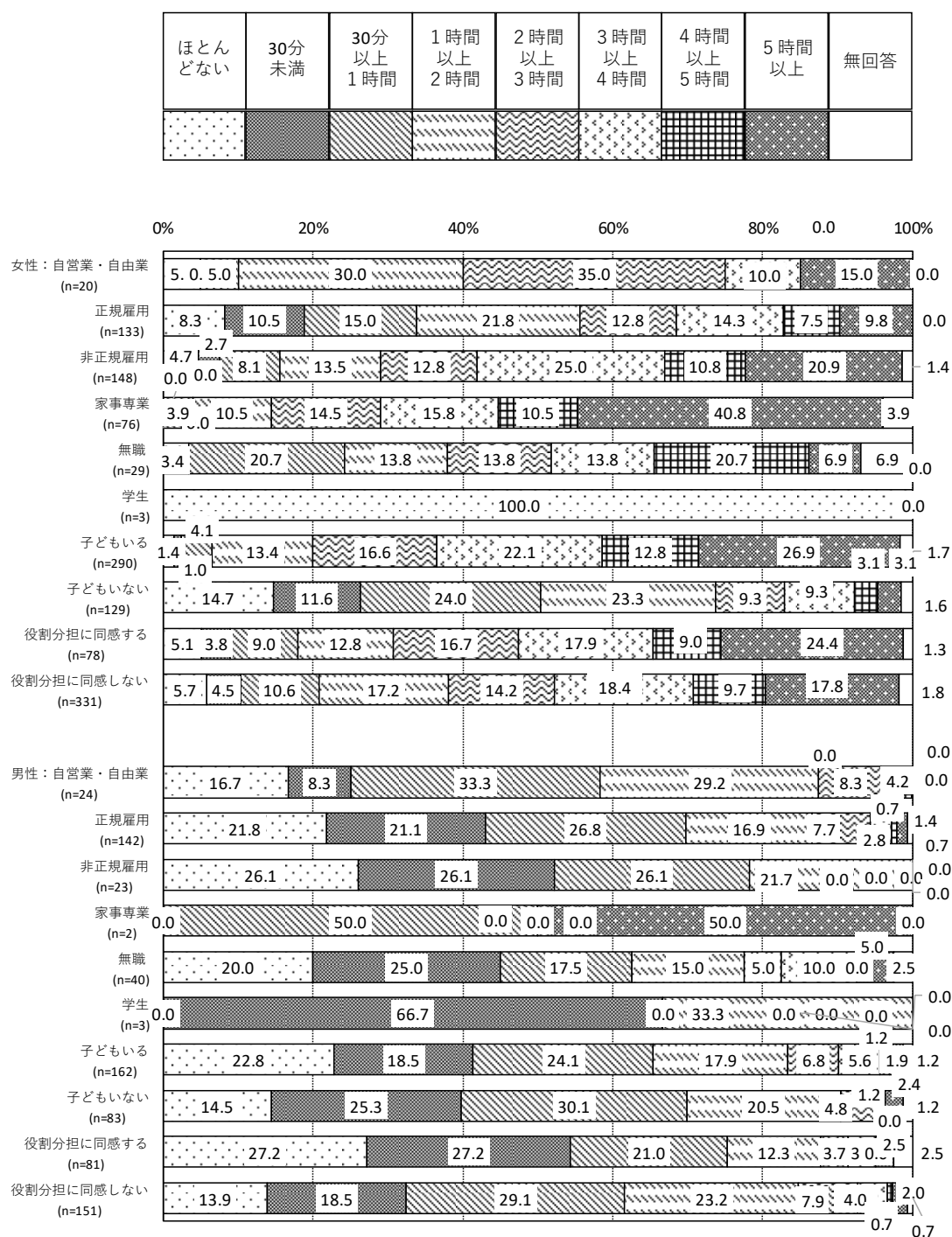
図表Ⅲ-1-5-8 家事に費やす時間【平日】【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-5-9 家事に費やす時間【平日】【性別・年代別】

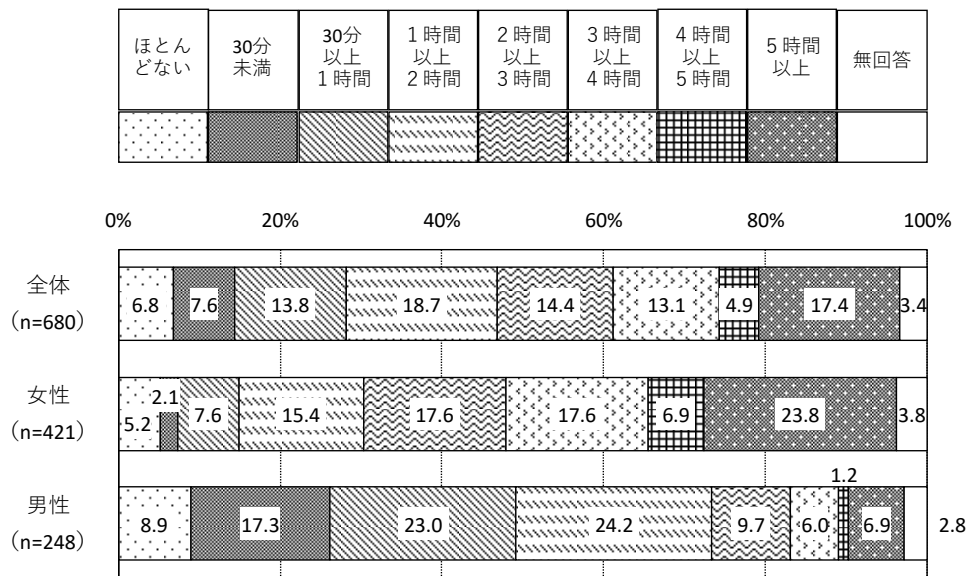


図表Ⅲ-1-5-10 家事に費やす時間【平日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



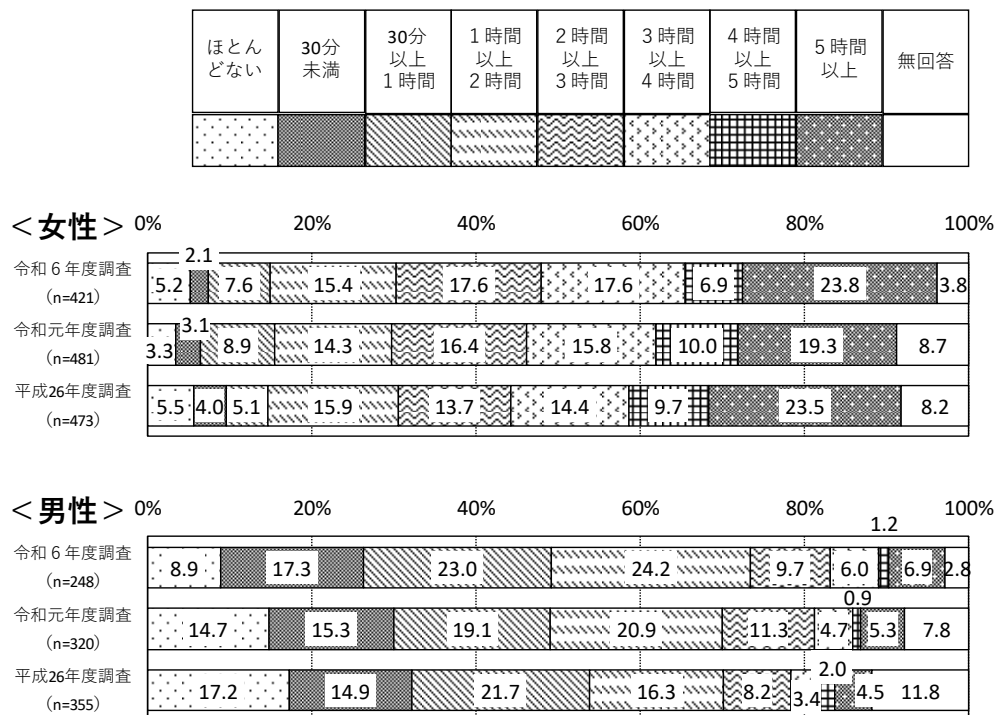
家事（イ）休日

図表Ⅲ-1-5-11 家事に費やす時間【休日】

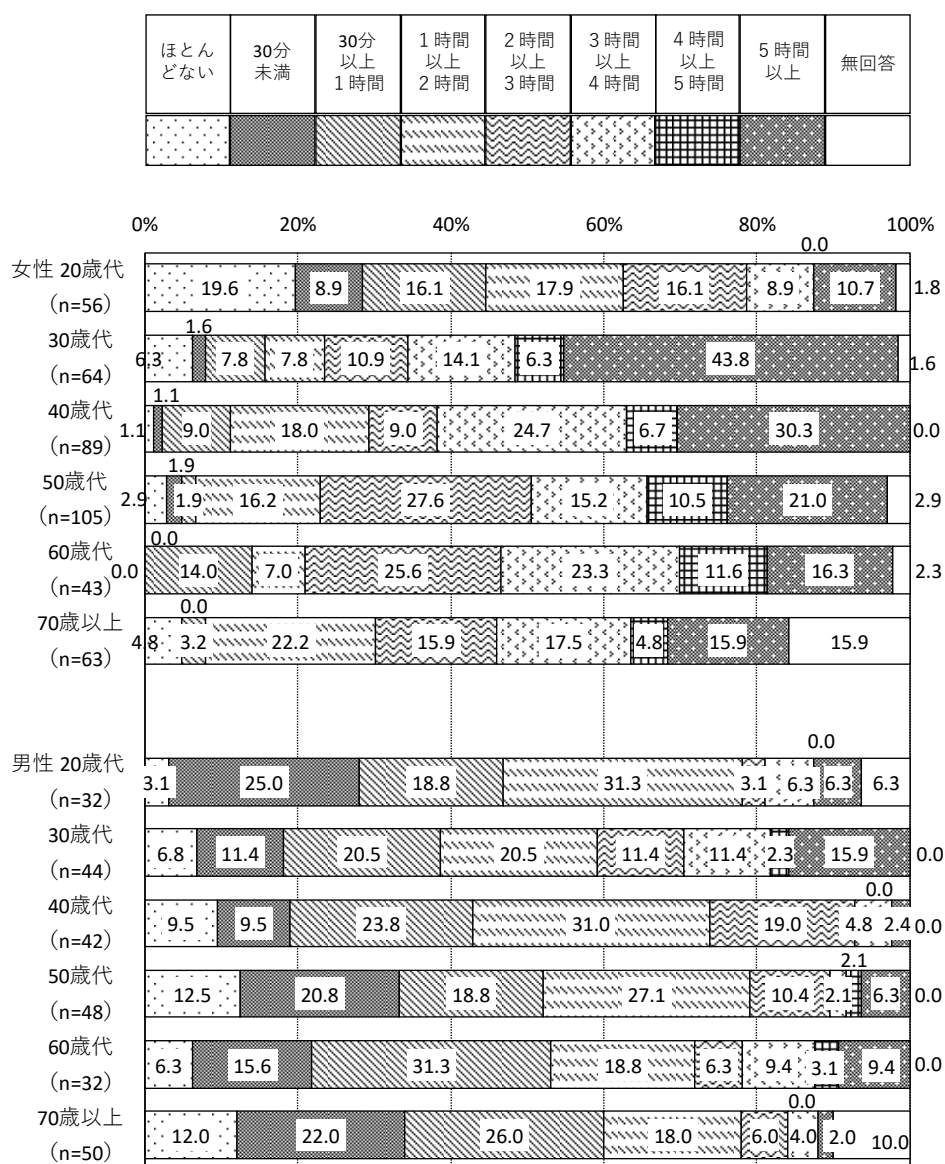


【休日に家事に費やす時間は女性は「5時間以上」が23.8%、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%】
 家事に費やす時間について、休日では女性は「5時間以上」が23.8%で最も多く、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%で最も高くなっています。

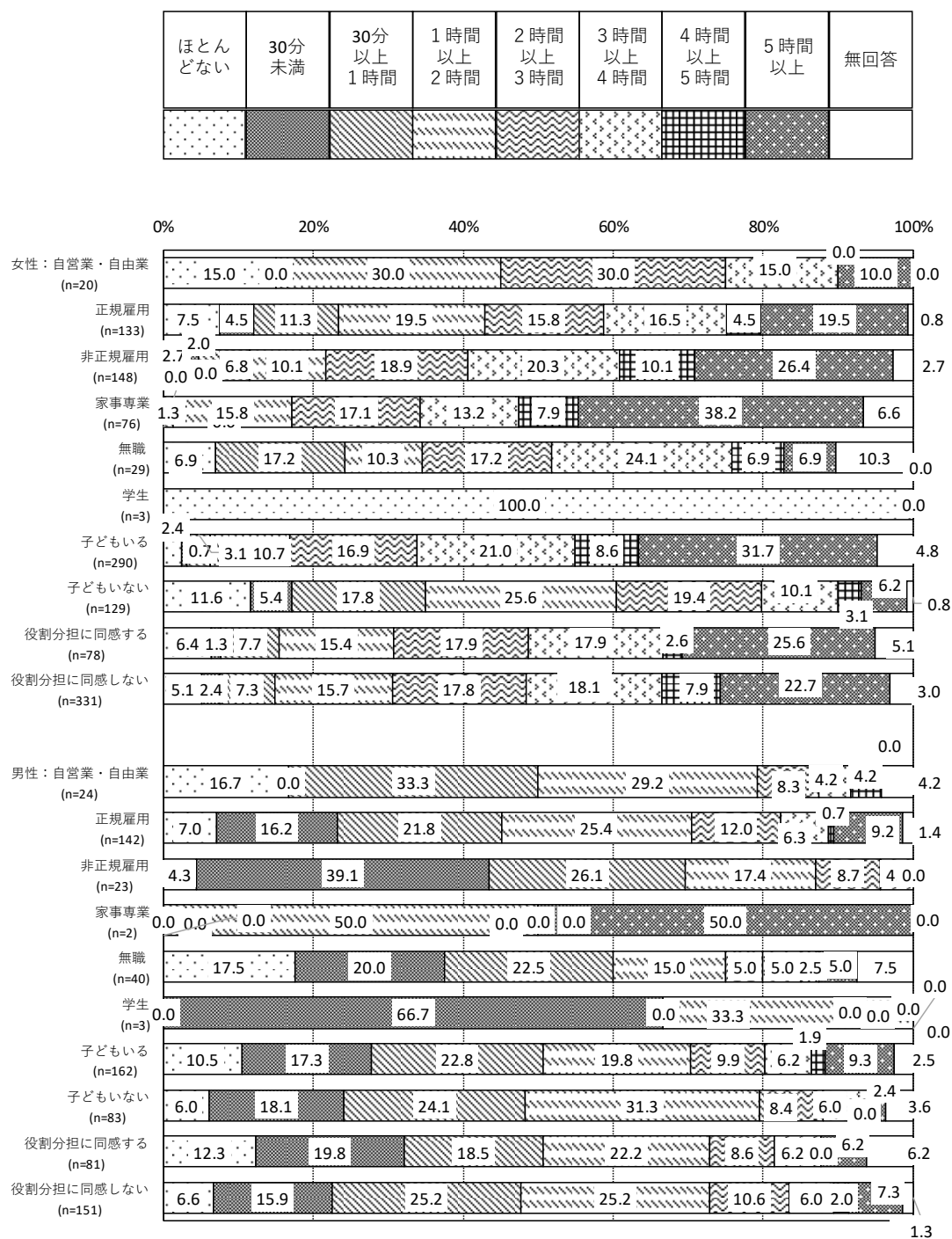
図表Ⅲ-1-5-12 家事に費やす時間【休日】【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-5-13 家事に費やす時間【休日】【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-5-14 家事に費やす時間【休日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



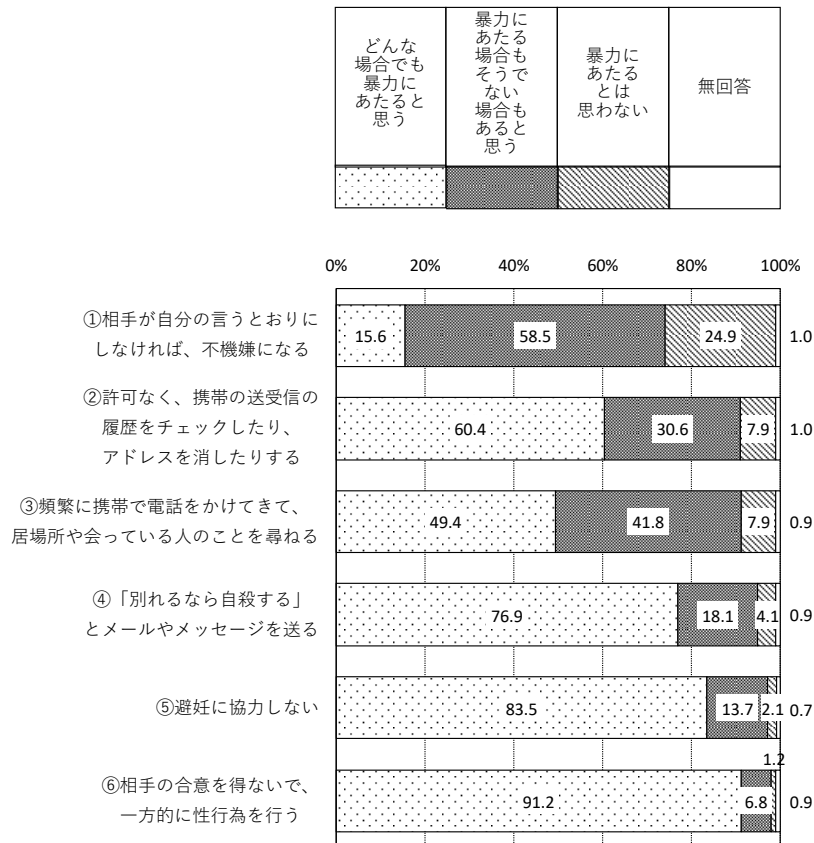
(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

(6)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問 11 恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）

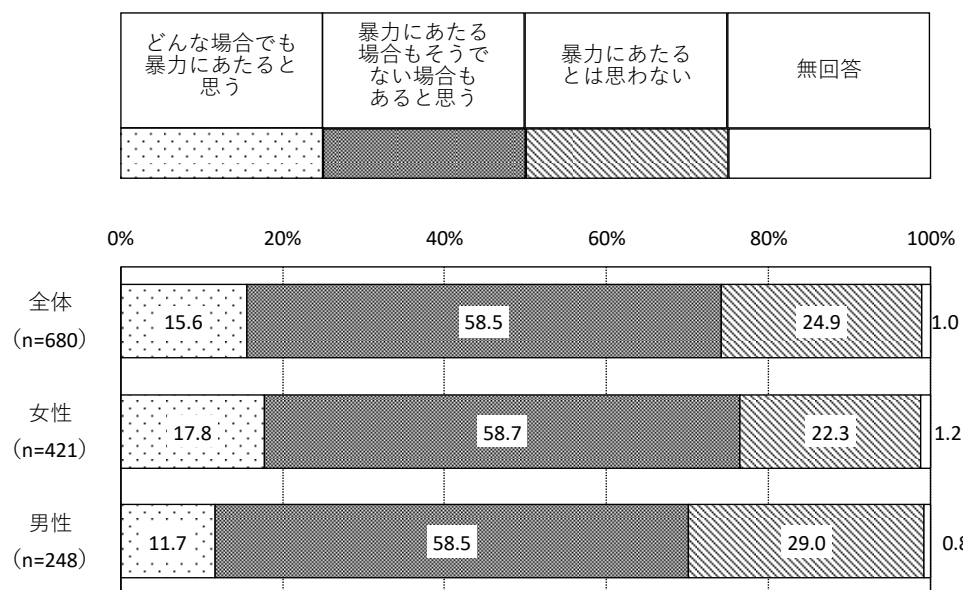
図表Ⅲ-1-6-1 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為



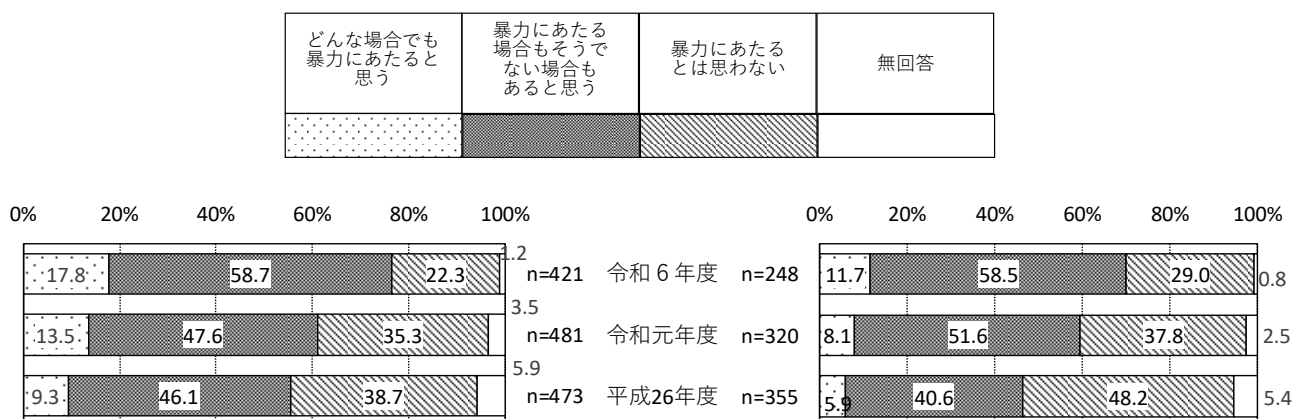
【恋人同士の間でのDVだと思ふ行為は「相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が９割以上で最多、「避妊に協力しない」も８割以上】

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 92.6%、男性 89.1%で最も高く、「① 相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力にあたるとは思わない』のは女性 22.3%、男性 29.0%で最も高くなっています。

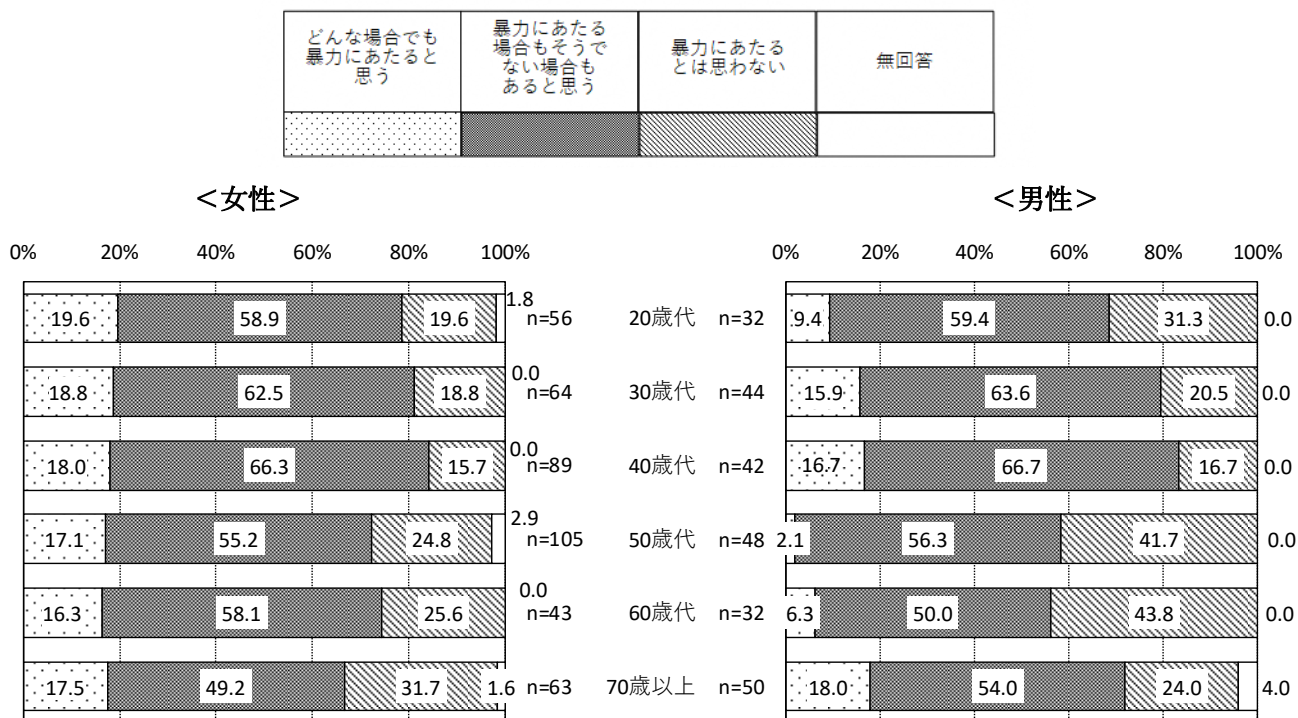
図表Ⅲ -1-6-2 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる



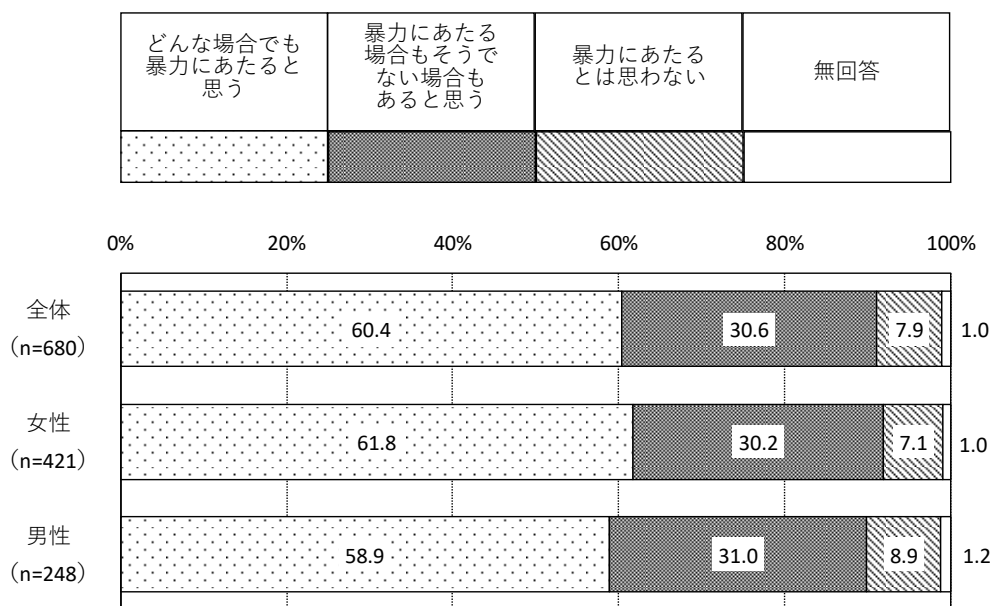
図表Ⅲ-1-6-3 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【過去の調査との比較】



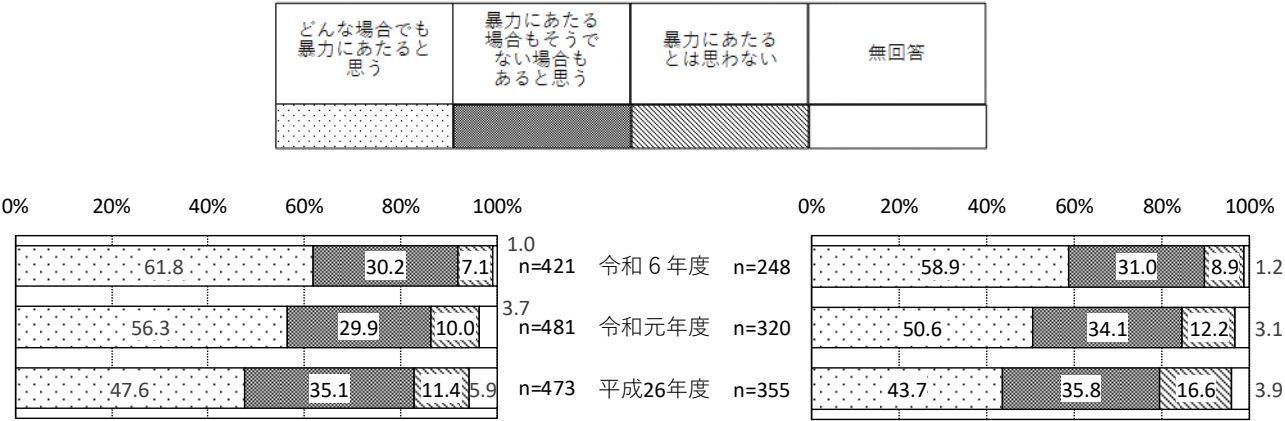
図表Ⅲ-1-6-4 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【性別・年代別】



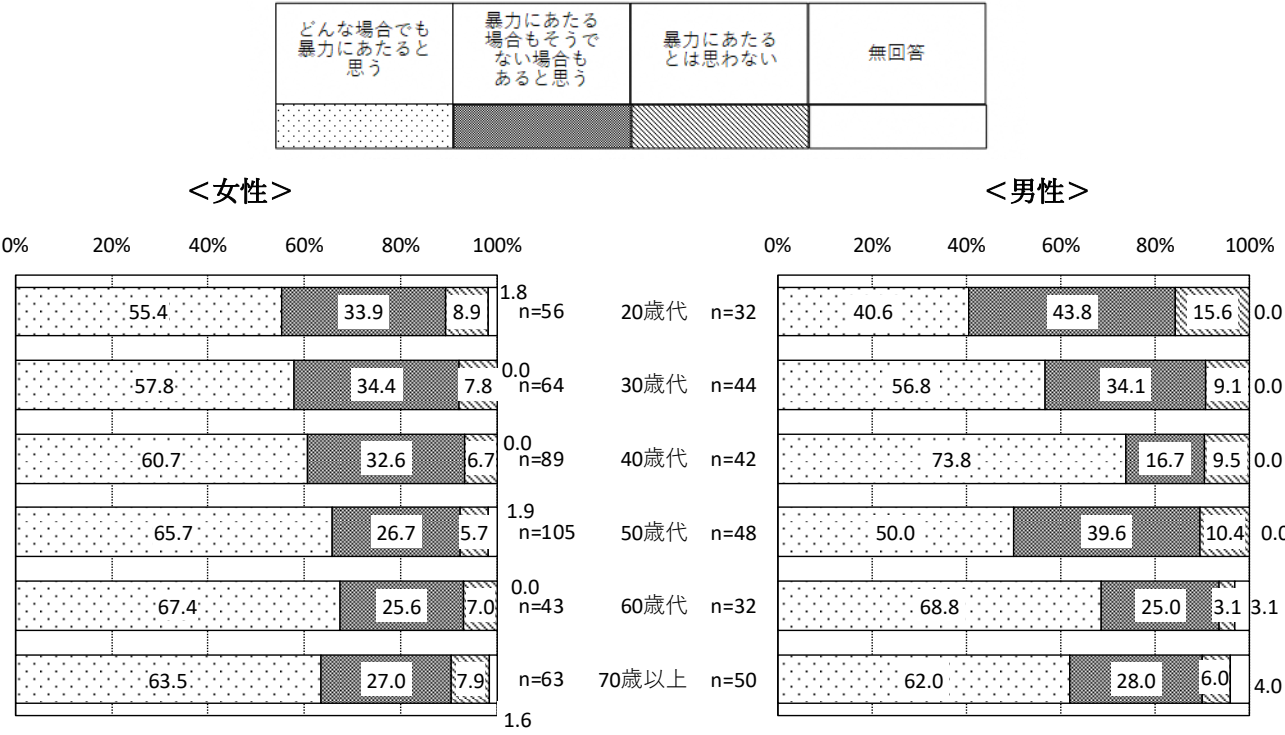
図表Ⅲ -1-6-5 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする



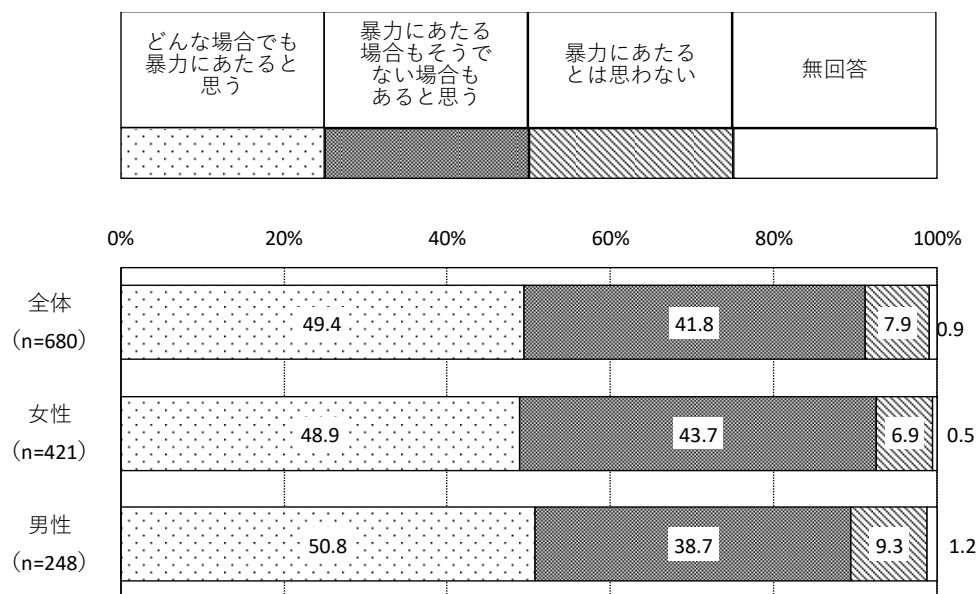
図表Ⅲ-1-6-6 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする
【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-7 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする
【性別・年代別】

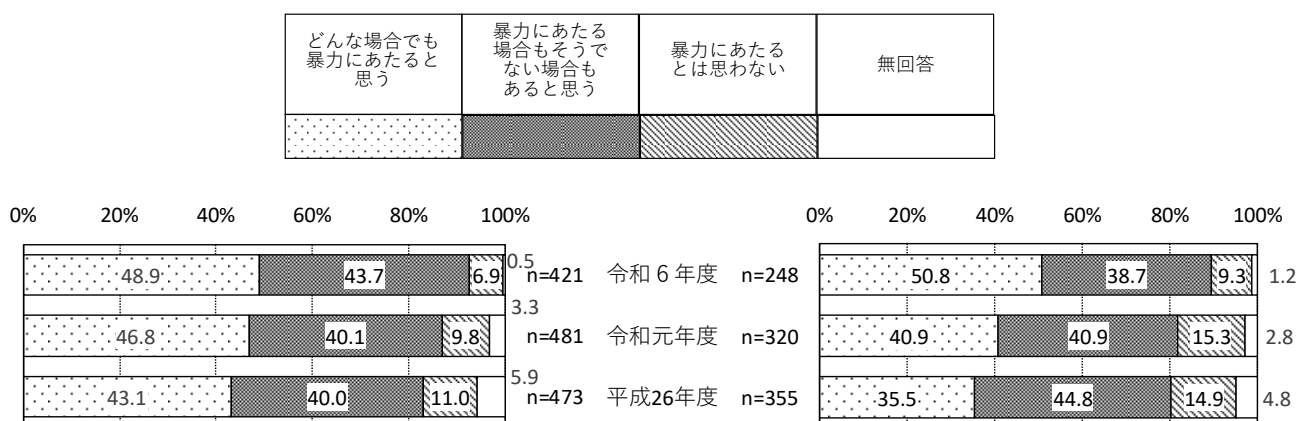


図表Ⅲ -1-6-8 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる



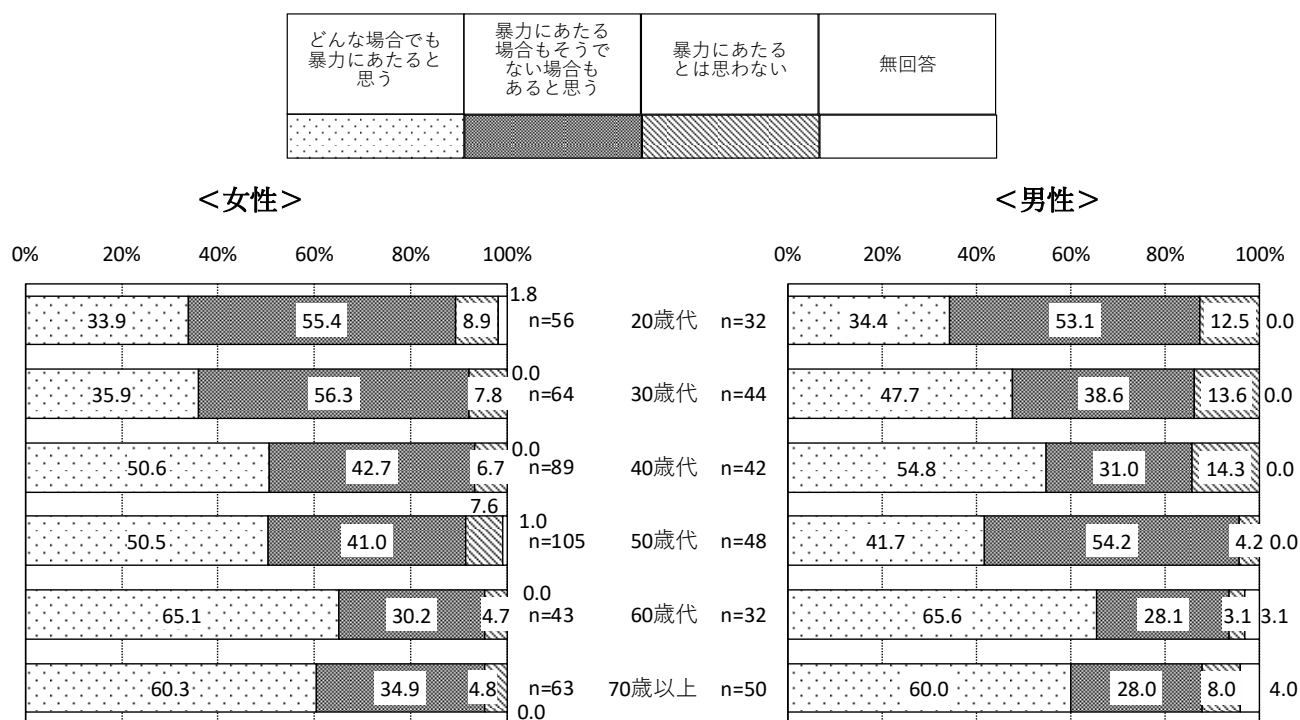
図表Ⅲ-1-6-9 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる

【過去の調査との比較】

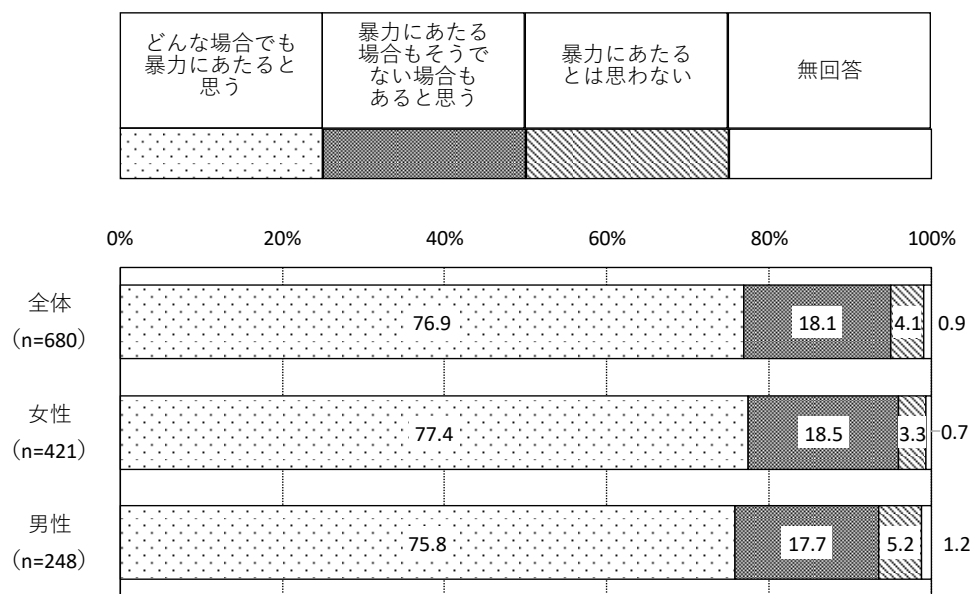


図表Ⅲ-1-6-10③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる

【性別・年代別】

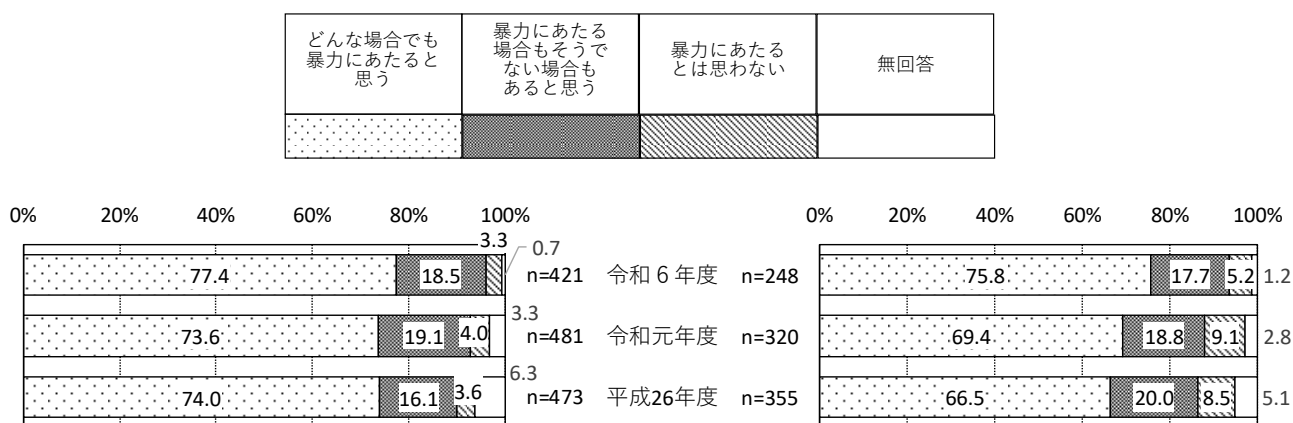


図表Ⅲ -1-6-11 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る

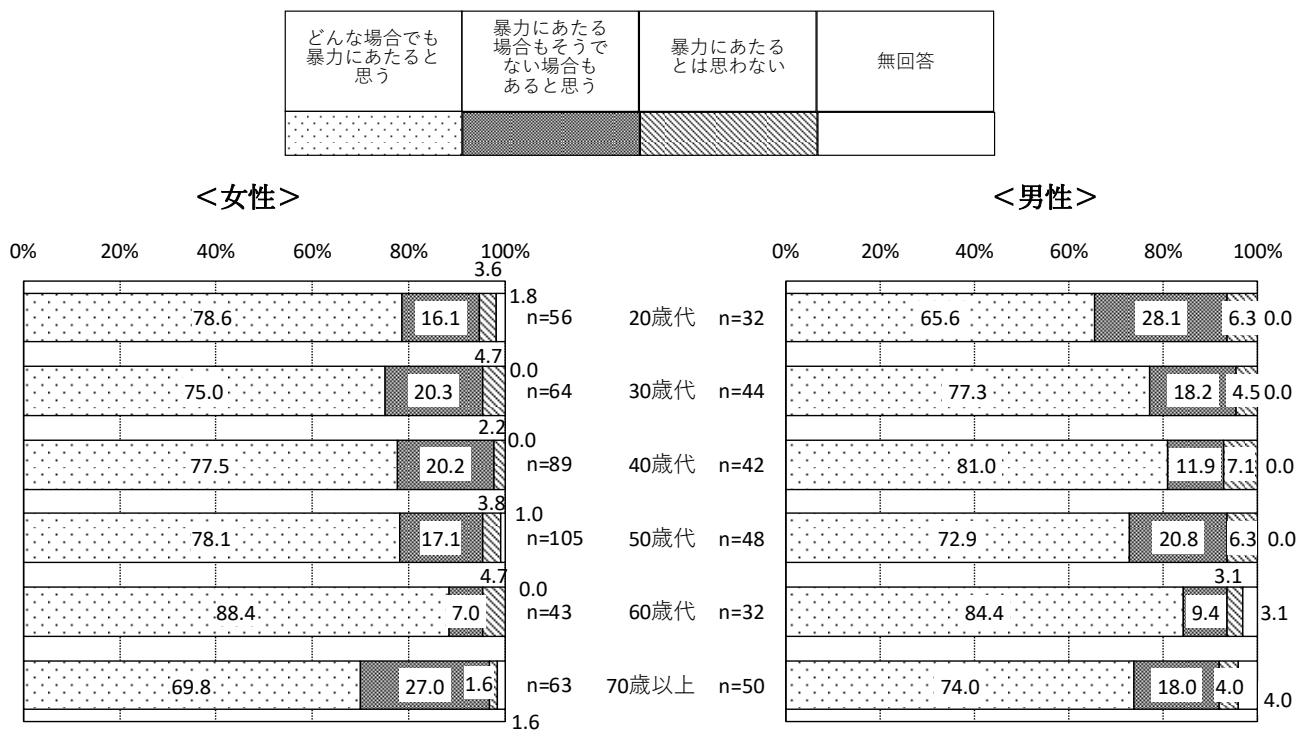


図表Ⅲ-1-6-12 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る

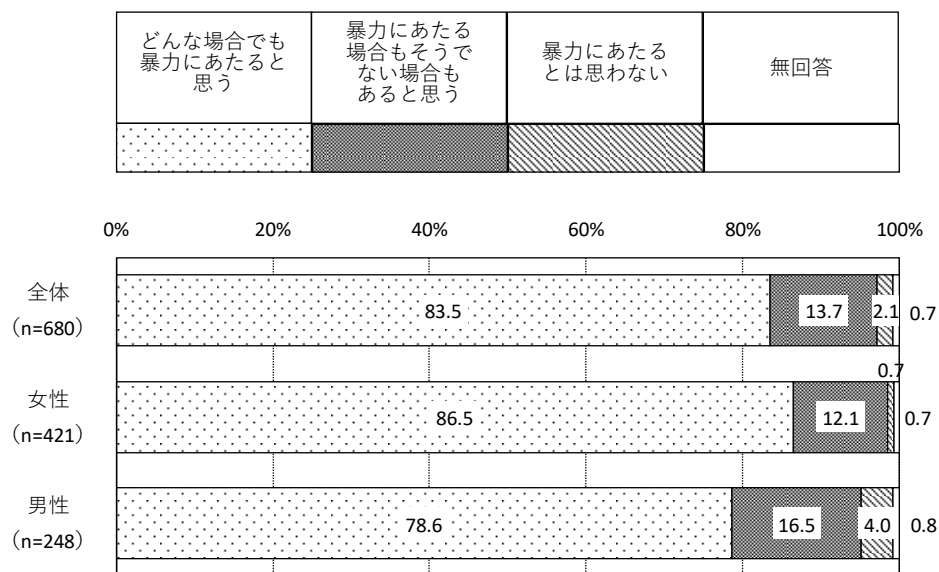
【過去の調査との比較】



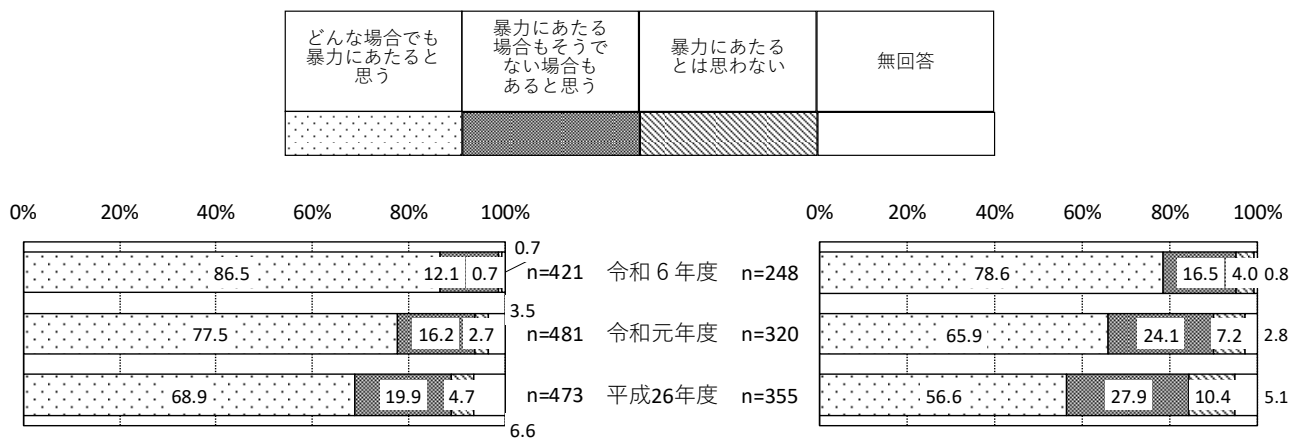
図表Ⅲ-1-6-13 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る 【性別・年代別】



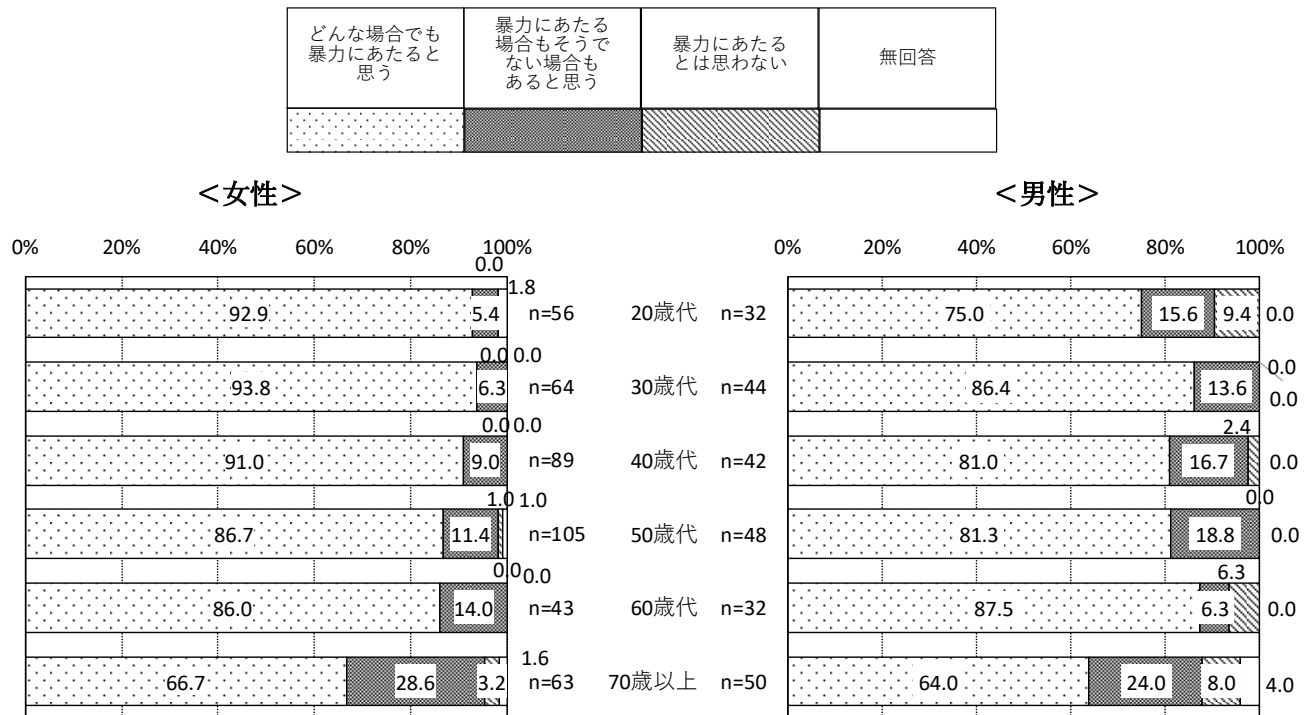
図表 Ⅲ-1-6-14 ⑤避妊に協力しない



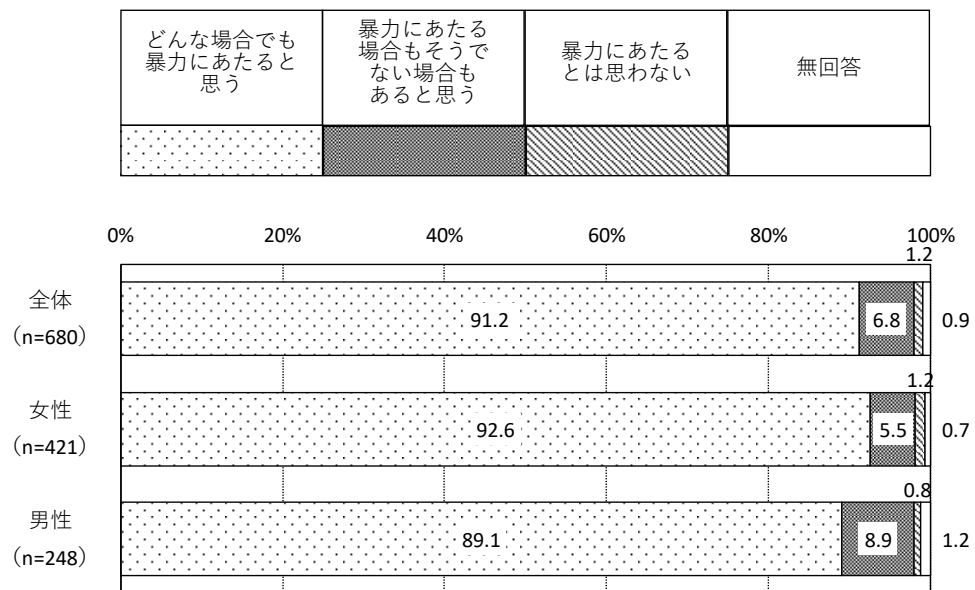
図表Ⅲ-1-6-15 ⑤避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



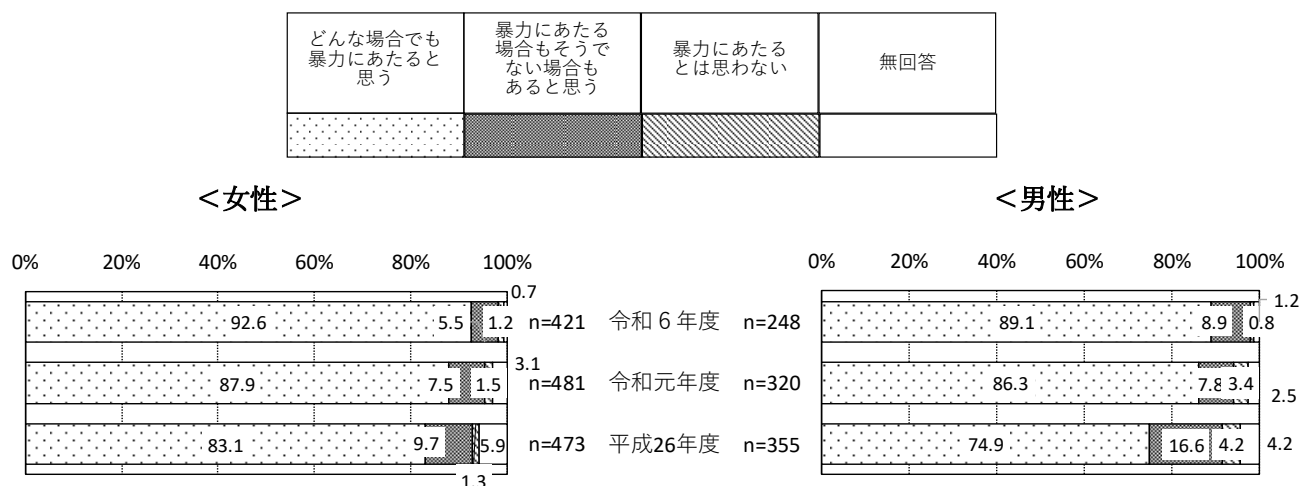
図表Ⅲ-1-6-16 ⑤避妊に協力しない【性別・年代別】



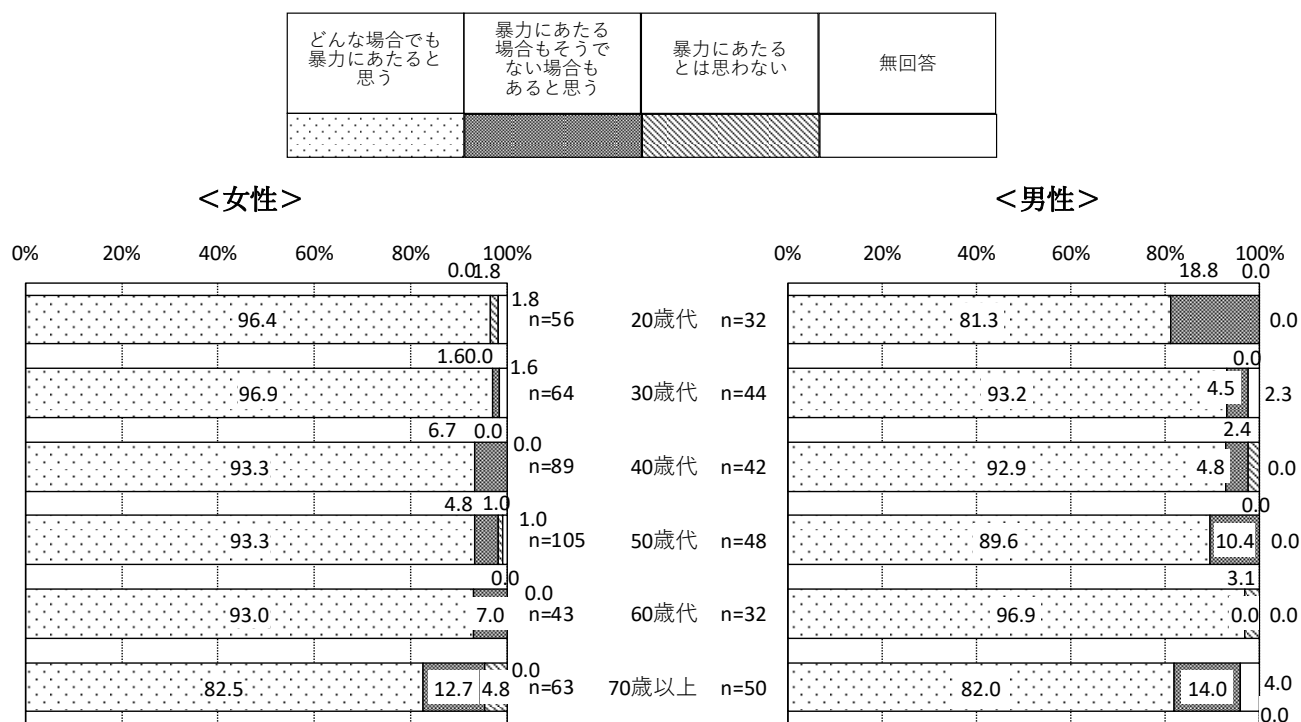
図表Ⅲ -1-6-17 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



図表Ⅲ-1-6-18 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【過去の調査との比較】



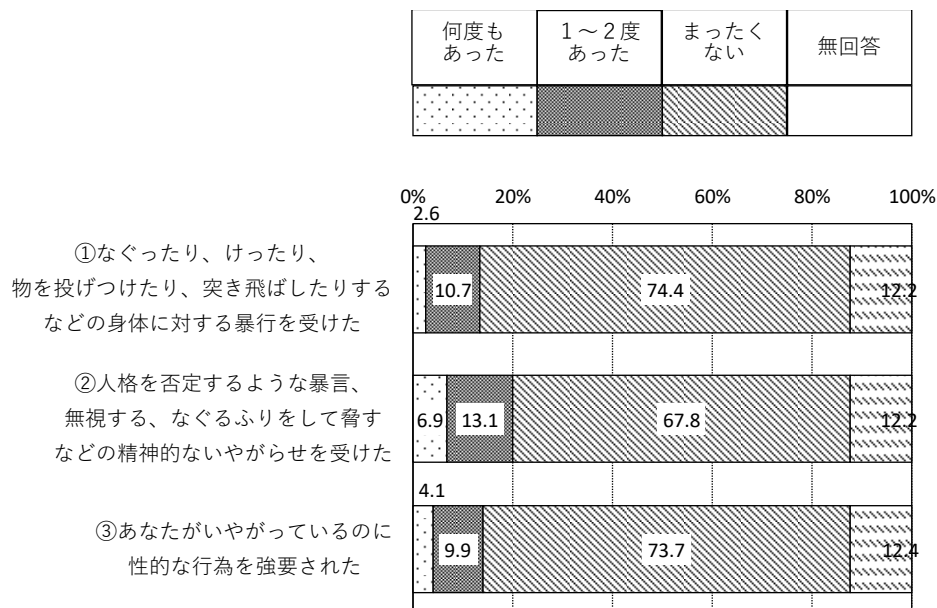
図表Ⅲ-1-6-19 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【性別・年代別】



②交際相手からのDVの経験

問 12 あなたは、交際相手から、次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか。（○は各項目に１つ）

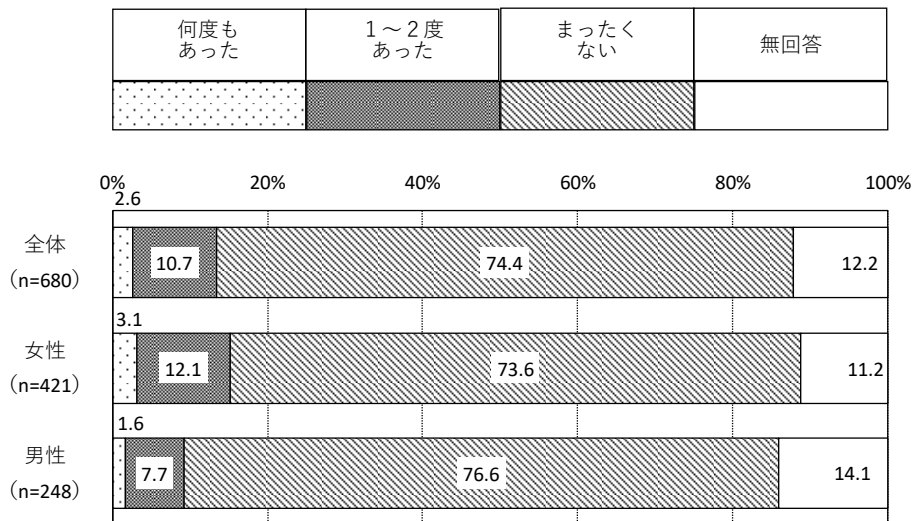
図表Ⅲ -1-6-20 交際相手から のDVの経験



【交際相手からのDVの経験で多いのは「人格を否定するような暴言、無視、精神的ないやがらせ」が約2割】

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 15.2%、男性 9.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 23.5%、男性 12.5%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 20.2%、男性 2.8%となっています。

図表Ⅲ-1-6-21①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

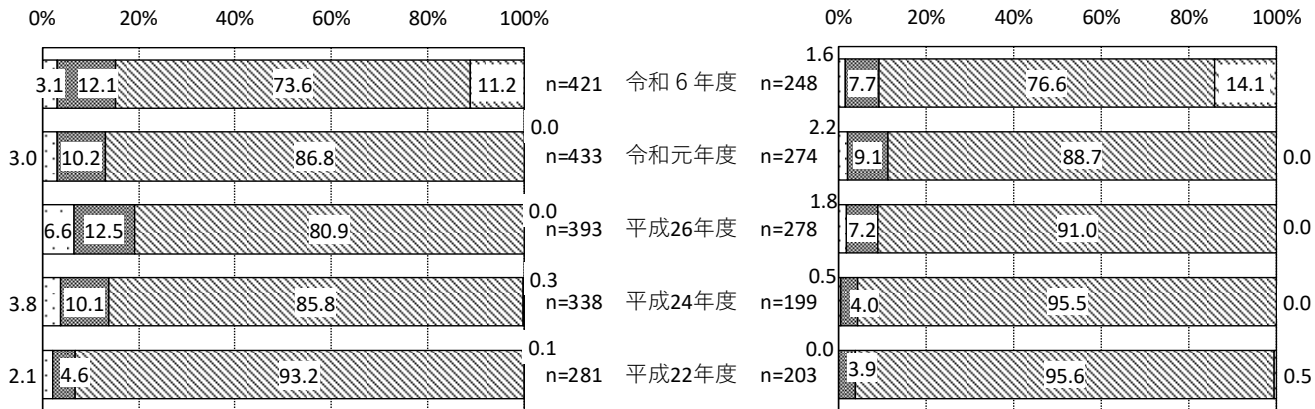


図表Ⅲ-1-6-22①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【過去の調査との比較】

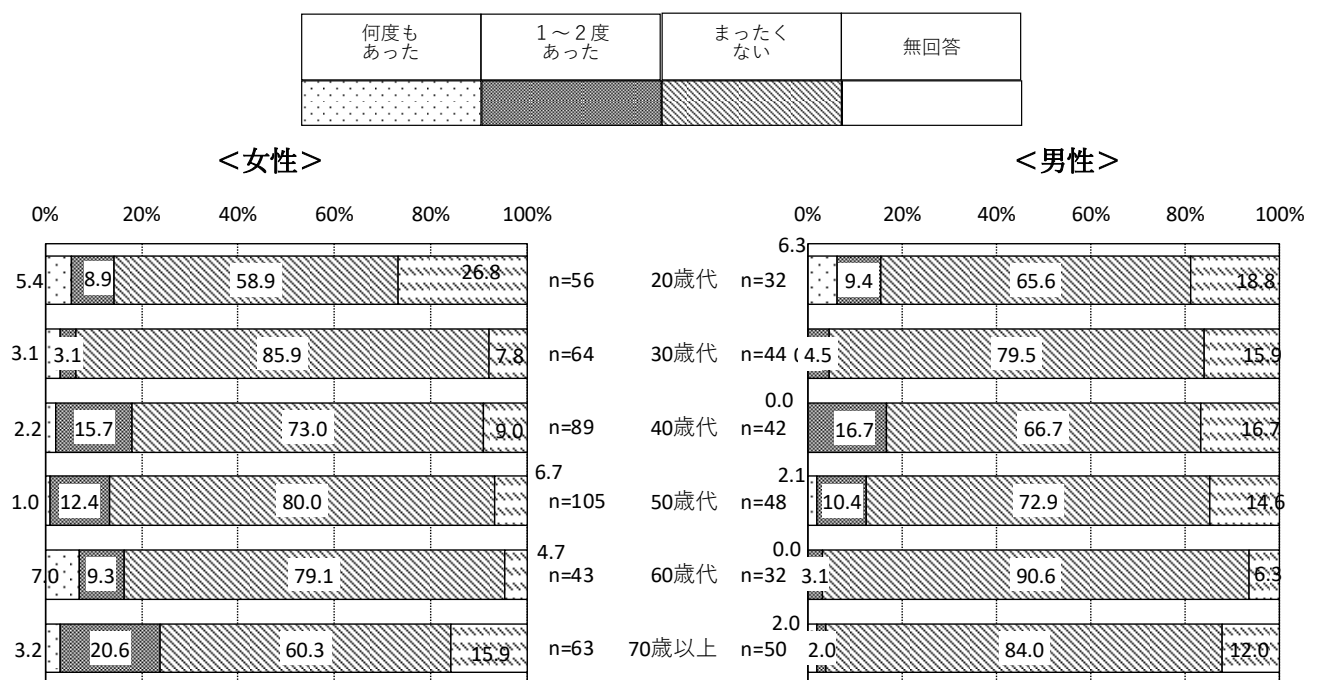
何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答

<女性>

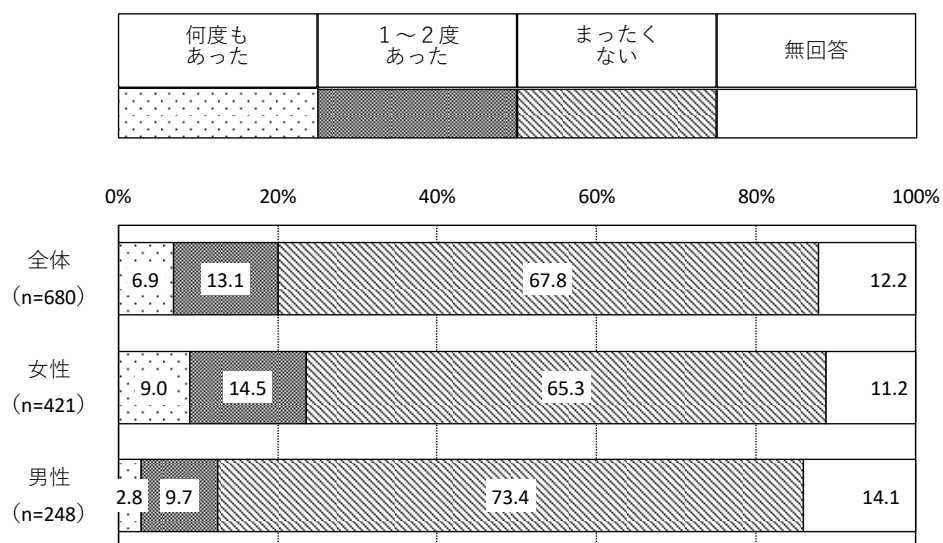
<男性>



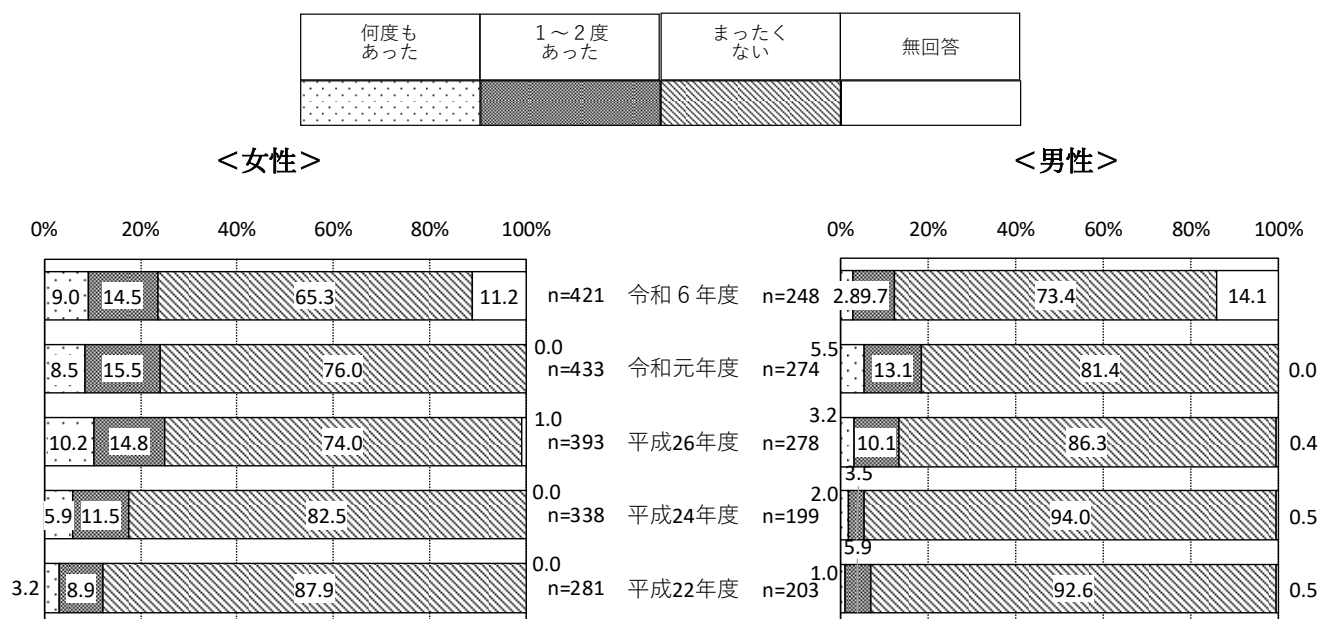
図表Ⅲ-1-6-23 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【性別・年代別】



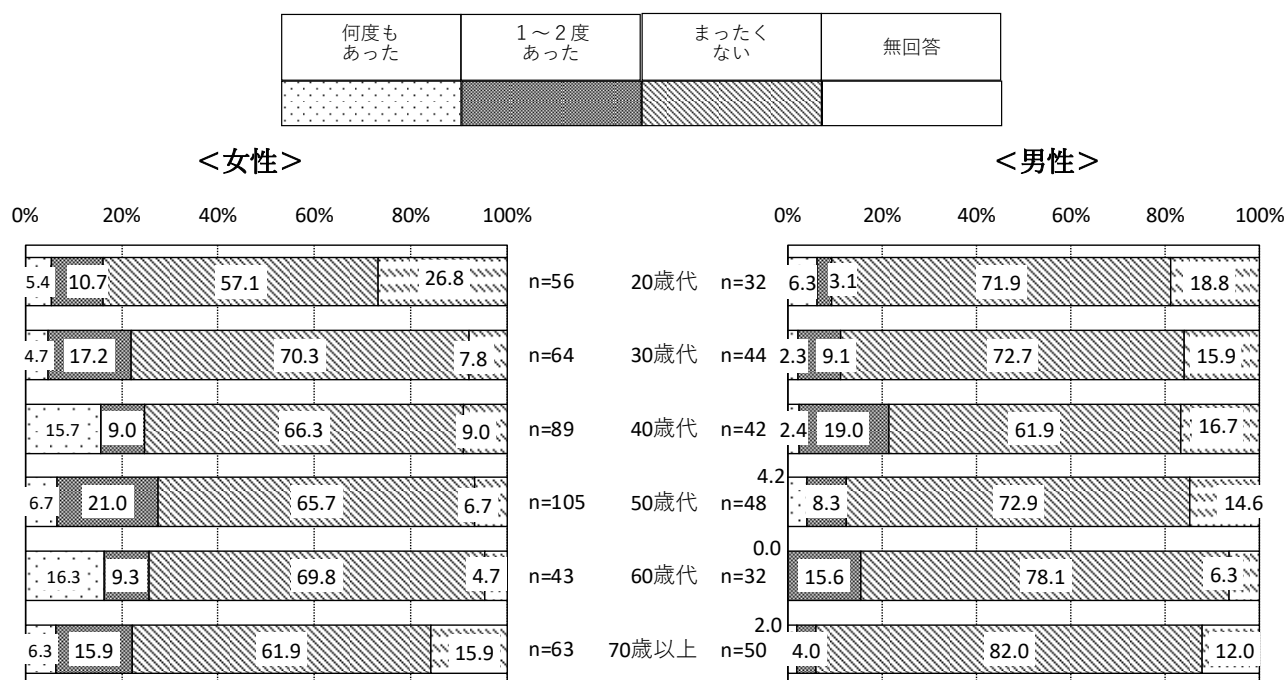
図表Ⅲ -1-6-24 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



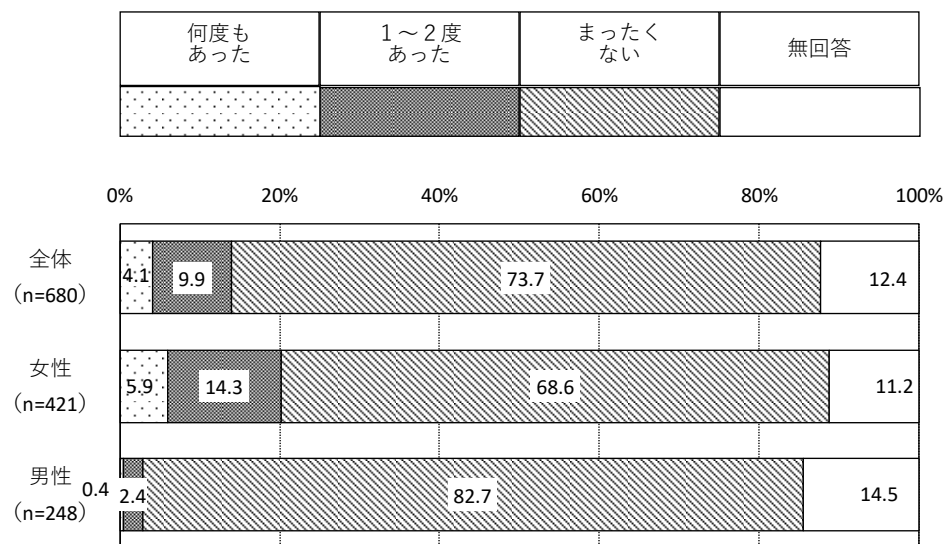
図表Ⅲ-1-6-25 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



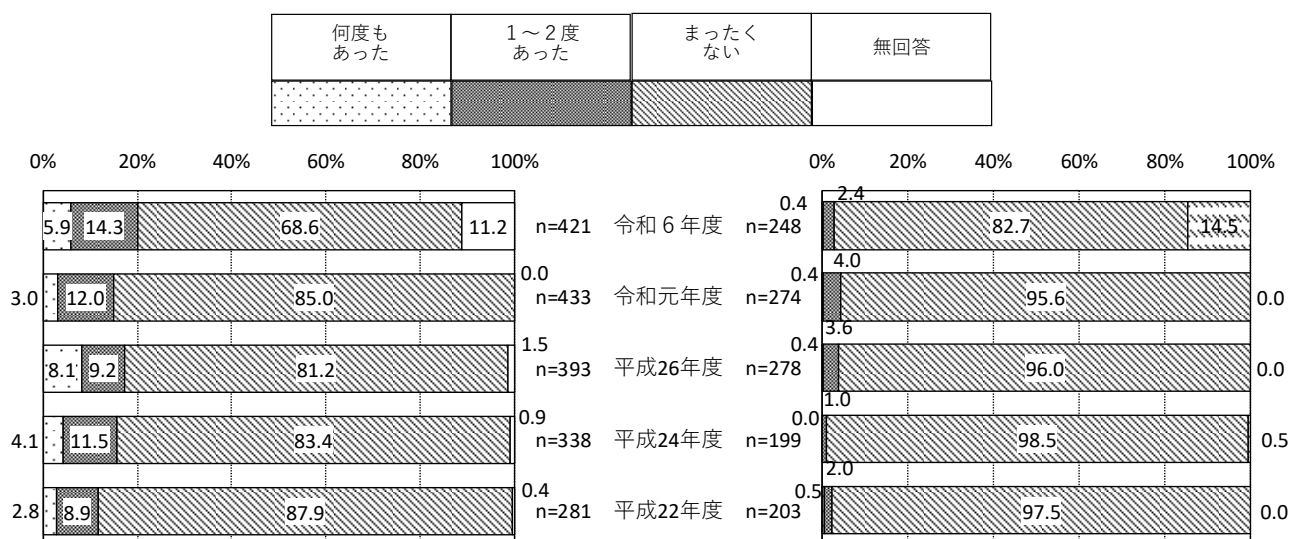
図表Ⅲ-1-6-26 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



図表Ⅲ -1-6-27 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



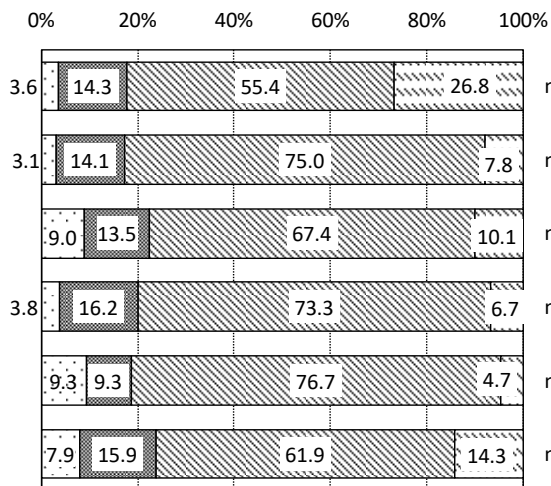
図表Ⅲ-1-6-28 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



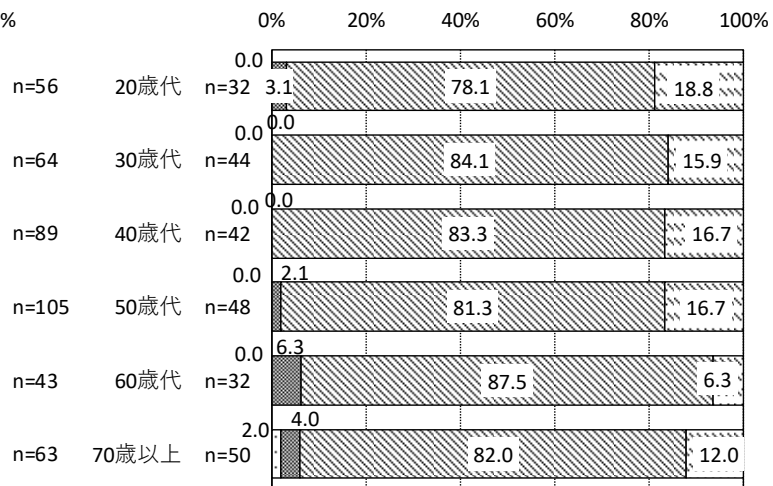
図表Ⅲ-1-6-29 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】

何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答

<女性>



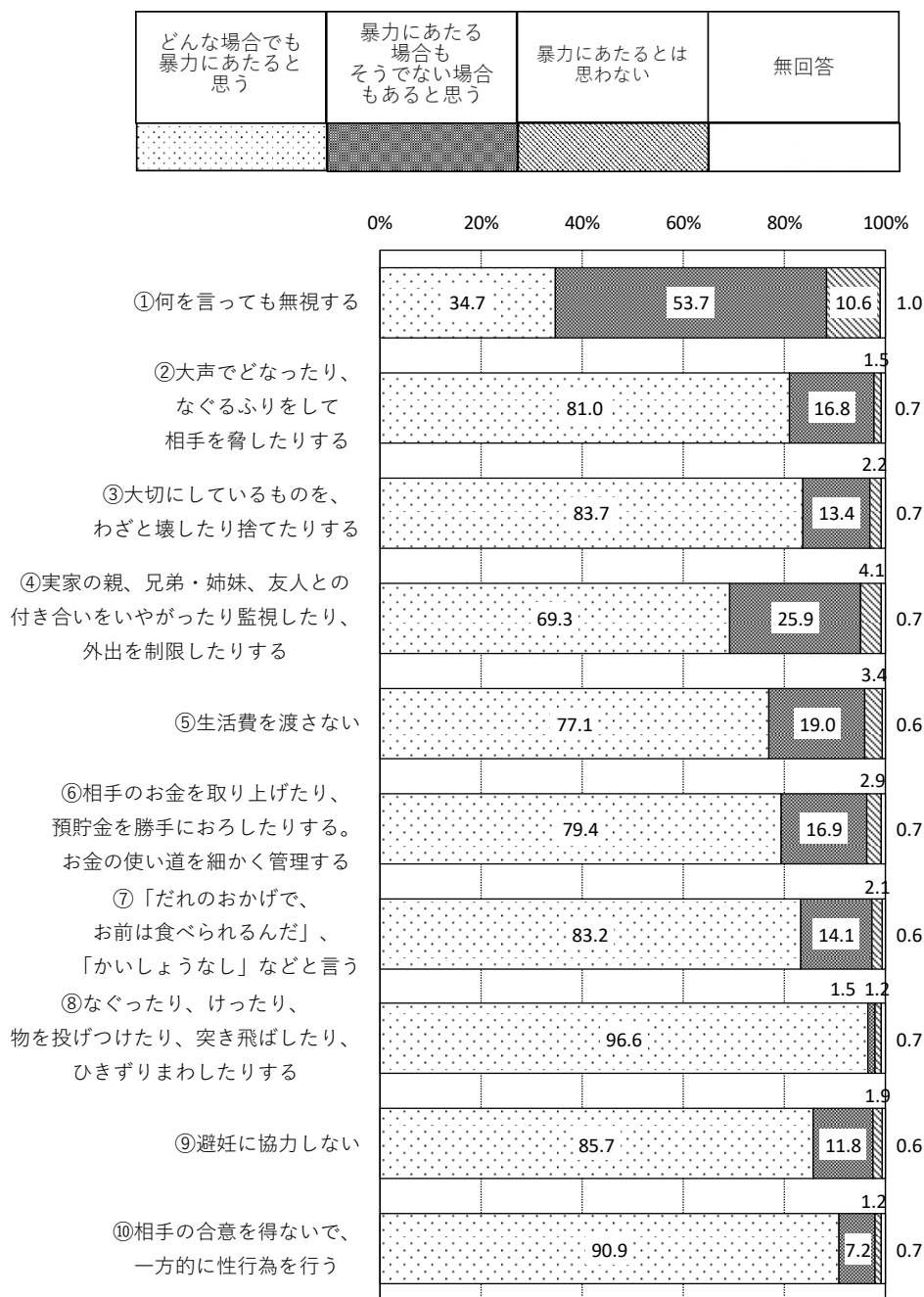
<男性>



③配偶者間でDVだと思ふ行為

問 13 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）

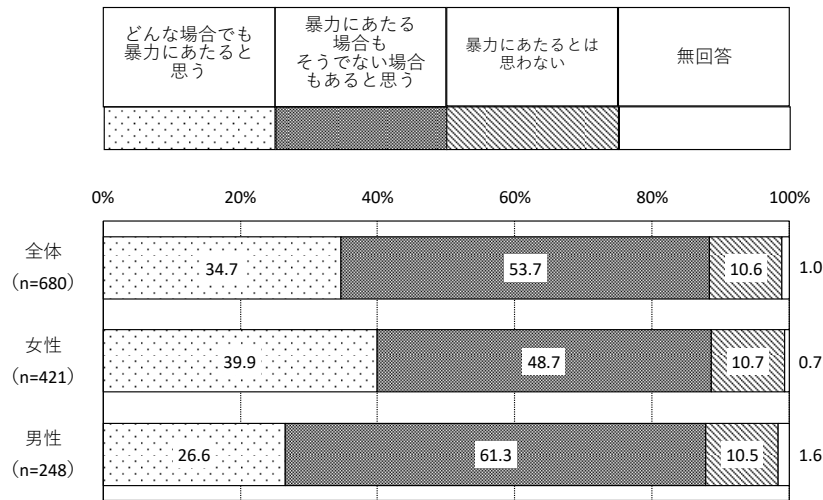
図表Ⅲ -1-6-30 配偶者間でDVだと思ふ行為



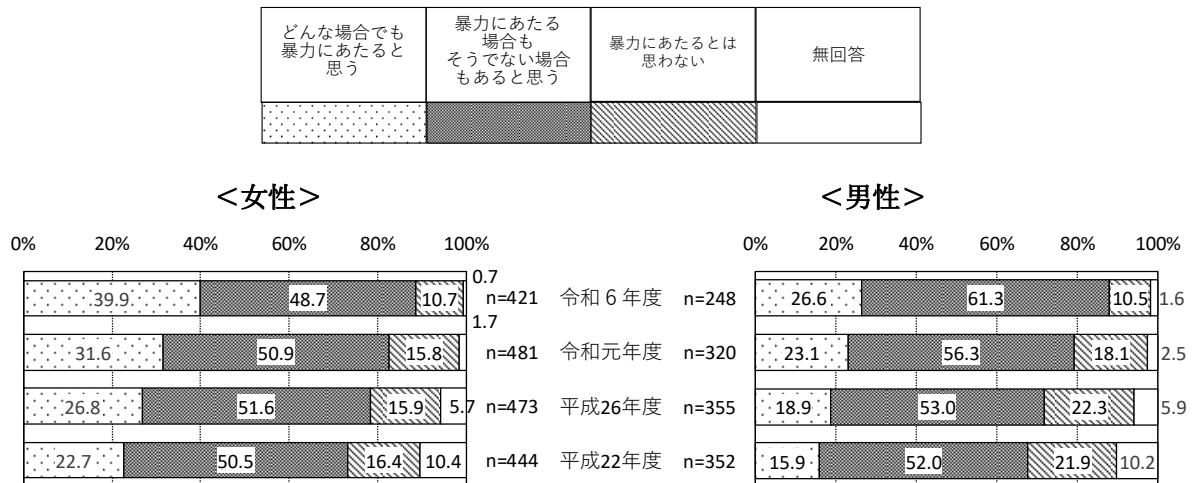
【配偶者間でDVだと思ふ行為は「なぐったり、けったり…」が96.6%で最多】

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 97.4%、男性 95.6%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力にあたると思う』のは女性 74.6%、男性 60.1%で男女での差が見られます。

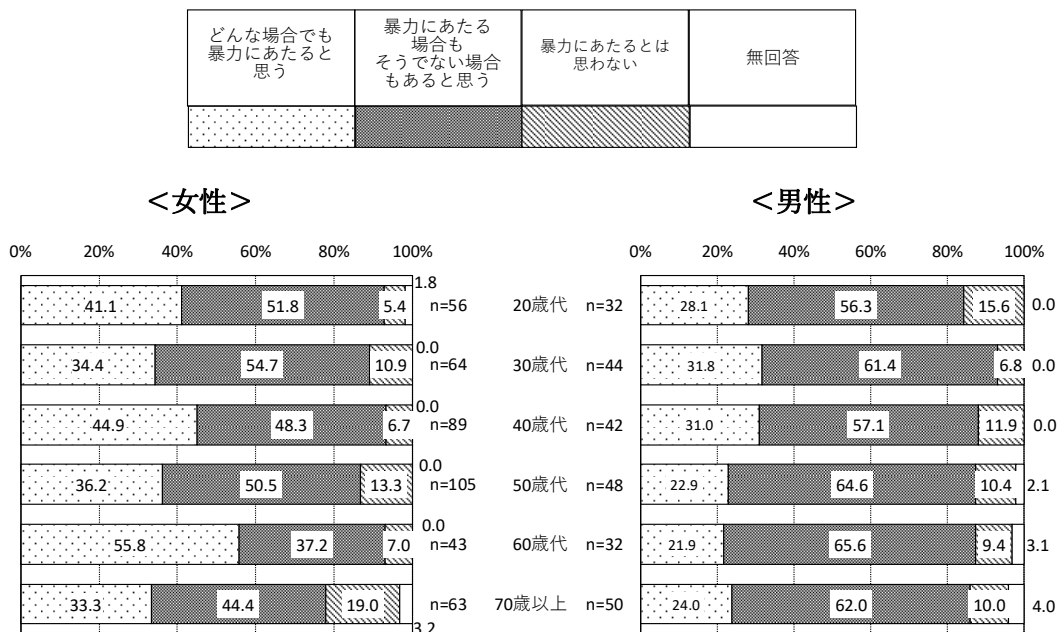
図表Ⅲ -1-6-31 ①何を言っても無視する



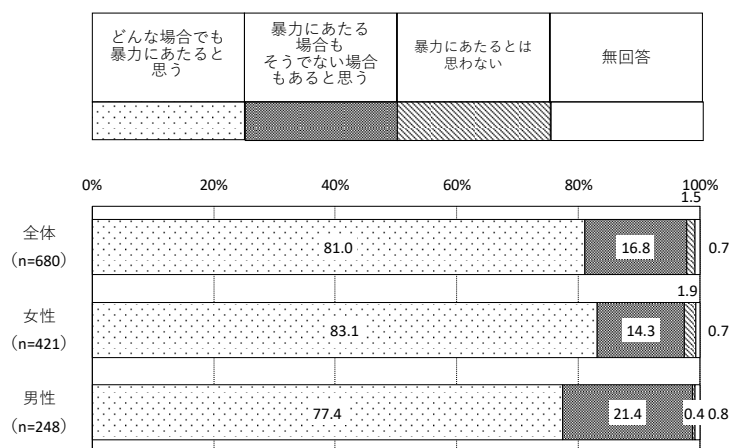
図表Ⅲ-1-6-32 ①何を言っても無視する 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-33 ①何を言っても無視する 【性別・年代別】

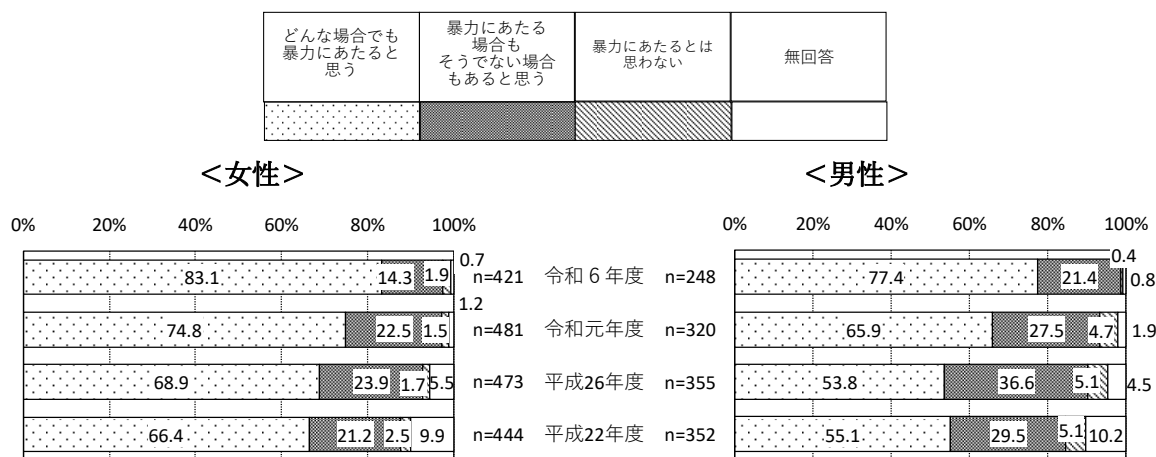


図表Ⅲ -1-6-34 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする



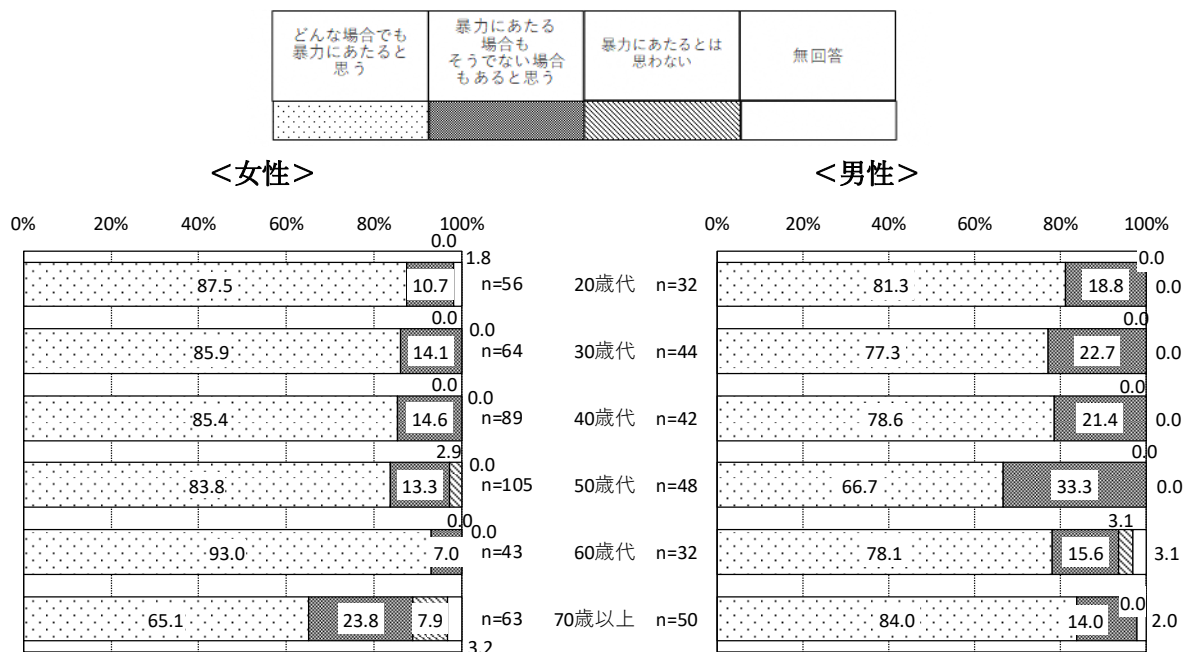
図表Ⅲ-1-6-35 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

【過去の調査との比較】

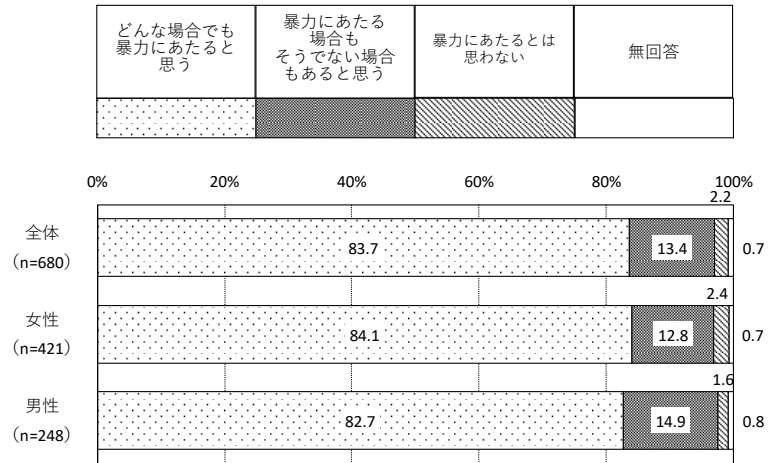


図表Ⅲ-1-6-36 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

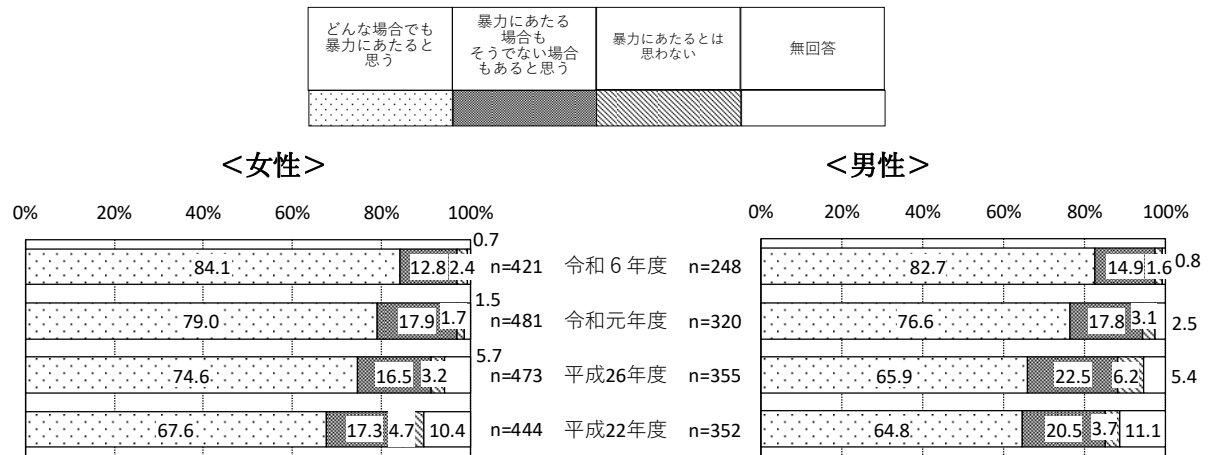
【性別・年代別】



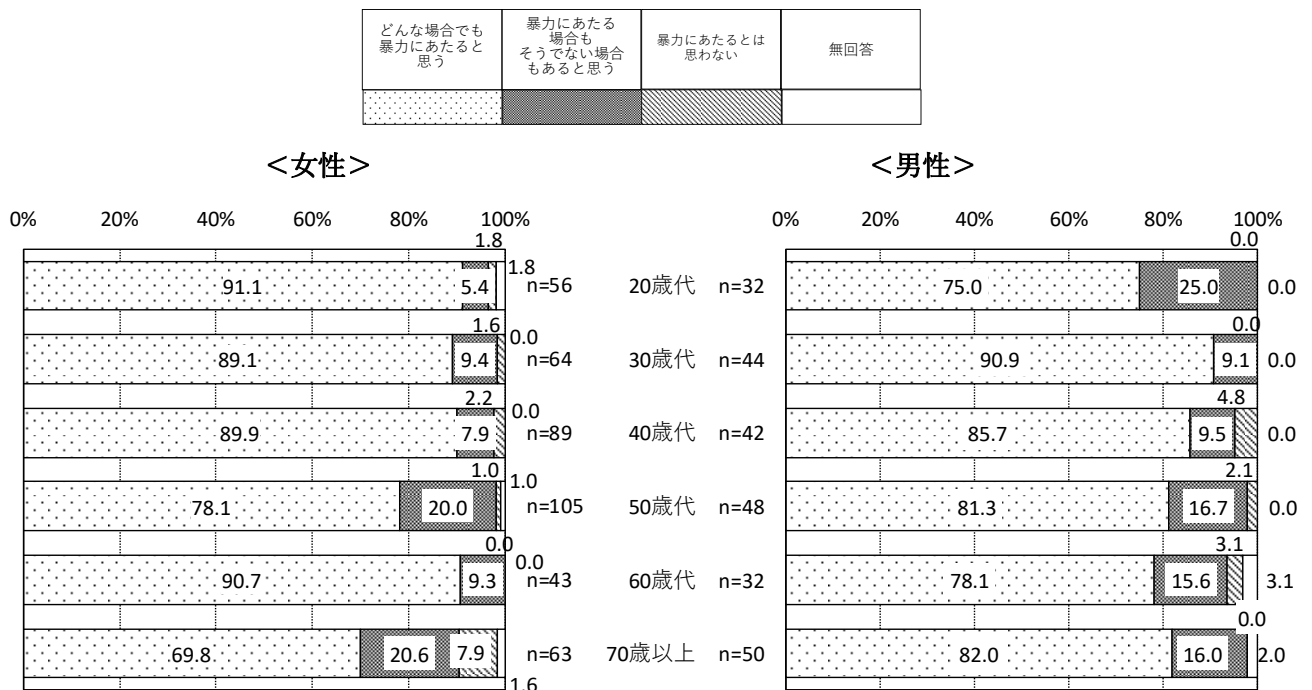
図表Ⅲ -1-6-37 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする



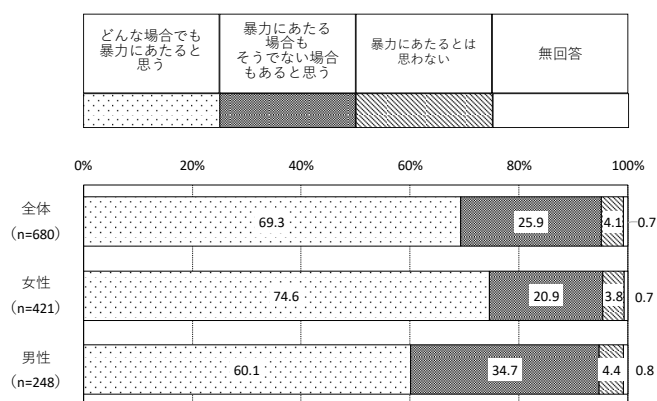
図表Ⅲ-1-6-38 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【過去の調査との比較】



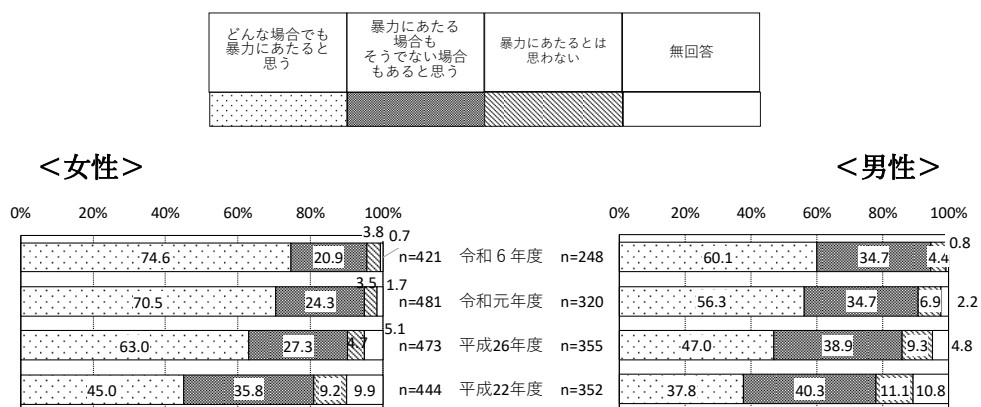
図表Ⅲ-1-6-39 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【性別・年代別】



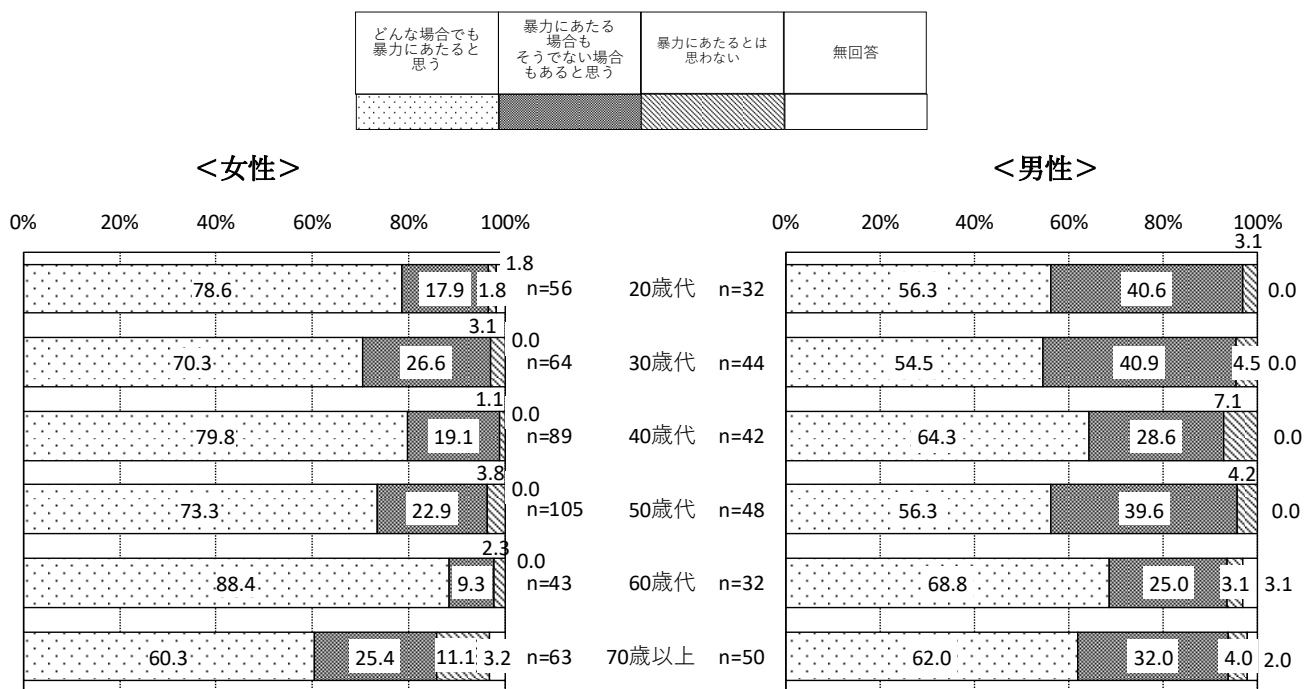
図表Ⅲ -1-6-40 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする



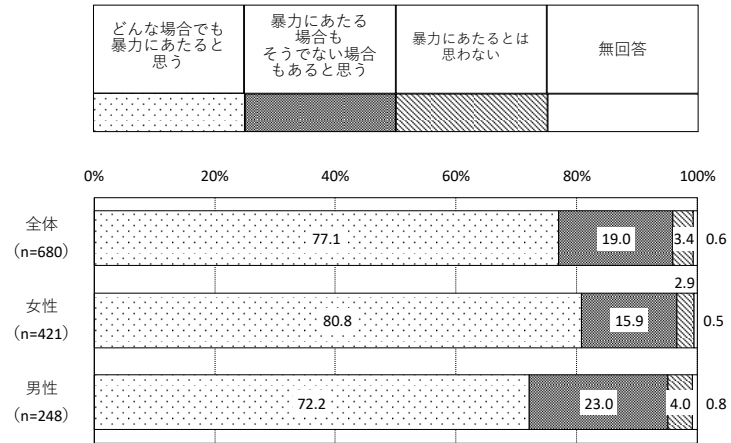
図表Ⅲ-1-6-41 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【過去の調査との比較】



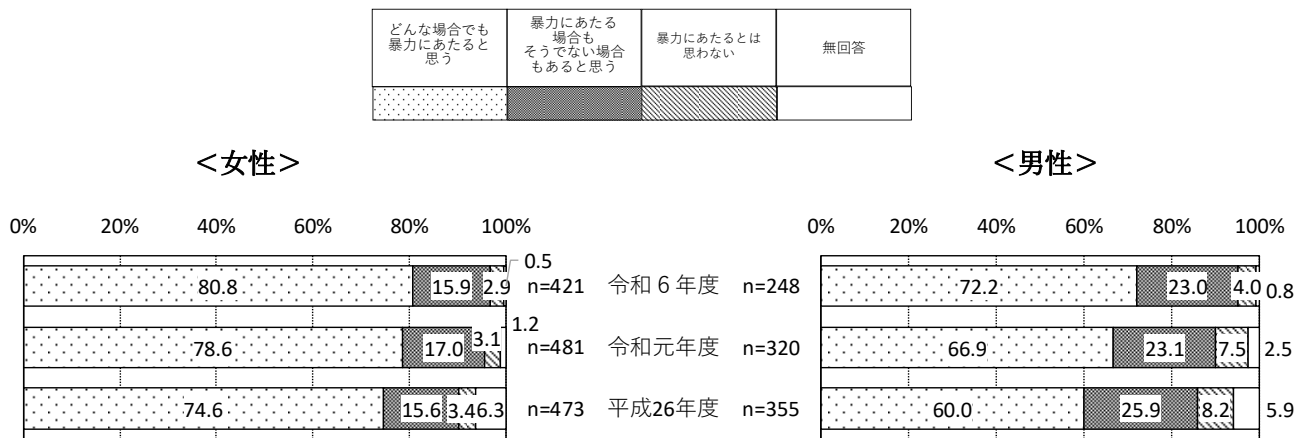
図表Ⅲ-1-6-42 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【性別・年代別】



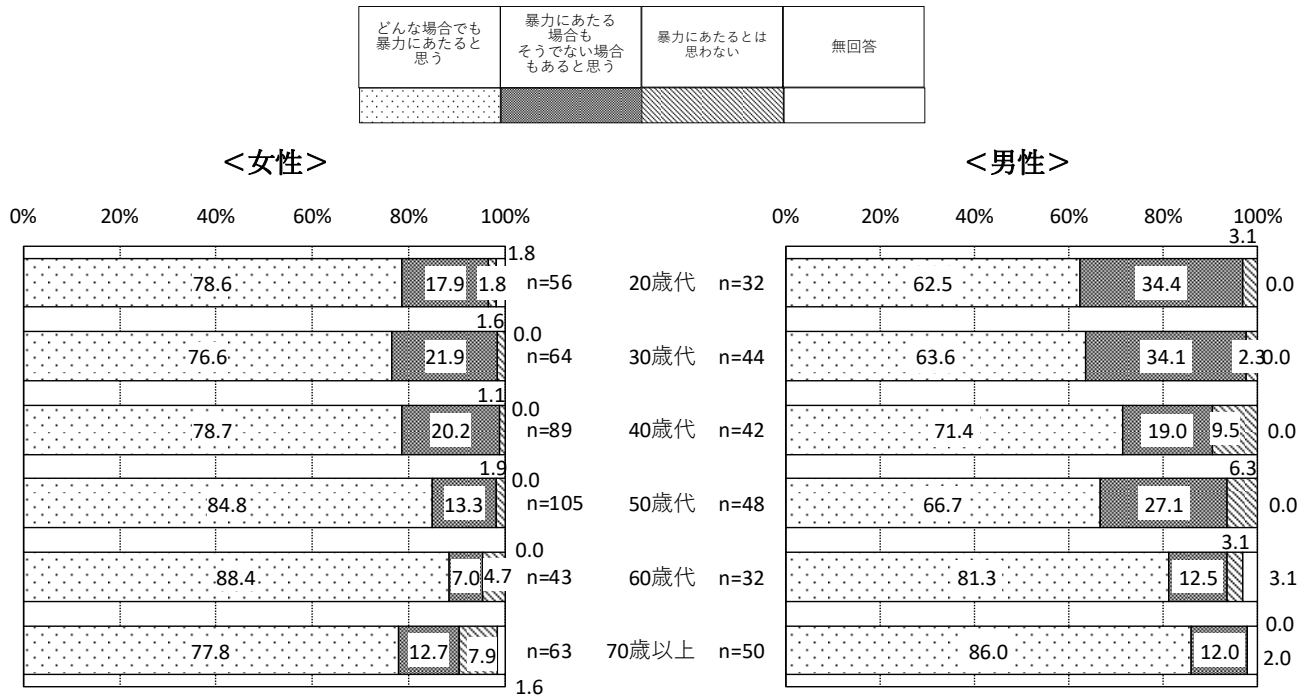
図表Ⅲ -1-6-43 ⑤生活費を渡さない



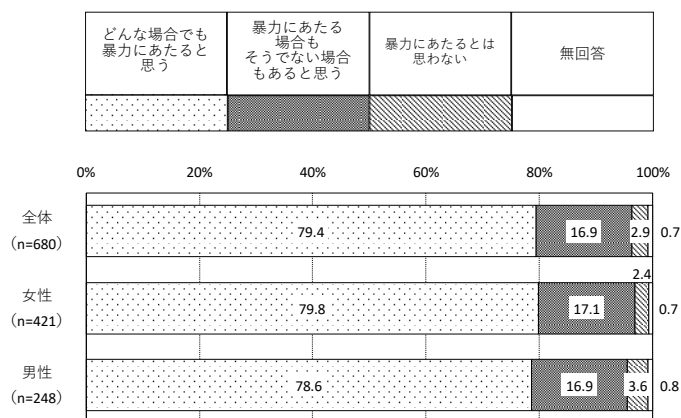
図表Ⅲ-1-6-44 ⑤生活費を渡さない 【過去の調査との比較】



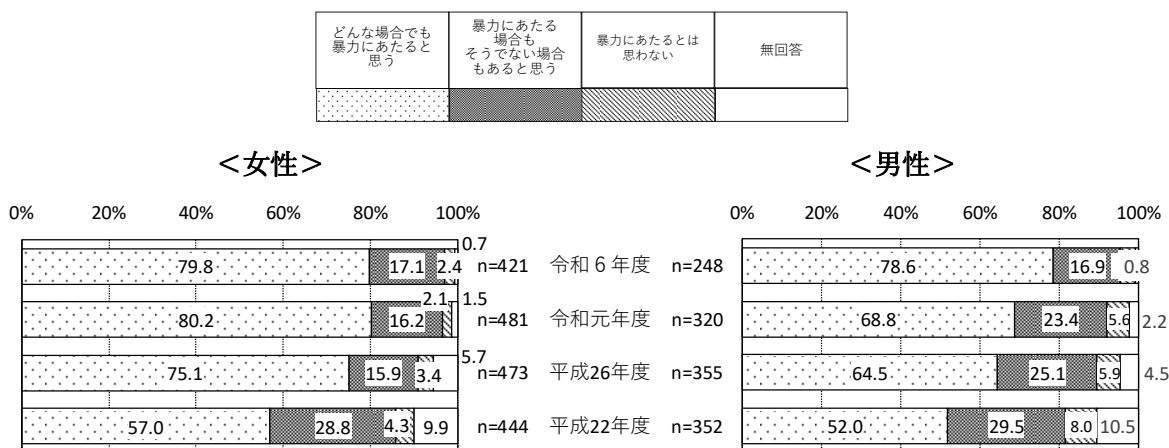
図表Ⅲ-1-6-45 ⑤生活費を渡さない 【性別・年代別】



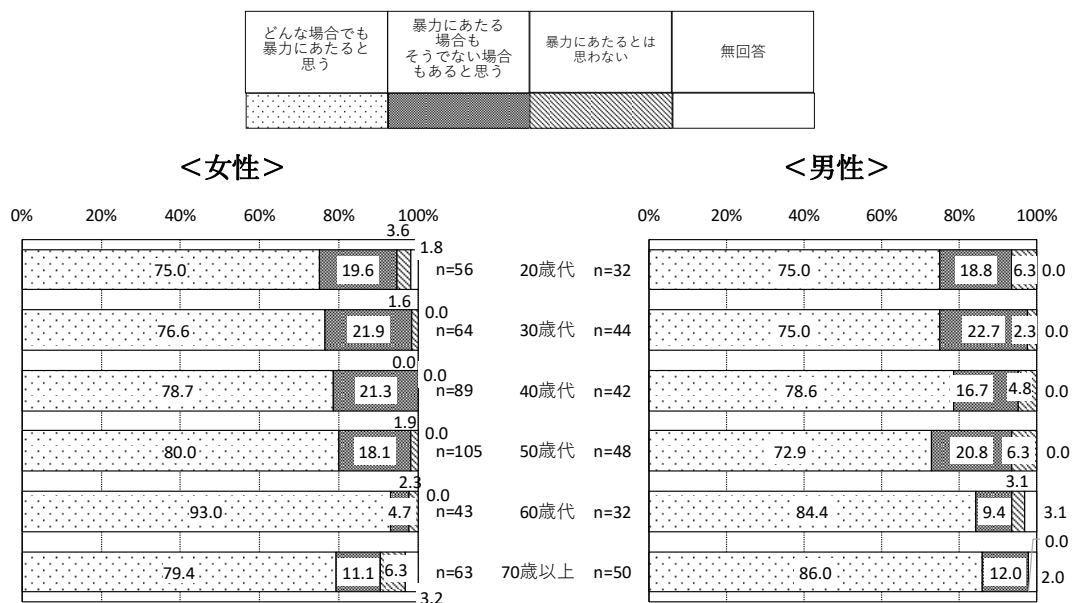
図表Ⅲ -1-6-46 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する



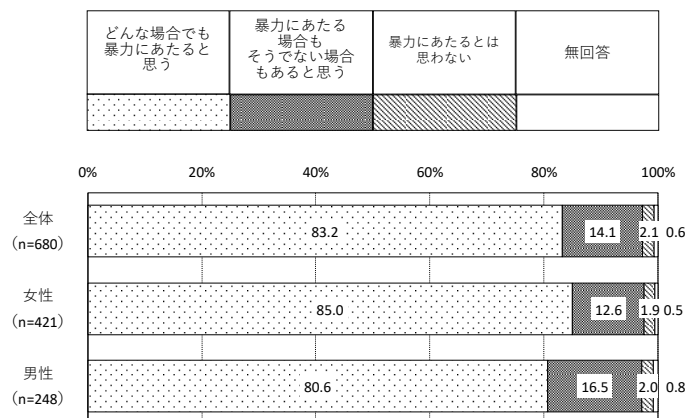
図表Ⅲ-1-6-47 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-48 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【性別・年代別】

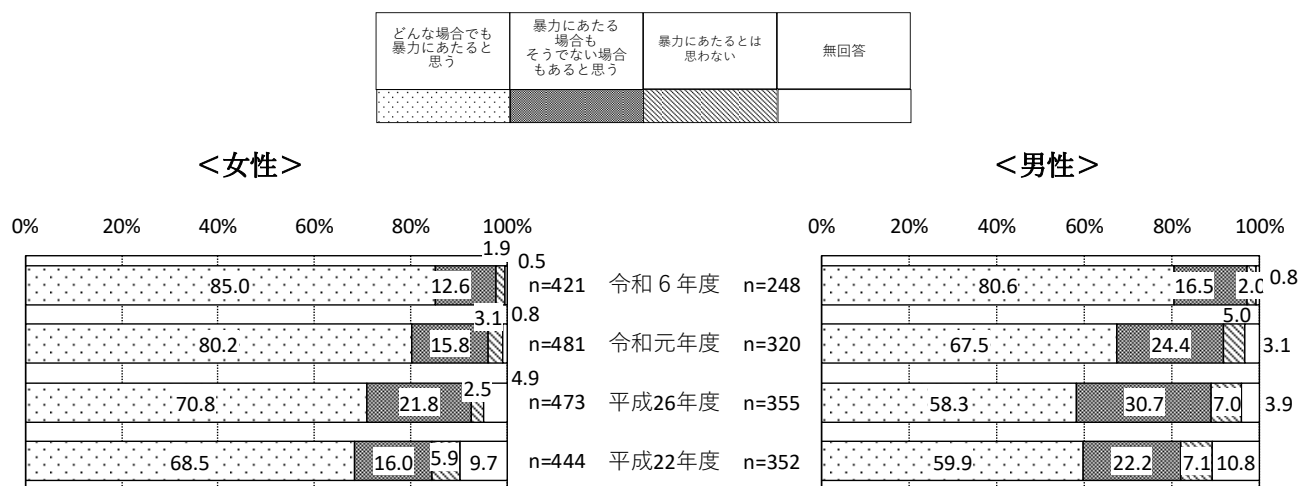


図表Ⅲ -1-6-49 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う



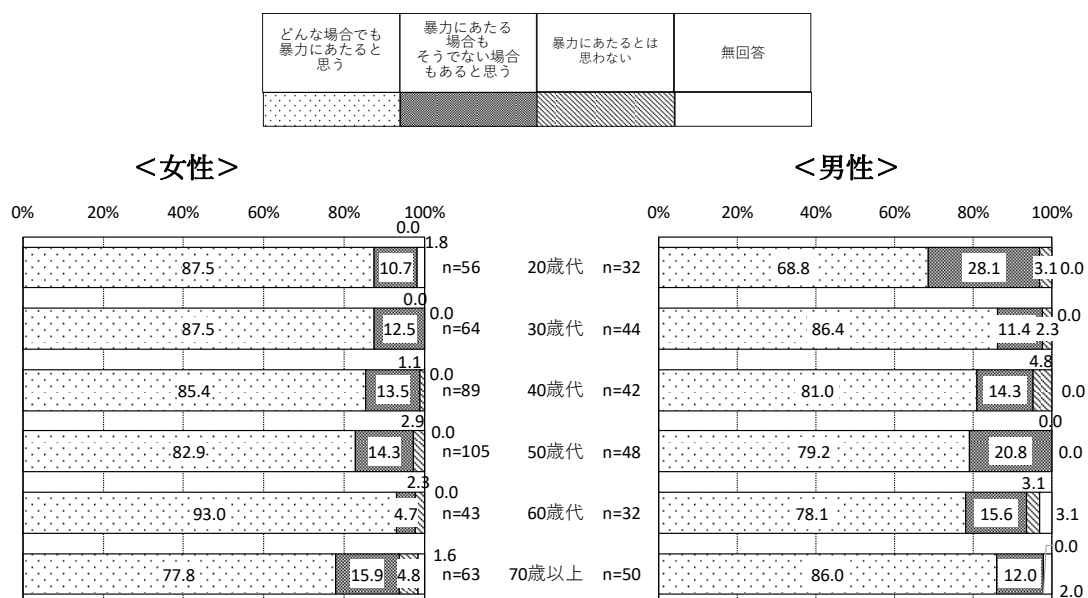
図表Ⅲ-1-6-50 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

【過去の調査との比較】

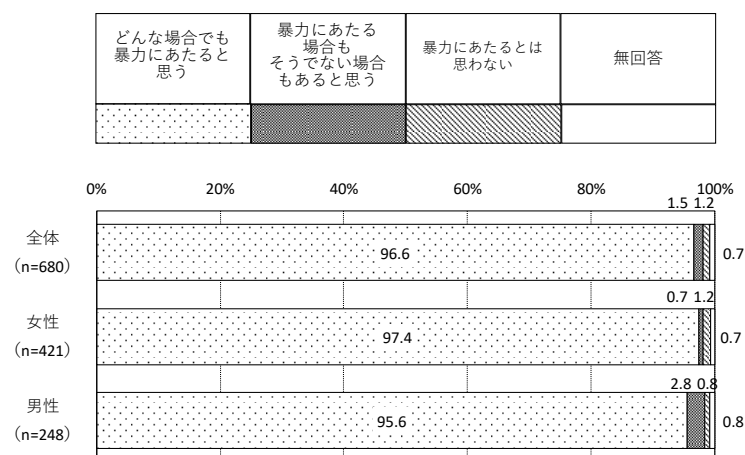


図表Ⅲ-1-6-51 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

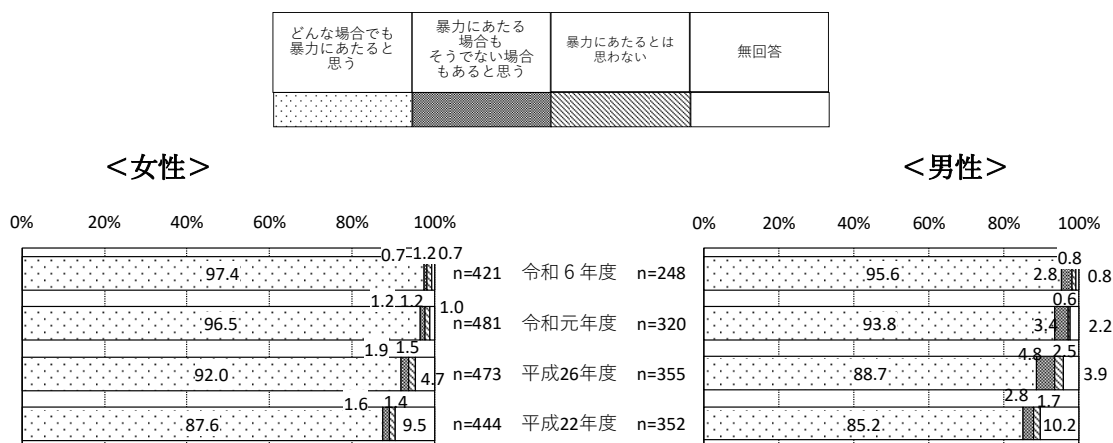
【性別・年代別】



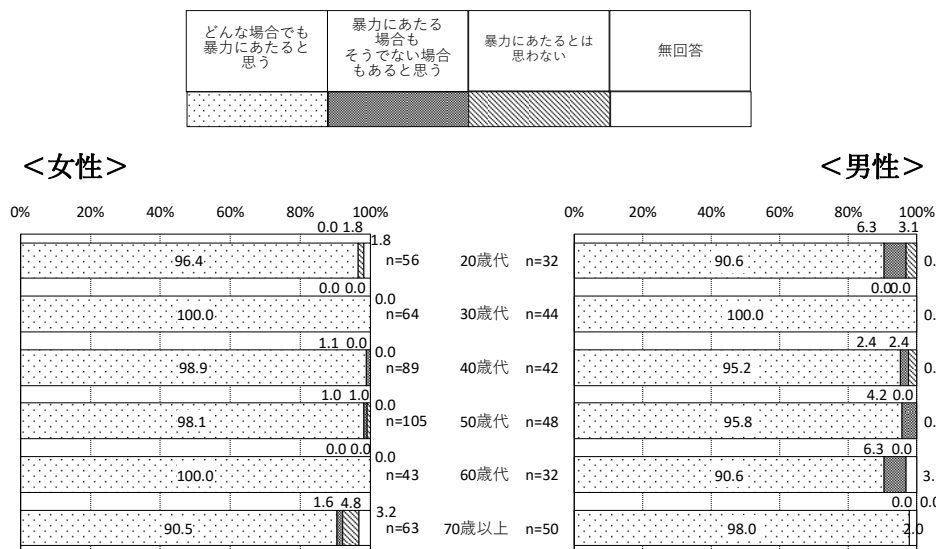
図表Ⅲ -1-6-52 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする



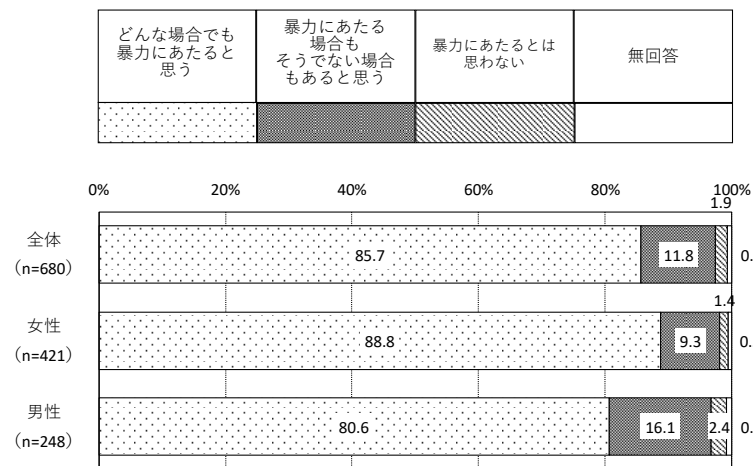
図表Ⅲ-1-6-53 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【過去の調査との比較】



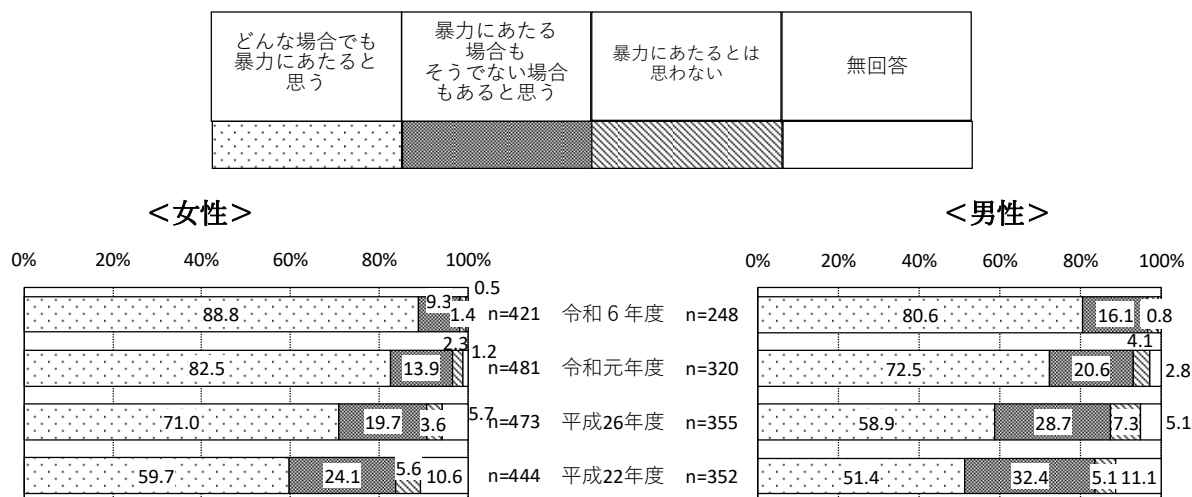
図表Ⅲ-1-6-54 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【性別・年代別】



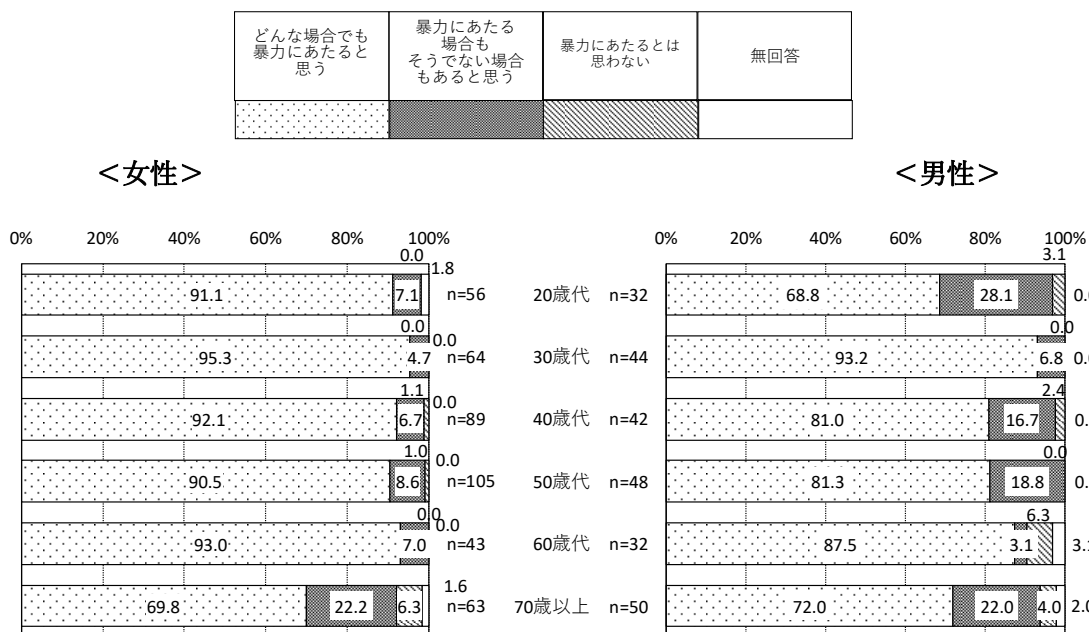
図表Ⅲ -1-6-55 ⑨避妊に協力しない



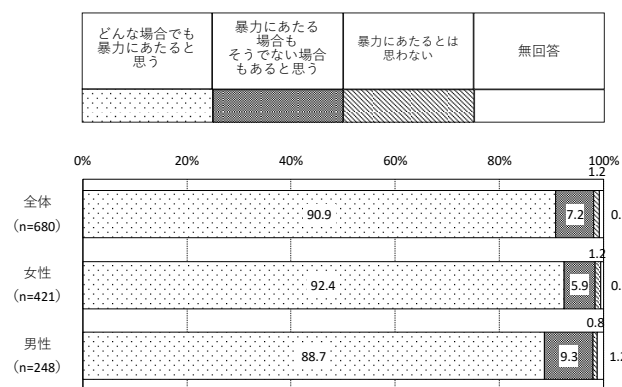
図表Ⅲ-1-6-56 ⑨避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



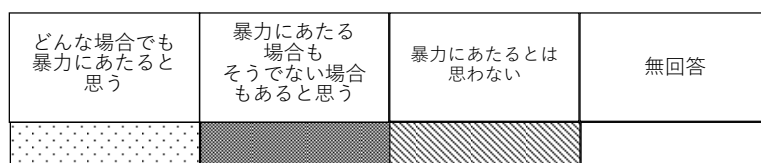
図表Ⅲ-1-6-57 ⑨避妊に協力しない 【性別・年代別】



図表Ⅲ -1-6-58 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う

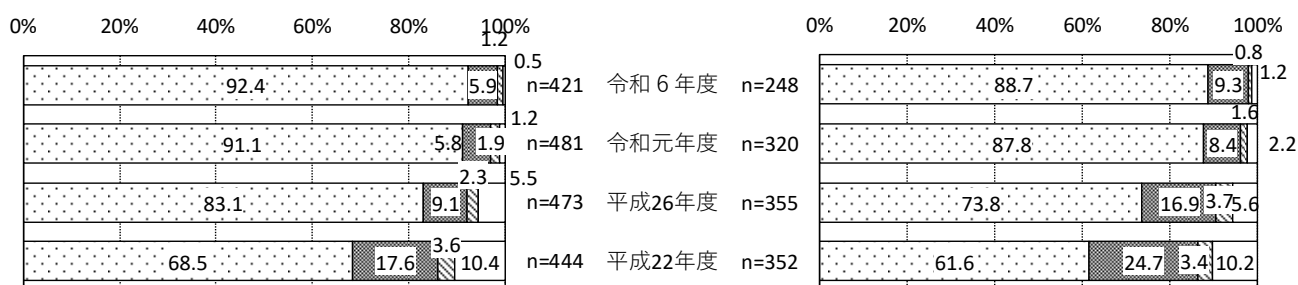


図表Ⅲ-1-6-59 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【過去の調査との比較】

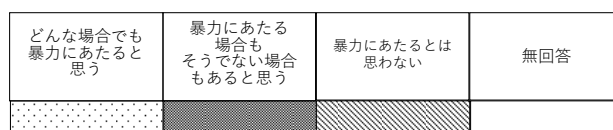


<女性>

<男性>

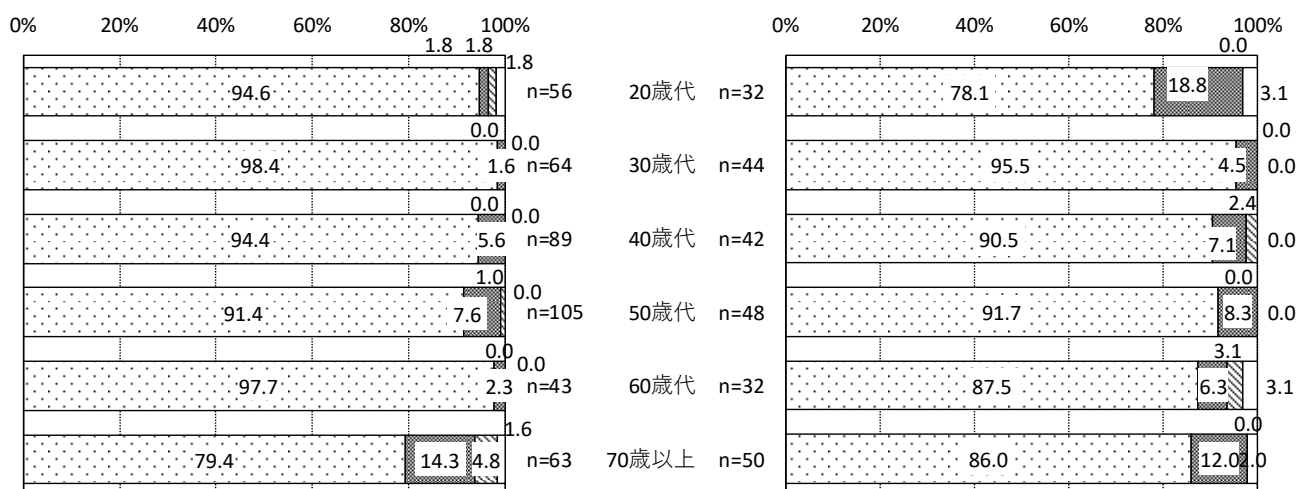


図表Ⅲ-1-6-60 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【性別・年代別】



<女性>

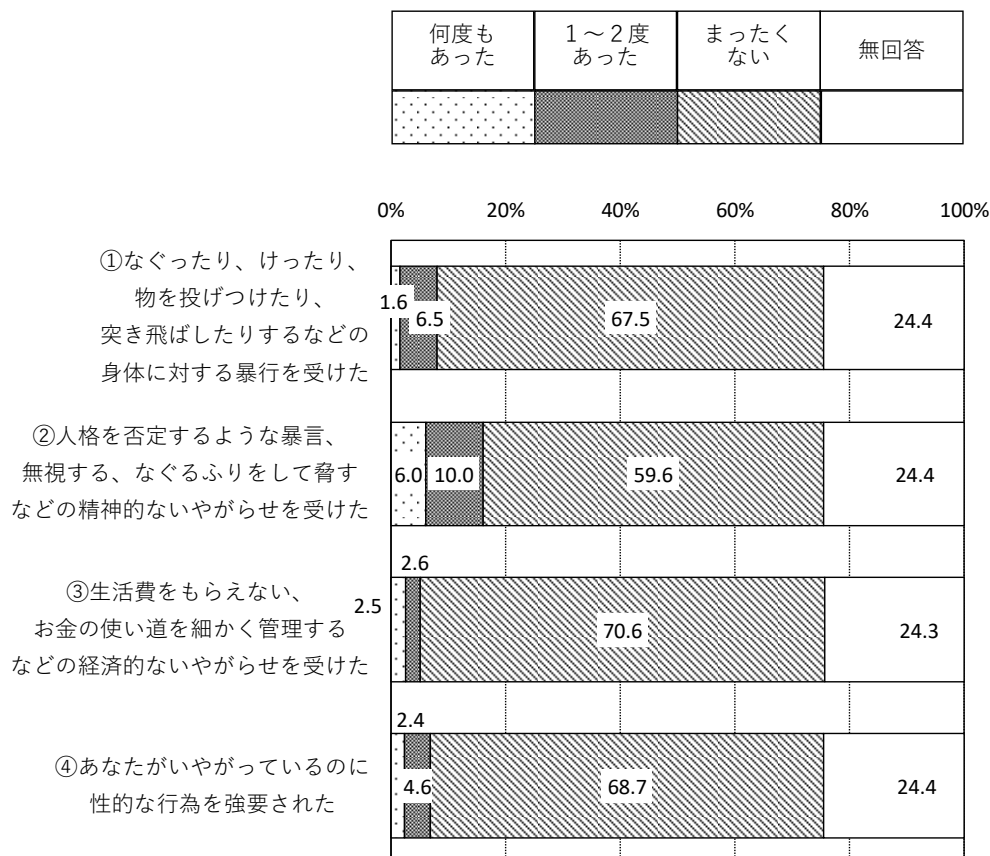
<男性>



④配偶者からのDVの経験

問 14 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に１つ）

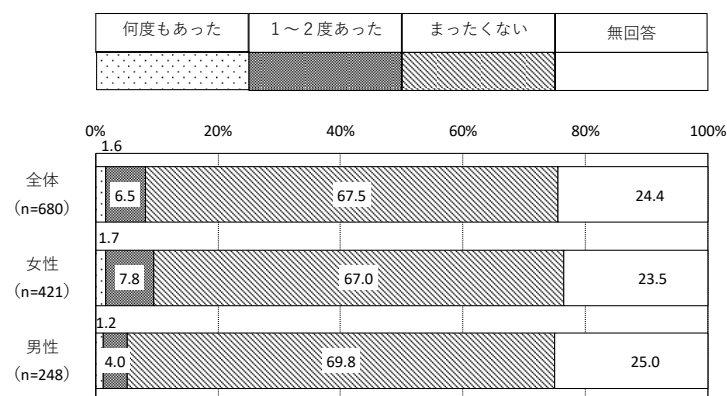
図表Ⅲ-1-6-61 配偶者からのDVの経験



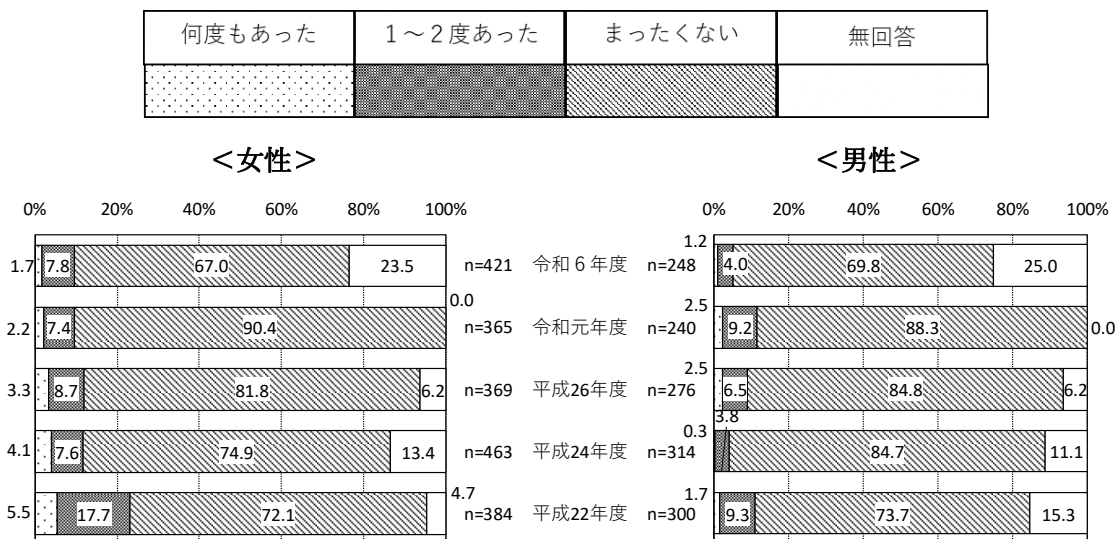
【配偶者からのDVの経験は「人格を否定するような暴言、無視、精神的ないやがらせ」が最多16.0%】

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性9.5%、男性5.2%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性18.3%、男性11.7%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性6.5%、男性2.4%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性9.3%、男性2.8%となっています。

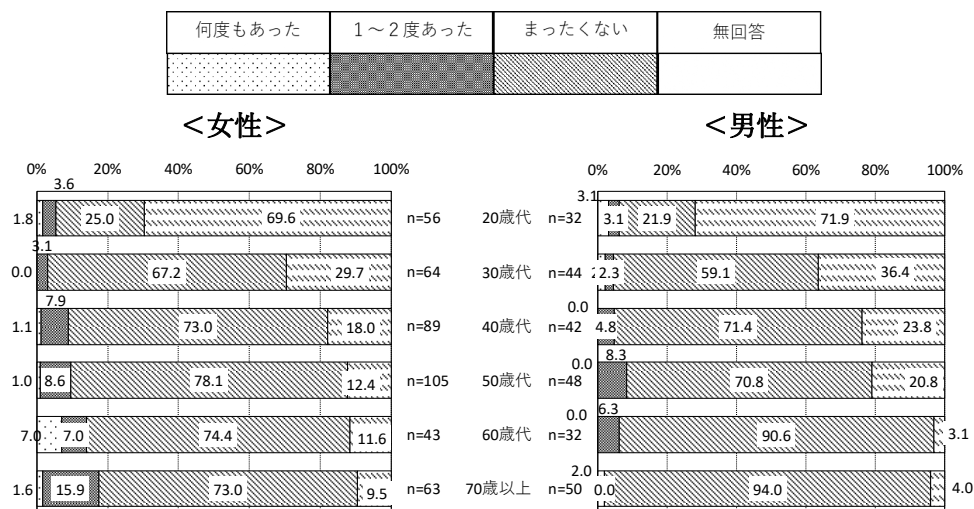
図表Ⅲ -1-6-62 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた



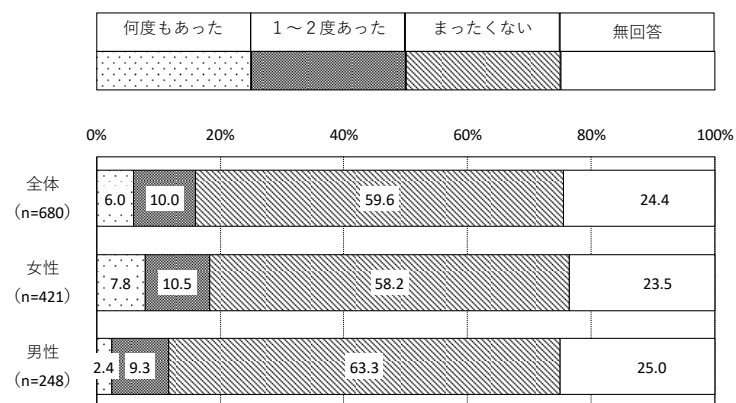
図表Ⅲ-1-6-63 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた 【過去の調査との比較】



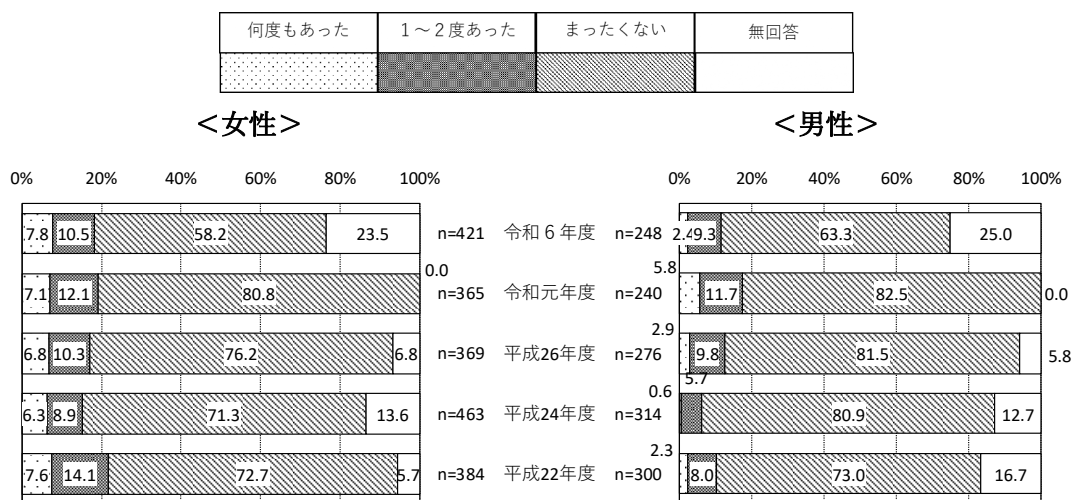
図表Ⅲ-1-6-64 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた 【性別・年代別】



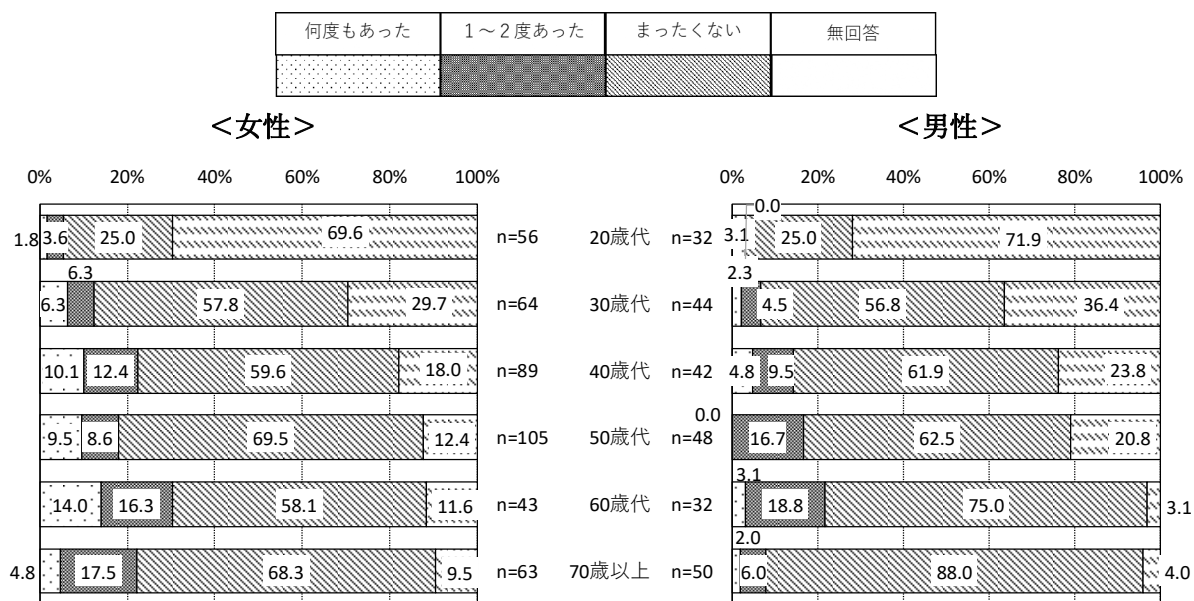
図表Ⅲ -1-6-65 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



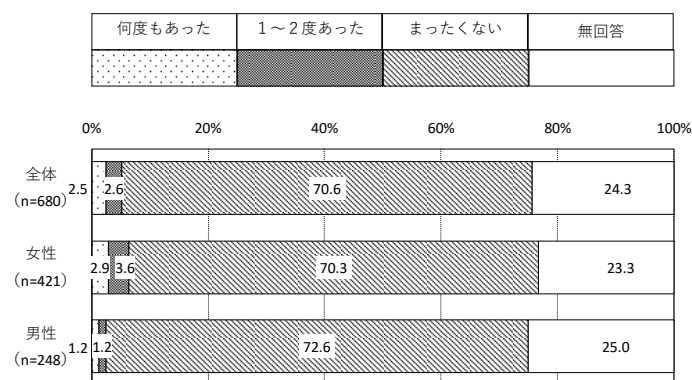
図表Ⅲ-1-6-66 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



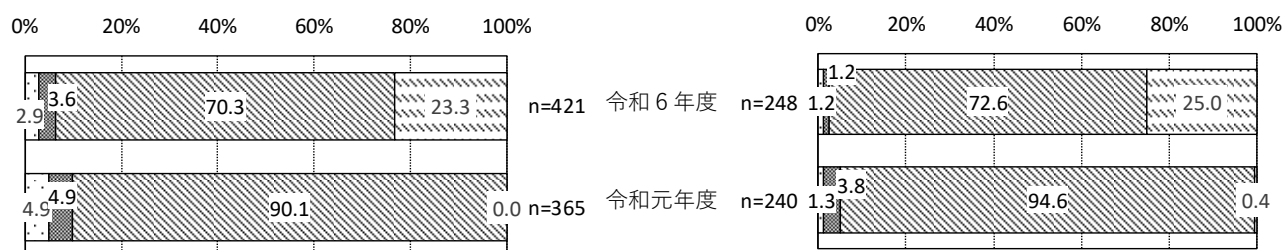
図表Ⅲ-1-6-67 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



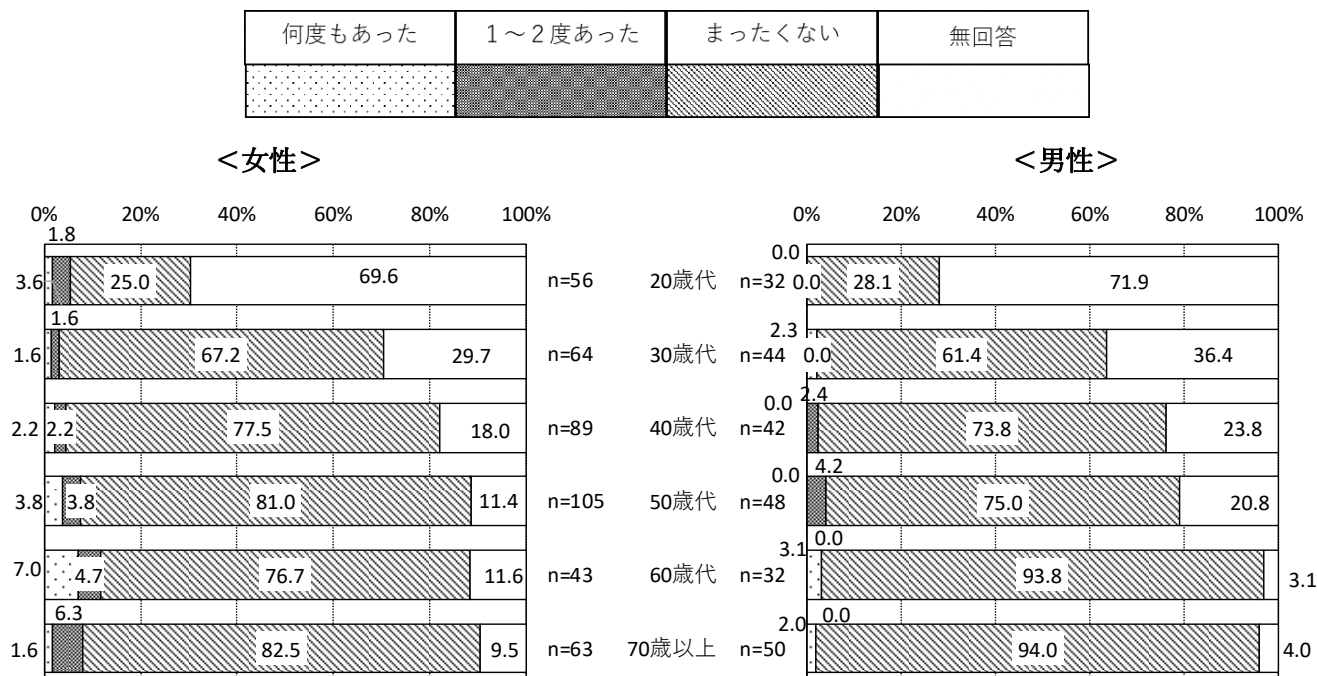
図表Ⅲ-1-6-68 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた



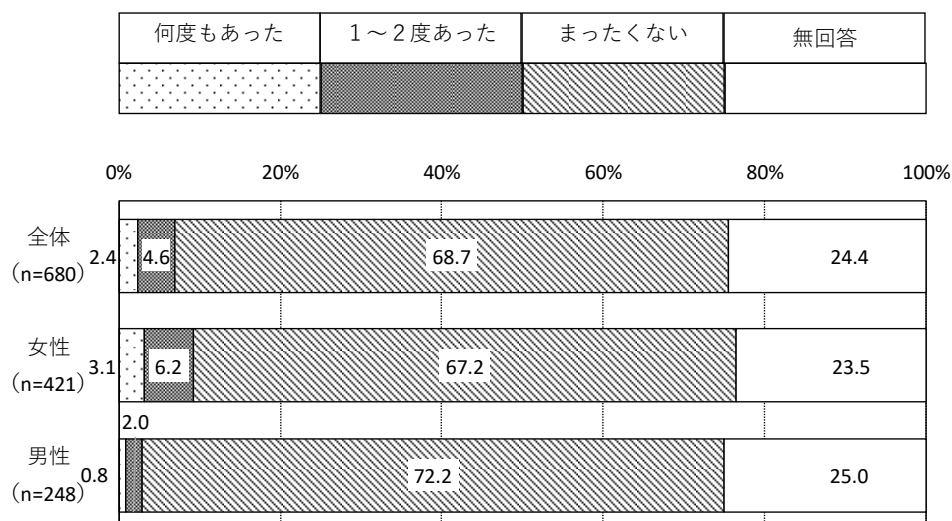
図表Ⅲ-1-6-69 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



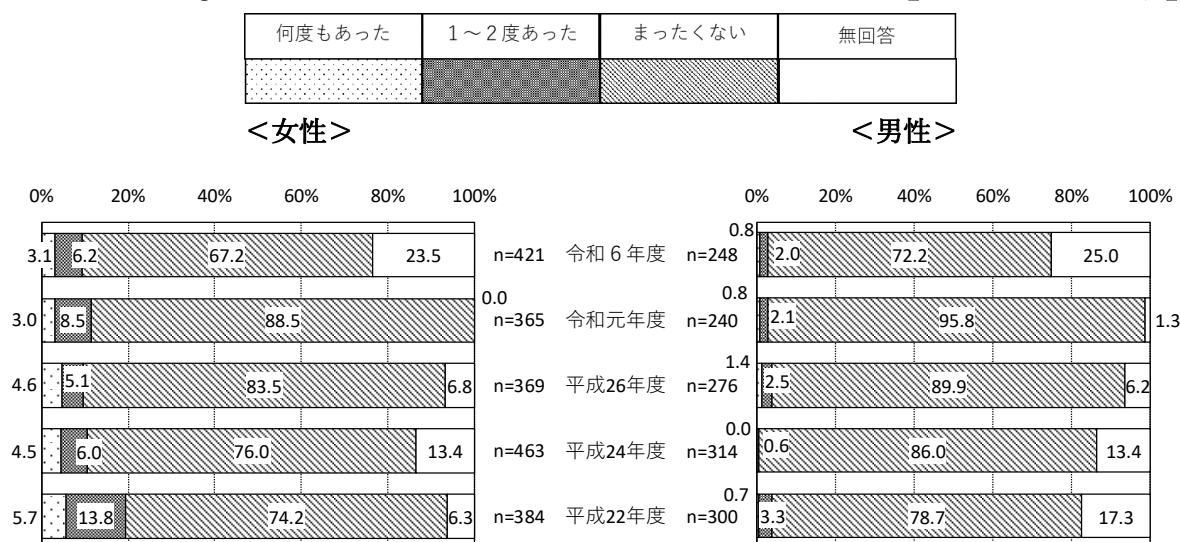
図表Ⅲ-1-6-70 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



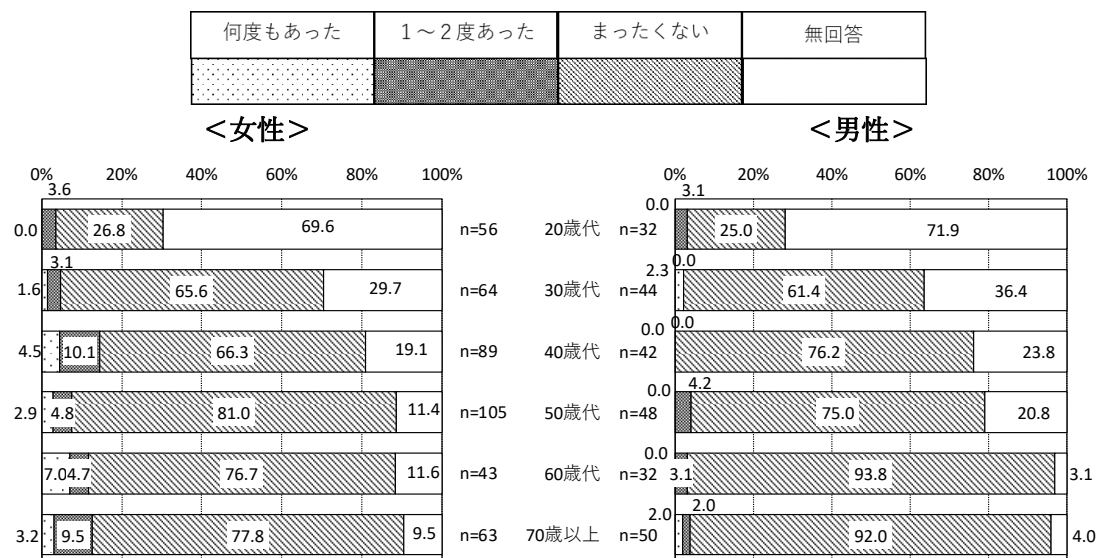
図表Ⅲ -1-6-71 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



図表Ⅲ-1-6-72 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



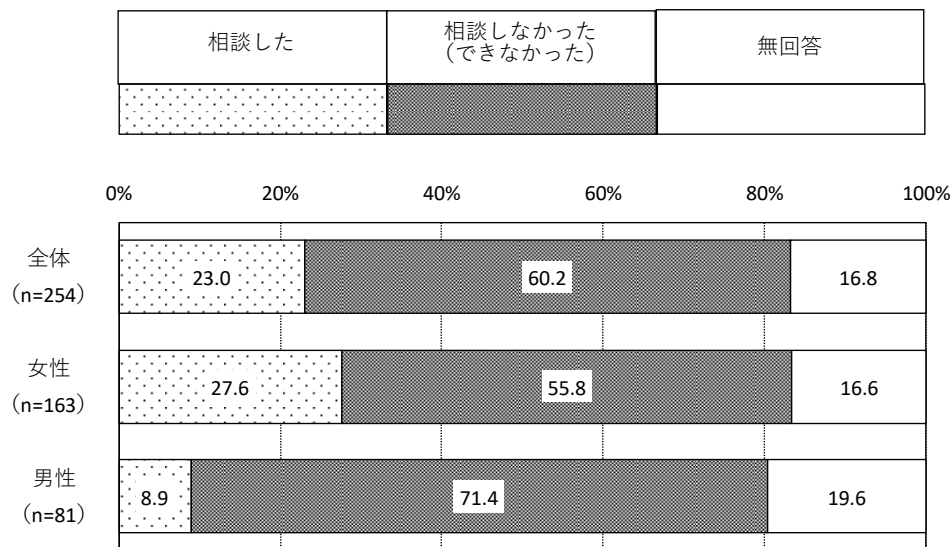
図表Ⅲ-1-6-73 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】



⑤DVを相談したか

問 15 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-6-74 DVを相談したか



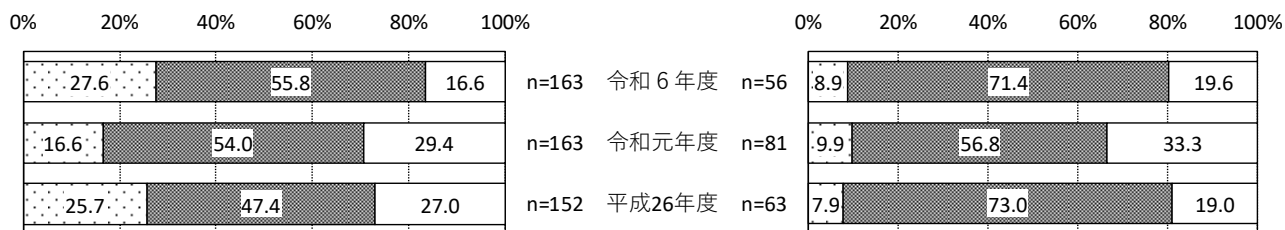
【DVの相談経験は女性で27.6%、男性は8.9%】

DVを相談したかについては、「相談した」が女性27.6%、男性8.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性55.8%、男性71.4%となっています。

図表Ⅲ-1-6-75 DVを相談したか 【過去の調査との比較】

<女性>

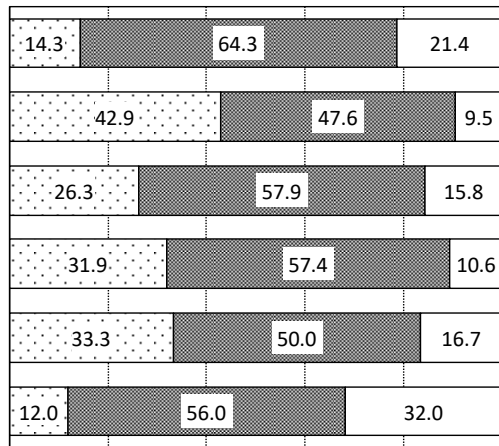
<男性>



図表Ⅲ-1-6-76 DVを相談したか 【性別・年代別】

<女性>

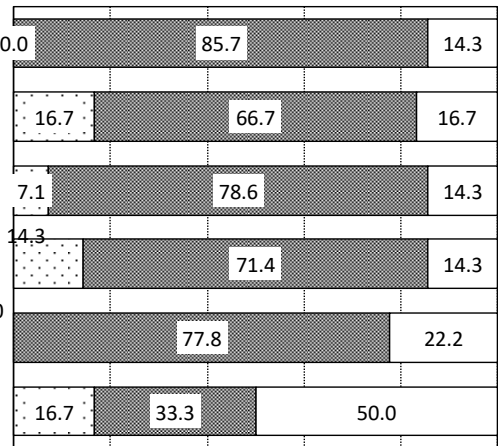
0% 20% 40% 60% 80% 100%



n=14 20歳代
n=21 30歳代
n=38 40歳代
n=47 50歳代
n=18 60歳代
n=25 70歳以上

<男性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

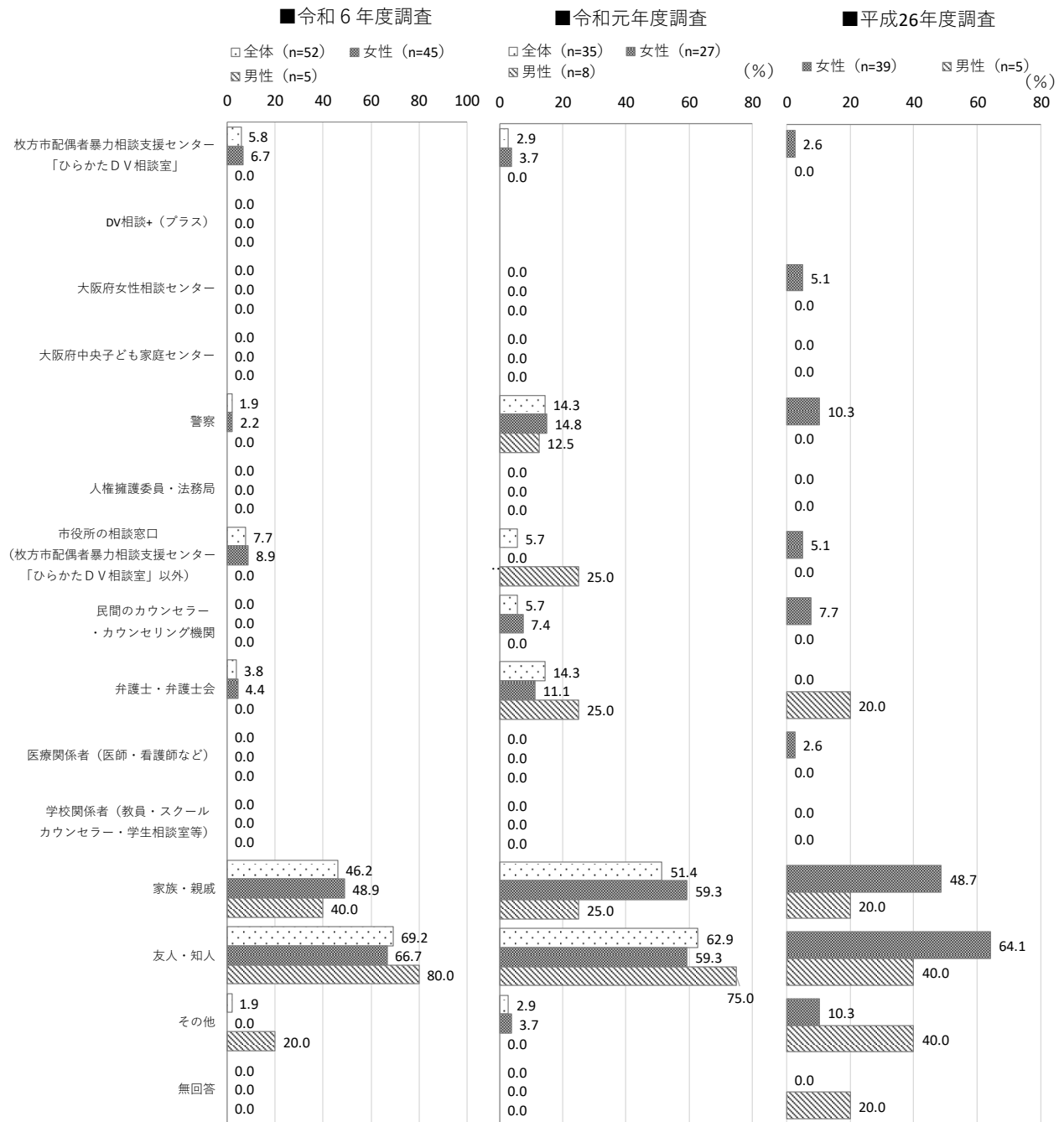


n=7 20歳代
n=6 30歳代
n=14 40歳代
n=14 50歳代
n=9 60歳代
n=6 70歳以上

⑥DVの相談先

問 15－1 あなたはそれをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）

図表Ⅲ -1-6-77 DVの相談先 【過去の調査との比較】



【DVの相談先は「友人・知人」が女性の3分の2、男性の8割で最多】

DVの相談先については「友人・知人」が女性で66.7%、男性は80.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

選択肢によっては件数の少なさによる変動がありますが「家族・親戚」「友人・知人」が多い傾向は変わりません。

図表Ⅲ -1-6-78 DVの相談先【性別年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	枚方市配 センター 「ひらかた DV相談支 援室」	DV相談 ＋（プラス）	大阪府女性 相談セン ター	大阪府中央 子ども家 庭セン ター	警察	人権擁護 委員・法 務局	市役所の 相談窓口 （１以 外）	民間の カウンセ ラー・カ ウンセ リング機 関	弁護士・ 弁護士会	医療関係 者（医師 ・看護師 など）	学校関係 者（教員 ・学生相 談室等）
全体		52	5.8	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0	0.0
性別	女性	45	6.7	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	8.9	0.0	4.4	0.0	0.0
	男性	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	10	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	女性 50歳代	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0
	女性 60歳代	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

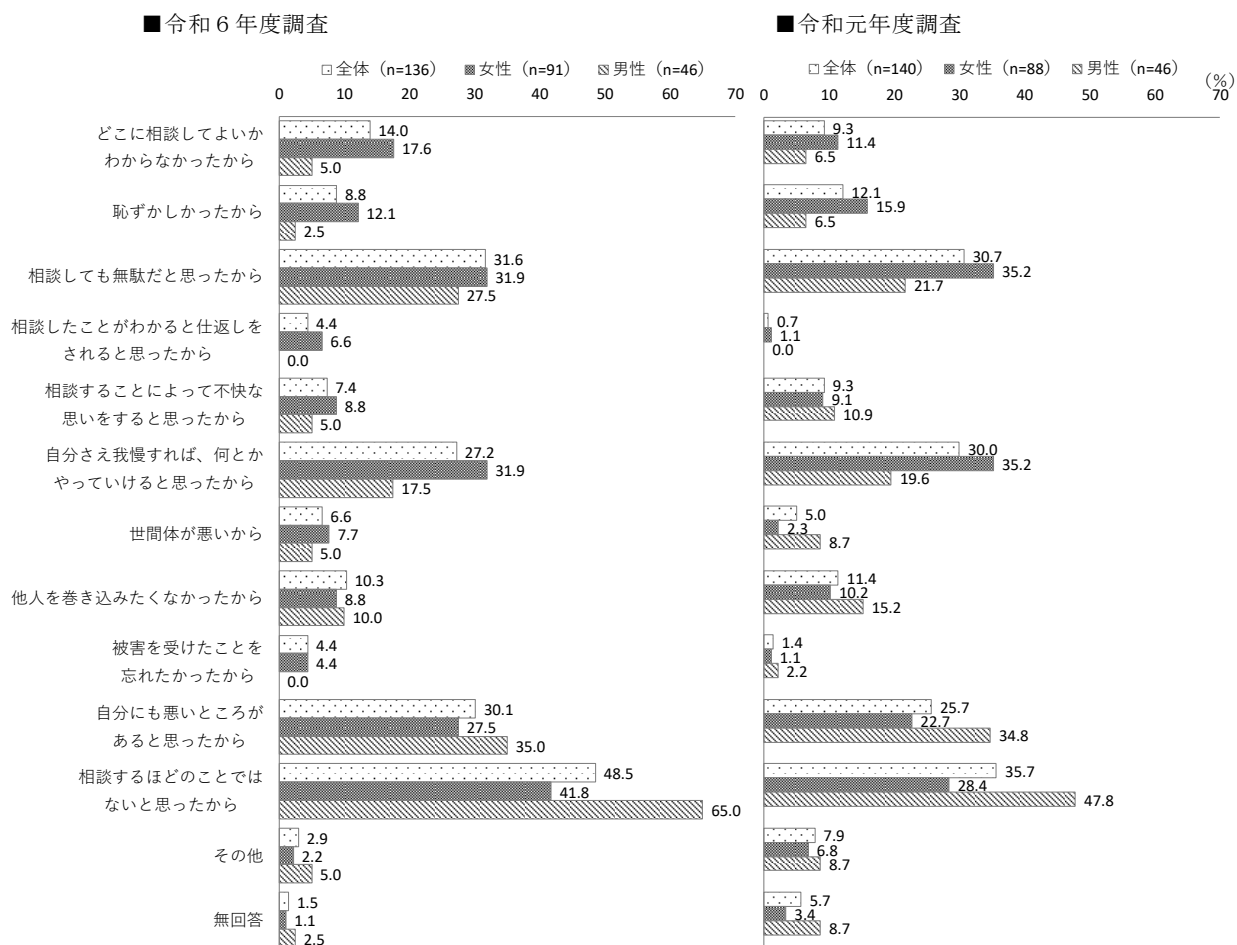
		合計	家族・ 親戚	友人・ 知人	その他	無回 答
全体		52	46.2	69.2	1.9	0.0
性別	女性	45	48.9	66.7	0.0	0.0
	男性	5	40.0	80.0	20.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	2	50.0	100.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	9	66.7	77.8	0.0	0.0
	女性 40歳代	10	50.0	60.0	0.0	0.0
	女性 50歳代	15	33.3	80.0	0.0	0.0
	女性 60歳代	6	33.3	33.3	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	100.0	33.3	0.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	2	50.0	50.0	50.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	100.0	100.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦DVを相談しなかった理由

問 15－2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

図表Ⅲ -1-6-79 DVを相談しなかった理由【過去の調査との比較】



【DVを相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が女性41.8%、男性65.0%で最多】

DVを相談しなかった理由については「相談するほどのことではないと思ったから」が女性で41.8%、男性で65.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

回答の多い項目が「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」という傾向は前回と変わりません。

図表Ⅲ-1-6-80 DVを相談しなかった理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	どこに相談してよいかわからなかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかったから	相談することによって不快な思いをすることになったから	自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	被害を受けたことを忘れたから	自分にも悪いところがあるから
全体		136	14.0	8.8	31.6	4.4	7.4	27.2	6.6	10.3	4.4	30.1
性別	女性	91	17.6	12.1	31.9	6.6	8.8	31.9	7.7	8.8	4.4	27.5
	男性	40	5.0	2.5	27.5	0.0	5.0	17.5	5.0	10.0	0.0	35.0

		合計（実数）	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
全体		136	48.5	2.9	1.5
性別	女性	91	41.8	2.2	1.1
	男性	40	65.0	5.0	2.5

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」意見（主な回答）

<女性>

- そういう人を選んだ自分が悪いと思ったから

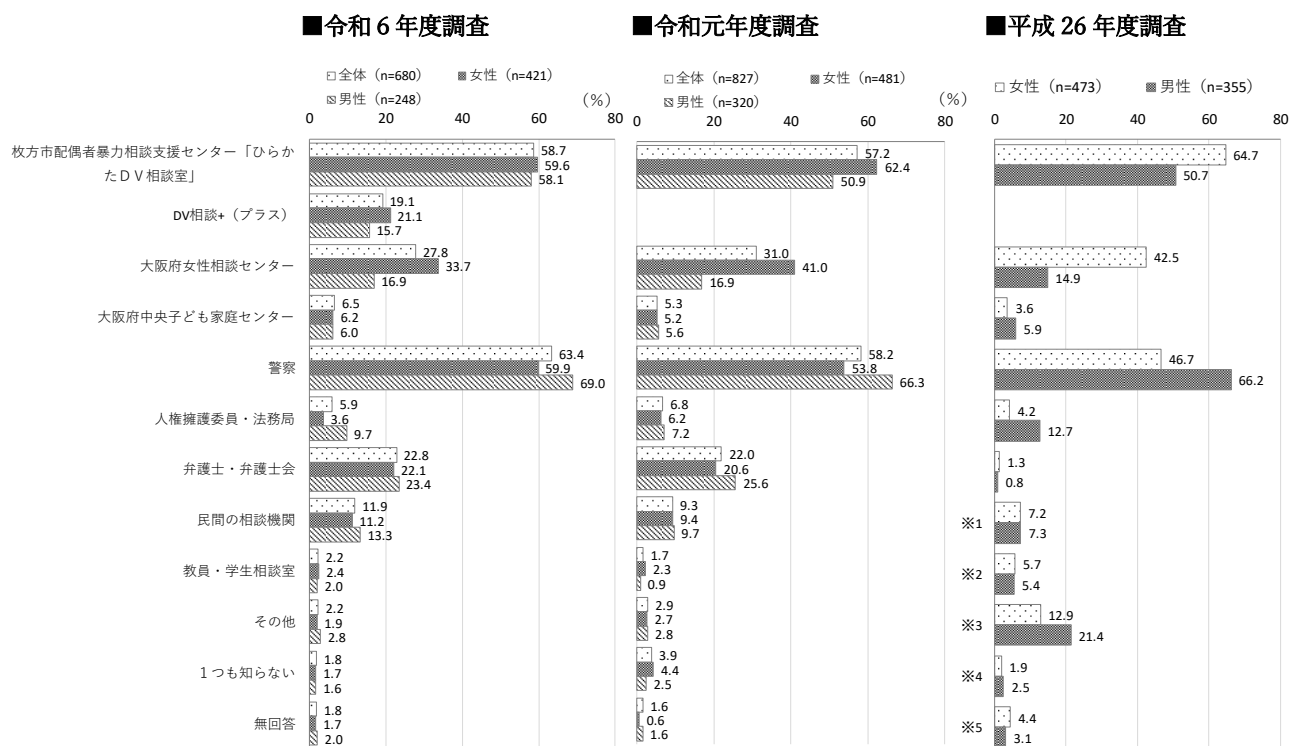
<男性>

- たまに喧嘩したり言い争いはある。時間、話し合いで解決

⑧DVの相談推奨先

問 16 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口相談することをすすめますか。(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-81 DVの相談推奨先 【過去の調査との比較】



(平成26年度 ※1は「民間のカウンセラー・カウンセリング機関」、※2は「学校関係者(教員・スクールカウンセラー・学生相談室等)」、※3は「市役所の相談窓口(枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」以外)」、※4は「医療関係者(医師・看護師など)」、※5は「家族・親戚」です。

【DVの相談推奨先は女性は「ひらかたDV相談室」、男性は「警察」がともに6割以上】

DVの相談推奨先は、女性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター(ひらかたDV相談室)」が59.6%で最も高く、男性は「警察」が69.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

大きな傾向の違いはありませんが、今回から「DV相談+」が追加されています。上記のように平成26年度は選択肢が一部異なります。

図表Ⅲ-1-6-82 DVの相談推奨先【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 (実数)	枚方市配 偶者暴力 相談支 援セン ター― ひらか たDV 相談 室―	D V 相 談 + (プ ラ ス)	大 阪 府 女 性 相 談 セ ン タ ー	大 阪 府 中 央 子 ど も 家 庭 セ ン タ ー	警 察	人 権 擁 護 委 員 ・ 法 務 局	弁 護 士 ・ 弁 護 士 会	民 間 の 相 談 機 関	教 員 ・ 学 生 相 談 室	そ の 他	1 つ も 知 ら な い	無 回 答
全体		680	58.7	19.1	27.8	6.5	63.4	5.9	22.8	11.9	2.2	2.2	1.8	1.8
性別	女性	421	59.6	21.1	33.7	6.2	59.9	3.6	22.1	11.2	2.4	1.9	1.7	1.7
	男性	248	58.1	15.7	16.9	6.0	69.0	9.7	23.4	13.3	2.0	2.8	1.6	2.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	35.7	17.9	30.4	5.4	75.0	1.8	23.2	16.1	5.4	1.8	0.0	3.6
	女性 30歳代	64	50.0	25.0	26.6	3.1	65.6	0.0	23.4	10.9	3.1	4.7	1.6	1.6
	女性 40歳代	89	67.4	22.5	38.2	7.9	62.9	1.1	28.1	10.1	3.4	1.1	0.0	0.0
	女性 50歳代	105	58.1	20.0	33.3	6.7	60.0	3.8	21.0	13.3	0.0	1.9	3.8	0.0
	女性 60歳代	43	72.1	25.6	34.9	7.0	51.2	7.0	25.6	11.6	2.3	2.3	0.0	2.3
	女性 70歳以上	63	73.0	17.5	38.1	6.3	41.3	9.5	11.1	4.8	1.6	0.0	3.2	4.8
	男性 20歳代	32	50.0	18.8	15.6	12.5	62.5	6.3	21.9	15.6	3.1	12.5	0.0	6.3
	男性 30歳代	44	47.7	11.4	18.2	9.1	79.5	4.5	40.9	22.7	0.0	0.0	6.8	0.0
	男性 40歳代	42	59.5	23.8	23.8	7.1	73.8	4.8	19.0	9.5	2.4	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	47.9	12.5	10.4	2.1	75.0	4.2	18.8	10.4	2.1	6.3	0.0	4.2
	男性 60歳代	32	56.3	18.8	25.0	3.1	65.6	12.5	31.3	15.6	3.1	0.0	0.0	3.1
	男性 70歳以上	50	82.0	12.0	12.0	4.0	56.0	24.0	12.0	8.0	2.0	0.0	2.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」意見（主な回答）

<女性>

●親や病院

<男性>

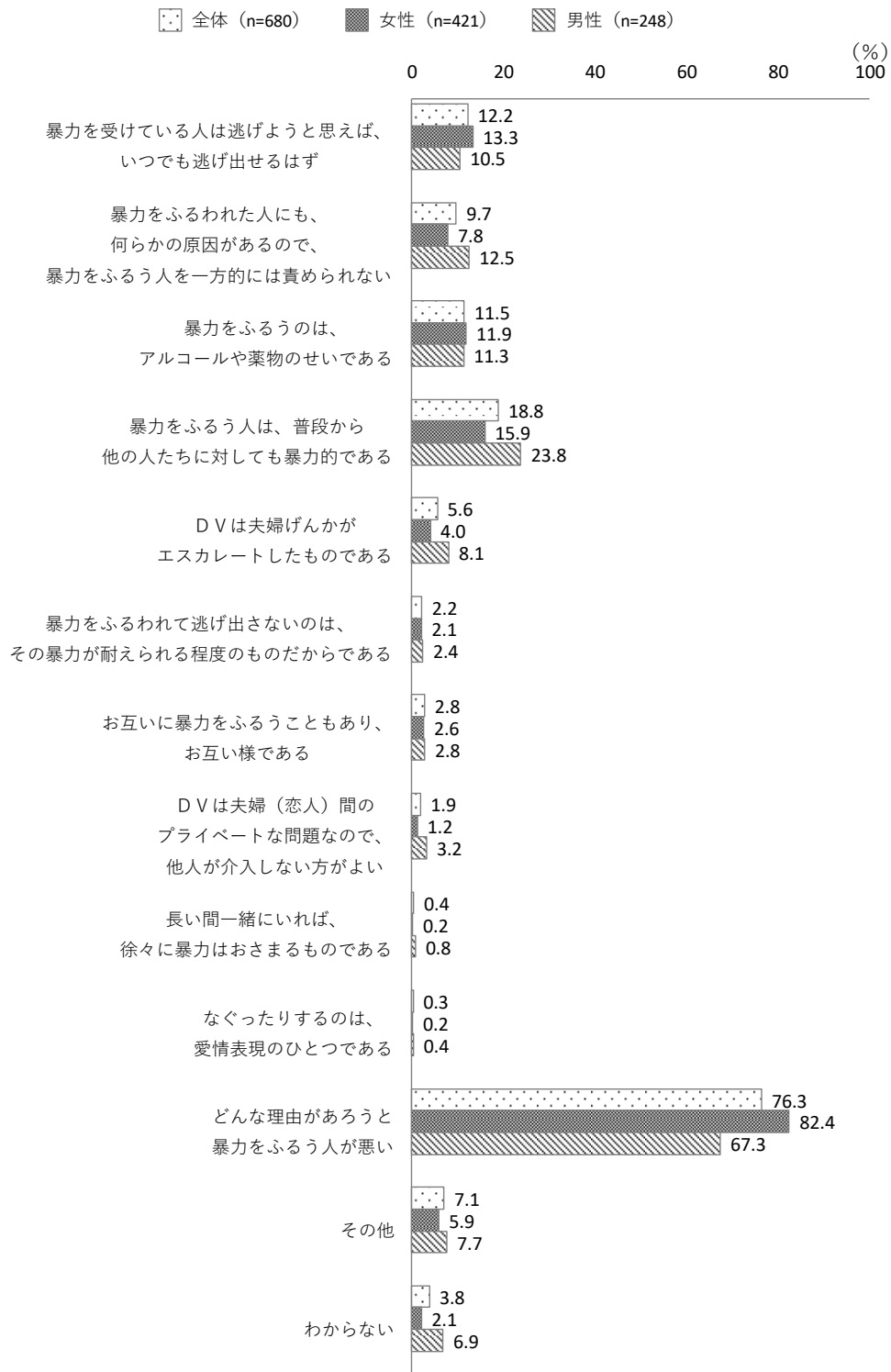
●法テラス

●ネットで他の事例を探してみる

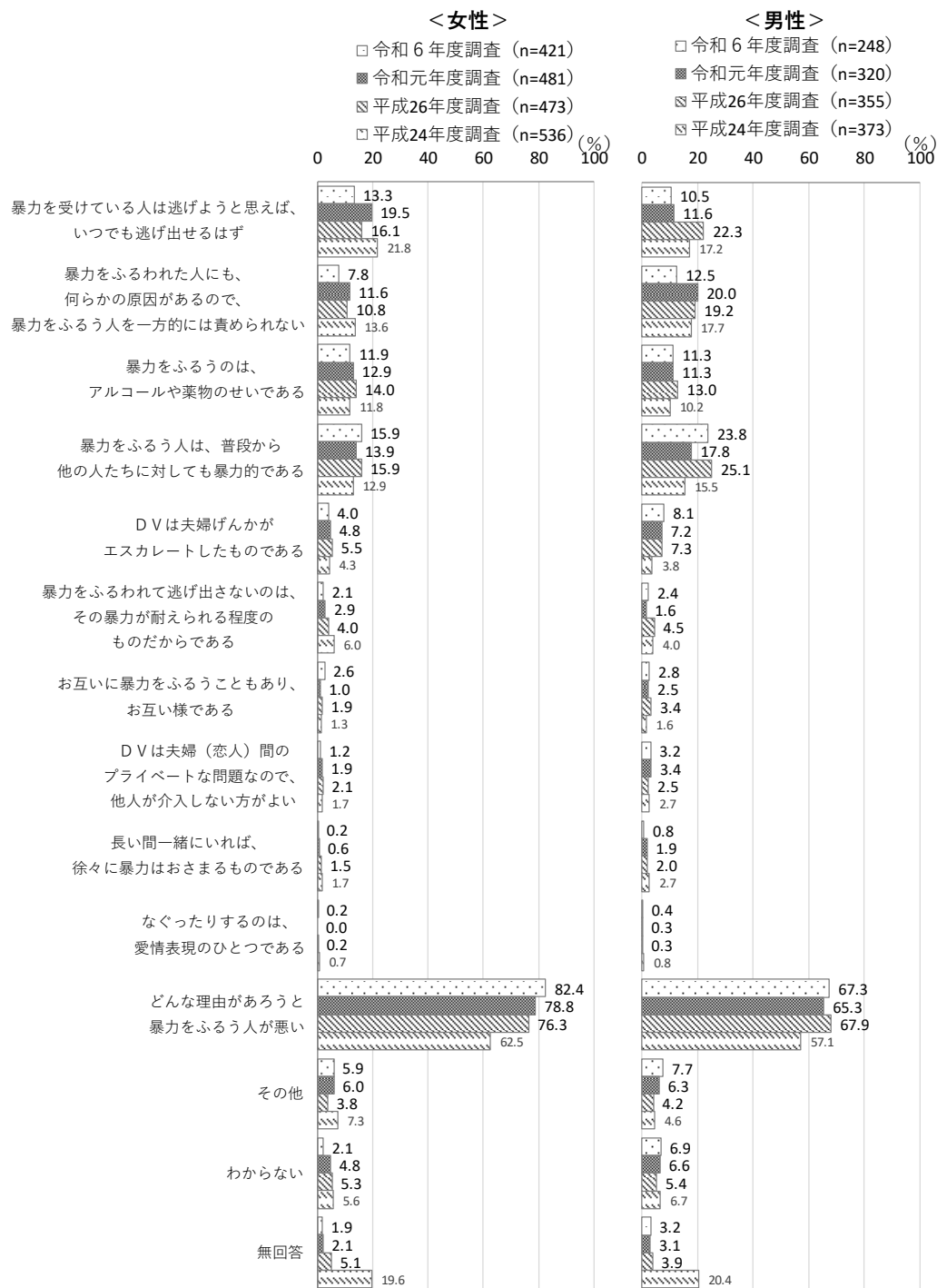
⑨DVについての考え

問 17 配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）

図表Ⅲ -1-6-83 DVについての考え



図表Ⅲ-1-6-84 DVについての考え【過去の調査との比較】



【DVについては「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」が最多で女性 82.4%、男性 67.3%】

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 82.4%、男性 67.3%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 15.9% 男性 23.8%）となっています。

【過去調査との比較】

「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」は以前から最多で、おおむね増加傾向です。

図表Ⅲ-1-6-85 DVについての考え【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	暴力をふるうのは、アルコーンや薬物のせいである	暴力をふるうのは、何らかの原因があるのに、暴力をふるう人を一方的に責められない	暴力を受けている人でも逃げようと思えば、いつでも逃げ出せるはず	暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対して暴力的である	DVは夫婦げんかである	暴力をふるわれるのは、その暴力が耐えられない程度のもので、耐えられる程度のものであれば、暴力をふるわれることは、お互いに暴力をふるうこと	他人が介入しない方がいい	DVは夫婦（恋人）間のプライベートな問題なので、よく	長い間一緒にいれば、徐々に暴力はおさまるものであ	表現のひとりずである、愛情
全体		680	12.2	9.7	11.5	18.8	5.6	2.2	2.8	1.9	0.4	0.3
性別	女性	421	13.3	7.8	11.9	15.9	4.0	2.1	2.6	1.2	0.2	0.2
	男性	248	10.5	12.5	11.3	23.8	8.1	2.4	2.8	3.2	0.8	0.4
性別・年代別	女性 20歳代	56	12.5	10.7	14.3	19.6	3.6	1.8	3.6	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	64	4.7	12.5	12.5	18.8	3.1	1.6	3.1	0.0	0.0	1.6
	女性 40歳代	89	10.1	3.4	15.7	11.2	3.4	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0
	女性 50歳代	105	13.3	5.7	6.7	14.3	2.9	1.0	1.0	1.9	0.0	0.0
	女性 60歳代	43	18.6	4.7	11.6	20.9	4.7	4.7	4.7	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	63	23.8	12.7	12.7	15.9	7.9	6.3	4.8	4.8	0.0	0.0
	男性 20歳代	32	3.1	15.6	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	3.1	3.1	0.0
	男性 30歳代	44	9.1	4.5	6.8	0.0	4.5	0.0	2.3	4.5	0.0	0.0
	男性 40歳代	42	4.8	11.9	16.7	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	6.3	6.3	10.4	0.0	6.3	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	32	21.9	18.8	6.3	0.0	9.4	3.1	3.1	6.3	3.1	3.1
	男性 70歳以上	50	18.0	20.0	14.0	0.0	18.0	8.0	2.0	6.0	0.0	0.0

		合計（実数）	どんな理由があらうと暴力をふるう人が悪い	その他	わからない	無回答
全体		680	76.3	7.1	3.8	2.4
性別	女性	421	82.4	5.9	2.1	1.9
	男性	248	67.3	7.7	6.9	3.2
性別・年代別	女性 20歳代	56	85.7	3.6	0.0	0.0
	女性 30歳代	64	82.8	6.3	0.0	0.0
	女性 40歳代	89	82.0	9.0	2.2	0.0
	女性 50歳代	105	87.6	5.7	1.0	0.0
	女性 60歳代	43	79.1	4.7	4.7	0.0
	女性 70歳以上	63	73.0	4.8	6.3	1.6
	男性 20歳代	32	65.6	3.1	6.3	0.0
	男性 30歳代	44	61.4	15.9	6.8	0.0
	男性 40歳代	42	52.4	9.5	9.5	0.0
	男性 50歳代	48	66.7	10.4	10.4	0.0
	男性 60歳代	32	81.3	3.1	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	78.0	2.0	4.0	2.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 暴力を受けている人は逃げたくても逃げられないので、助けが必要だと思います。
- 子供のこと、後の生活の事も考えて行動しなければいけない
- 双方に問題がある為、いち早く第三者が介入し適切な対応を図るべきである
- 親から暴力を受けて育った人は、恋人や配偶者から殴られてもそれが普通だと思っています
- 暴力をふるわれている人が逃げたら子供が会えなくなる可能性があると思っているから逃げられないです。
- 当事者それぞれの理由があると思うから
- 口の暴力もあります
- 暴力以外でも精神的な嫌がらせも DV にあたる女性は男性の私有物ではない。個人として尊重すべき。
- 1つ1つ同じケースはないと思う
- 暴力から逃げられない様々な事情はあるだろうが最終的には本人の覚悟や決意が DV にどう立ちむかっていくか重要な事である
- どんな理由があろうと暴力はふるってはいけない
- 言葉の暴力をふるっても暴力と思わない人もいる。
- DV は心の病だから治療を勧める。受けている人は共依存だから抜け出すのが難しいから周りが気付いて救い出してほしい。
- 自分を抑えられない＝暴力になるほどこれに関しては家庭をもつべき人ではないと思っています。どうなるか人の気持ちを想像できない人は子育ても夫婦で寄り添い、協力していくことができないということなので。

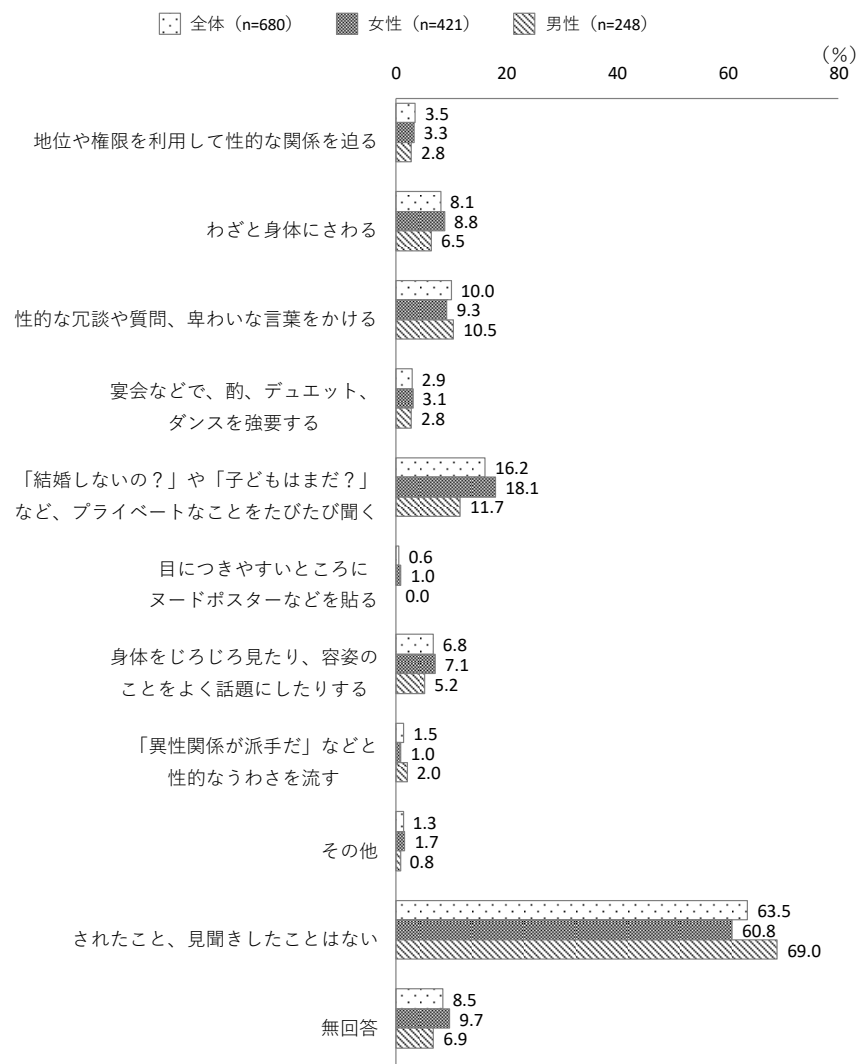
<男性>

- 事情も知らずに上記 1～11 のように思う（決めつける）のはダメ
- 上記全部ちがう。
- 近い意見は1つもない
- 暴力と DV はもっと細かく分けてもらわないと判断できない

⑩セクシャル・ハラスメントの接触経験

問 18 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-86 セクシャル・ハラスメントの接触経験



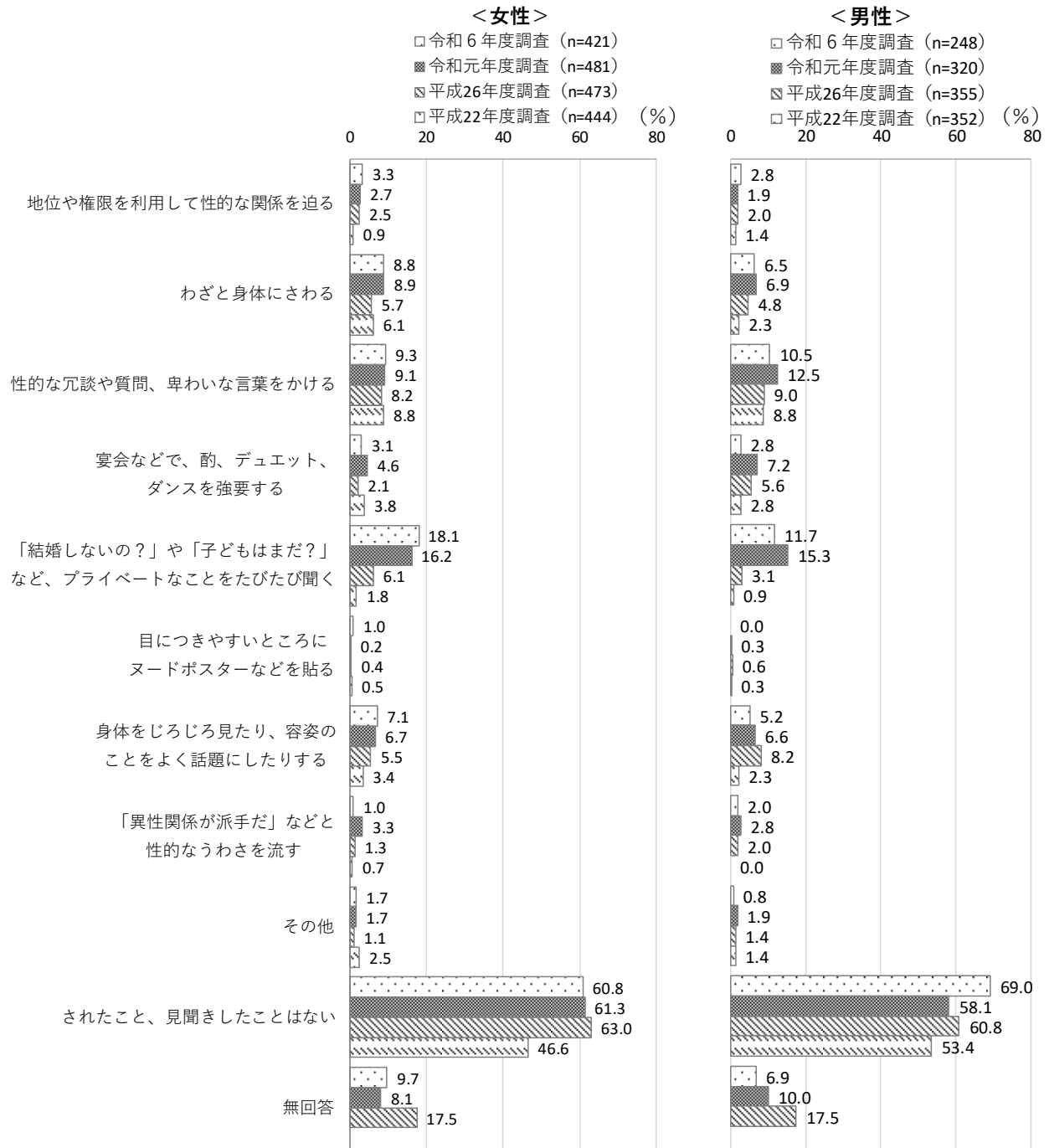
【セクシャル・ハラスメントの経験は「結婚しないの?」「子どもはまだ?」と聞くことが最多で16.2%】

セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性60.8%、男性69.0%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「結婚しないの?」や「子どもはまだ?」など、プライベートなことをたびたび聞く(女性18.1%、男性11.7%)が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」(女性9.3%、男性10.5%)となっています。

【過去調査との比較】

大きな変化はありませんが「されたこと、見聞きしたことはない」が6割前後で推移しています。

図表Ⅲ-1-6-87 セクシャル・ハラスメントの接触経験 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-88 セクシャル・ハラスメントの接触経験【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	地位や権限を利用して性的な関係を迫る	わざと身体にさわる	性的な冗談や質問、卑わいな言葉をかける	宴会などで、酌、デュエット、ダンスを強要する	聞く 「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く	目につきやすいところにヌードポスターなどを貼る	身体をじろじろ見たり、容姿のことをよく話題にした りする	「異性関係が派手だ」などと性的なうわさを流す	その他	されたこと、見聞きしたことはない	無回答
全体		680	3.5	8.1	10.0	2.9	16.2	0.6	6.8	1.5	1.3	63.5	8.5
性別	女性	421	3.3	8.8	9.3	3.1	18.1	1.0	7.1	1.0	1.7	60.8	9.7
	男性	248	2.8	6.5	10.5	2.8	11.7	0.0	5.2	2.0	0.8	69.0	6.9
性別・年代別	女性 20歳代	56	3.6	5.4	17.9	3.6	35.7	1.8	8.9	1.8	0.0	50.0	1.8
	女性 30歳代	64	4.7	17.2	17.2	6.3	29.7	1.6	17.2	1.6	1.6	50.0	3.1
	女性 40歳代	89	4.5	11.2	10.1	3.4	20.2	1.1	5.6	1.1	1.1	64.0	3.4
	女性 50歳代	105	3.8	9.5	6.7	3.8	11.4	1.0	6.7	1.0	1.0	68.6	9.5
	女性 60歳代	43	2.3	4.7	2.3	0.0	4.7	0.0	4.7	0.0	7.0	65.1	16.3
	女性 70歳以上	63	0.0	1.6	1.6	0.0	7.9	0.0	0.0	0.0	1.6	60.3	28.6
	男性 20歳代	32	3.1	15.6	21.9	6.3	15.6	0.0	9.4	3.1	0.0	65.6	0.0
	男性 30歳代	44	2.3	2.3	22.7	2.3	20.5	0.0	9.1	6.8	0.0	61.4	4.5
	男性 40歳代	42	0.0	7.1	9.5	4.8	9.5	0.0	4.8	0.0	2.4	71.4	4.8
	男性 50歳代	48	4.2	6.3	8.3	4.2	18.8	0.0	6.3	2.1	2.1	68.8	0.0
	男性 60歳代	32	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	9.4
	男性 70歳以上	50	6.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	64.0	20.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

●未婚の女性に（年配の）個人的なラインで又は多くの人がいる前で「彼氏はいるのか」などと聞く。職場で気に入った女性にニックネームをつけて呼ぶ。

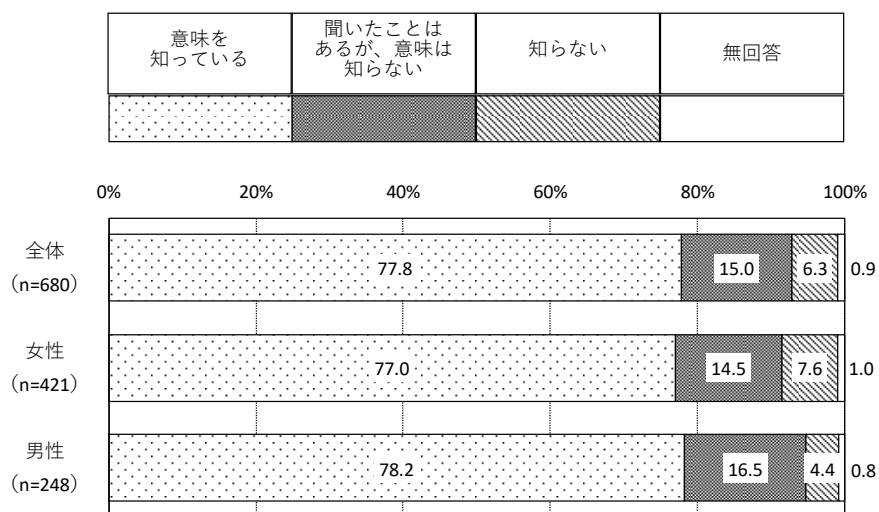
<男性>

●1に近いが若い部下のお世辞にかんちがいしてのセクハラ（本人は恋愛表現のつもり）

⑪性的マイノリティの認知度

問 19 あなたは性的マイノリティ（L G B T Q 等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-6-89 性的マイノリティの認知度



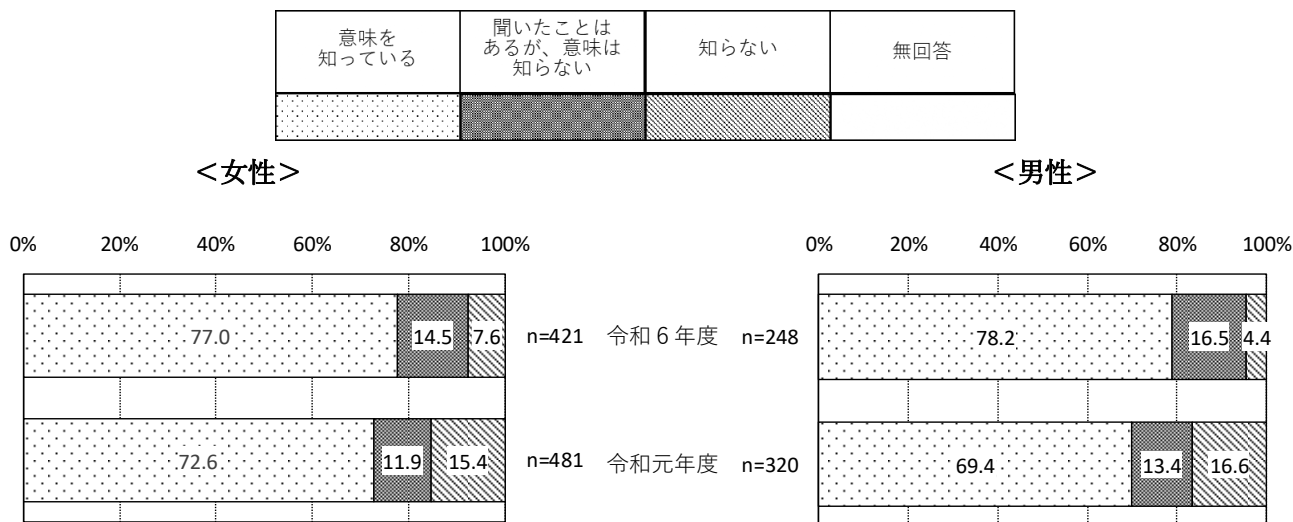
【LGBTQ 等の認知度は8割近く】

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 77.0%、男性 78.2%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70 歳以上の女性（46.0%）となっています。

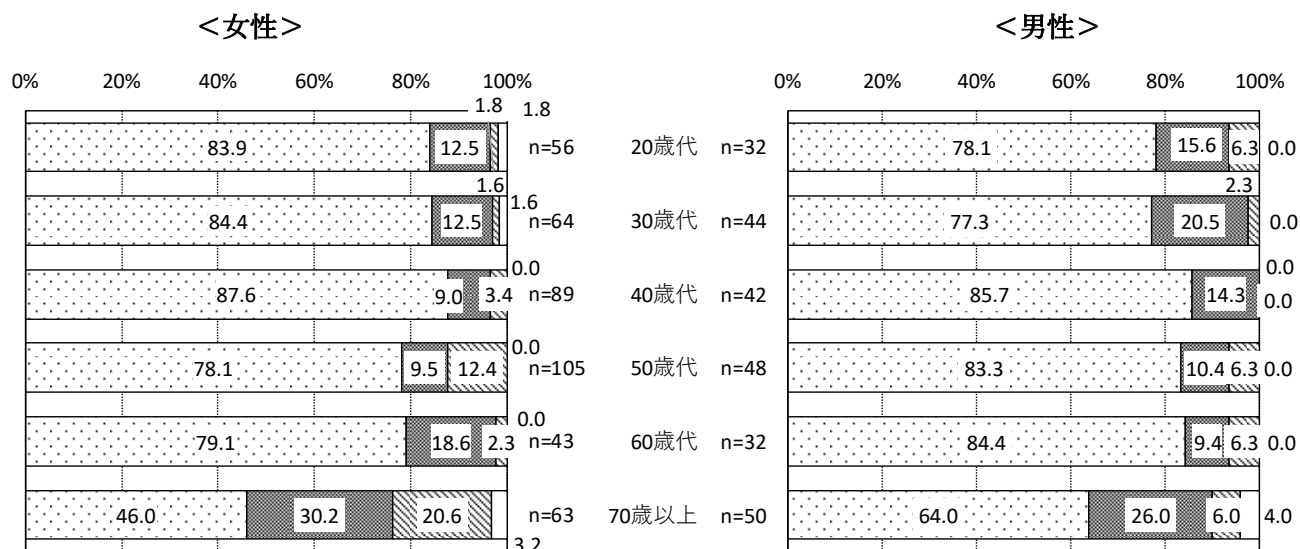
【過去調査との比較】

令和元年度調査殿比較では「知っている」「聞いたことはあるが、意味は知らない」とともに増加しています。

図表Ⅲ-1-6-90 性的マイノリティの認知度 【過去調査との比較】



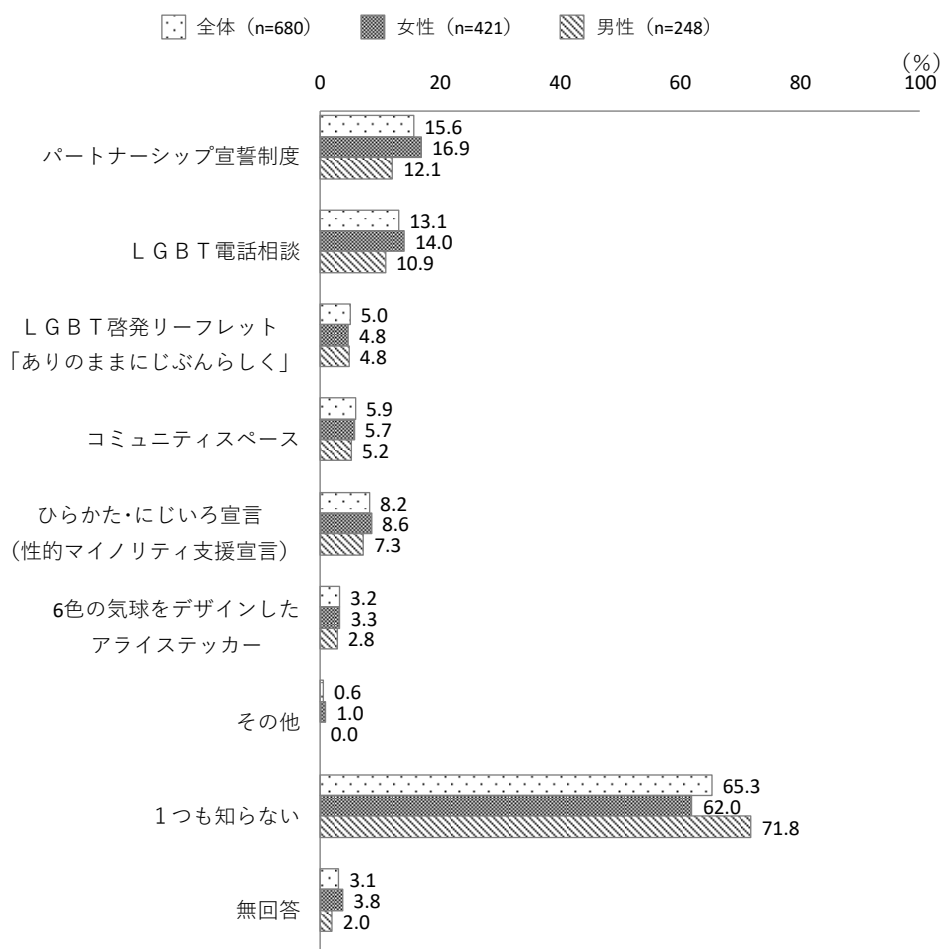
図表Ⅲ-1-6-91 性的マイノリティの認知度 【性別・年代別】



⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 20 枚方市が行っている L G B T Q 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-92 性的マイノリティ支援施策の認知度



【性的マイノリティ支援施策で知られているのは「パートナーシップ宣誓制度」で15.6%】

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性16.9%、男性12.1%となっていますが、「1つも知らない」が女性62.0%、男性71.8%と最も高くなっています。

図表Ⅲ -1-6-93 性的マイノリティ支援施策の認知度 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計（実数）	パートナーシップ宣誓制度 （平成31年4月より）	LGBT電話相談（平成31年4月より）	LGBT啓発リーフレット「ありのままにじぶんらしく」	コミュニティスペース（令和元年7月より）	ひらかた・にじいろ宣言（性的マイノリティ支援宣言）	6色の気球をデザインしたアライ（※）ステッカー	その他	1つも知らない	無回答
全体		680	15.6	13.1	5.0	5.9	8.2	3.2	0.6	65.3	3.1
性別	女性	421	16.9	14.0	4.8	5.7	8.6	3.3	1.0	62.0	3.8
	男性	248	12.1	10.9	4.8	5.2	7.3	2.8	0.0	71.8	2.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	14.3	10.7	0.0	0.0	8.9	3.6	0.0	67.9	5.4
	女性 30歳代	64	20.3	6.3	4.7	7.8	4.7	4.7	0.0	60.9	1.6
	女性 40歳代	89	20.2	19.1	4.5	6.7	9.0	3.4	0.0	58.4	3.4
	女性 50歳代	105	16.2	16.2	6.7	7.6	12.4	3.8	1.0	62.9	1.0
	女性 60歳代	43	18.6	18.6	0.0	4.7	2.3	2.3	0.0	67.4	2.3
	女性 70歳以上	63	11.1	9.5	9.5	4.8	7.9	1.6	4.8	58.7	11.1
	男性 20歳代	32	6.3	9.4	3.1	0.0	6.3	3.1	0.0	84.4	0.0
	男性 30歳代	44	13.6	9.1	2.3	0.0	6.8	4.5	0.0	65.9	0.0
	男性 40歳代	42	23.8	14.3	9.5	0.0	9.5	0.0	0.0	66.7	2.4
	男性 50歳代	48	6.3	4.2	6.3	0.0	2.1	2.1	0.0	85.4	0.0
	男性 60歳代	32	12.5	15.6	3.1	0.0	12.5	6.3	0.0	71.9	3.1
	男性 70歳以上	50	10.0	14.0	4.0	0.0	8.0	2.0	0.0	60.0	6.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

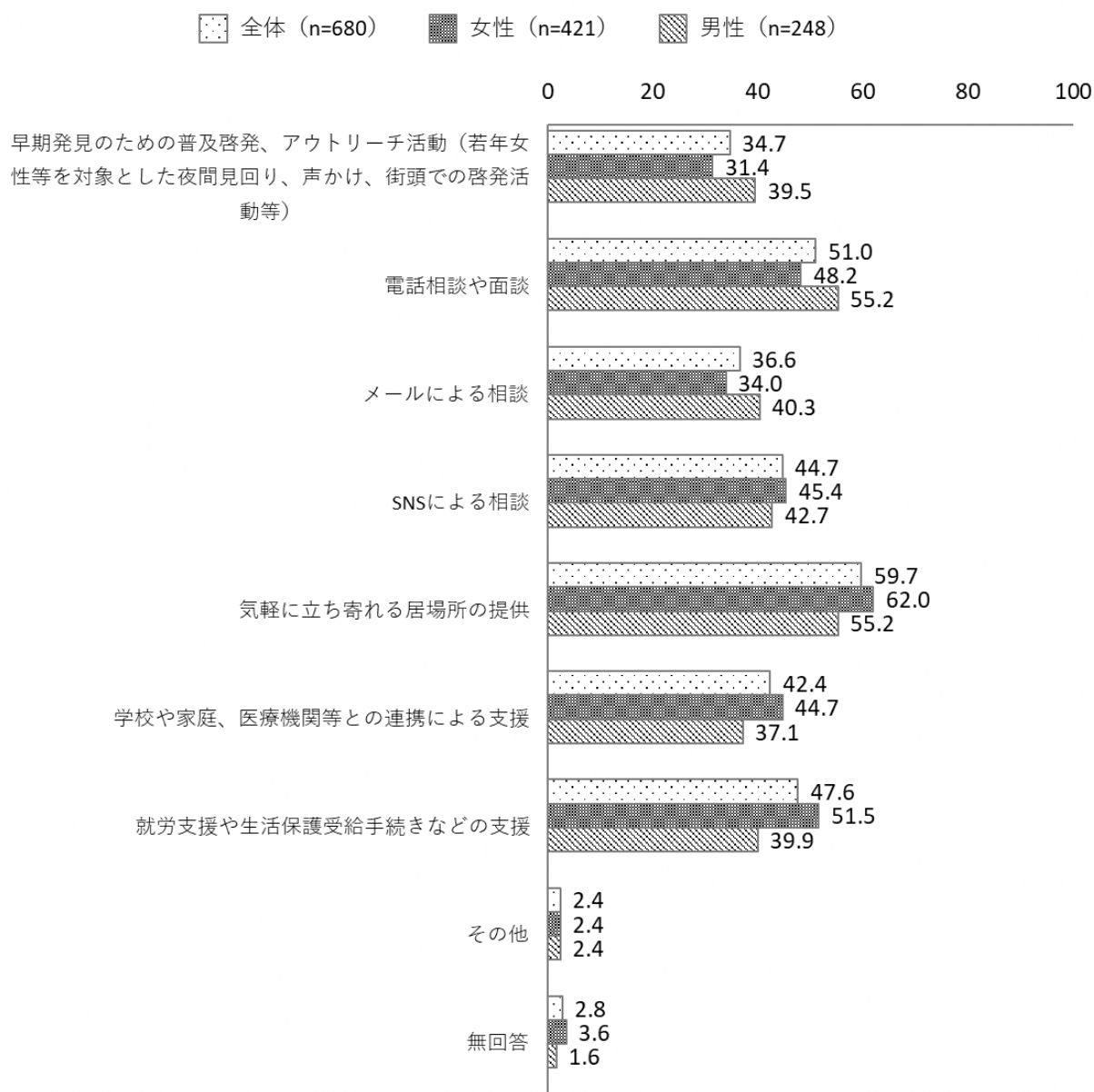
- スマホの枚方市のラインに LGBTQ 関連のお知らせ等がかなりよく入るので、この項の施策について、よく知っているものはないが、市が対応すべき施策をしているのだろうと思う。
- 今回参考資料で知りました
- そうすると人口数減少の問題はどうなるでしょうか

(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について

① 効果的な支援策

問 21 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的だと思いますか。(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-7-1 効果的な支援策



【困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は男女とも「気軽に立ち寄れる居場所の提供」】

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、女性では「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が最も高く、62.0%、男性では「電話相談や面談」と「気軽に立ち寄れる居場所の提供」がともに 55.2%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-7-2 効果的な支援策【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	発、早期発見のための普及啓	電話相談や面談	メールによる相談	SNSによる相談	気軽に立ち寄れる居場所の提供	学校や家庭、医療機関等との連携による支援	就労支援や生活保護受給手続などの支援	その他	無回答
全体		680	34.7	51.0	36.6	44.7	59.7	42.4	47.6	2.4	2.8
性別	女性	421	31.4	48.2	34.0	45.4	62.0	44.7	51.5	2.4	3.6
	男性	248	39.5	55.2	40.3	42.7	55.2	37.1	39.9	2.4	1.6
性別・年代別	女性 20歳代	56	30.4	42.9	35.7	42.9	51.8	39.3	39.3	1.8	5.4
	女性 30歳代	64	35.9	37.5	35.9	59.4	65.6	51.6	46.9	0.0	1.6
	女性 40歳代	89	30.3	48.3	36.0	55.1	70.8	49.4	56.2	4.5	0.0
	女性 50歳代	105	26.7	46.7	33.3	48.6	59.0	52.4	59.0	2.9	1.0
	女性 60歳代	43	30.2	60.5	41.9	37.2	67.4	32.6	46.5	0.0	4.7
	女性 70歳以上	63	36.5	57.1	22.2	19.0	55.6	30.2	50.8	3.2	12.7
	男性 20歳代	32	50.0	46.9	37.5	50.0	40.6	40.6	25.0	3.1	0.0
	男性 30歳代	44	29.5	56.8	36.4	45.5	56.8	45.5	38.6	2.3	0.0
	男性 40歳代	42	38.1	40.5	42.9	61.9	66.7	40.5	40.5	2.4	4.8
	男性 50歳代	48	37.5	58.3	58.3	58.3	66.7	35.4	47.9	2.1	0.0
	男性 60歳代	32	43.8	65.6	31.3	28.1	50.0	46.9	53.1	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	42.0	62.0	32.0	14.0	46.0	20.0	34.0	2.0	4.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 相談できる所があるのをもっと知ってもらおう。
- 母子生活支援施設等を増やす
- 避難場所や就労支援のサポート
- 入浴支援、水分提供、移動支援
- シェルター
- 似た境遇の人達が集まれる場所
- 心理カウンセラーなど専門知識のある人と気軽に相談できる場があれば良いと思います。
- 学校教育で小さい頃からの啓発活動

<男性>

- 小さな地域ではその逆、男性も困難な問題があるのでは
- 安全を第一に優先する保護活動
- もっと専門的細分化された課や組織がいると思う
- 強制力をもった確認作業
- 確実に保護してもらえる場所やスタッフ
- 刑罰の強化

(8)自由意見

性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がございましたら、お聴かせください。

男女共同参画社会の実現に向けて 147 件の意見がありました。

<「女性」の意見>

◎23～29 歳

○国がまともな政策を作れ。制度が悪い、皆がもっと強く生きべき

○幼児期から性別に関わらず多様性について学び機会を増やしていけると良いと感じる。男の子は青、女の子は赤等…様々な固定概念や男性/女性はあるべきといった古い考えを持った人がまだまだ特に年配の方に多いのでそういった方へ多様性についての発信を増やしていくべき。

○男女がお互いの苦悩をもっと分かち合い理解し、納得しないといけないと思います。

○LGBTQ+についての支援をもっと宣伝して欲しい 性別にかかわらず、意見交換や情報収集、相談ができる様な仕組みが欲しい

○子どもを預ける場所が当たり前に増えたらいいな。産んで家にいなきゃいけなくてお金なくて働けなくてとか子どもにもよくない。優秀な人が保育士になるように賃金上げて欲しい

○個人的な願望に近いものですが、自由な生き方できるようになれば良いと思います。男性も女性も関係無く手軽に有給を取得できる制度や、週休3日制の導入などで生活にゆとりを持つこと。セクハラやパワハラを受けた場合にすぐ逃げ出せる環境作りのために、転職のハードルを下げる。精神疾患を持っていたりなどで働けない人でも社会と接点を持てる場の提供とその周知などなど、個人個人が自由な生き方を選択出来るような社会になって欲しいなと切に願います。

○性別によらず社会進出できるような環境づくりは大切だが、現在、女性はむしろ社会進出を余儀なくされているように感じる。女性は身体面にも精神面にも波があるため、必ずしも外で働くことが絶対的に良いとは言いきれないと思う。「女性は家事」といった従来の在り方ではいけないという風潮があるようだが、それ自体もまた別の制約に繋がっていると考える。従来のように家事・育児・介護などに専念する者が少なくなった歪みは、保育所不足や介護施設の入居待ちに加え、ヤングケアラーの増加などにも現れていると感じる。世の風潮にとらわれることなく、一人ひとりに合った柔軟な生き方が選択できれば良いと思う。また、それが可能となる程度には正規・非正規雇用問わず賃金が上がれば良いと思う。

○企業へのハラスメント講習などを(任意でもいいので)無料で受けれるようにしてほしい。

○ひとりひとりが尊重されるには、まずはお互いが、お互いのことを知る必要があると思います。今の時代、SNSで様々な情報を得ることができるので、SNSでの情報発信も大事だと思います。

○男性の育児休暇がまだまだ進んでいないと思うので、男性も休みやすいように枚方市の支援も手厚くしていただけたらすごくありがたいです。

◎30～39 歳

○職場では女性管理職登用にに向けて女性の昇進が優遇されているが子育て中の女性には優しくない。家庭では家事育児が平等とは言えず頼めば夫がやってくれるスタンス。幼い息子たちが将来しっかり家事育児が出来るようになってもらうためなるべく父と母が平等であるという姿勢をみせたいと思っている。本当に男女平等社会が実現するのは子ども世帯以降だと期待している。

○誹謗中傷行為への監視、取り締まり。

○現代の世代間のコミュニケーションが減った社会、インターネットや SNS の限定された社会で生きる人々がつながれる場や町づくりが大切かと思う。

○まだまだ家事や育児は女性の仕事と思っている男性が多いです。仕事を休む回数が多いのも母親です。全員が働きやすい環境作りのため古い価値観の中から残すべきものとアップデートすべきものを正しく理解することが大切だと思います。

○男女関係なく人には親切にするようにする。

○社会全体的に労働が多すぎる。週休3日、残業の制限を下げる、フルタイムで働きながら家事育児に無理なく参加できる労働になることを望む。ほとんどの会社に休める制度はあっても気軽に休める体制が整っていない。

○実際問題、法律がかわろうが昔の考えを持っている人が職場にいれば男性が優遇されているのが現状だと思う。政治家の間でもあるのがみえる。

○それぞれの家庭によって家事や育児、仕事のあり方はあると思うが、保育環境の周知をもっとしてもらえたら嬉しい。(子どもが生まれて半年ほど子育て支援センターの利用の仕方や保育園等の園庭解放があることなどを知らず家にこもってしまうことも多かったから。)

○育休中です。旦那が自営業の為、育児家事の負担が重く、大変苦労しています。パートナーの支援が十分に受けられない場合に行政からのサポートがあると、女性の職場復帰に対する意欲の向上につながると思います。

○気になることがある、悩んでいることがある、意見の提案がしたい等思う気持ちがあっても、わざわざ市の窓口で電話して…というのは勇気がいるなと思います。困って電話をしても、親身になって話を聞いてもらえたイメージがなく、事務的な対応、もしくは「ここに言われてもなあ」という反応をされるイメージがあるので、困った時に頼りにする場所として、国や市の機関が思い浮かばないのが率直な気持ちです。行われている施策が素晴らしくても、実際に対応される方たちの反応や姿勢によって、これからも何かあったら利用させてもらおうという気持ちになるかが変わってくると思います。

○被害者を減らすではなく、加害者を作らない(減らす)ことが全ての尊重への最短ルートであると感じているので、1:若年層への啓発・啓蒙に力を入れる。ただし学内等のみではなく、若年層向け(メインターゲット)ポスターを街頭にも貼りどの年代でも(サブターゲット)目に入るようにする、など。2:被害者のサポートに従事する者には軽微であっても事前研修をする、利用者からの評価(アンケート含む)制度、それによる除名制度も導入する。これがないと、サポートを受けに来た人が二次被害にあう・従事者が二次加害を起こす確率が格段に上がる。男女共同参画社会に向けての話に限らず、この2つは、既にある機関においても、ぜひ積極的に導入をしてほしい。

○両親の関係性や過去の学生時代の経験、職場やコミュニティでのこれまでの経験から、女性であることで感じる不快な思いやもやっとなることが多くありました。もちろん男性もあると思いますが、女性が性被害に遭う確率の高さや女性が虐げられてきた歴史を鑑みると、(無理にでも)女性の社会進出の機会を増やして女性目線で考えられることを増やして改善していくべきだと思います(色々な場に現状男性の方が多いことを前提に、女性を増やすということ自体にも意味があると言いたいです)。今の時点で女性ばかり優遇されているなどというのは時期尚早で、それは女性の基本的人権が確保されてからの話だと思います。生物学的には差があることが多いので、それはしょうがない話でそれぞれできることできないことがあると思います。その差はお互いが理解して尊重することができていればそれぞれ向き不向きによって役割分担してもやっていけると思います。私は結婚はしたくありません。好きな服を着て好きな仕事についてど

こへでも一人で旅行に行けて夜道も自由に歩けるようになってほしいです。うまく言語化できておらず申し訳ないです。私ももっと勉強します。

◎40～49 歳

○育児や家事が無償労働＝働いていないという認識になるのがいろんな不公平を生んでいると思います。特に男性はお金を稼ぐ事が大変と思っているので、家事や育児の大変さを知ろうともしないし、やろうともしない。お金を運んだ人が偉いみたいなのをやめて欲しいです。

○性別による得手、不得手は絶対にあるので(例えば男性の方が力が強い)それを踏まえた上で考えることは大事だと思う。何でもかんでも平等にするのは違うと思う。

○小さい頃からの教育が重要だと思います。3 才までの環境を「自分が生きる世界」と定義づけ、男の子は父親、女の子は母親を自分になるべき大人の手本として脳に刻まれると聞いたことがあります

○私自身もその 1 人なのですが、妊娠、出産で職場に復帰すると居場所がなく、又子供の熱で早退、時短での仕事（量は変わらないのに時短で帰らないといけなくて、家に持ち帰ったり、他の人への負担が増える）で続けられなくなり退職する女性が多いように思います。その辺を職場や社会で考えていく事がこれから大事だと思います

○同性愛者は結婚出来るべき。日本では共有監護があるべき。

○性自認が女性で身体的性が男性の方が女子トイレや女湯に入る社会には強く嫌悪感があります。将来的にならないように願う。

○生活の安定安心の為、住宅補助が必要。枚方市からスタートさせ、全国のモデルケースになってほしい。個人が幸せになれば他の生活困難な人に目を向ける余裕が生まれるから。今は誰もが幸せと感ぜない社会になっている。非正規やパートの格差はうめられないが、住宅さえあればその格差をうめ、非正規雇用をなくし（段階的に無くし）生活を安定させようと子育て休業や介護休業などの政策がいくてくる。この政策が使えるのは正規雇用だけが使える現状だから。まずは住宅補助だと思う。

○男女共同参画社会をあまり知りませんでした。今、子供を保育園に預け派遣社員で働いていますが子供の送迎はほぼ私。主人の会社にももう少し送迎ができる出勤時間の調整してもらえ環境にしてもらいたいです。時短の仕事も少ないので雇用期間が決められている派遣社員は肩身がせまい思いをしています。

○男女にはそもそも違いがあるもので全くの平等とは違いを考慮した上で判断せねばならずなかなか基準が難しい。わがままと自由を混同してはならない

○男女がお互いを尊重し合い職場、学校、家庭等で個性と能力をそれぞれ発揮できる事が大切だと思います。その為にはまず政治、行政が率先して変わる事が重要です。

○男と女が平等なんてムリ。男女に関わらず、2 人いればどちらかが優れており、どちらかが劣る。

○お互いを知ることが大事。その上で話し合っていく。

○学校等でとにかく小さいうちから教育を行ってゆくようにすると良いのではと思います。

○人には色々な考え方があるので、完全な実現は難しいと思いますが、個人的には『性別』というのは『生物学的な身体の特徴の違い』と捉え、性差はあって当然、なくてはいけないと思っています。筋力が弱い女性より、強い男性が力仕事をするのは効率が良く、妊娠・出産・母乳が出る女性が子育てするのも自然なことだと思います。総合的に見ても、私は圧倒的に女性の方が優遇されてることが多く、楽させてもらってるなぁと仕事でも社会の中で感じます。『平等平等』と正義感のように声に出す今の社会は、結局自己都合で語ってるだけにしか聞こえず、共感できません。しかしながら、女性である私であれば上記のよう

に語れますが、同じ感覚を持っている男性が同じように言う『お前は男性だから言えるんだ!』となるのかなと思うと、もっと女性が『十分女性にも優遇されてることはありますよ!』と言えれば、生物学的性差をもっと活用して、効率の良い過ごしやすい社会になるのではないかと思います。

○政治の世界を見ても、高齢の方がいつまでも意見を言える立場で若い世代に変わっても古いしきたりから抜け出せないのが日本。一人一人の大切な意見を聞き、こういうアンケートもするだけではなくした結果どういう風に活かされているのかが目に見えて分からないと意味がないと思います。若くても色々な想い(思い)があります。経験者の意見もありますがその時代に合わない物に関しては、柔軟に対応や検討してもらえそうというのが大切だと思います。

○離婚した後も男性は養育費も払わず独身生活を楽しんで女性は、子供を抱えて金銭的、社会的にも恵まれません。実家に住んでると言うだけで児童扶養手当もせず、養育費ももらえず苦勞するのは女性ばかりです。掛け持ちをして仕事をしてる状況。いまだに、女性が損する世の中なのでモラハラやDVに我慢して生活せざる得ない状況なのかとおもいます。もっと、平等にと働きかけてほしい。

○小中高生時代からの教育から盛り込むことが大切だと思う。

○女性には「出産」がある。仕事をしていく中で妊娠/出産/育児/子育てが離脱期間になるが、女性のみに係るのは妊娠/出産そのものだけ。離脱期間が短くなれば仕事で不利益なことも減り、逆に育児休業で男性が法律の下休業できれば、仕事上でも社会的地位的観点からも男女平等に近づくのでは。強制的に女性の権利枠を作るよりも、男性にも法律で定められた休業を取らせて家事育児を行う環境を作る方が近道だと思う。

◎50～59 歳

○自立

○寛容

○実現に向けての活動がもっとわかりやすく伝われば、もっと多くの意識や賛同を得られるのでは。

○子供が病気や怪我をすると有給日数が全然足りません。子育てしている女性に特別なお休み(制限なし)と給料を保証する制度を (育児は女性である私自身したいので)

○法や施設が気軽に利用できるといいです。そこまでたどりつく過程が難しかったりしますね

○努力しているが報われないという弱者は助けるべきと考えるが、義務を果たさず権利ばかりを主張する弱者には疑問を感じる。

○制度も必要ですが、人々の意識改革がもっと必要であると考えています。

○行政が行っておられる取り組みについては広報や枚方市の LINE などで目にしていますが、内容を考えると地域での集いなどは自分が当事者ならば参加しないかな、と思います。もし地域の政策として行うのであれば、プライバシーに最大限の配慮が求められるのではないのでしょうか。

○就労時間が長すぎる。親も子も自分の時間や親子の時間がもっと欲しい。教員をしているが子を長く預かったり、休みの日まで預かったり、教員の家庭や人権は日本の社会から無視されている。

○政治家も他の方々と同様な退職制度を作って欲しいと思います。30.40 代を中軸として自由に行えた方が実現スピードが早くなるのではないかと思います。

○枚方市はとても色んなところみ、支援を行っていることをこの調査で知りました。

○教育が崩壊している、教育格差が大きくなっている ここを見直さない限り男女格差どころか人としての自立はムリ。

○男女関係なく平等に働いたり、生活していければ良いが、現実には厳しい。職場で育児休暇を取得する社員がいると、周りに負担がかかるが、会社はそのことに対して何も考えておらず、フォローしたところで何も得をしない。育児休業中に手当（給料）が減額されたら、その分を代わりに仕事をした人へ特別手当の支給をするなど仕組みを会社で整えてもらえるような法整備があると良いと思います。

○夫婦で家事や子育てが出来るように短時間勤務の正規雇用。夫婦別姓を選択できる事。同性愛者も結婚できて法律上の効果も認めること。

○そもそも男女共同参画社会という言葉が、全世代、万人向けに意味が伝わっているのか、カテゴリの幅が広すぎるような気がします。男女しかいない世界だと個人的には分かりますが、それこそ多種多様な時代になってしまったので時代遅れな名称にも違和感、何の目的なのかぼんやりして浸透しにくい気がします。雇用機会均等…、のように分かりやすかったら理解の浸透がもっとできそうに思います。

○男女平等な世の中でも働く上で女性はやはり出産育児がリスクであり子供を持つことに躊躇する人が周りにもいます。私は介護の仕事をしていますが日曜祝日ももちろん仕事があり、夜勤が出来ないと正職員にはなれません。小さいお子さんがいるお母さんは必然的にパートで働いているのが現状です。

○遺族年金は、女性が亡くなったら、子供には、残せない。検討して欲しい。外国みたいに総理大臣を決める時は、国民が選べるようにしてくれたら、男女平等に選べると思います。

○30年前と比べたら男女の格差は改善されていますが、まだまだ格差は存在すると思います。今後もより改善していく努力が必要だと思います。

○人は個々に色々な考えを持っているので同じ方向に進んで行くには時間がかかる

○仕事と家庭の両立を支援する制度や環境が整っていてほしいです。

○性別はもちろん、年齢、個々の特性などでも差別されることなく適材適所で社会と関われると良いと思います。

○未だに男が優先されてます！家庭も、家事、洗濯、何故女性が、するのか？子供が成人したり、手が離れたら、離婚とかではなく、一切の仕事を男性が自らおこなう、日本になってほしいです！男を支えてナンボみたいな、美德はなくなるべきです！！

○女性でないと出来ない事は、出産など、今やかなり限定されて来ていると思われる。もちろん、筋力がある方が有利な職種など、性差の考慮が必要なケースはあるかと思うが、まずはフラットな視点から考えるべき時が来ていると考える。また、直接的に効果はないかもしれないが、選択的夫婦別姓をすぐにでも実現すべきと強く思う。

◎60～69 歳

○虐待や差別に苦しんでいる女性への支援を強化しカウンセリングやサービスを更に充実させて欲しい。

○若い人の中には収入が足りなくてネット求人をした為にヤミバイトにおうぼしてしまう方が多いようです。そういったお金に困っている若い人にも相談できるといいと思います。

○働きたいと思っている人の誰もが出来る限りストレスの少ない方法で働ける職場環境、家庭環境が必要だと思います。

○どうすればよいか？効果的な対策は具体的に思いつきませんが、いつの時代も人々の価値観が変わるのには時間がかかると思います。ですから、あきらめなくて忍耐強く、訴え続け試行錯誤し続けていくしかないのかもしれない。

○高齢者にはまだ認知されていないと思うし、若い人に関することだと関心がない人が多いと思う。次世

代の特に女性のために頑張って活動してほしいです。

○毎月夫婦で 40 万程と市民税を納めている。もっともっと子供達（未就学児）が遊べる施設を誘致してほしい。

○障害児の母ですが、医師をはじめ行政の関係者や親族などから、健常児より一段と母の役割が強調され、働くなどとんでもないなどと言われてきました。今もやっぱりお母さんが責任者であることに変わりなく、いつまで頑張ればならないのかと疲弊してます。父親もいるのですが、仕事といえば逃げられる（社会からも容認される）のはなんとかならないかと思います。もう逃げたい。

○私にはわからないことがたくさんありますができるだけ困ってる方を救う方に向けて頑張って頂きたいです。

◎70 歳以上

○書店やいろんな場所に置いてある雑誌類をみわたすと、男性雑誌？とおもわれるものには、政治や社会問題についての記事がかなりみうけられるのに女性雑誌といわれるものには、ほとんどそうした記事がみあたらず、雑誌界の女性愚民化方針でもあるのか？と思ってしまう。テレビなどで、女性に政治等の町でインタビューをしても、外国の人は男女とも意見がちゃんとあるが、日本の女性で、ふみこんだ意見を言っているのはほとんどみられない。あれでは女性の政治参加などがやれなくなるのはあたりまえかもしれないと思う。こうした状況をつくっている雑誌等の会社などに働きかけをするところは、国にも地方行政機関にもないのかなあ！と日頃思っています。

○分からない私でしたが、相談、保護、DV 防止策本当に勉強になりました

○女性の方も若い人は男性と共に仕事出来る人がいます。

○女性が 1 人でも生きていける社会の実現を 1 日も早くなって欲しい

○仕事及び社会活動においては、男女の区別意識を強く持ちすぎず、お互いに相手の立場を常に考え、強調、協力の精神で活動すること

○個人として（男・女）関係なく、個人個人が人格をもっていますので個人個人を大事に出来る環境がほしいです。

○これは簡単な事ではないと思います。個人々別の考え方、生き方、持っている条件があり、古代から男女性別は頭にすりこまれているので、それを取り除くのはたいへん時間がかかると思います。食べていく事、子供を産み育てていく事、介護の問題が重要でそれらをみなで平等にふりわけ、個人々が幸せな人生を送れるような社会が来たらいいですね。

○老後の一人暮らしは思ったより淋しいもので～近場で気楽に立ち寄れる「いこい」の場的なものがあればどんなに有意義な毎日が送れるかしらと夢のような事を願っています。月に一度のいきいきサロン香里園は毎回楽しませて頂いています。

○それぞれが自分の考えや行動を尊重される社会が実現されればと思います。

○相手に対して思いやりを持ち自由を尊重し希望を持ち生活をするよう心がける。

○我々世代は男尊女婢で育ち一般的にも男を立てるべき生活をしていました。家事は女性、今は得意な方がすれば良いと思いますお互い思いやりのある気持ちが大事かと思います。

○民生委員があまり役を沢山もたない民生だけに専念してほしい。忙しすぎて 15 役位しているらしい。相談しようと思っても家にほとんどいないから気の毒で出来ない。多くしってることも自満してほこらしく思っている様です。聞いても忙しくなるばかりと言う。

<「男性」の意見>

◎23～29 歳

○SNS で知らせて欲しいです。

○チラシやポスターなど目につく場所に知識や発信をしたら誰もが興味を持つと思う

○議員の男女比を 1:1 に近づける。女性の政治参加へのハードルを下げる。子育てと政治活動の両立の難しさが、女性の政治参加のハードルを上げていると思うので、男女限らず議員に対して子育て支援の強化【家事は女性がするもの】というイメージを払拭する学校教育の取り組みなど、男女限らず議員は忙しそうとか議員は世間から厳しい批判をされそうというイメージが若い人の参加率を下げている原因だと思います。

○答えが分からない問題を持つて人が多いと思うので、色んな事の相談ができる場所を用意して、尚且つ男女年齢に関わらず、周りの人の意見を、むやみに潰さないように市民全員で心掛けることが大切だと思います。

○女性優遇するばかりではなく現状に応じて男性も優遇するところはする必要性はあると思う。肉体構造的に男性が有利な現場職などに女性を入れるのはやれることも少ないため、仕事が少ないのでは思う。また、そういった汚れ易い現場職は女性では「してもらって当たり前」と思い込んでるのか、下に見下してることが多いとは思う。そう言った偏見など減らさない限りは、職に就いたとしても権力を乱用するだけであるとは思う。男女平等は無理にさせないことが重要であり、女性には向いていない仕事に無理に女性枠を設けて、男性が入る枠を減らすのはデメリットしかないと思う。よく DV など夫婦間の問題ではマスメディアなどは女性の方が被害者として言われがちであるが、男性を加害者として捏造に近いことをするが、現実とは異なることもあり、単に女性だけの意見を聞くことは意見が偏り男性が不利になるため、そこは慎重にすべきではある。

○今回のアンケートでは、困難な状況に立たされた女性を視野に入れているが、男性でも同様もしくは類似したケースで苦しんでいられる方もいらっしゃると思います。女性の方々に対する環境を整えていくのは賛成ですが、女性ばかりに焦点が行き、知らぬ間に男性が蔑ろにされているといったことがないようにお願いいたします。また現在、私は学生でアルバイトをしているのですが、そのバイト業務の中でも重いものを運ぶのは男性を呼んで半強制的に働かせる場面があります。女性が男性よりも平均的に見て重い物を持つことは苦手だと思いますが、平等、共同参画を謳う以上、これは不平等であり、一種の男性差別に該当すると考えます。今回の重荷のように男女で向き不向きは必ずあります。かなり捻くれた考えですが、平等という言葉を使うならこれらの男性に負担がかかる業務を性別関係なく行うように啓発していただくか、平等ではなく、公平という言葉を使いそれぞれの人が状況に合った助け合いを目指していこうといった呼びかけをして頂きたいと思います。

◎30～39 歳

○昔は意識して考えたことなどなかったが、性的マイノリティについて、取り沙汰される世の中になってきたことは非常に良いことだと思う。今後、世の中に徐々に正しい認識が根付いていけばもっと良い「生きやすい」世の中になると思う。

○性別にかかわらずなくはムリだと思います。性別、個性を尊重した方がよりいいと思う。

○政策について知らないものが意外と多かった。広報の機会を増やしていただけるとありがたい。政策や対応策をもっと知ってもらえると問題解決の助けになると思う。

○男女平等ではなく女性をもっと優遇する社会づくり。

○男性育休が増えてきたが、取得できたとしても 1~4 ヶ月ほど。もっと長期で取得できるようになればいいと思う。

○弱者男性にも目を向けるべき。

○時代的にオープンな場所で問題となる行為などを見る機会は少ないので、閉鎖的な所で起きている問題を見つけ出す仕組みが必要。公的な機関などに、報告する事で報告した人に何かインセンティブをつけるなど…

○男性には男性の、女性には女性の悩みや苦しみがあり、全ての性に向けた対策が必要に思う。

○男性優遇（例えば昇任）、女性優遇（例えば女性価格）があるのは致し方ない部分があるとは思いますが。ただ、その差が縮まること、また、総じた場合に平等である社会の実現は可能だと思うので、少しでもそれに近づいた社会になればと思います。

○男性の育休取得率は上がりましたが、半数近くが 2 週間未満と短期間の取得が主流です。1 歳前後までの育休を取っているのは、今も圧倒的に女性が多いです。制度上の設計は「男女が平等に」できますが、現状は男性が 1 年育休を取るといえば驚かれたり、冷遇を受ける事業所も珍しくはありません。私の事業所でも男性は「取りにくい」雰囲気は今でもあります（枚方市内の事業所で、小規模事業所ではありません）また、共働き家庭が余裕を持って育児と仕事を両立するのは困難だと思います。保育園に入るためには「共働きフルタイム」でなくては点数が取れず入園できません。時短を取っても業務量は変わらず、職場で煙たがられるなど、子育てしながら社会に出ている女性にも生きづらい現状があるようです。自治体や国の男女共同参画の取り組みは認識していますが、正直、会社や社会の風潮に大きな変化は感じられません。育休の件にしても「啓発する、呼びかける」が主な手段になることは理解できます。ですが、実態をどうしたら変えられるか、枚方市が男女共同参画社会に関して、他の自治体でもやっている取り組みとは何か違うと思わせる政策を考案いただけるとありがたいです。

○女性の社会進出が一般化しているが、まだまだ職場における男女比は、圧倒的に男の方が多い。今後女性の定員も増加していくだろうが、それとともに、男性の育児に関する休暇もより増加し、一般化していくと良いなと思う。

○支援制度の充実と周知が不可欠と考えています。若い層へはマスメディア広告での周知はいかがでしょうか。

○頑張ってください。

◎40~49 歳

○チカンに間違われることが怖くて電車で男性専用車両が欲しい。多目的トイレを増やす。女子トイレに LGBTQ の人が入るのは犯罪につながる可能性もあると思う。

○困難な問題を抱えるのは女性ばかりではなく、男性も多いのに、結局世間では女性支援、女性は弱者と決めつける流れがあると思います。

○一人一人が尊重されるのは良いことだと思うが過度に性別を超えた社会はいびつで不自然であると思う性別にかかわらずではなく、性別を踏まえた上でどうあるかどうするかを考えるべきだと思います。

○情報提供しやすい環境、誰でもいつでもわかりやすい情報提供 相談窓口（利用しやすい、話しやすい）

○育休をとることによる評価や昇進に影響するのはあたりまえと考えてほしい。育休をフォローした人がもっと評価されるべきと思う。きれいごとの正論だけでは社会は成り立たない。

○ここ最近、自転車の罰則が強化されたり、youtube のコメント欄ではドライブレコーダーの違反者の映像に対して激しく糾弾する人が多い等そのような厳しい場面を見て「人間は完ペキじゃない」ということ、「そもそも生まれてから死ぬまでの間で法律を違反したことがない人間などいないだろう」ということをよく考えます。「許されない」という壁が人と人とのつながりを持つ難しさをさらに強くし、孤独、孤立は広がっていくばかりかなと感じます。「人を受け入れる（許す）社会」とはどこにあるのか？すいません、長々と一人言失礼しました。

○まずは、男性が育児に積極的に参加する(できる)様にする。

○誰も優遇せず、誰も冷遇しない

○経済及び労働環境の整備が必要。法律をこどもの頃から身近に感じることができるよう教育。

○今の社会にはゆとりがない。生活に時間的な余裕、金銭的な余裕がないと、互いを思いやることは出来ない。税金を社会の人のために使って欲しい。

○女性の少ない職場であれば、女性の方、男性の少ない職場であれば、男性の方を、全ての職場において雇用を推進していく社会をめざしていく事が重要かと思います。

○男女、という性別も二者択一でなくなってきつつあるので、男女共同参画、という言葉も、そのうち死語になるのでは、とおもったりもします。男性だからこう、女性だからこう、という決めつけや固定観念が世間から薄れていけば、自然と性別にかかわらず一人ひとりが尊重される社会に近づくとは思いますが、その一方で、身体的な性別である男性でしか(または女性でしか)できないこと(例えば、出産)や、男性(または女性)がやる方が効率が良い可能性が高いこと(例えば、力仕事)は、絶対にあるので、100%「性別にかかわらず平等」になることは現実的でないとも思います。どうあるべきか、ケースバイケースなので、一人一人が、どうあるべきか考え続けるのが大切だと思います。

○日本は特に政治分野の男女比や、企業の役員の男女比が男性が多いため、女性の比率を上げていく取り組みを強力に進めていく必要があると思います。

○実現すれば素晴らしいが、現実問題難しい。必ず、団体・協会等といったものが利権争いになる。

◎50～59 歳

○男性特有な仕事などでも女性が参加できるような取り組みがなされており良いと思う。

○個々人の思いは別として社会全体として出生率をもっと上げないといけないと思うので、女性が出産するのに障害となるものをなくしていくのが最優先。その上で女性がリーダーを目指す上で出産を障壁（一部の人の逃げ口上）にしない、させないことが大切。現状では昇進等で女性を優遇した方が良いと思いますし、もっと目指してほしいと思います。

○これから勉強します。

○30 年前の全てにおいてハラスメント時代から考えると大きく前進している。このまま昭和のにおいを消していけばいいと思う。

○子供の頃から教育をしていく必要性を感じました。人をいたわる優しい社会を築くために教育は必要と思われます。

○先入観を持たず年齢性別を問わず人に接すること。

○新聞や TV その他色々な媒介物を通して発信する努力が必要と考える。

○男女共同参画に自分が意識していなかったのが、枚方市がどのような取組を行っているのかを知りませんでした。今後も市からの情報発信をどんどんして欲しいと思います。

○普段から感謝の気持ちを忘れないことが大事だと思います。

○・男女の賃金の上昇・残業なく 9 時～5 時までのみ働く・そうでないと女性が働きながら子育てするのは不可能・育児休業を全ての女性が子供が 3 歳になれるまで取得できその後必ず職場に復帰出来ること・その為には人員不足を解消し誰かが育児・介護休暇を取っても周りにしわ寄せがいかないようにすること・でないといつまでたってもマタハラ子持ちへのハラスメントがなくなる。

○私は男性ですが、いまだに男女差別を助長しているようなシステム/法律の例は基本的にはあり得ないと考えますので、おそらくシステムの問題ではないのでしょうか。女性が差別されているということであれば、それは差別される側への啓蒙活動が足りないために（女性大多数からの声が上がらないので）改善されないということもあるのではないのでしょうか。暴力や DV に関しては、完全に、加害者、被害者双方への啓蒙活動が足りない。あとは、警察または警察に準ずる者の介入が足りないと思います。性的マイノリティに関しては、種類が多くて何が何だかよくわからないが、風呂もトイレも男女の 2 種類しかないので、社会では性器で男女の 2 種類の区別すれば十分ではないのでしょうか。性別を自己申告だなんて、逆に大多数の女性を危険にさらす、愚策もいいところ。

○臍や自分が受けた子育ての記憶、経験が大きいですね。子どもが親になったらやはり同じような事が続くと思います。働く親の姿を見ていれば働くことを優先して考えると思います。そう考えると家庭と同様に子どもへの教育も大きく影響して来るのではないのでしょうか？

○男性の育児休暇。母親の育児の負担を減らすために取るべき。自分が子育て世代の時は取るのは不可能だった。男性(父性)は女性(母性)には絶対勝てない。LGBTQ は苦しんでおられる方がいるのは理解しているが、少数派の人を尊重しすぎて多数派の人が生き難くなるのはどうかと思う。

◎60～69 歳

○103 万、106 万、130 万の壁を廃止。かつ所得税、社会保険料を同時に引き下げる。3 号被保険者を廃止。産休、育休の充実。

○情報公開やピアール不足。

○現在はかなり男女平等が成り立っている。どうしても男性の方が力が強いので DV になりがちなのと女性が社会への進出をしたがらない風潮があり、責任を持つ仕事を嫌がります。

○学校教育で男女の違い、平等をしっかりと教えること。男子ももっと家事のスキルを上げる。

○性別ではなく能力によってすべきこと、出来ることをやるべき。女性専用車両も差別、時間によっては女性車はガラガラ、他車両は混んでいることがある。

◎70 歳以上

○私のように年寄りになると女性の方が強くご近所のトラブルは全て女性。たいへんです。

○一気に実現するのは難しいので地道に現在の活動を継続することだと思います。

○男女共同参画社会と言われて言葉はよく耳にするが、実際中小企業では、中々実現には程遠い感じがするので、企業へのアンケートも実施が必要だと思います（されていたらすいません！）

○国、自治体自体がもっと前向きに取り組んで欲しい。国民の中にも、これに対して消極的な人々がまだまだ多くいる現状なので、もっと国民に対する意識改革のための啓発活動に取り組んで欲しい。

○お互いに信頼して生活すること。お互いに必要なことは話しをすること。

○人権の尊重と弱者救済措置。

○オープンな会議で！！

○特にありません。小生の年齢78歳ですが、若い頃にくらべて色々これらの評価基準が違ってきており、時折とまどいを感じます。アメリカが長かったので日本の女性はおとなしすぎる（外に向けて表現しない）との感触は今でもあります。

○アンケートの質問内容、選ぶ答え、項目がかたよっている様に思う。もっと複雑な内容になるはずであり、選択肢が一方にかたよった傾向になっている様です。

○幼年児（家庭、学校、社会）よりの環境が大きく関わっている。社会全体での見守りの必要があり、常に啓蒙活動も必要

<「性別無回答」の方の意見>

◎30～39 歳

○男性は男性、女性は女性でありその他は存在しない。それは食品添加物の影響が大いに考えられる。トイレの問題に関しては女性への性犯罪防止の為、女性は女性トイレへ男性は男性トイレを利用すべきである。

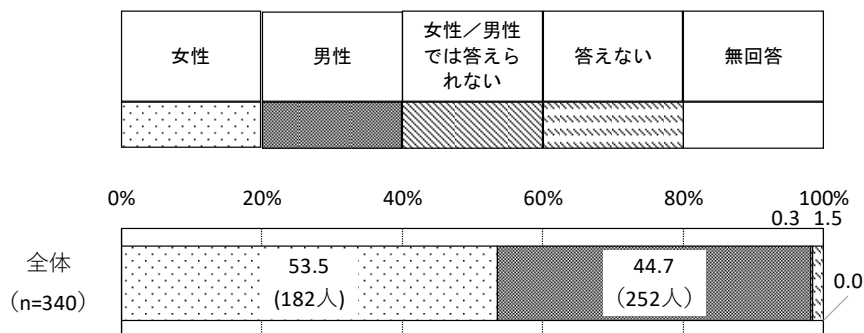
2 若年層調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-1-1 性別



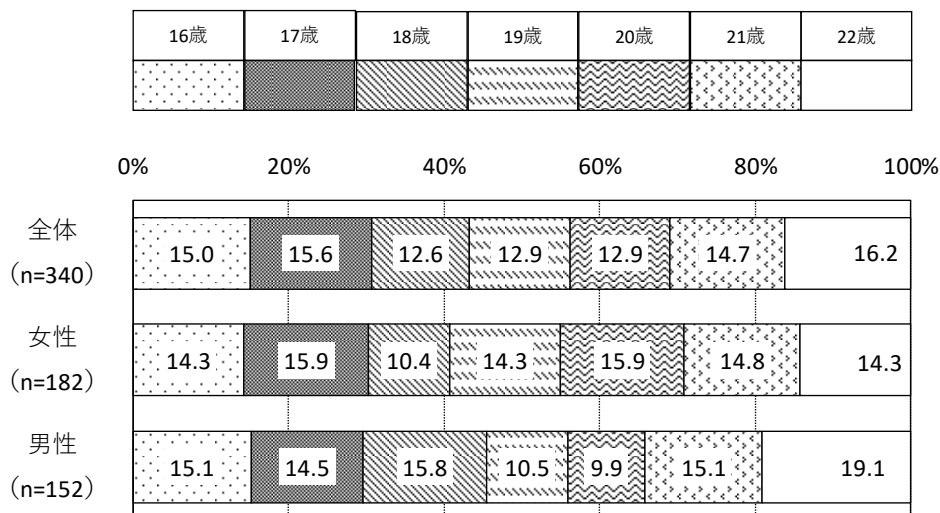
「女性」が53.5%で最も高く、次いで「男性」が44.7%と続いています。

「女性／男性では答えられない」(1名)、「答えない」(5名)については、その総数が小さいため、以下のクロス集計等の分析においては「女性」「男性」のみを対象とします。

②年齢 (16～22 歳)

あなたの年齢は。(記入日の時点で) (○は1つ)

図表Ⅲ-2-1-2 年齢

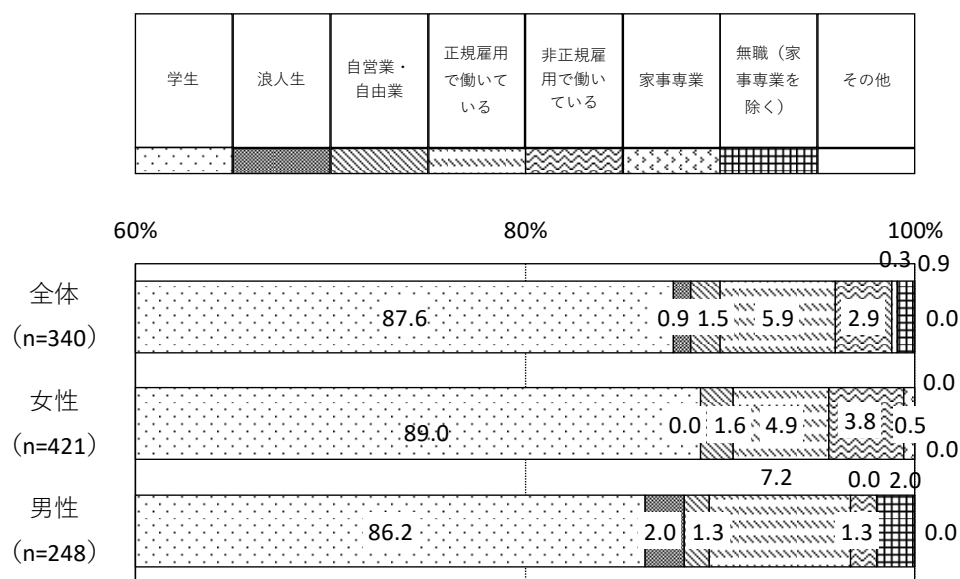


女性では「17 歳」と「20 歳」が15.9%で同率で高く、次いで「21 歳」が14.8%、男性「22 歳」が19.1%で最も高く、「18 歳」が15.8%と続いています

③回答者の職業

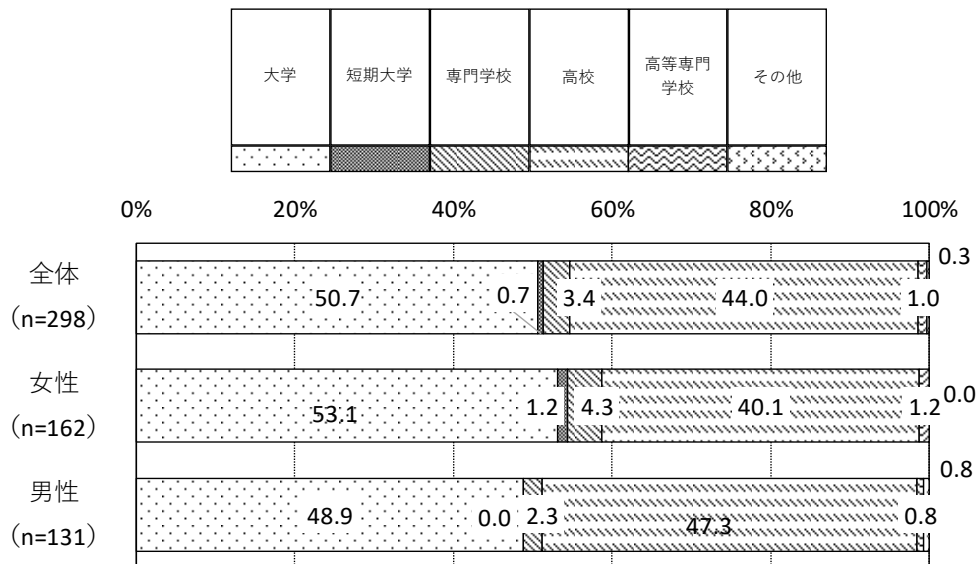
あなたの就業状況は。(○は1つずつ)

図表Ⅲ-2-1-3 職業



回答者の職業については、「学生」が87.6%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が5.9%と続いています。

図表Ⅲ-2-1-4 学校種別



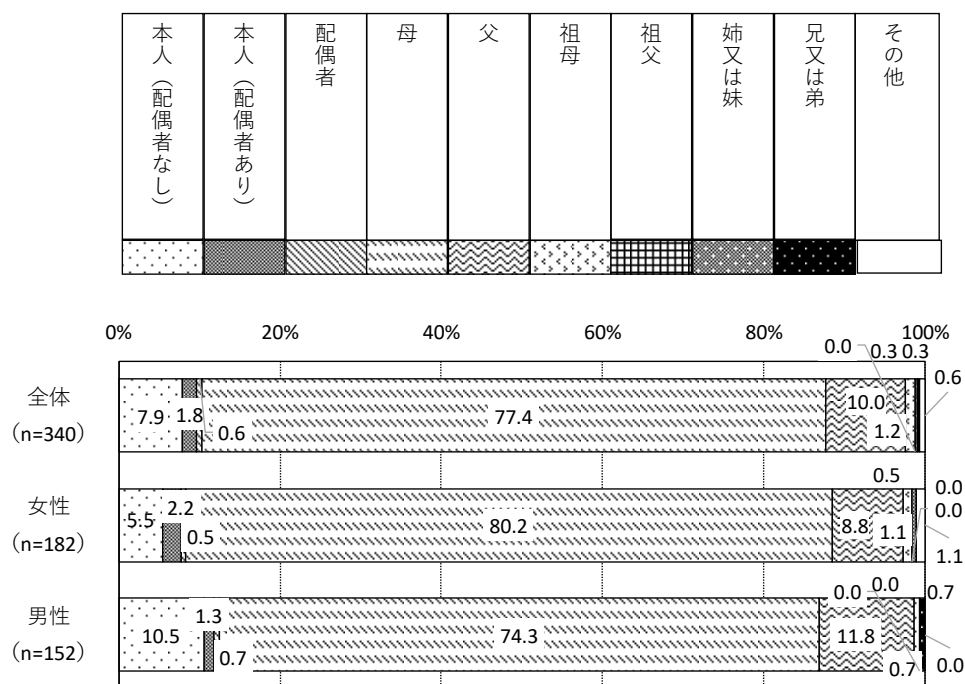
また学生の場合の学校種別は大学が50.7%、高校が44.0%、専門学校が3.4%でした。

(2)男女の平等感と役割分担について

①家庭生活の分担について

問1 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）

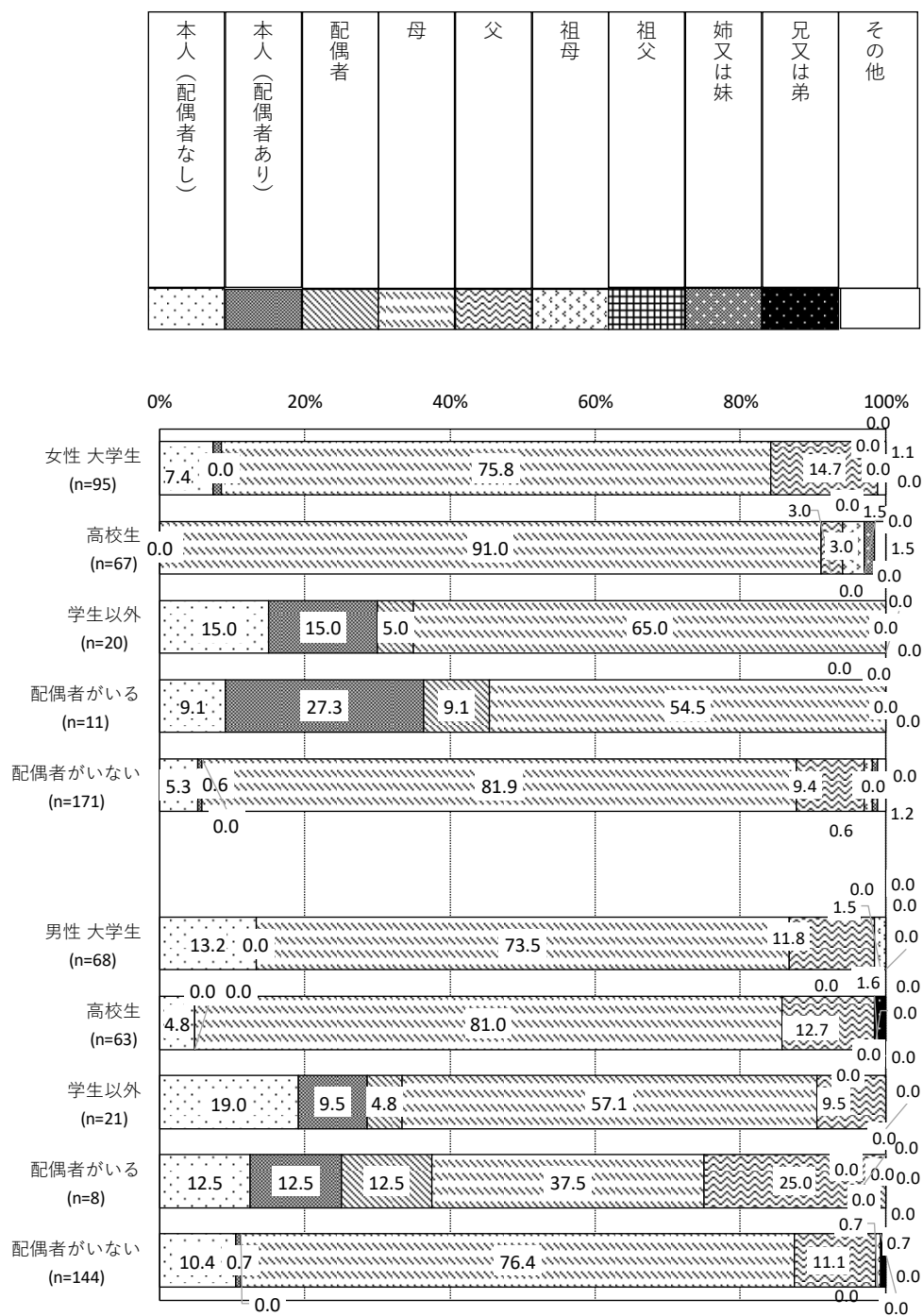
図表Ⅲ-2-2-1 家庭生活の分担について



【家庭での仕事を分担しているのは「母」が最多で5割近く】

家庭での仕事を分担しているのは「母」で女性 80.2%、男性 74.3%でした。次いで「父」で女性 8.8%、男性 11.8%でした。

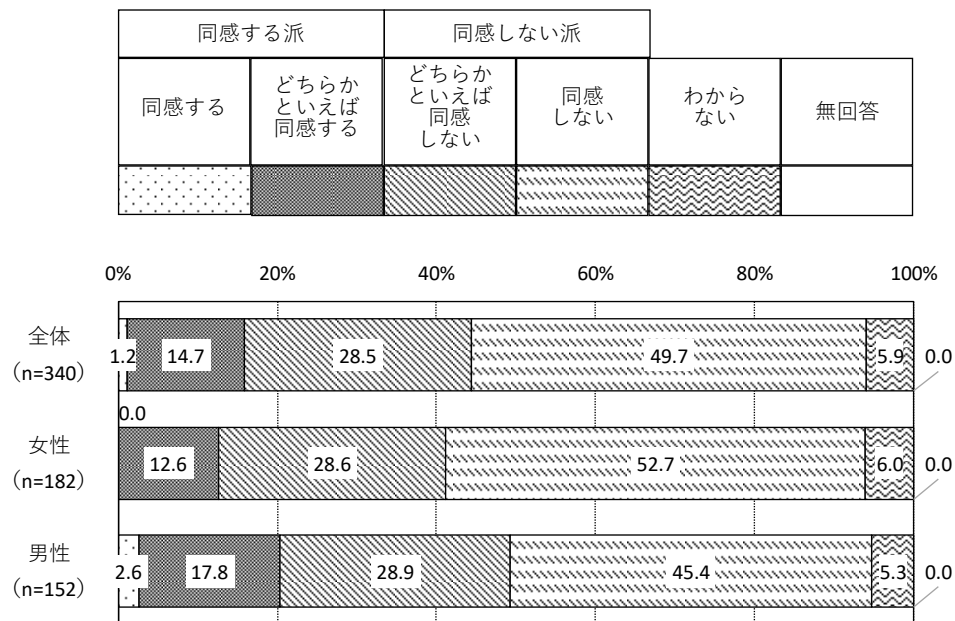
図表Ⅲ-2-2-2 家庭生活の分担について【性別・職業学校・配偶者有無別】



②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。

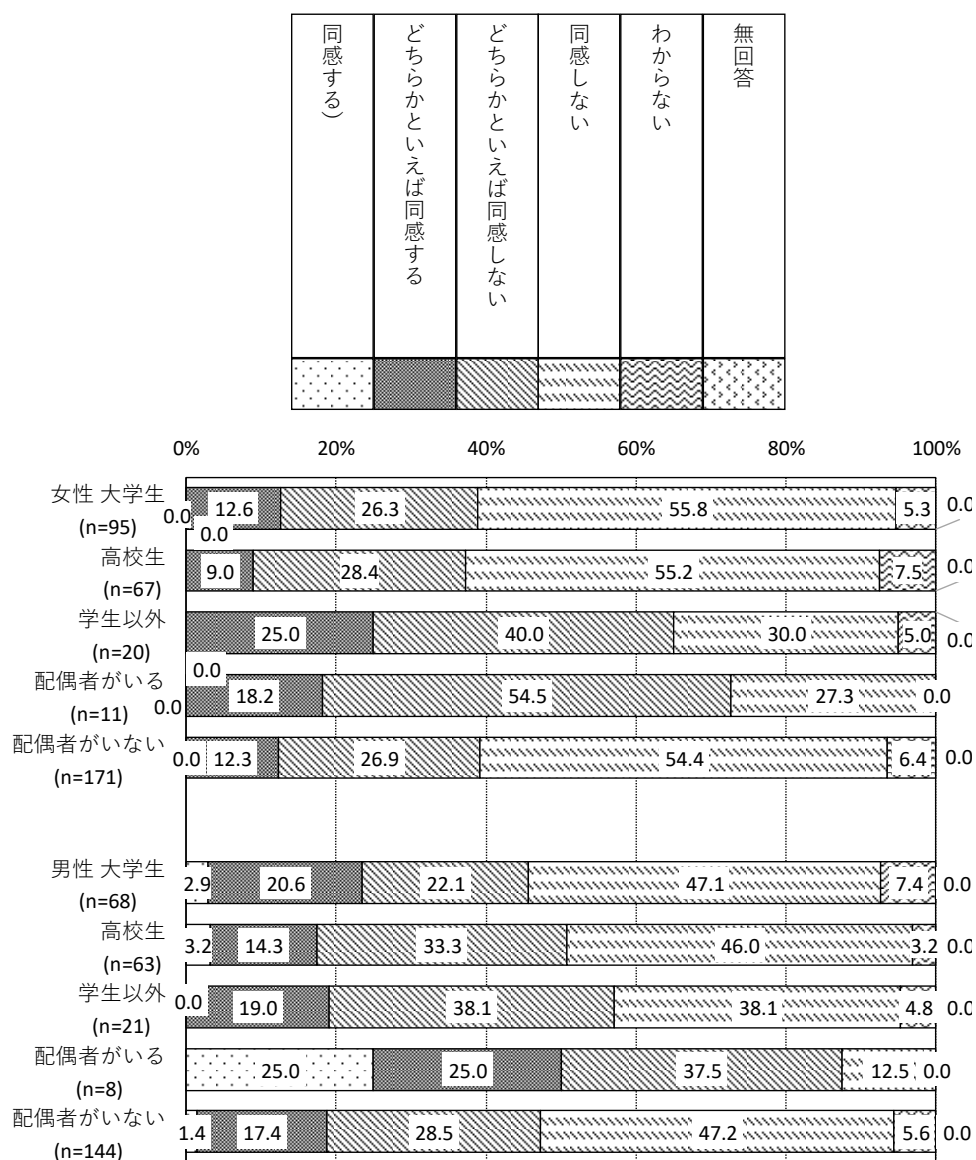
図表Ⅲ-2-2-3 性別による役割分担の考えについて



【「男は仕事、女は家庭」という役割分担に「同感しない派」は7割以上】

男女の役割分担について、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性が81.3%、男性が74.3%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性が12.6%（同感するは0%）、男性が20.4%と『同感しない派』が大きく上回っています。

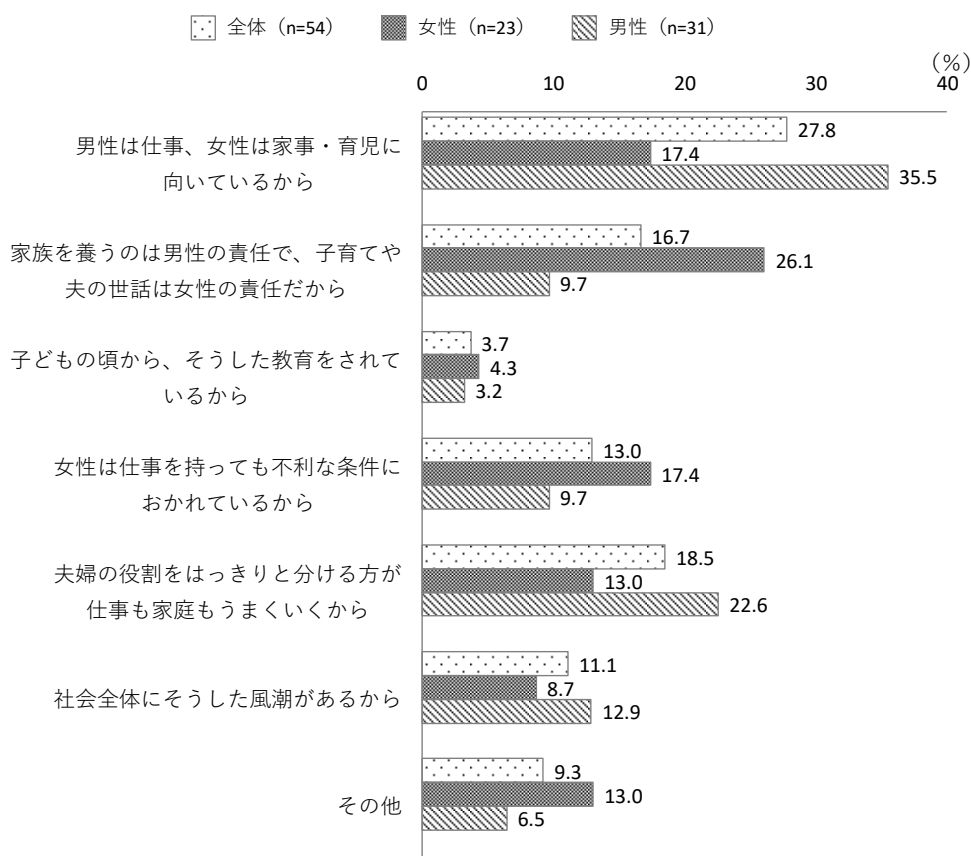
図表Ⅲ-2-2-3 性別による役割分担の考えについて【性別・職業学校・配偶者有無別】



③性別による役割分担を支持する理由

(問2で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問2-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-2-4 性別による役割分担を支持する理由



【性別による役割分担を支持する理由は女性は「責任」26.1%、男性は「向き」35.5%】

性別による役割分担を支持する理由については、女性は「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」が最も高く 26.1%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」が 17.4%と同率で高く、男性は「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が最も高く 35.5%、次いで「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が 22.6%となっています

図表Ⅲ-2-2-5 性別による役割分担を支持する理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	育児は仕事、男性は家事・女性にしているから	家族を養うのは男性の責任だから	子どもの頃から、そうした教育をされているから	女性はお仕事を持っているから不利	夫婦の役割をはっきりと分けるから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
全体		54	27.8	16.7	3.7	13.0	18.5	11.1	9.3	0.0
性別	女性	23	17.4	26.1	4.3	17.4	13.0	8.7	13.0	0.0
	男性	31	35.5	9.7	3.2	9.7	22.6	12.9	6.5	0.0

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

●授乳などは体の構造的に女性にしかできないため

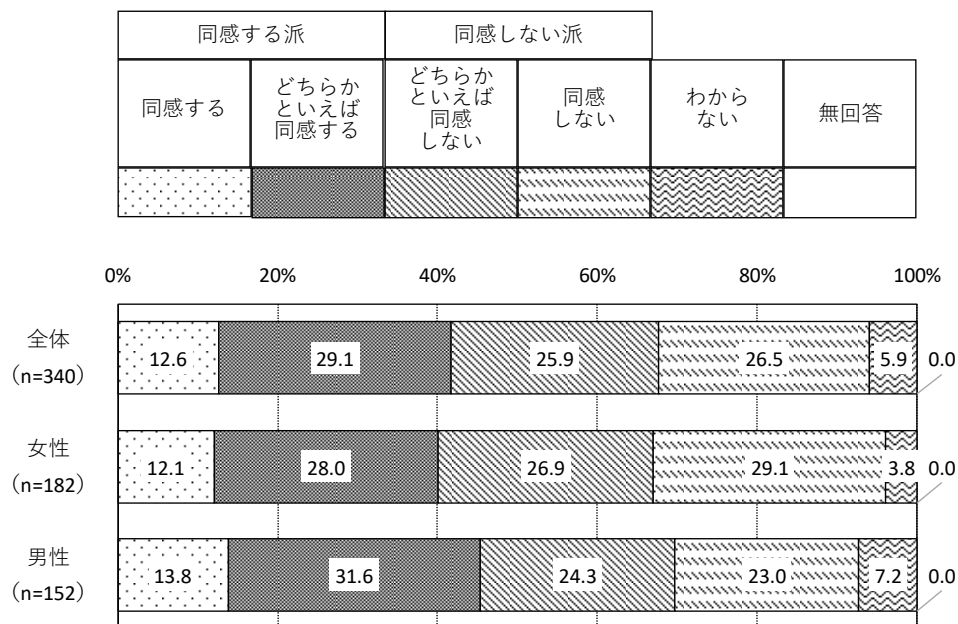
<男性>

●家がそうだから

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

図表Ⅲ-2-2-6 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

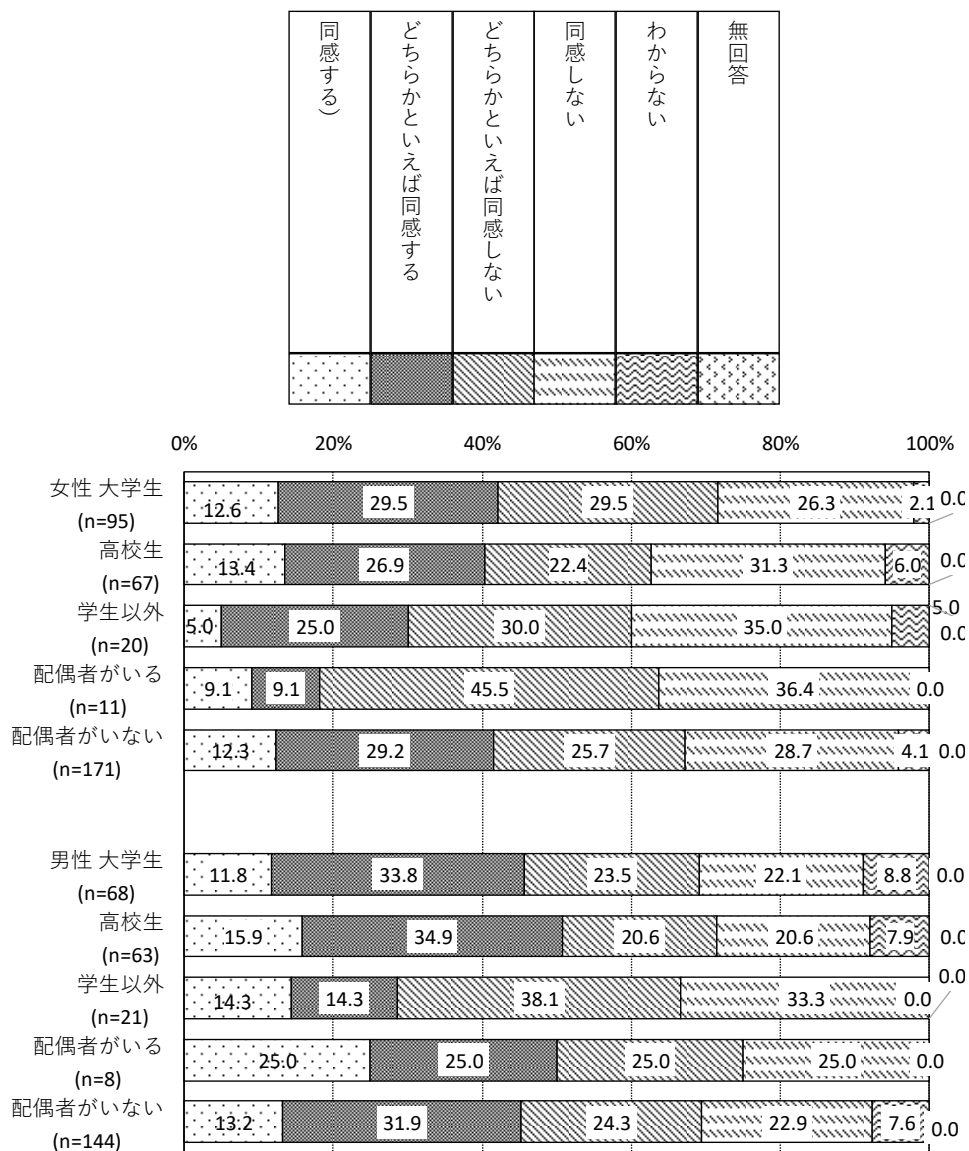


【「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで育児に専念したほうがよい」という考えに「同感する派」は4割強】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念した方がよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性は40.1%で男性は45.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性で56.0%、男性で47.3%と『同感しない派』が上回っています

図表Ⅲ-2-2-7 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

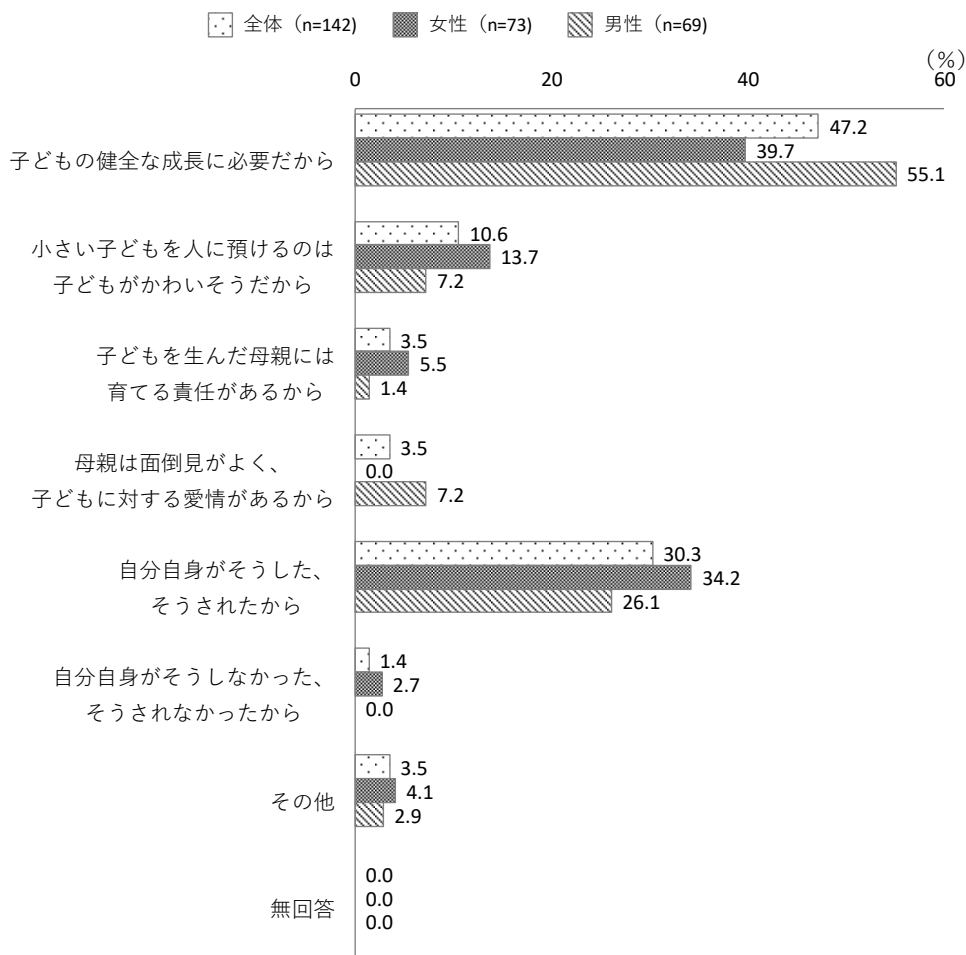
【性別・職業学校・配偶者有無別】



⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

(問3で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-2-8 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由



【子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由は「子どもの健全な成長に必要なだから」が5割近く】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なだから」(女性 39.7%、男性 55.1%) が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」(女性 34.2%、男性 26.1%) となっています。

図表Ⅲ-2-2-9 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	子どもの健全な成長に必要な	小さい子どもが人に預けられる	子どもを育てる責任があるから	母親は面倒見がよく、愛情があるから	自分自身がそうした、そう	自分自身がそうしなかったから	その他	無回答
全体		142	47.2	10.6	3.5	3.5	30.3	1.4	3.5	0.0
性別	女性	73	39.7	13.7	5.5	0.0	34.2	2.7	4.1	0.0
	男性	69	55.1	7.2	1.4	7.2	26.1	0.0	2.9	0.0

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 愛情不足の子供が育つ

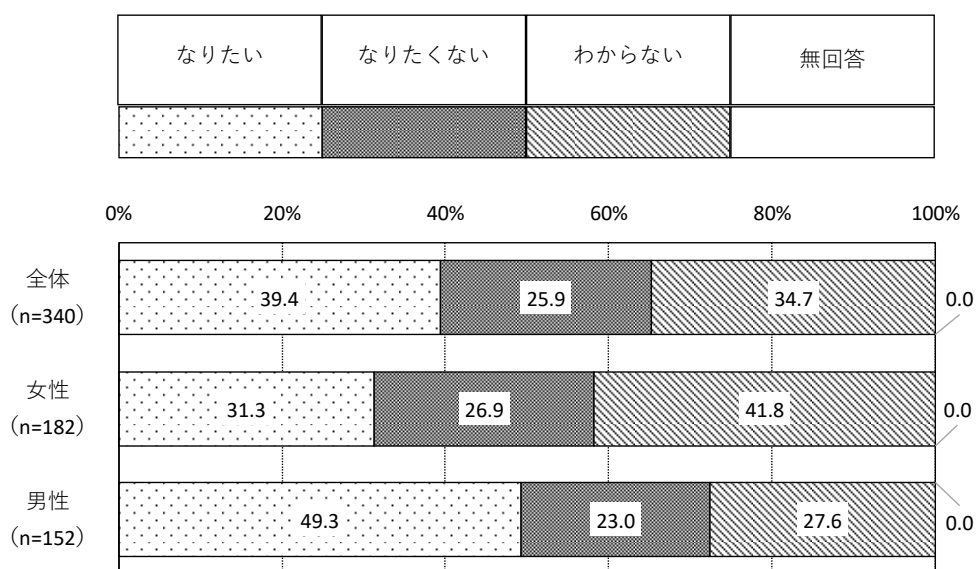
<男性>

- 子育ての効率が上がるから

⑥意思決定職になる意向

問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職（経営者や組織の管理職）になりたいと思いますか。

図表Ⅲ-2-2-10 意思決定職になる意向



【組織の意思決定ができる職になりたいは女性は3割強、男性は約5割】

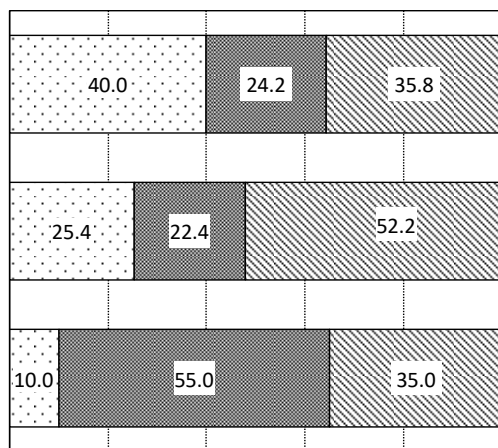
組織の意思決定ができる職になりたいかについては、「なりたい」女性は31.3%、男性は49.3%でした。

図表Ⅲ-2-2-11 意思決定職になる意向【性別・職業学校別】

なりたい	なりたくない	わからない	無回答

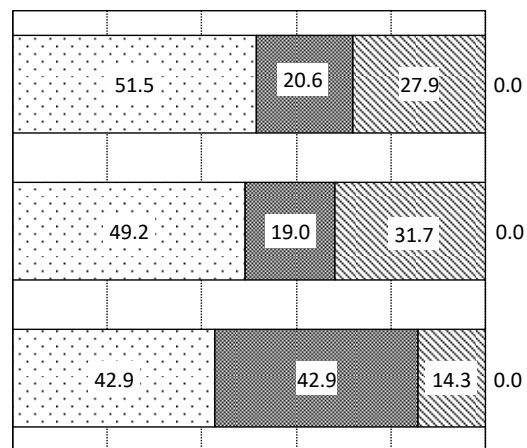
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



<男性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

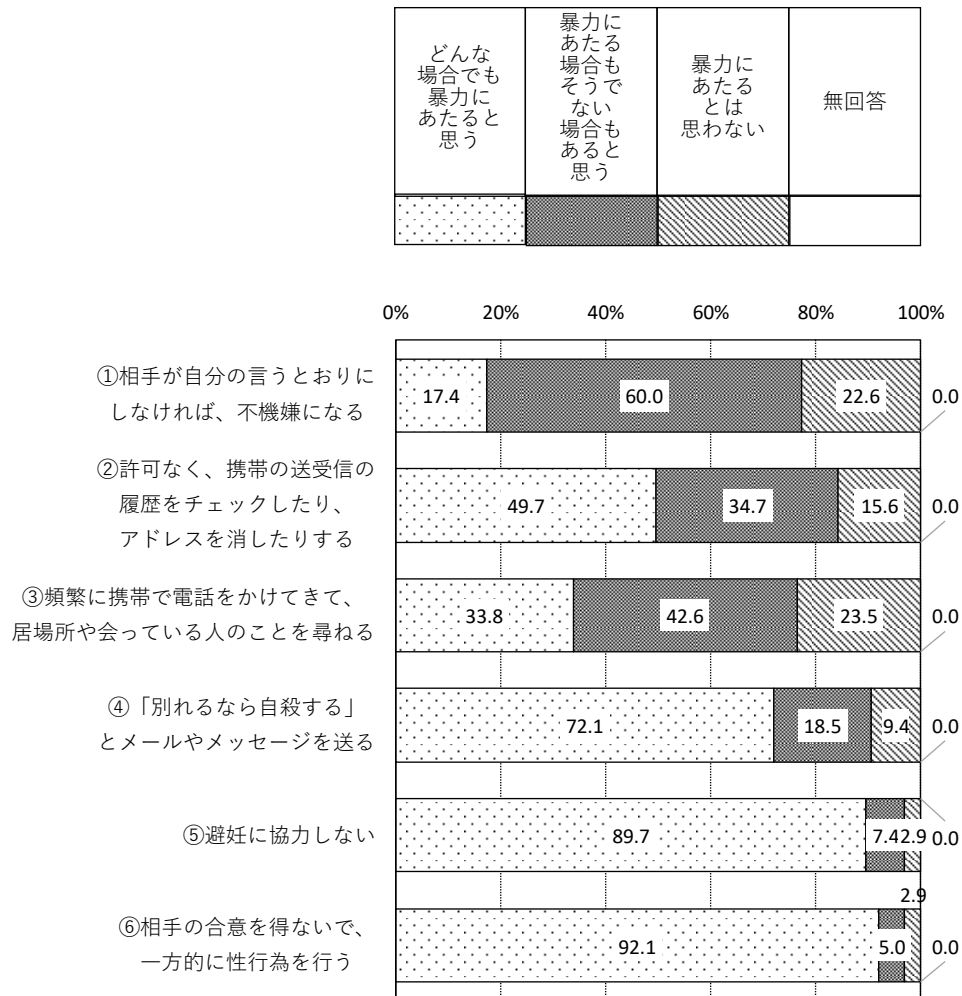


(3)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問5 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。

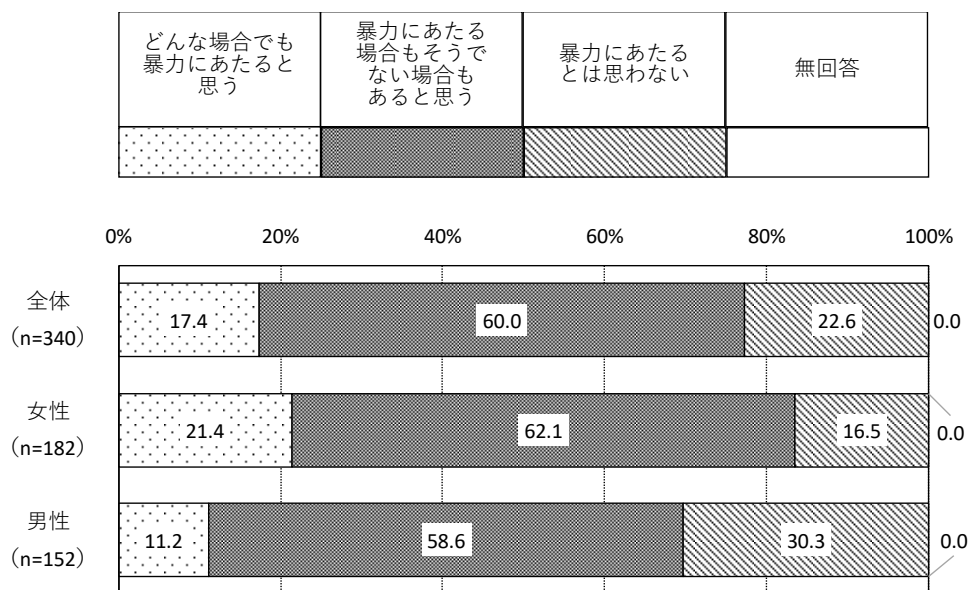
図表Ⅲ-2-3-1 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為



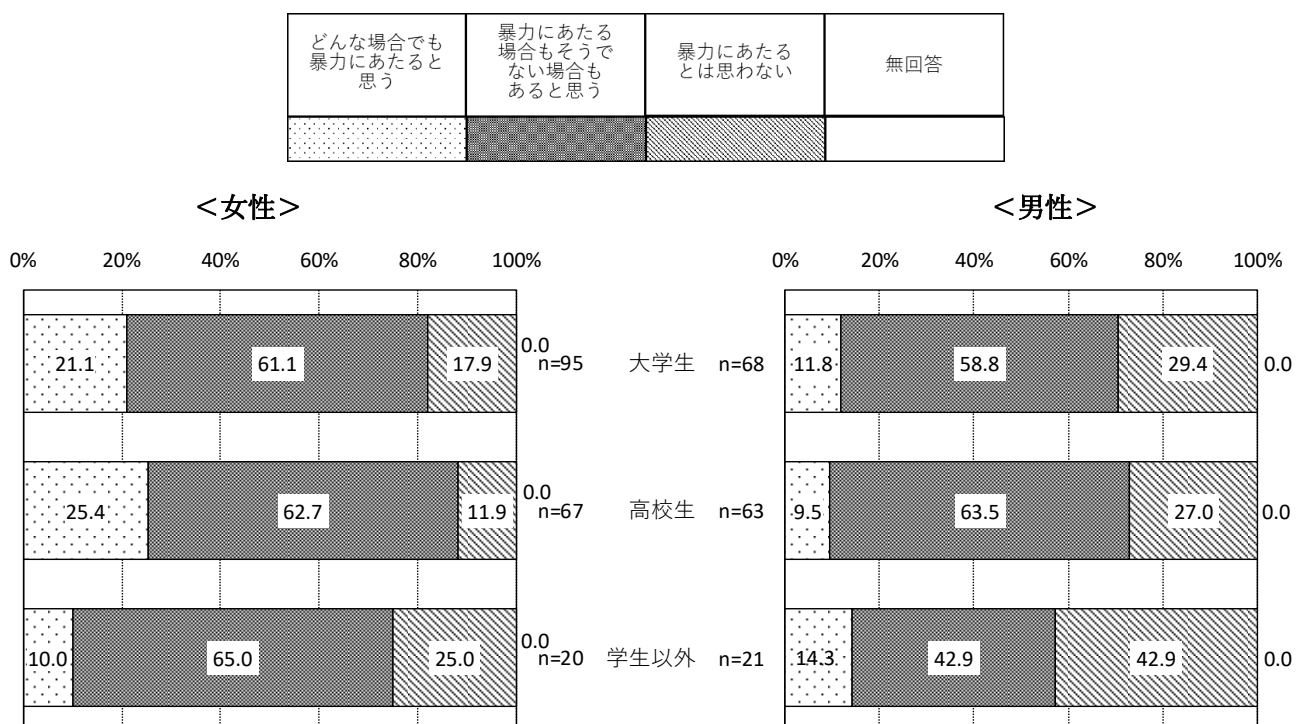
【恋人同士の間でのDVだと思ふ行為で最も多いのは「相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」で、9割以上】

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 93.4%、男性 90.1%で最も高く、「③頻繁に携帯で電話をかけてきて、場所や会っている人のことを尋ねる」が『暴力にあたるとは思わない』のは女性 19.2%、男性 28.9%で最も高くなっています。

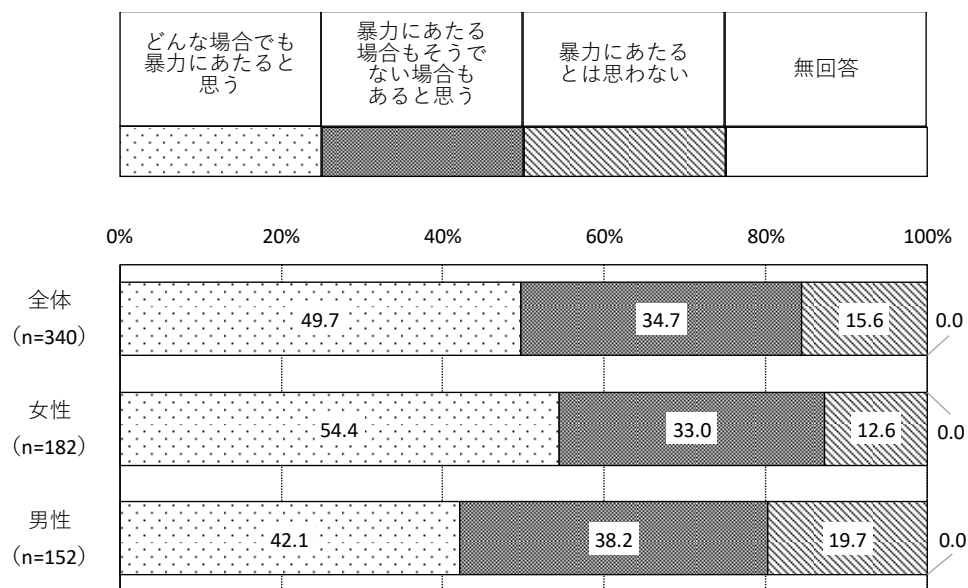
図表Ⅲ-2-3-2 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる



図表Ⅲ-2-3-3 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-4 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする



図表Ⅲ-2-3-5 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする

【性別・職業学校別】

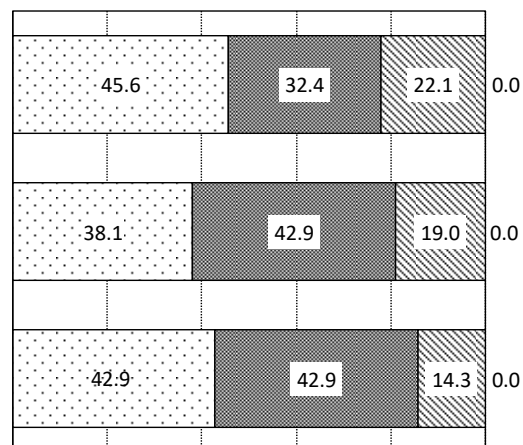
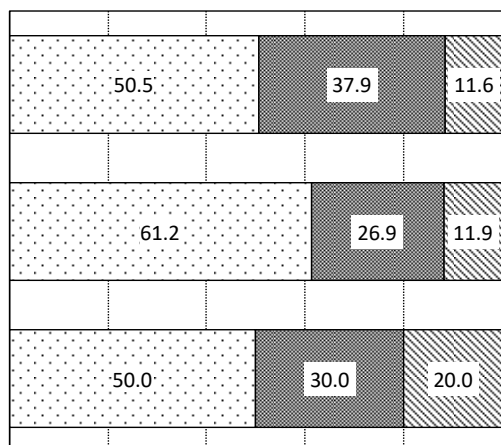
どんな場合でも 暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合もそうで ない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない	無回答

<女性>

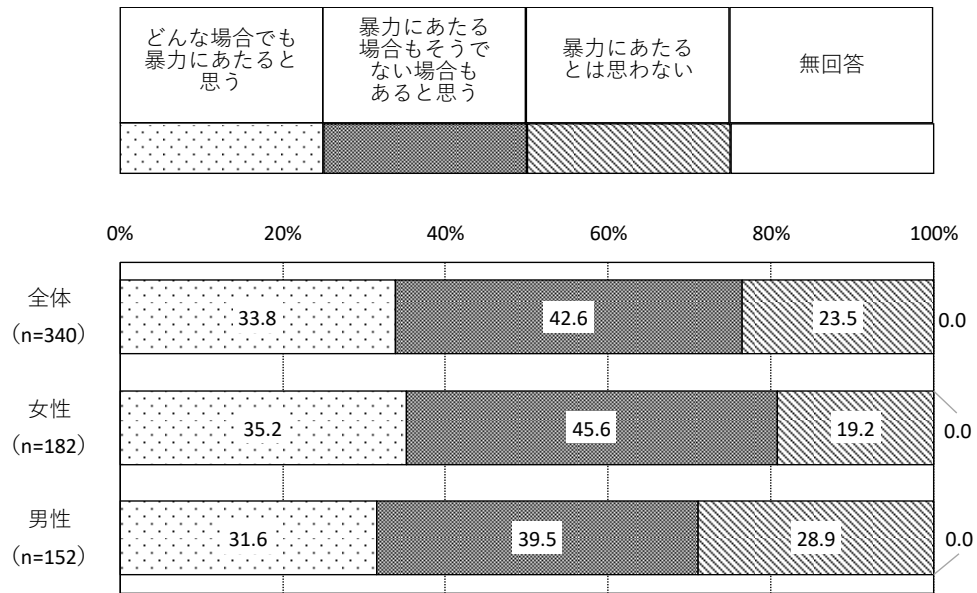
<男性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

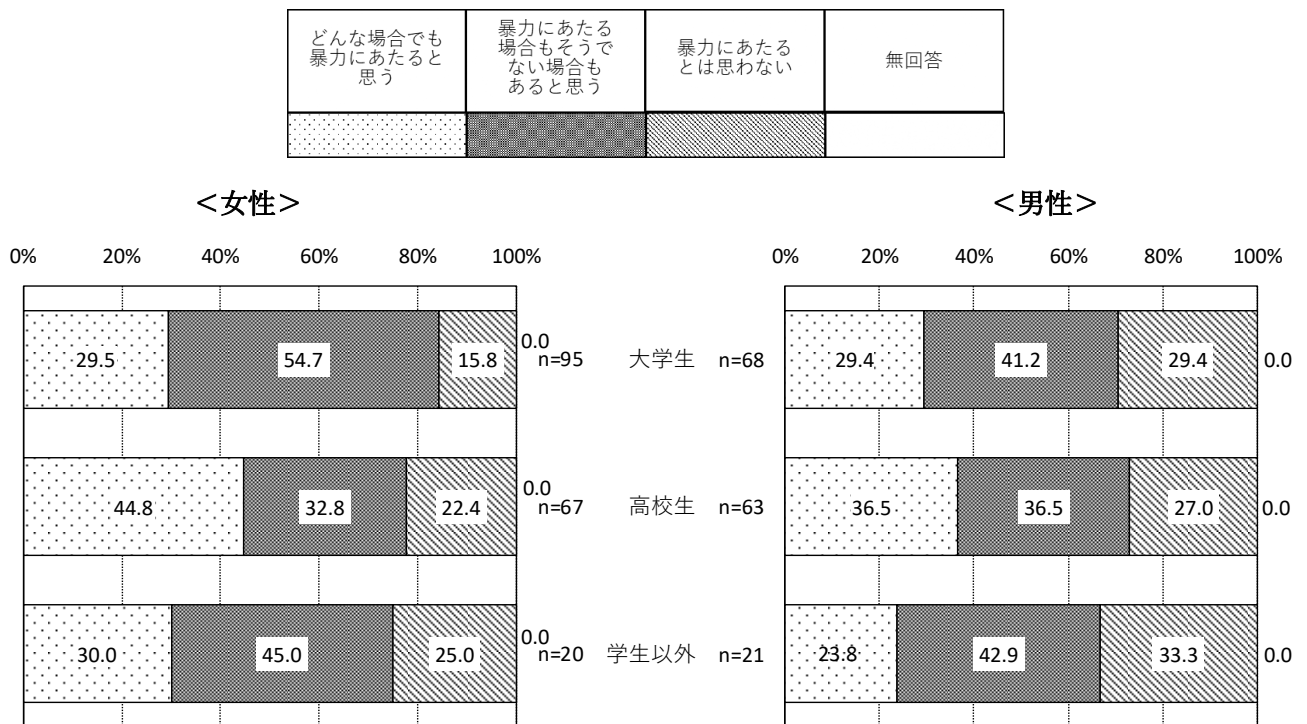
0% 20% 40% 60% 80% 100%



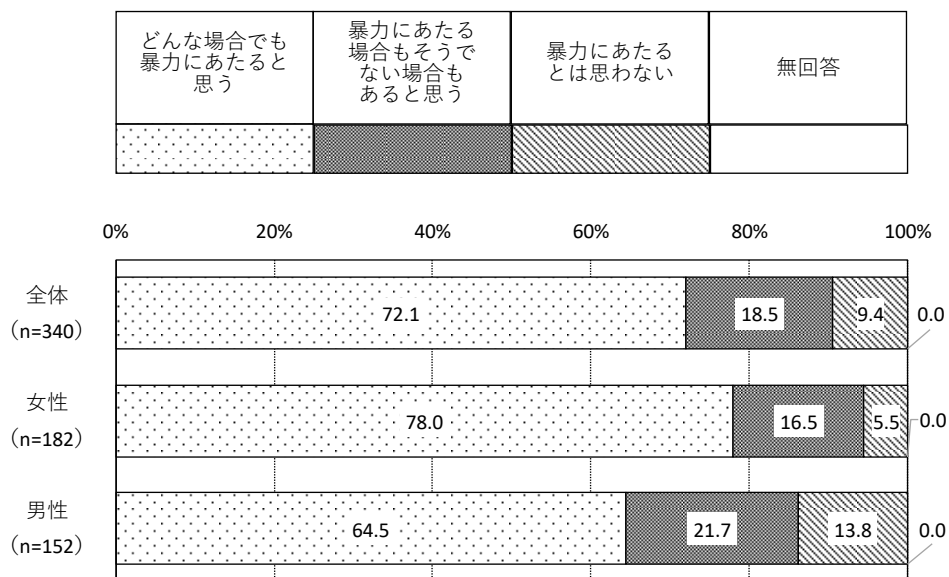
図表Ⅲ-2-3-6 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる



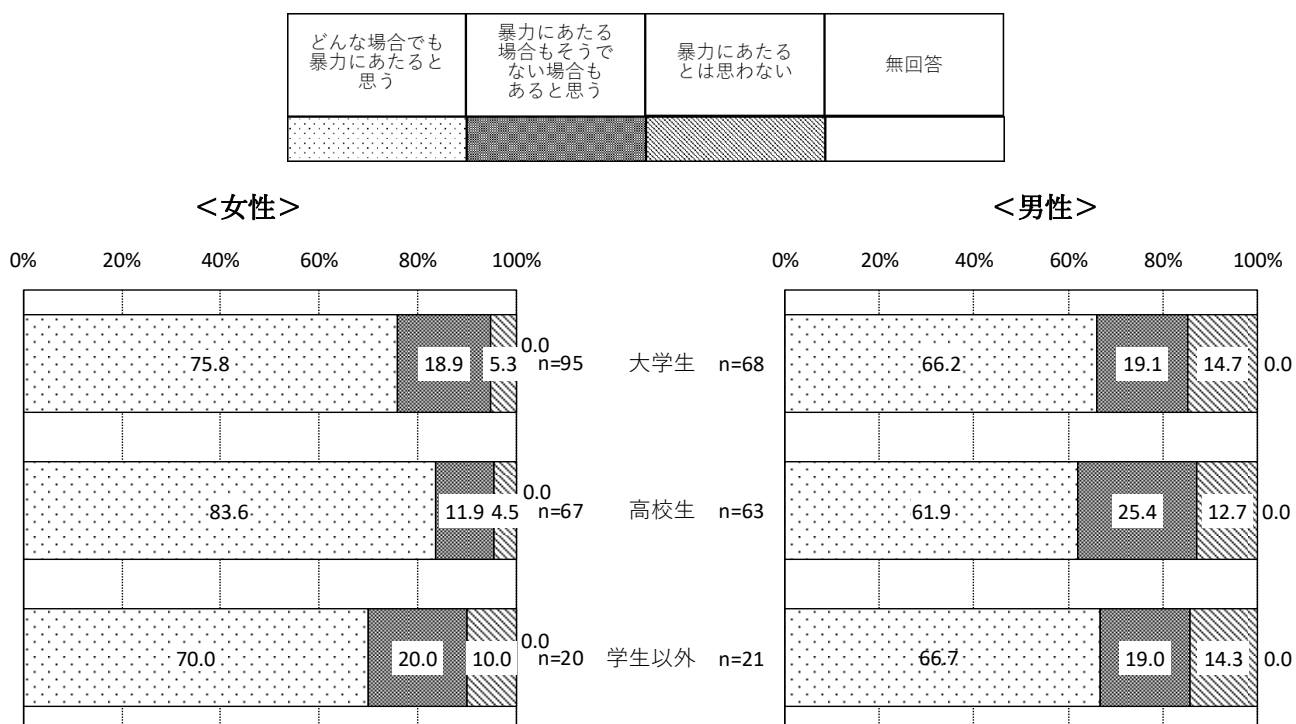
図表Ⅲ-2-3-7 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる
【性別・職業学校別】



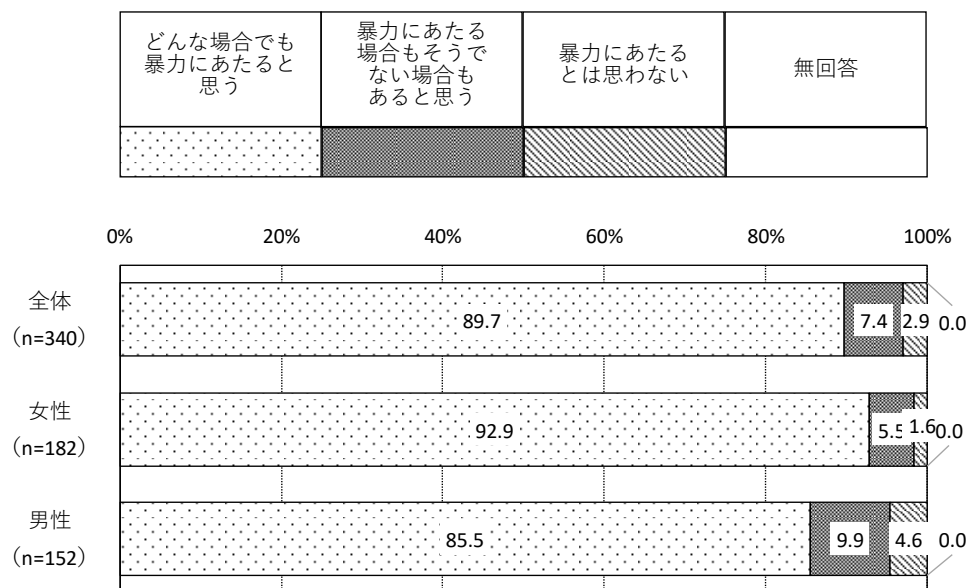
図表Ⅲ-2-3-8 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る



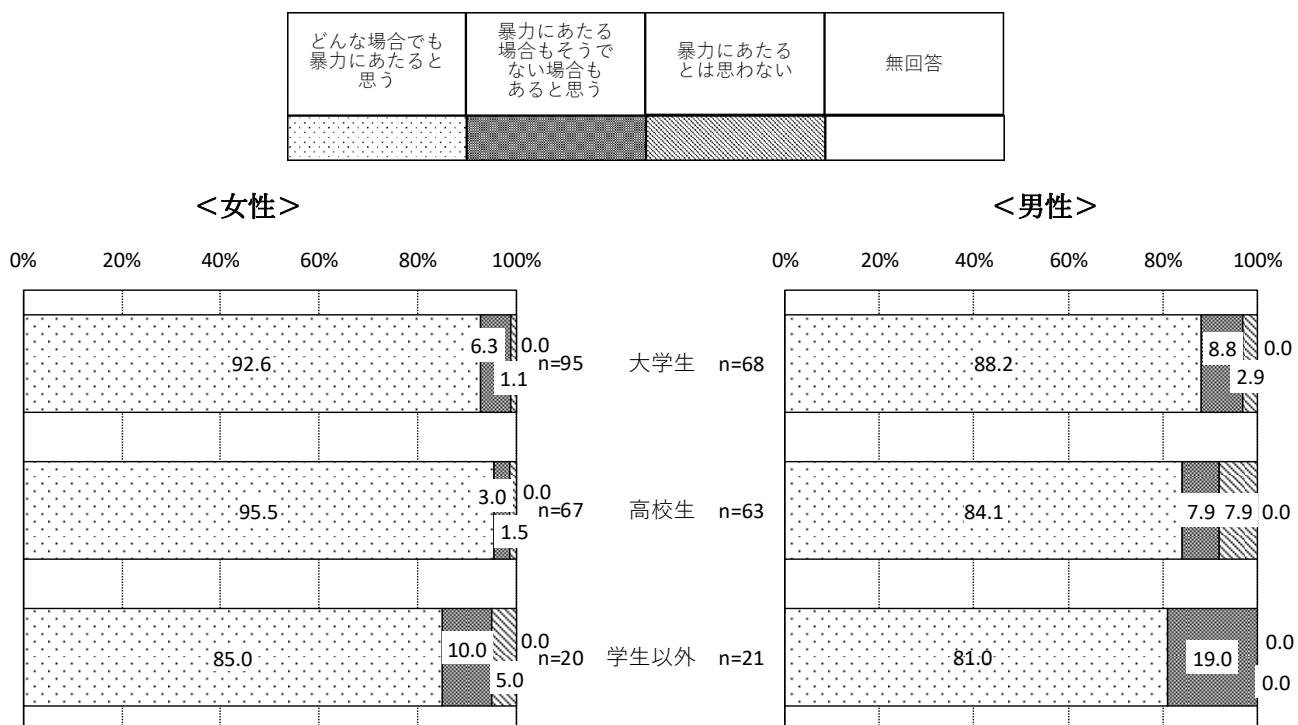
図表Ⅲ-2-3-9 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る【性別・職業学校別】



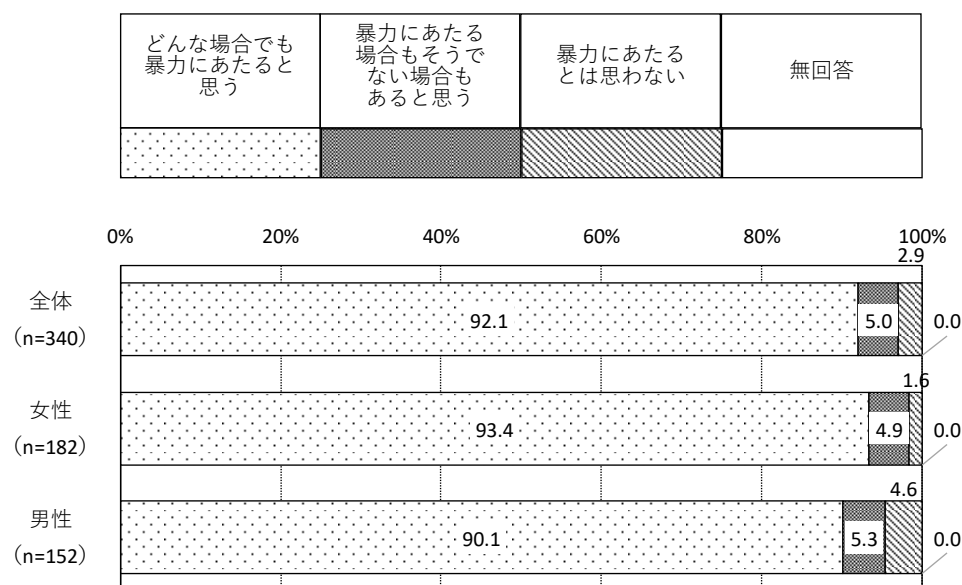
図表Ⅲ-2-3-10 ⑤避妊に協力しない



図表Ⅲ-2-3-11 ⑤避妊に協力しない【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-12 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



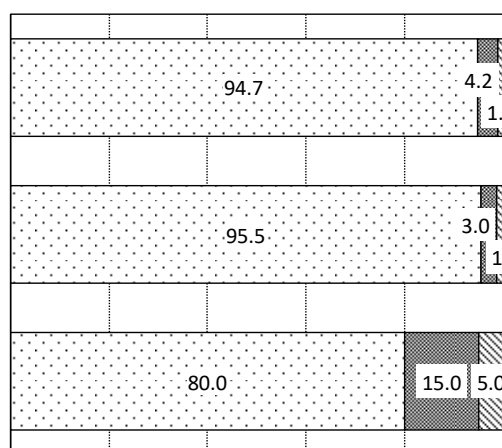
図表Ⅲ-2-3-13 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う

【性別・職業学校別】

どんな場合でも 暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合もそうで ない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない	無回答

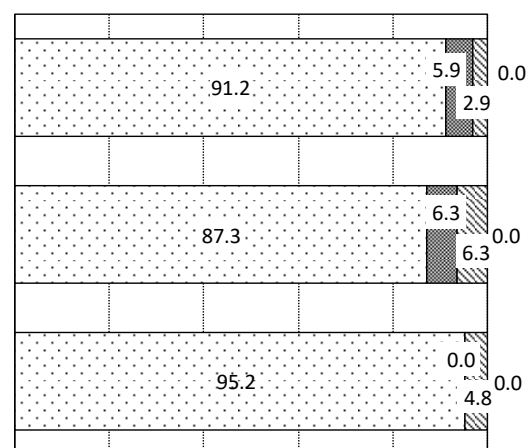
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



<男性>

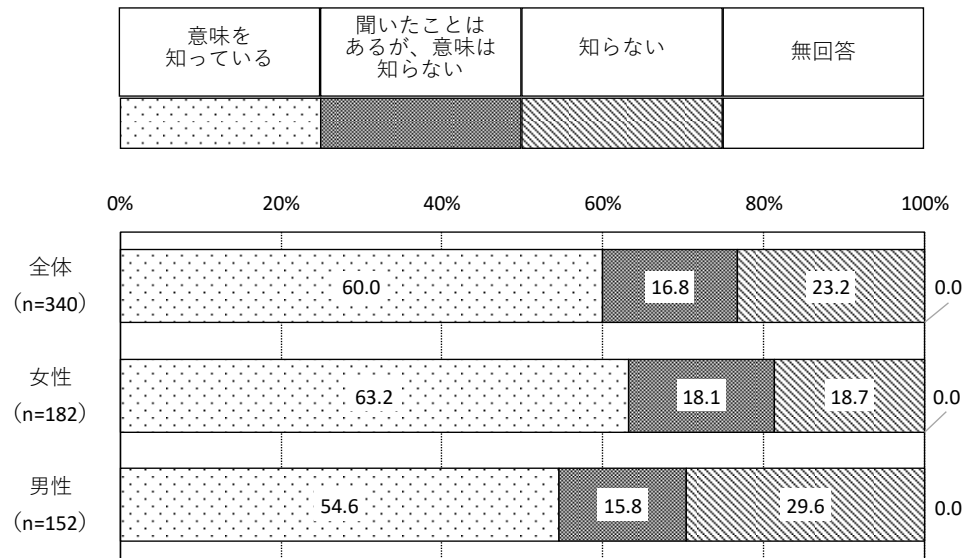
0% 20% 40% 60% 80% 100%



②デート DV の認知度

問 6 あなたは「デート DV」という言葉を知っていますか。

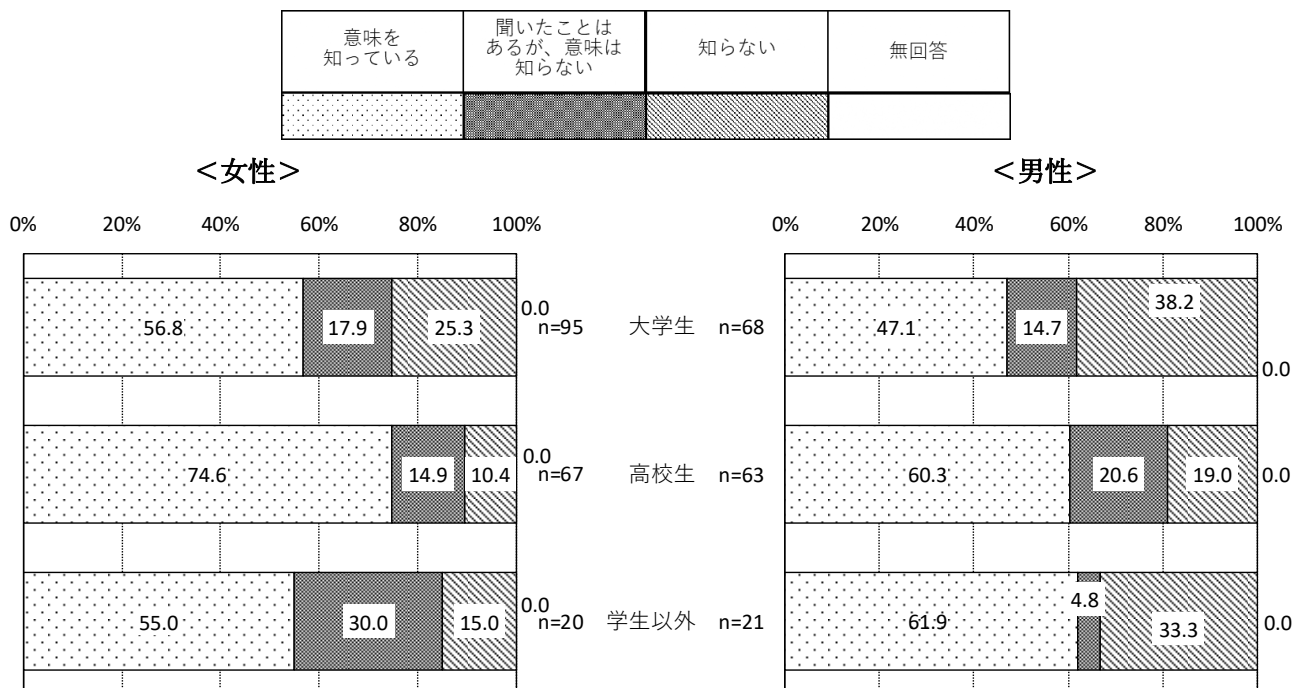
図表Ⅲ-2-3-14 デート DV の認知度



【デート DV の認知度は約 6 割】

デート DV の意味を知っているのは女性 63.2%、男性 54.6%でした。

図表Ⅲ-2-3-15 デート DV の認知度【性別・職業学校別】

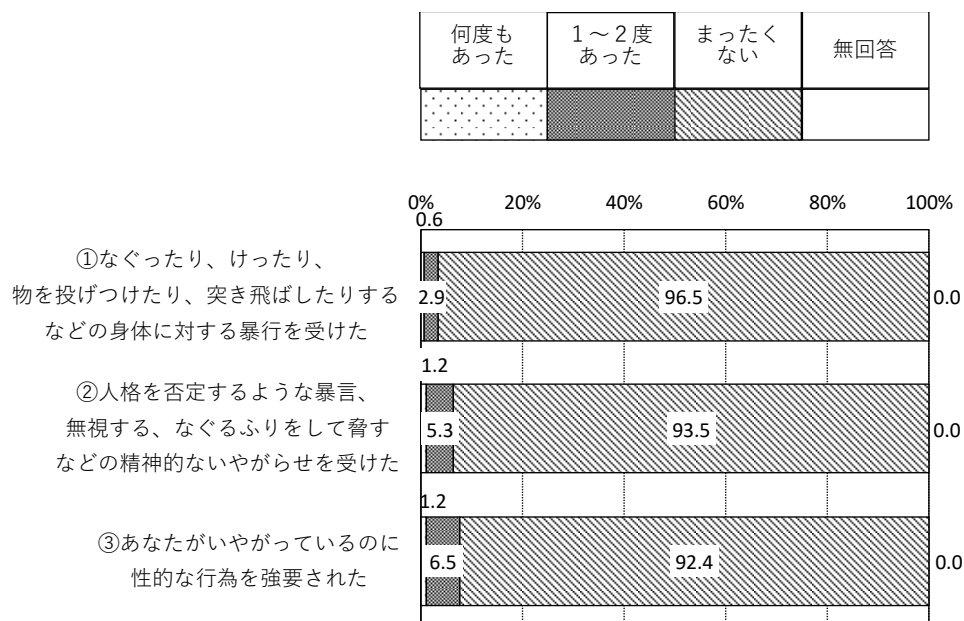


③交際相手からのDVの経験

交際相手がいる（いた）場合

問7 あなたはこれまでに交際相手から次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか

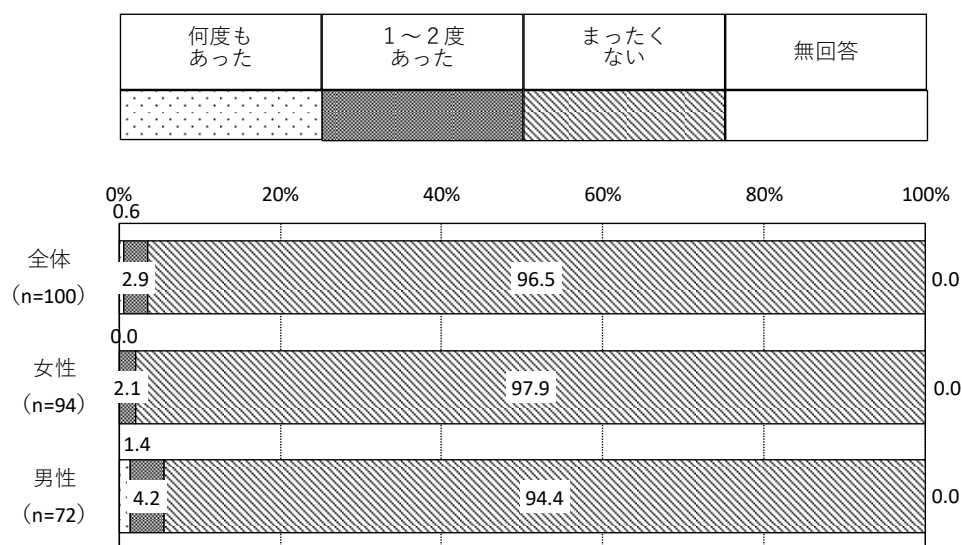
図表Ⅲ-2-3-16 交際相手からのDVの経験



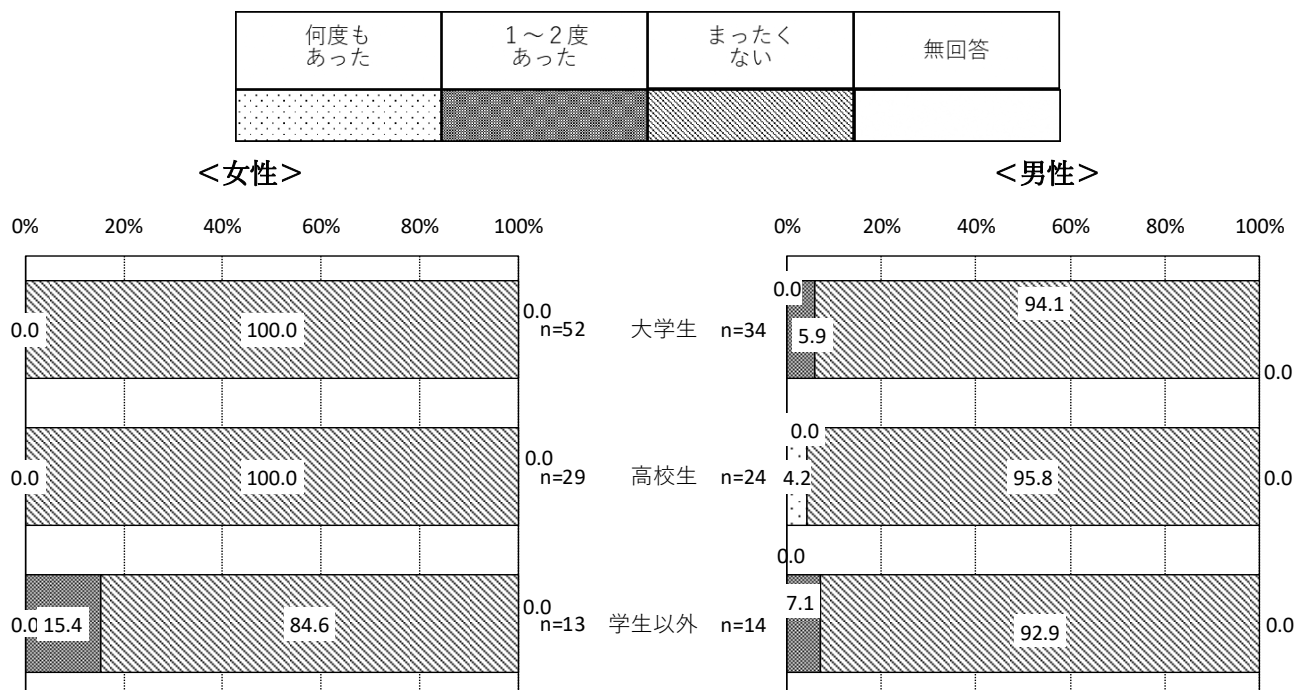
【DVの経験で多いのは「性的な行為の強要」で7.7%】

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性2.1%、男性5.6%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性9.6%、男性2.8%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性10.7%、男性2.8%となっています。

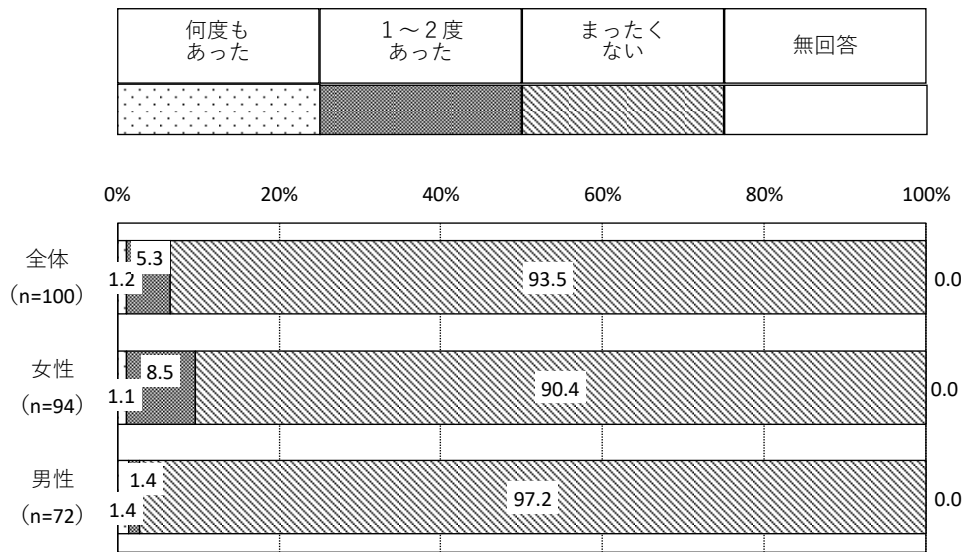
図表Ⅲ-2-3-17 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



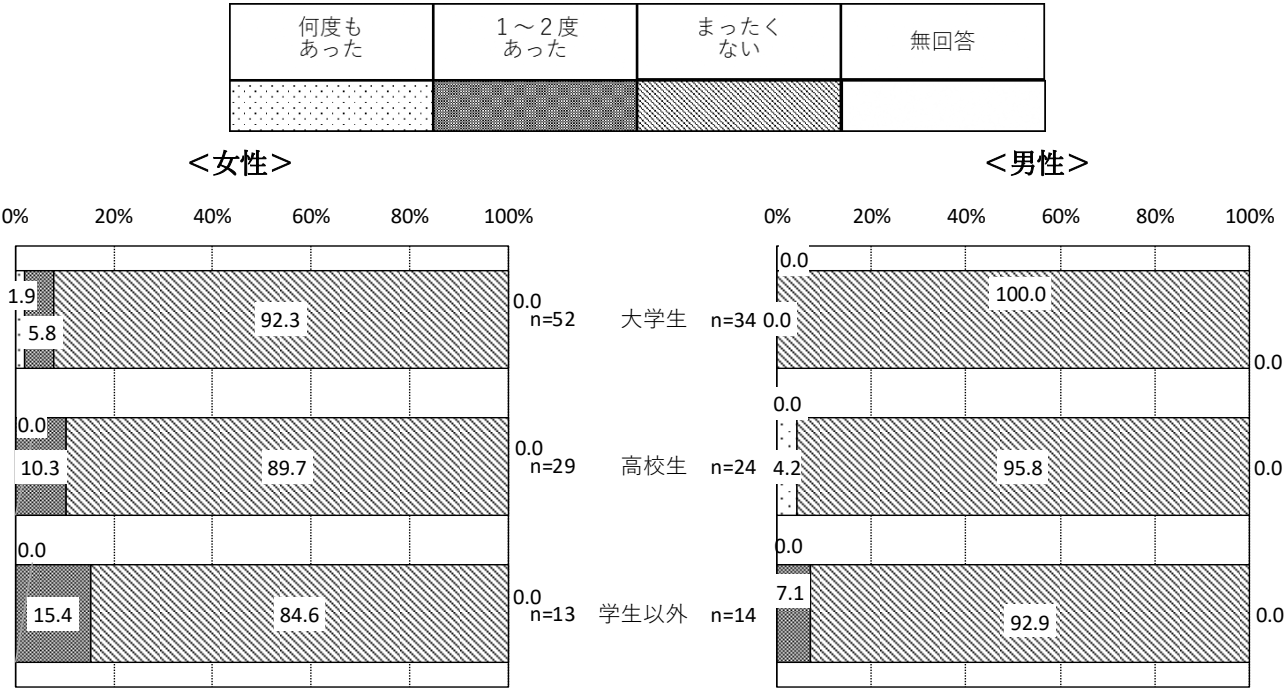
図表Ⅲ-2-3-18 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【性別・職業学校別】



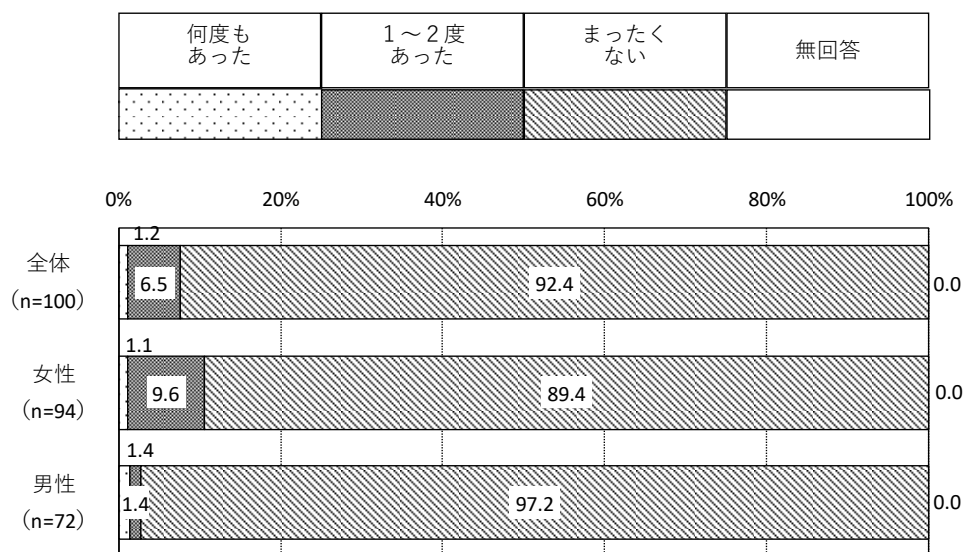
図表Ⅲ-2-3-19 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



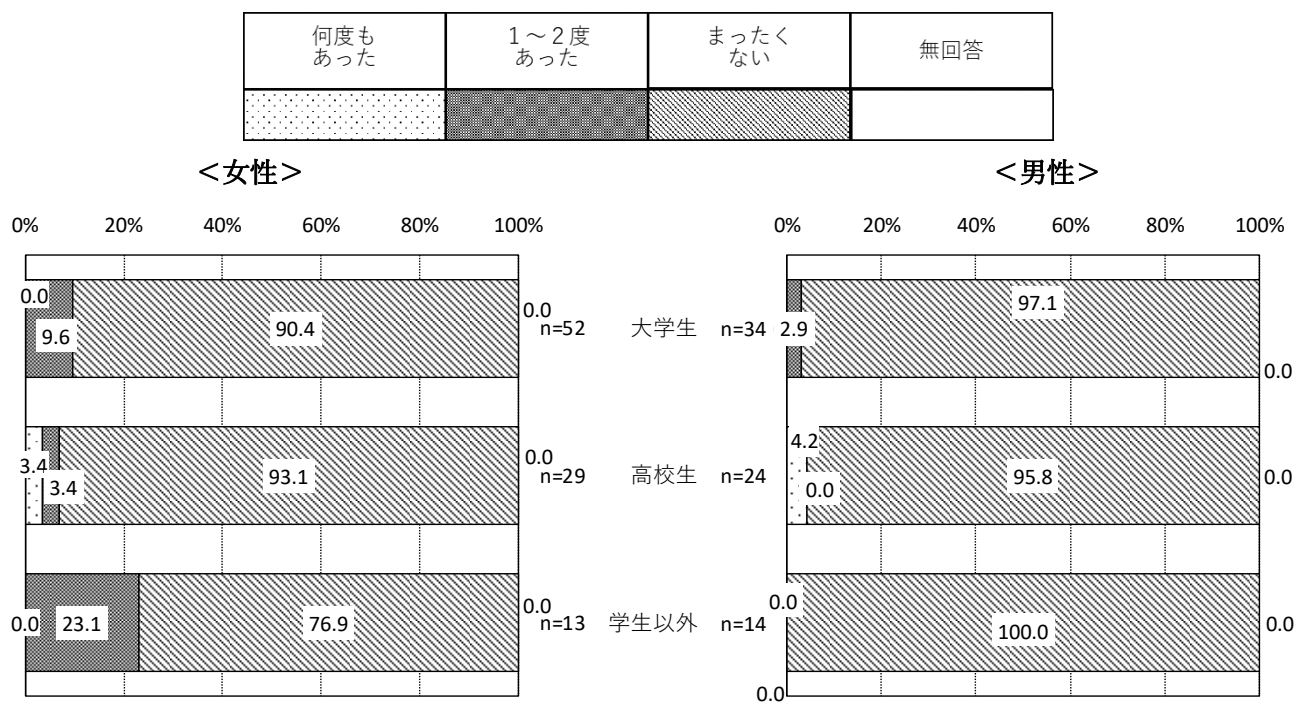
図表Ⅲ-2-3-20②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-21 ③あなたがいやがっているのに
性的な行為を強要された



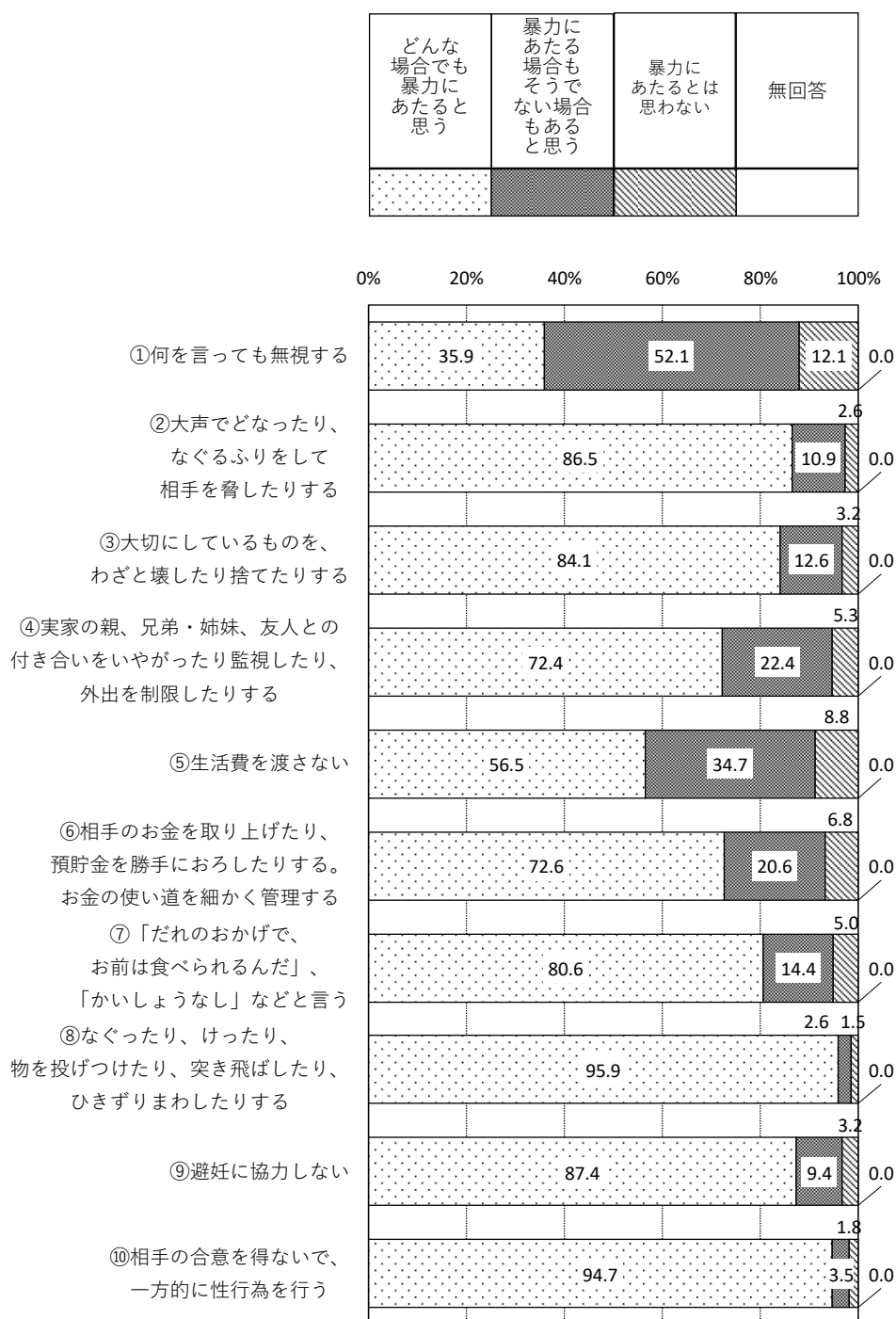
図表Ⅲ-2-3-22 ③あなたがいやがっているのに
性的な行為を強要された【性別・職業学校別】



④配偶者間でDVだと思ふ行為

問 8 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると
 思いますか。

図表Ⅲ-2-3-23 配偶者間でDVだと思ふ行為

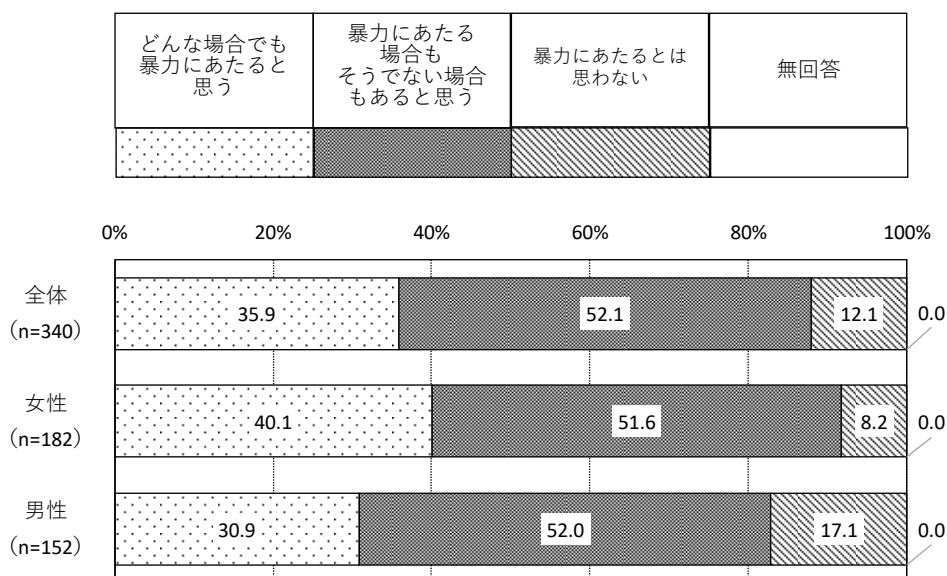


「配偶者間でDVだと思ふ行為は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が95.9%で最多」

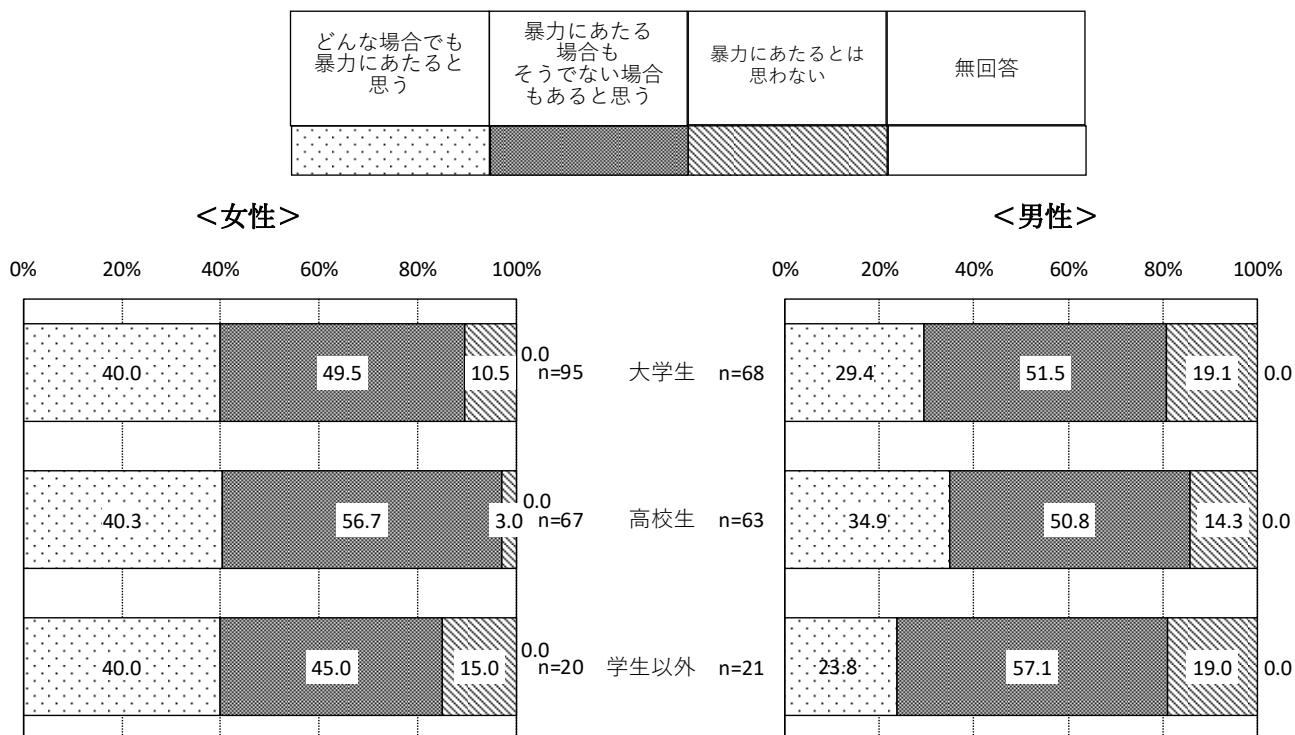
配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性97.3%、男性94.1%で最も高くなっています。「⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細か

く管理する。」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』は女性 80.8%、男性 61.8%、「⑦だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う」は女性 88.5%、男性 70.4%で、これらは男女での差が見られます。

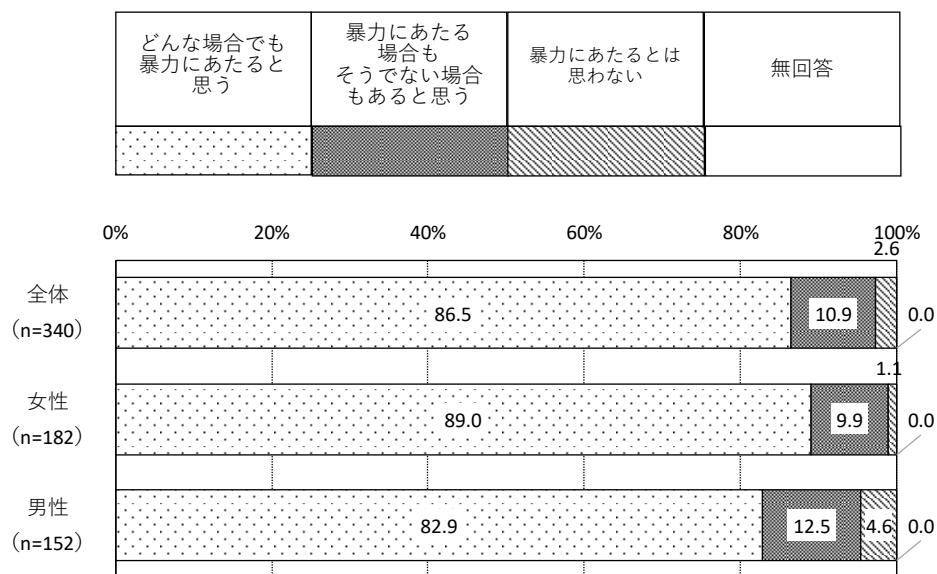
図表Ⅲ-2-3-24 ①何を言っても無視する



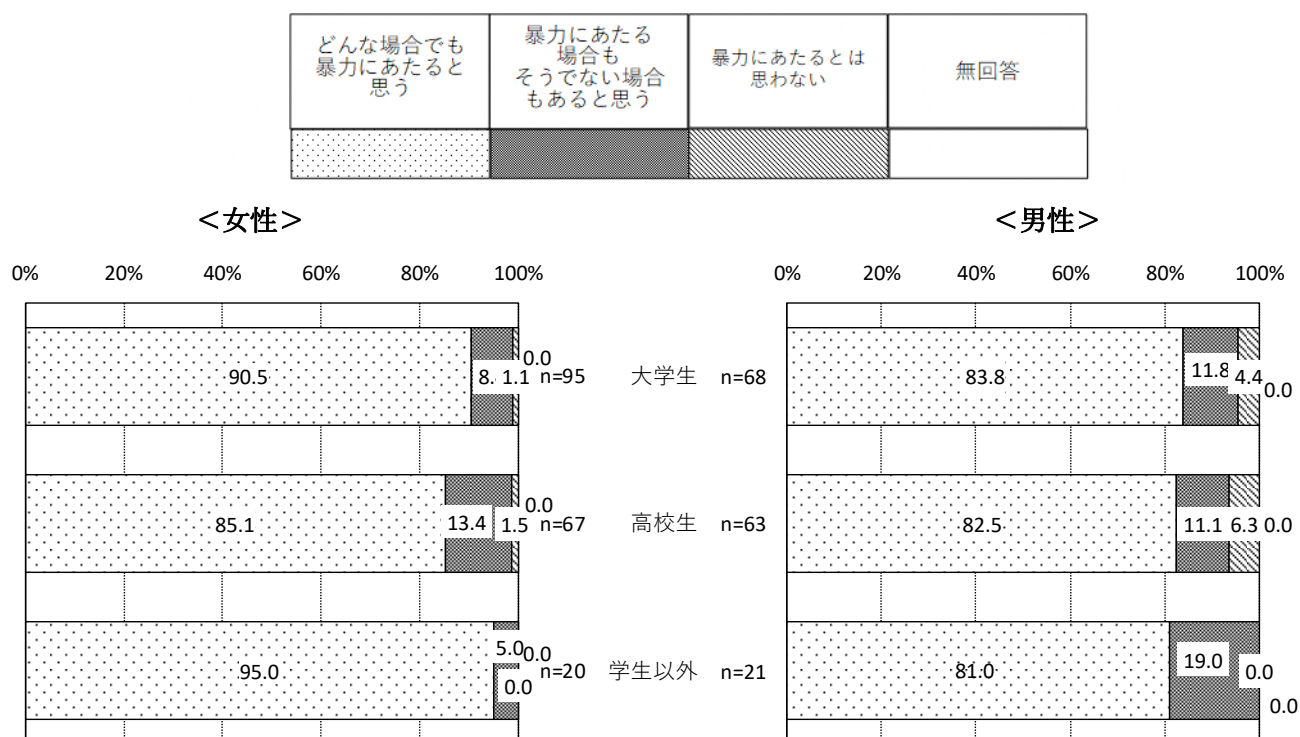
図表Ⅲ-2-3-25 ①何を言っても無視する【性別・職業学校別】



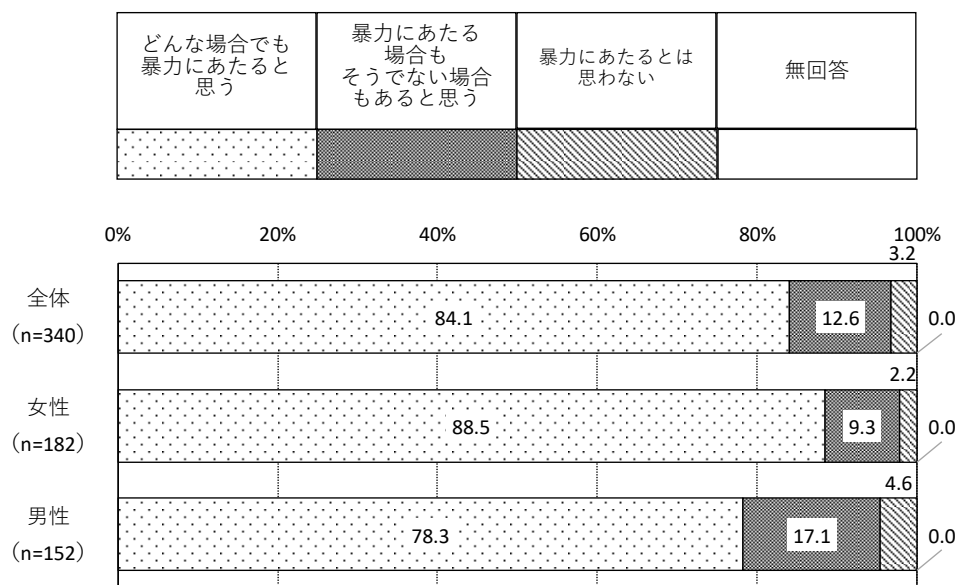
図表Ⅲ-2-3-26 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする



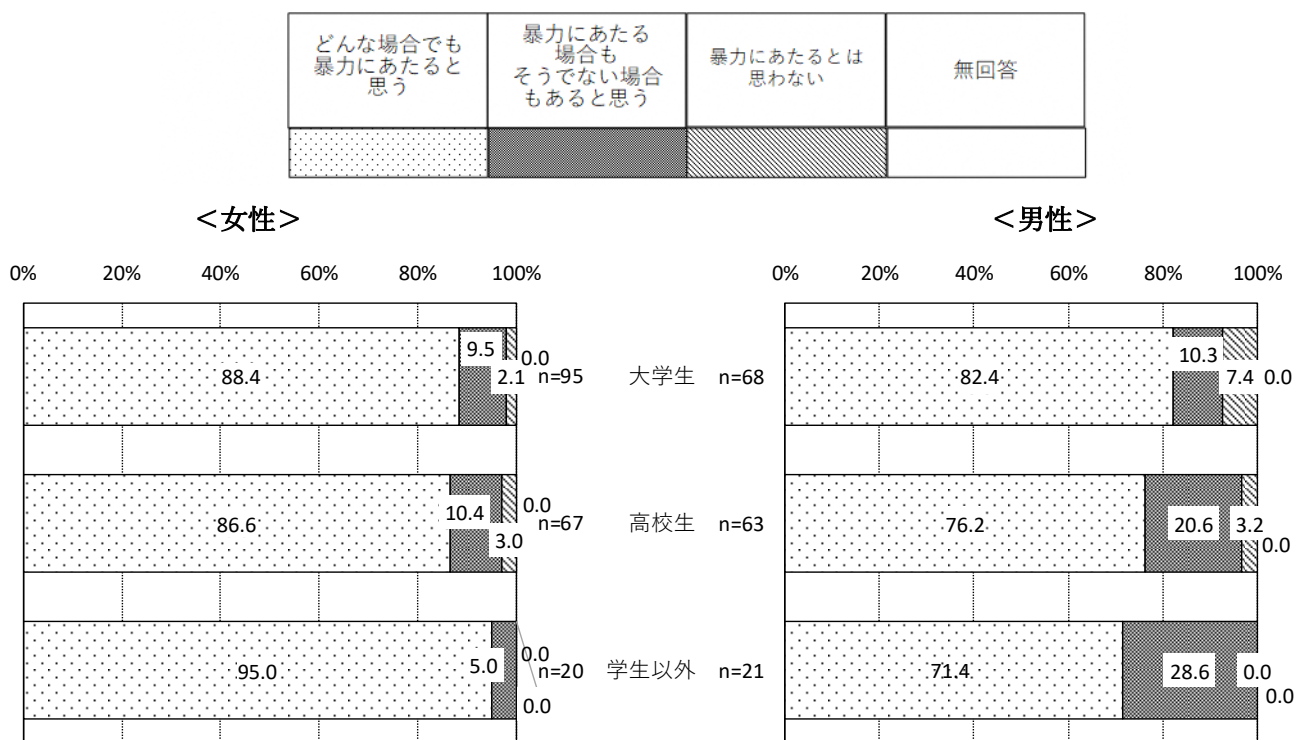
図表Ⅲ-2-3-27 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする【性別・職業学校別】



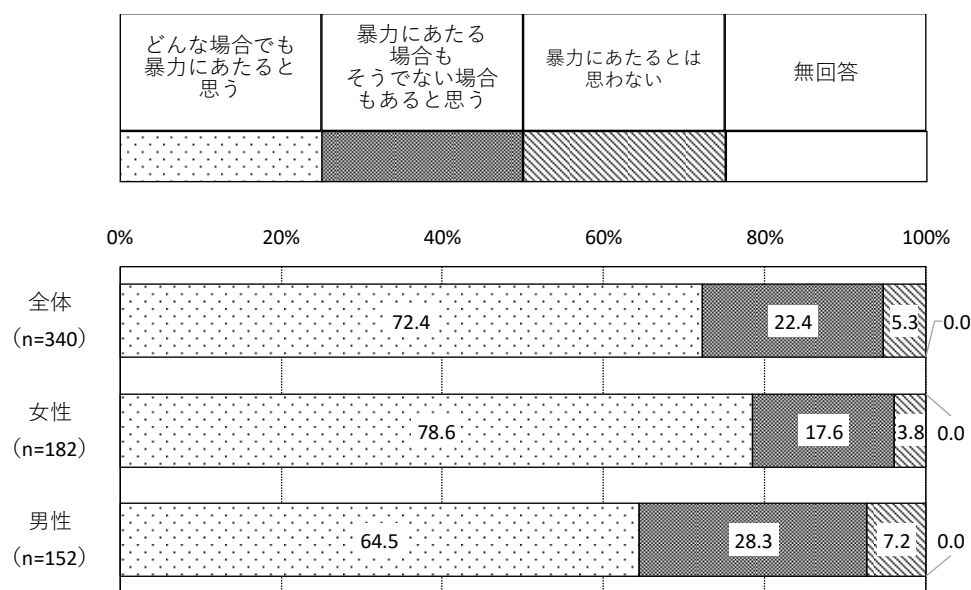
図表Ⅲ-2-3-28 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする



図表Ⅲ-2-3-29 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-30 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする



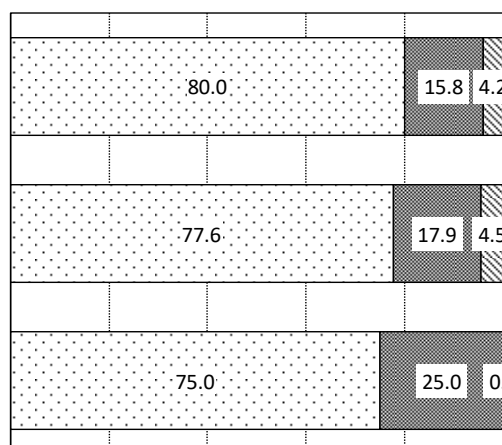
図表Ⅲ-2-3-31 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする

【性別・職業学校別】

どんな場合でも 暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合も そうでない場合 もあると思う	暴力にあたる とは思わない	無回答

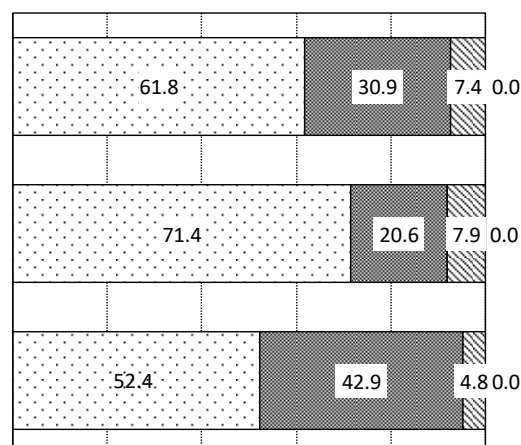
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

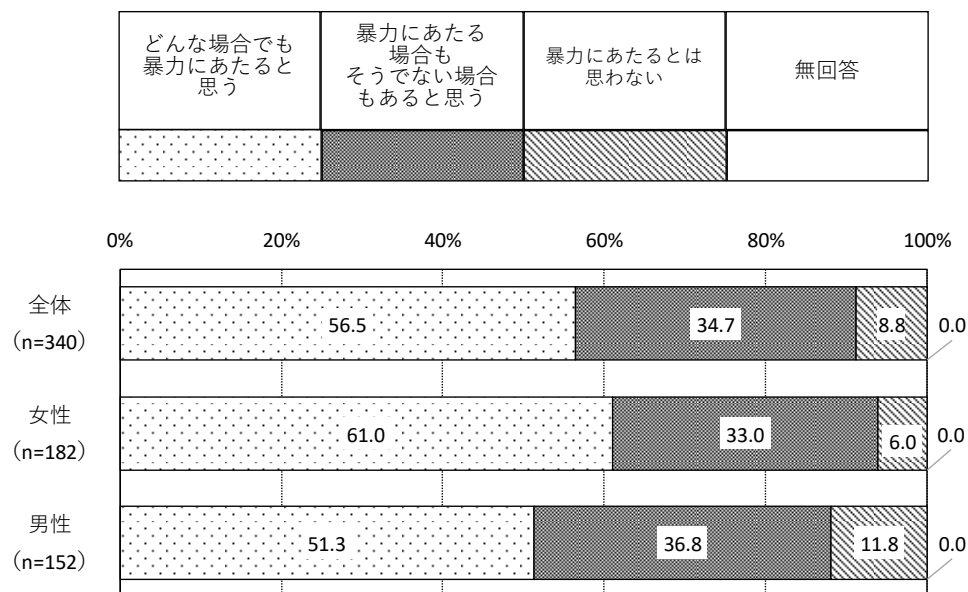


<男性>

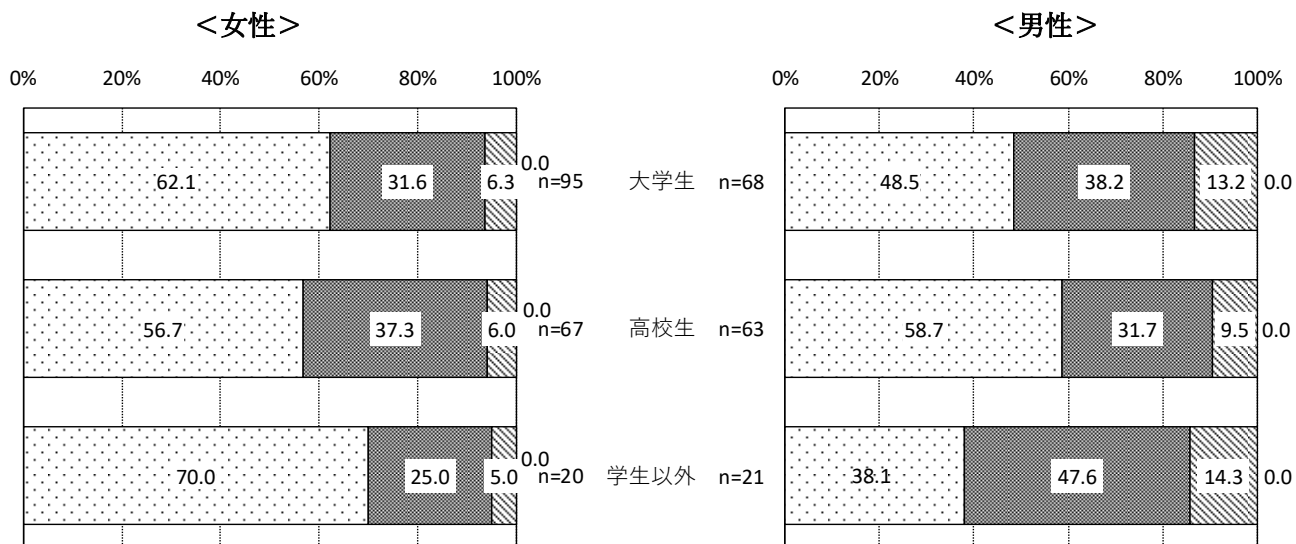
0% 20% 40% 60% 80% 100%



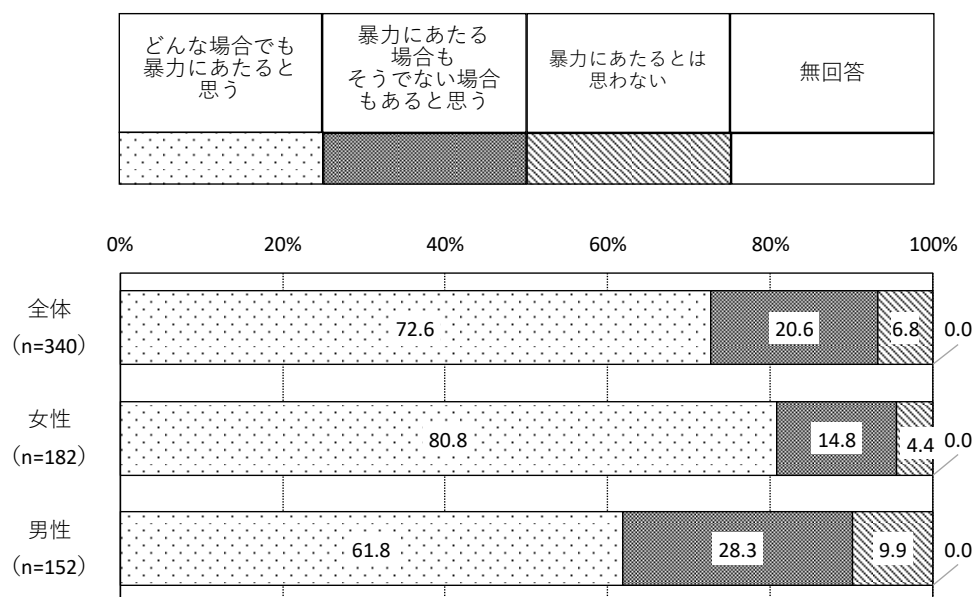
図表Ⅲ-2-3-32 ⑤生活費を渡さない



図表Ⅲ-2-3-33 ⑤生活費を渡さない【性別・職業学校別】

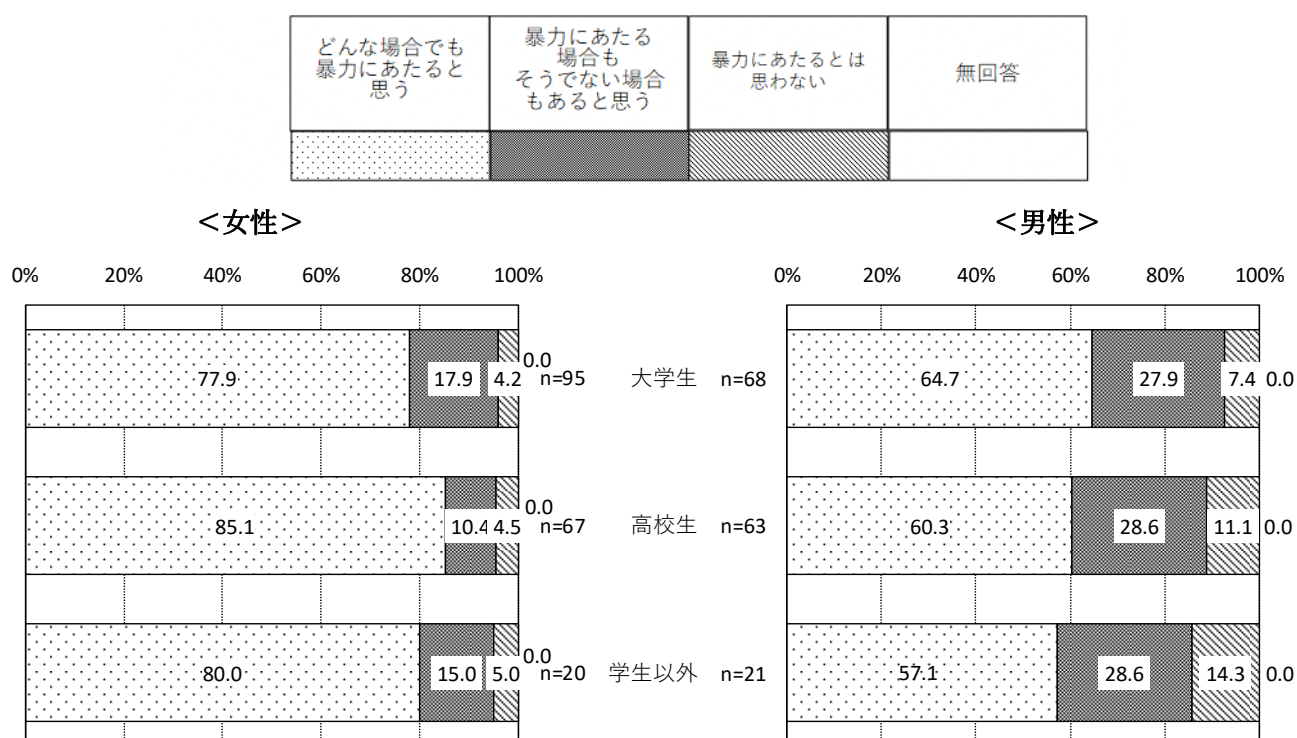


図表Ⅲ-2-3-34 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する

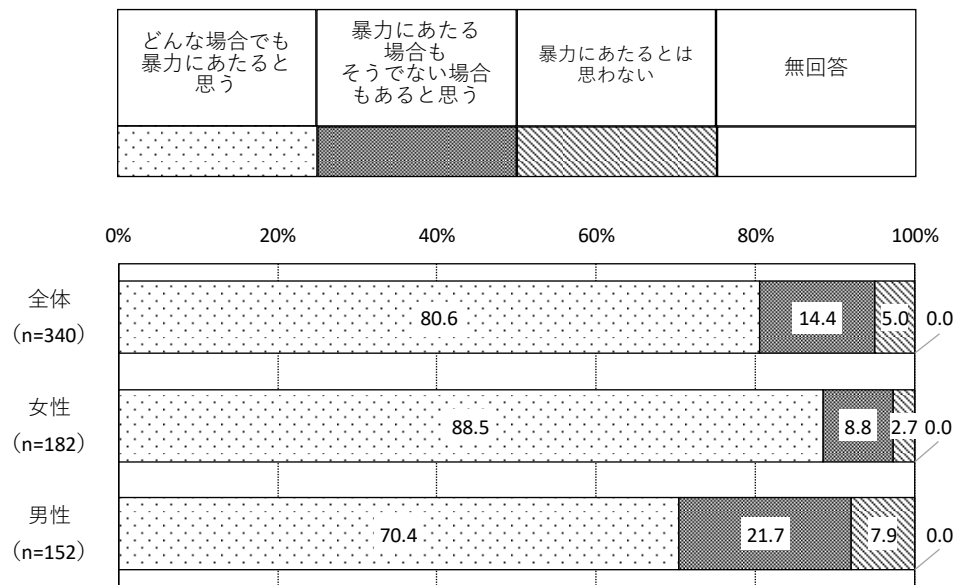


図表Ⅲ-2-3-35 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する

【性別・職業学校別】

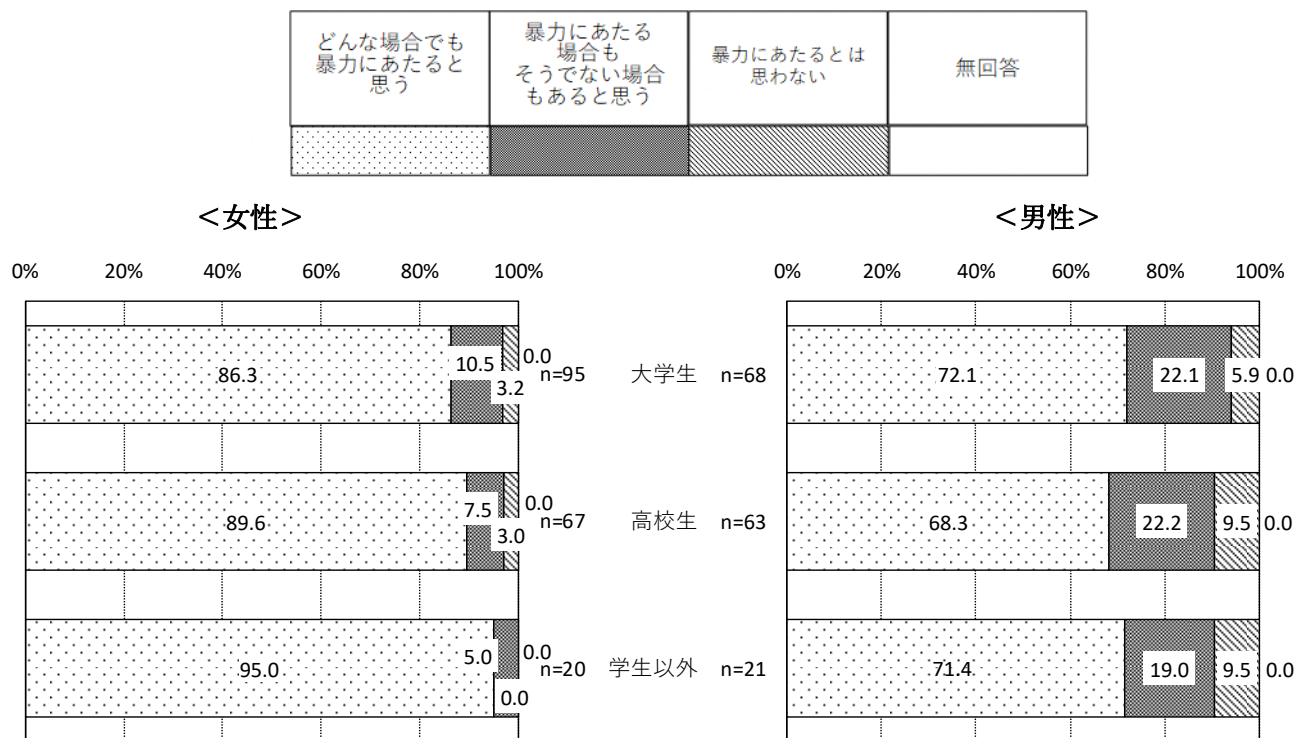


図表Ⅲ-2-3-36 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

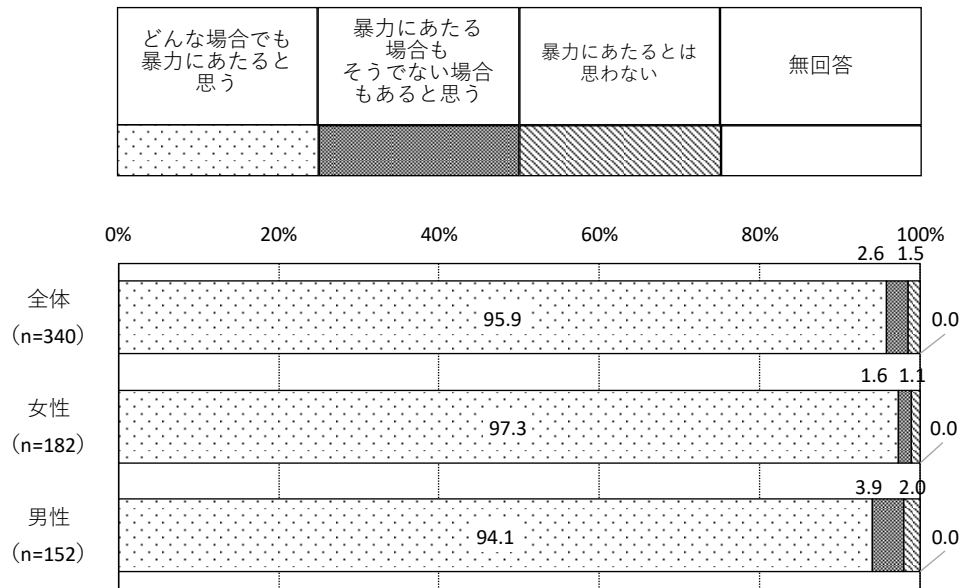


図表Ⅲ-2-3-37 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

【性別・職業学校別】

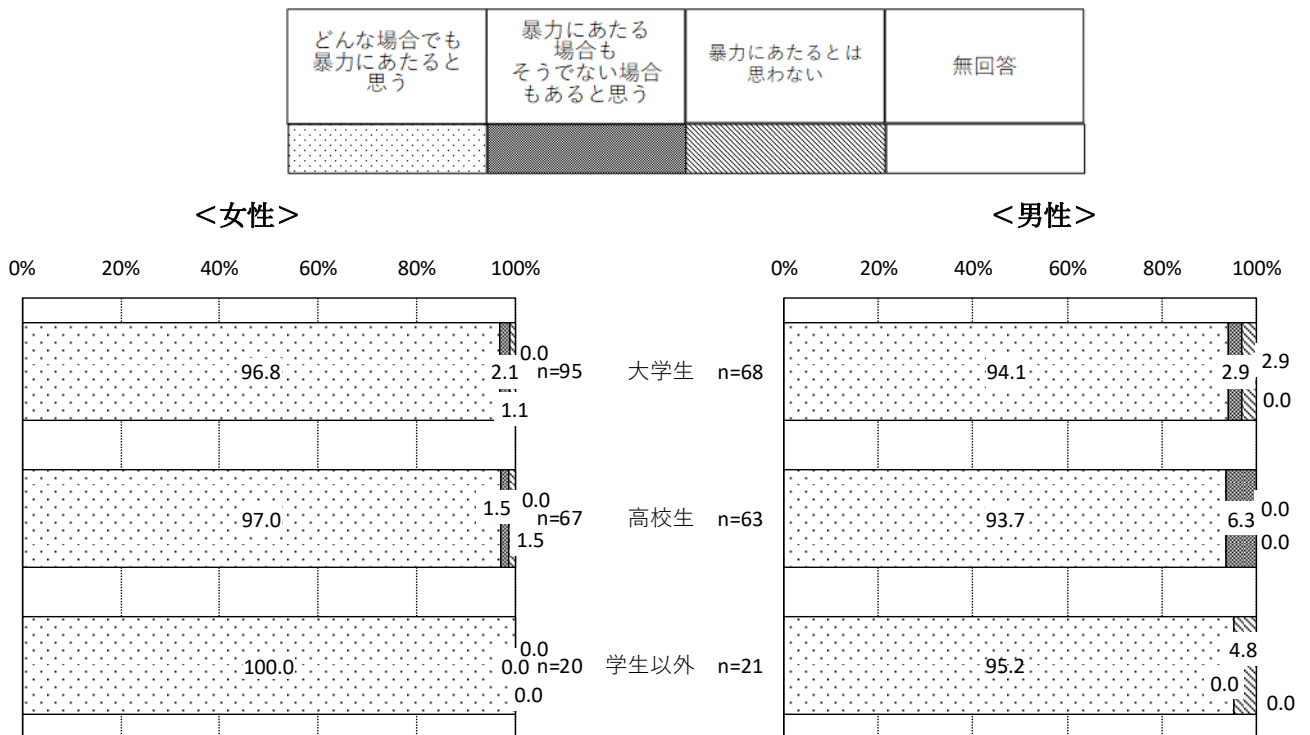


図表Ⅲ-2-3-38 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする

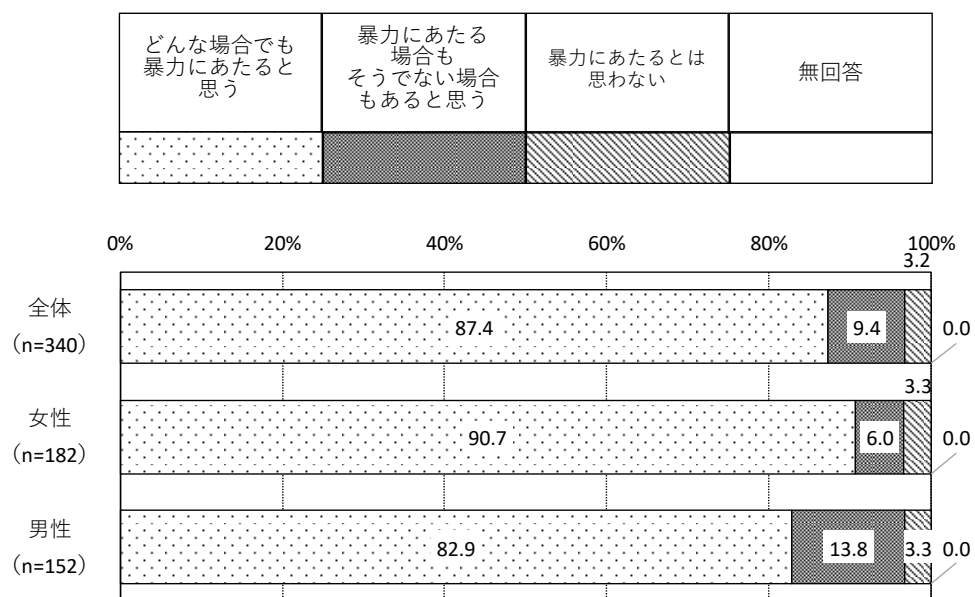


図表Ⅲ-2-3-39 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする

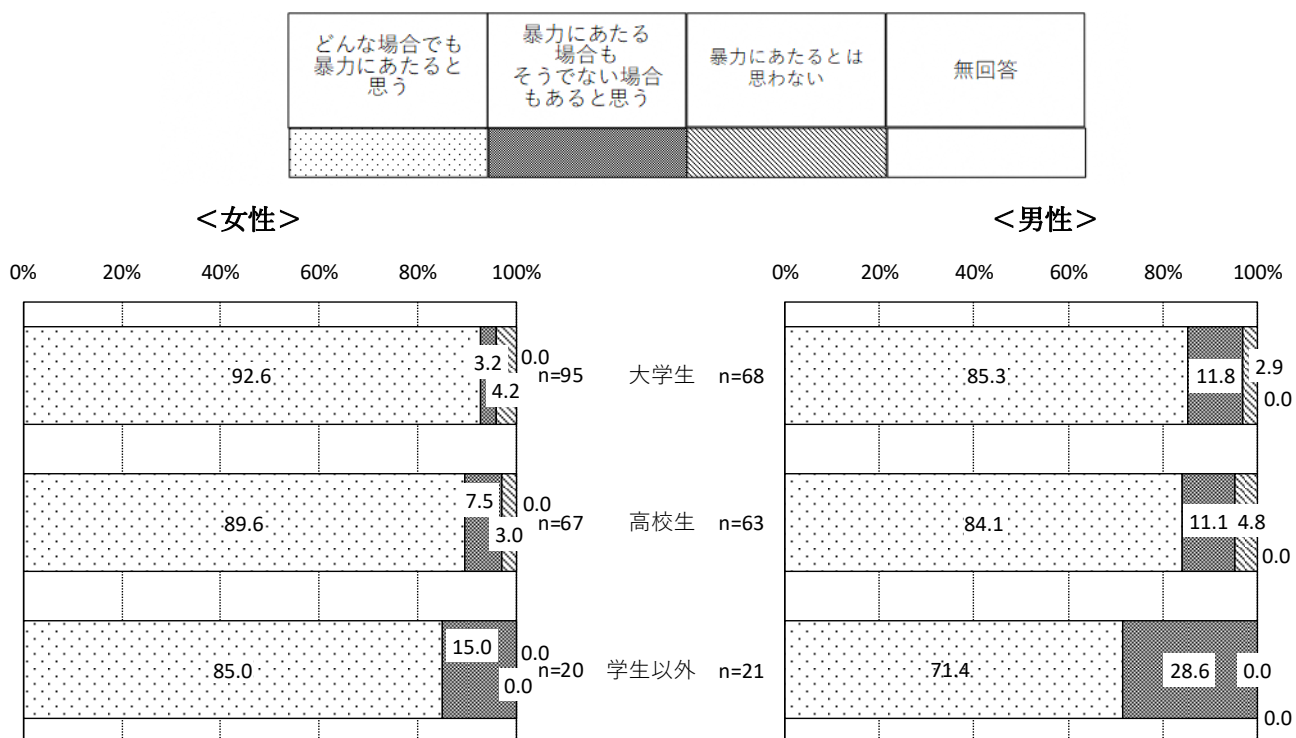
【性別・職業学校別】



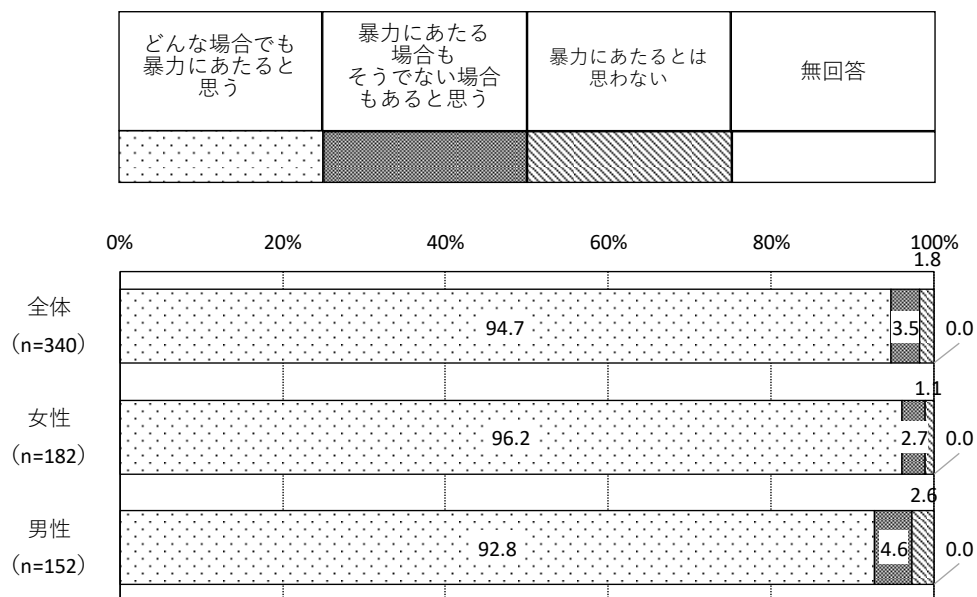
図表Ⅲ-2-3-40 ⑨避妊に協力しない



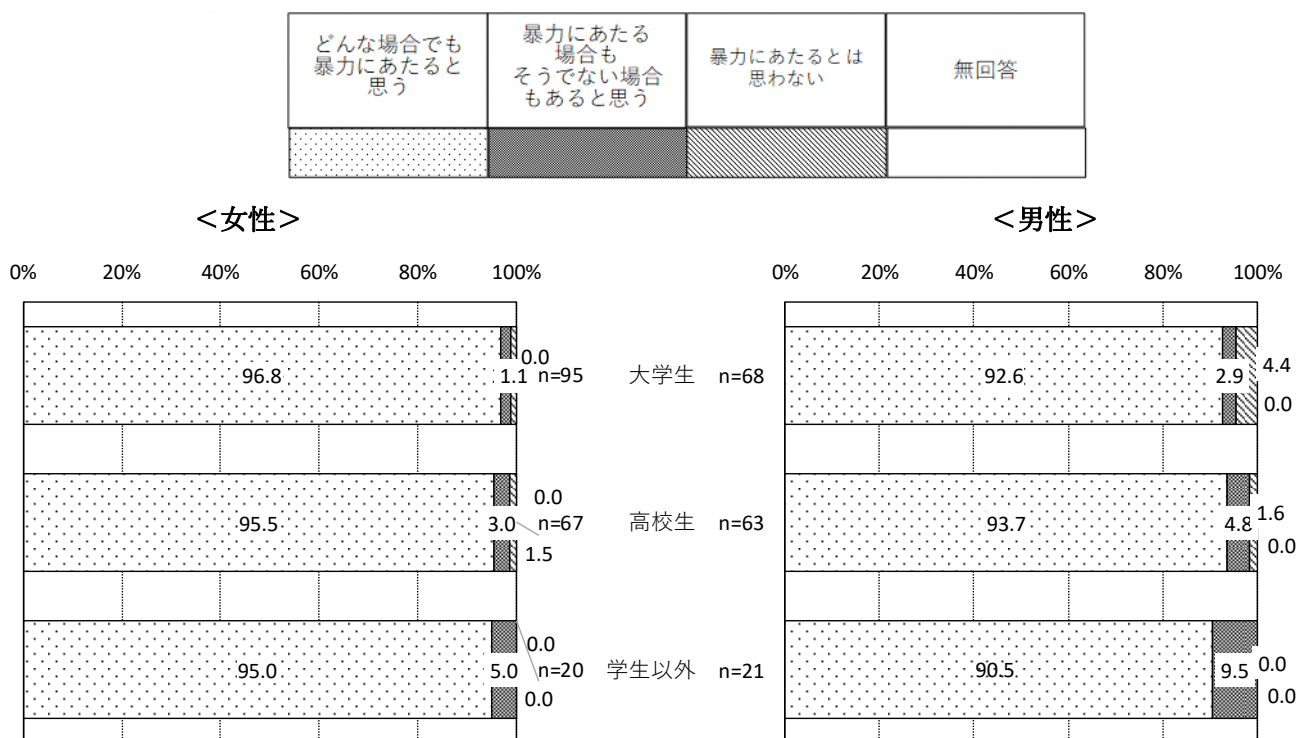
図表Ⅲ-2-3-41 ⑨避妊に協力しない【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-42 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



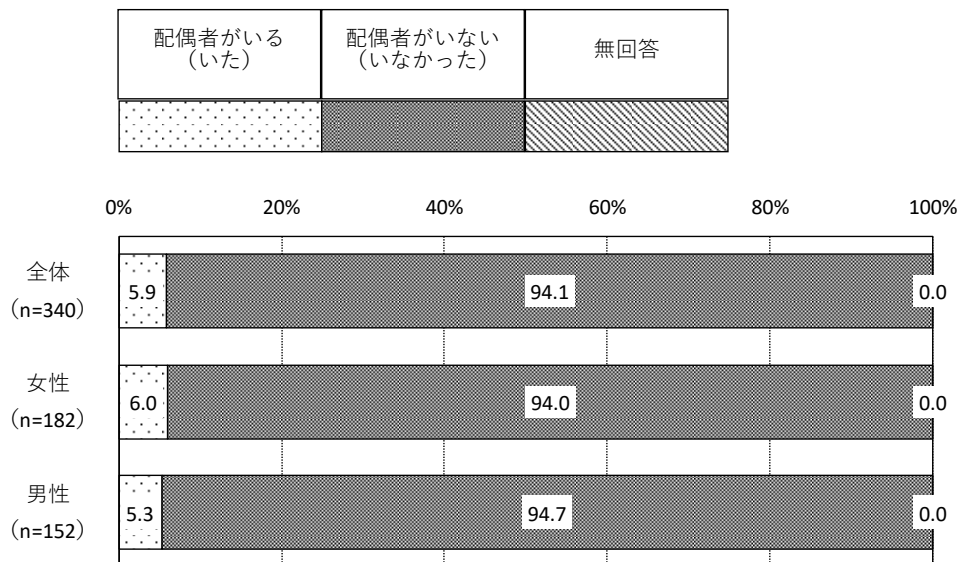
図表Ⅲ-2-3-42 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【性別・職業学校別】



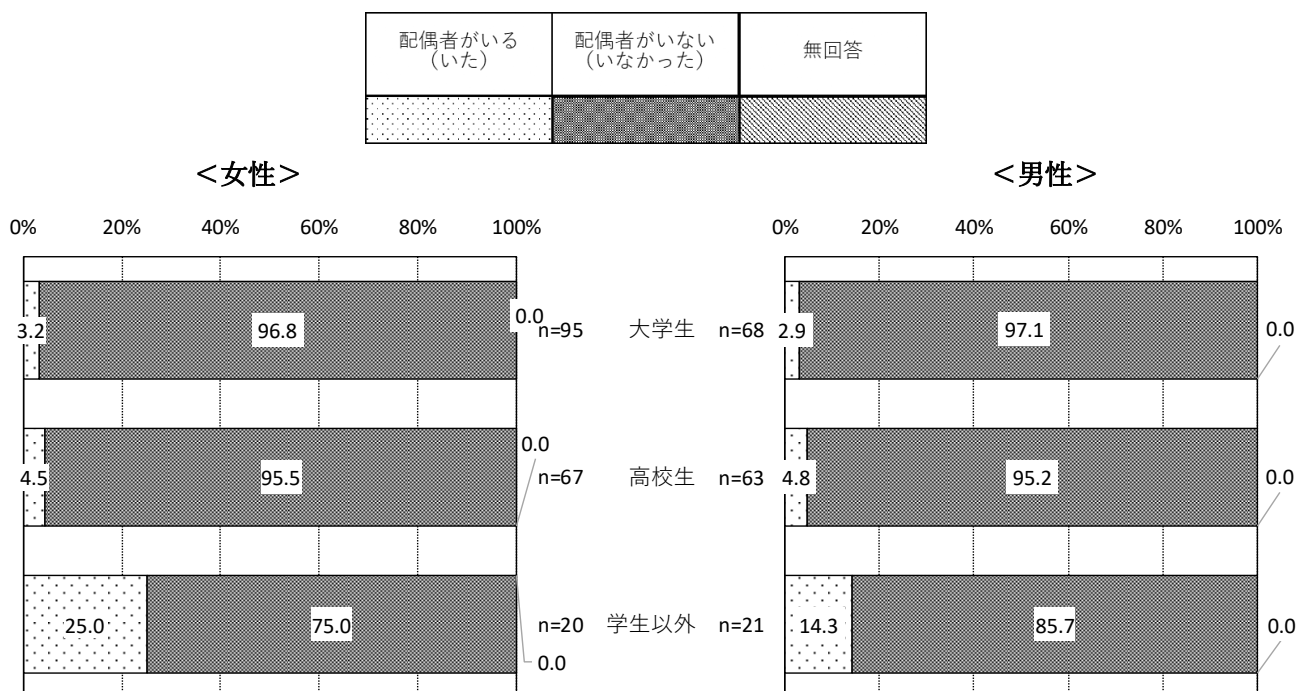
⑤配偶者からのDVの経験

問9 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に１つ）

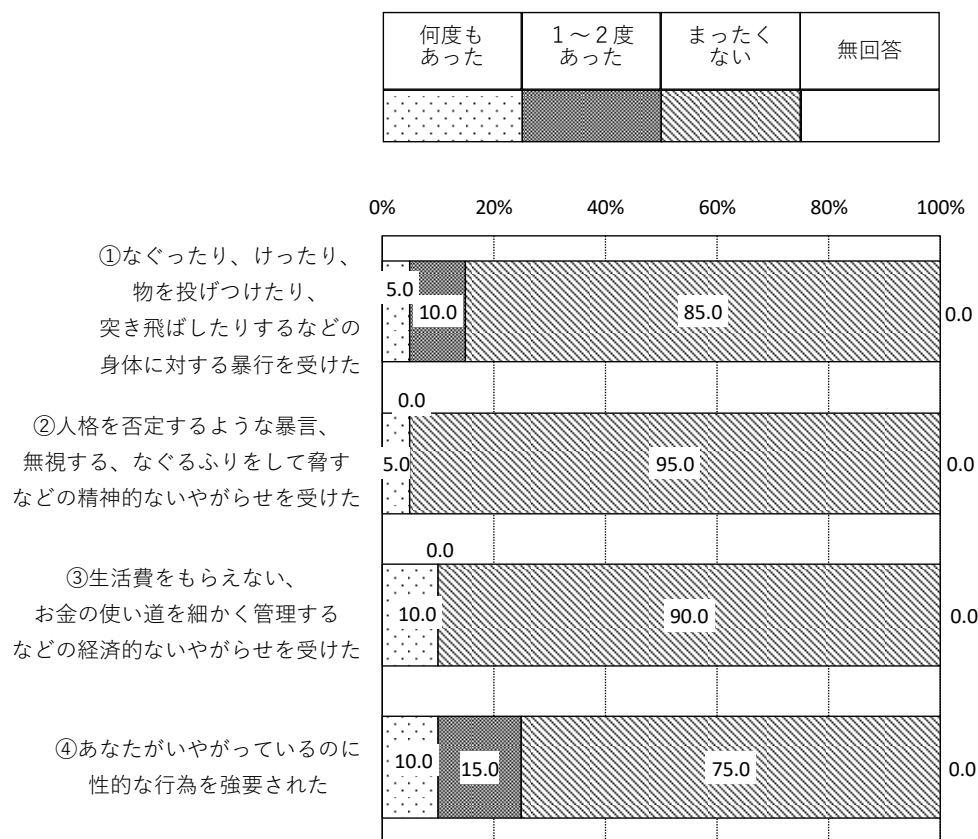
図表Ⅲ-2-3-43 配偶者の有無



図表Ⅲ-2-3-44 配偶者の有無【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-45 配偶者からのDVの経験

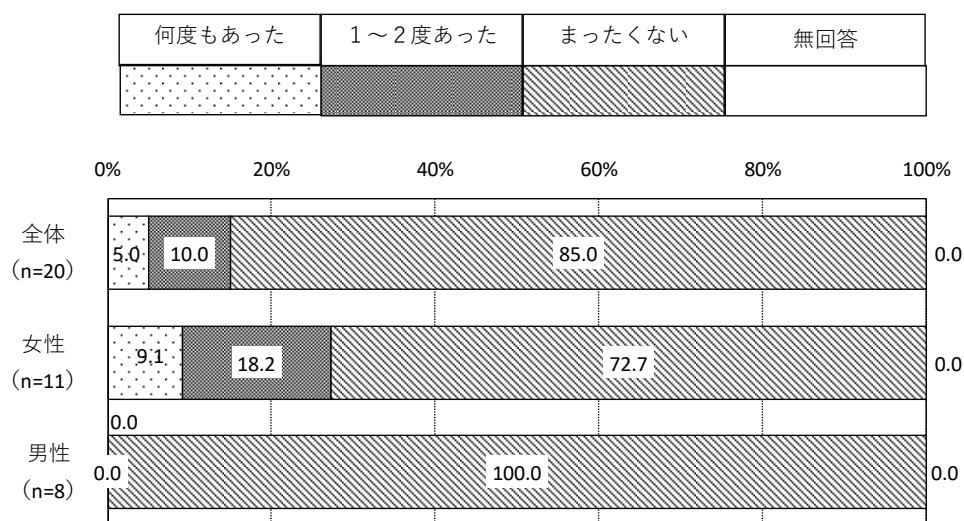


【配偶者からのDVで多いのは「性的な行為の強要」で25.0%】

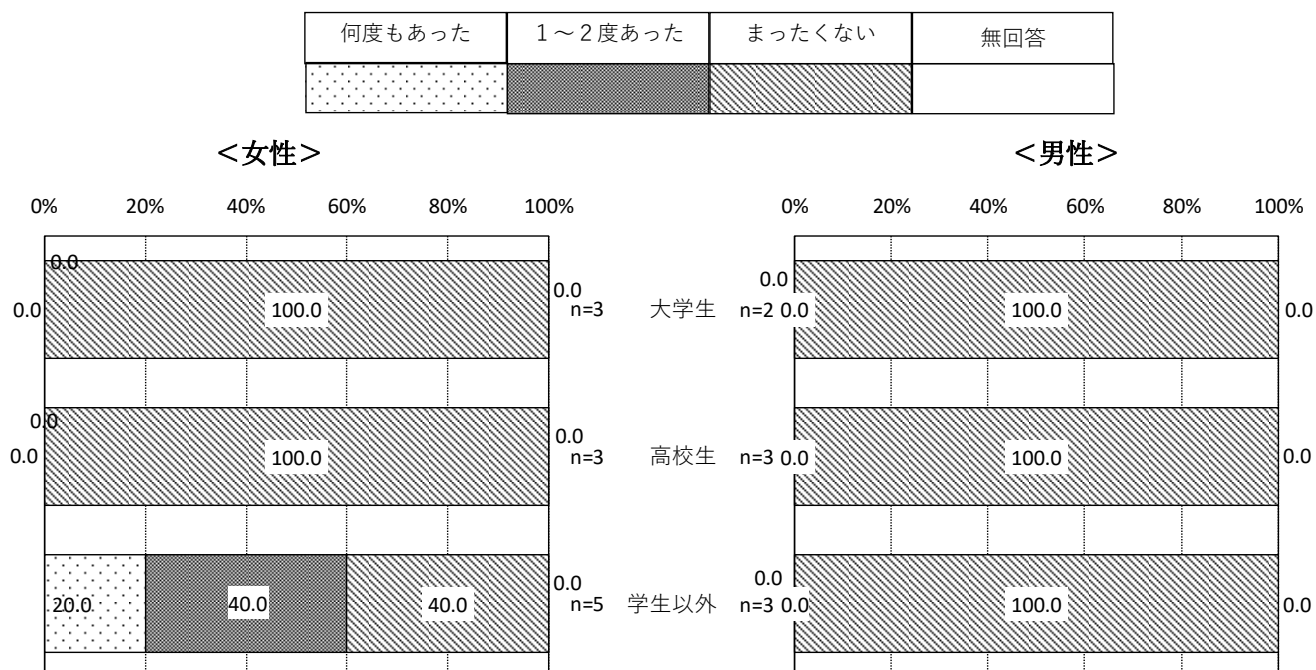
若年者調査のため、配偶者がいるのは女性6.0%、男性5.3%でした。

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性27.3%、男性0.0%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性9.1%、男性0.0%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性9.1%、男性12.5%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性27.3%、男性25.0%となっています。

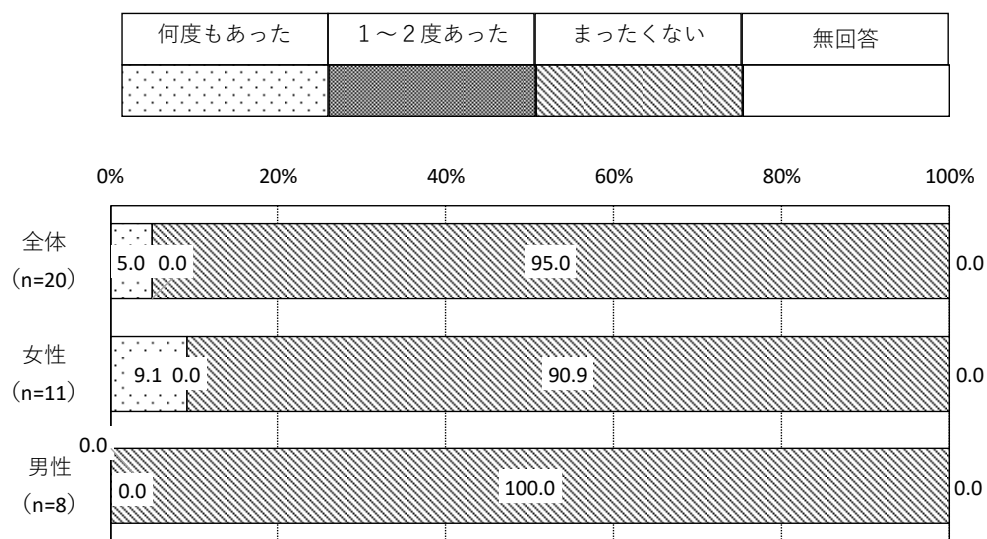
図表Ⅲ-2-3-46 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



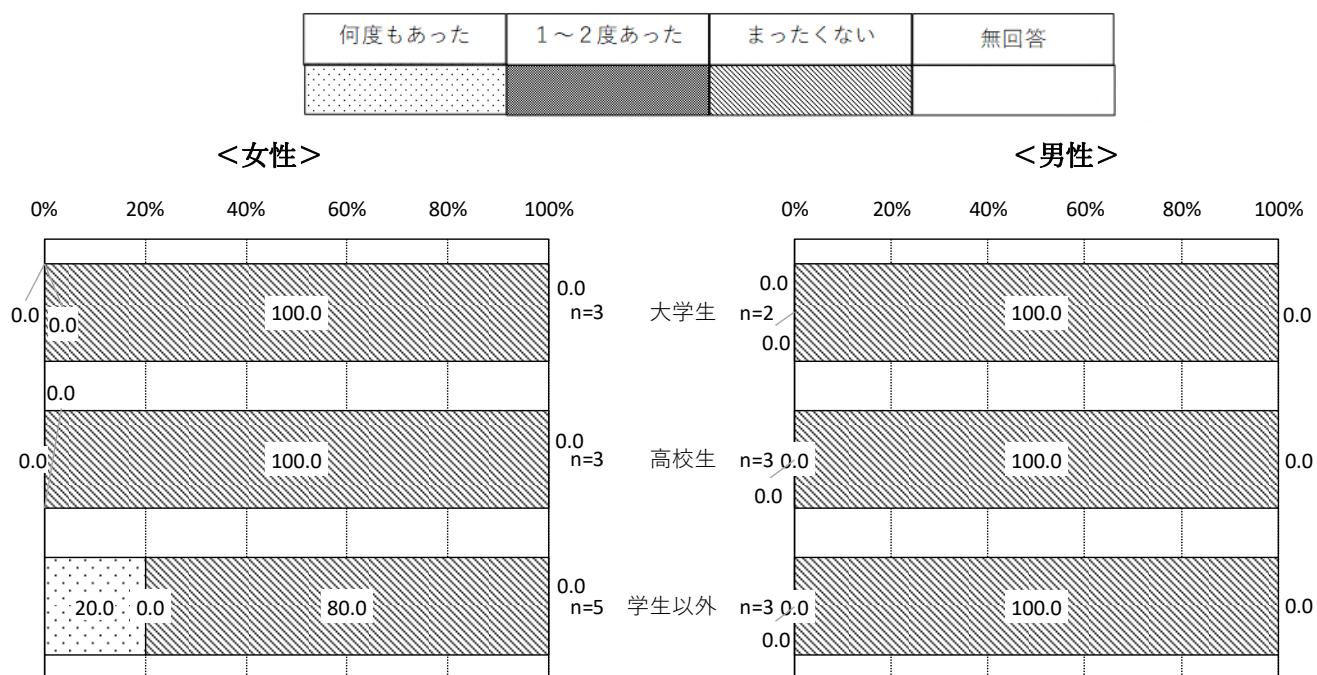
図表Ⅲ-2-3-47 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【性別・職業学校別】



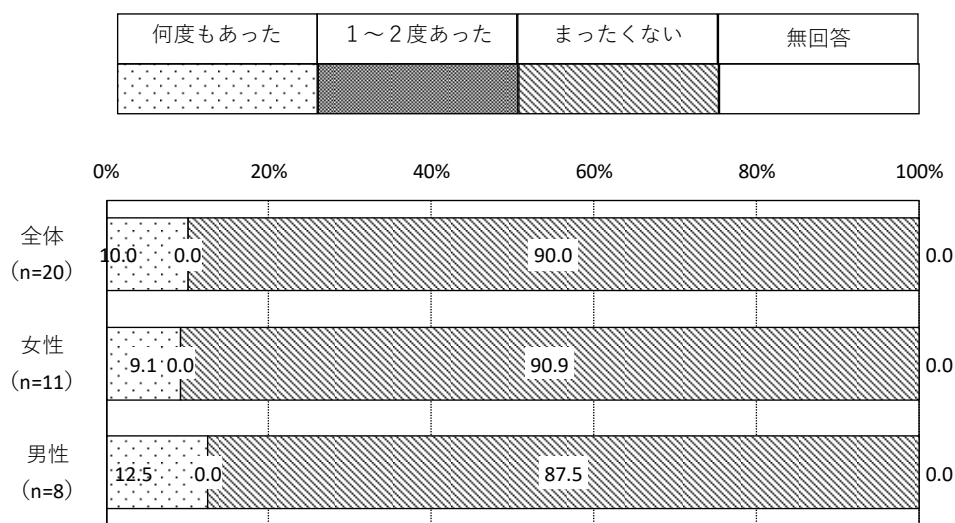
図表Ⅲ-2-3-48 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



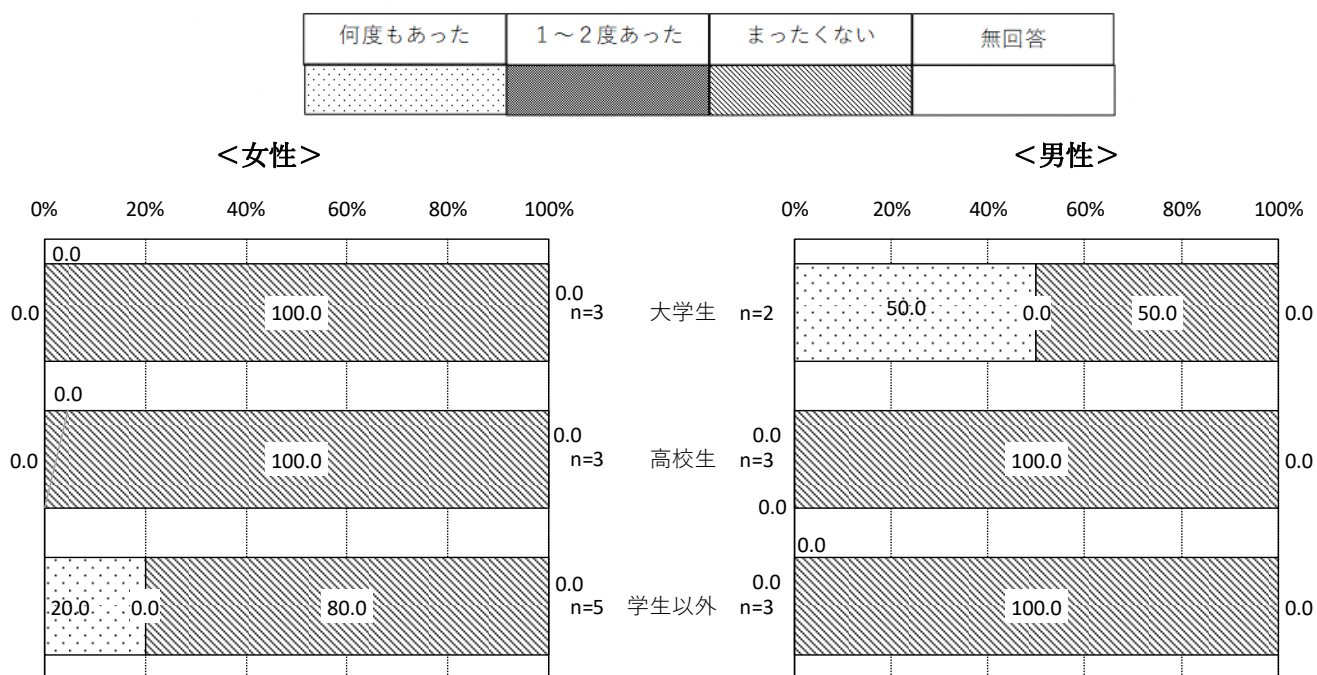
図表Ⅲ-2-3-49 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



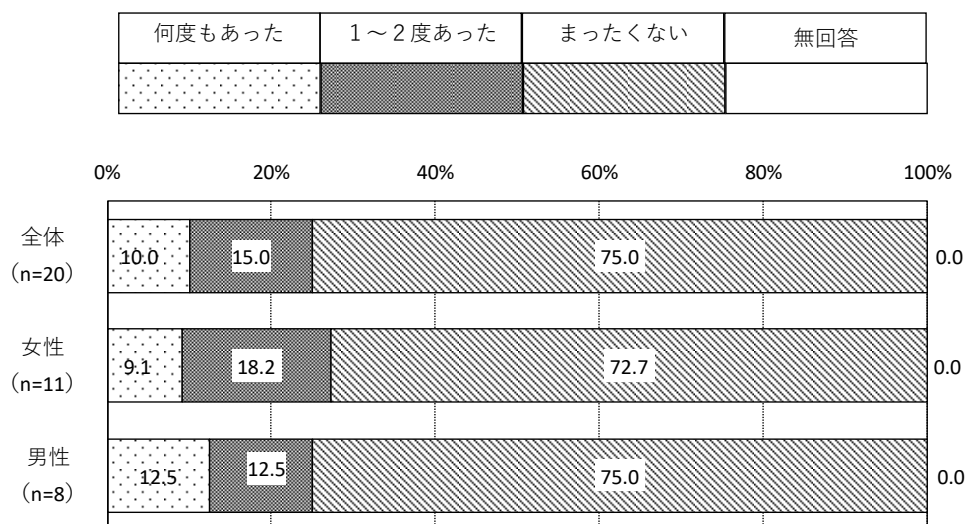
図表Ⅲ-2-3-50 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理などの経済的ないやがらせを受けた



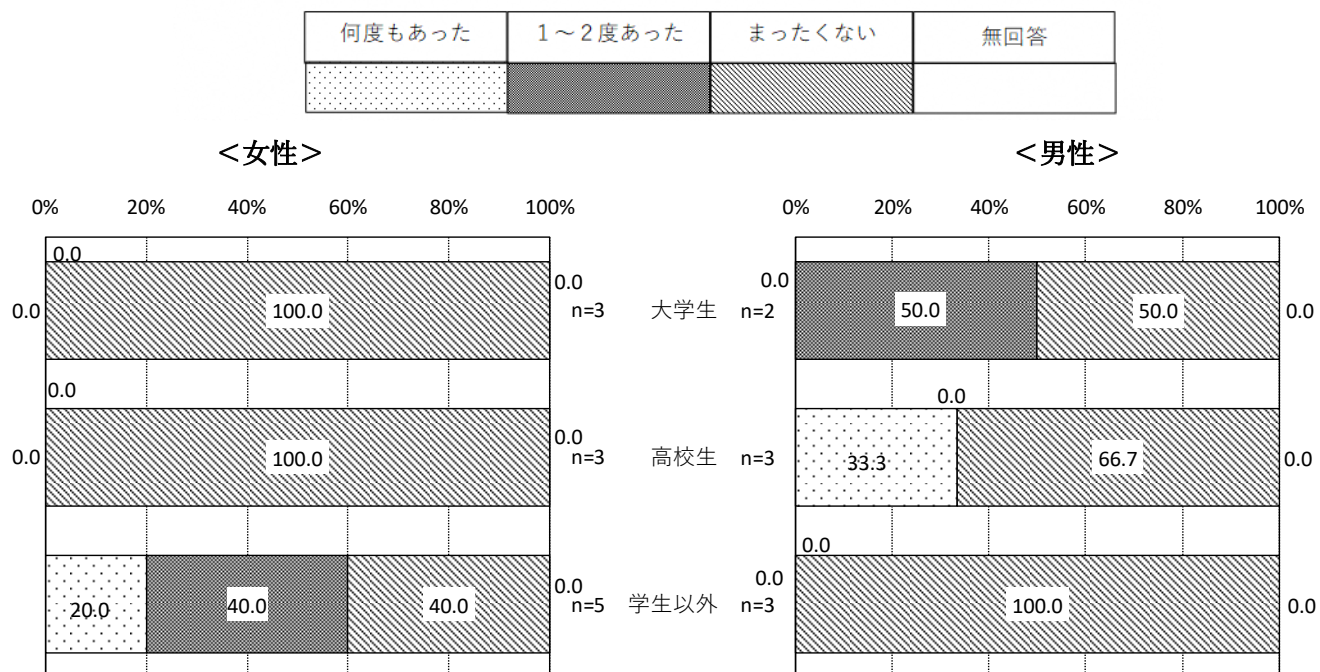
図表Ⅲ-2-3-51 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理などの経済的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-52 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



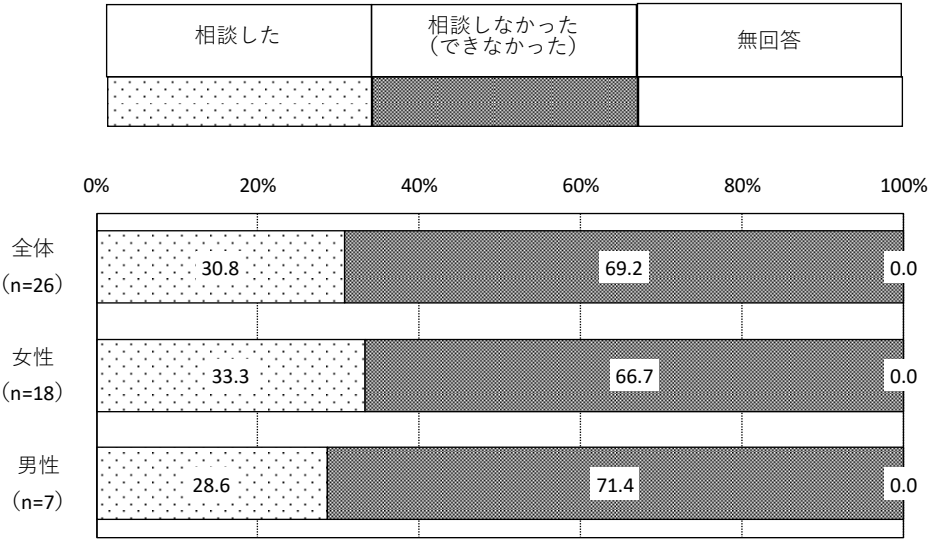
図表Ⅲ-2-3-53 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された【性別・職業学校別】



⑥DVを相談したか

問 10 あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。

図表Ⅲ-2-3-54 DVを相談したか

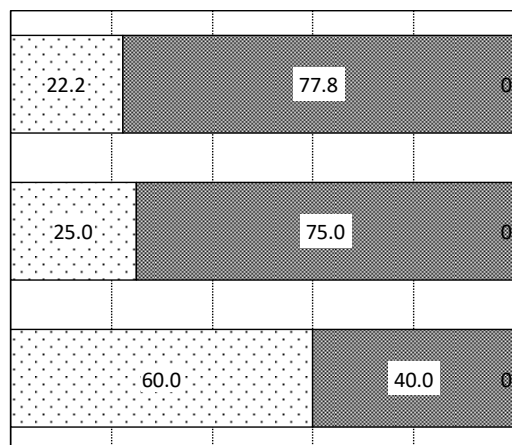


図表Ⅲ-2-3-55 DVを相談したか【性別・職業学校別】

何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答

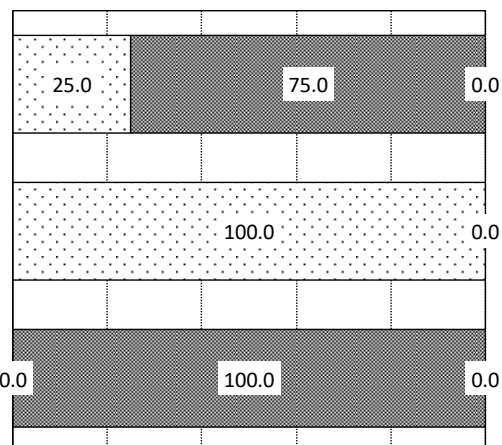
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



<男性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



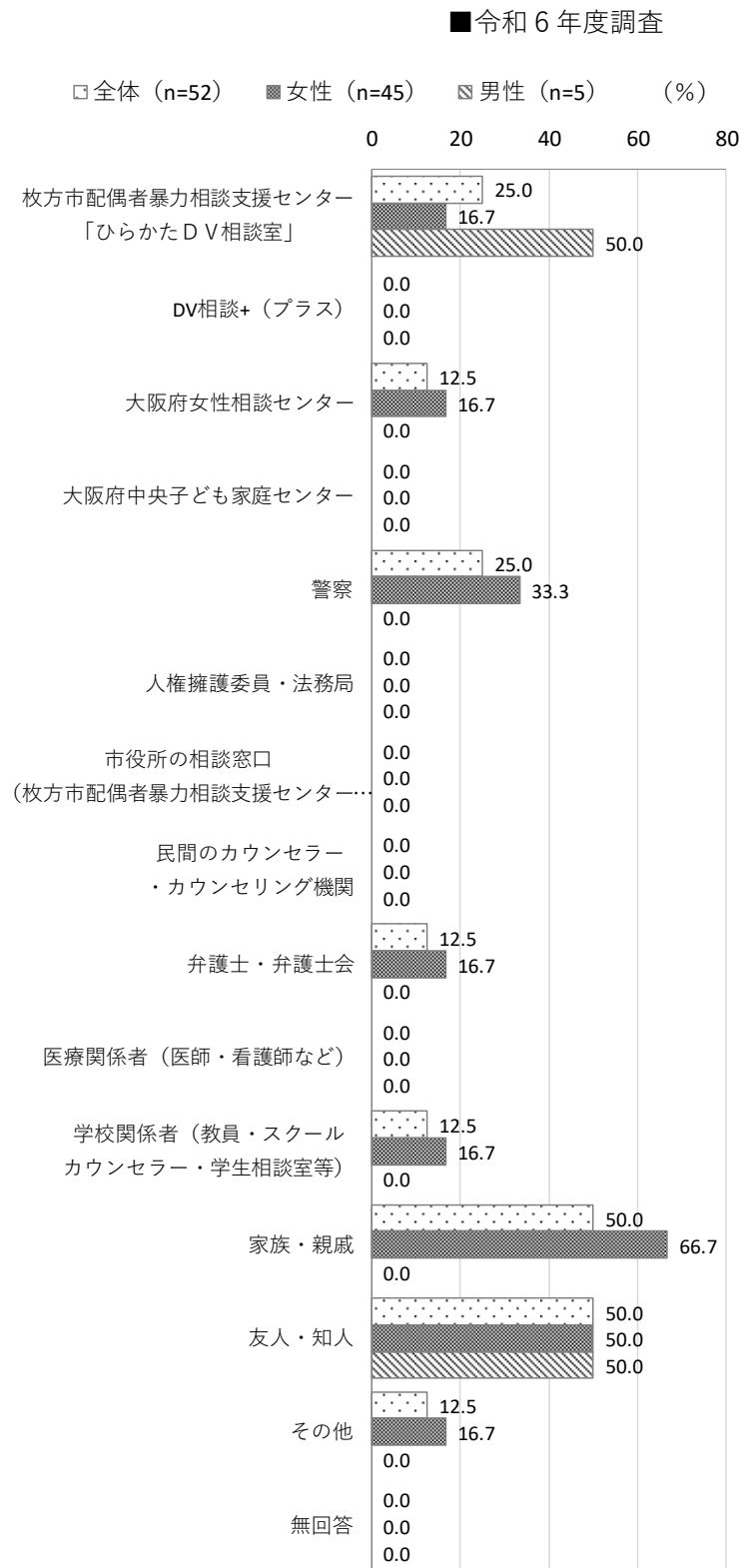
【DVの相談は約3割】

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 33.3%、男性 28.6%、「相談しなかった(できなかった)」が女性 66.7%、男性 71.4%となっています。

⑦DVの相談先

問 11－1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。

図表Ⅲ-2-3-56 DVの相談先



図表Ⅲ-2-3-57 DVの相談先【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」	DV相談＋（プラス）	大阪府女性相談センター	大阪府中央子ども家庭センター	警察	人権擁護委員・法務局	市役所の相談窓口（1以外）	民間のカウンセリング機関	弁護士・弁護士会	医療関係者（医師・看護師など）	学校関係者（教員・スクールカウンセラー・学生相談室等）
全体		8	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
性別	女性	6	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	男性	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・年代別	女性 大学生	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 高校生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	女性 学生以外	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	男性 大学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 高校生	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		合計	家族・親戚	友人・知人	その他	無回答
全体		8	50.0	50.0	12.5	0.0
性別	女性	6	66.7	50.0	16.7	0.0
	男性	2	0.0	50.0	0.0	0.0
性別・年代別	女性 大学生	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	女性 高校生	1	100.0	100.0	0.0	0.0
	女性 学生以外	3	66.7	33.3	33.3	0.0
	男性 大学生	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 高校生	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	0	-	-	-	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

【DVの相談先は女性は「家族・親戚」が66.7%、男性は「ひらかたDV相談室」「友人・知人」が50.0%】

DVの相談先については女性は「家族・親戚」で66.7%、男性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」と「友人・知人」がともに50.0%で最も高くなっています。

「その他」の意見（主な回答）

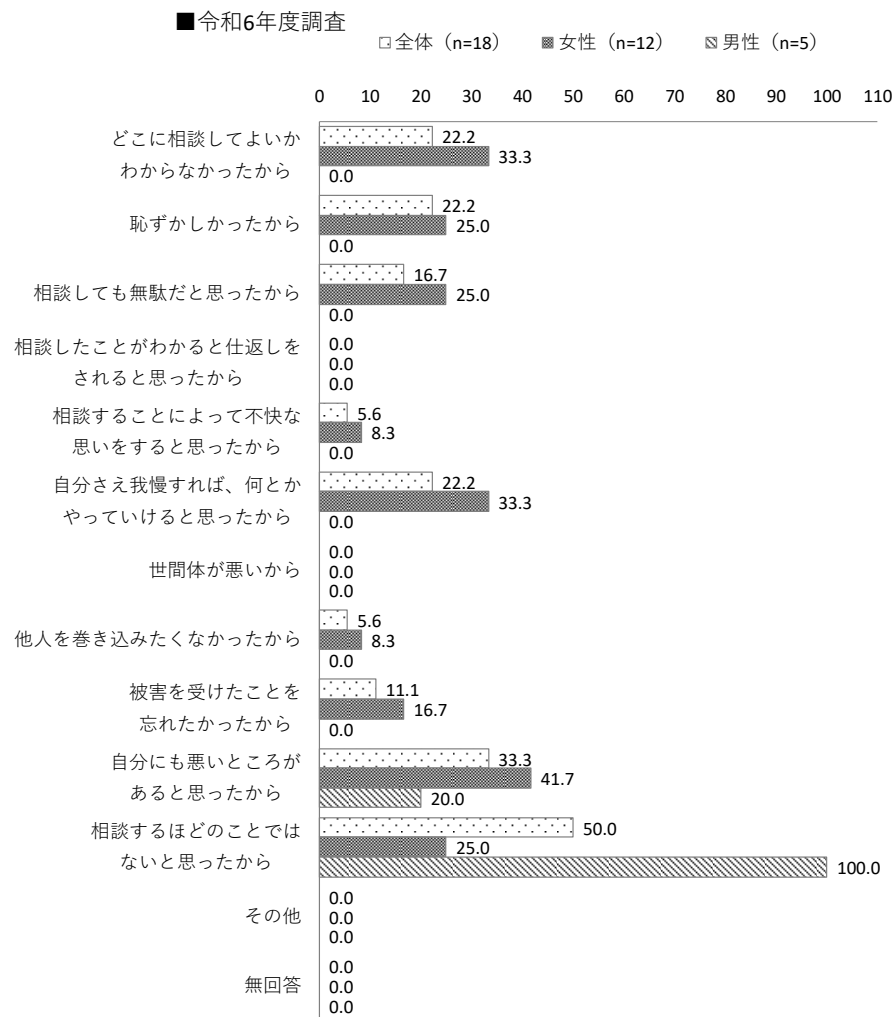
<女性>

● 本人の兄弟

⑧DVを相談しなかった理由

問 11－2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

図表Ⅲ-2-3-58 DVを相談しなかった理由



図表Ⅲ-2-3-59 DVを相談しなかった理由【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	どこに相談してよいかわからなかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかったから	相談することによって不快な思いをすることになったから	自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	被害を受けたことを忘れたから	自分にも悪いところがあると思ったから
全体		18	22.2	22.2	16.7	0.0	5.6	22.2	0.0	5.6	11.1	33.3
性別	女性	12	33.3	25.0	25.0	0.0	8.3	33.3	0.0	8.3	16.7	41.7
	男性	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

		合計（実数）	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
全体		18	50.0	0.0	0.0
性別	女性	12	25.0	0.0	0.0
	男性	5	100.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

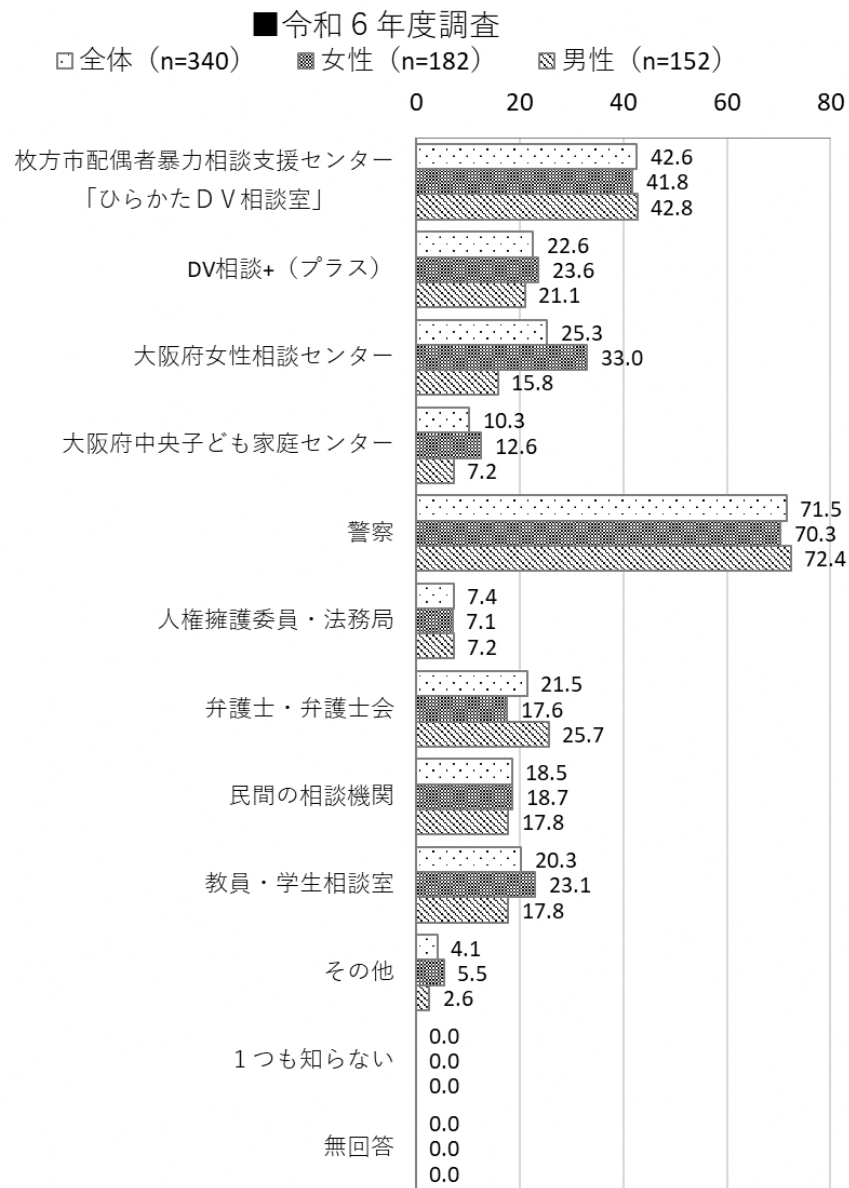
【DVを相談しなかった理由は女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」約4割、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が10割】

DVを相談しなかった理由については女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」で41.7%、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」で100.0%で最も高くなっています。

⑨DVの相談推奨先

問 12 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力をうけているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。

図表Ⅲ-2-3-60 DVの相談推奨先



図表Ⅲ-2-3-61 DVの相談推奨先【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 （実数）	枚方市配 センター →ひらか たDV相 談室	D V 相 談 + （ プ ラ ス ）	大 阪 府 女 性 相 談 セ ン タ ー	大 阪 府 中 央 子 ど も 家 庭 セ ン タ ー	警 察	人 権 擁 護 委 員 ・ 法 務 局	弁 護 士 ・ 弁 護 士 会	民 間 の 相 談 機 関	教 員 ・ 学 生 相 談 室	そ の 他	1 つ も 知 ら な い	無 回 答
全体		340	42.6	22.6	25.3	10.3	71.5	7.4	21.5	18.5	20.3	4.1	0.0	0.0
性別	女性	182	41.8	23.6	33.0	12.6	70.3	7.1	17.6	18.7	23.1	5.5	0.0	0.0
	男性	152	42.8	21.1	15.8	7.2	72.4	7.2	25.7	17.8	17.8	2.6	0.0	0.0
性別・ 年代別	女性 大学生	95	28.4	24.2	33.7	11.6	71.6	5.3	20.0	17.9	26.3	4.2	0.0	0.0
	女性 高校生	67	56.7	20.9	34.3	16.4	65.7	11.9	11.9	19.4	23.9	9.0	0.0	0.0
	女性 学生以外	20	55.0	30.0	25.0	5.0	80.0	0.0	25.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	男性 大学生	68	44.1	20.6	19.1	10.3	72.1	10.3	22.1	22.1	16.2	0.0	0.0	0.0
	男性 高校生	63	38.1	23.8	11.1	4.8	71.4	4.8	30.2	17.5	25.4	4.8	0.0	0.0
	男性 学生以外	21	52.4	14.3	19.0	4.8	76.2	4.8	23.8	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 法テラス
- 母
- 相談しやすい大人
- 家族

<男性>

- 友達
- 身内

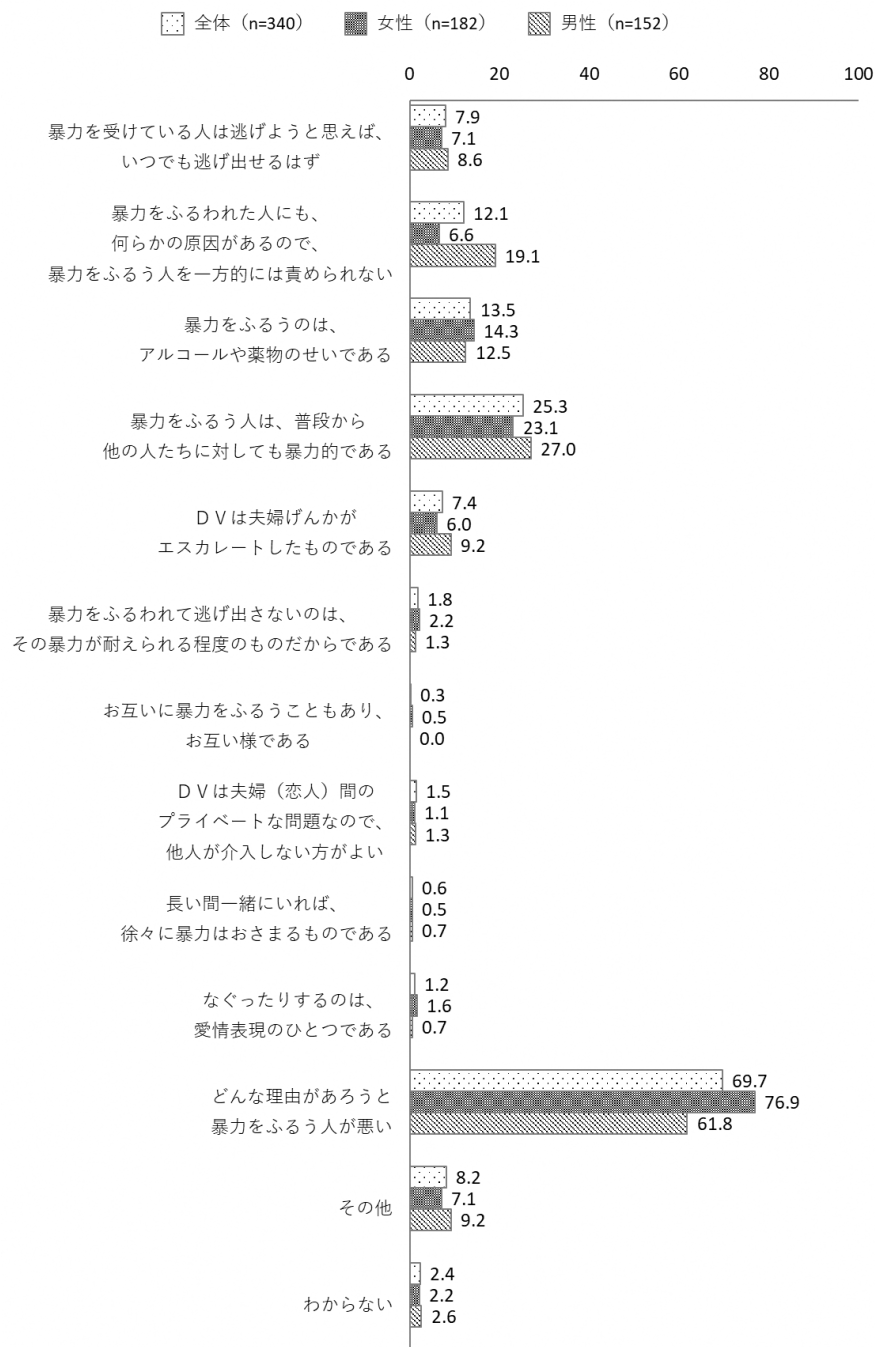
【DVの相談推奨先は男女とも「警察」で7割強】

DVの相談推奨先は、「警察」が女性 70.3%、男性 72.4%で最も高くなっています。

⑩DVについての考え

問 13 配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。
あなたの考えに近いものを選んでください。

図表Ⅲ-2-3-62 DVについての考え



図表Ⅲ-2-3-63 DVについての考え【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない
全体		340	7.9	12.1	13.5	25.3	7.4	1.8	0.3	1.5	0.6
性別	女性	182	7.1	6.6	14.3	23.1	6.0	2.2	0.5	1.1	0.5
	男性	152	8.6	19.1	12.5	27.0	9.2	1.3	0.0	1.3	0.7
性別・年代別	女性 大学生	95	8.4	8.4	15.8	23.2	6.3	4.2	1.1	2.1	1.1
	女性 高校生	67	7.5	4.5	14.9	22.4	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 学生以外	20	0.0	5.0	5.0	25.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 大学生	68	7.4	17.6	11.8	29.4	8.8	2.9	0.0	2.9	1.5
	男性 高校生	63	11.1	22.2	11.1	23.8	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	21	4.8	14.3	19.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		合計（実数）	を ふ ん な 理 由 が あ ろ う と 暴 力	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体		340	69.7	8.2	2.4	0.0
性別	女性	182	76.9	7.1	2.2	0.0
	男性	152	61.8	9.2	2.6	0.0
性別・年代別	女性 大学生	95	76.8	4.2	2.1	0.0
	女性 高校生	67	71.6	13.4	1.5	0.0
	女性 学生以外	20	95.0	0.0	5.0	0.0
	男性 大学生	68	64.7	8.8	2.9	0.0
	男性 高校生	63	55.6	11.1	1.6	0.0
	男性 学生以外	21	71.4	4.8	4.8	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 暴力を振るう人はもちろん悪いが全面的に悪いかは状況によると思う
- 逃げたくても逃げることができない人はいるし、暴力問題が当事者間で解決することはないと考える
- 逃げたくても逃げ出せないのは、耐えられる程度という理由以外には、依存や洗脳、誰かを人質に取られているなど何らかの原因があると思います
- 当人同士で納得していて子どもを含む他人に迷惑をかけていないのであればいいと思います。ですが長い目で見れば周りは振り回される事の方が多いかと思うので、自己防衛が容易でない子ども等は特に保護が必要かと思います。

<男性>

- どんなことであっても暴力は良なくて違う方法で解決すべき
- 基本的には暴力を振るう人が悪いがその人にも理由があるので状況によると思う。一概に全てその人が悪いとは言いきれないと思う。ただ暴力が良くない事は間違いない。
- DV に発展した関係を築く時点でどちらにも非がある。その中で、暴力をふるった側は更に非を重ねているため、暴力をふるった側を一方的に責めることはできないが、どんな理由があろうと暴力をふるう人は悪いと思う。
- 暴力を振るう人の育った家庭や環境に問題があるケース等色々な要因が考えられる為、個別のケースごとに判断すべきだと考えている。暴力を受けている状況から自力で抜け出すことは困難に思える為

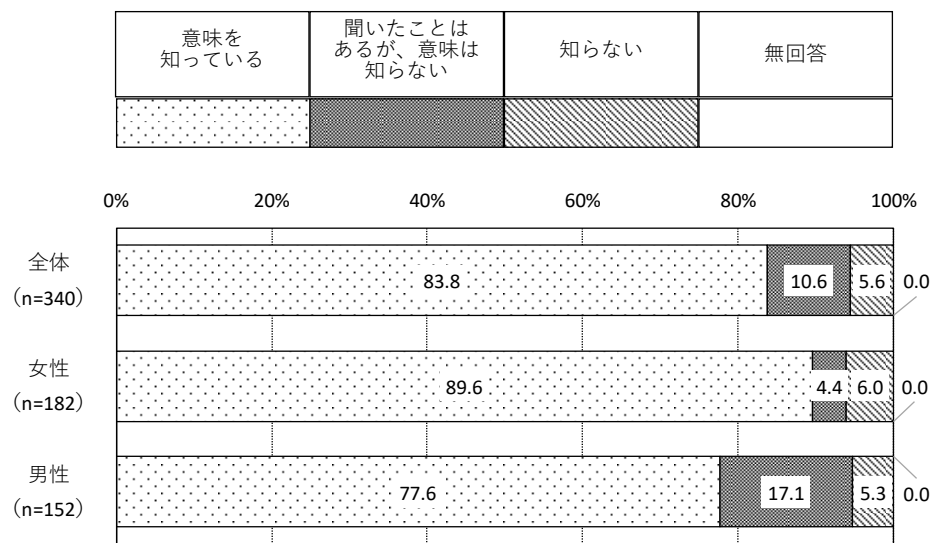
【DV について「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」が男女とも最多、6割以上】

DV についての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 76.9%、男性 61.8%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 23.1% 男性 27.0%）となっています。

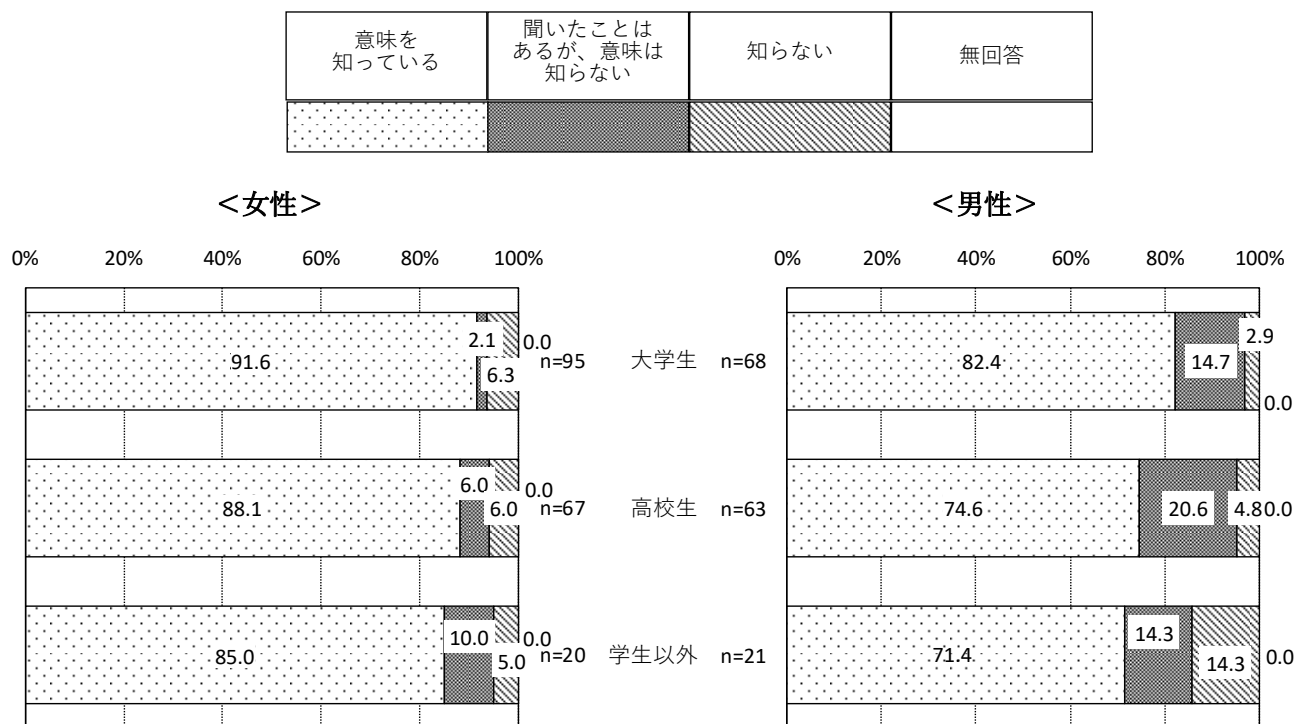
⑪性的マイノリティの認知度

問 14 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ 等）という言葉を知っていますか

図表Ⅲ-2-3-64 性的マイノリティの認知度



図表Ⅲ-2-3-65 性的マイノリティの認知度【性別・職業学校別】



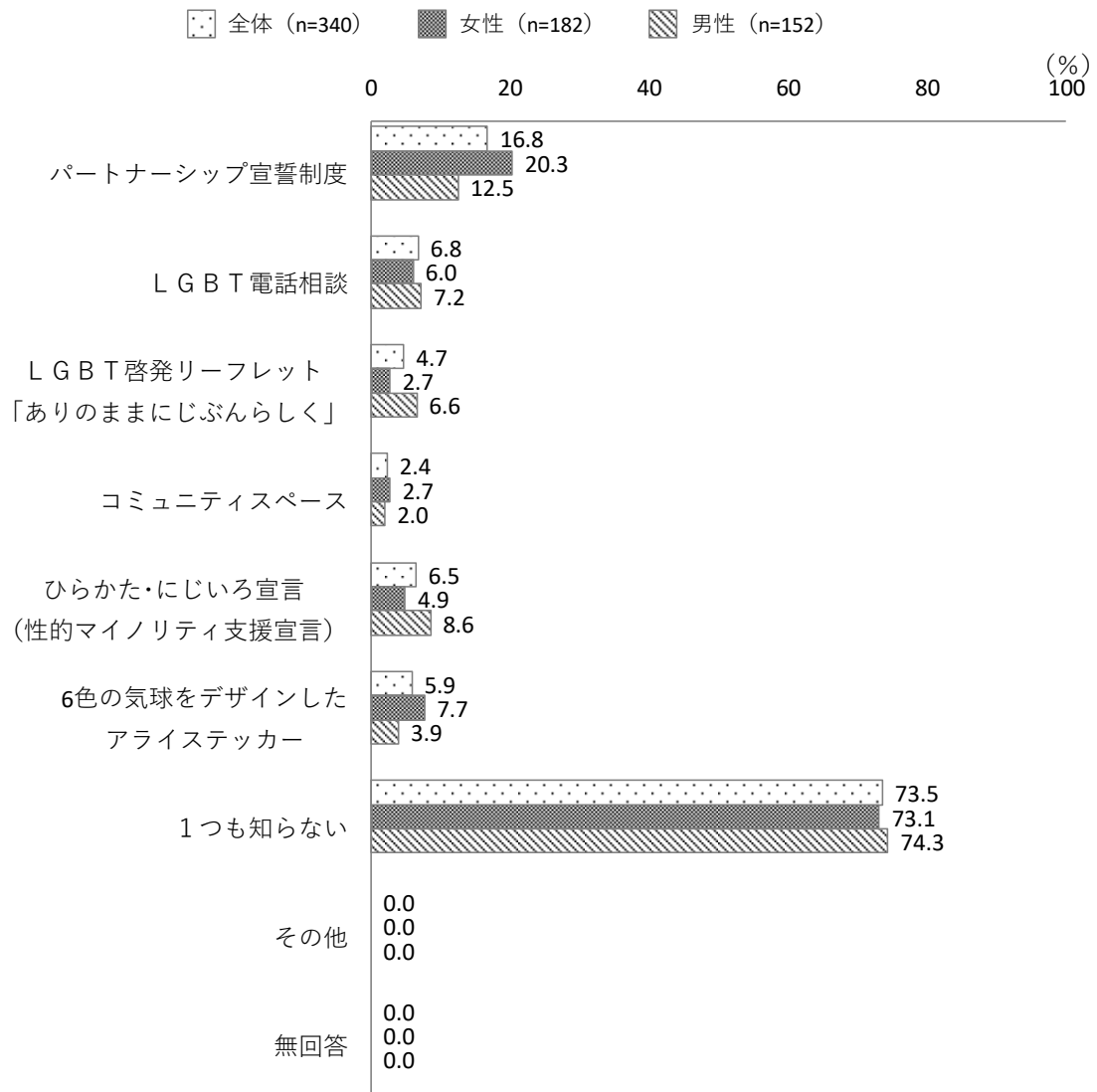
【性的マイノリティの認知度は8割以上】

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 89.6%、男性 77.6%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、学生以外の男性の 71.4%となっています。

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 15 枚方市が行っている LGBTQ 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答えください。

図表Ⅲ-2-3-66 性的マイノリティ支援施策の認知度



図表Ⅲ-2-3-67 性的マイノリティ支援施策の認知度【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	パートナーシップ宣誓制度 （平成31年4月より）	LGBT電話相談（平成 31年4月より）	LGBT啓発リーフレット ありのままにじぶんらし く	コミュニティスペース（令 和元年7月より）	言（性的マイノリティの 権利を保障する）	虹色の気球をデザインした アライ（※）ステッカー	1つも知らない	その他	無回答
全体		340	16.8	6.8	4.7	2.4	6.5	5.9	73.5	0.0	0.0
性別	女性	182	20.3	6.0	2.7	2.7	4.9	7.7	73.1	0.0	0.0
	男性	152	12.5	7.2	6.6	2.0	8.6	3.9	74.3	0.0	0.0
性別・年代別	女性 大学生	95	21.1	6.3	3.2	2.1	6.3	6.3	72.6	0.0	0.0
	女性 高校生	67	19.4	7.5	3.0	4.5	4.5	11.9	71.6	0.0	0.0
	女性 学生以外	20	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	男性 大学生	68	13.2	5.9	7.4	2.9	7.4	2.9	76.5	0.0	0.0
	男性 高校生	63	11.1	11.1	7.9	1.6	11.1	4.8	66.7	0.0	0.0
	男性 学生以外	21	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	90.5	0.0	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

【性的マイノリティ支援施策で知られているのは「パートナーシップ宣誓制度」で16.8%】

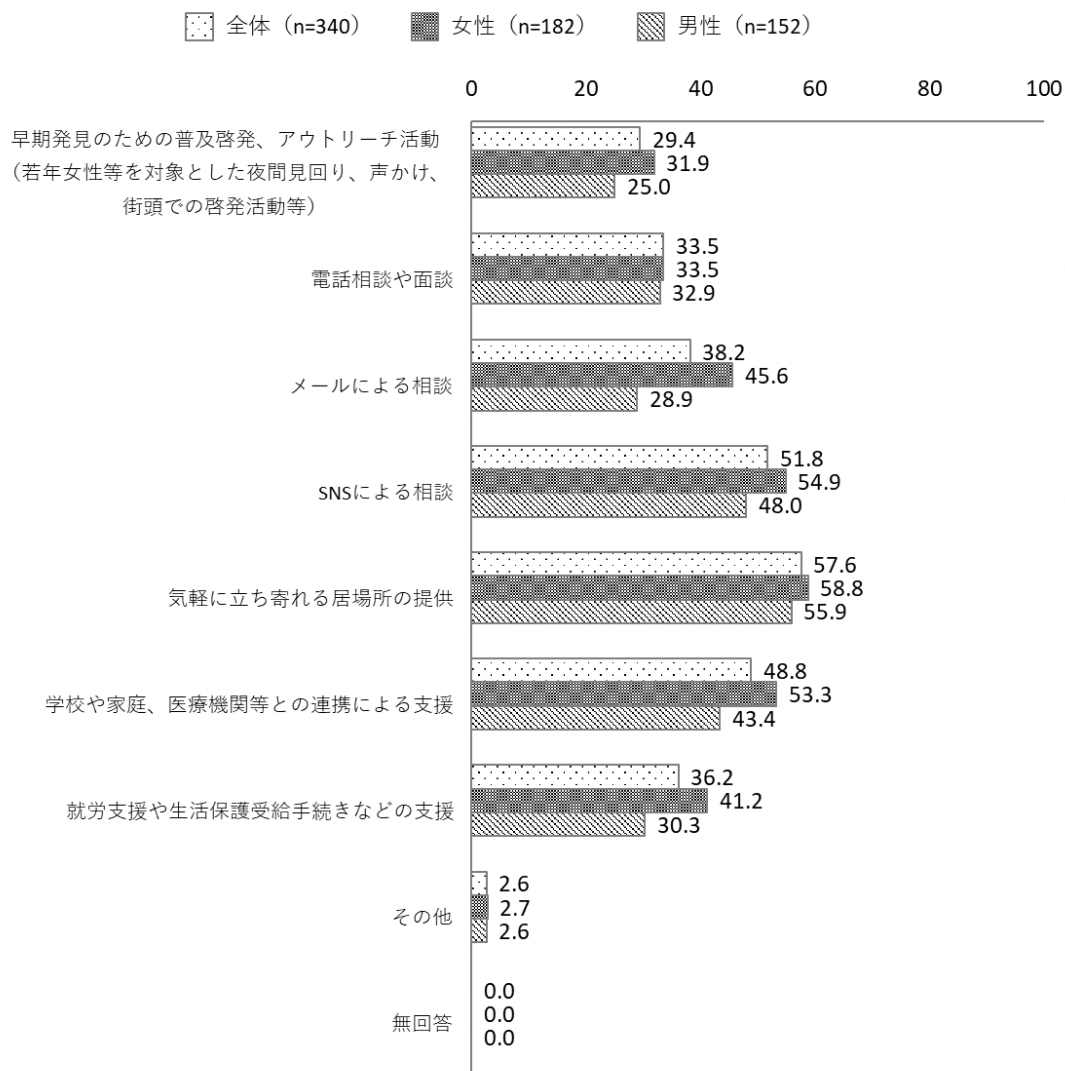
性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性20.3%、男性12.5%となっていますが、「1つも知らない」が女性73.1%、男性74.3%と最も高くなっています。

(4)困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 16 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。

図表Ⅲ-2-4-1 効果的な支援策



図表Ⅲ-2-4-2 効果的な支援策【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計（実数）	発、早期発見のための普及啓発活動	電話相談や面談	メールによる相談	SNSによる相談	気軽に立ち寄れる居場所の提供	学校や家庭、医療機関等との連携による支援	就業などの支援や生活保護受給手続	その他	無回答
全体		340	29.4	33.5	38.2	51.8	57.6	48.8	36.2	2.6	0.0
性別	女性	182	31.9	33.5	45.6	54.9	58.8	53.3	41.2	2.7	0.0
	男性	152	25.0	32.9	28.9	48.0	55.9	43.4	30.3	2.6	0.0
性別・年代別	女性 大学生	95	32.6	34.7	45.3	58.9	54.7	57.9	45.3	2.1	0.0
	女性 高校生	67	34.3	34.3	49.3	52.2	68.7	53.7	34.3	1.5	0.0
	女性 学生以外	20	20.0	25.0	35.0	45.0	45.0	30.0	45.0	10.0	0.0
	男性 大学生	68	26.5	42.6	32.4	54.4	58.8	45.6	36.8	2.9	0.0
	男性 高校生	63	22.2	23.8	30.2	46.0	52.4	44.4	25.4	1.6	0.0
	男性 学生以外	21	28.6	28.6	14.3	33.3	57.1	33.3	23.8	4.8	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 全年代の女性への夜間見回り
- 悲しいことに悲惨な事件や事故に繋がるものも多いかと思います。メールやネット相談箱のように、何かしら記録に残るようなやり取りが両者のために必要かと思います。自分のいる立場から脱却しようと言う意思を持っている方もひと握りかと思います。

<男性>

- 政府による公的な支援

【困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が6割近く】

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が女性 58.8%、男性 55.9%と最も高くなっています。

(5)自由意見

性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がありましたら、お聞かせください。また、このアンケート調査へのご意見があればお聞かせください。

男女共同参画社会の実現に向けて 49 件の意見がありました。

<「女性」の意見>

○男女共同参画社会とは少し異なるかもしれませんが、「多様性を尊重すべき」という言葉を社会で耳にすることが多くなっていると感じている。尊重すべきではあるが、都合よく性別を言い訳にしたり、明らかに男性と同等の力や能力があるにも関わらず女性としてみなされるのは、生活をしていく中で、女性が怖いと感じたり不快に感じるが多くなるのではと考えている。なんでもかんでも尊重としていては、

その陰で辛い思いをする人がいるということを把握していなければいけないと思う。今ある男と女の枠組みに LGBTQ の方々を当てはめたり無意味に否定するのではなく、受け入れて、そういった方々がその方々らしく施設やサービスを利用できるような取り組みが必要だと思う。そのような視点が男女共同参画社会にも繋がるのではないかと考える。

○女性の方が立場が弱くなったり下に見られることもあるが、男性もそうなることはあって、性被害は女性だけでなく男性も被ることがあると思う。このアンケートでは避妊してくれなかったや、若年女性と記載されていて、若い女の人だけに目を当てたアンケートなのかと思った。

○性別役割分業に反対と言いながら、家事を甘んじて遂行する女性が多くいる。男性も女性も根底から意識改革をすることが大切だと思う。

○性別ではなく、一人一人の個性として多様性を認めるべきであり、本人が望む選択肢(就職先など)を奪わないことが大切だと思う。また選択を行うのは本人自ら行うべきである。

○正規雇用労働者の労働時間の短縮によって、男女を問わず正社員として働くことができる環境づくりを促進すべきだと思う。

○社会全体で若い人を支援する取り組みが広がればもっと性別に関わらず住みやすい環境になると思う。

○家庭内暴力を父から小さい時から受けていました。自分の気に食わないことがあったり、アルコールを摂取すると人格が変わります。私は長女ですが、次女が生まれても同じように暴力を受けて育ちました。男は仕事に行って女は家のことをするといった考え方で自分が一番正しいと思ってるのは違うと思います。男女平等社会を強く願います。

○男女を平等に考える上で、おんなじことをさせるのではなく、それぞれの個人の性格や考え方、得意不得意を把握することが重要だと考えています。そこに決めつけや先入観を排除する努力が必要だと思います。

○母親は子供が小さい時は仕事をやめて子育てに専念すべきだと思うかという質問について少し思うことがある。模範解答としては「そうは思わない、父親も参加すべきだ」というものになると思うのだけれど、生物学的に考えて子供は母親の方をより求めるのは事実なので、現実的なことも考えた啓発ももう少し心がけてもいいのではと思った。なんとなく、この質問の仕方はそういった回答を期待してる感じがしたので自分の意見を書かせていただいた。今の現状を私は何も知らないので、的外れな意見ならば申し訳ない。理想的な制度や考えの啓発の点では枚方市はすごく活発で良いと思うし私が枚方市を大好きな理由でもある。でも、それが行きすぎて逆に苦しめてしまう人々が出てきてしまうのではないかと心配になる時もある。例えば、最初に記述した母親と子供の質問の件も解答欄の選択肢に「子供が小さいうちは仕事の時間を縮めて一緒にいる時間を増やす」のような現実的な回答がなかった。

そういった現実的な回答が盛り込まれず、全ての回答が「そう思う」「そう思わない」にまとめられる内容である気がした。いわば、中間の現実的な回答がなかったので、少々理想論で動きすぎている節があるのではないかと思った。こういった現実的な啓発もしていかないと、それらを思い付けない人もいるだろうし、不可能な理想論を突きつけられて、自分の現状が間違っていると言われてしまうような感覚で感じてしまう人も出てくるのかもしれないと思った。私は枚方市で中学の教育を受けたのでこの市の活動や目指すものは肌で感じてきた。しかし、別の地域に高校に通うようになって中学の時に教えられたことが実現不可能な状況もあると気づいた。理想論を教えるのはいいけど、その後に現実も教えて理想と現実の間を上手く取るような教育もしてほしいと感じることはたびたびある。こういったことも重なって意見を書かせていただいた。長くなってしまい申し訳ない。ここまで読んでいただけたのなら感謝以外の何ものでもな

い。

○一旦子育てなどで離職してしまっても再就職がしやすい仕事環境を作って欲しい。

○警察は問題があると民事には介入できないとか、被害が確認できないとかで、被害者と加害者の間に入ってくれないから、被害者の家族や友人に協力や相談をしてもらうしかないと思うから、その方々からの相談を聞いてくれる窓口があればよいと思う。気軽に相談や気軽に来てくださいますとか言われても、その場所には言いにくさや行きにくさがあると思いました。

○生きやすい世の中のためによろしく願います。

○学校で教師ではなく、専門の先生に来てもらって正しい知識を知りたいです。ただ聞くだけではなく質問や話し合いもしたいけど、みんなの前で話すのは恥ずかしいから事前に聞きたいこと匿名でアンケートをしてから回答がほしい。

○お互いの性別に関係なく偏見を無くすることが男女共同参画社会の実現において大切だと思う

○最近男女共同参画社会のことを大多数の学生は知っていると思うし、社会を見てもそのような風潮になってきていると感じます。これからも、より男女共同参画社会に枚方や大阪、日本がなっていくことを望みます。ありがとうございました。

○平等にすることは大切だと思うが、平等にあまりにも意識を向け過ぎると性犯罪などが起きてしまいそうで怖い。いろいろな個性を持った人たちが自分らしく暮らせるようになるのは大切だけど限度を決めて欲しい。

○経済的な理由で離婚に踏み切れないでいます。周りにも同じような知人が複数おり、そのような支援相談を手厚くしていただけると嬉しいです。

○多目的トイレなど、男女どちらでも使用出来るトイレをお店以外にも学校や会社などの場所にも増やしたらいいと思います。

○近年、男女平等の風潮が進んできているのがとても良いと思う。ただ、未だに暴力だとか男女差別をされている状況にある人もいると思うのでそういったことになった時に心の支えになるようなシステムや場所の提供があるといいなと思う。

○もし将来、DVなどの暴力被害を受けた場合、相談だけで終わるのではなく、長期間、解決するまで、しっかりサポートして欲しいです。

○～これから生きる子供達の為の未来へ～まず、ゆとりある国にしなければ、一人一人の尊重なんて、夢の話。生活に無理があれば歪が生まれ、自己防衛本能が働き過ぎて、他人にまで配慮できない。そんな親の姿を見て育つ子供達は、他人への関心や協力しあう大切さを感じにくい大人になり、会社での貢献も出来ない人が増え、国力低下を招く。真面目に生活さえしておけば取りこぼされないという最低限の安心さえばやけてみえてしまう現在。人々が見守り合える社会にして欲しい。観光地の土地保護、売買での法整備。対国外への国内生産品への特許強化（保護）、税金事業の厳密な取捨選別、自給自足率向上、過疎地域への新法設定（無駄なインフラ整備廃止等）防災対策の強化等将来を願う保護者より。

○学生やフリーランス、働き口を探している専業主婦等に向けて家庭生活支援等の何かしら手軽な資格が得られるセミナーと支援先を提供するのは愚直な案の一つとしてどうでしょうか。ボランティアとして立ち上げて、支援先に赴いて活動した場合は「1回3000円(交通費代として)」程度の報酬に設定し、セミナーや試験を設けて知識や技術を学んでもらうことで事故発生防止に加え、受講した方々の生活能力向上と知識の普及・人材のリクルートが期待できるのではないかと思います。安価ではありますが報酬も出ますし、体面はボランティアなので「〇〇資格講座」というよりは人にも伝えやすく受け入れられやすいかと

思います。

○ものを投げつける。等は昔からよく聞きますが、最近では、『食べ尽くし系』も言われ、作ったもの又は家にある食べ物を全て食べてしまう。こう言った方も DV と、私は思います。子供が居て、子供達の食事や自分の食事のままならず、作り直さなければなりませんし、もし材料がなければ、とも考えてしまいます。これは市や政府の規定にはなりますが、市はどのように考えていらっしゃるか気になります。小皿で取り分けていても食べられ、隠していてもいつの間になくなって、という方もいらっしゃるのでは？ 出来れば教えて頂けたらな。と思います。

<「男性」の意見>

○女性だけでなく男性の DV 被害も表面化している。その事に対する支援も考えられているのでしょうか。最近スポーツの分野において、特に男性サッカー等の試合に 女性の審判を起用していますが体力の違いが歴然としていて 走る事も追いつかず正確な審判がなされていません。こういう場面が多く見られ批判の対象になっています。体力の差があり正確な審判がされていない事に不満を持つ人も多いのです。男性の参加する試合に女性の審判はやめてほしいのが本音です。これは差別ではなく 体力の違いの問題です。実際に男性の足の早さに追いつけず 何も見ていないので審判の役割りを果たしていません。オリンピックでも 経験の浅い女性審判が誤審と思われる事をたくさんしていて、これは問題だと思いました。男女共同参画費に 9 兆 6000 億もかけるのは税金のムダ遣いではないですか。防衛費より上回る金額が異常ではないですか。日本人の税金を外国人ばかりに使うのもやめてほしい。SDGs はターゲットを細かくしすぎて解決方法が一部の人の利益を得るビジネスとなっている。目の前の貧困問題の解決と経済の底上げが一番重要ではないか。経済が良くなる事が先決ではないか。

○男女の何方かが優遇されるような社会にはしてほしくはない。

○枚方市がパートナーシップ制度を認めている事や、このような男女共同参画社会の為の様々な政策を行っている事を知らなかったが、このアンケートによって知ることが出来た。このような政策を行っている事はとても評価できる事であると考えます。ただ、もう少し周知をしても良いのではないだろうか。

○そもそも LGBTQ を定義しようとする事で問題が生まれてると思います。片山さつき参議院議員とカマタくさんの対談動画が街を得ていると感じます。性別だけでなく性的嗜好まで含めると全く同じ人はいないので完全な区別はできないと思います。そのため身体的特徴で判断すると差別と声をあげる方がいるので批判あること前提でしっかり分けないといけないと思います。女性用トイレや銭湯などで女性用に入ろうとして問題になる LGBTQ の方はいても逆の事例がないのが答えだと思います。女性側の怖さをわかってない時点で察せませう。個人的には差別と区別がわかっていない人が多いと思います。不当な差別は問題ですしなくすべきです。しかし社会的な安心安全を確保するための区別に LGBTQの方が声をあげるのはマイノリティであることは事実でそれらにより過ぎると不具合が起こることを考えられていないと思います。

○互いに謙虚である必要があることを多くの人に知ってもらう必要があると思います。

○性別にかかわらず一人一人が尊重される社会を実現するというのは、すごく大切であると考えます。そのため私たち一人一人がこのような社会を実現するために必要なことをしっかりと考える必要があると考えます。

○男女共同参画については非常に共感できるし、それが当たり前になるべきだと思う。ただ、どうも最近ジェンダー等の問題で「差別」と「区別」の差を理解していないように思える人が多くなってきた感じが

して、なんでもかんでも「これは差別だ！」と言っているのを見聞きすると嫌な気分になる。この辺は難しい問題だと思うのであまり一概に言うのも良くないとは思いますが、そういう差別と区別のライン引きのようなものも考え、発信していかなければいけないのかなと思います。

○性別ではなく実力などで判断されるようになればいいかなと思う。

○女性はよわい立場であるので守っていく必要があるとおもった。でも、女性に気を使いすぎでしまうと今度は男性の暮らしにくい社会になってしまうと思った。最近では男女両方使えるトイレと女性だけが使えるトイレがあるコンビニなどがあるけど、男性が一つ、女性が一つとかならわかるが、そうでないのでどうしても漏れそうな時には入れない。心と体が別に性別の人もあるのでどっちもどちらの性別でも使えるようにしてもいいと思った

○男女共同参画という単語の言い換えは何か無いのでしょうか？市役所のパンフレットや広報でよく見かける単語なのですが堅苦しく感じて興味を引きません。

○男女共同参画社会の実現は、一部の人々のためだけではなく、社会全体の幸福と経済的發展に寄与するものです。一人ひとりが自分らしく生きられる環境づくりを目指して、個人、家庭、職場、地域、そして国が連携して取り組むことが必要だと思う

○男女平等は当たり前。性的マイノリティに対する配慮は必要性的マイノリティへのいきすぎた配慮で人が不快に思うようなこと(例、男性が戸籍を変えないまま女子トイレを使う)は多様性の乱用で真の多様性ではない

○男女の差がなくなるのはなかなか難しいと思う。昔からある固定概念を無くさないといけない。

○京大とかの女子枠は意味わからん

○公衆トイレにもジェンダーレストイレを作ると LGBTQ の人も使いやすくなると思う

○「家事、育児、介護を主にしている人」の選択は、分担を考慮して複数選択可にして欲しい。

○電話や相談所などは悩んでいる人が尻込みしてしまう、自分はそこまでではないと思ってしまう、相談してることで周りに知られるのが恥ずかしい、などと考えてしまう恐れがあるので、気軽に相談できるように LINE での相談や、厳か(市役所のような)でない外観の相談所を作ったり、匿名や顔を隠して相談するなど、とにかく気軽に相談できるようにすることが必要だと思います。

○潜在的な男女差別というのは大人から子供へどうしても引き継がれてしまうので少しずつでもいいから差別を減らせるように教育機関での授業には力を入れるべきだと思う

○男性と女性の性の差を理解することが 1 番の近道であり、女性の管理職が少ないからといって女性専用など男女差別をしないことが重要だ。

○男性、女性ではなくみんな同じ人間と思えばいい

○きっかけになった

○多様な価値観が広く理解されつつある社会になってきていると感じています。男性、女性、多数派、少数派すべての人の生き方が尊重される社会が望ましいと思います。とりたてて特定の少数の人への支援策を打ち出すのもかえって特別な存在として扱われていると感じることもあります。誰もが生き生きと生活できるように平和なまちづくりや経済的な豊かさをとことん追求することが間接的に誰もが暮らしやすい社会の実現に繋がると思います。

○近年、男女差別の概念を履き違え、誤った主張をしている人が見受けられると思います。

○男性、女性という大きな主語ではなく 1 人 1 人の人間としてその人を理解しようとする。相手が嫌がる事をしないこと。無理に関わろうとしないこと。

<性別「答えない」の意見>

○男女の扱いに差をつけない。

○他の市や都道府県、引いては国よりも迅速にその上柔軟に行うべきである。また説明をすることも大切でストリームラインのないバッドプレゼンテーションではなく、話がしっかりとしていて簡潔な説明を行うことも大切である

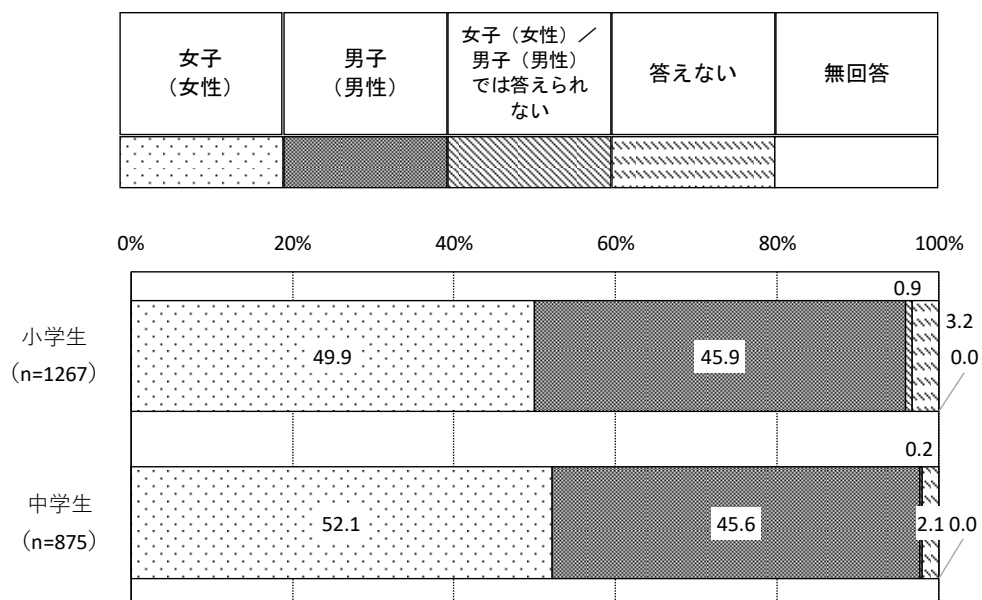
3 小学生・中学生調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。(○は1つ)

図表Ⅲ-3-1-1 性別



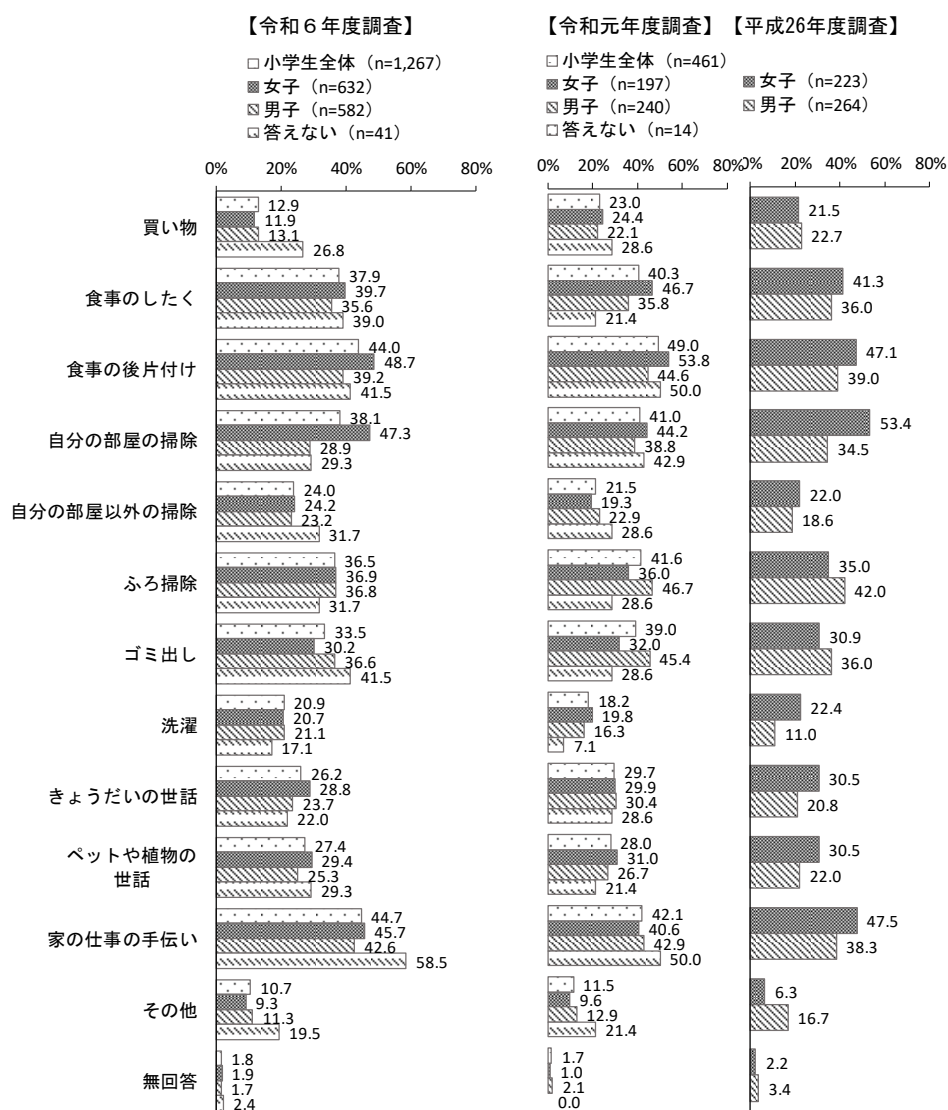
小学生では「女子」が49.9%で最も高く、次いで「男子」が45.9%、「答えない」が3.2%と続いており、中学生では「女子」が52.1%で最も高く、次いで「男子」が45.6%、「答えない」が2.1%と続いています。

(2)家庭生活について

①家で行っている家事

あなたが、家でしていることを教えてください。(複数選べます)

図表Ⅲ-3-2-1 家で行っている家事【小学生・中学生】【過去の調査との比較】



＜中学生＞

【令和6年度調査】

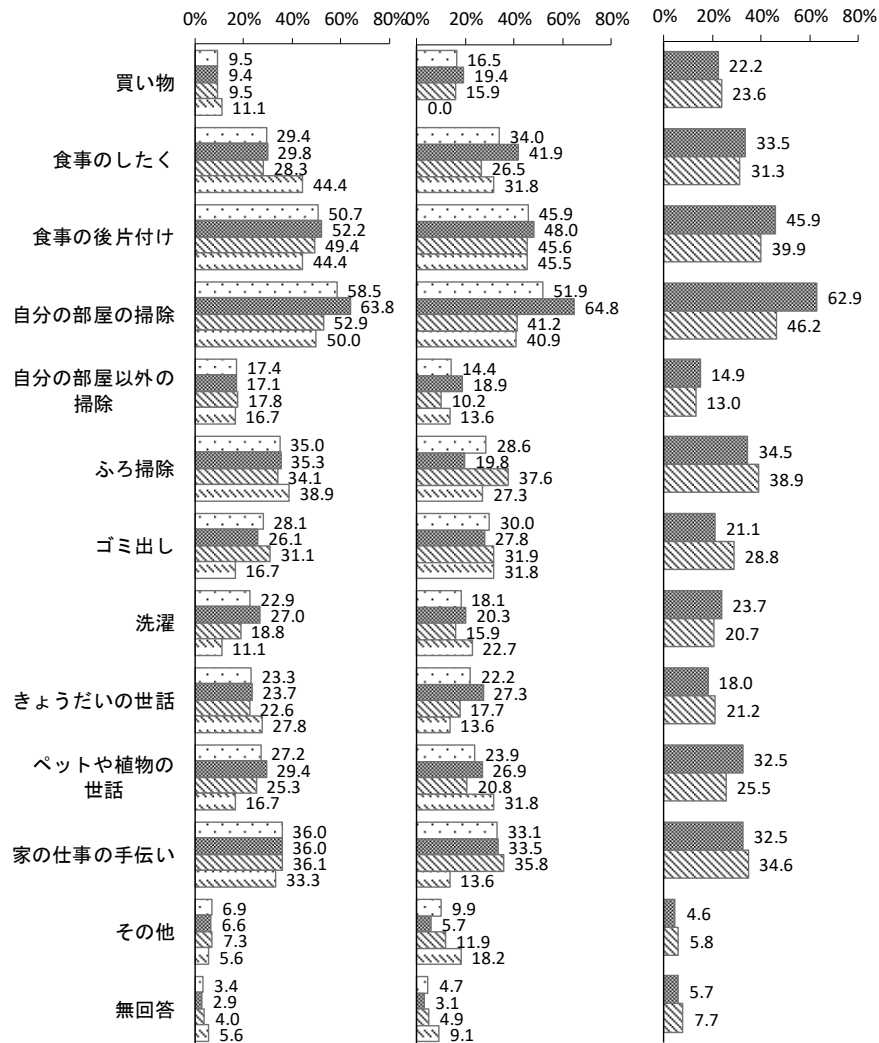
□ 中学生全体 (n=875)
 ■ 女子 (n=456)
 ▨ 男子 (n=399)
 □ 答えない (n=18)

【令和元年度調査】

□ 中学生全体 (n=486)
 ■ 女子 (n=227)
 ▨ 男子 (n=226)
 □ 答えない (n=22)

【平成26年度調査】

■ 女子 (n=194)
 ▨ 男子 (n=208)



「その他」の意見（主な回答）

＜小学生・女子＞

- 亡くなったペットのお線香
- トイレそうじ
- 郵便物をとる
- 皿洗い

＜小学生・男子＞

- 皿洗い ご飯の配膳
- 洗濯を畳む。

＜中学生・女子＞

- 晩御飯を作る
- 布団敷き

●洗濯物を干したり畳む

<中学生・男子>

●トイレ掃除

●洗い物

●洗濯物の取り込み

【家で行ってる家事は小学生女子は「食後の後片付け」男子は「家の仕事の手伝い」、中学生は男女とも「自分の部屋の掃除」が最多】

家で行っている家事について男女別でみると、最も割合が高いのは、小学生女子は「食事の後片付け」（48.7%）、小学生男子は「家の仕事の手伝い」（42.6%）、中学生は「自分の部屋の掃除」（女子 63.8%、男子 52.9%）となっています。

【過去調査との比較】

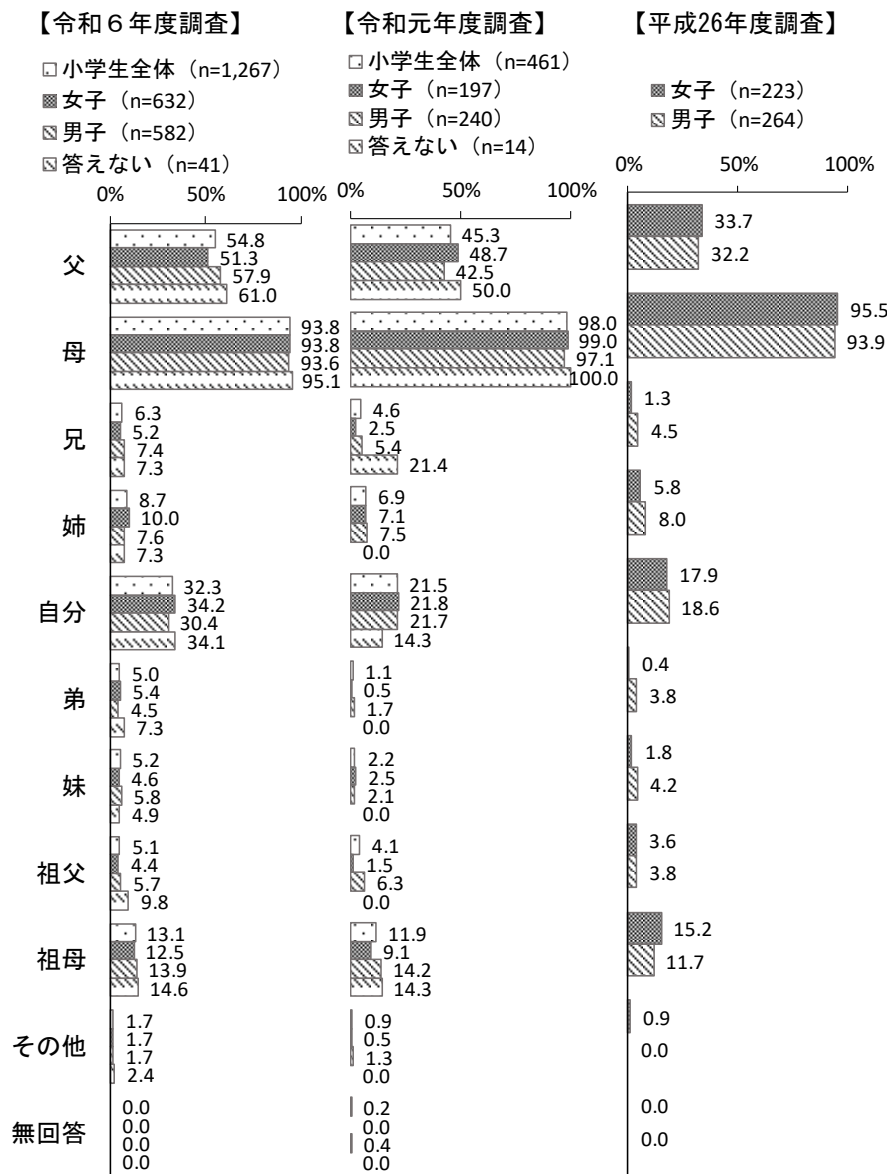
大きな傾向の違いは見られません。

②主に家事や子育てを行っている人

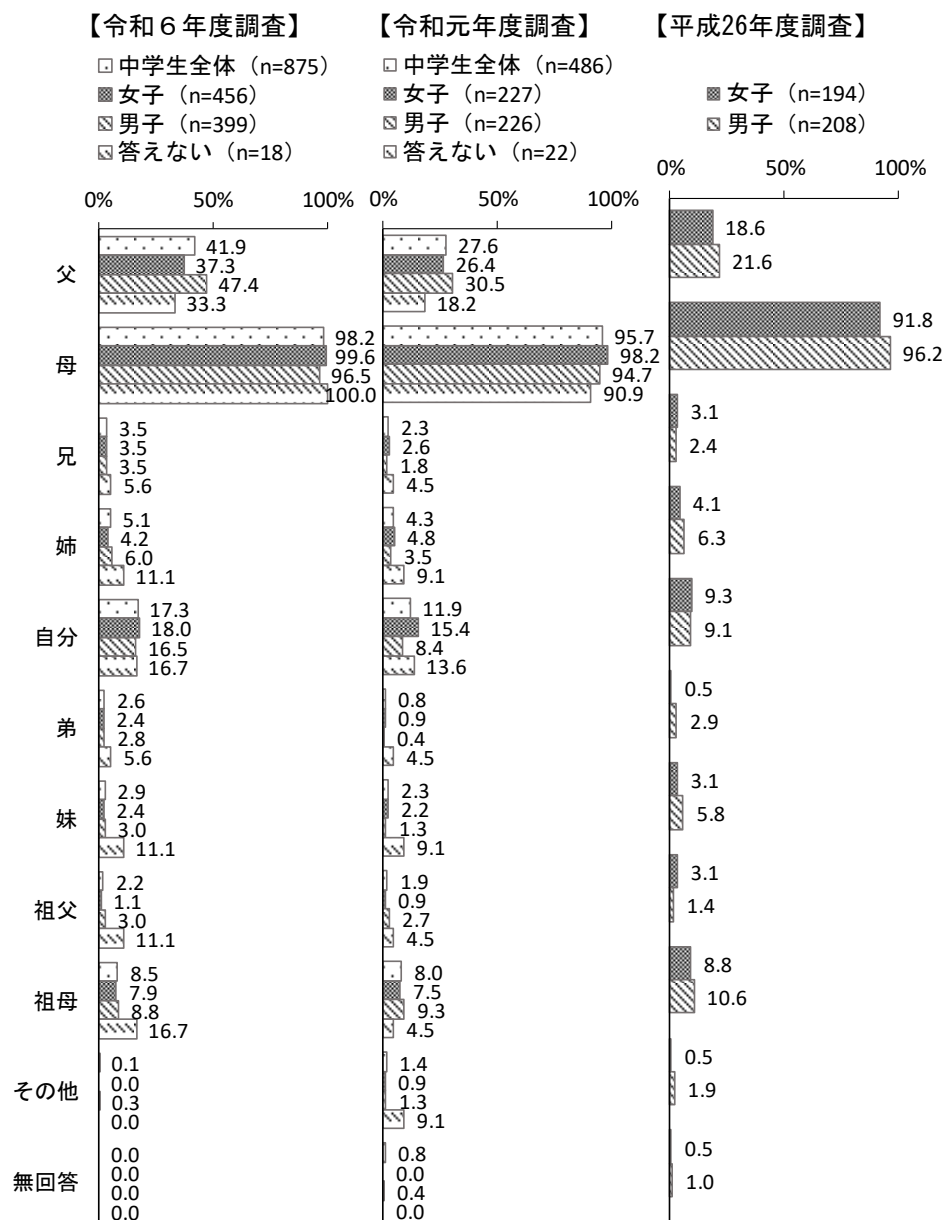
家で、主に家事（料理・そうじ・洗たくなど）や子育てをしているのはだれですか。（複数選べます）

図表Ⅲ-3-2-2 主に家事や子育てを行っている人【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

<小学生>



<中学生>



「その他」の意見（主な回答）

＜小学生・女子＞ ●おばさん

<小学生・男子> ●自分自身

【主に家事を行っているのは小学生、中学生ともに「母」が9割以上】

主に家事や子育てを行っている人について、全体では、いずれの年代も「母」の割合が最も高く（小学生 93.8%、中学生 98.2%）、次いで「父」（小学生 54.8%、中学生 41.9%）の割合が高くなっています。

【過去調査との比較】

大きな傾向の違いは見られません。

(3)性別による役割分担の考えについて

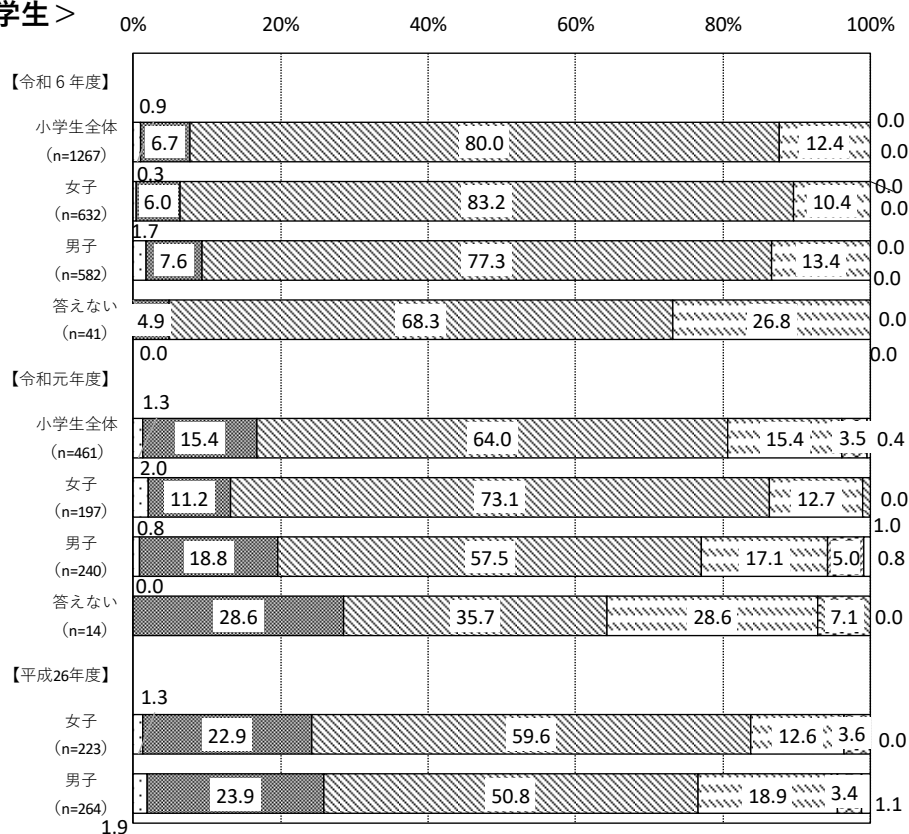
①家事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-3-1 家事はだれがするのが一番よいと思うか【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

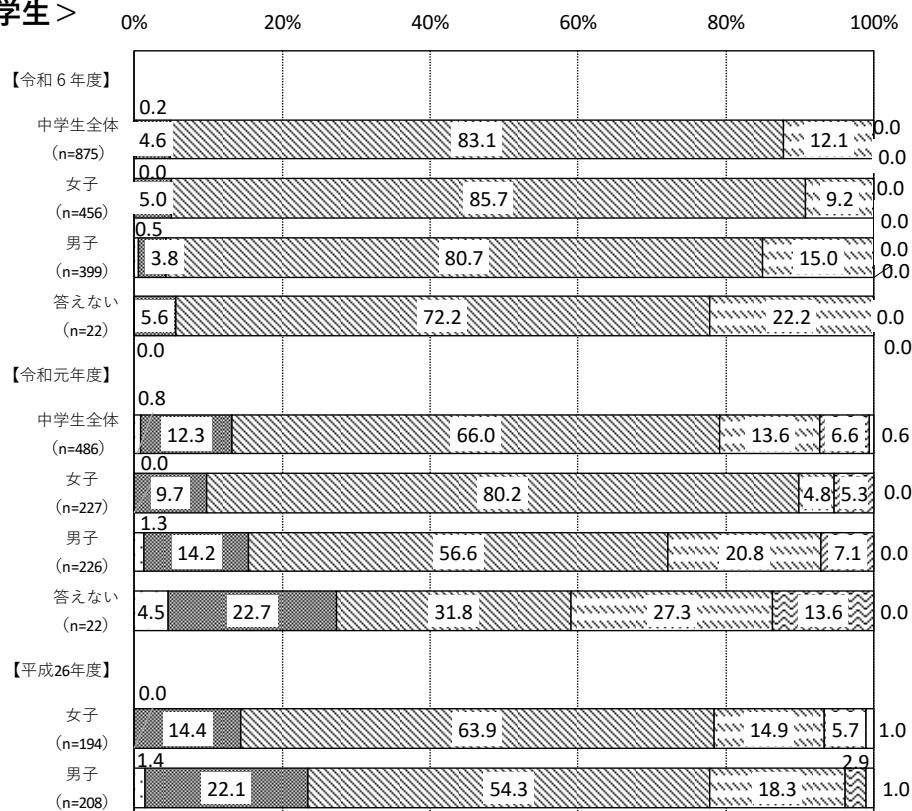
男の人が 主にする のがよい	女の人が 主にする のがよい	男の人と 女の人が 協力して するのが よい	わから ない	その他	無回答

<小学生>



男の人が 主にする のがよい	女の人が 主にする のがよい	男の人と 女の人が 協力して するのが よい	わから ない	その他	無回答

< 中学生 >



【家事は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が小中学生ともに最多で女子の回答率が高い】

家事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子（83.2％）が男子（77.3％）よりも高く、中学生は女子（85.7％）が男子（80.7％）よりも高くなっています。

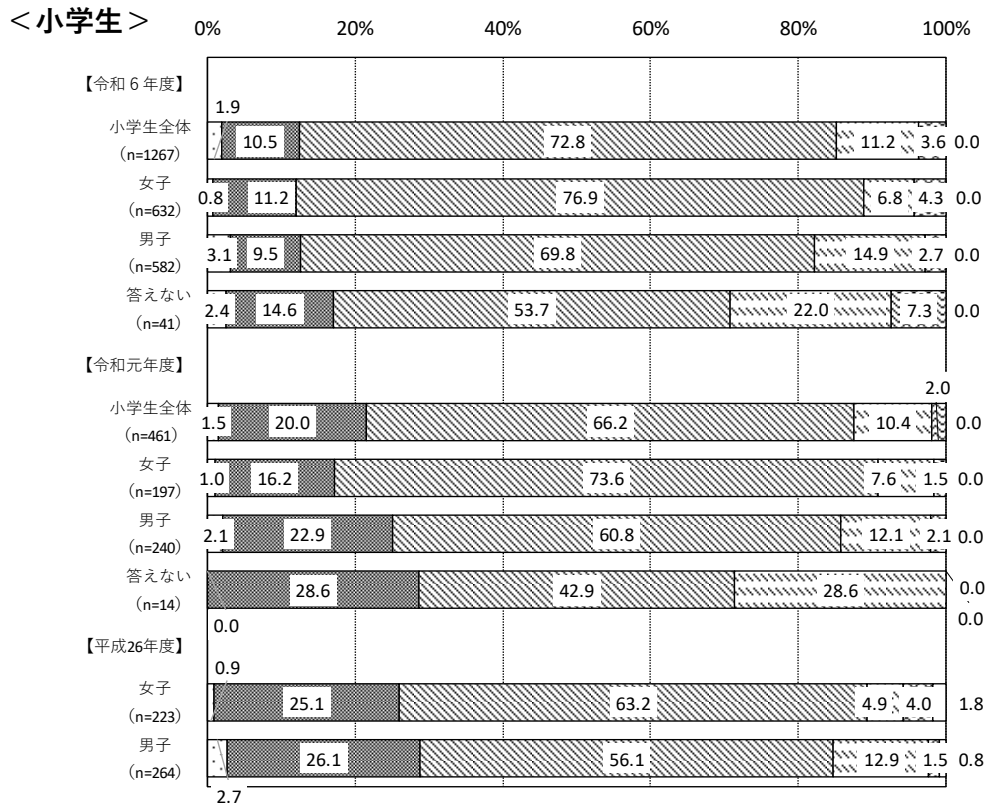
【過去調査との比較】

小学生、中学生ともに回を追うごとに「男の人と女の人が協力してするのがよい」の割合が高まっています。

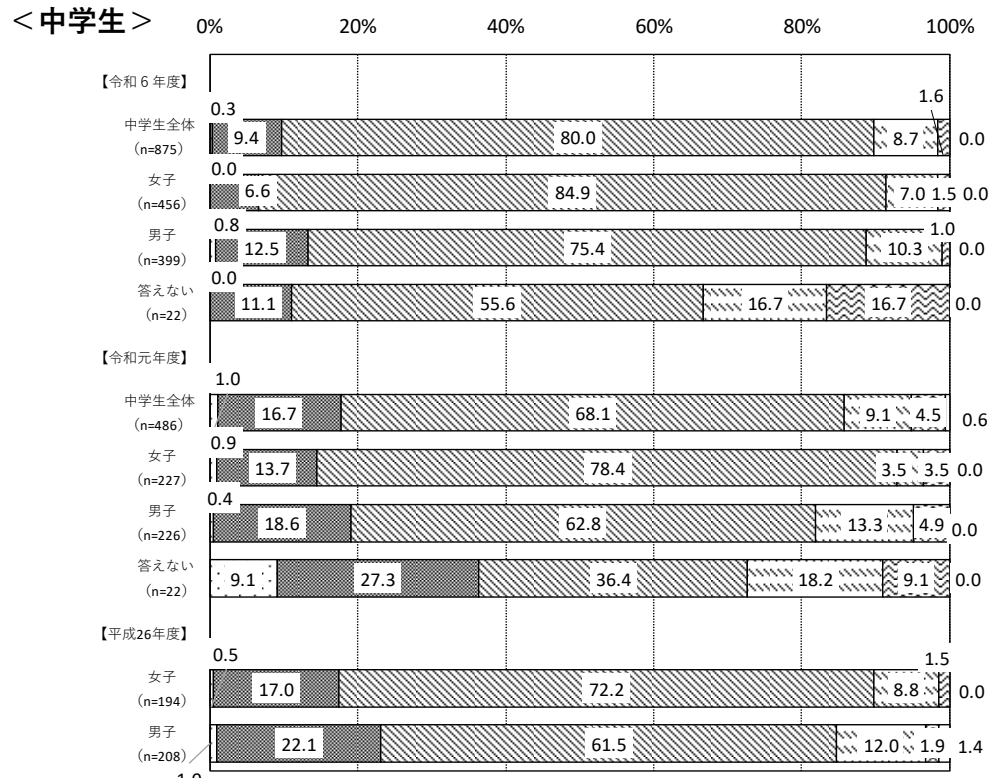
②子育てはだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番よいと思いますか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-3-2 子育てはだれがするのが一番よいと思うか【小学生・中学生】【過去の調査との比較】



男の人が 主にする のがよい	女の人が 主にする のがよい	男の人と 女の人が 協力して するのが よい	わから ない	その他	無回答



「その他」の意見（主な回答）

<小学生・女子>

- 家族全員
- 兄弟
- 誰がしてもいいと思います
- 女の人と男の人が交互にやるといいとおもう。

<小学生・男子>

- 男子はお父さん 女子はお母さんがいいとおもう。
- 交代に
- 家族
- 兄弟や姉妹

<中学生・女子>

- 愛情を注げる人
- 家族みんな

<中学生・男子>

- 余裕がある人、時間のある人、その意思がある人

【子育ては「男の人と女の人が協力してするのがよい」が小中学生ともに最多で女子の回答率が高い】

子育てはだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子（76.9%）が男子（69.8%）よりも高く、中学生は女子（84.9%）が男子（75.4%）よりも高くなっています。

【過去調査との比較】

小学生、中学生ともに回を追うごとに「男の人と女の人が協力してするのがよい」の割合が高まっています。

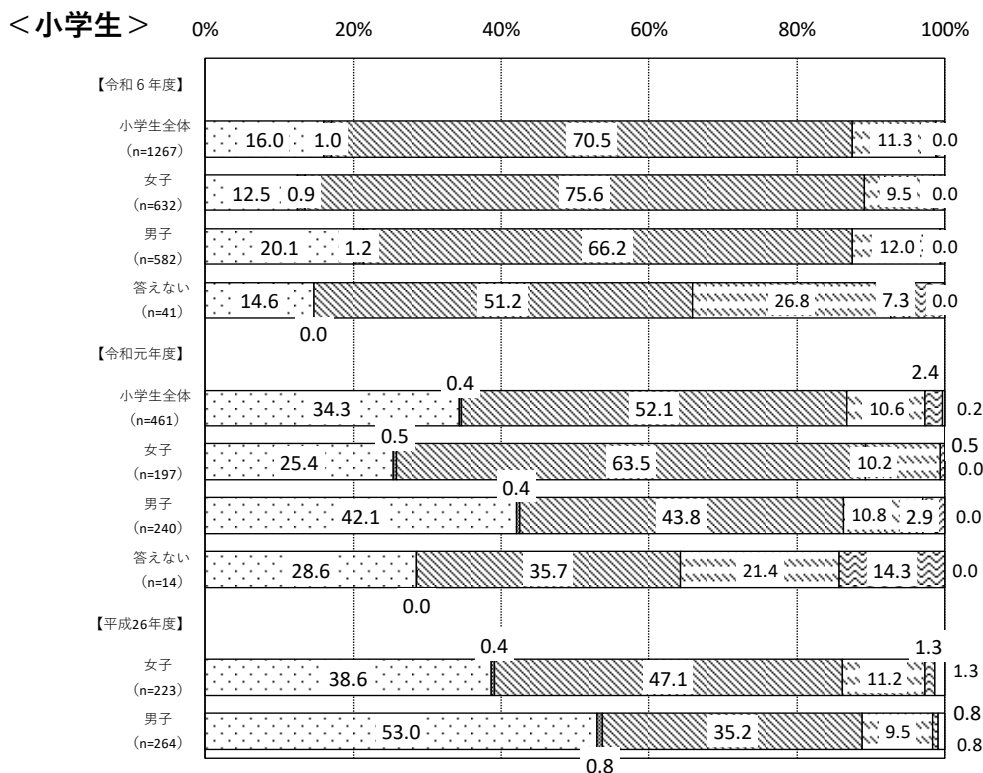
③お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うか

あなたは、お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番よいと思いますか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-3-3 お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うか

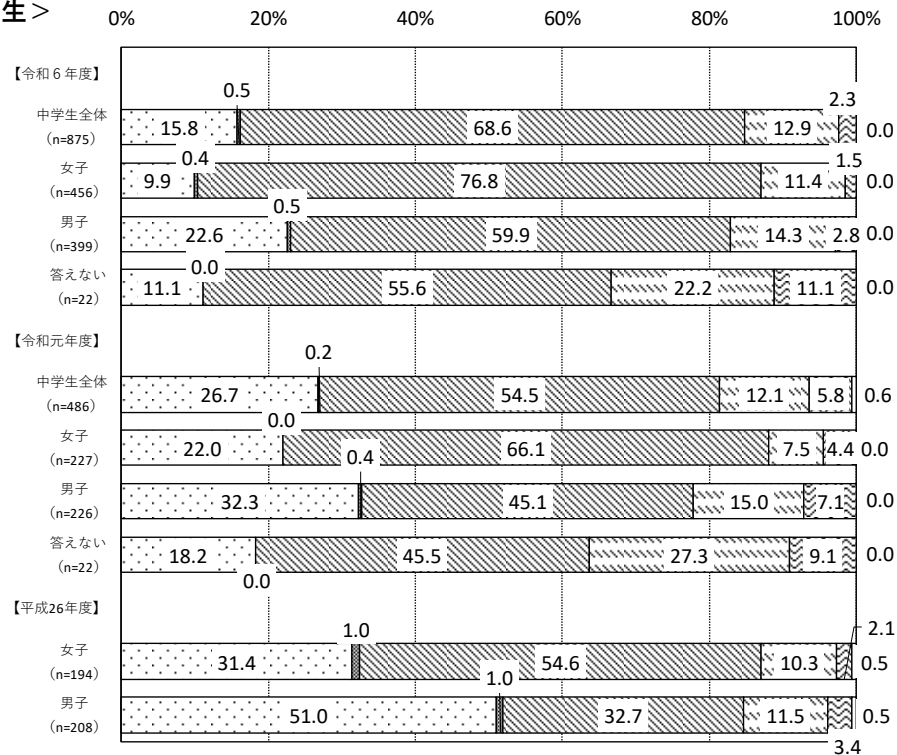
【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

男の人が 主にする のがよい	女の人が 主にする のがよい	男の人と 女の人が 協力して するのが よい	わから ない	その他	無回答



男の人が 主にする のがよい	女の人が 主にする のがよい	男の人と 女の人が 協力して するのが よい	わから ない	その他	無回答

<中学生>



「その他」の意見（主な回答）

<小学生・女子>

- 誰がするとかではなく、したいならすればいいと思う。
- 男女関係ない
- 共働きは、家にいる子供の面倒が見れないので、男女の決まりはなく、日にちをずらすか家庭の事情で平等に1人だけ働くべき。

<小学生・男子>

- 体力のある方、精神が強い方

<中学生・女子>

- 家族で相談して決める。
- その家庭ごとで変わる

<中学生・男子>

- 男女関係なく「お金を稼げる人」がいいと思う。
- 稼げる方が継続して続けて、どっちかが専業主婦とかになって、稼ぎ的に共働きで無理なら協力したらいい。
- やりたい方がやればいい

【お金を稼ぐ仕事は「男の人と女の人が協力してするのがよい」が小中学生ともに最多で女子の回答率が高い】

お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっています。小学生は女子(75.6%)が男子(66.2%)よりも高く、中学生は女子(76.8%)が男子(59.9%)よりも高くなっています。

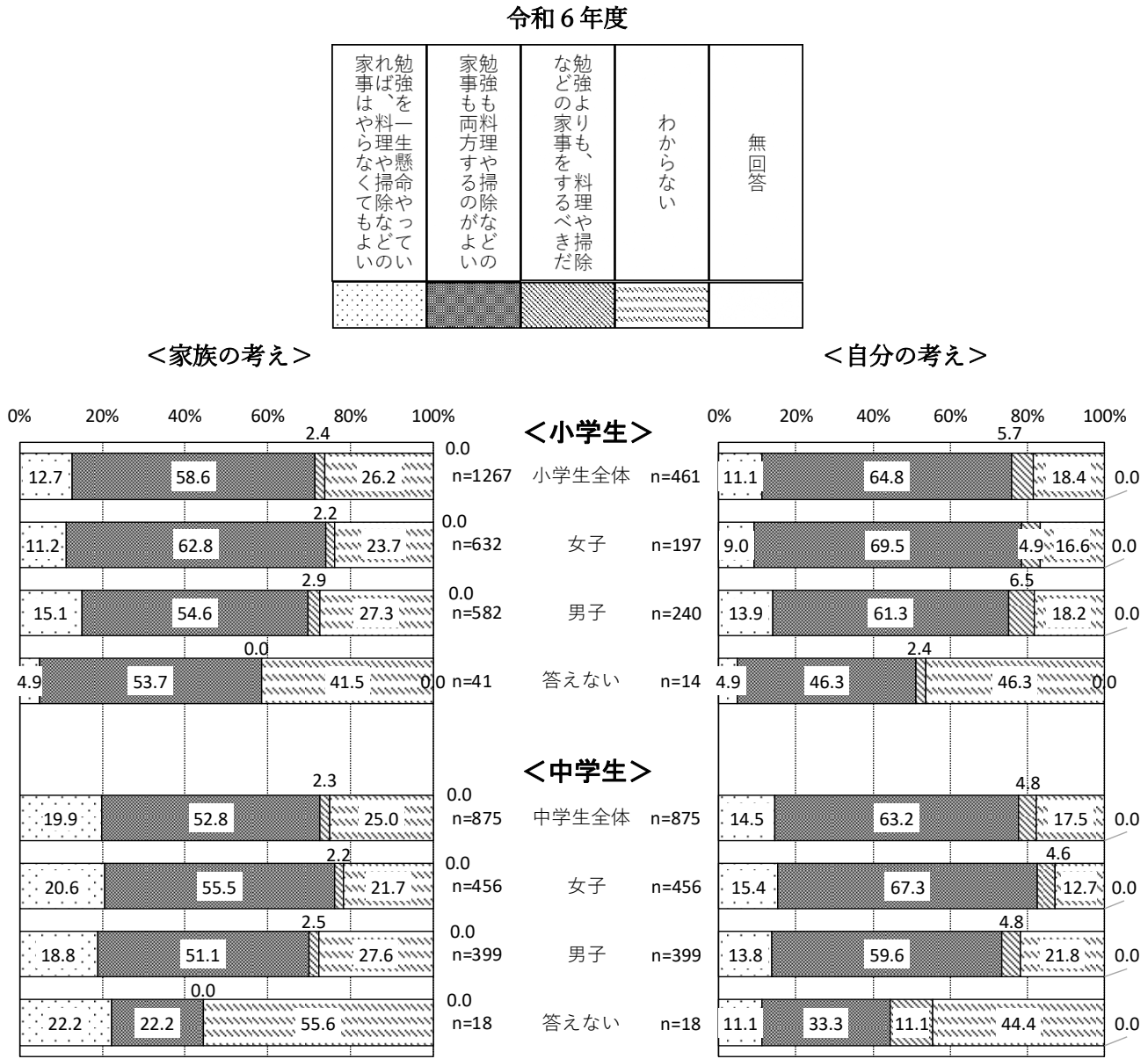
【過去調査との比較】

小学生、中学生ともに回を追うごとに「男の人と女の人が協力してするのがよい」の割合が高まっています。

④勉強と家事について

勉強と家事について、家族はどのような考えを持っているとあなたは思いますか。また、自分はどう考えているかそれぞれ答えてください。

図表Ⅲ-3-3-4 勉強と家事について【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

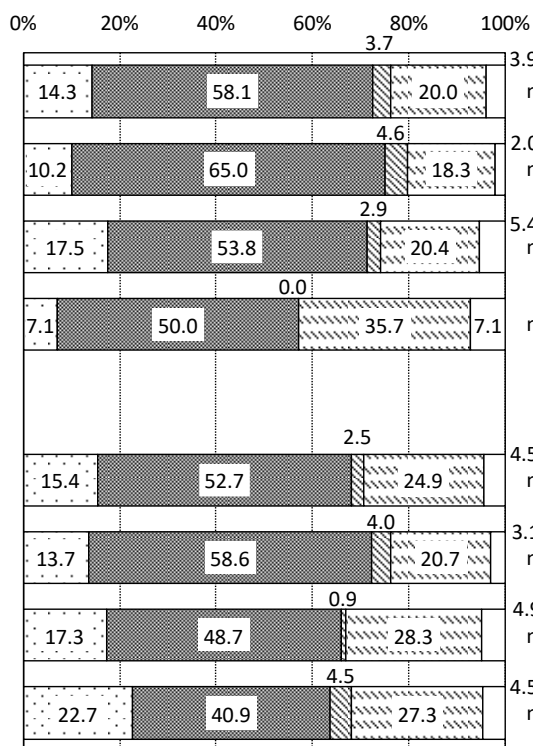


令和元年度

勉強も家事も両方やるのがよい	勉強も家事も両方やるのがよい	勉強より家事をするのがよい	わからない	無回答

<家族の考え>

<自分の考え>



<小学生>

<中学生>

【「勉強も家事も両方」が小中学生、男女ともに最多】

勉強と家事についての家族の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 62.8%、小学生男子 54.6%、中学生女子 55.5%、中学生男子 51.1%) となっています。

また、勉強と家事についての自分の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」(小学生女子 69.5%、小学生男子 61.3%、中学生女子 67.3%、中学生男子 59.6%) となっています。

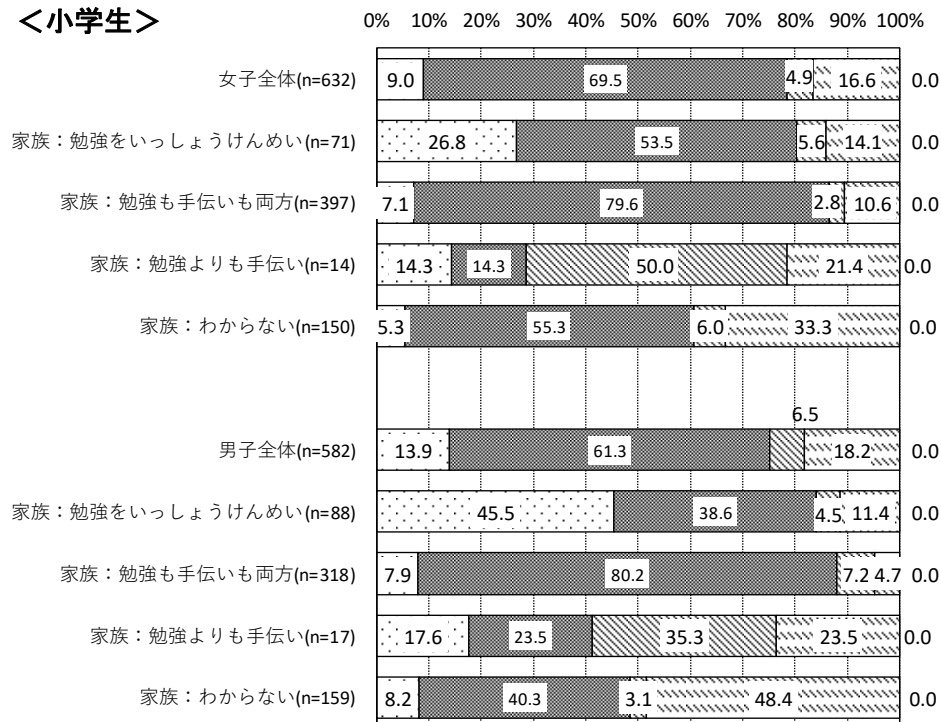
【過去調査との比較】

大きな違いは見られませんが、令和6年度の中学生で「勉強も家事も両方」の割合が若干増加しています。

図表Ⅲ-3-3-5 勉強と家事について【小学生・中学生】【家族の考えと本人の考え】

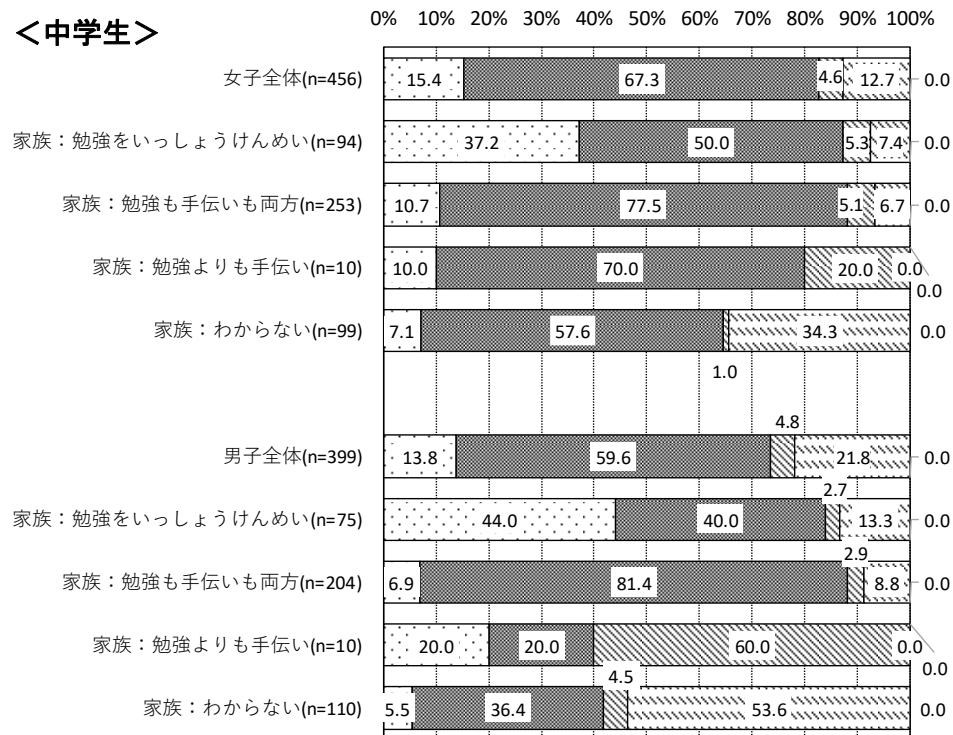
家族は勉強はやらなくていいの	家族も勉強も両方やるのがいいの	勉強よりも家事をするべきだ	わからない	無回答

<小学生>



家事は勉強より一生懸命やらないといけない	家事も勉強も両方やるのがよい	勉強よりも家事をするべきだ	わからない	無回答

<中学生>



【家族の考えと本人の考えについて】

家事と勉強について小学生、中学生ともに「勉強も家事も頑張る」割合が高いですが、家族が「勉強を一生懸命」考えの場合、本人も「勉強を一生懸命」を優先する考えの割合が高まる傾向があります。またそれ以外も家族の考えが小学生、中学生の考えに影響を及ぼしている傾向が見えます。

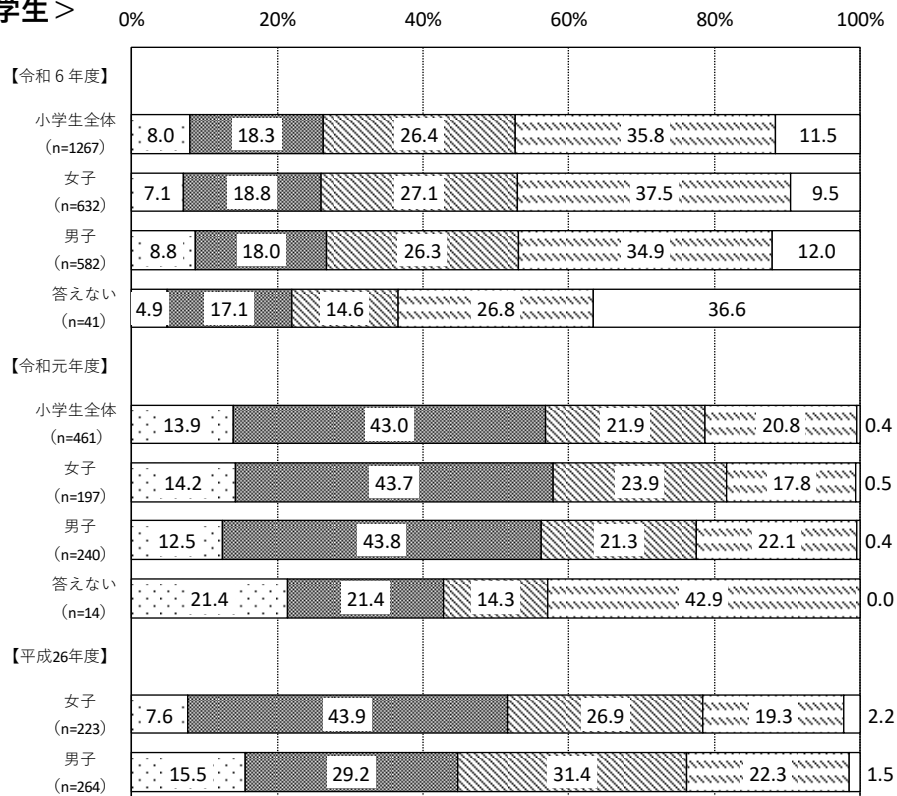
⑤「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた経験

あなたは、たとえば「男の子は強く・泣くな」や「女の子はやさしく・行儀よくしなさい」など、「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか。（1つ選んでください）

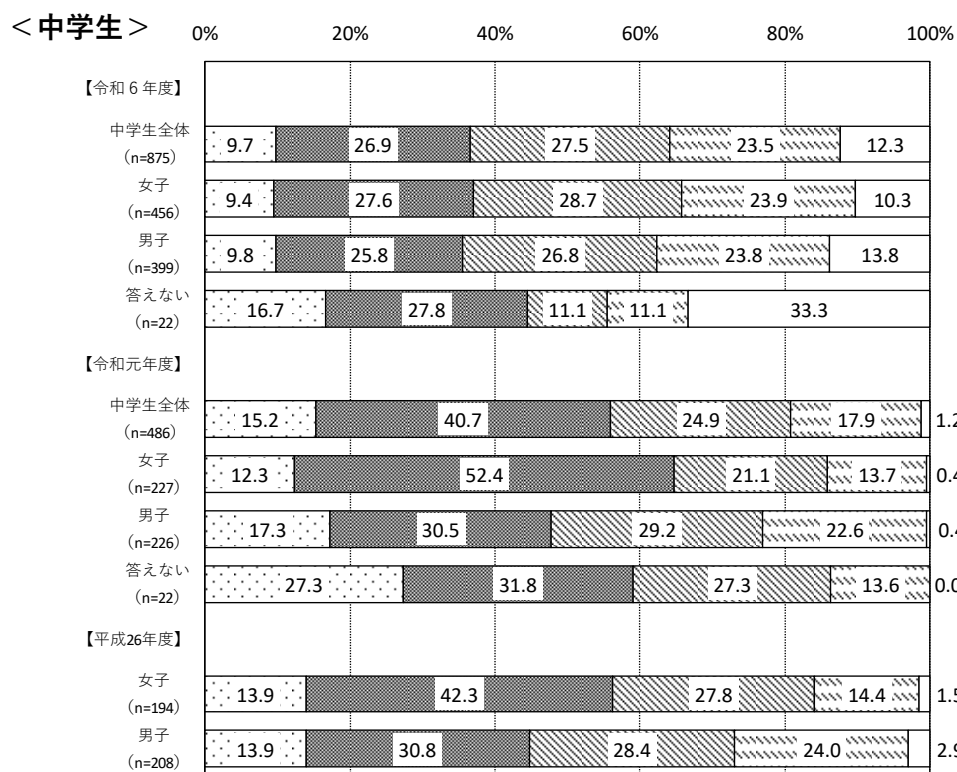
図表Ⅲ-3-3-6 「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた経験【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

言われる（言われた）派		言われない（言われなかった）派		無回答
よく 言われる (言われた)	ときどき 言われる (言われた)	あまり 言われない (言われな かった)	まったく 言われない (言われな かった)	

<小学生>



言われる（言われた）派		言われない（言われなかった）派		無回答
よく言われる（言われた）	ときどき言われる（言われた）	あまり言われない（言われなかった）	まったく言われない（言われなかった）	



【「男は○○」「女は○○」と言われた経験は小学生より中学生が多い】

「男は○○」「女は○○」と言われた経験について男女別でみると、『言われる（言われた）』（「よく言われる（言われた）」と「ときどき言われる（言われた）」の合計）は、小学生女子が 25.9%、小学生男子が 26.8%、中学生女子が 37.0%、中学生男子が 35.6%となっています。

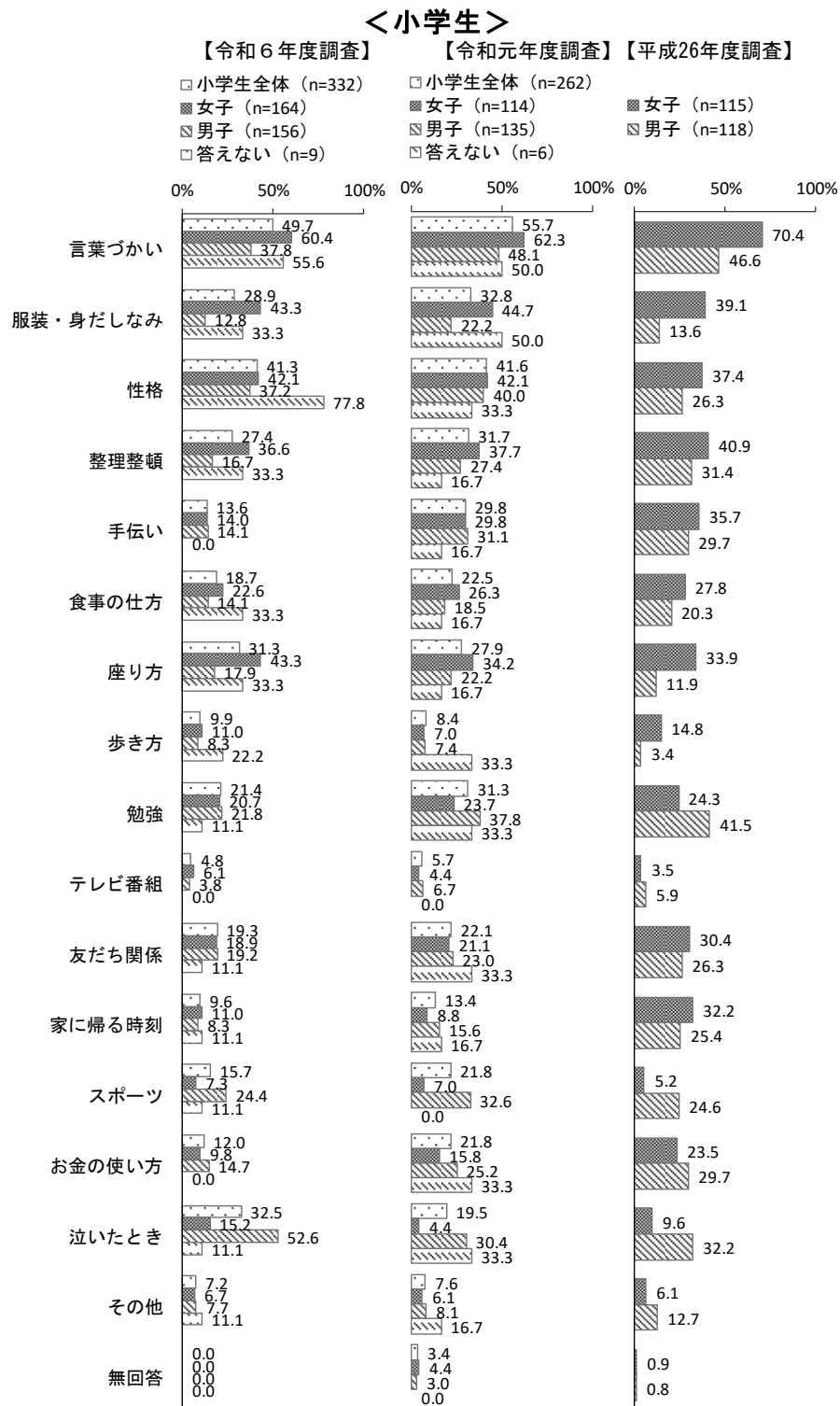
【過去調査との比較】

小学生、中学生ともに過去の調査より「言われた派」が減少する傾向にあります。

⑥「男は○○」「女は○○」と言われた理由

どんなことについて言われたことがありますか。(複数選べます)

図表Ⅲ-3-3-7 「男は○○」「女は○○」と言われた理由【小学生・中学生】【過去の調査との比較】



<中学生>

【令和6年度調査】

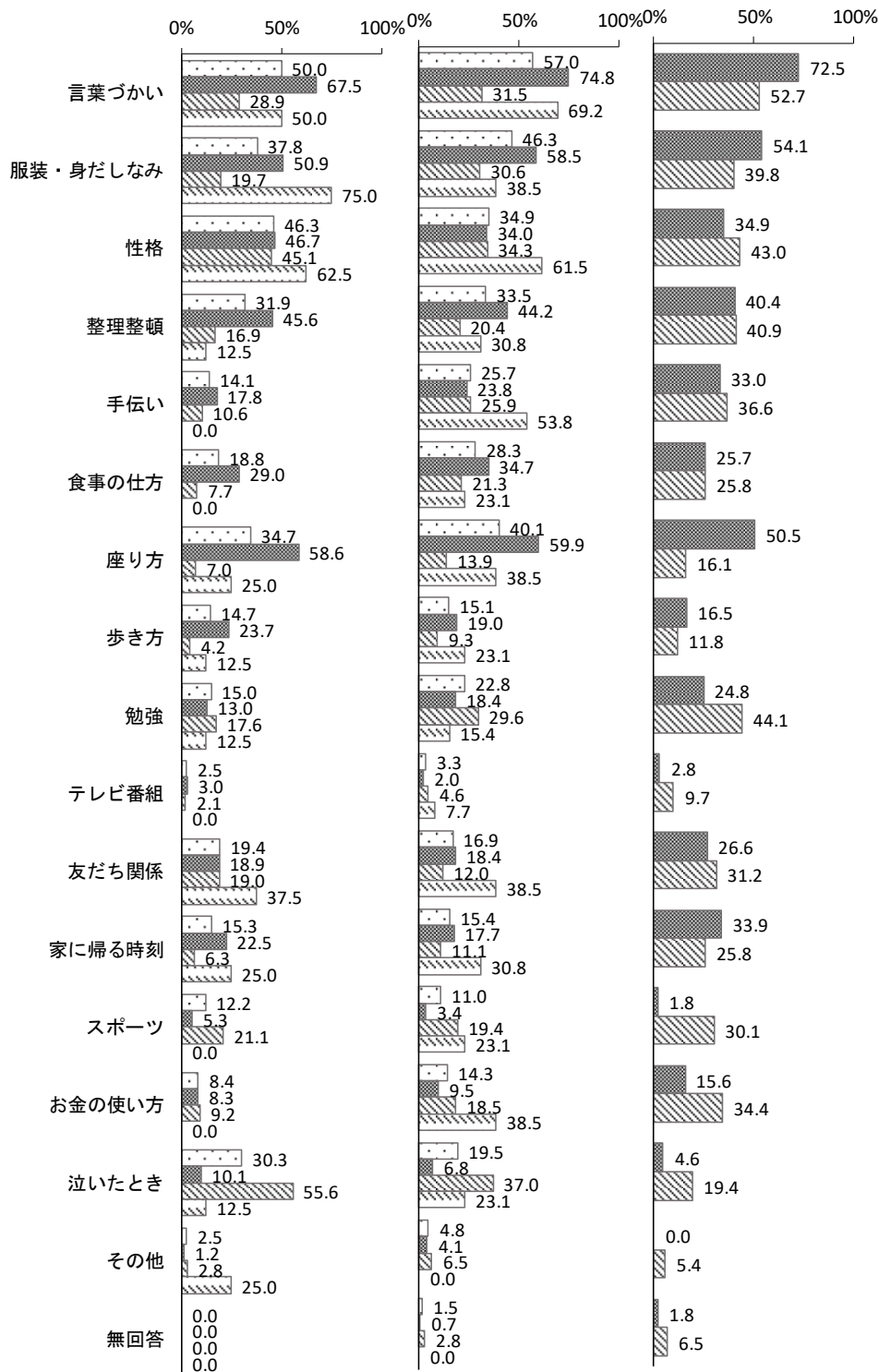
□ 中学生全体 (n=320)
■ 女子 (n=169)
▨ 男子 (n=142)
▩ 答えない (n=8)

【令和元年度調査】

□ 中学生全体 (n=272)
■ 女子 (n=147)
▨ 男子 (n=108)
▩ 答えない (n=13)

【平成26年度調査】

■ 女子 (n=109)
▨ 男子 (n=93)



「その他」の意見（主な回答）

<小学生・女子>

●女の子なんだから舐められないように完璧でいなさい

●足でものを動かす

- 男にはやりかえす、女には優しく
- 兄弟と喧嘩した時
- 力が少し強いからゴリラと言われた
- 習い事のテニスをしている時に、ボール拾いは男女順番で、男がボールを拾う時間だから待っていたら
いわれた
- 髪型
- 好きなこと（色などの）
- ゆったらいけないことばを言ったとき
- 姿勢
- 女の子は、僕や俺と言わない。

<小学生・男子>

- 兄弟喧嘩
- 男は女を守れ
- びびる時
- 笑い方
- 先生に「男には二言はない」と言われた。
- 話している時
- 女は男たたいていい
- お兄ちゃんだから、我慢して
- 鬼ごっこ
- 男の子やから泣いたらあかん
- 男は黒みたいにゆわれた
- 喉が乾いたのに買ってくれないから言っていたら言われた

<中学生・女子>

- 字の綺麗さ
- 一人称

<中学生・男子>

- 兄妹で喧嘩した時

【「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた理由は、女子は「言葉づかい」、男子は「泣いたとき」が最多】

「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた理由について男女別でみると、女子（女性）は小中学生ともに「言葉づかい」（小学生女子 60.4%、中学生女子 67.5%）の割合が最も高く、男子（男性）は「泣いたとき」（小学生男子 52.6%、中学生男子 55.6%）の割合が最も高くなっています。

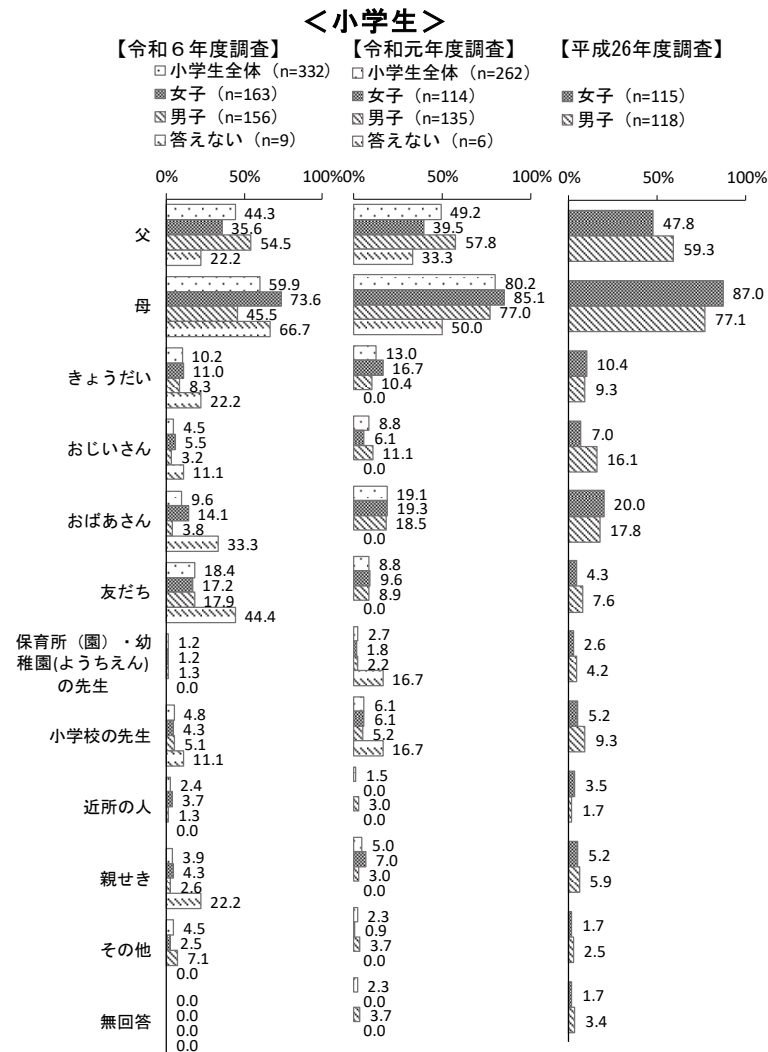
【過去調査との比較】

回答は言われた場合に限られるのと、多数の選択肢で分散しているため大きな傾向の違いは見つけられません。

⑦「男は〇〇」「女は〇〇」とだれに言われたか

それはだれに言われましたか。(複数選べます)

図表Ⅲ-3-3-8 「男は〇〇」「女は〇〇」とだれに言われたか【小学生・中学生】【過去の調査との比較】



<中学生>

【令和6年度調査】

【令和元年度調査】

【平成26年度調査】

□ 中学生全体 (n=320) □ 中学生全体 (n=272)

■ 女子 (n=169)

■ 女子 (n=147)

■ 女子 (n=109)

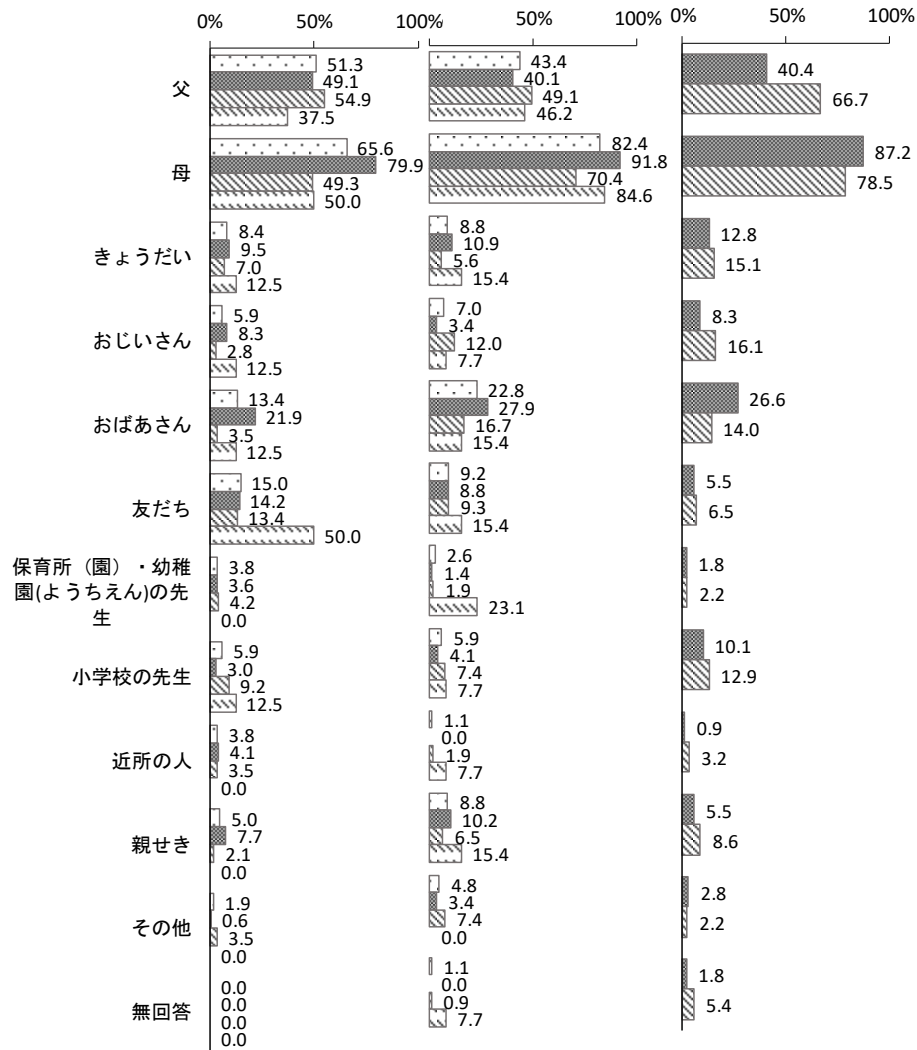
▨ 男子 (n=142)

▨ 男子 (n=108)

▨ 男子 (n=93)

□ 答えない (n=8)

□ 答えない (n=13)



「その他」の意見 (主な回答)

<小学生・女子>

● 友達のお母さんなど

● 習い事の先生

<小学生・男子>

● 習い事のコーチ

● 監督、コーチ

<中学生・女子>

● 大人

<中学生・男子>

● チームの監督

● 習い事の先生

● お父さんの知り合い

【「男は○○」「女は○○」と言われるのは小中学生ともに同性の親からが最多】

「男は○○」「女は○○」とだれに言われたかについて、小学生女子は「母」が 73.6%、小学生男子は「父」が 54.5%、中学生女子は「母」で 79.9%、中学生男子は「父」が 54.9%と最も高くなっています。

【過去調査との比較】

過去の調査でも、同性の親から言われるのは同様の傾向が見られます。

⑧「男は〇〇」「女は〇〇」と言われたときの気持ち

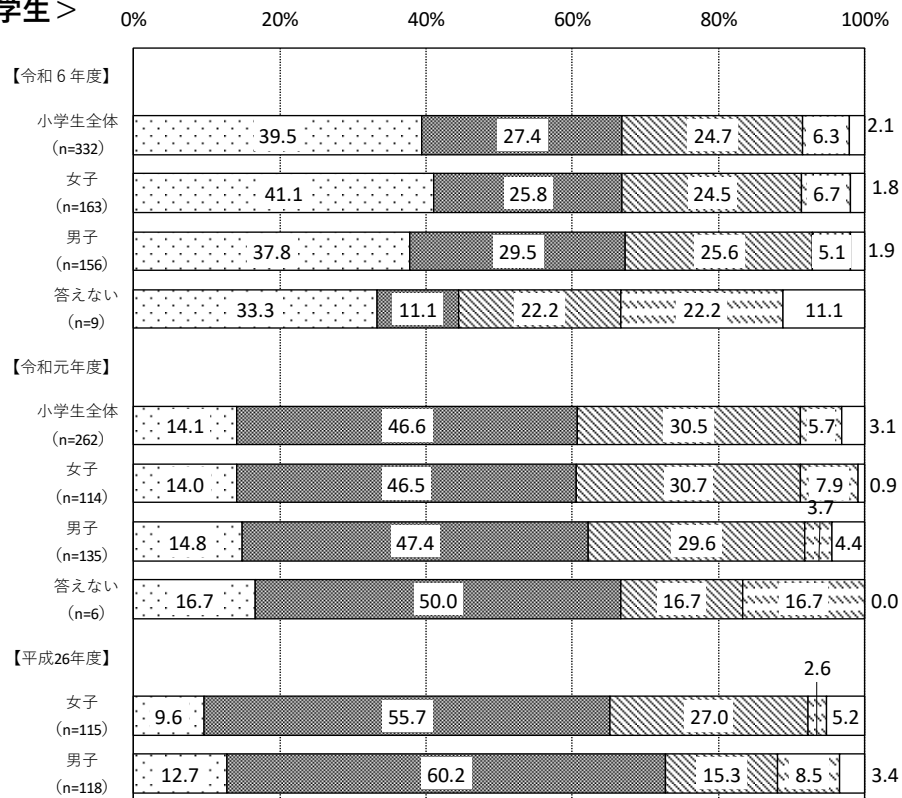
あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-3-9 「男は〇〇」「女は〇〇」と言われたときの気持ち

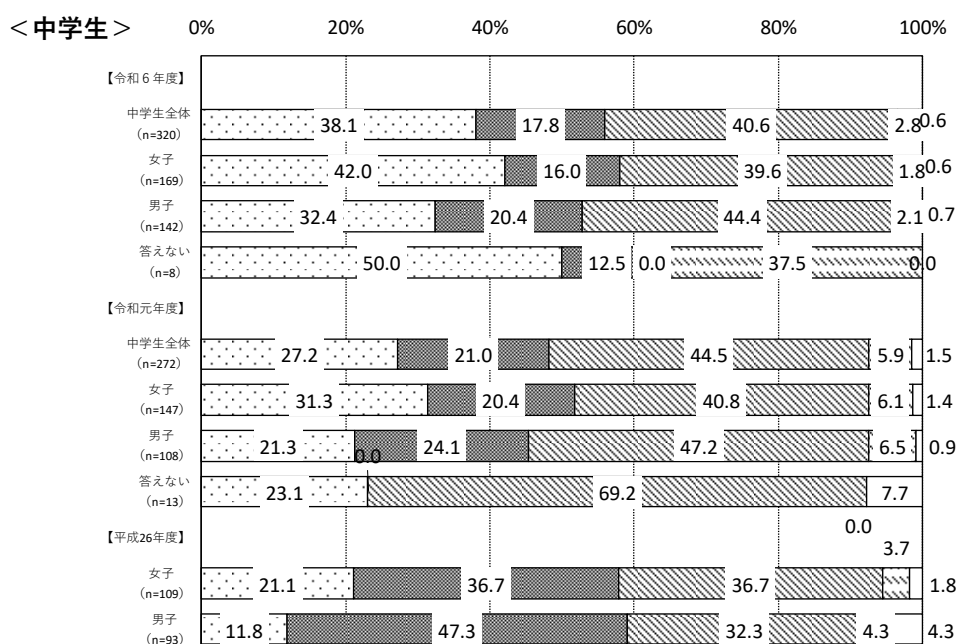
【小学生・中学生】【過去の調査との比較】

いやな 気持ちが した	その通り だと思った	何とも思わ なかった	その他	無回答

< 小学生 >



いやな 気持ちが した	その通り だと思った	何とも思わ なかった	その他	無回答



【「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ちは、小学生は「いやな気持ちがした」中学生は「何とも思わなかった」が最多】

「男は○○」「女は○○」と言われたときの気持ちについて男女別でみると、小学生では「いやな気持ちがした」（小学生女子 41.1%、小学生男子 37.8%）の割合が最も高く、中学生では女子は「いやな気持ちがした」（42.0%）、男子は「何とも思わなかった」（44.4%）の割合が最も高くなっています

【過去調査との比較】

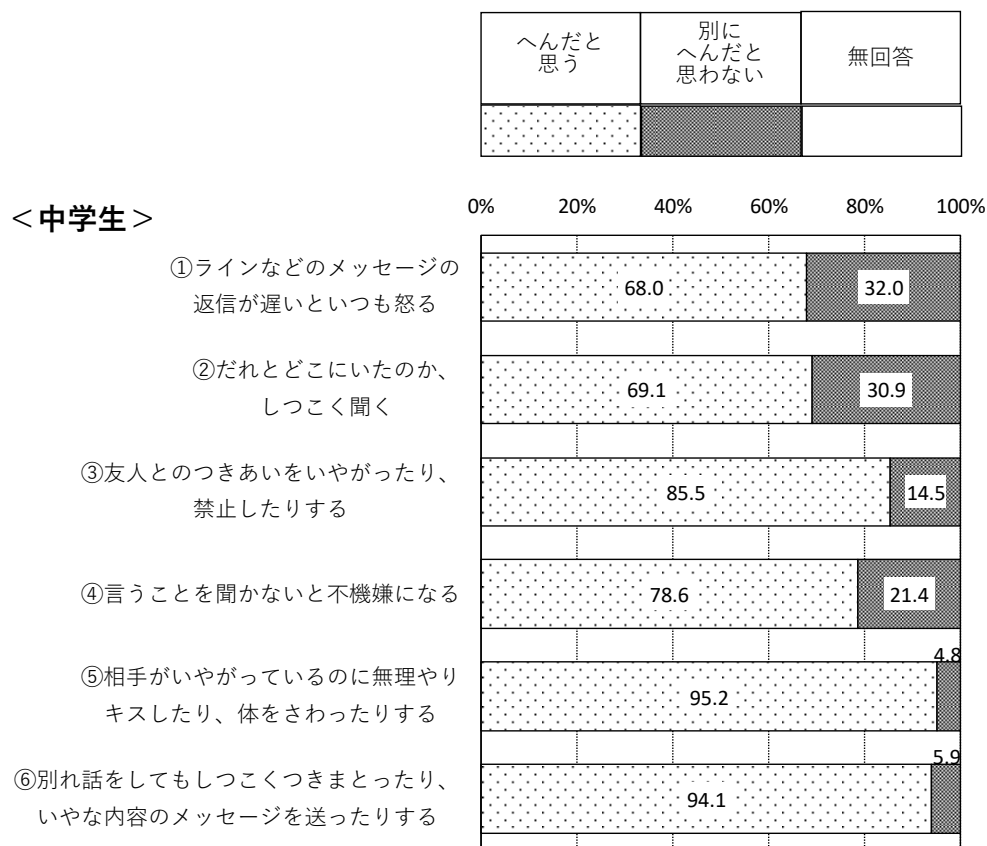
「いやな気持ちがした」割合は小学生、中学生ともに回を追うごとに増加しています。

(4)暴力・人権について

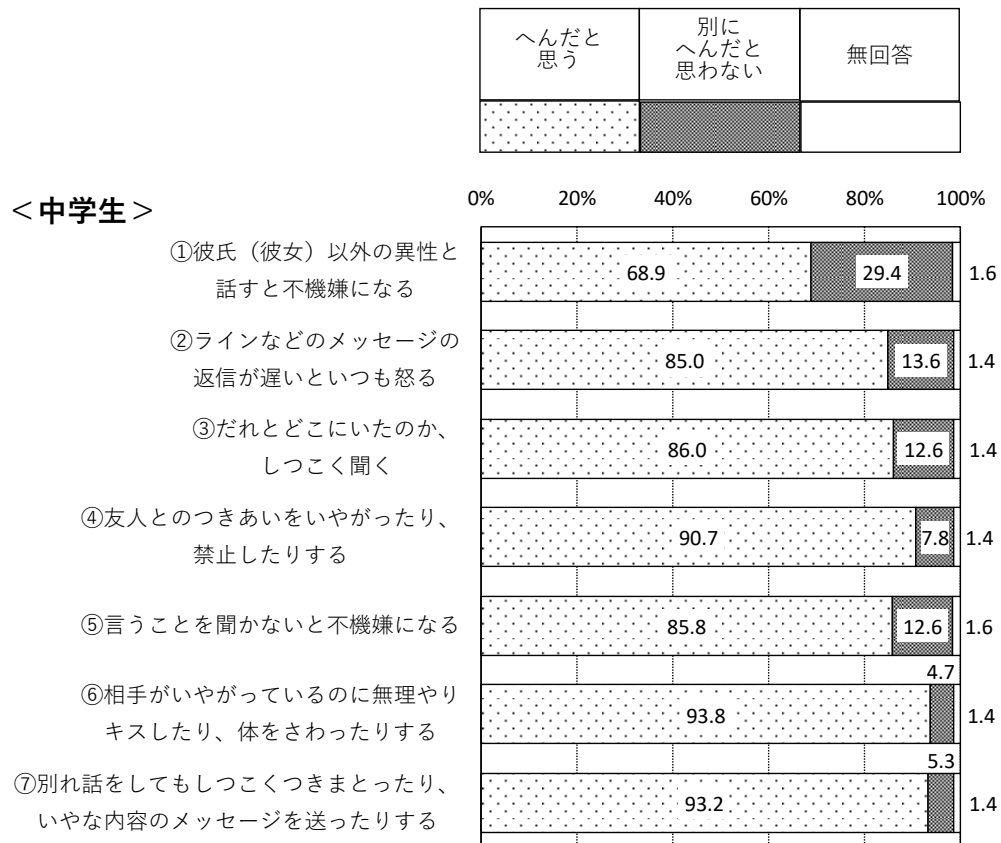
①男女交際の関係についてどう思うか<中学生>

あなたは、恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、その関係をどのように思いますか。

図表Ⅲ-3-4-1 「男女交際の関係についてどう思うか【中学生】【過去の調査との比較】
令和６年度



令和元年度



【「相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」と「別れ話をしてもしつこくつきまったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」をへんと思う中学生は 90%以上】

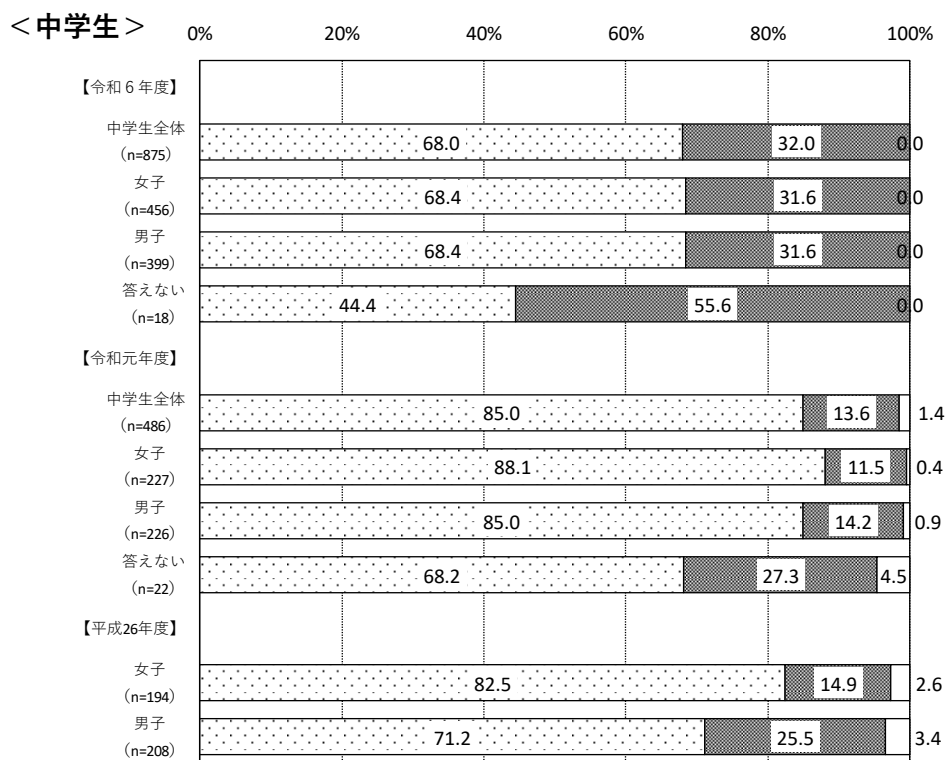
男女交際関係についてどう思うかについて「へんだと思う」と回答した割合は、「⑤相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」が 95.2%で最も高く、次いで「⑥別れ話をしてもしつこくつきまったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」が 94.1%、「③友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」が 85.5%と続いており、各項目とも男女別で大きな差は見られません。

【過去調査との比較】

「ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る」「だれとどこにいたのか、しつこく聞く」「友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」「言うことを聞かないと不機嫌になる」にて、「へんだと思う」割合が低下しています。

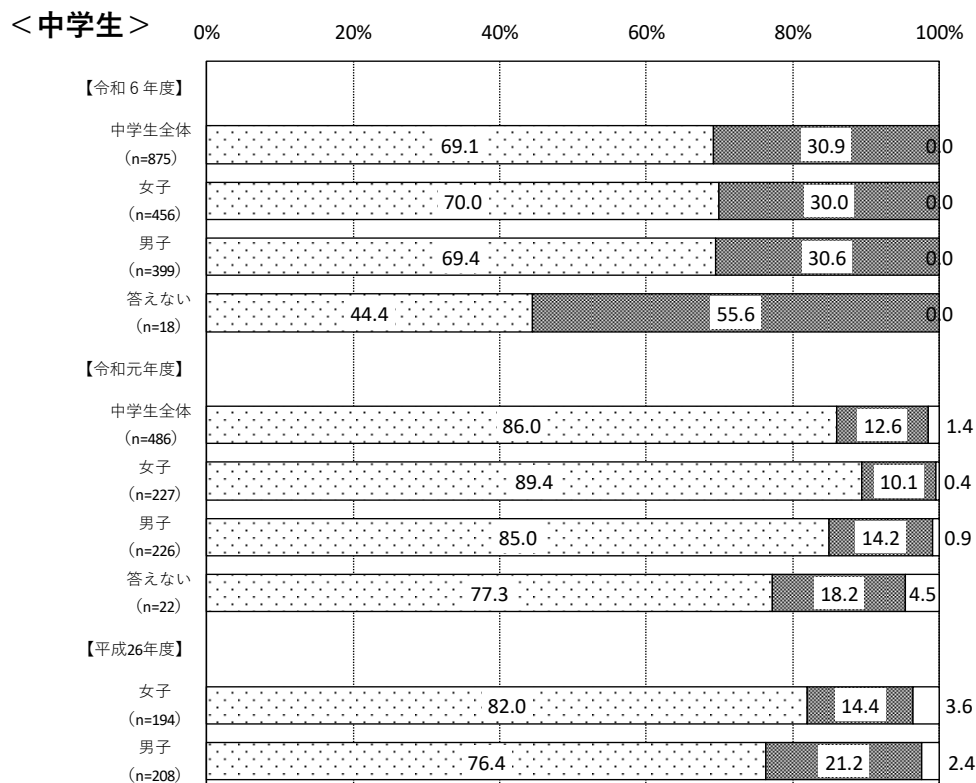
図表Ⅲ-3-4-2 ①ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答



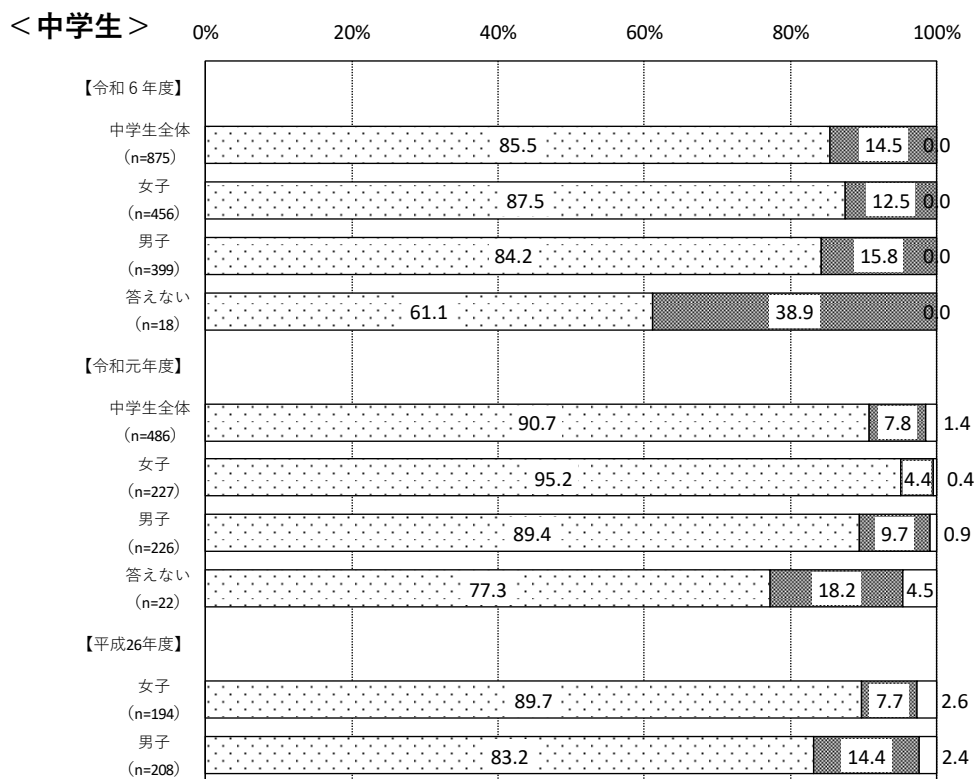
図表Ⅲ-3-4-3 ②だれとどこにいたのか、しつこく聞く【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答



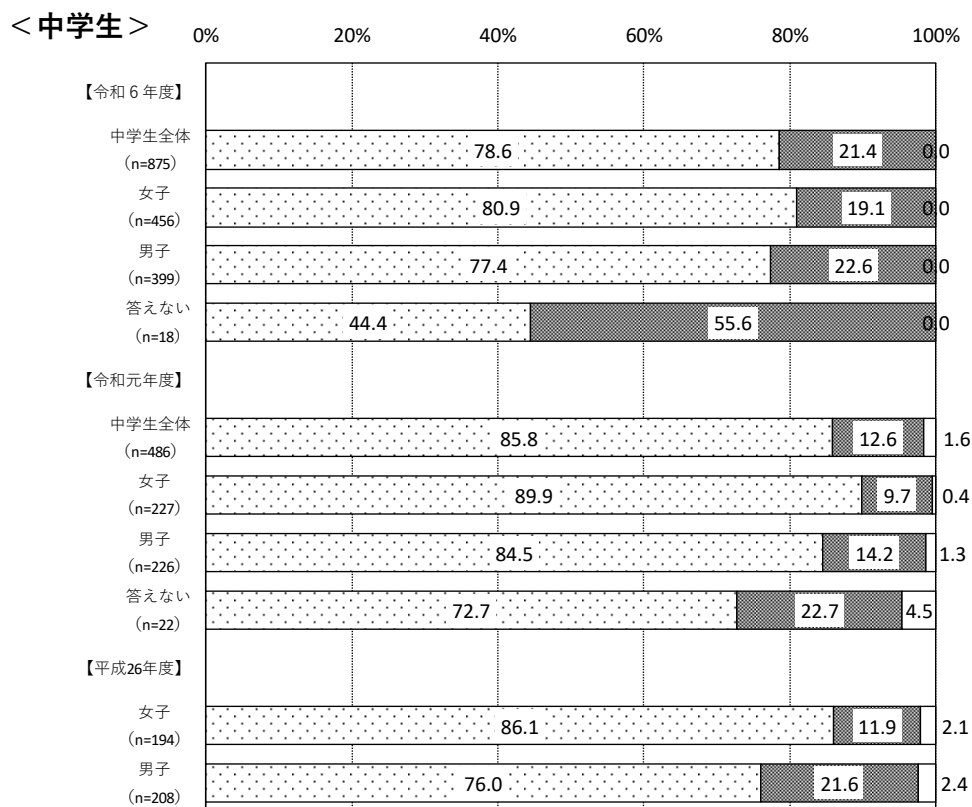
図表Ⅲ-3-4-4 ③友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答



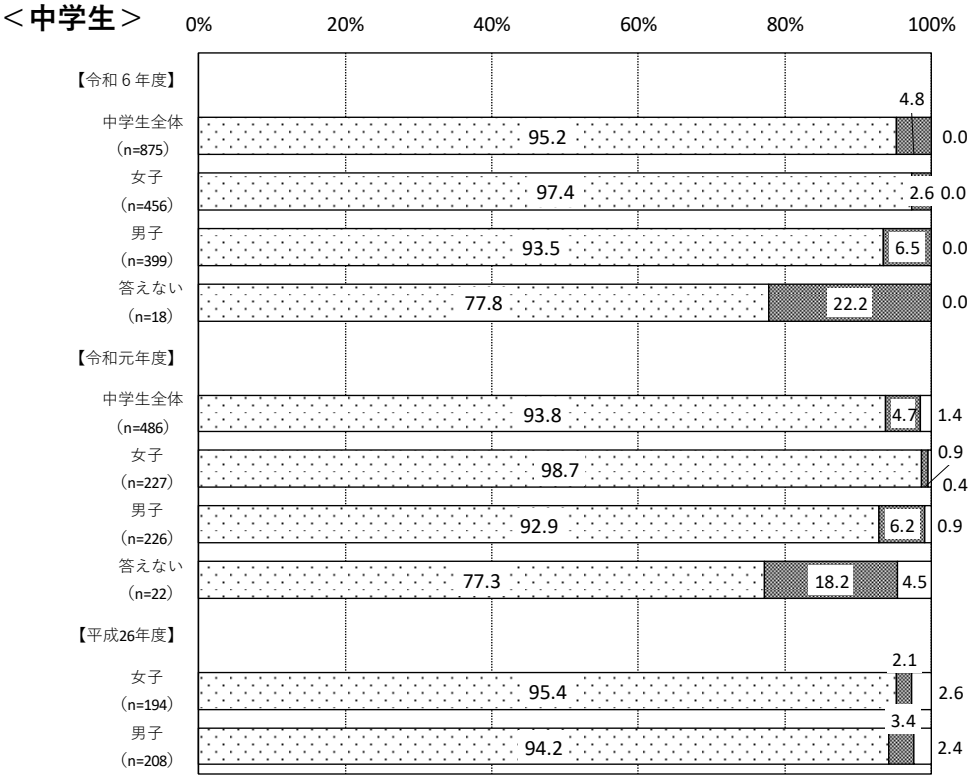
図表Ⅲ-3-4-5 ④言うことを聞かないと不機嫌になる【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答



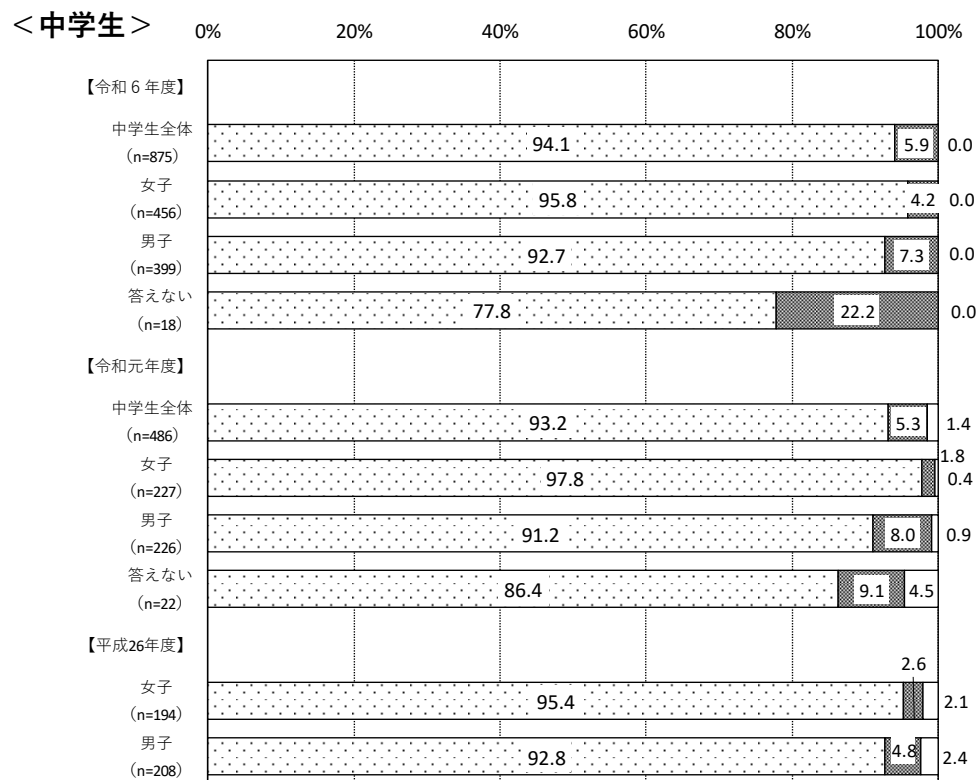
図表Ⅲ-3-4-6 ⑤相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする
【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答



図表Ⅲ-3-4-7 ⑥別れ話をしてもしつこくつきまったり、いやな内容のメッセージを送ったりする
【中学生】【過去の調査との比較】

へんだと思う	別にへんだと思わない	無回答

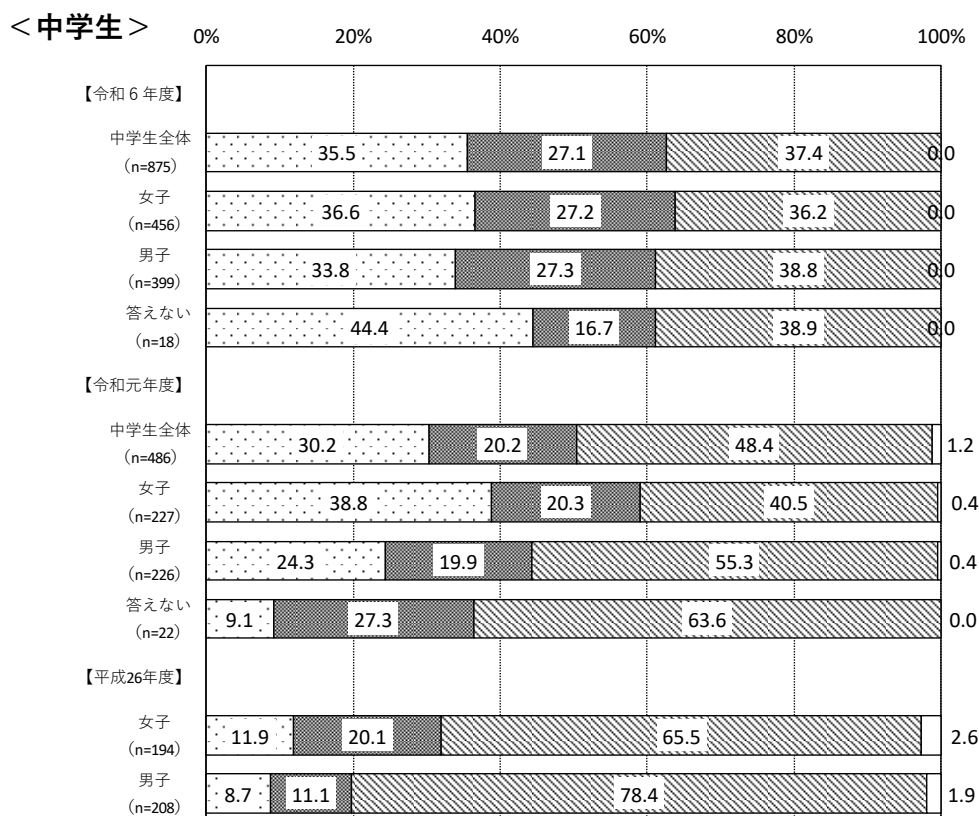


②デート DV の認知度＜中学生＞

恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-4-8 デートDVの認知度【中学生】【過去の調査との比較】

知っている	聞いたことがある	知らない	無回答



【デートDVの認知度は35.5%】

デートDVの認知度について全体でみると、「知っている」と回答したのは、中学生女子 36.6%、中学生男子 33.8%となっています。

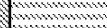
【過去調査との比較】

デートDVを「知っている」割合はおおむね回を追うごとに増加しています。

③生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいか

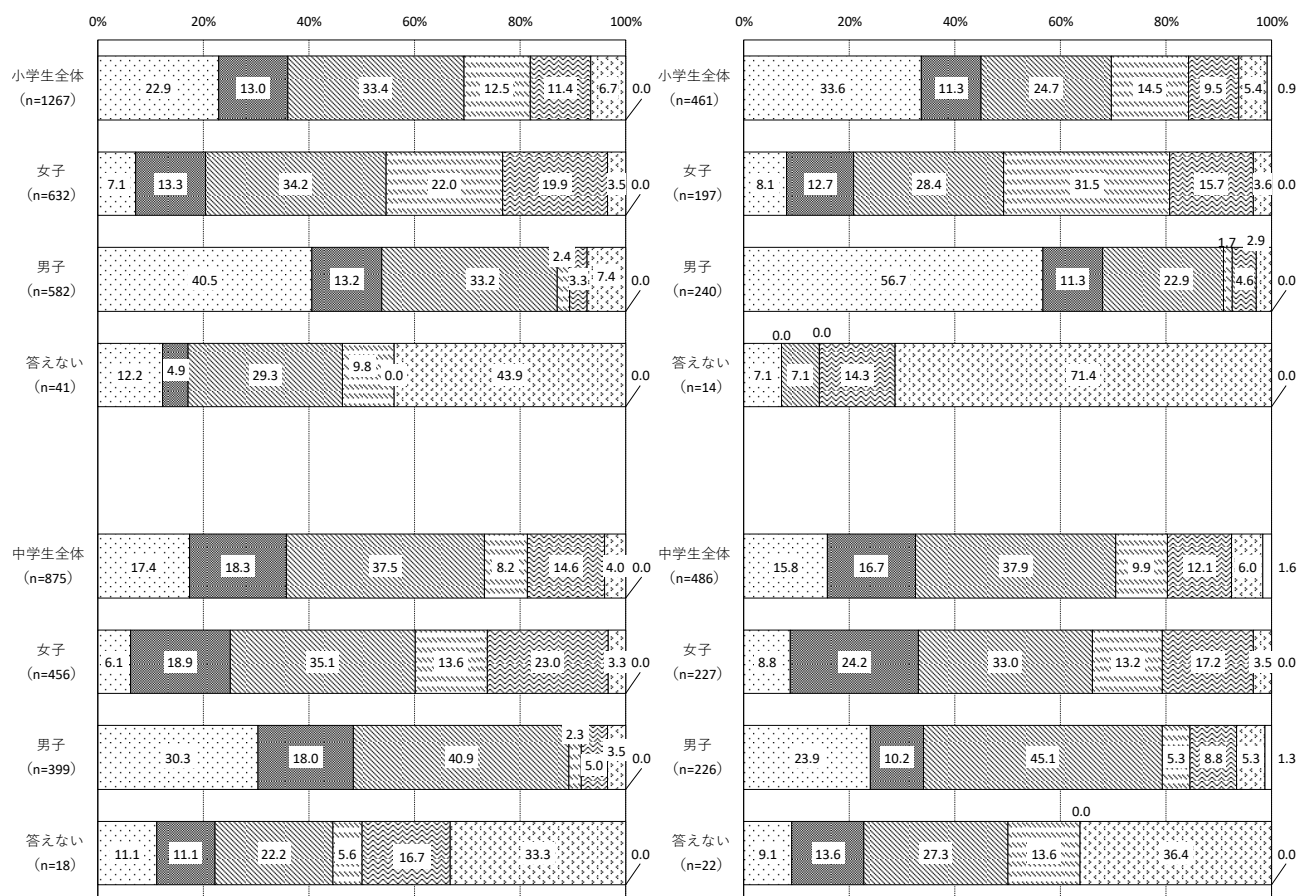
あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。（1つ選んでください）

図表Ⅲ-3-4-9 生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいか【中学生】【過去の調査との比較】

男子派			女子派			
ぜったい男子	どちらか といえば 男子	どちら でもよい	ぜったい 女子	どちらか といえば 女子	答えない	無回答
						

<令和6年度>

<令和元年度>



【生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいかは、同性派が多数】

生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいかについて、『男子派（『ぜったい男子』と『どちらかといえば男子』の合計）』と『女子派（『ぜったい女子』と『どちらかといえば女子』の合計）』を比べた場合、いずれの年代でも女子は「女子派」が多く、小学生は女子派 41.9%、男子派 20.4%、中学生は女子派 36.6%、男子派 25.0%となっています。

男子は「男子派」が多く小学生は男子派 53.7%、女子派 5.7%、中学生は男子派 48.3%、女子派 7.3%となっています。

【過去調査との比較】

生まれ変わっても同性がよいという傾向は前回と変わりません。

【主な理由】

<小学生>

「女子」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

- ☐ シャンプーが楽だから
- ☐ 男子の方が色々気楽で女子だと色々男子に遠慮されてしまったりするから。
- ☐ 男の人の方が強いから
- ☐ 楽そうだから
- ☐ 女子は今経験してるから
- ☐ 女の子の日が来ないから
- ☐ もともと、男になりたかったから
- ☐ 女子だったら武器が悪口だけど男子はあんまり悪口を言わずにすぐ仲直りできると思ったから
- ☐ 女らしくしなさいと言われるのが嫌だ
- ☐ 「女の子だから〇〇しなさい」が鬱陶しいから。
- ☐ 生理がないから
- ☐ 男子は、髪が短くてお風呂が楽そう。

「2. どちらかといえば男子」と思う理由

- ☐ おじいちゃんに差別を受けないから
- ☐ 今は女子で、男子とかの気持ちとかがわからないから
- ☐ かっこいいが好きだから
- ☐ 男の子の方が戦いごっこや木登りとかをしやすいから。
- ☐ 同じだとつままないから。
- ☐ 男子の生活が気になり男子を選びました。
- ☐ 男子は、子供を産まなくていいから
- ☐ 女の子でもいいけど母に女の子は弱いから男の子にたよりなさいといわれて男の子になりたいと思いました。
- ☐ 今は女子だけど、男子になって変化を感じてみたい
- ☐ 男子は野球選手になれるからです。
- ☐ 妊娠とかが怖い、連れ去られやすいとよく言われるから怖い、女子の友情関係より男子の方が緩いから

「3. どちらでもよい」と思う理由

- ☐ どちらでも良いことも悪いこともないから
- ☐ 女子でも男子でも楽しいと思うから
- ☐ 男子でも女子でもいいところもあるから、わからないって意味でどちらでも良いと書いた。
- ☐ 人生楽しければ性別は関係ないから

○どちらでも命は、あるから。

「4. ぜったい女子」と思う理由

- おしゃれできるし、出産とか男性にできないことがたくさんあって面白いから。
- おしゃれができるから。
- かわいいと言われるのがうれしいから
- 赤ちゃんを産んでみたいから
- 女子はメイクや可愛いおしゃれができるからです。
- 自分の趣味が女の子みたいだから
- 女子だったら可愛い服を着れるから
- 自分の中で、男子は運動が得意なイメージですが、私はそんなに運動は得意ではないので、もし男子になったら差別されそうなので、男子はあんまり好きではないからです。あと、私のクラスメイトの中で男子で仲良くできそうな人はいないからです。

「5. どちらかといえば女子」と思う理由

- 怒られてばかりだから
- 今もう経験しているし、平均寿命が男子よりも長いから
- 今のままがいいけど、男子も羨ましい時がある
- 髪の毛をセットしたりするのが楽しいから
- 女子の方が慣れているから

「6. 答えない」と思う理由

- はずかしいからです。
- 女子は女子で辛いことがあるし、男子は男子で辛いことがある。男女差別があるから、正直、どちらでも良い。

「男子」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

- 今も男子だから。
- 男の方が運動できるし男の友達しかいないから
- 男なら体力があるから
- 男子が気に入っているから
- サッカー選手といえば、男の人だと思うから。
- 女の子は、生理とか出産で辛いことがあるから。
- 色んなスポーツしたいから
- また同じ事をしたからです。

「2. どちらかといえば男子」と思う理由

- 今男子であって楽しいから

○今、男子だから、「女子になる」みたいなことが想像しにくい

「3. どちらでもよい」と思う理由

○男子でも女子でも人間は人間だし、どちらかの性別になったらなったでその性別に合わせた生き方などをすれば楽しく楽しく生活することができると考えたからです。

○どちらでも変わらないと思ったから

○どちらでも幸せそうに人生歩めそうだから。

○性別で差別をされない世界にしたいから。

「4. ぜったい女子」と思う理由

○女子の体が好きだから

○女子の方が、優しくて賢いから。

○女子の方が有利な社会だからです。

「5. どちらかといえば女子」と思う理由

○男だから次は女になりたい

○女子の気持ち考えろと言われて分からないからなっってわかりたい。

「6. 答えない」と思う理由

○教えたくない

「女子/男子では答えられない」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

○女子は陰口も多いしぶりっ子だと言われるから、男子がいい

○女子は信用できない子や、友達じゃない子がいて馴染めづらいけど、男子は仲がいい子がいたり、サッパリしていて友達関係も良さそうだし運動もできそうだから。

「答えない」の意見

「3. どちらでもよい」と思う理由

○同じ人間だから

○どっちも長所と短所があるから

「4. ぜったい女子」と思う理由

○いろんな髪型できてズボンもスカートも履けるから

<中学生>

「女子」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

○男子の方がどんな行動をしても怒られるだけで済むと思ったから。

- ウェーイってずっと言われるし、もっと他の人と話せると思うから
- 違う性別の方も体験してみたいから
- 生理がしんどいから
- 女の子には生理だったり大変なことがたくさんあるから男の子も同じように大変な事があるのか興味がある
- 女の子はめんどくさいから
- 人間関係があっさりしてそうだから
- 女子のノリについていけない
- 男子目線で女子を見たい

「2. どちらかといえば男子」と思う理由

- 男子目線の事を知りたい。
- 友達関係楽そう
- 今の自分と違う生き方をしてみたい。男子ならではの経験を行ってみたい
- ずっとズボンでも周りから気にされることないから
- 女は闇が深い。男の方が友達作りやすそう

「3. どちらでもよい」と思う理由

- 女の子として友達ときゃはきゃは言ったりとかイケメンにきゃーきゃー言いたいし髪型とかも気にしたいけど、男の子として女の子と関わってみたい。
- どちらでも良いから
- 女の子にも男の子にも良いところ、悪いところがあるから。 それに性別が関係なく恋愛ができるようにしたいから。
- できれば動物に産まれたいから

「4. ぜったい女子」と思う理由

- もう一回自分をやり直したい
- 女の子は綺麗だから
- 女の子だと、自分の好みの洋服やメイクなどおしゃれがたくさんできるし楽しいから。
- 友達と恋バナをしたり、母とショッピングに行ったり、メイクやファッションにこだわったりなどとても楽しいから。
- 流行りとか女子のコーデの方が多いし楽しいから
- 子供を産みたいから
- 可愛い服が着れるから。

「5. どちらかといえば女子」と思う理由

- 楽しいから
- おしゃれやメイクを楽しんだりできるし、友達と遊んだり、話したりするのはとても楽しいから。

「6. 答えない」と思う理由

- こういうのを答えてしまうと偏見などがうまれてしまうからです。
- 犬がいい
- どちらにもいいことはあるから。

「男子」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

- 男子の人生を送って来て楽しかったから
- たくましく生きれるから
- 気を遣わなくていいから
- 男子は別に成長している時でも気にすることがないから。
- 女子はなんか大変そう
- 私は男子
- 男子の方がワイワイしててめっちゃ楽しいから
- 今男子だからこの生活がいいと思ったし、女子より男子の方が外で遊ぶ友達が多いと思ったから。
- 女子の方がいざこざが多いと思ったから男子の方は暴力は多いのかなと思ったけど普通にすればそんなことはないと思うから
- 女子はメイクとかがめんどくさそうだから
- スポーツとか好きなことがしやすいから。

「2. どちらかといえば男子」と思う理由

- スポーツが好きだから男子の方がスポーツ向きな体
- しょうもないものにも楽しく話してくれるから。運動神経が女子よりも高いことが多いから。
- 女子だからという理由でやりたいことができないのは嫌だし、男子の方がなにかと楽だから

「3. どちらでもよい」と思う理由

- 互いにメリット・デメリットがあるから
- どっちでも苦労があると思うから
- （身体的に）男でも女でも良いところがあると思うし、社会的に差別がなくなってきているから。
- 両方楽しそうやん

「4. ぜったい女子」と思う理由

- 可愛い服着たい

「5. どちらかといえば女子」と思う理由

- 男子になったから女子になってみたい
- かわいいから
- 今男子なので、女子の生活はどのようなものか気になるから

「6. 答えない」と思う理由

○説明するのがめんどくさい

「女子/男子では答えられない」の意見

「1. ぜったい男子」と思う理由

○男に憧れたり、一人称や服装を良く気にしてしまうことが増えたから

「答えない」の意見

「2. どちらかといえば男子」と思う理由

○男子は暴れる仲間が居る

「3. どちらでもよい」と思う理由

○どちらも素敵な命

「5. どちらかといえば女子」と思う理由

○人生をやり直したいから

「6. 答えない」と思う理由

○迷う

(5)将来について

①将来つきたい仕事

あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。（3つまで選んでください）

図表Ⅲ-3-5-1 将来つきたい仕事【小学生・中学生】

単位：構成比（％）

	小学生				中学生			
	女子 (n=632)	男子 (n=582)	女子／男子で は答えられな い (n=12)	答えない (n=41)	女子 (n=456)	男子 (n=399)	女子／男子 では答えら れない(n=2)	答えない (n=18)
自動車・機械などのエンジニア	0.6%	3.8%	0.0%	0.0%	0.2%	3.8%	50.0%	0.0%
コンピューター関係の仕事	1.7%	5.0%	0.0%	2.4%	1.5%	3.8%	0.0%	0.0%
建設業・大工など	2.4%	6.5%	0.0%	0.0%	1.1%	3.0%	50.0%	0.0%
宇宙飛行士	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
パイロット	0.2%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%
客室乗務員（キャビンアテンダント）	1.3%	0.7%	0.0%	0.0%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%
自動車・電車・船の運転手	0.5%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
動物の訓練士・飼育員	2.8%	2.6%	0.0%	4.9%	2.2%	2.3%	0.0%	0.0%
農業・漁業・林業の分野で働く人	0.2%	3.4%	8.3%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%
消防士・レスキュー隊員	0.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.4%	2.8%	0.0%	0.0%
自営業	0.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.0%	0.0%
医者	7.8%	4.3%	0.0%	7.3%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%
看護師・理学療法士など病院で働く人	11.1%	0.5%	0.0%	7.3%	14.0%	2.5%	0.0%	5.6%
薬剤師	2.1%	0.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.8%	0.0%	0.0%
獣医	2.4%	0.5%	8.3%	0.0%	1.8%	0.8%	0.0%	0.0%
介護福祉など福祉施設で働く人	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%
シェフ・調理師	3.5%	4.8%	0.0%	4.9%	1.8%	4.5%	0.0%	0.0%
パティシエ・パン職人	12.8%	3.4%	8.3%	12.2%	4.6%	2.0%	0.0%	0.0%
美容師・理容師	9.5%	1.0%	0.0%	2.4%	7.9%	1.3%	0.0%	5.6%
学校の先生	9.3%	7.9%	8.3%	0.0%	8.3%	7.3%	0.0%	0.0%
保育所（園）・幼稚園の先生	10.4%	1.9%	0.0%	4.9%	13.6%	2.8%	0.0%	5.6%
研究者・銀行員	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%	3.0%	0.0%	0.0%
スポーツ・スポーツ関連	8.2%	31.1%	25.0%	12.2%	6.6%	22.1%	50.0%	0.0%
通訳・翻訳家	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%
公務員	0.8%	1.7%	0.0%	2.4%	1.3%	4.0%	0.0%	0.0%
警察官・刑事・警備・自衛隊	2.2%	5.8%	0.0%	2.4%	1.8%	2.5%	0.0%	5.6%
弁護士・検察官・裁判官	2.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.4%	1.0%	0.0%	0.0%
政治家	0.5%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
新聞記者・雑誌編集	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.3%	0.0%	0.0%
アナウンサー・レポーター・テレビ関 連	0.8%	0.9%	0.0%	2.4%	1.3%	1.3%	0.0%	5.6%
画家・デザイナー	4.4%	1.7%	0.0%	0.0%	5.3%	1.5%	0.0%	5.6%
ピアニストなどの音楽家	1.4%	0.3%	0.0%	4.9%	3.1%	0.3%	0.0%	5.6%
バレエダンサーなどの音楽家	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.5%	0.0%	0.0%
作家	1.9%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.5%	0.0%	11.1%
マンガ家・イラストレーター	5.9%	1.5%	8.3%	4.9%	5.3%	1.5%	0.0%	5.6%
歌手・俳優・タレント	11.2%	3.3%	8.3%	12.2%	5.0%	3.3%	50.0%	16.7%
Youtuber・Vtuber	7.0%	9.6%	0.0%	2.4%	0.7%	1.8%	50.0%	5.6%
ゲーム実況者・プロゲーマー	0.6%	6.5%	0.0%	2.4%	0.7%	8.5%	0.0%	11.1%
アルバイト	1.3%	2.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	50.0%	5.6%
会社員	6.6%	17.9%	0.0%	2.4%	5.9%	10.5%	0.0%	5.6%
美容関連	4.7%	0.0%	0.0%	2.4%	5.5%	0.3%	0.0%	5.6%
アミューズメントパーク関連	2.8%	0.7%	0.0%	4.9%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
動物関連	8.9%	2.2%	8.3%	4.9%	7.7%	2.8%	0.0%	5.6%
植物関連	0.2%	0.3%	0.0%	2.4%	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%
研究職	1.6%	3.6%	0.0%	2.4%	0.4%	1.3%	0.0%	0.0%
接客業	7.4%	6.2%	0.0%	0.0%	7.0%	3.3%	0.0%	5.6%
飲食業	7.4%	7.0%	0.0%	4.9%	4.6%	3.3%	0.0%	0.0%
その他	16.3%	15.3%	25.0%	26.8%	28.3%	26.8%	0.0%	44.4%
わからない・まだ考えていない	6.3%	6.2%	8.3%	7.3%	1.5%	1.0%	0.0%	0.0%
無回答	9.0%	9.5%	8.3%	22.0%	16.0%	23.1%	0.0%	22.2%

【将来つきたい仕事は女子は小学生「パティシエ・パン職人」、中学生「看護師・理学療法士など病院で働く人」、男子は小中学生ともに「スポーツ・スポーツ関連」が最多】

将来つきたい仕事について小学生の女子は「パティシエ・パン職人」が 12.8%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 31.1%が多く、中学生では女子が「看護師・理学療法士など病院で働く人」が 14.0%、男子は「スポーツ・スポーツ関連」が 22.1%となりました。

「その他」の意見（主な回答）

<小学生・女子>

- かんたんな仕事
- みんなや社会に役立つ仕事
- 人のために働ける仕事

<小学生・男子>

- 自分にやりがいがある仕事
- お金が稼げる仕事
- 社会に役立つ仕事
- 人との関わりが多い仕事

<中学生・女子>

- 人と関わる仕事
- 人を笑顔にできる仕事
- ホワイト企業な仕事
- 楽しいと思える仕事
- 海外の仕事

<中学生・男子>

- 楽な仕事
- 自分が楽しいと思える仕事
- 投資家
- 休みが週に 2 日以上ある仕事
- 人の役に立つ仕事
- 海に関する仕事

図表Ⅲ-3-5-2 将来つきたい仕事【小学生・中学生】
「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか

単位：構成比（％）

	小学生				中学生			
	女子 (n=282)		男子 (n=254)		女子 (n=152)		男子 (n=134)	
「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか	よく言われる (n=45)	全く言われない (n=237)	よく言われる (n=51)	全く言われない (n=203)	よく言われる (n=43)	全く言われない (n=109)	よく言われる (n=39)	全く言われない (n=95)
自動車・機械などのエンジニア	0.0%	0.8%	3.9%	3.0%	0.0%	0.0%	5.1%	1.1%
コンピューター関係の仕事	0.0%	1.7%	0.0%	7.9%	2.3%	1.8%	0.0%	5.3%
建設業・大工など	0.0%	3.4%	5.9%	5.4%	0.0%	0.9%	2.6%	4.2%
宇宙飛行士	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
パイロット	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
客室乗務員（キャビンアテンダント）	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%	2.3%	0.9%	0.0%	0.0%
自動車・電車・船の運転手	0.0%	1.3%	2.0%	4.4%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%
動物の訓練士・飼育員	4.4%	2.1%	0.0%	0.0%	4.7%	4.6%	2.6%	2.1%
農業・漁業・林業の分野で働く人	0.0%	0.4%	0.0%	4.9%	0.0%	0.0%	5.1%	2.1%
消防士・レスキュー隊員	0.0%	0.8%	2.0%	2.0%	0.0%	0.9%	5.1%	3.2%
自営業	0.0%	1.7%	5.9%	1.5%	2.3%	0.9%	0.0%	1.1%
医者	8.9%	8.0%	5.9%	3.4%	7.0%	8.3%	5.1%	6.3%
看護師・理学療法士など病院で働く人	11.1%	11.0%	0.0%	1.5%	16.3%	14.7%	0.0%	3.2%
薬剤師	4.4%	1.7%	0.0%	0.5%	2.3%	2.8%	0.0%	1.1%
獣医	4.4%	4.2%	0.0%	0.5%	0.0%	0.9%	2.6%	1.1%
介護福祉など福祉施設で働く人	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	4.7%	0.9%	0.0%	0.0%
シェフ・調理師	2.2%	3.0%	7.8%	4.4%	0.0%	5.5%	7.7%	3.2%
パティシエ・パン職人	15.6%	13.1%	0.0%	2.5%	0.0%	8.3%	5.1%	2.1%
美容師・理容師	11.1%	9.7%	0.0%	1.0%	2.3%	11.0%	0.0%	3.2%
学校の先生	6.7%	11.4%	7.8%	7.4%	16.3%	4.6%	12.8%	5.3%
保育所（園）・幼稚園の先生	24.4%	9.7%	5.9%	0.5%	18.6%	11.9%	2.6%	3.2%
研究者・銀行員	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	2.3%	0.0%	0.0%	2.1%
スポーツ・スポーツ関連	6.7%	6.3%	31.4%	26.1%	7.0%	6.4%	28.2%	18.9%
通訳・翻訳家	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	2.3%	0.9%	2.6%	0.0%
公務員	0.0%	1.3%	0.0%	2.0%	0.0%	1.8%	0.0%	2.1%
警察官・刑事・警備・自衛隊	6.7%	2.1%	3.9%	7.9%	0.0%	1.8%	0.0%	3.2%
弁護士・検察官・裁判官	6.7%	3.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.9%	2.6%	0.0%
政治家	2.2%	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
新聞記者・雑誌編集	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.8%	0.0%	1.1%
アナウンサー・レポーター・テレビ関連	0.0%	1.3%	0.0%	1.5%	0.0%	2.8%	2.6%	0.0%
画家・デザイナー	2.2%	2.5%	0.0%	2.0%	4.7%	5.5%	0.0%	2.1%
ピアニストなどの音楽家	2.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%
バレエダンサーなどの音楽家	2.2%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.6%	0.0%
作家	2.2%	2.1%	0.0%	1.0%	2.3%	0.9%	2.6%	0.0%
マンガ家・イラストレーター	8.9%	5.1%	0.0%	2.0%	9.3%	5.5%	0.0%	2.1%
歌手・俳優・タレント	15.6%	13.1%	3.9%	2.0%	11.6%	1.8%	5.1%	2.1%
Youtuber・Vtuber	8.9%	6.8%	9.8%	10.8%	0.0%	0.0%	5.1%	2.1%
ゲーム実況者・プロゲーマー	2.2%	0.4%	13.7%	6.9%	0.0%	0.9%	7.7%	9.5%
アルバイト	2.2%	0.8%	5.9%	1.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
会社員	4.4%	5.1%	25.5%	18.7%	9.3%	8.3%	10.3%	9.5%
美容関連	4.4%	1.7%	0.0%	0.0%	2.3%	5.5%	0.0%	0.0%
アミューズメントパーク関連	0.0%	4.6%	0.0%	1.0%	4.7%	1.8%	0.0%	0.0%
動物関連	4.4%	13.1%	0.0%	3.0%	7.0%	4.6%	7.7%	2.1%
植物関連	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
研究職	4.4%	0.4%	2.0%	1.5%	2.3%	0.0%	0.0%	1.1%
接客業	6.7%	8.9%	9.8%	7.4%	7.0%	10.1%	2.6%	2.1%
飲食業	2.2%	9.3%	3.9%	8.9%	2.3%	4.6%	2.6%	3.2%
その他	28.9%	14.3%	13.7%	15.3%	27.9%	24.8%	25.6%	25.3%
わからない・まだ考えていない	4.4%	4.6%	11.8%	6.9%	0.0%	1.8%	2.6%	0.0%
無回答	6.7%	9.7%	11.8%	10.8%	16.3%	14.7%	15.4%	24.2%

【「男は〇〇」、「女は〇〇」と言われることが将来の職業選択に与える影響】

「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますかとの問いで「よく言われる」と「全く言われない」別に集計したら、小学生女子の「保育所（園）・幼稚園の先生」は「よく言われる」の割合が高く、「全く言われない」の差が大きくなりました。また中学生女子では「学校の先生」が「よく言われる」で高く、「全く言われない」との差が大きくなりました。

IV 調査票

1 一般

枚方市男女共同参画に関する市民アンケート調査

【調査票】

………ご記入にあたってのお願い………

- この調査は、枚方市にお住まいの満23歳以上の方から無作為に抽出した2,000人の方を対象に実施しています。ご回答内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外の目的には使用しません。また、個別に公表することはありません。お名前の記入は不要です。
- アンケートには宛名のご本人がお答えください。ご本人の記入が困難な方で、ご家族等が代筆可能な場合は代筆をお願いします。代筆が困難な場合は、人権政策課までご連絡ください。
- 回答は質問ごとに、あなたのお考えに近いものの番号に○をつけてください。複数選んでいただく場合もあります。「その他」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にご記入ください。
- 質問によって、回答できない場合または回答したくない場合は、その質問については飛ばして次の質問へお進みください。
- 質問の「結婚」「配偶者」「夫婦」には、「事実婚（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあること）」「パートナーシップ宣誓制度（参考資料参照）」を含みます。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

11月30日（土）までにご投函ください。

※Webで回答された場合は、調査票（この用紙）の記入及び返送は不要です。

ご回答いただいた方の中から抽選で100人にQUOカード（500円分）を差し上げます。ご希望の方は、別紙「枚方市男女共同参画に関する市民アンケート調査 ご協力をお願い」に住所・氏名を記入して調査票と一緒に送ってください。※Webで回答された場合は、Webでお申し込みください。

お忙しいところお手数をおかけしますが、
ご協力をお願いします。

〈お問い合わせ〉枚方市 市長公室 人権政策課
電話：072-841-1424（直通）
FAX：072-841-1700
メール：jinken@city.hirakata.osaka.jp

男女の平等感と役割分担についておたずねします。

	男性が 優遇されて いる	どちらか かといえ ば男性が 優遇され ている	平等で ある	どちらか かといえ ば女性が 優遇され ている	女性が 優遇され ている	わ か ら な い
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場の中で	1	2	3	4	5	6
(3) 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

1. 同感する
2. どちらかといえば同感する
3. どちらかといえば同感しない
4. 同感しない
5. わからない

問2-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

1. 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2. 家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから
3. 子どもの頃から、そうした教育をされているから
4. 女性は仕事を持っても不利な条件におかれているから
5. 夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
6. 社会全体にそうした風潮があるから
7. その他（ ）

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 同感する | 2. どちらかといえば同感する |
| 3. どちらかといえば同感しない | 4. 同感しない |
| 5. わからない | |

(問3で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に)

問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 子どもの健全な成長に必要だから |
| 2. 小さい子どもを人に預けるのは子どもがかわいそうだから |
| 3. 子どもを生んだ母親には育てる責任があるから |
| 4. 母親は面倒見がよく、子どもに対する愛情があるから |
| 5. 自分自身がそうした、そうされたから |
| 6. 自分自身がそうしなかった、そうされなかったから |
| 7. その他 (_____) |

問4 次の(1)～(14)の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。
(○は各項目に1つ)

	見たこと聞いたことがある	知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2
(2) 女子差別撤廃条約	1	2
(3) 男女雇用機会均等法	1	2
(4) 男女共同参画社会基本法	1	2
(5) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	1	2
(6) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	1	2
(7) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)	1	2
(8) 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援法)	1	2
(9) 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)	1	2
(10) デートDV	1	2
(11) ワーク・ライフ・バランス	1	2
(12) 枚方市男女共同参画推進条例	1	2
(13) 枚方市男女共生フロア・ウィル	1	2
(14) 枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」	1	2

※ それぞれの言葉の説明については、別紙参考資料をご覧ください。

家庭生活(子育て・介護)についておたずねします。

問5 あなたの家庭で主に家庭での仕事(家事、子育て、介護)をしているのは誰ですか。(○は1つ)

1. 本人(配偶者なし) 2. 本人(配偶者あり) 3. 配偶者 4. 母 5. 父
6. 祖母 7. 祖父 8. 姉又は妹 9. 兄又は弟 10. その他()

問6 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 取得した方がよい | 2. どちらかという取得した方がよい |
| 3. わからない・どちらともいえない | 4. どちらかという取得しない方がよい |
| 5. 取得しない方がよい | |

(問6で「4. どちらかという取得しない方がよい」「5.取得しない方がよい」とお答えの方に)

問6-1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

1. 育児に関する知識や情報が乏しいため
2. 仕事が忙しいため
3. 収入が減るため・昇進の機会を逃すため
4. 育児休業等の制度が不十分または利用しにくい
5. 仕事を辞めるようになってしまうため
6. まわりの人が育児休業を取得していないため
7. 子どもの世話は、女性の仕事のため
8. その他 ()

問7 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 取得した方がよい | 2. どちらかという取得した方がよい |
| 3. わからない・どちらともいえない | 4. どちらかという取得しない方がよい |
| 5. 取得しない方がよい | |

(問7で「4. どちらかという取得しない方がよい」「5.取得しない方がよい」とお答えの方に)

問7-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

1. 介護に関する知識や情報が乏しいため
2. 仕事が忙しいため
3. 収入が減るため・昇進の機会を逃すため
4. 介護休業等の制度が不十分または利用しにくい
5. 仕事を辞めるようになってしまうため
6. まわりの人が介護休業を取得していないため
7. 介護は、女性の仕事のため
8. その他 ()

職業生活についておたずねします。

仕事に従事している方、従事していた方におたずねします。(問8) (従事したことがない方は、問9へ)

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の(1)～(9)について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目に1つ)

	男性が 優遇 される	平等 である	女性が 優遇 される	わからない
(1) 募集・採用	1	2	3	4
(2) 賃金	1	2	3	4
(3) 業務(内容・責任)	1	2	3	4
(4) 昇進・昇格	1	2	3	4
(5) 管理職への登用	1	2	3	4
(6) 能力評価	1	2	3	4
(7) 研修(機会・内容)	1	2	3	4
(8) 働き続けやすさ	1	2	3	4
(9) 休暇の取得しやすさ(育児・介護休暇など)	1	2	3	4

全員におたずねします。

問9 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女で家事労働(育児・介護含む)を平等に分担する
2. 育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする
3. 保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする
4. ホームヘルパーや介護施設などを充実し、誰もが利用できるようにする
5. 労働時間の短縮を図る
6. 男女の雇用機会を均等にする
7. 職場での男女の昇進や賃金等の格差をなくす
8. パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる
9. 職場におけるハラスメント防止に努める
10. その他(具体的に_____)
11. わからない
12. すでに男女がともに働きやすい社会になっている

仕事と家庭などの関わりについておたずねします。

問 10 あなたが1日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。(○は1つずつ)

(1) 仕事（在宅就労を含む）	平日	休日
1. ほとんどない.....	1	1
2. 4時間未満.....	2	2
3. 4時間以上6時間未満.....	3	3
4. 6時間以上8時間未満.....	4	4
5. 8時間以上10時間未満.....	5	5
6. 10時間以上12時間未満.....	6	6
7. 12時間以上.....	7	7

(2) 家事（料理・洗濯・掃除・育児・介護など）	平日	休日
1. ほとんどない.....	1	1
2. 30分未満.....	2	2
3. 30分以上1時間未満.....	3	3
4. 1時間以上2時間未満.....	4	4
5. 2時間以上3時間未満.....	5	5
6. 3時間以上4時間未満.....	6	6
7. 4時間以上5時間未満.....	7	7
8. 5時間以上.....	8	8

暴力・人権についておたずねします。

問 11 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思えますか。(○は各項目に1つ)

	にど あんな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う 暴 力 に あ た る 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い
(1) 相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる	1	2	3
(2) 許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする	1	2	3
(3) 相手に頻繁に電話をかけ、居場所や会っている人のことを尋ねる	1	2	3
(4) 「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る	1	2	3
(5) 避妊に協力しない	1	2	3
(6) 相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う	1	2	3

交際相手のいる(いた)方におたずねします。(既婚者の方は交際当時の様子をお答え下さい。)

(交際相手がいない(いなかった)方は、問 13 へ)

問 12 あなたは、交際相手から、次の(1)～(3)のようなことをされたことがありますか。(○は各項目に1つ)

	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
(1) ながったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
(2) 人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた	1	2	3
(3) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

全員におたずねします。

問 13 配偶者間で次の(1)～(10)のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思えますか。(○は各項目に1つ)

	ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い
(1) 何を言っても無視する	1	2	3
(2) 大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする	1	2	3
(3) 大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	1	2	3
(4) 実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする	1	2	3
(5) 生活費を渡さない	1	2	3
(6) 相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する	1	2	3
(7) 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う	1	2	3
(8) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする	1	2	3
(9) 避妊に協力しない	1	2	3
(10) 相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う	1	2	3

配偶者がいる（いた）方におたずねします。（配偶者がいない（いなかった）方は、問16へ）
 問14 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（1）～（4）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に1つ）

	何 度 も あ っ た	1 ～ 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
(1) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
(2) 人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた	1	2	3
(3) 生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた	1	2	3
(4) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

問 12 または問 14 で「何度もあった」「1～2度あった」と答えた方におたずねします。

問 15 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）

1. 相談した

2. 相談しなかった（できなかった）

問 15 で1「相談した」と答えた方におたずねします

問 15-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）

1. 枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」
2. DV相談+（プラス）
3. 大阪府女性相談センター
4. 大阪府中央子ども家庭センター
5. 警察
6. 人権擁護委員・法務局
7. 市役所の相談窓口（1以外）
8. 民間のカウンセラー・カウンセリング機関
9. 弁護士・弁護士会
10. 医療関係者（医師・看護師など）
11. 学校関係者（教員・スクールカウンセラー・学生相談室等）
12. 家族・親戚
13. 友人・知人
14. その他（具体的に_____）

問 15 で2「相談しなかった（できなかった）」と答えた人におたずねします。

問 15-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1. どこに相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しをされると思ったから
5. 相談することによって不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 被害を受けたことを忘れたかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他（_____）

全員におたずねします。

問 16 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 1. 枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」 | |
| 2. DV相談+ (プラス) | 3. 大阪府女性相談センター |
| 4. 大阪府中央子ども家庭センター | 5. 警察 |
| 6. 人権擁護委員・法務局 | 7. 弁護士・弁護士会 |
| 8. 民間の相談機関 | 9. 教員・学生相談室 |
| 10. その他(具体的に_____) | 11. 1つも知らない |

問 17 配偶者・パートナーや恋人からの暴力(DV)に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げ出せるはず
2. 暴力をふるわれた人にも、何らかの原因があるので、暴力をふるう人を一方的には責められない
3. 暴力をふるうのは、アルコールや薬物のせいである
4. 暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である
5. DVは夫婦げんかがエスカレートしたものである
6. 暴力をふるわれて逃げ出さないのは、その暴力が耐えられる程度のものだからである
7. お互いに暴力をふるうこともあり、お互い様である
8. DVは夫婦(恋人)間のプライベートな問題なので、他人が介入しない方がよい
9. 子どもが生まれたら、徐々に暴力はおさまるものである
10. なぐったりするのは、愛情表現のひとつである
11. どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い
12. その他(具体的に_____)
13. わからない

問 18 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 地位や権限を利用して性的な関係を迫る
2. わざと身体にさわる
3. 性的な冗談や質問、卑わいな言葉をかける
4. 宴会などで、酌、デュエット、ダンスを強要する
5. 「結婚しないの?」や「子どもはまだ?」など、プライベートなことをたびたび聞く
6. 目につきやすいところにヌードポスターなどを貼る
7. 身体をじろじろ見たり、容姿のことをよく話題にしたりする
8. 「異性関係が派手だ」などと性的なうわさを流す
9. その他(具体的に_____)
10. されたこと、見聞きしたことはない

問 19 あなたは性的マイノリティ(LGBTQ等)という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 意味を知っている
2. 聞いたことはあるが、意味は知らない
3. 知らない

問 20 枚方市が行っているLGBTQ等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。(○はいくつでも)

1. パートナーシップ宣誓制度(平成31年4月より)
2. LGBTQ+電話相談(平成31年4月より)
3. LGBT啓発リーフレット「ありのままにじぶんらしく」
4. コミュニティスペース(令和元年7月より)
5. ひらかた・にじいろ宣言(性的マイノリティ支援宣言)
6. 6色の気球をデザインしたアライ(ally)ステッカー
7. その他(具体的に_____)
8. 1つも知らない

**令和6年4月に施行された困難な問題を抱える女性に関する法律に関して
おたずねします。**

問 21 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。(〇はいくつでも)

※「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性及びその他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む）をいいます。

- | | | | |
|--|-------------------------|------------------------|-------------------|
| 1. 早期発見のための普及啓発、アウトリーチ活動（若年女性等を対象とした夜間見回り、声かけ、街頭での啓発活動等） | 2. 電話相談や面談 | 3. メールによる相談 | 4. SNS による相談 |
| 5. 気軽に立ち寄れる居場所の提供 | 6. 学校や家庭、医療機関等との連携による支援 | 7. 就労支援や生活保護受給手続きなどの支援 | 8. その他（具体的に_____） |

あなたご自身についておたずねします。

a あなたの性別は。

- | | | | |
|-------|-------|------------------|---------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. 女性/男性では答えられない | 4. 答えない |
|-------|-------|------------------|---------|

※本調査は、男女共同参画や男女の平等に関する意識などを調査するため、性別をご回答いただいています。選択肢の「3. 女性/男性では答えられない」は、性の多様性を考慮したものです。戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観によりご記入ください。

b あなたの年齢は。(記入日の時点で)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 23～29 歳 | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 |
| 4. 50～59 歳 | 5. 60～69 歳 | 6. 70 歳以上 |

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。

- | | | |
|-----------|------------|--------------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない | 3. 結婚したが、離婚または死別した |
|-----------|------------|--------------------|

(次ページに続きます)

2. 若年

枚方市では、すべての市民が性別にかかわらず尊重され、個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、取り組みを進めています。そこで、若い皆さんの男女共同参画についての考え方やご意見を教えていただき、枚方市をより住みよい町にするために活かしたく、このたびアンケート調査を実施することにいたしました。ご協力をお願いします。・回答いただいた内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外の目的には使用しません。また、個別に公表することはありません。・アンケートには、ご本人がお答えください。・回答は質問ごとに、ご自身の考えに近いものを選択してください。複数選んでいただく場合もあります。「その他」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にご入力ください。

問1 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。

本人（配偶者なし）

本人（妻）

本人（夫）

母

父

祖母

祖父

姉又は妹

兄又は弟

その他

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。

同感する

どちらかといえば同感する

どちらかといえば同感しない

同感しない

わからない

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

同感する

どちらかといえば同感する

どちらかといえば同感しない

同感しない

わからない

問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職（経営者や組織の管理職）になりたいと思いますか。

なりたい

なりたくない

わからない

問5 恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。

（１）相手が自分の言う通りにしなければ、不機嫌になる

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

（２）許可なく、LINE などのメッセージの履歴をチェックしたりアドレスを消したりする

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

（３）頻繁に携帯で電話をかけて、居場所や会っている人のことを尋ねる

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

（４）「別れるなら自殺する」と LINE などのメッセージを送る

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

（５）相手が嫌がっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

（６）相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う

どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によと思う

暴力にあたるとは思わない

問6 あなたは「デート DV」という言葉を知っていますか。

知っている

聞いたことがある

知らない

恋人同士の間で起きる暴力のことを「デート DV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけでなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデート DV です。

問7 交際相手がいる（いた）方にお尋ねします。

交際相手がいる（いた）

交際相手がない（いなかった）…問8へ

あなたはこれまでに交際相手から次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか

（１）なぐったり、けったり、物をなげつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
何度もあった

１～２度あった

まったくない

（２）人格を否定するような暴言、交友関係を細かく監視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的な嫌がらせを受けた
何度もあった

１～２度あった

まったくない

（３）あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された
何度もあった

１～２度あった

まったくない

問8 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。

（１）何を言っても無視する
どんな場合でも暴力にあたると思う
状況によると思う
暴力にあたるとは思わない

（２）大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする
どんな場合でも暴力にあたると思う
状況によると思う
暴力にあたるとは思わない

（３）大切にしているえものを、わざと壊したり捨てたりする
どんな場合でも暴力にあたると思う
状況によると思う
暴力にあたるとは思わない

（４）実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする
どんな場合でも暴力にあたると思う
状況によると思う
暴力にあたるとは思わない

（５）生活費を渡さない
どんな場合でも暴力にあたると思う
状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

(6) 相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する。
どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

(7) 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う
どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

(8) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたり、ひきずりまわしたりする
どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

(9) 避妊に協力しない
どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

(10) 相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う
どんな場合でも暴力にあたると思う

状況によると思う

暴力にあたるとは思わない

問9 配偶者がいる（いた）方にお尋ねします。

配偶者がいる（いた）

配偶者がいない（いなかった）…問10へ

あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（1）～（4）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別、死別した相手）も含みます。

（1）なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
何度もあった

1～2度あった

まったくない

（2）人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的な嫌がらせを受けた
何度もあった

1～2度あった

まったくない

（3）生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた
何度もあった

1～2度あった

まったくない

(4) あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された

何度もあった

1～2度あった

まったくない

問 10 あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。

(問7または問9で「何度もあった」「1～2度あった」と答えた方にお尋ねします)

相談した

相談しなかった（できなかった）

問 11-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。

(問10で「相談した」と答えた方にお尋ねします)

枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかた DV 相談室」

DV 相談+（プラス）

大阪府女性相談センター

大阪府中央子ども家庭センター

警察

人権擁護委員・法務局

市役所の相談窓口（「ひらかた DV 相談室」以外）

民間のカウンセラー・カウンセリング機関

弁護士・弁護士会

医療関係者（医師・看護師など）

学校関係者（教員・スクールカウンセラー・学生相談室等）

家族・親戚

友人・知人

その他

問 11-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

(問10で「相談しなかった（できなかった）」と答えた人にお尋ねします)

どこに相談してよいかわからなかったから

恥ずかしかったから

相談しても無駄だと思ったから

相談したことがわかると仕返しをされると思ったから

相談することによって不快な思いをすと思ったから

自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから

世間体が悪いから

他人を巻き込みたくなかったから

被害を受けたことを忘れたかったから

自分にも悪いところがあると思ったから
相談するほどのことではないと思ったから
その他

問 12 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力をうけているとしたら、あなたはどの窓口相談することをすすめますか。

枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかた DV 相談室」
DV 相談+（プラス）
大阪府女性相談センター
大阪府中央子ども家庭センター
警察
人権擁護委員・法務局
弁護士・弁護士会
民間の相談機関
教員・学生相談室
その他

問 13 配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。

暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げだせるはず
暴力をふるわれた人にも、何らかの原因があるので、暴力をふるう人を一方的には責められない
暴力をふるうのは、アルコールや薬物のせいである
暴力をふるう人は、普通から他の人たちに対しても暴力的である
DV は夫婦げんかがエスカレートしたものである
暴力をふるわれて逃げ出さないのは、その暴力が耐えられる程度のものだからである
お互いに暴力を振るうこともあり、徐々に暴力はおさまるものである
DV は夫婦（恋人）間のプライベートな問題なので、他人が介入しない方がよい
子どもが生まれたら、徐々に暴力はおさまるものである
なぐったりするのは、愛情表現のひとつである
どんな理由があろうと暴力を振るう人が悪い
わからない
その他

問 14 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ 等）という言葉を知っていますか

意味を知っている
聞いたことはあるが、意味は知らない
知らない

問 15 枚方市が行っている LGBTQ 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知ってい

るものをお答えください。

パートナーシップ宣誓制度（平成 31 年 4 月より）

LGBRQ+電話相談（平成 31 年 4 月より）

LGBR 啓発リーフレット「ありのままに じぶんらしく」

コミュニティスペース（令和元年 7 月より）

ひらかた・にじいろ宣言（性的マイノリティ支援宣言）

6 色の希求をデザインした ALLY（アライ）※ステッカー

1 つもしらない

その他

（※）ALLY とは 英語の「ally」が語源。多様な性自認・性的指向に理解のある人のことであり、応援する人、支援者のこと。

問 16 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的だと思いますか。

※「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性及びその他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難を抱える女性（そのおそれのある女性を含む）をいいます。

若年女性等を対象とした夜間見回り、声かけ、該当での啓発活動等

電話相談や面接

メールによる相談

SNS による相談

気軽に立ち寄れる居場所の提供

学校や家庭、医療機関等との連携による支援

就労支援や生活保護受給手続きなどの支援

その他

あなた自身についておたずねします。

あなたの性別は

女性

男性

女性／男性では答えられない

答えない

あなたの年齢は

歳

あなたの就業状況は

学生

浪人生

自営業・自由業

正規雇用で働いている

非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）

家事専業

無職（家事専業をのぞく）

その他

性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がありましたら、お聞かせ下さい。

お答えいただいた方の中から抽選で 100 人に QUO カード（500 円分）を進呈します。QUO カード（500 円分）を希望しますか？

希望する

希望しない

QUO カード（500 円分）を希望すると回答した方は以下を入力してください。

住所

郵便番号

都道府県

市区町村

番地

マンション・部屋番号

お名前

ハガキに記載している ID（6 桁）を入力してください。

3. 中学生

このアンケートで、みなさんの意識と現状を聞き、男女共同参画社会づくりの実行計画の資料とさせていただくため、ご協力をお願いします。皆さんが答えた内容は、この調査の目的以外には使いません。また、氏名は書かないため、誰が書いたかはわかりませんので、あなたが思うことをありのままに答えてください。

枚方市 市長公室 人権政策課

【アンケートの答え方】

- ・あなたの考え方に近いものの番号を選んでください。
- ・1つだけ選ぶ場合と、いくつか選ぶ場合があります。よく質問を読んで答えてください。
- ・「その他」を選んだときは、自分で考えた答えを入力してください。

Q1. あなたが、家でしていることを教えてください。(複数選べます)

1. 食材を買いに行く
 2. 食事のしたく
 3. 食事のあとかたづけ
 4. 自分の部屋の掃除
 5. 自分の部屋以外の掃除
 6. ふろ掃除
 7. ゴミ出し
 8. 洗濯
 9. きょうだいの世話
 10. ペットや植物の世話
 11. 家の仕事の手伝い
- その他

Q2. 家で、主に家事（料理・そうじ・洗たくなど）や子育てをしているのはだれですか。(複数選べます)

1. 父
 2. 母
 3. 兄
 4. 姉
 5. 自分
 6. 弟
 7. 妹
 8. 祖父
 9. 祖母
- その他

Q3. あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでくださ

い)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

Q4. あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

その他

Q5. あなたは、お金をかせぐ仕事を、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

その他

Q6. 勉強と家事について、家族はどのような考えを持っているとあなたは思いますか。また、自分はどうか考えているかそれぞれ答えてください。

家族の考え (1つ選んでください)

1. 勉強を一生懸命やっていれば、料理や掃除などの家事はやらなくてもよい
2. 勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい
3. 勉強よりも、料理や掃除などの家事をするべきだ
4. わからない

自分の考え (1つ選んでください)

1. 勉強をいっしょうけんめいやっていれば、料理やそうじなどの家の手つだいはやらなくてもよい
2. 勉強も料理やそうじなどの家の手つだいも両方するのがよい
3. 勉強よりも、料理やそうじなど家の手つだいをするべきだ
4. わからない

Q7. あなたは、たとえば「男の子は強く・泣くな」や「女の子はやさしく・行儀よくしなさい」など、「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか。(1つ選んでください)

1. よく言われる (言われた)
2. ときどき言われる (言われた)
3. あまり言われな (言われなかった)

4. まったく言われたい (言われなかった)
5. わからない

どんなことについて言われたことがありますか。(複数選べます)

1. 言葉づかい
 2. 服装・身だしなみ
 3. 性格
 4. 整理整頓
 5. 手伝い
 6. 食事の仕方
 7. 座り方
 8. 歩き方
 9. 勉強
 10. テレビ番組
 11. 友だち関係
 12. 家に帰る時刻
 13. スポーツ
 14. お金の使い方
 15. 泣いたとき
- その他

それはだれに言われましたか。(複数選べます)

1. 父
 2. 母
 3. きょうだい
 4. 祖父
 5. 祖母
 6. 友だち
 7. 保育所(園)・幼稚園(ようちえん)の先生
 8. 小学校・中学校の先生
 9. 近所の人
 10. 親せき
- その他

あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。(1つ選んでください)

1. いやな気持ちがした
 2. その通りだと思った
 3. 何とも思わなかった
- その他

Q8. あなたは、恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、その関係をどのように思いますか。

- （１）ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る
へんだと思う/別にへんだと思わない
- （２）だれとどこにいたのか、しつこく聞く
へんだと思う/別にへんだと思わない
- （３）友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする
へんだと思う/別にへんだと思わない
- （４）言うことを聞かないと不機嫌になる
へんだと思う/別にへんだと思わない
- （５）相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする
へんだと思う/別にへんだと思わない
- （６）別れ話をしてもしつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする
へんだと思う/別にへんだと思わない

Q9. 恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。（１つ選んでください）

- １．知っている
- ２．聞いたことがある
- ３．知らない

Q10. あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。３つまで教えてください。

- １
- ２
- ３

Q11. あなたの性別を教えてください。（１つ選んでください）

- １．女子
- ２．男子
- ３．女子/男子では答えられない
- ４．答えない

Q12. あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。（１つ選んでください）

- １．ぜったい男子
- ２．どちらかといえば男子
- ３．どちらでもよい
- ４．ぜったい女子
- ５．どちらかといえば女子

6. 答えない

なぜ、そのように思いますか。よろしければ、理由をお教えてください。

4. 小学生

枚方市役所では、男子・女子といった性別に関係なく、ひとりひとりの「自分らしさ」をみとめあい、みんなで協力し合う社会（男女共同参画社会（だんじょきょうどうさんかくしゃかい））を作るために、このアンケートでみなさんの考えをお聞きしますので協力してください。アンケートに名前は書きません。誰が書いたかわからないので、あなたが思っていることをそのまま答えてください。

枚方市 市長公室 人権政策課（ひらかたし しちょうこうしつ じんけんせいさくか）

【アンケートの答え方】

- ・あなたの考え方に近いものにチェックしてください。
- ・1つだけ選ぶ場合と、いくつか選ぶ場合があります。よく質問を読んで答えてください。
- ・「その他」を選んだときは、自分で考えた答えを入力してください。

Q1. あなたが、家でしていることをおしえてください。（いくつか選べます）

1. ごはんの材料を買いに行く
 2. 食事のしたく
 3. 食事のあとかたづけ
 4. 自分の部屋のそうじ
 5. 自分の部屋以外のそうじ
 6. ふろそうじ
 7. ゴミ出し
 8. 洗たく
 9. きょうだいの世話
 10. ペットや植物の世話
 11. 家の仕事の手つだい
- その他

Q2. 家で、主に家事（料理・そうじ・洗たくなど）や自分やきょうだいのお世話をしているのはだれですか。（いくつか選べます）

1. お父さん
 2. お母さん
 3. お兄さん
 4. お姉さん
 5. 自分
 6. 弟
 7. 妹
 8. おじいさん
 9. おばあさん
- その他

Q3. あなたは、料理・そうじ・洗たくなどの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

Q4. あなたは、小さい子どものお世話は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

その他

Q5. あなたは、お金をかせぐ仕事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(1つ選んでください)

1. 男の人が主にするのがよい
2. 女の人が主にするのがよい
3. 男の人と女の人が協力してするのがよい
4. わからない

その他

Q6. 勉強と家の手つだいについて、家族はどう考えているとあなたは思いますか。また、自分はどのように考えているかそれぞれ答えてください。

家族の考え (1つ選んでください)

1. 勉強をいっしょうけんめいやっていれば、料理やそうじなどの家の手つだいはやらなくてもよい
2. 勉強も料理やそうじなどの家の手つだいも両方するのがよい
3. 勉強よりも、料理やそうじなど家の手つだいをすべきだ
4. わからない

自分の考え (1つ選んでください)

1. 勉強をいっしょうけんめいやっていれば、料理やそうじなどの家の手つだいはやらなくてもよい
2. 勉強も料理やそうじなどの家の手つだいも両方するのがよい
3. 勉強よりも、料理やそうじなど家の手つだいをすべきだ
4. わからない

Q7. あなたは、たとえば「男の子は強く・泣くな」や「女の子はやさしく・ぎょうぎよくしなさい」など、「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか。(1つ選んでください)

1. よく言われる (言われた)
2. ときどき言われる (言われた)
3. あまり言われない (言われなかった)

4. まったく言われたい（言われなかった）
5. わからない

どんなことについて言われたことがありますか。（いくつか選べます）

1. 言葉づかい
 2. 服そう・みだしなみ
 3. 性格
 4. 整理整頓
 5. 手伝い
 6. 食事の仕方
 7. すわり方
 8. 歩き方
 9. 勉強
 10. テレビ番組
 11. 友だち関係
 12. 家に帰る時間
 13. スポーツ
 14. お金の使い方
 15. 泣いたとき
- その他

それはだれに言われましたか。（いくつか選べます）

1. お父さん
 2. お母さん
 3. きょうだい
 4. おじいさん
 5. おばあさん
 6. 友だち
 7. 保育所（園）・幼稚園の先生
 8. 小学校の先生
 9. 近所の人
 10. 親せき
- その他

あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。（1つ選んでください）

1. いやな気持ちがした
 2. そのとおりだと思った
 3. なんとも思わなかった
- その他

Q8. あなたは大人になったら、どんな仕事につきたいと思いますか。3つまで教えてください。

- 1
- 2
- 3

Q9. あなたの性別を教えてください。(1つ選んでください)

1. 女子
2. 男子
3. 女子/男子では答えられない
4. 答えない

Q10. あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。(1つ選んでください)

1. ぜったい男子
2. どちらかといえば男子
3. どちらでもよい
4. ぜったい女子
5. どちらかといえば女子
6. 答えない

なぜ、そのように思いますか。よろしければ、理由をお教えてください。

枚方市男女共同参画に関する 市民アンケート調査結果報告書

令和7年(2025)年 3月

発 行 市長公室 人権政策課

〒573-8666 大阪府枚方市大垣内町2丁目1-20

電話 072-841-1424

FAX 072-841-1700